超お宝！ 小川直也があの『ハッスル』スパッツをプレゼント!!

紙のプロレス RADICAL

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

880 yen

74 2004



シュート？ ワーク？ くだらねえ、次元が違うよ！

いつ何時、どこでも

ハッスルするぞ!!

『PRIDE・GP』とハッスルを語りまくる！
怒濤の15Pロングインタビュー!!
小川直也

5・23『PRIDE武士道』志願出場！
ミルコ・クロコップが復讐の鬼と化す!!

6・20さいたま出陣へ
サクがいよいよ動き出した！
桜庭和志

K-1王者がついに『PRIDE』へ
渦中の男に独占直撃!!
マーク・ハント

世間に風穴を空けろ！
5・8『ハッスル3』16P大特集!!

WWEのスーパースターが
『ハッスル』にやってきた！
ミック・フォーリー

今夏、富士急ハイランドで
『闘魂三銃士祭り』開催か!?
武藤敬司

言葉のプロレス名勝負数え歌
ウルティモ・ドラゴン×ターザン山本

憂国の虎が長州、小川、
カタブツ君問題を斬る！
佐山サトル

健介ファミリー最高権力者が登場！
北斗晶

ホイスを流血に追い込んだ男
ボビーとは何者か!?



オブリガード！
ノゲイラが『紙プロ』読者に試合用スパッツプレゼント！
またしても

紙のプロレス RADICAL NO.74 『ハッスル』スパッツプレゼント！

発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188

ハッスルを背負う男



PRIDE・GPでハッスル成功！
今こそマット界が白黒つける時が来た!!



Naoya Ogawa

総合がこれだけメジャーに なっちゃったんだから

もうプロレスも ハッキリ 言った方がいい!!

スリー、ツー、ワン、ハッスル、ハッスル!!　立ち上げ以来、逆風が吹きまくっていたハッスルの風向きを、小川直也がついに力ずくで変えてしまった。4・25“ハッスル査定試合”を見事クリアし、全国に『ハッスル』をアピールすることに成功。今こそ小川の話が聞きたい。5・8『ハッスル3』の翌日、ハッスルさめやらぬオーちゃんを直撃した!!

聞き手／山口日昇　撮影／山口比佐夫、森モーリー鷹博　試合写真／乾晋也　構成／堀江ガンツ　designed by hisa (Two Three)





ハッスル暴走インタビュー

小川直也

イベント自体よりも「ハッスルポーズ」の方が先行しちゃってるのが困りものなんだけど（笑）

――というわけで、5・8『ハッスル3』から一夜明けたわけですけど、昨日はズバリ、ハッスルできましたか！

小川　いや～、実はお恥ずかしい話なんだけど、何日か前に腰痛やっちゃってダメだったね。

――ちょっと投げにもキレがないように思ってたんですけど……こんな大事な時期に、大丈夫ですか？

小川　ハッスルポーズの練習をし過ぎてね（笑）。なんかプロ野球選手がやってるのを見て俺もウカウカしてられないなって。いろんなところでハッスルしまくってたら腰を痛めちゃったみたいな（笑）。昨日はホント破壊王に救ってもらったから。

――確かに『ハッスル1』、『ハッスル2』に比べると、破壊王のハッスルぶりが違いましたね。では、小川さん自身で自己採点すると、昨日の「ハッスル度」は何％ぐらいですか？

小川　みんなが頑張ってくれたんで、イベントとしてはいい点数あげられると思うんだけど、俺自身はあんまり良くないね。ま、次こそ必ずハッスルします！

――ちなみに高田総統は、小川さんの『PRIDE・GP』でのステファン・レコ戦を「あれじゃ、まだまだ足りない、ハッスル度は40％ぐらいだ！」って言ってましたよ。

小川　おぉ、いい点数だなあ。40もくれるんだ？

――40「も」ですか（笑）。

小川　総統らしくないね。総統だったら「まだまだあんな勝ち方じゃマイナスだ！」ぐらい言ってくるかと思ったけど。

――多分、古くからの友人の髙田延彦『PRIDE』統括本部長からホメ言葉が入ってて、それに感化されたと思うんですよ。

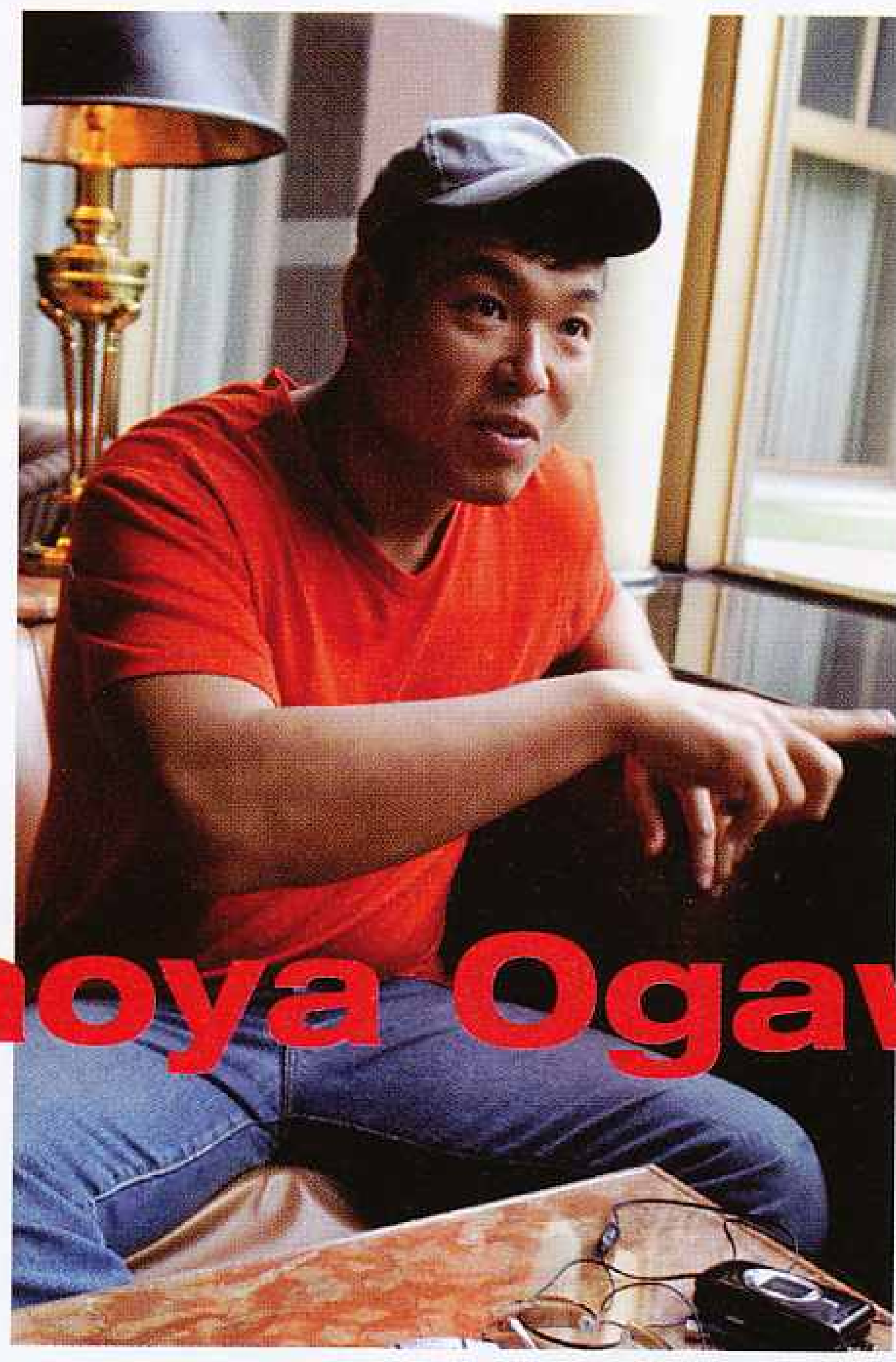
小川　髙田総統も甘いね。採点と言ったら常に0か100で、ちょっとでも失敗すると首を切るのがデスラー総統のやり方でしょ？

――確かにそうですね（笑）。

小川　なんか妙に人気出てきて、昨日も歓声浴びてたから、調子狂ってるんじゃないの？

――ダハハハ、出て来た時にみんな「おお～！」って言ってましたもんね（笑）。

小川　ブーイングじゃないんだよね、あの「おお～！」って言うのは何ですかね？



『ハッスル』にとっても、あれだけは誤算なんじゃないかって（笑）。

――まだ、みんなブーイングを送っていいものかどうか迷ってる部分もあるのかも知れないですけどね。

小川　ファンもハジけなきゃ。でも、『ハッスル1』、『ハッスル2』に比べたら最初から勝手がわかってんのか知らないけど、ファンがそのつもりで来てくれてたから、あれは嬉しかったね。出場する前に裏方で隠れて見てたんだけど、結構いいノリだなあって。

――オープニングは非常に良かったですよ。『ハッスル2』の熱に比べたら全然熱がついてますよ。あの『ハッスル2』の冷ややかな感覚っていうのは、関係者がトラウマになるくらいでしたからね（笑）。

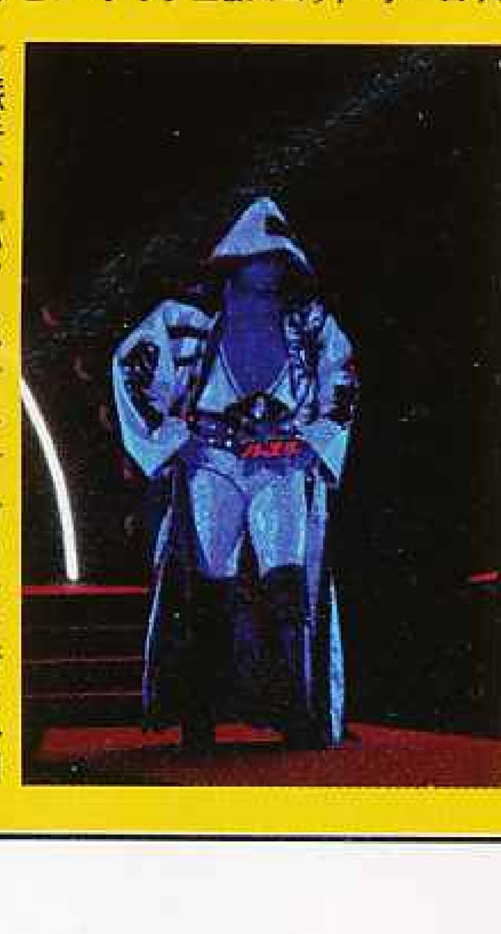
小川　でも、1、2と来て思った以上にスピードが早いじゃないですか。1年半ぐらいかかるのかなと思ってたけど半年ぐらい縮まったかなって。

――『ハッスル2』の時は足を引っ張ってやろうっていう感じのファンの野次が結構目立ちましたけど、今回はそういうのが少なかったですからね。

小川　お客さんも増えてきてるし。確かにまだ横浜アリーナの上の方まではWWEが

OH砲、ハッスル初出場初勝利！

5・8『ハッスル3』横浜アリーナ　○小川直也&橋本真也［7分37秒　俺ごと刈れ→片エビ固め］ケビン・ナッシュ&スコット・ホール×



ド派手な『ハッスル』ニューガウンを着た小川が花道を歩き始めると、突如場内が暗転。するとベルトの「ハッスル」の文字が光り出した！欲しい！　商品化してくれ！



コスチュームが違うだけで、いつもよりハッスル度が大幅にアップしている感じがする小川。ナッシュとめずらしい力比べでも、ご覧の表情で大ハッスル。



アウトサイダーズのドアメリカンな闘いぶりと、島田裕三の高速カウントに苦しめられながらも、最後は「俺ごと刈れ」でホールの巨体を刈り取り、ピン。



これまで辛酸を舐めてきたハッスルマットでついに高田モンスター軍の刺客に快勝したOH砲。次回7・25『ハッスル4』では破壊王もニューコスチュームで登場予定！　はたして本当にアフロになるのか？



破壊王
暴走王
賞金王が
ハッスル三昧!

来た時みたいに満タンにはなってないけど、回を重ねてそこまで行けたらいいかなって。

——でも、好意的なファンが増えたっていうのは、やっぱり小川さんが『PRIDE・GP』での査定試合をクリアしたのがデカかったですよ。

小川　だからさ、いま一番困ってるのはイベントの『ハッスル』よりもハッスルポーズが先行しちゃってることだからね（笑）。別にハッスルポーズをやりたくて来てもらうのはウエルカムなんだけど、中身も伴っていかないとね。

——昨日もリング上で言ってましたけど、日本全国津々浦々ハッスル現象が広がりつつありますよね。ゴルフの片山晋呉選手も来てくれたし。

小川　そうだね。ゴルフ界のトップがリングに上がるっていうのは、いままでのプロレス界の歴史でもないんじゃないですか？

——確かにゴルフとの絡みっていうのは珍しいですよね。破壊王と暴走王と賞金王の揃い踏みという貴重なショットも見れたし（笑）。

小川　俺たちは破壊王と暴走王といっても自己申告みたいなところがあるけど（笑）、向こうは歴とした数字で出てる賞金王だから凄いよね。破壊王が賞金王に「俺にも分けてよ」って言ったのはちょっと情けなかったけど（笑）。

——でも、そういう異業種のトップに影響を与えるくらい、ステファン・レコ戦っていうのはインパクトがあったってことですよ。だから、小川さんからすると「甘い」のかもしれないですけど、総統の「ハッスル度40％」っていう査定は、ファンからしてみるとかなり厳しい点数ですよ。だって、プロレスファンは大喜びですからね、もちろん格闘技ファンも含めて。

小川　まあ、プロレスファンはどこまでプロレスファンかわからないからね。でも、そんなことも分け隔てなく「面白い」と思





『ハッスル』初のハッピーエンドとなった今大会、ＯＨも各界で流行中のハッスルポーズを大サービス。リング上では賞金王・片山プロも一緒にハッスル、ハッスル！　その後は入場ゲートでハッスル、ハッスル！　そして最後は握手会でもハッスル、ハッスル!!



メインの決着がついた後も、締めの「ハッスルポーズ」への期待から、ほとんどの観客が席を立たず、最後はみんなで「ハッスル、ハッスル!!」。観客数も大幅増の12,057人(主催者発表)。

新日本も『ハッスル』が上手く行き始めたらちゃっかり追従してくるんじゃないの？



いつ何時どこに行ってもハッスル度100％のパーフェクトハッスル・高田総統。今や日本マット界ナンバー１の大ヒールながら、その過剰なまでに突き抜けたハッスルぶりに信者が急増中！ 『ハッスル３』では、ついに歓声を集め始めた。高田総統恐るべし！

ってくれた人が来てくれることが一番嬉しいよね。

――そういうファンに対する感謝の気持ちなのか、昨日も試合後に握手会をやったじゃないですか。このところサービス精神旺盛ですよね。

小川 やっぱり最後まで残って集まってくれるっていうのも嬉しいですよね。

――最近の小川さんはフル稼働だもんなぁ。

小川 フル稼働っていうか……容赦ないよ！

――ガハハハハ！ 誰が容赦ないんですか？（笑）。

小川 主催者なのか何なのか知らないけどさ、「腰が痛い」って言ってるのに「握手会お願いします！」だからさあ。

――握手会は『PRIDE・GP』の『ハッスル査定試合』の後にもありましたからね。あれも前代未聞ですよ。バーリ・トゥードの試合の後であんなことをやるなんて、これまでの歴史の中でもないですからね。

小川 あれだって事前には聞いてなかったんだから。勝ったと思ったら「次は握手会です」「明日はZERO－ONE松山大会に勝利報告に行きましょう」だからね。ホント、勝った瞬間から『お笑いウルトラクイズ』だよ（笑）。

――ダハハハ！ どこに連れて行かれるかわからない、と（笑）。

小川 まぁ、『ハッスル』のためには、そういったものを一つ一つこなしていかなきゃならねぇのかなって。低たらくなプロレス界を違った道で行くのが『ハッスル』だからね。

――今回、『ハッスル３』は5月8日でしたけど、その5日前に新日本の東京ドームっていうのがあったんですよ。それは小川さん的には意識してました？

小川 全然！ だってモノが違うから。

――ガハハハハ！ モノが違う！

小川 モノといい質といいすべて違うから。プロフェッショナルなレスラーがやるのがプロレスだからね。ファンはどう思うかわからないけど、マニアがそこは一番敏感なんじゃない？ そういう違いをマニアには見て欲しいよね。俺たちが地道に地方をまわってやってるプロレスの中から『ハッスル』っていうものをトライしていくわけじゃないですか。片や、何をしたいのかわからず中途半端にごまかして、これとこれをすれば多分いいだろうみたいな、博打的なね。こっちも博打と言えば博打なんだけど、全然意味が違うからね。

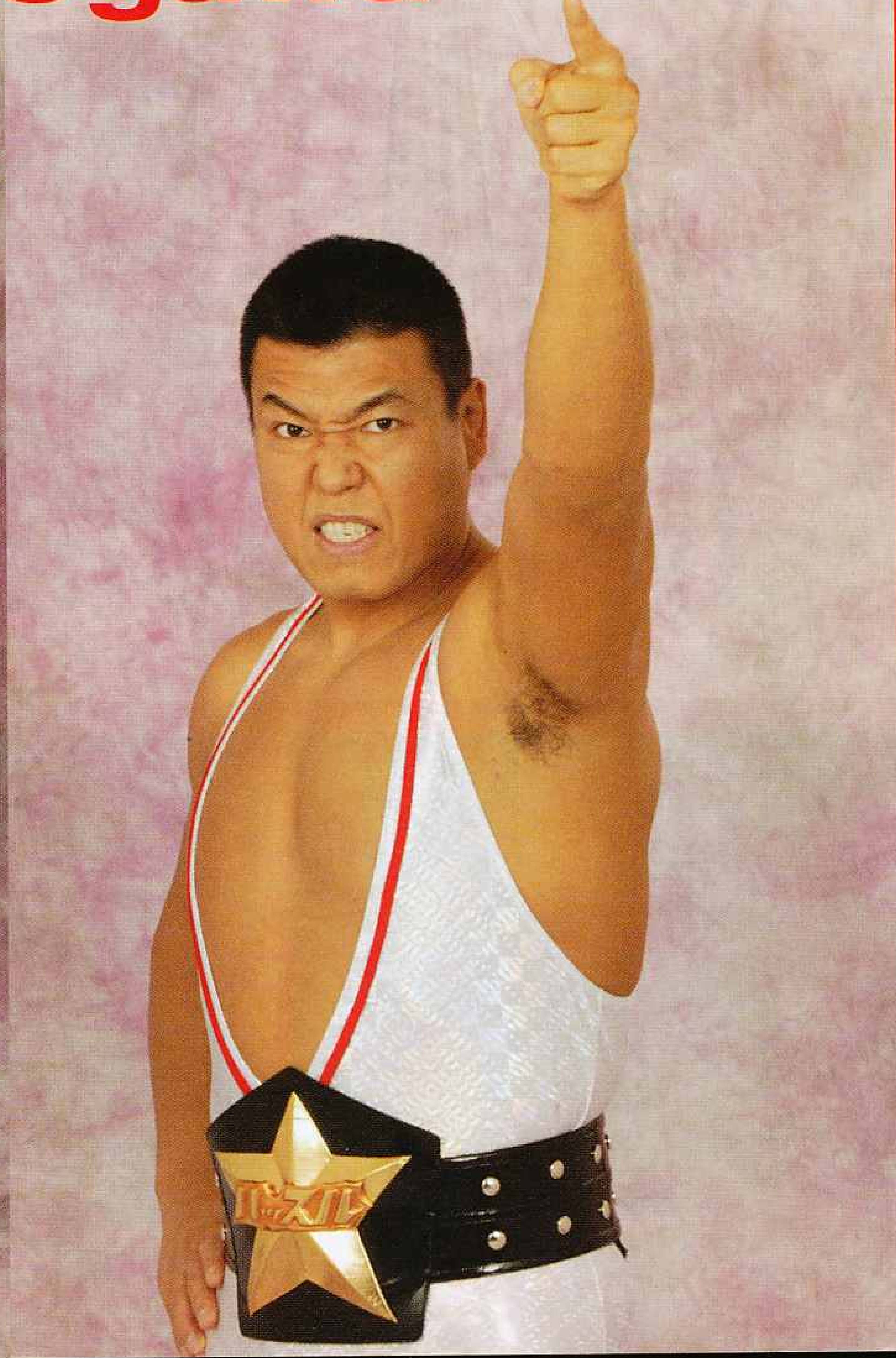
――『ハッスル』は大博打すぎますよ！





Naoya Ogawa





フェイクだと思うなら思うで構わないよ
マスコミも所詮素人の集まりだからね

あんな大博打はない!!

小川　大博打っていうか、夢に向かってる博打ってあるじゃない。新しいものを作りあげるためにリスクを背負って、スタッフみんなで頑張ってさ。片や、批判じゃないけど何をしたらいいのか全くわからないから、「とりあえずやってみた」っていう博打でしょ？　だからファンが一番かわいそうだよね。

——『アルティメット・クラッシュ』をやったかと思えば、純プロレス回帰を打ち出したり、かと思えば、今度は異種格闘技戦ですからね（笑）。

小川　その都度ファンは振り回されるんだからさ。だから、たぶん『ハッスル』が上手く行き始めたら、ちゃっかり追従してくるんじゃないの？

——ダハハハ！　格闘技戦なんかすっかり忘れて（笑）。

小川　ただ、追従してきたとしても、マラソンのレースだとしたら、もうこっちは10キロ地点ぐらいを走ってるのに、向こうは準備運動やってるぐらいだから。こっちが最後のトラック一周するころに、ようやくスタート切るんじゃない？

——知らないうちに、それぐらい差がついてると。

小川　『ハッスル』はすでに明確なものを打ち出してるからね。もう勝った負けたとか、強い弱いの次元じゃないから。

——イベントとしての『ハッスル』は「強い、弱い」っていう次元じゃないんですけど、いざ『PRIDE・GP』とかに出ると、髙田モンスター軍は強いですよね（笑）。

小川　強い！　『PRIDE・GP』のときも控え室でモニター見ながら、「おお、『ハッスル』勝ったよ！」って思ってたからね（笑）。敵ながらアッパレだよ。

——ランデルマンはミルコに勝っちゃうし、シルバは戦闘竜をアームロックで極めちゃうし、髙田モンスター軍は強敵ですよ、小川さん（笑）。

小川　ホントに『ハッスル』と『PRIDE』が入り乱れて面白いじゃないですか。

——しかも見せるものがお互い明確に分かれてますからね。

小川　ファンがようやくそれに気づいてくれたからありがたいなって。

——これまでは小川さんの師匠・猪木さんの思想である「プロレスと格闘技は一緒だ」っていうものをファン側が守って見てたんですよね。あと、何年後かにはどうなるかわからないですけど、いまはもうこの方向でいいと思いますけどね。

小川　ていうか、もうここまで総合格闘技っていうものがメジャーになっちゃったから半分市民権を得てるようなものじゃないですか。そんな具合になっちゃったら、そろそろ言ってもいいのかなって。

——プロレス側もハッキリ打ち出す時期に来てますよね。

小川　タイミングですよ。「強い、弱い」をやってきたプロレスっていうのも一つあるんだけど、それとは別のプロレスの良さっていうものがあるじゃないですか。それで勝負すればいいと思うんですよ。

——ホントにお客さんとの真剣勝負ですよね。これは批判じゃないんですけど、5・3の東京ドームのほうはステージが分かれてる『PRIDE』と『ハッスル』を一緒くたにしたような興行だったんですよね。

小川　まあ、いいとこ取りしようと思ったんだろうね。でも、中途半端だから。まあ、俺はあんまり人の悪口は言いたかないほうなんだけど、ちゃんとプロのレスラーがやってればいいんだけどね。

——まぁ、そういった異種格闘技戦の悪影響なのか、プロレスラーが『PRIDE』なんかに出ていった時、「フェイクだ何だかんだ」と言われるのが宿命じゃないですか。で、例外なく、今回の小川さんとレコの試合も一部ではそういった声が出てるんですよ（笑）。

小川　ファンが言うのはいいんじゃないですか。俺なんか昔っから、毎回言われてるからね。だからもう「全部フェイクだ」でいいんじゃないの？

——小川さんが良ければ別にいいんですけど（笑）。

小川　面白ければいいっていうのがあるしね。ただ、相手がかわいそうだよね。真面目にやってても、そういうので引き受けちゃうんだってイメージが付いちゃうじゃん。俺が逆の立場だったら嫌だもん。

——そういう試合を引き受ける奴なんだっ

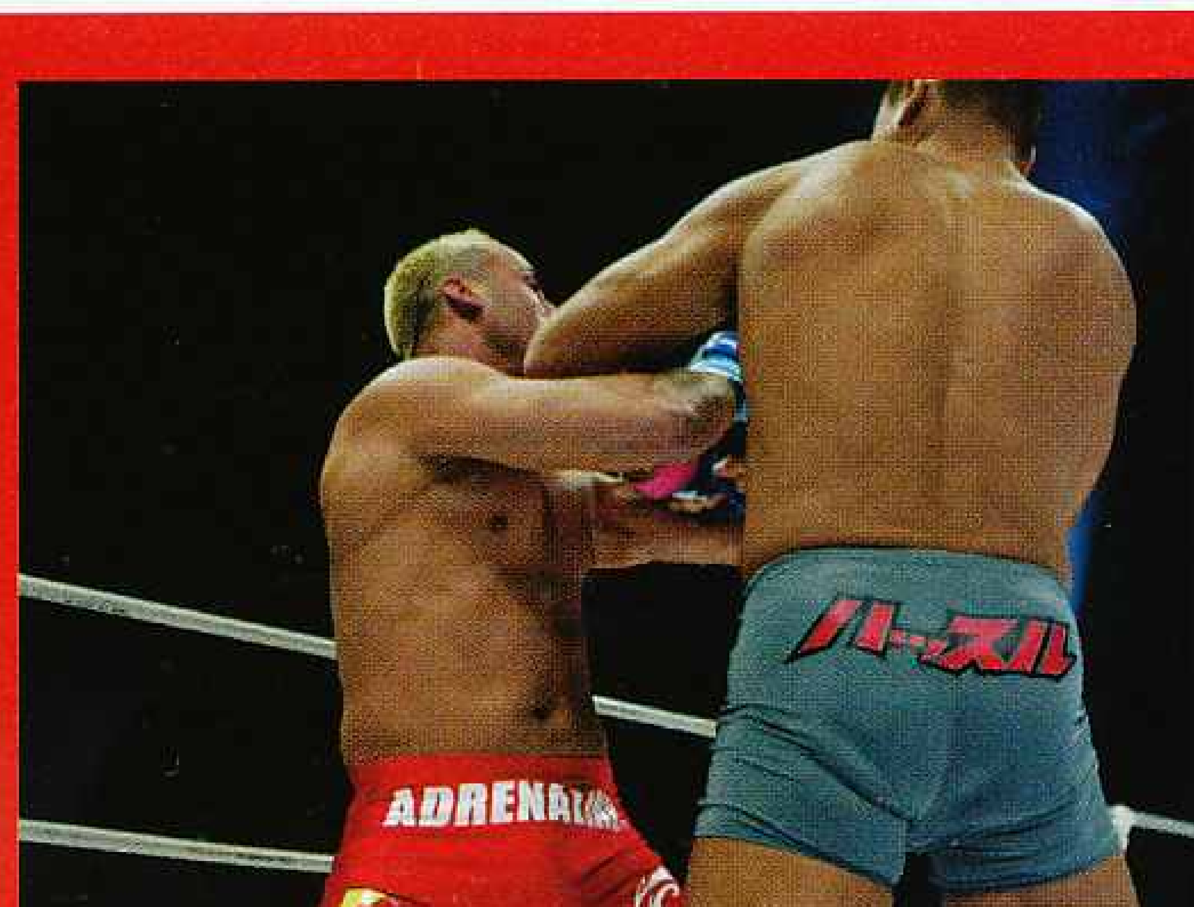
Naoya Ogawa

K-1戦士レコに完勝!
「ハッスル査定試合」クリア

○小川直也［1R1分34秒／肩固め］ステファン・レコ×



倒れたレコの顔面を容赦なく踏みつけるに小川。そのあと、足を越えて一気にサイドポジションに！



そしてロープ際まで追い込むと、左ショートフックがレコのテンプルにヒット！　会場では見にくかったが、こうして見るとしっかり入っている。



試合開始早々、K－1のトップファイターレコに対して、まったく臆することなく向かっていく小川。



てイメージが付いちゃいますからね。

小川　そうそう。

――しかも、ファンならともかく、マスコミの中にもフェイクだと思っている人が予想以上に多いのにはちょっとたじろぎましたよ。

小川　ま、マスコミも所詮素人の集まりだから。

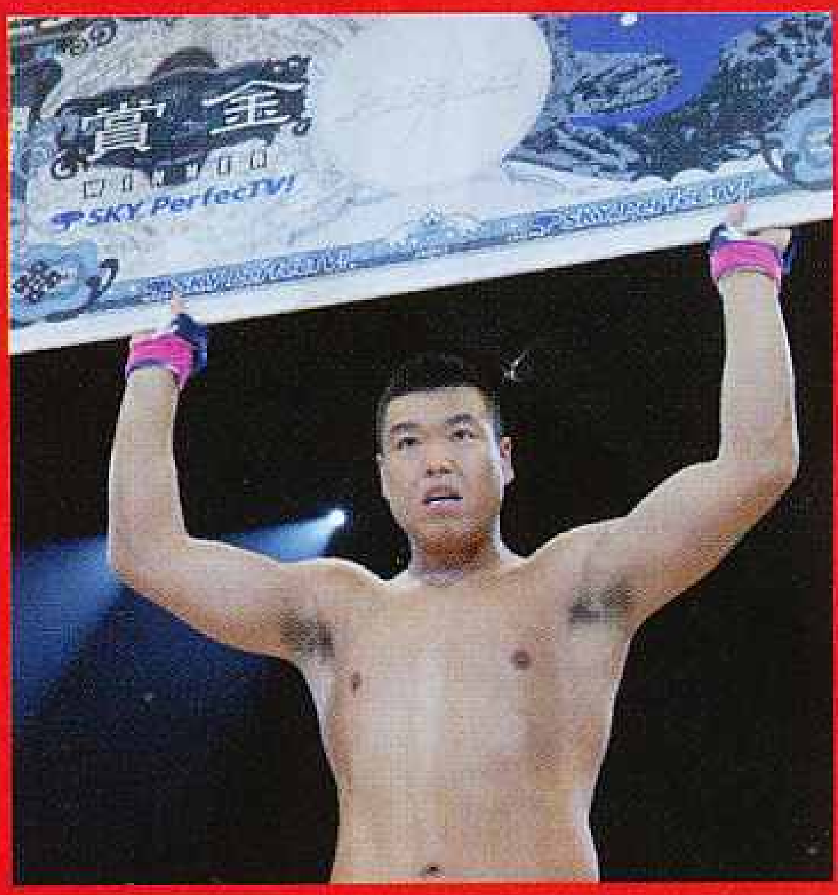
――「お前はファンか」って話ですよね（笑）。

小川　フェイクだと思うなら、対戦相手に聞いてみたらいいんだよ。ファンと違って直接聞けるんだから、取材したらいいんじ





見事にレコを秒殺した小川がマイクを持つとハッスルタイムに突入。リング上で『ハッスル3』の宣伝をたっぷりした後は、イベント終了後、握手会まで行うハッスルぶり。この一勝でハッスルへの風向きが大きく変わった。




勝ったオーちゃんは久々の飛行機ポーズから、オーガンばりの耳当てポーズで大歓声に応える。そして最後はハッスルポーズ！　最高だ！



一度、腕十字がすっぽ抜けるもすぐに体勢を整えた小川は、マウントから体重を浴びせて肩固め。レコはたまらずタップ！　小川、強し！



寝技になってからは小川の独壇場。抜群の体重移動でレコの自由を奪いアッサリ、サイドポジションからマウントポジションへ。



夢のある世界で夢を与えるべき人間が現実ばかり語ってたらさみしいじゃない

やないの？

―ごもっともです（笑）。

小川 それなのに「フェイクだ、フェイクじゃない」って、記者の仲間内で喋ってるだけでしょ？ それでプロだって言うんだから、凄いよねぇ。

―ホントに「次元が違うよ」って感じですよね（笑）。

小川 だから（試合後の）記者会見も嫌いなんだよ。「あのパンチは練習してきたものですか？」とかさ、プロなんだから当たり前だろって！ どこの世界にそんなこと聞く記者がいる？ マイク・タイソンに「どのパンチが効いたと思いますか？」とか聞くか？ 「最初から狙ってましたか？」とか、聞いたことねぇよ！

―ガハハハハ！

小川 だから素人なんだよ。

―なるほど、そういう意味ですか（笑）。

小川 （モハメド・）アリなんかさ、みんな嘘だとわかっててもプロとしてハッタリかますし、アリに言われたら納得するじゃない。〝キンシャサの奇跡〟でもさ、最後の10何ラウンドで、みんなが「もうダメだ」と思ったところで逆転勝ちしてさ、「あれはすべて俺の演出だった」って言ったじゃない。それがプロなんだよ。そういうのがないから夢がないんだよね。

―ホントにモハメド・アリなんかハッタリだらけでしたもんね（笑）。もちろん試合は嘘じゃないですけど。

小川 だけど「試合もフェイクだ」って昔言われたでしょ？ いつも「何ラウンドでKOする」って予告してたからって。どこも一緒だよな。

―ああ、必ず試合前に相手を罵倒して「何ラウンドKOだ！」って予告してましたよね（笑）。

小川 ああいうのは夢があるじゃないですか。いいよね。

―だからこそ、ふだんボクシングを見ない人もボクシングを見たんですよね。僕はモハメド・アリは大好きだなあ。こないだ、K－1ラスベガスの会場に来てたんですよ。

小川 そうみたいですね。

―なんか年取りましたけどね。

小川 でも、俺は引退してからのアリも好きですよ。パーキンソンの症状が出たじゃないですか、手が震えちゃって。それでその症状が出始めたころ、記者に「パーキンソンの疑いがあると思いますけど、ホントのところはどうなんですか？」って聞かれて、手を震わせながら「これのどこがパーキンソンなんだ？」って言ったんだよね。あれには感動したよ！

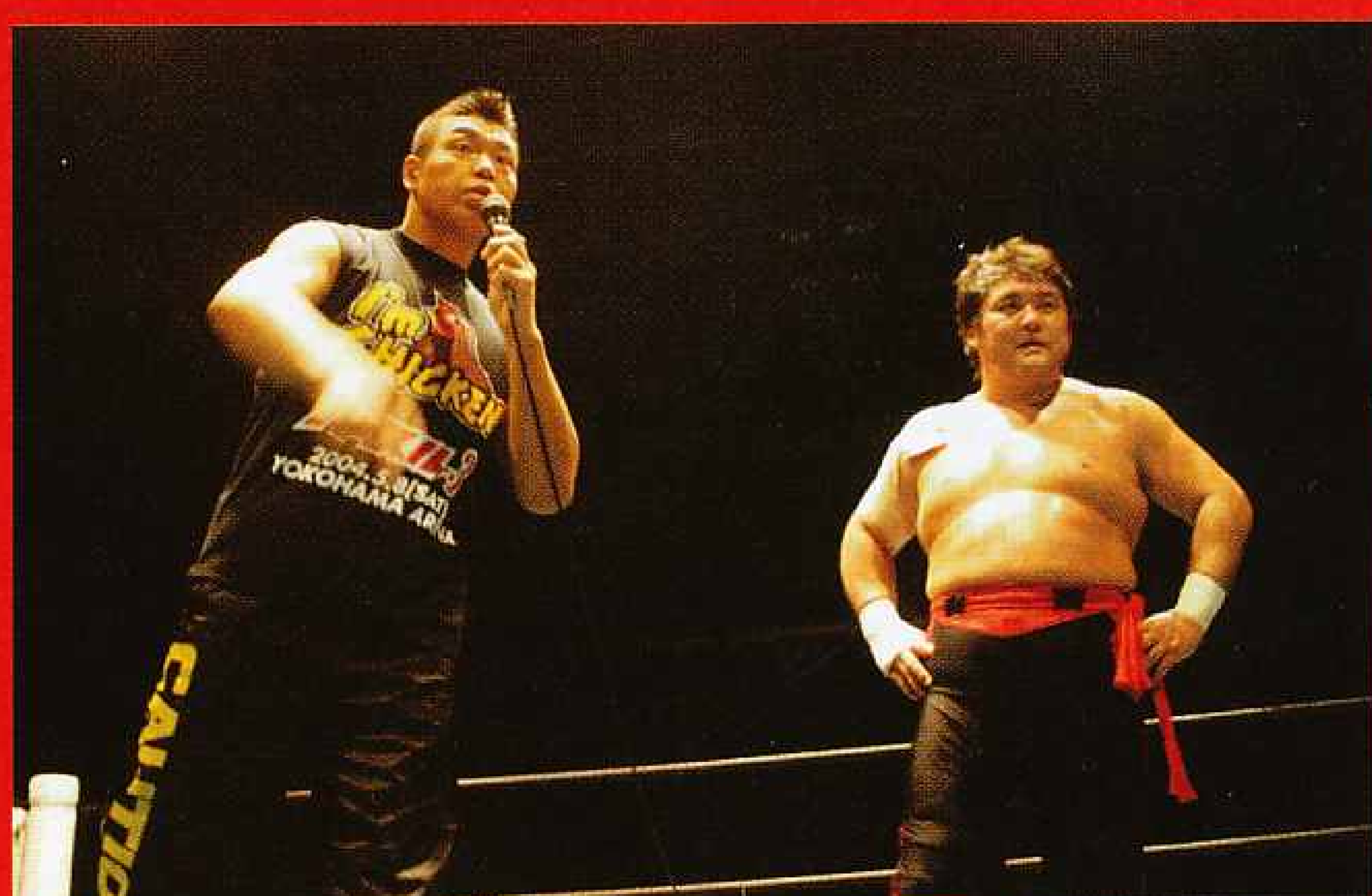
―感動しましたか（笑）。

小川 記者はそれ以上聞けないじゃないですか。しかも、必要以上に手を震わせてましたからね。

―素晴らしいなあ（笑）。そういう次元で語ろうよ！ってことなんですよね、小川さんが言ってるのは。

小川 そうそう。俺もプロとして刺激を受けたし、自分もいつかはそういうふうに言える立場になったら言いたいってあるじゃないですか。こういう夢のある世界で夢を与える人が現実を語っちゃったらさびしいじゃない？ 「小川さん、夢は何ですか？」って聞かれて「マイホームです」とか言われたら嫌でしょ？ 仮にそうだったとしても間違ってもそういうことは聞きたくないですよ。

Naoya Ogawa





4・25「PRIDE・GP」の翌日、ZERO－ONE松山大会のメインで破壊王救出に登場！ ジェイソン・ザ・レジェンドを蹴散らした後、ファンに「ハッスル査定試合」の勝利報告を行った。

―こないだの『PRIDE・GP』では『ハッスル査定試合』ってことはもちろんなんですけど、プロフェッショナルの概念をちゃんと背負って行きましたよね。「プロフェッショナルとはこういうことだ」っていうものを見せたい欲求が見えたというか。

小川 見せたいっていうか、俺が説明しても胡散臭く思われるからね。プロレスラーだからしょうがないんだろうけど。

―プロレスラーだからっていうか、小川さんだからっていう感じでしょうね（笑）。

小川 この人が言ってることはホントかな？ みたいな。

―小川さんの場合は説明が一足飛びに行くから、プロセスが飛ぶから（笑）。

小川 「プロ」という哲学を持ってやるからいいんですよ。

―いきなり「次元が違うよ」ってスポーンと言っちゃうから「何の次元が違うんだろう？」って記者たちも戸惑いますよね（笑）。

小川 だって、前回に出た時はそんな質問


PRIDE

M・アリみたいに嘘だとわかっててもハッタリをかます。それがプロなんだよ！

はなかったからね。

――ところで、『PRIDE』の会場の熱っていうものは感じました？

小川 熱はねえ、ノリが良かったよね。でも、俺の頭の中では『ハッスル』の会場に行って帰って来たイメージしかないんだよね。藤井に「最後、『ハッスル』の音楽かかってなかったか？」って。

――かかってましたね。

小川 テレビで見てみたらやっぱりかかってて、だから頭の中では「あれ、『ハッスル』じゃないの？」って。勝ったら普通『PRIDE』の音楽で帰るでしょ？　藤井も「なんか『ハッスル』でしたねえ」って。

――演出側も勝ったらそういう音楽を流そうと思ってたから緊張のし方が違ったんじゃないですか（笑）。

小川 演出陣にも感謝してますよ。

――そうやって、みんながプロフェッショナルの概念を背負っていれば、イベントに熱は生まれてきますよね。そういう意味では、対戦相手としてレコはいかがでした？　小川さんが入場して来る時にコーナーポストに登って待ちかまえたり、右手を小川さんに向けて矢のように刺し出したりしたたずまいがプロフェッショナルでしたよね。

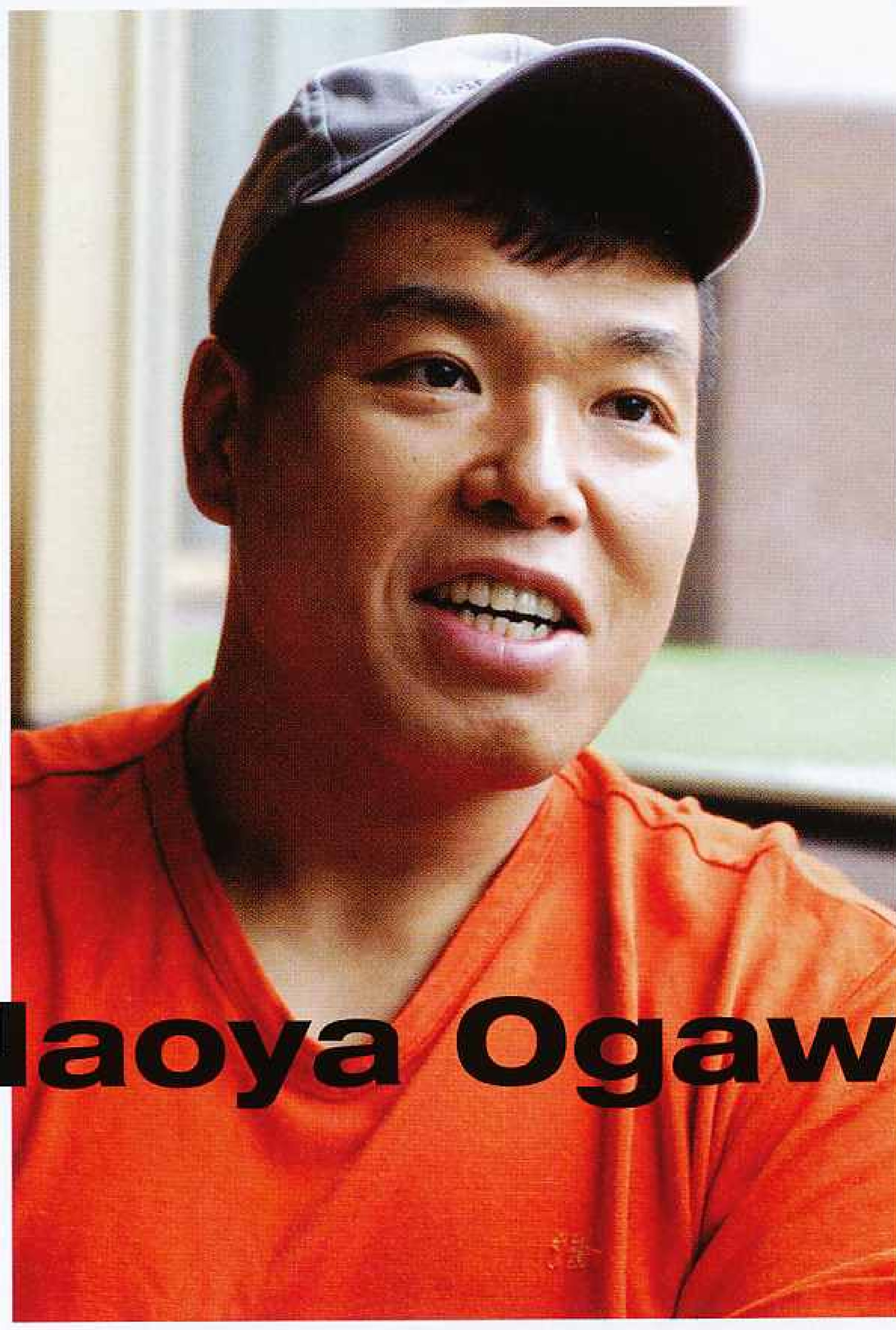
小川 ああいうのは好きなんですよ。俺はキャラクター勝負じゃないですか。

――俺はキャラクター勝負（笑）。

小川 試合前と後の強弱をつけとかないと。そこは師匠から教わった部分だから。だから、いまは本来プロレスラーが持ってたいい部分を、俗に言う格闘家が吸収しちゃったんだよね。

――そうですよね。『PRIDE』に出てる選手の方が、よっぽどプロレスラーっぽかったりしますからね。

小川 逆にマイナーなイメージだったウジウジした格闘家の部分をプロレスが吸収しちゃったんだよね。



Naoya Ogawa

――ああ、プロレスが、ジメジメしだしちゃった、と（笑）。

小川 だから今度、藤井（克久）が『PRIDE武士道』に出るんだけど、プロとしてキャラを立たせるために、僕がいい名前を付けたんで、みなさん期待してください！

――ガハハハハ！　小川さんがリングネームを命名したんですか。これはいつ発表するんですか？

小川 試合当日かもしれないけど、『紙プロ』ファンぐらいには教えといていいかな。やっぱりさ「藤井克久」じゃインパクトもないし、あの顔だし、やっぱり『PRIDE』に出ても、親戚を喜ばすぐらいじゃダメじゃない。アイツの頭の中は「身内、友達、親戚さえ喜ばせばいい」ってレベルだからね。気持ちはわかるんだけど、俺の下にいてそれはねえだろって。

――ガハハハ！　それで改名を命じたわけですか（笑）。

小川 そうそう。あいつ広島出身だから、「お前、広島の名物をすべて言ってみろ」って言ったら牡蠣とか真珠とかもみじまんじゅうとか、あと宮島のしゃもじとかいろいろあったから最初、「おしゃもじ・もみじ」って付けたんですよ。

――ガハハハハハ！　リングネームが「おしゃもじ・もみじ」（笑）。

小川 そしたら「田舎のおふくろがそれを聞いたら泣きます」って言うんだよね。アイツの頭の中はそういうレベルなのかってそこでわかっちゃったんですよ。

――「そこでわかっちゃった」って、そりゃそうですよ（笑）。

小川 こっちは藤井のためにいろいろ考えてやったんですよ!!

――藤井のために（笑）。

小川 それなのに、アイツは煮え切らないんですよ。しょうがないから、平仮名じゃなくて漢字にしようと思って、ケータイで「しゃもじ」を変換してみたら、「軍鶏」って出てきたんですよ。あ、これいいじゃん！って。

――「軍鶏」ってマンガもありますもんね（笑）。

小川 一瞬でこれだ！って思ったんですよ。「軍」と「鶏」って、「軍」はハッスル軍とかモンスター軍のイメージがあって、「鶏」はチキン＝俺でしょ？　あとは「じ」っていう字を探そうと思って、まあ俺の下だから幼児の「児」でいいかなって思ってたら、「侍」っていう字が出てきたんで、これしかない！って。

――つまり、「小川軍のサムライ」で「軍鶏侍（しゃもじ）」（笑）。漢字にすると格好いいですよね、藤井軍鶏侍！

小川 だけど、本人はまだ煮え切ってないんですよ。だから「勝ったら名前を戻してやるよ」って言ってるんですよ。その代わり、負けたら「おしゃもじ・もみじ」になってもらうから。

――勝てば本名、負ければ名字すらも剥奪と（笑）。



「ハッスル軍公式カメラマン」となったモーリー撮影の貴重な4・25『PRIDE・GP』控え室写真。藤井軍鶏侍よ、オーちゃんに続け！

藤井はプロとしてキャラ立ちするために「藤井軍鶏侍」に改名してもらうから！

小川　これは真面目に本人の励みになりますからね。俺だって「ハッスル査定試合」として、負けたら『ハッスル』に出られない状況に追い込まれたからこそ、『PRIDE・GP』で頑張れたしね。

――ホントに『PRIDE・GP』は緊張しましたよ。これで負けたら『ハッスル』も何もかもすべてを失うのに、何でこんな大博打に小川さんは乗ってきてるんだろうって（笑）。

小川　別に博打じゃないですよ、楽しいじゃない。

――楽しいんですか？（笑）。

小川　アスリート時代なんて常に博打だよ？

――ああ、そうか。

小川　これに負けたらオリンピックに出れないっていう場面が何回もあったからね。しかもトーナメントだから一日五試合やらされたし、それに比べたら一日一試合ですからね。

――一日一試合してその後に握手会をやるぐらいはヨシとしようと（笑）。

小川　一日五試合はキツイよ？　一つも落とせないし、緊張の度合いが違うんだよね。一日中モチベーションをずっと高めていないとやっていけないんだから。

――『ハッスル査定試合』もあと何試合かありますね。

小川　やるしかないよ、乗りかかった船だから。

――次の試合も相手は誰でもいいって感じですか？

小川　誰でもいいっていうか、誰とやろうが常に博打だからね。

――じゃあ、希望する相手っていうのは？

小川　あんまりないですけど、8月にドカンと行きたいですね。

――以前、榊原代表は「次の6月では3強とは当てない」って記者会見で言ってましたし、3強のうち1強はモンスター軍が喰いましたからね。

小川　凄いなあ、『ハッスル』は（笑）。いや、『ハッスル』をバカにしたらいけないよ。だって『ハッスル・GP』を開いてもかなり凄いですよ。

――『PRIDE』とあまり変わらないですよね（笑）。

小川　だって、昨日見てて思ったもん。ダン・ボビッシュとかさ、マーク・コールマンとかさ、説得力あるからね。

――強そうに見えるもんなあ。

小川　格落ちに見えるガファデブ（ガファリ）でも、あのカレリン相手にもうちょっとまで行ったんだから。

――〝人類最強の男〟に次ぐ2位だったわけですからね（笑）。でもホント、『ハッスル』はメンツが凄いよなあ。

小川　でも、彼らの頑張りがあるからこっちも光るんだよね。

乗りかかった船だから、残りの「査定試合」もやるしかねぇよ。8月にはドカンと行きたいね

――ちなみに髙田モンスター軍にいるランデルマンと『PRIDE・GP』に出たランデルマンとは別人なんですか?

小川　いや、それはわからない!

――かわりませんか!

小川　でも、「チキン、チキン!」って吠えてたから同一人物かもしれないね。

――ジャイアント・シルバはどう見ても同一人物に見えるんですけどね(笑)。どうですか、『ハッスル査定試合』もここまで来たら優勝で査定を終えたいところですよね?

小川　どうなんだろうね。あんまり優勝とか考えてないし、それよりどうやって次を盛り上げようかなって。とりあえず1回戦は4万2000人がハッスルしてくれたんで、「またこれかよ!」って言われないようにニューバージョンでも考えたいけどね。



Naoya Ogawa

――あ、試合より勝った後のハッスルのシチュエーションの心配ですか(笑)。

小川　ハッスルパンツも次はどういうハッスルパンツがいいかなあって。

――ガハハハハ!

小川　こればっかは楽しんでやらないといけないんで、乗っちゃったものは楽しむしかないじゃないですか。苦しいけど楽しまないともったいないよ。

――あ、そう言えば、そのハッスルパンツを『紙プロ』の読者プレゼントでいただけるって聞いたんですけど。

小川　あ、いいですよ。ちょっと「ハッスル」の文字が剥がれてきちゃってるんだけど。それか、読者プレゼントより、読者オークションでもいいんじゃない?　それで、収益は施設に寄付するとか。やっぱり『ハッスル』も社会に貢献していかなきゃならないしさ。

――それはいいですね。でも、「読者プレゼント」って、もう表紙に打っちゃったんで、オークションは次回からにしていただけると助かります(笑)。

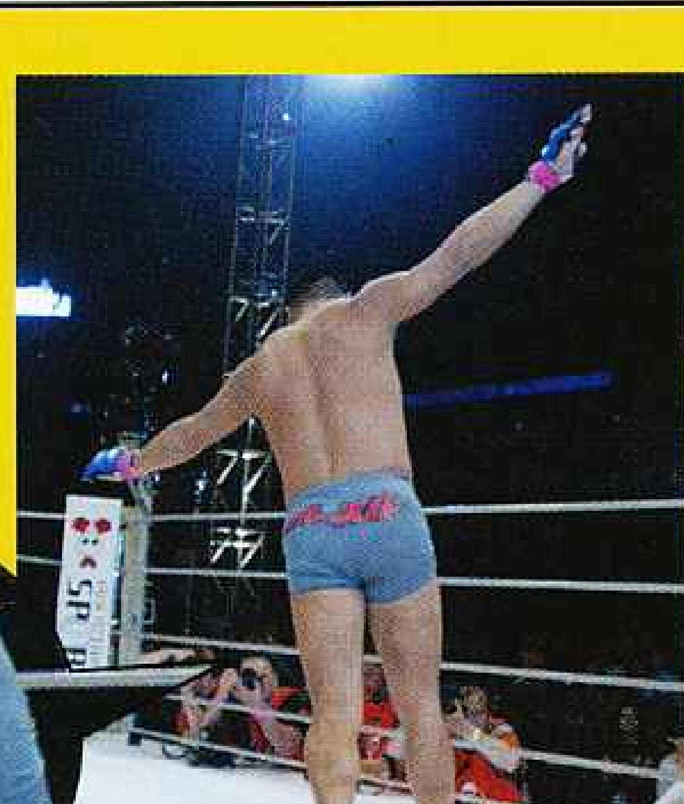
小川　オイオイオイ、も~決まってんのかよ~(笑)。しょうがねぇな、じゃあ、次回からハッスルオークションということで、皆様、恵まれない人たちのために、ご協力よろしくお願いします!

【04年5月9日/都内・某ホテルにて収録】

ビビッたか! たじろいだか!!

オーちゃんからあの『ハッスル』スパッツを1名にプレゼント!!





オーちゃんから超お宝プレゼント!「ハッスル査定試合」レコ戦で履いたあのハッスルスパッツを限定1名様に!! 本文中にもある通り、次回からハッスルオークションとなるため、最初で最後のハッスルチャンスだ! 応募方法はP159参照。腰を振るってご応募ください!ハッスル、ハッスル!!

5・23『PRIDE武士道』横浜アリーナ

藤井軍鶏侍

vs

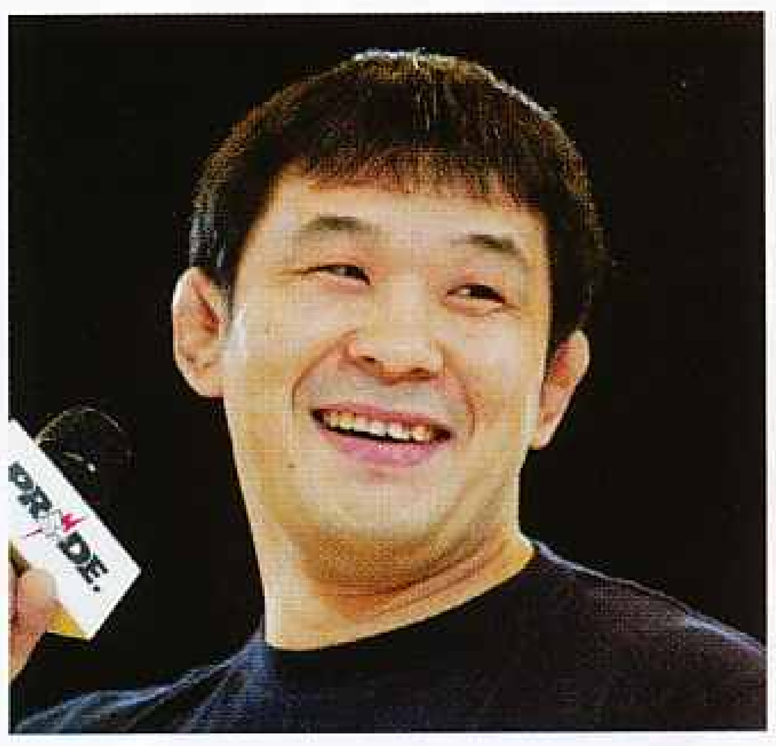
キム・ジン・ウ(韓国)

決定!!

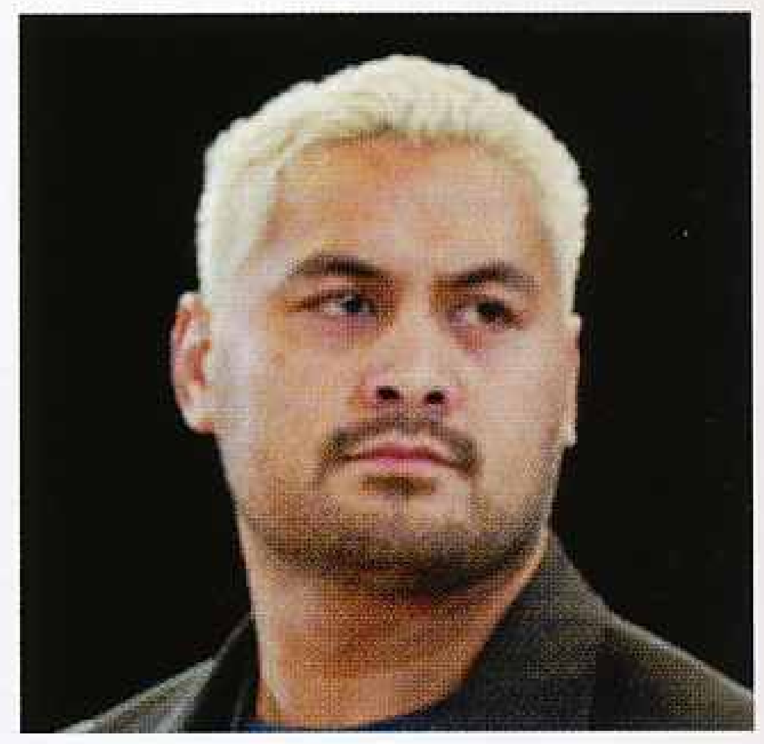
はたして藤井は本名を取り戻せるか!?

[問い合わせ] DSE 03-5464-1531

トーナメントだけじゃない!
これはもはやオールスター戦だ!!







PRIDE GRANDPRIX 2004 2nd ROUND

2004年6月20日［日］ 開場13:00 開始15:00（予定） さいたまスーパーアリーナ

チケット料金（全席指定・消費税込）

VIP［特典：専用入場ゲート・グッズ付］100,000円／RRS（ロイヤルリングサイド）30,000円
スタンドS17,000円／スタンドA7,000円

またも一般発売（5月23日）に先駆け携帯サイト『紙プロHand』で
スペシャル先行予約受付実施!!

超太っ腹!! お買いあげの方全員に

“『紙プロ』特製ハリトーノフ・トートバック（非売品）”
をもれなくプレゼント!!

5月17日（月） 0:00 ➡ 5月19日（水） 23:00

サイト受付方法

上記の受付時間中に携帯サイト『紙プロHand』にアクセス、フォーマットに従って予約してください。折り返し、予約番号&購入方法を返信します。※アクセスが集中している時間帯は、非常につながりにくくなる場合があります。また、受付時間によっては確認メールが届くのが夜22時以降、深夜になる場合がありますのでご了承願います。※携帯サイトでの受付は、『紙プロHand』会員限定です!!

購入方法

携帯サイト『紙プロHand』から予約した後、5月27日（木）〈消印有効〉までにチケット代金+送料500円をご入金ください。予約をいただいたご本人の名前と、予約番号（予約完了時に画面とお客様のメールに送信いたします）、電話番号を振り込み時に必ず入力してください。
三井住友銀行／池袋東口支店
普通口座 7483356（株）ダブルクロス
※山岳部・離島は除きます。詳細はお問い合わせください。
【問い合わせ先】（株）ダブルクロス TEL.03-3403-5188

予約したいなら加入しないか!? 『紙プロHand』アクセス方法

アクセス方法

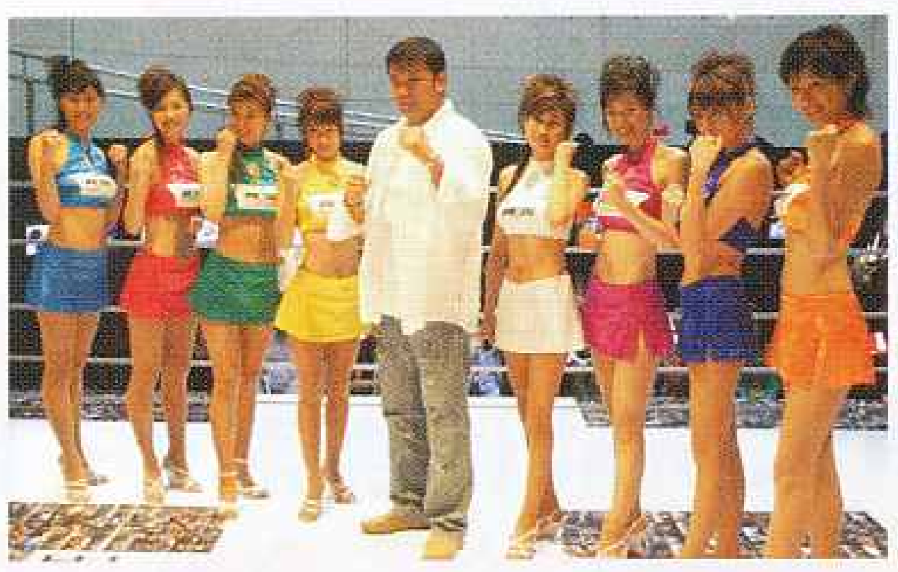
DoCoMo	iMenu ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技／大相撲 ▶
au/TU-KA	トップメニュー ▶	遊ぶ・楽しむ or インターネット ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
vodafone	ボーダフォンメニュー ▶	ボーダフォン・ライブ ▶	スポーツ・レジャー ▶	その他スポーツ ▶

ハッスルする携帯サイト
紙のプロレス Hand

吉田秀彦

6.20 PRIDE GP さいたまスーパーアリーナ

出陣宣言



対戦相手は大物を指名 マーク・ハントと激突か!?

文／ささきぃ　撮影／森モーリー鷹博

designed by hisa (Two Three)

〝もう一人の〟柔道王が半年ぶりに『PRIDE』リングへ登場する！

5月9日、表参道のスパイラル・ガーデンで開催された写真展「女性たちが見たPRIDE展」内トークショーに登場した吉田秀彦は「次の試合予定は？」の質問に対し、集まったファンの前で「6月にオファーが来てる。ワンマッチでぜひ試合をしたい。出る意志がある」と明言。「チケット？　押さえてもらって構わないですよ」と言い切った。

現在は5・23『PRIDE武士道』に参戦する中村和裕の練習相手として、自らも実戦的な練習に取り組んでいるという吉田。角海老ボクシングジムに通い、打撃の訓練も行っている。「打撃は難しいですね。当たればどうにかなるかと思っていつも振り回してるんですけど、当たらないんですよね」とボヤきつつ「蹴りは田村（潔司）さんにカウンターもらってから、出さないようにしている」とも語った。

また、試合で着用している柔道衣について「捕まれやすいし、暑いので新たな作戦を考えている」ともコメント。トークショー後、道衣の〝新たな作戦〟について質問された吉田は「まず軽くしようかなと。いま使っているのは柔道には最適だけど、ゴワゴワしてるんで。動きも素早くなれるように」と、素材から道衣を変えるプランが進行中だと明かした。すでに新道衣は試作品も完成し、吉田は着用して練習を行っている模様。ちなみに色は白だという。

対戦相手については「（ヴァンダレイ・）シウバ、ホイス（・グレイシー）とはもう1回やりたい。もう1回やったらなんとかなるんじゃないかってのもあるし」と、再戦を希望。その他希望する相手については「まだそんな話にはなってないけど、次の試合につながるような相手とやっていきたい。まずはお客さんが見たがるようなカードを実現させたい」と、ファンに対し「誰とやるのが見たい？」と質問する場面もあった。

同大会には、桜庭和志のほかK-1王者マーク・ハントの参戦も決定ずみ。吉田自身は両者の参戦を「知らない。そうなんですか？」とかわしていたが「あんまり小さい相手とじゃお客さんも納得しないと思う」と、大物との対戦も示唆していたことを考えると、対戦の可能性も充分ありえる。吉田がこの日も「いまの『PRIDE』を作ってくれた人。尊敬している」と語っていたサクとの日本人対戦実現は考えにくいが、K-1王者ハントはまさしく〝お客さんが納得する大物〟として充分すぎるほどの相手だろう。

6月20日の同大会には〝暴走柔道王〟小川直也もGP準決勝に参戦する。柔道の道を極めたふたりが、どんな闘いを繰り広げてくれるのか？　『PRIDE．GP』準決勝の組み合わせとともに、気になる吉田秀彦の対戦相手発表を待とう！

改良道衣ゲッツ！吉田が遂に動き出した!!




起こったのか!?
o Cop vs
ndleman
ADRENALINE
SPORTS



04.4.25 PRIDE GP 2004 FIRST ROUND

ミルコ・クロコップ
［クロコップ・スクワッド］

1R1分57秒
KO

ケビン・ランデルマン
［ハンマーハウス］

衝撃！　『PRIDE・GP』1回戦から、大番狂わせ発生！　大会パンフレットの表紙を飾るなど、今大会の“主役”と言っても過言ではないミルコが、まさかまさかのKO負け！　2・1『PRIDE・27』でロン・ウォーターマンを完璧に下したミルコは、同じくパワー＆レスリングのランデルマンにも余裕の表情を見せていたが、タックルだけを警戒し、顔面のガードが空いたところを、ランデルマンの左フックが直撃！　もんどりうって倒れたところをパウンドの嵐で追い打ちをかけられ、そのまま失神KO負けの失態を見せてしまった。たはして、ミルコはこれからどう巻き返すのか……？

ミルコに何が起

Mirko Cro
Kevin Ran



ーに握られた
名のジョーカー

「桜庭への侮り。それだろう」

「エッ？　ランデルマンに負けた理由がですか？」

プロレス者のKさんは、キョトンとした目で私を見やった。私の周囲にプロ格者は多いが、ほとんど、格闘技の話をしないプロレス者もまた何人かいる。Kさんは根っからの猪木ファン。しかし、昨年の中頃ぐらいから、ミルコ・クロコップだけは、かなりの入れ込みを見せていた。

「ミルコは、桜庭から寸法を測ったのだと思うよ。ミルコにとって、桜庭はもう、闘うに足る相手ではなかった。過去の人形。ミルコはそう思っているんじゃないかな」

5月11日の早朝だった。『紙のプロレス』編集部から緊急電話が入った。ミルコの相手が金原弘光に決まったという。

「それでですね。一体、ミルコには今後、どういった展望があるのか。それをですね――

――」

セカセカした口調だった。午後10侍までというと、あと2時間しかない。ウンウンと言いながら話を聞いていた私が、この時何を感覚していたか。それが冒頭のKさんとの〝電話トーク〟であった。

人間とは不思議な一面を持つ。特に、井上義啓という奇人がそうであった。直接関係している事象ではなく、その周囲に飛び回っている二次的な断片をいじくり回している。だから、〈Kさんとの、あの話。いつだったのかな〉などと、ボンヤリ考えていた。

いずれにせよ、Kさんの顔が思い出されたからには、この時のミルコの敗因の長話の中から、ポイントだけを抜粋して並べてみないと、5月11日という頼りないヨットの行く先は見えてこない。私はもう一度、ドンキーコングの白い歯と「ケビンは1メートル75センチもないという話ですよ。公称は1メートル78センチですけど……」とのH記者の耳打ち話を、一隻の、この白いヨットに絡ませていた。

◇

ケビンの左ジャブが突き上げるようにミルコの顔面にヒットした。

「不用意に前に出ると――」

私が、こう呼ぶように言ったのと、ガッーンとドンキーコングの左拳がミルコの白い顔面を叩くのとが同時だった。

「どうして、あんなに前に出るんだろう。ケビンのテリトリー（射程距離）だろう。あれ……危ないよ。あんなの……」

このド素人の『解説者的解説』（?）が消えるか消えないかの歪んだ空白。それがミルコに、あの屈辱的なKOシーンをもたらした。

〈確かに侮りだ。それ以外にはない。23日に来日という〝大トリ来日〟のヒニク的な見出しがそれだ。『サクにコテンと負けたケビンの地力なんて、あんなものだ。サク自体が遺物なんだからな』。ミルコは、こう考えたに違いない。それが、負けるわけがないとの侮りと、ケビンの射程距離に不用意に突っ立っているとの驕りを呼んだ。しかし、ミ



モロにミルコのアゴをとらえたランデルマンの左フック。タックルを切る動作をしていたミルコにカウンターの形で入った。まさかミルコが打撃でやられるとは……。

Mirko Cro Cop vs K

［井上流徹底検証］

ミルコの手に握
再生という名の

文／井上義啓

ルコのケビンを見ていた目も間違ってはいなかった。なぜって、サクと闘ったケビンと、今日のケビンとは、動きに差があったからだ。集中力の違いと言ってもいい。ミルコには、このケビンの違いが読めなかった〉

　その〝違い〟は何だったのか。発展途上にあるケビンの〝進化〟だと見る解説は多かった。

〈そうじゃないだろう。何か、サクと闘ったケビンにはなかったものが、今日のケビンにはあったのだ。あの左ジャブ。この前のサクと負け試合に、今日の、今の左ジャブをあてがってみたら、すぐ分かる話だ。絶対に切り絵にはならない〉

　Kさんとの長話が終わった後も、この疑問は解けない雪のように、私の〝黄色い脳細胞〟にまつわりついた。

　H記者に電話で問い合わせてみた。

「よく分かりませんが……。そんな違いがあったんですかね」

　しばらく間があって、こんな答えが返ってきた。

「桜庭とやった時は、奥さんとの離婚問題がごたついている真っ最中だったとか……。それが片づいて吹っ切れたんじゃないですか」

　そうなも知れないと思った。あの時の、100％解けきっていない雪の塊が、わずかな納得を私にもたらした」

〈ミルコの行く末ねぇ〉

　私はやっと本題に立ち戻った。安物の、頼りないボートは、これだから困る。

〈金原は、もう評論家じゃないのかな。先月号（紙のプロレス73号）でも、『PRIDE・GP』に出る横井がどうの、高橋義生がどうのというコラムが載っていた……〉

　どう考えても、ミルコに勝てるとは思われなかった。しかし、ピンチヒッターとは言え、金原ほどのファイターだ。見せ場の一つや二つは作ってくれるはずであった。

〈それがなかったら困るのだ。また「絶対にミルコが勝てる相手の中から金原を選んだ」などと言われる。『PRIDE武士道』の趣旨をケロッと忘れてだ〉

　今年中にミルコは格闘技界の頂点に立つ。私の目にエメリヤーエンコ・ヒョードルとPRIDEヘビー級のベルトは映らない。ということは、もうヒョードルの時代は去りつつあるということなのだ。

〈ケビンとの負け戦がいい薬になった。これからミルコは這い上がっていく。ヘビー級のボクサーを倒すことがミルコのライフワークだ。K－1に舞い戻ってタイソンを倒すのもいい。僚友のウラディミール（・クリチコ）を格闘技のリングに引き上げるのもいい。いずれにせよ、ミルコの領域は単なるPRIDE、K－1のリングじゃない。それはベガスでの、ごっついビッグマッチ。UFCヘビー級のチャンプだなんて、考えただけ無駄だったのだ。そうでないと、PRIDEもK－1も衰退の下り坂へと向かう……〉

　哀れな空想児は、ここでペンを置いて時計を見やった。午前9時23分。約束の10時までには、まだ、たっぷり時間が残っていた。


悔しい”大善戦
o Nogueira
ka Yokoi



04.4.25 PRIDE GP 2004 FIRST ROUND

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ [ブラジリアン・トップチーム]

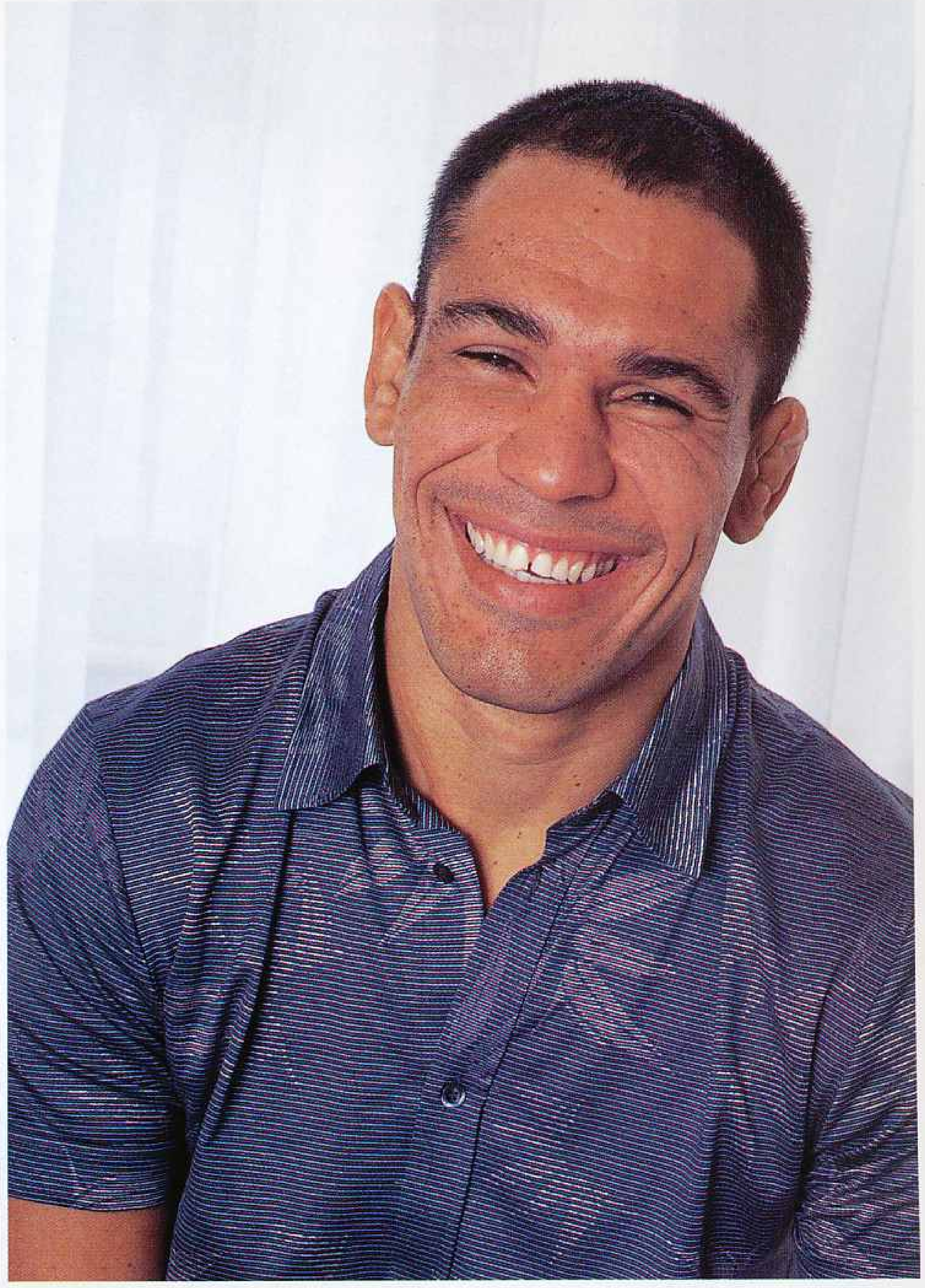
2R1分25秒 スピニングチョーク

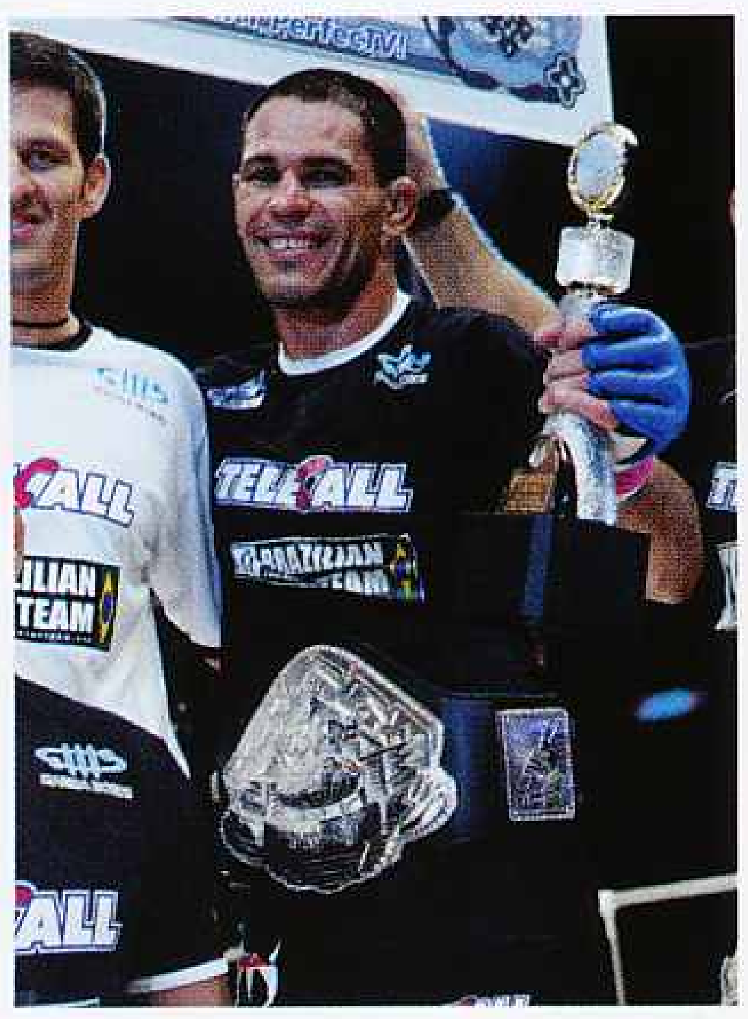
横井宏考 [チーム・アライアンス]

PRIDEヘビー級暫定王者と総合無敗とは言え『PRIDE』2戦目の新人選手ということで、下馬評では「ノゲイラ圧倒的有利」と言われたこの一戦だったが、横井がその潜在能力を発揮して大善戦! 序盤、差し合いから倒され、サイドポジションを取られた横井だが、ノゲイラの隙を見てするりと立つと、その後はノゲイラの下からの関節を切り返して、逆にパウンドを落としていくというノゲイラvsヒョードル戦を思わせる展開となり場内大歓声。しかし、2Rに入ると少し疲れの見える横井にノゲイラのパンチとヒザが当たりだし、打撃を嫌がった横井はタックルに行くが、ノゲイラはがぶって4点ポジションからのヒザを落としていく。そしてその体勢のまま、首をひねる新技スピニングチョークを極めると、横井はたまらずタップ! 横井大善戦も終わってみれば、王者の横綱相撲となってしまった。

怪物クンの“悔

A.Rodrigo vs Hirotaka







アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

「横井の寝技は菊田に勝るとも劣らぬものがあると思うよ」

「ミルコ敗れる」の大番狂わせの直後、日本期待の横井宏考を下し、見事、優勝候補としての重責を跳ね返したノゲイラ。しかも、ここで新技スピニングチョークを出してくるところが、さすがだった。次回6・20の2回戦では小川直也戦を希望しているが、はたしてどうなるか？

聞き手／堀江ガンツ　撮影／森モーリー鷹博　試合写真／乾晋也
designed by hisa (Two Three)

——昨日は『PRIDE・GP』一回戦突破、おめでとうございます！

ノゲイラ　ありがとう。

——それにしてもフィニッシュホールドの"スピニングチョーク"にはビックリしましたよ。

ノゲイラ　あの技はこの日のために、しっかり練習してきたモノなんだ。相手をコーナーに押し込んで、相手のタックルを誘い、技を掛けるという作戦さ。

——狙い通りだったわけですか。

ノゲイラ　うん。ボクは様々なシチュエーションに対応できる練習をつんできていたから、あの技もその中のひとつだよ。

——闘ってみて、横井選手にはどんな印象を持ちましたか？

ノゲイラ　ヨコイはサムライだね。彼のファイティング・スピリットは素晴らしかったよ。1Rに、ボクがグラウンドやパンチで、試合を決めるチャンスが何度もあったんだ。でもヨコイの技術とスタミナ、そしてスピリットに阻まれ、試合を決めるには至らなかった。だけどボクも落ち着いていたから、焦らずじっくり考えながら試合を進めたんだ。彼はアグレッシブで、どこからパンチが飛んでくるか分からないから、KOされないように気を付けて闘ったよ。

——横井選手はこの大会に出るまでは、ハッキリ言って一般的には無名の選手でしたが、強さは予想以上だったんじゃないですか？

ノゲイラ　そうだね。彼の強さは「勝ちたい」という強い気持ちから来ていたんじゃないかな。バーリ・トゥードという競技は、技術が上の選手が必ずしも勝つとは限らない。彼の諦めない気持ちっていうものは非常に大事なことだよ。

——横井選手はこれから伸びていく選手だと思うんですけど、世界のトップクラスに入れる可能性はありますか？

ノゲイラ　ヨコイは可能性があると同時に、すでに現時点で日本における最強の選手の中の一人だと評価してるよ。特にグラウンドや投げ技の技術は、非常に高いレベルにある。日本ではグラウンドテクニックと言うとキクタ（菊田早苗）が有名だけど、ヨコイは彼に勝るとも劣らぬものを持っていると思うよ。

——バーリ・トゥードの先輩として、横井選手にアドバイスをするとしたら、何かありますか？

ノゲイラ　彼の勇気とガッツは素晴らしいから、このまま続けていけば、必ず成功するよ。あと大事なことは、自分を信じること。そしてトレーニングを怠らないこと。もう一つは対戦相手を選ばず闘うことだね。やはり自分の得意なタイプばかりを相手にしていてもそれ以上成長しない。苦手な相手ほど自分を成長させるんだ。

——要するに、ノゲイラ選手と同じ道を歩めば強くなれると（笑）。

ノゲイラ　そうだね（笑）。もちろん技術を追求することも大事なことだけどね。

——話は変わりますが、ノゲイラ選手は2回戦の相手として小川選手を指名していましたけど、昨日の小川選手の試合はご覧になられましたか？

ノゲイラ　自分の試合の準備があったから、まだ他の試合は観てないんだ。今から全部の試合をビデオでじっくり観て研究するよ。次回の2回戦では、どんなカードが

ノゲイラ　対戦相手は？



これがフィニッシュとなった"スピニング・チョーク"。ご覧のように、腕によって三角絞めを極めたような形になっている。しかもこの技はナガタロックばりに何パターンかバージョンがあるというから、今後も注意が必要だろう。

A.Rodrigo Nogueira vs Hirotaka Yokoi

るよ。次回の2回戦では、どんなカードが組まれるかとても楽しみだね。

―小川選手は寝技でステファン・レコに完勝したんで、ファンの間では小川vsノゲイラの寝技対決への期待が高まっていますよ。

ノゲイラ　だからこそ、ボクもオガワと闘ってみたいんだ。オガワは世界一の柔道家だから、本当に素晴らしい技術を持っているのだろう。そんな彼とボクが闘えば、最強のグラウンド対決になるよ。

―DSEの榊原代表は、ノゲイラvs小川戦は、6月の2回戦ではなくて、8月の決勝大会で闘わせたいと言ってましたが、そのことについてはどう思われますか?

ノゲイラ　そうなったとしたら、素晴らしい決勝戦になるよ。もしボクとオガワの試合にならなくても、勝ち上がった選手は素晴らしい選手ばかりだから、次回6月もいい大会になると思うよ。

―小川選手と闘ったら、ズバリ一本勝ちする自信はありますか?

ノゲイラ　試合はやってみなければわからないけど、寝技も打撃も自分の技術のほうが上だと信じているよ。オガワに勝って、ボクが逆に試合後〝ハッスルポーズ〟を決めたいね(笑)。

―ダハハハ、それはゼヒ期待したいですね(笑)。ところで、6月の大会から、K―1のチャンピオンのマーク・ハントが参戦しますが、それについてはどうお考えですか?

ノゲイラ　その件については、よく理解していないんだけど、マーク・ハントが『PRIDE・GP』トーナメントに参加するということなのかい?

―いえ、トーナメントとは別のワンマッチで参戦予定です。

ノゲイラ　対戦相手は?

―まだ決定してません。とりあえず、参戦することだけ決まったようなんで、これからじゃないですか。

ノゲイラ　そうなんだ。「K―1チャンピオン」という肩書きを持った大物が参戦することによって、『PRIDE』がますます大きなステージになるだろうから、非常にいいことだと思うよ。今回のGPもオガワの参戦でより盛り上がった部分もあるしね。

―ノゲイラ選手はかねてから、K―1のチャンピオンクラスとの対戦を望んでいましたよね?

ノゲイラ　そうだね。闘えば、自分の技術が上だと証明できるから、GPが終わった後に『PRIDE』とK―1のチャンピオン同士として闘いたいね。そのためにも、もっとトレーニングを積んで頑張るよ。

―今後のトレーニングスケジュールはもう決まっているんですか?

ノゲイラ　ここ数ヶ月、ボクシングの練習が中心で、レスリングの練習が少し足りなかった気がするから、レスリングを増やしたいと思っている。それからもっとパワーもつけなければならないから、ウェイトもしっかりやりたいと考えているんだ。

―ということは、次回はより隙がなくなったミノタウロが見られるわけですね。

ノゲイラ　もちろん。そして8月の決勝大会にはパーフェクトに仕上がっているはずだよ。そうすれば、必ず優勝できると信じているからね。

―昨日の〝スピニング・チョーク〟以外にも秘策があったりするんですか?

ノゲイラ　まだ見せてない技がいくつもあるから、いろんな技を練習してファンにお見せするよ。期待していてくれ!

【04年4月26日/都内・某ホテルにて収録】

——ノゲイラ戦がゴールデンタイムで流れて以来、高円寺界隈ではすっかり有名人なんじゃないですか?

横井　そんなことないですよ。それにあんな試合じゃダメですね。

——ダメですか!　でも、いろんな人が横井選手の闘いぶりを褒めてますよ。

横井　いやいやいや。褒められるのがおかしいんですよ。だって吉田（秀彦）さんとか桜庭（和志）さんが、ノゲイラとああいう試合をしても褒められないじゃないですか。ボクなんかまだ全然下ですけど、GPに出たからには、それぐらいのものが求められてると思ってますからね。それに負け方がホントにカッコ悪い!　ノゲイラに負ける前に、自分に負けてる感じだから、ビデオを見ると情けなくて、ホント落ち込みましたね。

——1Rは攻め込んでいたのに、2Rに入って急に失速してしまったように見えましたけど、あれはスタミナが切れてしまったんですか?

横井　確かにスタミナはキツくなってきてましたけど、そこまで動けないっていうわけじゃないんですよ。ただ、1R終わった時点で3R目のことを考えちゃったんですよね。「こりゃあ極められることもないけど、極めることも出来ないか」って。それで2Rは取られてもいいから凌いで疲れないようにして、3Rに勝負をかけようと思ったんですよ。やっぱ、そこっスね。気持ちが守りに入っちゃったんですよ。





横井宏考

「世界の頂点は近いようで遠かった。この紙一重の差をブチ破ります!」

『PRIDE・GP』1回戦で、敗れたとはいえ、ヘビー級暫定王者ノゲイラと互角以上の攻防を見せ、その存在を知らしめた横井。しかし、本人はあの試合すら「恥ずかしい」という。日本格闘技界の未来は、この横井を筆頭にした『武士道』世代にかかっている!

聞き手&撮影／堀江ガンツ　試合写真／乾晋也
designed by hisa (Two Three)

——それに引き替え、ノゲイラは勝負所を知っていたと。

横井　そうですね。経験の差が出ました。それから、最後の技は完全に知らなかったです。やられました。

——あそこで、新技を出してくるってところが凄いですよね。きっと格闘技界でしばらく流行ると思いますよ（笑）。

横井　自分もさっそく練習してマスターしましたから（笑）。でもあれを極められたのは自分の責任ですよね。不用意にタックル行って、あの体勢になってしまったんですから。ホンッット悔しい!　一週間ぐらいずっと落ち込んでましたからね。

——事あるごとに思い出されるような状態ですか?

横井　ホントそうですよ。夢で見ましたもん。

——夢でまたタックルいっちゃったと（笑）。

横井　やっぱり気持ちが弱い!　弱いっていうか、変に余裕があったというか。ヒザ蹴りが結構効いてしまったんで、顔に出るのが嫌でタックル行っちゃったんですよ。そういうことを考えてたくらいなんで、余裕はあったと思うんですよ。でも、それでもやってしまった部分に経験不足というものを感じましたね。

——そうすると、今回は期間が空いちゃいましたけど、これからはどんどん試合をやって経験積んでいきたいって感じですか?

横井　そういうことでもないですね。やっぱり自分は一試合一試合、大事に集中してやりたいんですよ。だから次のことはまだ考えてないですね。それから総合は『PRIDE』だけに限らず、UFCにも出たいし。

——それは前から言ってましたよね。

横井　はい。檻の中に入って、自分の"野



1Rノゲイラ相手に予想以上の闘いぶりを見せた横井は、2R早々、払い腰でノゲイラをぶん投げる。しかし、この後ノゲイラの打撃を嫌がり、タックルで自滅してしまったことが悔やまれる。横井、もう一丁!

A.Rodrigo Nogueira vs Hirotaka Yokoi

性〟がどれだけ出るか、楽しみですから。でも、どこに出るにしても、実力的にもうワンランクアップさせてからですよ。

——今回の敗戦を機に、プロレスはしばらく休んで、総合に専念する気はないんですか?

横井　それは全くないですね(キッパリ)。専念してほしいんですか?

——した方がいいっていう声も多いじゃないですか。武藤さんも言ってましたよ。

横井　なんて言ってたんですか?

——「『PRIDE』でいい闘いしたのなら、しばらく専念した方がいい。巡業出てたら弱くなっちまうぞ!」って(笑)。

横井　でも今回、自分が前に『PRIDE』出たときより弱く見えました?

——前より全然強くなったと思います。

横井　そういうことですよ。巡業に出てても、頭の使いようで強くなれるんですよ。プロレスと格闘技の両立は難しいって言えば難しいでしょうけど、ボクは別にそれでやっていこうと思ってるし、いまどっちかを辞めるのは、自分の中で〝逃げ〟だとか〝負け〟だと思うので。自分がなりたい姿には、どっちも必要だと思ってるので、プロレスは続けますよ。その中で強さを追求していきますから。

——ノゲイラ戦が終わってから、練習内容は変えましたか?

横井　変えましたね。試合終わった直後には、もう2つ変えなきゃいけないところが見えたんですよ。それ以外にも自分のビデオを見てから、「こうやったら強くなれるんじゃないかな」とか「ここで、こうやってたら出きてた」っていう部分は5つぐらい見つけましたからね。そういった部分を克服して、早く世界のトップに追いつかなきゃいけないと思ってますから。

——ホント、横井選手の世代がどんどん出てこないと、格闘技界も未来が見えてきませんからね。

横井　そうなんですよ。吉田さん、高阪さん、桜庭さんとか、金原さん、小川さん、田村さん、山本さん、坂田さんとか。日本で「強い」強いと言われてる人たちって、30代は過ぎてるじゃないですか。それに楽させてあげるじゃないですけど、続かなきゃいけないっていうか。もう現時点で同じ実力を持ってなきゃいけないと思うんですよ。

——外国人はハリトーノフとか、若くて強いのがどんどん出てきてますもんね。

横井　そういった部分で、高瀬さん、長南さん、大山さん、滑川さん、カズ、自分ってそういう意識は凄くあるし、みんな練習で協力しあって、世界と闘って行きたいと思ってますから。あと、一緒に練習はしてないですけど、グラバカの皆さんとか、近藤さんとか美濃輪さんとか、日本には強い選手がたくさんいますからね。

——でもいま現在では、外人のトップが更に強いっていう状況ですからね。

横井　でも、意外と近いですよ。


——近いですか!

横井　自分がやってみた感じで言わせてもらえば、「近いようで遠い」という感じですかね。そこまでメチャメチャ差はないと思うんですけど、結果的に負けちゃいましたから。この紙一重の差をみんな一丸になってブチ破りたいですね。もうすぐに『PRIDE武士道』があるんで、カズ、長南さん、大山さん、高瀬さん、それから美濃輪さんがやってくれると思います。ゼヒ、期待してください!

——もちろんですよ! そして横井選手の次の試合にも期待してます!

【04年5月6日/高円寺で収録】

、39歳のリスタート



04.4.25 PRIDE GP 2004 FIRST ROUND

エメリヤーエンコ・ヒョードル [レッド・デビル]

1R 2分11秒
腕ひしぎ十字固め

マーク・コールマン [ハンマーハウス]

強烈無比なタックルが武器のコールマンだけに、テイクダウンされたヒョードルがどんな対応を見せるかが、この試合最大の焦点だった。試合開始早々、コールマンは、ヒョードルが打撃で間合いを詰めてきたところをすかさず、テイクダウンに成功する。コーナーに押し込まれたヒョードルは、強引に立ち上がろうとするが、コールマンはバックに回りチョークスリーパーの体勢に。しかし、ヒョードルは冷静な動きでこの危機を脱して、立ち上がり様に強烈なフロントチョーク!!　その後、コールマンに再びテイクダウンを許すが、パウンド狙いの動きにすぐさま反応を示して、電光石火の腕ひしぎ十字固め!!　ヒョードルがボトムからの強さも満天下に知らしめた。

enko Fedor
Coleman



古の王者、3

Emelianen
vs Mark Co

マーク・コールマン

「“最強”を目指すとは、日常を放棄すること。つまらない人生なんだよ」

わずか2分の試合時間ながら、濃密で激しい攻防が繰り広げられた新旧王者対決。ボトムからの、鮮やかな腕十字でコールマンを切って落としたヒョードルの底知れぬ実力、その盤石の体勢が浮き彫りになったが、コールマンの善戦も見逃せない一戦となった。今回は、そのコールマンの視線を通して、このグランプリ、レベルが上昇し続ける『PRIDE』のリングを考えてみたい。

聞き手／ジャン斉藤　試合写真／乾晋也　designed by hisa (Two Three)



――グランプリの激闘から3日経ちましたが、あらためてヒョードル戦の感想を聞かせてください。

コールマン　さすがはヒョードルだったよ。現役『PRIDE』ヘビー級王者の実力を短い試合時間の中で、十分に体感させていただいた。私はヒョードルが今大会で一番の強敵だと確信していたし、グランプリの優勝候補に挙げられていたことは、関係者たちが口を揃えていたので知っていた。私はそんな〝世界最強〟の戦士と闘うことを名誉に感じて、この対戦オファーを快諾したんだよ。

――リングでその強敵と向き合うまで、どのような心境だったのでしょうか?

コールマン　今回の試合では、誰もが「コールマンの勝ち」を予想してなかったと思う。私の年齢的なことや、いままでの対戦成績などを考慮すれば、誰もが「ヒョードルの勝ち」を信じて疑わなかっただろう。しかし、私は自分の勝利を信じてリングに上がった。「必ず勝つ!」と、ケビン（ランデルマン）にも約束したしね。だけれども、いま振り返ってみれば、首の手術後、初めての試合となったし、準備不足の面があったことも否めない。頭の中でも、少しだけ、自分の能力に疑いを感じていたのかもしれない。周りからも「マークが勝つチャンスはない」という声がたくさんあがっていたから、その声が私の心に暗い影をさしたことは事実だね。

――ヒョードルの実力、周囲の声などに惑わされて、闘う前から萎縮してしまったところもあったわけですね。

コールマン　自信と不安が同居していたんだ。いままでは何事にもポジティブになれたが、今回はそうはいかなかった。迷いがあった。年齢的なこと、周りの声、相手は若い現役王者。ネガティブなイメージを持ったまま試合に臨んだことが、この敗北を呼んでしまったわけだ。

――コールマンさんの闘い振りは、とても不安があったとは思えませんでしたが。

コールマン　アグレッシブに攻め込むことはできたが、試合時間のわずか2分のあいだに、数え切れないほど“ためらい〞は生じていたんだ。頭の中では「ここで殴らなくては!」と判断していても、この身体はそうは反応してくれなかった。それはヒョードルが私を上回る能力を持っていたからだろう。そして私の技術的な問題でもあった。でも、私はディフェンディング・チャンピオンとしての意地は見せたと思うし、試合では敗れたが、若き王者と闘うことで、まだまだ闘える自信は深まったよ。

――実際に肌を合わせてみて、ヒョードルは、どの部分が優れてると思いましたか?

コールマン　すべてにおいて素晴らしいファイターだったね。とくにサブミッション、レスリングテクニックは予想していた以上に優れていた。そして何よりも、その動きに一瞬たりとも〝ためらい〞は感じなかった。どんなピンチにも怯まず、あそこまで冷静に闘えるファイターも珍しい。彼には精神的な強さもあるが、素晴らしいトレーナー、スパーリングパートナーにも恵まれていることもポイントになるだろうね。それに若くて美しい奥さんもいるから…

…離婚してしまった私とは、ずいぶんと環境に差がある（苦笑）。

――なるほど（笑）。で、コールマンさんは前回のグランプリ優勝者にして、唯一のグランプリ連続参加となりましたが、4年前と比べて、『PRIDE』のリングの風景に何か違いはありませんでした?

コールマン　私が4歳、年を取った（笑）。

――それは当たり前ですよ（笑）。

コールマン　でも、私にとっては大きな問題だよ。『PRIDE』には若くてイキのいい選手が増えてきてるからね。それに伴い全体的にレベルアップしている。私は首に爆弾を抱えていたこともあって、思うように練習することができずに、それに合わせて向上することはできなかった。これからはその〝空白の4年間〞を埋めるために、さらなる努力を重ねるつもりだよ。

――具体的には、どういった行動をしていきたいですか?

コールマン　素晴らしいコーチ、新たな練習環境を探そうとは思っている。我がハンマーハウスは優れたチームだけれども、ランデルマンたちとは、ずいぶん長いあいだ一緒に練習してきたから、彼らがどんな動きをするかは簡単に対応できる。つまり、新鮮なスパーリングができていないんだ。それに、私やケビンは高いレスリングテクニックや、すべてを破壊しうるパワーは持っているが、サブミッションに関してはヒョードルやノゲイラと比べると、二枚も三枚も落ちるのが正直なところで、サブミッションや柔術の練習環境には適していない。そこがヒョードルの下からの極めに対応できなかった一因でもあった。

――そういえば、ランデルマンさんも桜庭さんのアームバーに屈してますね。

コールマン　あらゆる分野の選手とスパー



リングをすることで、サブミッションの対

自分の人生を賭けて試合に臨まないと、ど



Emelianenko Fedor vs Mark Coleman

リングをすることで、サブミッションの対応力を増したいね。私はレスリングに関しては、目を瞑ってでもスイスイできるんだけれども、柔術、ボクシングなどは即座に身体が動くレベルではない。〝ためらい〟が生じるのはそのためでもあるんだ。

——40歳になっても修行を続けると。

コールマン　……君は大変な間違いをおかした。私は、〝まだ〟39歳だ（苦笑）。

——あ！　失礼しました（笑）。それにしても、コールマンさんが39歳にして、そこまでのモチベーションを保てる理由、トップレベルの技術を維持できるのはどうしてですか？　若い選手にアドバイスできることがあったら、ぜひお願いします！

コールマン　そうだね。『PRIDE』のリングに集うファイターたちは、突出した能力に強靭な肉体を持ち合わせているが、それは神様から授かったものだと思うので、まずはそれを大事にしてほしい。食事の改善、トレーニング、そして一番大事なことは——シンプルな答えになるが——試合に集中することだよ。試合を集中するためには、つまらない人生を送ることになるかもしれない。朝起きて、黙々とトレーニングに励んで、そして日が暮れると同時にベットに潜り込む……そんな日々を過ごすことによって、ハングリーさが湧き出てくる。それが〝最強〟を目指すための第一歩。非常に重要な一歩となるんだよ。

——そうして一流のファイターが育まれていくわけですね。

コールマン　リングには常に光と影が存在するが、「影」とは決して敗北だけを指しているのではない。勝者にはある意味で、「つまらない人生」がそれに当てはまる。楽しむべき日常を放棄して、激しいトレーニングを強いられるわけだからね。こうして自分の人生を賭けて試合に臨まないと、どんなに優れた才能を持っていても、試合に勝つことはできないんだ。それが老兵の私から、若い選手に言えることだよ。

——でも、コールマンさんはまだまだ、「つまらない人生」を送るつもりなんですよね。

コールマン　もちろんだとも！　不安があるとすれば、次回のグランプリ開催がまた4年後にならないことだね。早く開催してほしい（笑）

——まだ、今回のグランプリですら終わってないですよ（笑）。

コールマン　ガハハハ！　今回のグランプリは、ハンマーハウスの同士、ケビンが勝ち残ってくれたからね。優勝の望みは彼に託そうと思っている。

——ケビンとは長い付き合いになると思いますが、彼とのあいだで、最も印象に残っているエピソードはどれになります？

コールマン　それは世界で一番、難しい質問だな！　ケビンのことを喋るとなると、一週間は軽くかかってしまう（笑）。彼とのエピソードはすべてが印象深いものばかり。辛いときも苦しいときも楽しいときも、いつもケビンと一緒だった。数え切れないくらい喧嘩もしたし、意見の食い違いもあった。そんなときはスパーリングをして、互いに身体をぶつけることで不満を解消してきたんだよ（笑）。

——ハードなコミュニケーションを取ることで、仲を保ってきたわけですね（笑）。

コールマン　互いに切磋琢磨しているんだ。ケビンが頑張ることで私はモチベーションも保てる。彼も私が存在することが励みになってるんだよ。

——これからも、二人三脚の活躍を期待しています！

【04年4月28日／都内・某ホテルにて収録】



「総合をやるなら世界最高峰のリング。世界で2番目の大会に出る意味はない」

『PRIDE・GP』のリングで突

ミルコ、レコの次は、この男だ！
遂にK-1王者が『PRIDE』に参戦!!

Mark Hunt



マーク・ハント

遂にK―1王者が『PRIDE』に参戦!!　その男の名はマーク・ハント。2001年のK―1GPを制した“サモアの怪人”が次なるリングとして選んだのは『PRIDE』マットだった。ミルコ、レコもなし得なかった立ち技最強の称号をゲットした、この男の狙いは一体何なのか？　GP翌日、一夜明け会見に出席したハントに、その真意を直撃!!

聞き手／松澤チョロ　撮影／森モーリー鷹博
designed by hisa (Two Three)

―『PRIDE・GP』のリングで突然の参戦表明で驚かされたわけですけど、ハントさんは、いつぐらいから総合格闘技にチャレンジしようと思ってたんですか？

ハント　もう随分長い間考えていたよ。

―あ、そうだったんですか？

ハント　具体的に言うとK―1GPで優勝した時から次のステップを考えてたんだ。

―そんな前から考えていたんですか!?　立ち技は自分の中である程度極めたという意識があるわけですね？

ハント　いや、ある程度っていうか、オレはK―1のチャンピオンになってんだから。

―し、失礼しました（笑）。まあミルコもレコもK―1時代はチャンピオンになってないですからね。

ハント　だろ？　オレはその点チャンピオンになってるんだからな。あれから、もう3年経ってるけど、次のステップとして選んだのが『PRIDE』ってことさ。

―その間も何回かK―1で試合をしてますけど、その裏ではいろいろと葛藤があったわけですね。

ハント　葛藤まではいかないけど、まあそういうことだな。こう見えて、結構慎重に物事を考えるタイプなんだよ。

―それは意外な気がします（笑）。やっぱり、ミルコやレコに刺激を受けた部分もあるんでしょうね。

ハント　う～ん、それもあるかもしれないけど、やっぱり昨日の試合を見て、改めて『PRIDE』しかないと思ったんだ。正直言って我慢できなくなったから。

―早く闘いたくてしょうがないわけですね（笑）。で、ハントさんといえば、一番気になるのがK―1との関係なんですけど、5月22日に旗揚げするK―1『ROMANEX』にも出場予定選手としてハ

ント選手の名前が入っているんですが、実際のところどうなってるんですか？

ハント　その件に関して言えることは、オレ自身、『ＰＲＩＤＥ』が世界最高峰の総合格闘技の大会と思っているんで、世界で2番目の大会に出る意味はないってことだよ。やるんだったら世界最高峰のトップファイターが集まるリングで試合がしていきたいんだ。昨日の試合を見て、それを実感したっていうのもあるし、自分より優れた相手と練習したり闘うことによって自分も強くなると思うんだ。

――すでにヤル気満々ですね。

ハント　常に最高のファイターが揃っている『ＰＲＩＤＥ』のリングで闘うことによって、もっともっと自分の実力も上がると思っている。そういうことだよ。

――ミルコやレコと同じように、ここ最近のＫ―1に対して多少なりとも不満があったりするわけですか？

ハント　いや、特にＫ―1の経営体制だとか、最近よく言われるショー的要素が増したっていう部分に対してはオレはそれほど不満はない。今回『ＰＲＩＤＥ』のリングに上がるということは自分にとって新しい挑戦を試みようと思っただけなんだ。やっぱり、男なら世界最高峰のリングでトップファイターと闘いたいということだよ。

――ハントさんも高田本部長から〝お前は男だ！〟と言われたいと？（笑）。

ハント　（不思議そうな顔をして）そうかもしれないな（笑）。

――ズバリ、『ＰＲＩＤＥ』での最終的な目標となると、ヒョードルが保持するヘビー級のベルトになるわけですか？

ハント　もちろん！　もし2つもらえるならミドルも欲しいけどね（ニッコリ）。

――いや、ミドルはちょっと難しいんじゃないですか？（笑）。

ハント　（日本語で）ガンバリマス！　ガッハッハッハッ！（笑いが止まらなくなる）

――ちょっとウケ過ぎです（笑）。いまのところ、Ｋ―1と『ＰＲＩＤＥ』の両方で王者になってる人はいませんからね。

ハント　だろ？　それが難しいことだとはわかってるけど、だからこそチャレンジしたいんだ。あと、オレの目標は前から言ってるように大金持ちになること！

――アハハハハ！　そちらの夢も叶うよう頑張ってください！

ハント　ベルトっていうのは最強の称号だから、もちろん欲しいんだけど、『ＰＲＩＤＥ』のリングの中では自分は新人なんで、要求された相手と闘うだけ。でも、やるんだったら常に強い相手と闘っていきたいと思ってるんだ。それで最終的に狙うのはヘビー級のチャンピオンベルト。

――具体的に6月の大会に向けて、どのような練習をしていこうと思ってるんですか？

ハント　それについては、いま考えてる最中なんだ。自分の中ではいくつか候補はあるんだけど、その中で自分にとって最高のチョイスだと思うところに決めたいね。

――先ほどの会見の時にはブラジリアン柔術を、グレイシー系のマーク・サローさんという方に習ってるということでしたが、聞くところによると、かなりハードな練習をされてるみたいですね？（笑）。

ハント　ガッハッハッハッ！　一日3時間のハードトレーニングを積んでるからな。

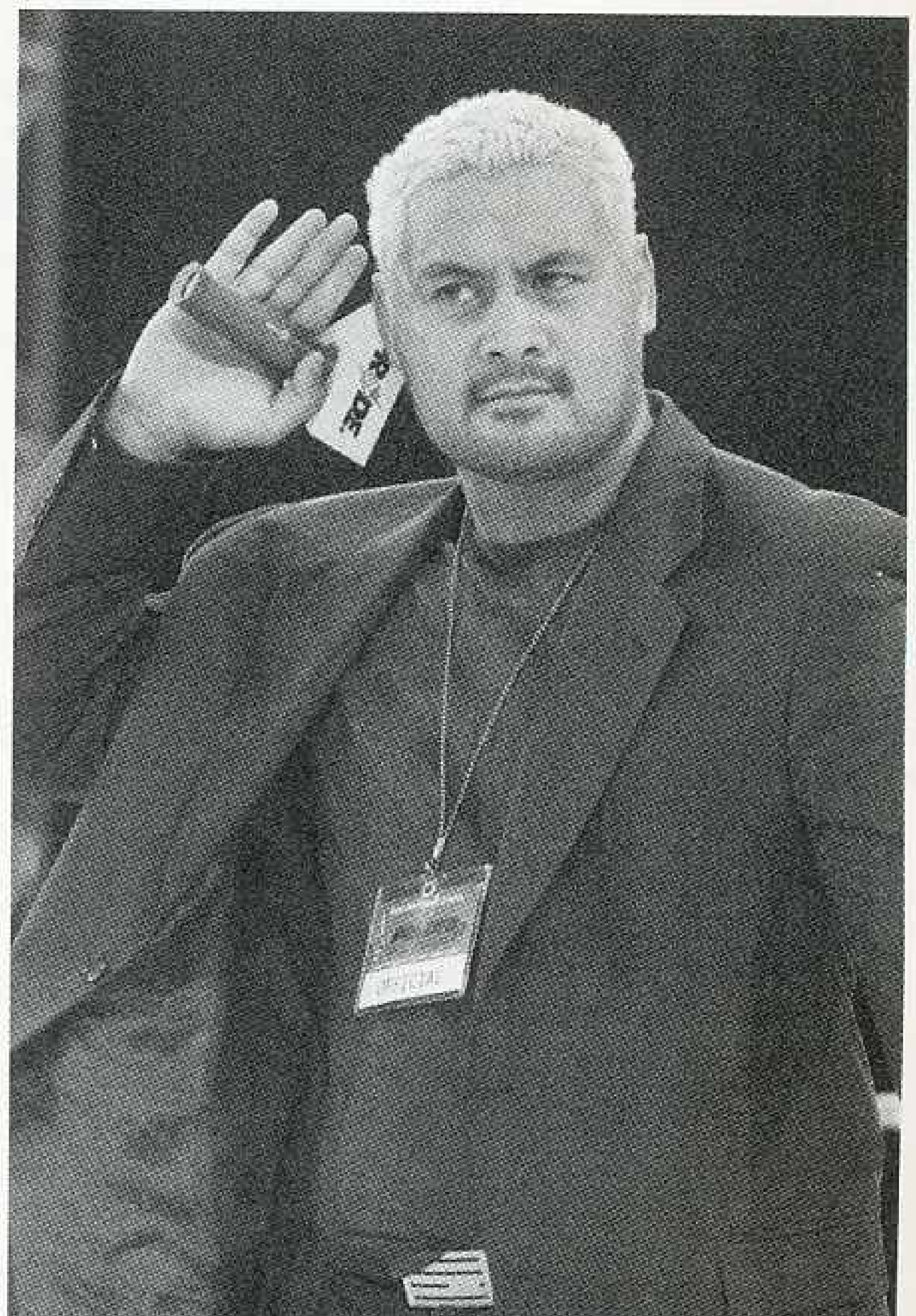
――……。正直に答えてください。

ハント　（恥ずかしそうに）正直言うと、トータルで、まだ8時間ぐらいかなぁ？

――アハハハハ！　柔術歴は、いまのところ8時間なんですね（笑）。

ハント　そう。ただ、これからは違うよ。昨日の試合を見て、それじゃあ通用しないってわかったし、出るからには勝つ技術を

『ＰＲＩＤＥ』での目標はヘビー級王者。ミドルも欲しいけどね（ニッコリ）



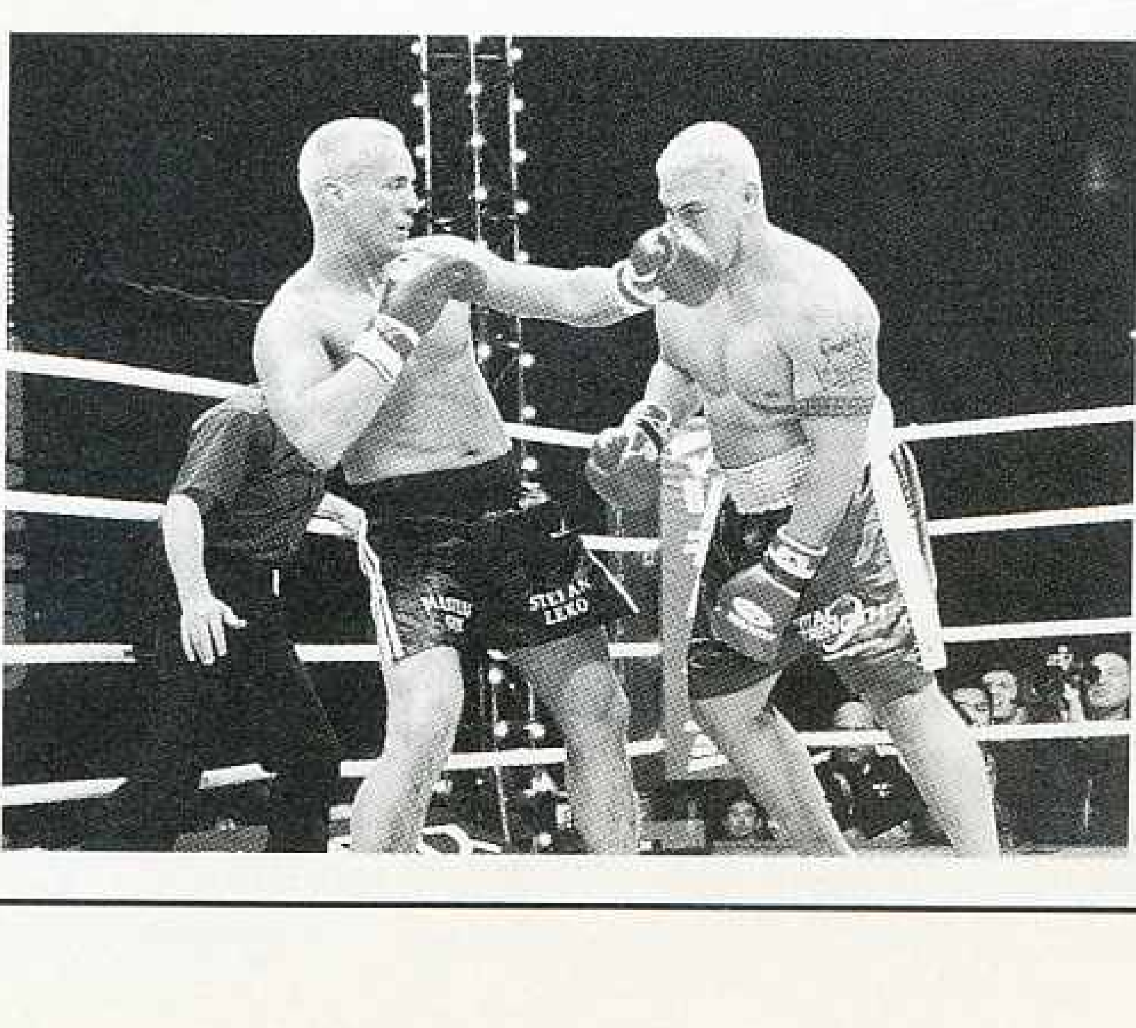


ＧＰ第６試合でミルコがランデルマンに敗れ場内が騒然とする中、リングに登場したのがハント。「私はＫ―１で王者になったので今度はＭＭＡの王者を目指す」と言うと、ハントは客席に向かって「私はどのリングを選ぶべきだろう？」とホーガンポーズ。もちろんハントは「『PRIDE』で闘いたい」とアピール。対戦相手は誰だ!?

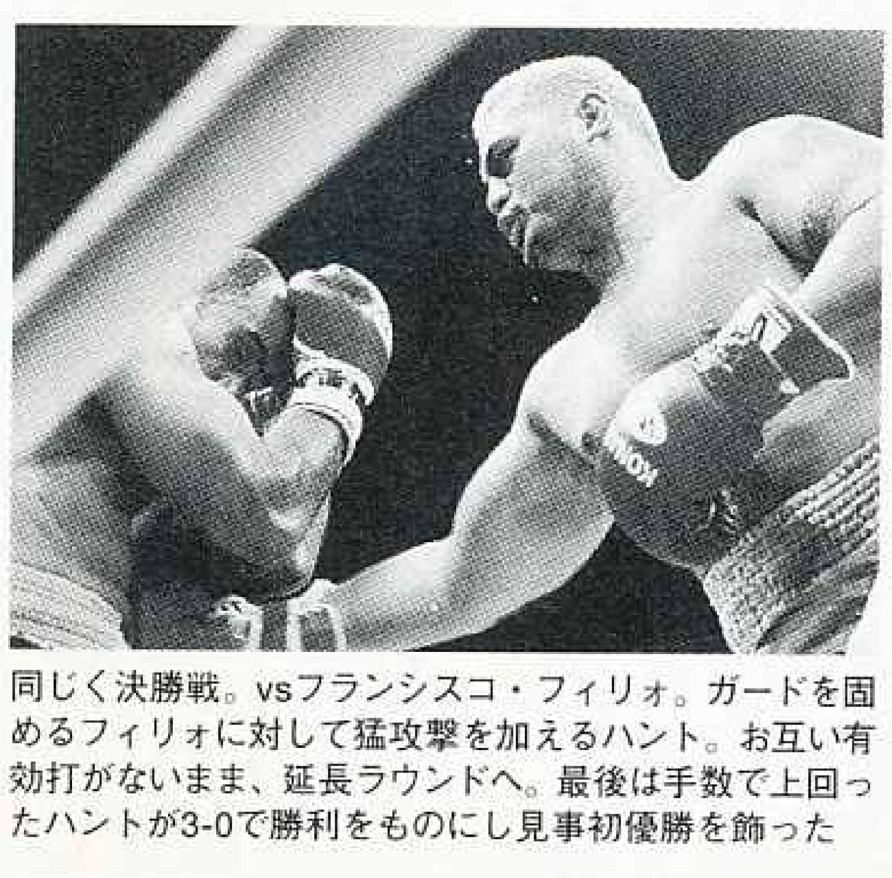
Hunts's Bout History



K-1 WORLD GP 2001 決勝大会（2001/12/8　東京ドーム）第一回戦、vsジェロム・レ・バンナ。バンナの猛攻を凌ぎきったハントは、バンナの顔面に集中砲火。まさかの優勝候補のＫＯ負けに会場は騒然とした。



同じく準決勝。vsステファン・レコ。レコのパンチが当たるものの、異常な打たれ強さでダウンを許さないハント。バンナを破った波に乗り、剛腕パンチを振り回しレコから2度のダウンを奪った。ハントは大差での判定勝利で決勝進出!!



同じく決勝戦。vsフランシスコ・フィリォ。ガードを固めるフィリォに対して猛攻撃を加えるハント。お互い有効打がないまま、延長ラウンドへ。最後は手数で上回ったハントが3-0で勝利をものにし見事初優勝を飾った

身に付けなきゃ話にならないから。

——頑張ってください。いまは第一にグラウンド技術を身に付けたいと思ってるんですか？

ハント もちろん！ 打撃に関しては問題ないだろ？ だってオレはK—1チャンピオンにもなってるんだからな。

——はい、その通りです。

ハント まず最初は寝技の防御方法を学ばなきゃいけない。腕十字を極められない方法、他の関節技に関しても、なるべく受けないように、また掛けられた時にどう対処するか。そういうディフェンス方法を学ばなければいけないと思う。

——まずは、そこからですよね。

ハント ぶっちゃけ、最初は寝技なんて簡単にマスターできるだろうと思ってたんだ。でもビデオを見たり、実際昨日の試合を見た時に、これは難しいなと思ったんだ。ちょっと甘く見てたなって感じたよ。

——デビュー前に気づいて良かったですね（笑）。

ハント そういうことだな（笑）。

——ちなみに、柔術を8時間学んで、現時点で何か得意技はできましたか？

ハント 得意なのはアームバー！

——ほぉ！ 他には何かありますか？

ハント 肩固めなんかも凄くいいね。あとはそうだなぁ？ トライアングル（三角絞め）とかもいいと思うし、まあこれから頑張ってマスターするよ。

——あ、願望ですか（笑）。一部ではハントさんのことを「怠け者」って言う人もいますけど、そんなことはないんですよね？

ハント ガッハッハッハッ！ どこの誰がそんなこと言ってるんだ？（笑）。

——どこの誰かは忘れましたけど、以前から「大金持ちになって利子だけで暮らしたい」とか言ってたじゃないですか？（笑）。

ハント それは、あくまでも理想！ ちゃんとトレーニングはしてるよ。

——それなら安心です（笑）。ちなみに、いま『PRIDE』をやっているDSEでは『ハッスル』というプロレスのイベントもやってるんですが、ハントさんはプロレスに興味はありますか？

ハント 現時点では総合格闘技にしか頭が回らないんで、特に考えてないなぁ。

——将来的なステップとしてプロレスっていうのも選択肢にはあるんですか？

ハント プロレスも特に嫌いってわけじゃないし、時間があればテレビで見たりもするけどね。WWEでいえば、ロックの試合とか好きで見てたし、あと女子プロもたまに見たりするよ（笑）。

——女子プロも見てるんですか（笑）。

ハント たまにだけどな。でもプロレスも難しそうだし、すぐには無理だと思う。

——まずは総合ですね。そういえばK—1GPでの優勝賞金で両親に家を買ってあげたって聞きましたけど。

ハント そうなんだ。自分の家も欲しいんだけど、いまはそんな金はない（笑）。

——アハハハ！ あと、K—1GPで優勝した時、副賞として世界一周旅行がプレゼントされてましたが、旅行に忙しくて試合や練習から遠ざかっているんじゃないかって噂も出てたんですけど？

ハント ガッハッハッハッ！ たしかに旅行はしてたけど、その間も、しっかりトレーニングはしてたよ。しかし、オレって、ろくな噂が出てないんだな（笑）。

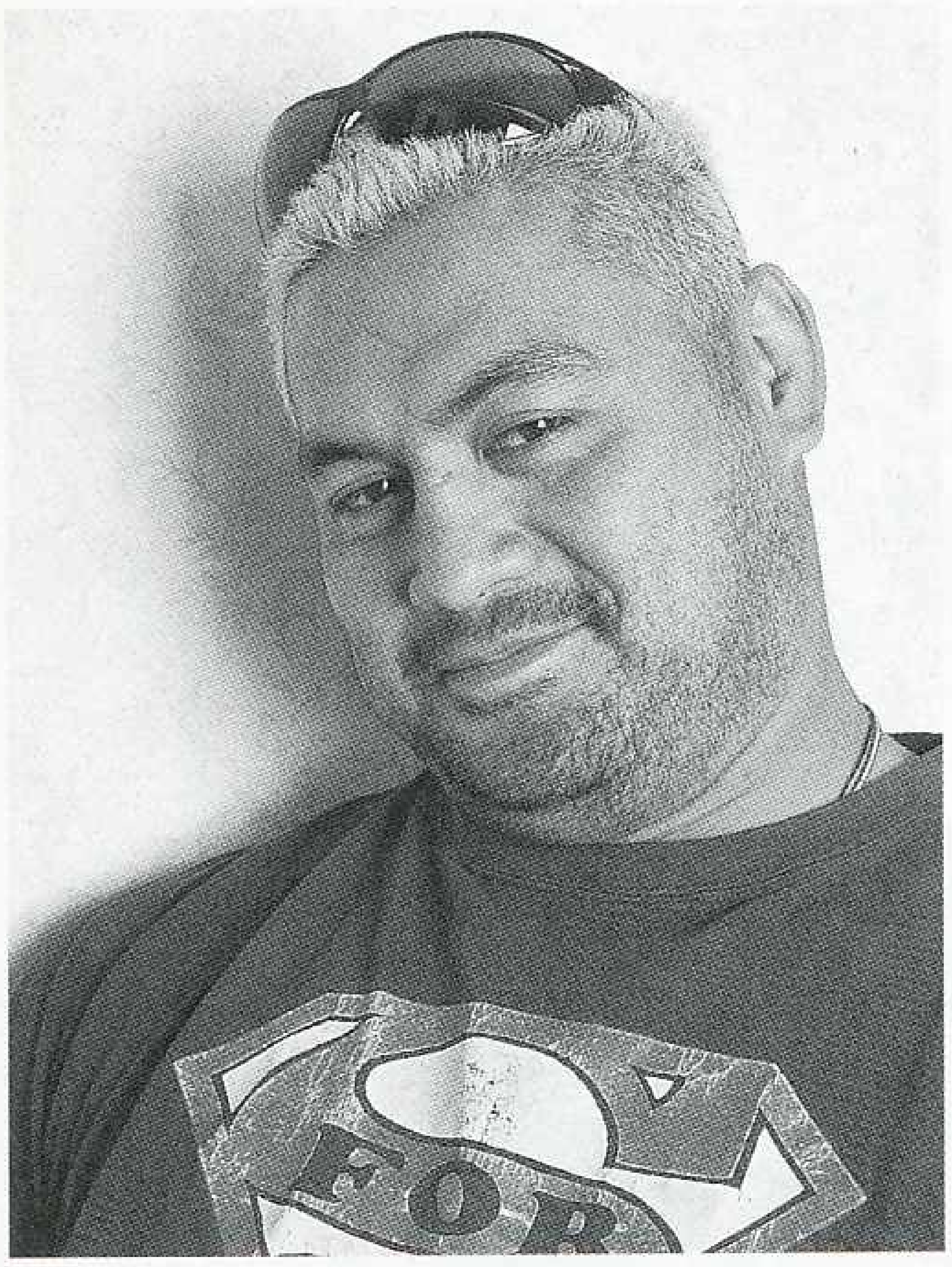
——いやいや、そんなことはないです（笑）。

ハント ちゃんとトレーニングはしてるんで心配しないでくれよ。6月にまた日本に来るから、期待してくれてかまわないよ。誰が相手でも俺のパンチでブッ飛ばしてやるさ！ まあチャンスがあったらアームバーでも見せてやるよ。ガッハッハッハッ！

——相手はまだ決まってないですけど、ハントさんの『PRIDE』デビュー戦、楽しみにしてますので頑張ってください！

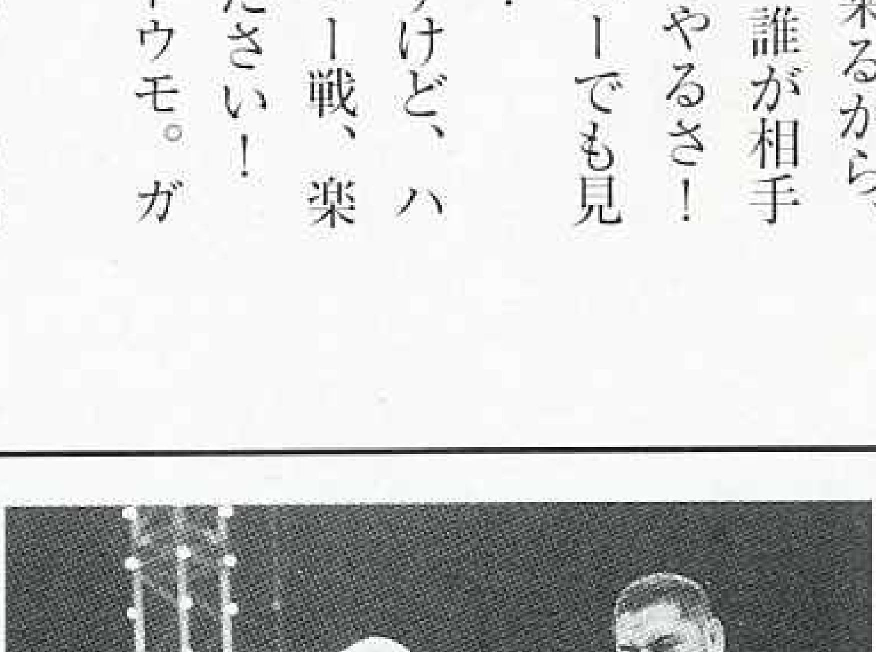
ハント （日本語で）ドウモ、ドウモ。ガンバリマス！

【PRIDE GP開幕戦」翌日、都内にて収録】

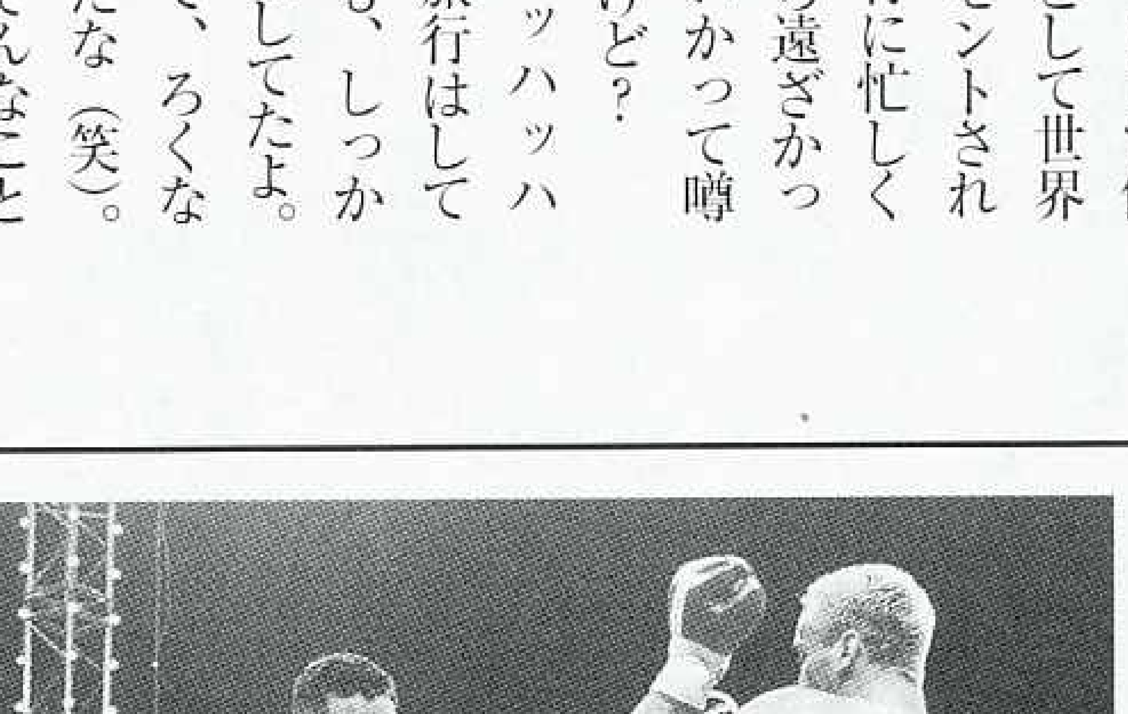


Mark Hunt

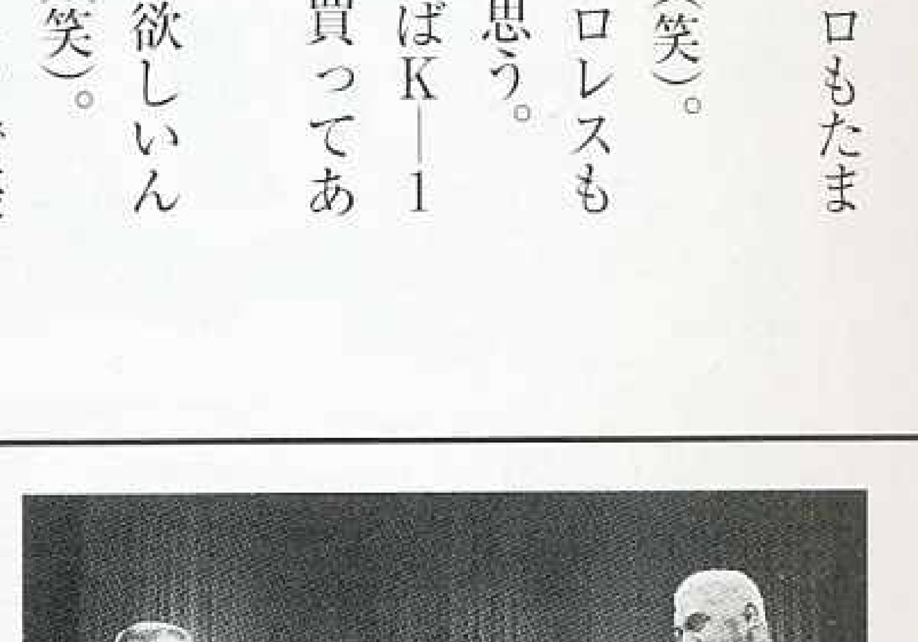
まーく・はんと■1974/3/23　ニュージーランド出身。同じサモア人のレイ・セフォーとのノーガードのド突き合いで一気に注目を集める。K-1 WORLD GP 2001決勝大会の一回戦では、優勝候補のジェロム・レ・バンナをKO葬。ステファン・レコ、フランシスコ・フィリオを破り初優勝を果たす。2004年、主戦場をK-1から『PRIDE』に移し、6月20日の『PRIDE・GP』のワンマッチで総合格闘技デビュー戦を迎える。178cm、127kg



同じく準決勝。レコ戦で左足を痛めてしまったハント。パンチの打ち合いに付き合わないバンナのローキックの餌食になり、ダウンを喫してしまう。ハントは終了間際に右フックでダウンを奪うものの判定は覆らず。



K-1 WORLD GP 2002決勝大会（2002/12/7 東京ドーム）第一回戦。レコにとっては1年越しのリベンジマッチ。しかしハイキックやバックブローも繰り出し好調のハントは、レコを寄せ付けず、左フックでKO勝利！



K-1 WORLD GP 2002（2002/3/3 名古屋）総合ルールで藤田と永田を破り、高田を圧倒したミルコ。一方、前回のK-1 JAPANで中迫に生涯初のダウンを喫されたハント。この日も3Rにダウンを喫し判定負け。

［徹底検証レポート］

K-1 VS タイソン陣営 仁義なき契約闘争の真実

なぜタイソンの相手は勝手に発表されたのか？

文／タダシ☆タナカ

K－1がついにやってくれた。あのマイク・タイソンとついに試合出場の正式契約を結び、7月31日（現地時間）、いよいよK－1のリングに登場することが決定したという。タイソンと言えば、これまでアントニオ猪木らが何度も招聘を口にしながら実現には至らなかったが、今回はTBSが「Dynamite！」名義で翌日の放送枠を確保していることからも、今度こそ信憑性については確度が高いことは間違いない。猪木vsアリ戦以来の世紀の一戦へ向け、大きな前進と言っていいだろう。

ところが喜んだのもつかの間、AP通信が現地時間4月29日、「タイソンの相手がケビン・マクブライド（アイルランド）に決定した」と報道したからたまらない。このタイソン側からの一方的かつ勝手な発表の裏になにがあったのか、そこを検証するのが今回のレポートである。

このマクブライド、WBCのランカーとはいえギリギリの30位だし、米国のマスコミではジョバー（負け役）とのレッテルを貼られている選手だ。しかも、もちろんルールは国際式ボクシングルール。タイソンのK－1ルール挑戦、もしくはK－1ファイターとの対戦を期待していた日本のファンは大きな肩すかしを食う恰好となった。もっともK－1側はすぐさまこの発表を否定。再度、交渉を進めているようなので、この〆切時点ではサップに落ち着く逆転劇を期待するしかないが、どうしてこうなってしまったのだろうか？

どうやらファイト契約に一枚も二枚も上手のタイソン陣営が、契約書にタイソン側に対戦相手を選ばせる条項を認めさせたことからトラブルがあったと考えるべきだろう。覚えておられる読者も多いと思うが、タイソンは最初から「Marquis of Queensbury（ボクシング・ルール）ならやってやる」としか発言してこなかった。トレーナーのフレディー・ローチと、昨年2月以来のコンビを組むことからも、本人はキックをやるつもりはないわけだ。

それでもK－1側はルールはボクシングルールになっても、K－1主催である以上、サップやジェロム・レ・バンナの候補から選択すると常識論で安易に考えていたふしがある。しかし、今回の一方的なマクブライド戦発表で、K－1ファイターとの試合すら、最初からやるつもりがなかったことがわかってしまった。逆に言えば、タイソン側はK－1主催といえどもボクサーを相手に国際式ボクシングルールでなければならない理由があるということだ。

K・1の前に立ちはだかるボクシング業界からの反発

まず、注目したいのは、タイソン陣営がボクシング界の第一線への復帰を考えていることだ。しかし、WBCの年次総会の席上ではK－1参戦へ動きだしたタイソンに対して「格闘技の興行に出場する話が進んでいるタイソンを世界ランクから外すべきではないか」との声が上がっていた。それどころか、4月19日付けのスレイマン会長のK－1に対する罵倒はすさまじかった。なにしろ「あんな野蛮なバーのケンカ見世物など、野人の時代に戻す日本はおかしい。犯罪的である」「暴力を見たいだけのスペクタクルであって、スポーツではない」「アマチュアか金目当てのストリートファイターが出るのがK－1」と、最大限にコキ下ろしたのだ。

これは、もしK－1ルールの試合をしたら、ボクシング界から切られることを意味する。タイソンには、12月にもプロ無敗のWBC3位ジョー・メシとの対戦が浮上。これをクリアすれば、来春にWBA王者ジョン・ルイス、WBC王者ビタリ・クリチコ（ウクライナ）への挑戦が開けてくる。ところがキックルールをやればそれらすべてがパーになるのだ。だからマクブライド戦が逆提案されたのである。

タイソンは昨年夏に破産宣告をし、ドン・キング＝プロモーターを訴えている。また長年アドバイザーを務めてきたニューヨークの敏腕白人弁護士シャーリー・フィンケルは過去の未払いがあったとタイソンを訴えていた。しかし、日本人はこれらの訴訟合戦に惑わされてはいけない。事情通によれば彼らは皆がグルだという。

事実、フィンケルはタイソンのマネージャーに復帰。結局はマスコミが派手に書き立てているだけで、自分たちの利益を守ることしか考えてないというわけだ。

北米では極めて低い認知度
サップにはブーイングの洗礼

そしてもう一つ忘れてはならないのは、K-1がテレビの高視聴率を連発し、国民的スポーツとなっている日本と違い、北米では、ほんの一部のマニアを除いてほとんど知られていないという現実だ。

谷川プロデューサーは、タイソンが初めて来場した昨年8月のラスベガス大会のPPVが「少なくとも8万世帯はいく」と語っていたが、それは事実ではない。なぜなら、K-1の北米でのPPVは、スポーツ局ESPNで放映されているが、3万件以下の購買実績は掲載しないケーブルTV業界紙にその数が掲載されたのは、「アンディ・フグ、ラスベガス登場」（4万件）の一度だけだからだ。まれに3万件以上の番組が掲載されない例外はあるらしいのだが、それにしてもアベレージは3万件以下だということは間違いないだろう。内部情報によればインディープロレス団体NWA-TNAの6500世帯を下回った回があったとの情報も流れている。

だから、一部スポーツ紙では、7・31『Dynamite!』がPPV放送された場合「（タイソンの）過去の（PPV）実績から考えれば最低でも60万件は突破すると見られる。契約では売り上げの半分もの額がタイソンに入ることになっており、すべてを合わせると（ファイトマネーは）30億円にも達する見通し」などと書いてあるが、引退したレノックス・ルイスとやるなら60万件は夢ではないにせよ、なにか巨大な勘違いをしているとしか思えない。

PPV収益をあてにするなら、北米では意味のないサップを始めとしたK-1ファイターではなく、ボクサー相手にボクシング公式戦を望むのは当然なのである。ましてや、PPV収益の半分をタイソン陣営が持っていくというなら、なおさらだろう。北米では、WWEの「レッスルマニア20周年大会」が購買数80万世帯を記録したように、プロレス人気は根強くとも、老舗の総合格闘技イベントUFCが3万世帯そこそこであるように、ボクシング以外の格闘技は小宇宙のマイナー・ビジネスに甘んじている現状があるのだ。

しかも、K-1は目玉であるはずのサップが、4・30ラスベガスで大ブーイングを浴びていたことでもわかるように、マニアから総スカンを食っているという現実がある。実際にPPVを購入する格闘技マニアが目にするインターネットでは、前回のキモ戦も今回のトニー・グランビル秒殺劇も、ハッキリと「作りの試合である」と断言しているサイトが少なくない（これはファンによる「掲示板」への書き込みではなく、日本における雑誌の役目をはたしているサイトである）。K-1とサップの名誉のために、私自身はそう判定してないし、それは事実と反することを書き残しておくが、現地感覚ではサップが信用されていない実態を紹介しないことには、今回の北米側との認識のズレは説明できないだろう。

それに今回のラスベガス大会の北米用の宣伝CMは、「ボクサー対キックボクサー」がテーマになっており、目玉はシャノン・ブリッグスとフランソワ・ボタの参戦であった。だからモハメド・アリも呼ばれたのである。そのCMにはサップが一切出てこないことでも憶測を呼んでいた。ところがブリッグスから急遽替わってゲーリー・グッドリッジと対戦したのはTOAだ。マニアが怒ったことは言うまでもない。

昨年夏以降こそ、『ニューヨーク・タイムズ』以下（一部は好意的ではなかったにせよ）各有力紙が大会を取り上げてくれたが、今回、アリとタイソンの夢のツーショットが実現したにもかかわらず、無視された形になってしまった裏には、このような事情も隠されている。

やはり簡単にはいかない
北米PPV放映事情

今回の7・31大会は、K-1側の発表によると、ケーブルTV局『ショータイム』と『HBO』でのPPV放送が予定されているというが、収益をあてにするなら、PPVひとつとっても簡単にはいかないだろう。

まず『ショータイム』だが、確かにタイソン戦は同局が優先的に放映する権利がある。ただし、このテレビ局は北米で一般的なPPVではなく、日本のWOWOWと同じような通称プレミアム・チャンネルでしかない。言い方をかえれば、もはや個別カードでは巨額の収益が見込めないため、耳噛み男の暴走を見たいという大衆の覗き見嗜好に会わせて、現地ではタイソンのB級試合は厳密にはPPVにすら近年はなってなかった。地上波のような無料放送ではないが、日本と違ってかなり広範囲に普及しているケーブルTVで楽しめたのだ。

「ハルク・ホーガンと猪木が組んでHBOがプロレス興行を中継する」などという噂が過去に流れたこともあるHBOも、現地に長く暮らしていた私にはまゆつばに聞こえてしまう。マーク・ケアーの栄光と転落を描いたドキュメンタリー映画の秀作『スマッシング・マシーン』を放送した実績はあるものの、あくまでハリウッド新作映画中心の番組編成で、ファイト中継には注力してない局だからだ。

HBOもすでに月額料金を払わされているプレミアム・チャンネルだから、さらに別枠で生中継のみPPVにすることは可能だし、実際そうしてきたものの、わずか一日後には通常放送してしまうのがお約束。よほどにライヴで見たいマニアを除いては、HBOが手がける場合は件数で大きな世帯を確保するのは難しい。

ただし、タイソンは昨年2月のノンタイトル戦に1Rで楽勝して以来リングから遠ざかっている。世間的な興味がやや増していることはプラスだ。そこで、「全世界でPPV中継したい」と目論んでいるなら、K-1戦士相手では肝心の北米での利益は見込めない」との、タイソン側の主張が正論になってしまったのである。

はたして、K-1はこの悪条件の中、海千山千のタイソン陣営を相手に、対戦相手をひっくり返すことができるだろうか？

なにしろ相手は、〝ドタキャン〟騒動を世界中でやってきた男であり、強い相手だとコンディションを理由にキャンセルをちらつかせ、弱い相手だとギャラでゴネだすという、興行をするには極めて難しい問題児である。K-1はすでに万が一に備えて保険に入ったというが、非常に賢明な措置と言える。

世紀の一戦「タイソンvsK-1」は試合当日まで目が離せない。



井上流 5・22 *ROMANEX* 見どころ解説

『ROMANEX』と称するマジシャンがやってきた！

井上義啓



鬼のような形相だった。腕殺しを仕掛けられた野獣の目がドス黒く歪んだ。その瞬間だった。ビーストは104キロの男を腕に絡ませたままググーッと持ち上げた。

ドサーッ。鈍い音がしてリングが軋んだ。104キロは、もろに背中をマットに叩きつけられて白目をむいた。

〈5・22に、こんなチンケなシーンはない！〉

猪木を腕にからませたまま持ち上げた。そのままコーナーに運んだ男は、何を思ってか、コーナーポールに、猪木をチョコンと乗せた。男の目が笑った。とがった野獣の目とは対照的な、その目が……。

〈この差なんだ。達人とド素人の……。だから、ゴッチは取り決めを破って勝ち、サップは勝たせてもらった……〉

答えが先にあって、数式と図形が後から割り込んでくる三次方程式の解析幾何。

昭和47年10月10日。大阪府立体育会館で見た逆算的な風景が平板なビーストボムの一次方程式を消した。なぜ？　その理由は？

〈全く逆の現象が起こるのだ。5・22ではプロレスの公園で負けた男が、別人のように生き返って、あの日のゴッチとなる〉

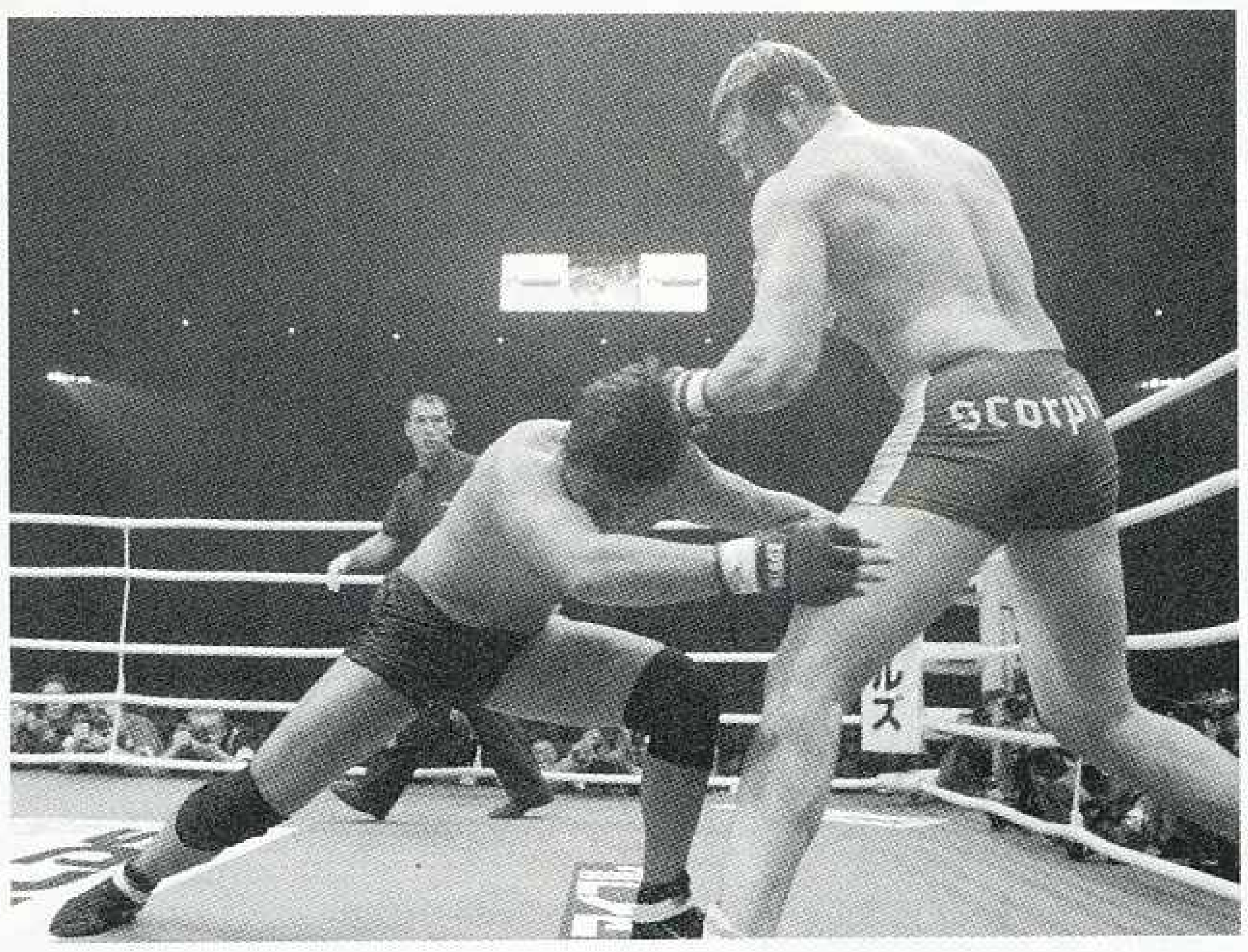
不思議な気がした。中邑がサップに叩きつけられるまでは、『アレクセイ・イグナショフの進化論』ばかり読み耽っていた。それがどうだ。イグナショフの写真が中邑にすり替わっている。あわてて、本の表題に目をやった。『中邑真輔のプロレス原点回帰』。

〈5・22はプロレスなのだ！　K・1MMAルールというのは、ガチンコに持っていくための方便に過ぎなかったのだ。サップがさっきリング上で吠えた「K・1がキング・オブ・スポーツだ！」のプロレス的裏返しだ。中邑がそれを5・22でやろうとしている。いや、必ず、やってみせる。それが今の「K・1がキング・オブ・スポーツだ！」の宇宙経営的な真実だ〉

サップのハイキックなどはどこにもない。どこにも見あたらない。探したって無駄だ。5・22でのサップの風景は、あの〝泣き虫っ子ボブ〟の原点回帰だ。藤田のローキック、ヒィーヒィーと泣くサップ。藤田のボディブロー。脇腹を押さえて泣き出さんばかりの野獣。

〈藤田だってプロレスの技を使う。〝平成のデルフィンたち〟は初めて知るだろう。K・1MMAルールってプロレスのことだったんだと……。プロレスの技なのに、いつか使われなくなってしまった殺し技。そのホコリをパタパタと手ではたいて、フーッと息を吹きかける。そこからのぞく顔は誰だ？　ゴッチだ、テーズだ、猪木だ。それだけのことだ。蝶野が編み出した技だとデルフィンたちは思っているが、あのSTFなんか、モノクロのフィルムの中で何十回もテーズがやってみせている。第一、坂口が、あの技をテーズに食らっている……〉

『PRIDE武士道』は、K・1が仕掛けようとしているマジックに気がつかねばならない。いつもの『PRIDE』の風景。「誰が最強か！」――このウタイ文句で興行が引っ張っていけるウチはいいが、エメリヤーエンコ・ヒョードルがポカッと負けたりすると、いっぺんに『PRIDE』のリングに秋風が吹く。



それを教えたのが、4・25のミルコだった。ドンキーコングの左フックがラッキーでミルコに当たったんじゃない。黒い秋風の贈り主が、「よい子の皆さん、わかりましたね」と、ハリーポッターの魔法の杖をカラカラと振ってみせたのだ。

〈K・1の風景も5・22で違う顔を覗かせる。ゲーッと驚く、その夜の榊原代表。明日に迫った『武士道』の修正なんか効かない。その意味では、まだ、欠場したのがシウバでノゲイラ兄でなかったのがラッキーだった。逆に言えば、美濃輪だの中村和裕だのが、プロレスめいた風景で、どこまで前夜のK・1新ルールに対抗してみせるかということになる。ミルコの超の字のつく強い勝ち方。ハイキック一発で相手を地獄に送り込むという……。それが力のない弱いものであれば、『武士道』が『ROMANEX』に負けたのではなく、古い『PRIDE』の風景が新しいK・1の風に押し流されたってことになる〉

5・22ではプロレスの公園で負けた男が
別人のように生き返って、あの日のゴッチになる……

マイク・タイソンが、これまでの百貨店経営を叩き壊す。だから、大阪・天満橋の松坂屋は80年の時間を閉じた。年金未払い問題で、福田官房長官が閣僚の罪まで引っ被って辞任したのも、政党政治という古くさい体質に気づいていない霞ヶ関のお笑い番組。

〈K・1はこうで、『PRIDE』はこうだ。この安心感にどっぷり浸っているヒマはない。なぜなら、これまでの風景をK・1がドヒャーッと変えてしまおうと企んでいるからだ。マーク・ハントがどっちに転ぼうが、そんなもの、問題じゃない。3強がどんな新しい風景を作り出すか。それをにらんでいる魔術師が『ROMANEX』だということを榊原さん、お忘れなく……〉

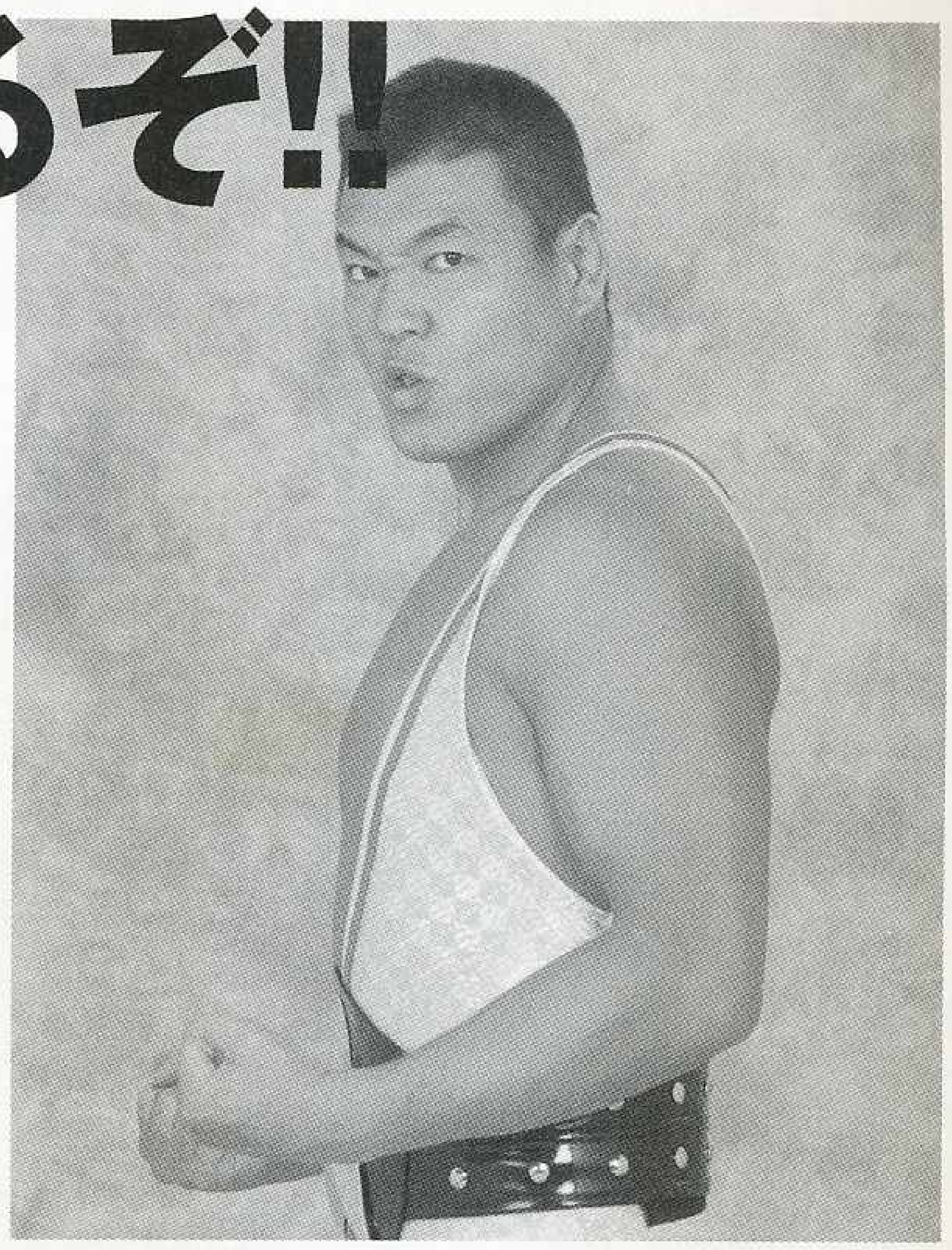
CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

2004 NO.74

Main-Event

いつ何時、どこでもハッスルするぞ!!


※吉田豪「書評の星座PART2」は都合によりお休みですよ。

表紙写真／山口比佐夫

4・25『PRIDE・GP』5・3新日本ドーム大検証!!
海より大きな夢があるリングはさて、どこでしょう？

戦慄の異種格闘技戦とは何か？

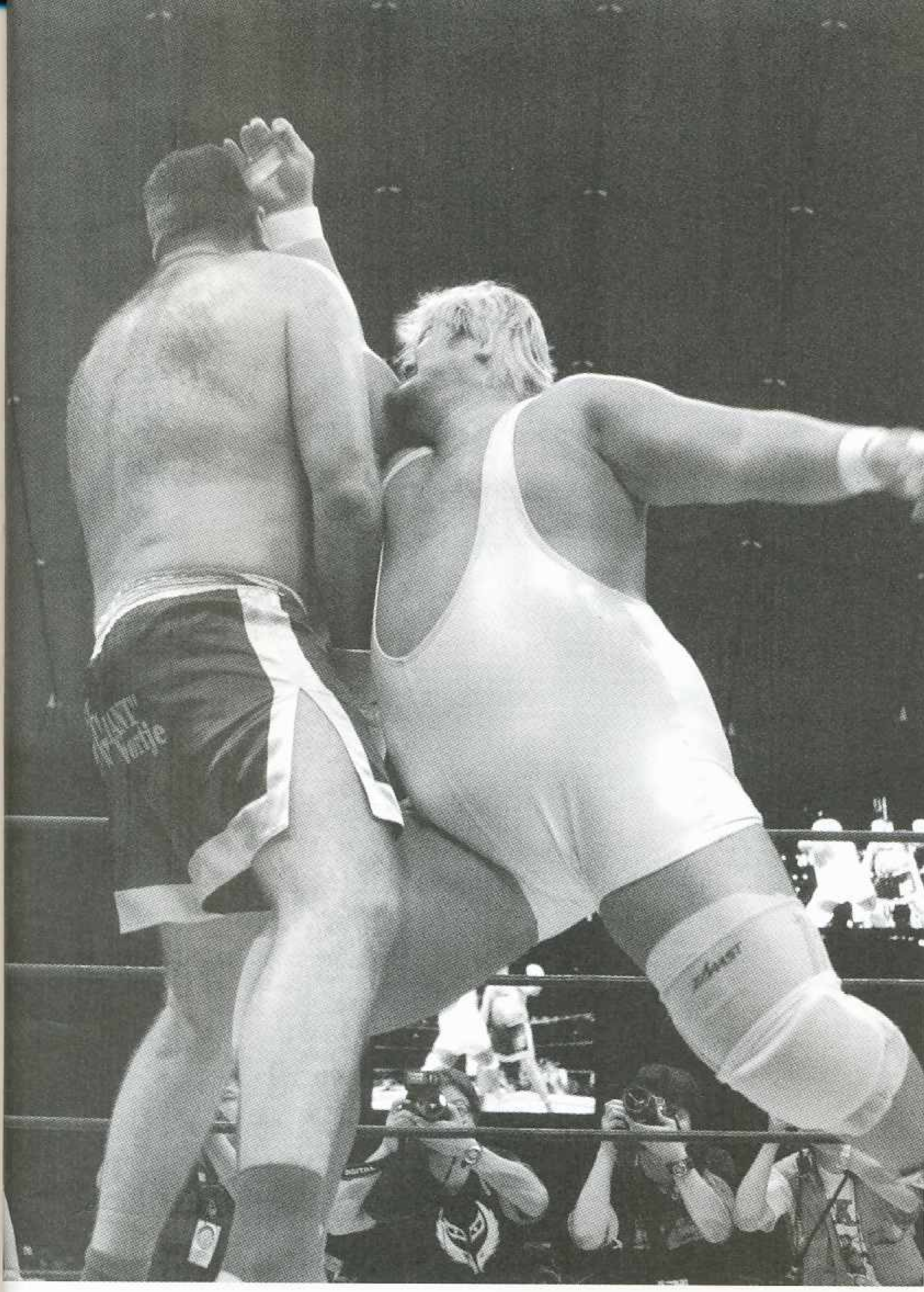


吉江、K-1に勝つ！

快挙!!

小川もよくやった!!

構成／ジャン斎藤　designed by Tani-Yan [Two three]



なんとK-1ファイターに吉江の裏拳が炸裂！　新日本が望んでいた内容とはとても思えないが、この馬鹿馬鹿しさはたいへん貴重ではある。この姿勢でずっと行け！

山口　ハッスル、ハッスル!!（腰を激しく振りながら）。実にいい感じの盛り上がりだったね、4・25『PRIDE・GP』は！

ガンツ　ホント凄かったですね！　こんな素晴らしい大会なのに、ターザン（山本）は例によって前半は熟睡してたらしいですけど（笑）。

山口　でもGP後すぐにDSEに「ありがとう！　好感度バッグン」とかなんとか、売れない女子高生みたいなFAXを送ってきたらしいよ。いいよね、なんの責任も持たないオヤジは脳天気で（笑）。

ガンツ　さらに「前半戦熟睡してたから、後半がじっくり見れたんだよ～」とか言ってますからね。でも、見てないにも関わらず、誰かから聞いたのか「ハリトノフは大穴である」とか自分のHPに書いてますからね。

異種格闘技戦とは何か

山口　ホントに最近のマスコミの荒廃ぶり、退廃ぶりは拍車がかかってるね。まぁターザンはもはやマスコミでもなんでもない、裏街道の〝活字芸者〟だから好きにやればいいけどさ。で、話をムリヤリ戻すと、『週刊プロレス』から『週刊ベースボール』に左遷……じゃなくて、栄転した佐藤元編集長の送別会並にGPは盛り上がってたね（笑）。

ジャン　……先月も佐藤さんネタで突っ込んでた記憶がありますけど、盛り上がりの単位とスケールが違いますよ！　そもそも、会長は佐藤さんの送別会に行かれたんですか？

山口　は？　呼ばれるわけないだろ、そんなもん。例え呼ばれても行かないし（笑）。

ガンツ　ボクは『週プロ』の元プレッシャー会員として顔を出しましたけど、佐藤さんの栄転理由が判明しましたよ。佐藤さん曰く、『週プロ』の売り上げ低下のテコ入れとして進んでいたターザンのベースボール復帰計画を、佐藤さんが編集部の総意として大反対したら「じゃあ、キミが売り上げ低下の責任を取れ！」ってことで、飛ばされたらしいです（笑）。

山口　ガハハハ！　身を持ってターザン復帰を阻止したわけだ。

ガンツ　ターザンの弟子らしく「俺は刺し違えたわけですよぉぉぉ！」って炎上してました（笑）。

山口　しかし誰も知りたがらない、どうでもいい師弟話だなぁ。

ジャン　ホントにそうですねぇ……って、会長（山口日昇のアダ名）が話を振ったんじゃないですか！　とにかく、GPの熱気は凄かったですよね。試合前から観客の期待感は尋常じゃなかったですよ。

ガンツ　というか、客を入れ過ぎ（笑）。舞台装置は選手通路にしかなくて、あとはすべて客席なんだから。

ジャン　あの広い広いスタジアムバージョンのさいたまアリーナがギッシリ埋まったわけですからね。よくよく考えてみると、K‐1でも撤退したあのスタジアムバージョンで1・4『ハッスル1』をやったのは、ある意味で怖いもの知らずですよねぇ。くわばらくわばら。

山口　今回のオーちゃんのGP……いや、〝ハッスル査定試合〟出陣もそうだけど、思い起こせば『ハッスル』は大博打ばっかり打ってるね（笑）。でも「利害を超越して　誰もできないこと誰もやらないことを　夢としてそれに挑戦する」というのがオーちゃんの師匠であるアントン総帥のロマンなんだから、それでいいんじゃないの？　あの一発目のスタジアム・バージョン進出は「いつかはこの大きな山を登りきろう」という意気込みの現れだと思うよ。ほら、『PRIDE』の初期だって、会場は正直言ってガラガラだったでしょ？

ガンツ　そうすると今回のGPは、内容的にもよくぞここまで登りつめたっていうイベントしたよね。全試合オール一本決着でトータル試合時間は30分ちょっと。にも関わらず、どの試合も濃密な内容。ミルコが敗れるというサプライズがあったけど、ノゲイラやヒョードルは圧倒的な強さ、レベルの高い試合を見せたんですから。

ジャン　ヒョードルは強すぎですよ。「ヒョードルには上になったら勝てるかも」という唯一の突破口というか、わずかな望みがあったわけだけど、レスリングの猛者のコールマンがテイクダウンには成功はしたけど、下から目にも止まらぬ鮮やかな十字で極めるんですから。しかもヒョードルは、大会前日に奥さんと遊園地でデートするぐらいの余裕もあるんですからね。

山口　どんな局面でも余裕のあるヒョードルは、いい意味でキチ●イだよな。勝利に対して、いまだに新人選手のようなモチベーションを保ち続けるノゲイラも超一流のキチ●イ。さらに今回のGPには、日本人としては珍しい超一流のキチ●イが1人いたからね（笑）。

ガンツ　いましたねえ。とにかく『ハッスル』の宣伝に99％の力を注いでいた男が（笑）。

座談会出席者

ジャン斉藤
『週刊新潮』で報じられた“パブロ猪木”こと猪木快守氏の「遺産泥棒」スキャンダルにたじろいだ、本誌ハッスル編集部員。永久電機に詳しい方、連絡してくださ～い

堀江ガンツ
本誌ハッスル現場監督。1・4は新日本ドーム（ターザン応援シート購入）、3・7はZST取材、今回5・8『ハッスル3』で『ハッスル』初取材。総統フィギュアほしい！

山口日昇
本誌ハッスル編集長。携帯サイト『紙プロHand』で1年以上更新されてなかった「鬼畜日記」がリニューアルに伴い、本人が知らぬままにコンテンツから削除。スネ気味です。

山口　（椅子から立ち上がって）スリー、ツー、ワンッ、ハッスル、ハッスル!!（腰を激しく振りながら）。とにかくオーちゃんはよくやった!!　バンザ～イ！

ガンツ　入場してきただけで観客は大・大・大声援を送ってましたからね。「小川にバーリ・トゥード（以下、VT）に出てほしい！」というファンの欲求が、いい溜めになってたんですよ。

山口　すべての面において、オーちゃんのプロ意識の高さ、熟成ぶりを見たね。だってさ、いくら打撃の練習を欠かしてなかったとはいえ、ハードパンチャーで知られるレコに打撃で挑まないでしょ？　それをパンチで倒したんだから、これまた一流のキチ●イだよ（笑）。

ガンツ　これがK‐1ルールだったら、小川がいくらパンチを練習したところで、レコ相手に通用するとは思えないんですよ。レコはVTデビュー戦だったし、こういったまさかの事態が起こるのが、総合格闘技の醍醐味でもあるんですよね。

山口　それを成し得たのは、オーちゃんのプロ意識の高さ、勝負強さ、そして実力があったからこそだと思う。だいたい、毎朝5時に起きて砂浜走って、ボクシングジムに通って、明大柔道部に出稽古しているプロレスラーなんか世界中見渡してもいないよ（笑）。

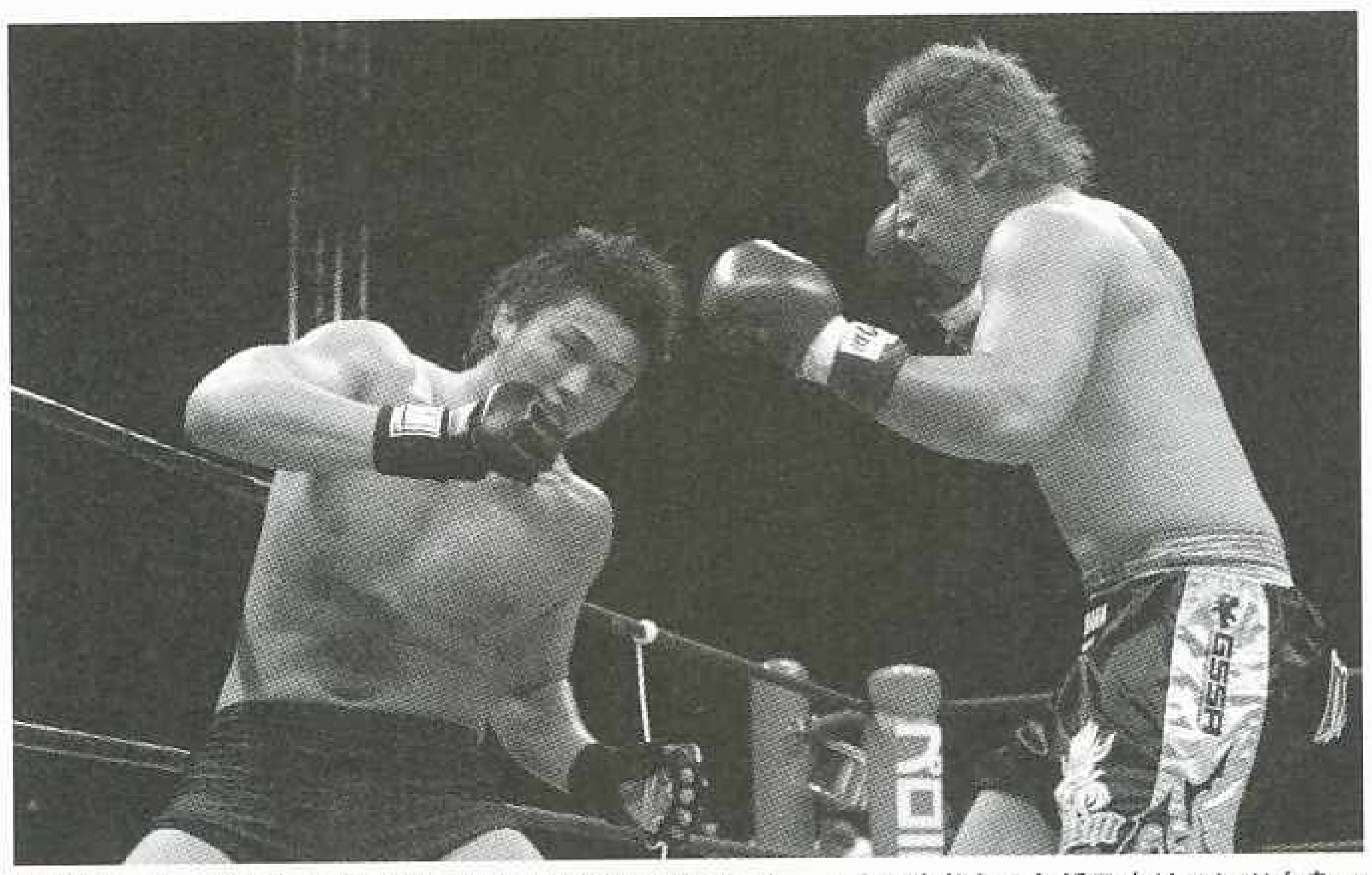
ジャン　一般的には格闘家と呼びますよね（笑）。

山口　いや、アマチュア、プロ引っくるめても、自己管理と調整に気を配ってる格闘家という意味では最上級の部類でしょう。

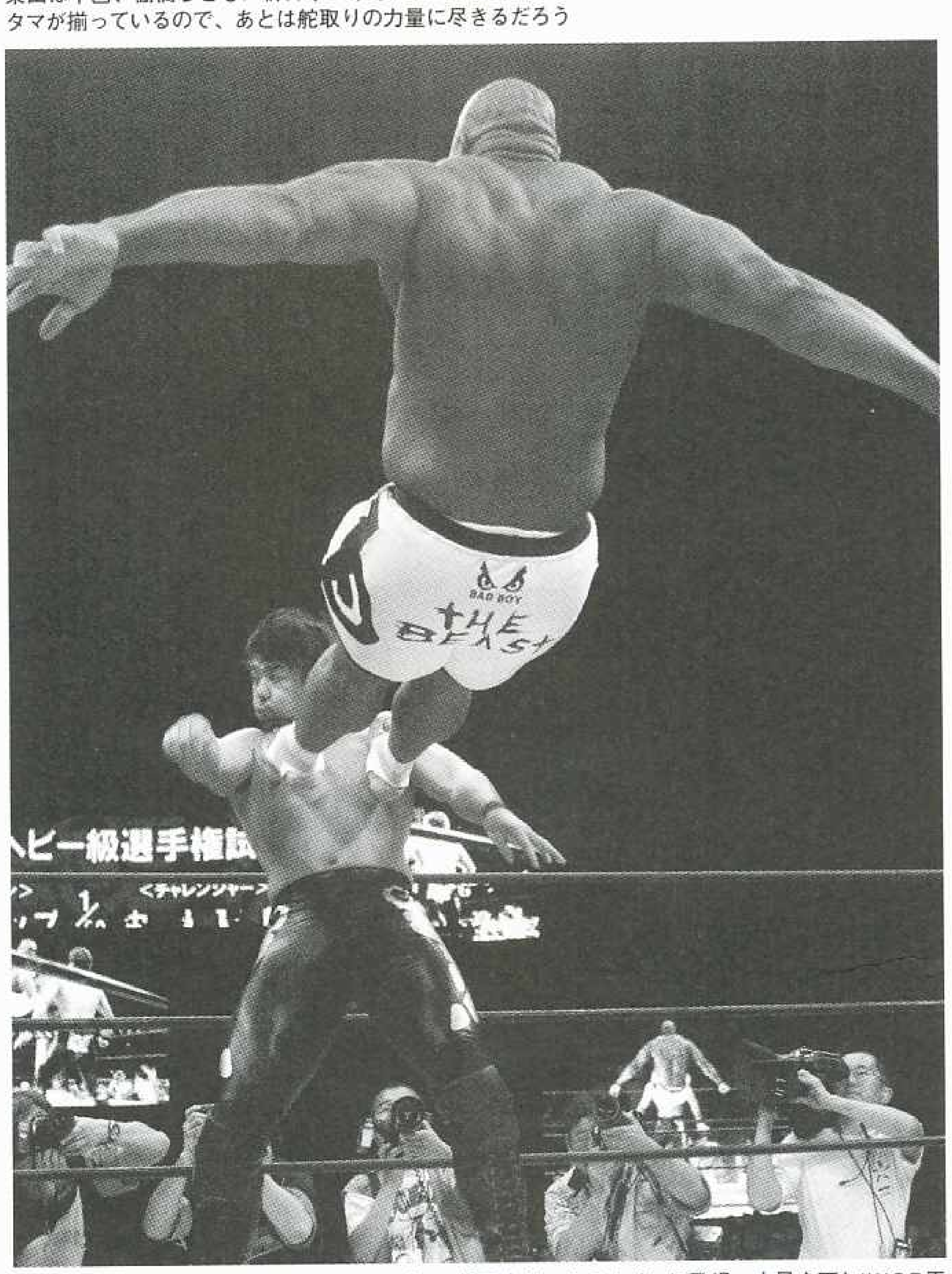
ジャン　VTに出る予定があったわけでもないのに、しっかりと練習を続けていたそのモチベーションには頭が下がりますよね。

山口　小川直也は柔道を始めてわずか3年で世界選手権を制して、全日本選手権を7回制覇、オリンピックでは銀メダルを獲った男でしょ。要は長嶋監督と同じで天才型。選手時代は練習しないっていうイメージだったその長嶋監督に対して、王さんは毎日ハンパじゃない素振りを繰り返す努力型というイメージだった。でも長嶋さんが練習してないわけがない。それを前面に打ち出さないだけでね。やっぱり「長嶋は王を含んでいる」ってことだよね。オーちゃんはあんなイメージだけども、日々の素振りを欠かさずに練習でも汗を流してるんだよ。その延長線上にレコ戦があっただけの話。VTに出るときだけ練習してるどっかのプロレスラーとは違ってさ、俺らが夢に描いてたようなプロレスラー像が、プロレスファンからの信用度は限りなく低かった小川直也にあったことが証明されたわけだよね（笑）。だからこそ、『ハッスル』のためにGPに出たきたというモチベーションとシチュエーションは理解してあげないといけない。そこはしっかりと伝えていきたいよね。どうもオーちゃんは誤解されやすいからさ。

柴田vs武蔵は“なんちゃって『真撃』”。一線を越えかねない緊張感は一切ない［ガンツ］



柴田は中邑、棚橋らとともに新日本の未来を託されている。よくよく考えると新日本はメンツも良いタマが揃っているので、あとは舵取りの力量に尽きるだろう



異常なペースで試合をこなしているサップは、新日本ドームのメインに登場。中邑を下しIWGP王座防衛に成功した。新日本ビッグマッチの切り札として継続参戦していく

レコ戦もさっそく一部のネットで「ヤオ・ガチ論議」がなされてるわけでしょ。

ガンツ　それも最初のうちだけで、あっという間に「シュートでした」で落ち着いてましたけどね。

山口　観ればわかるだろうって（笑）。

ジャン　PPVのカメラアングルだと、決定的シーンが見えづらかったそうなんですよね。

ガンツ　なので……ボクも疑って見てました（笑）。

山口　ガハハハハ！　どんなカミングアウトしてるんだよ、おまえ。まあ、風通しがよくなるから適度にカミングアウトした方がいいよ。ボクはちなみに全然フェイクだとは思いませんでした！（笑）。

ジャン　ボクは小川が『PRIDE』のリングに上がった興奮のあまり、腹の底から絶叫し続けていたのでよく見てませんでした！

山口　疑ったり興奮したり、仕事をナメてるだろ、キミたち（笑）。もっと客観的に、そしてなおかつ面白いアングルから事実を見極める目を持たなきゃいけないよ、うん。

ジャン　そういう会長もオーちゃんが勝った喜びのあまり、いろんな関係者に抱きつきまくっていたそうじゃないですか！

山口　だ、だってさ、本当に嬉しかったんだもん!!（子供のように）。

ガンツ　それほどファンも我々も熱狂した小川の勝利に対して、『週プロ』なんかは明らかにフェイクを匂わす記事になってるわけですよ。

山口　あ～、鈴木健ちゃんの記事ね（No.1203）。誤解のないように言っておくと、元Uインター取締役で、現在は日本一の焼鳥屋の主人である鈴木健さんとは別人です（笑）。

ガンツ　今回は「八百長」話が好きなファンもあっという間に消え失せて、小川の快挙にプロレスファンから格闘技ファ

ンまで、みんな乗ってるわけですよ。そんな大波に乗り遅れて、ヤオガチ論の視点で語っているのはターザンだけだと思って『週プロ』を読んだら、キャプションの書き方からして、完全にフェイクと疑ってかかってるんですからね。

山口　『週プロ』を読んでない読者に説明すると、キャプションには「右頭部にパンチが当たった模様。脳が揺れたのか⁉」と明らかにバカにした書き方してるし、「勝負が決した直後、レコのほうが先に立ち上がった」「レコはノーコメント」とか書いてあるね。

ガンツ　これは〝レコは全然ダメージがなく先に立ち上がった。レコは八百長試合をやったので、試合後は何も喋りませんでした〟ってことを言いたいんですよ。

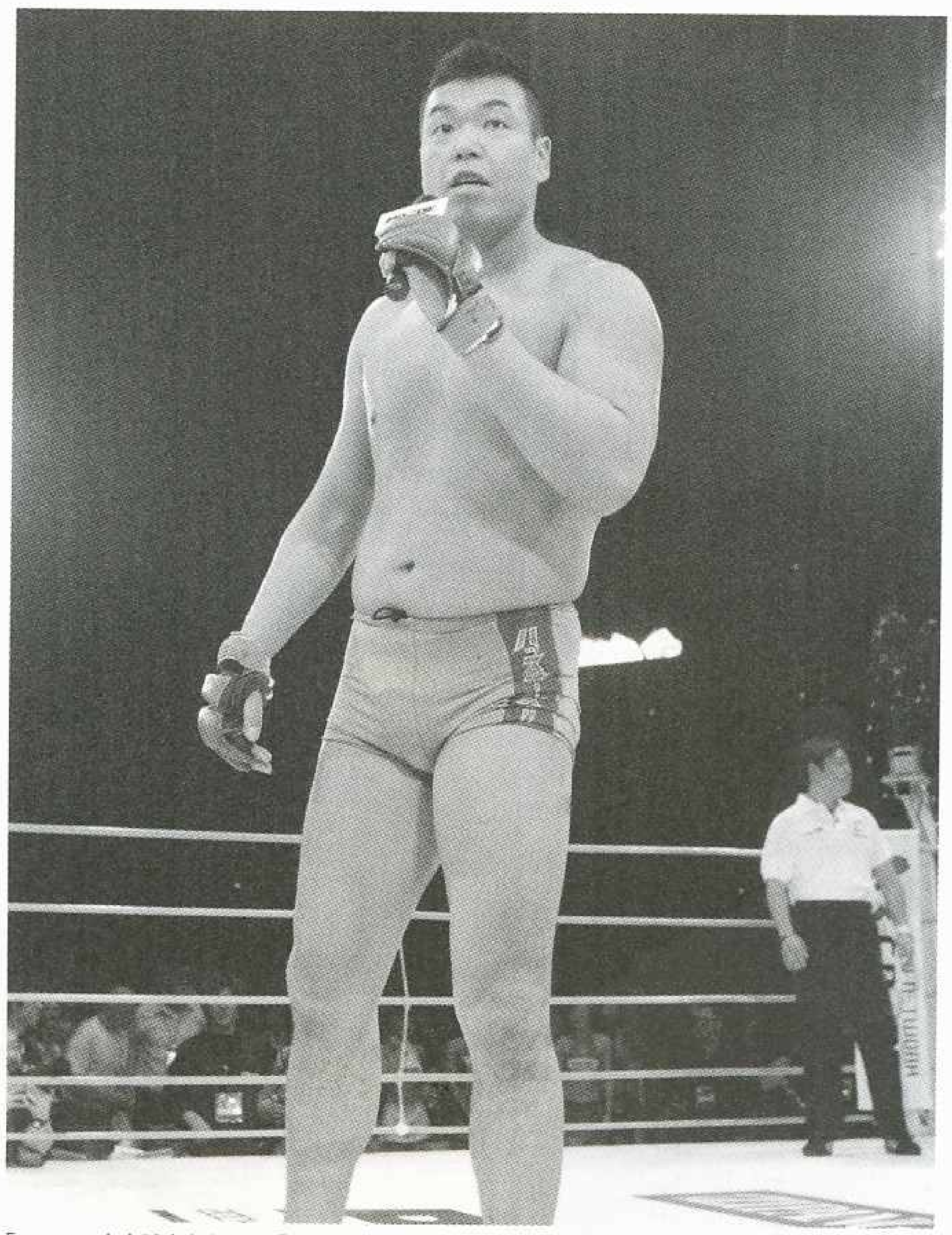
山口　ガハハハ！　決めつけすぎじゃないの、それは。

ガンツ　いや、出版の人間として手口をバラすと、なかなかストレートに書けないときはどうするかというと、本音はキャプションに書くもんなんですよ。

山口　勉強になるなぁ（笑）。それと「コールされると、レコは小川ではなくテレビカメラに向かい右手を矢を定めるかのように伸ばした」って書いてるけど、右手はしっかり小川に向けてるんだよね。こういう事実誤認も多々ある。フェイクだとこの記者が決めつけて書いてるかどうかは本人じゃないとわからない部分もあるけど、明らかに全体的に茶化してる。またこれがウィットに富んでない笑えない茶化し方なんだよね。なんだか摩訶不思議な書き方をしてるよなぁ。

ジャン　間の悪いことに、このレポートが掲載された『週プロ』は、『PRIDE』がゴールデンタイムで放送された翌日に発売されたんですよ。

俺らが夢に描いたような プロレスラーの理想像が 小川直也にあった［山口］



「ハッスル査定試合」として『PRIDE・GP』に乗り込んだオーちゃん。その動機、試合前のコメント、試合内容、試合後ハッスル宣伝活動にいそしむひたむきな姿といい、すべてにわたり完成度は高かった

ガンツ　マニアが「あの試合はどうなのかな？」って疑問に思ってたところに、テレビカメラがあらゆるアングルから試合を撮っていたから、オーちゃんのパンチが思い切り入ってる場面が放映されたわけですよ。

山口　フジの地上波は録画放送だったけど、それでもヒリヒリ感は伝わった。その面白さを雑誌が増幅させることによってコアなファンが増えていくわけでしょ。ビジネスとしてもおかしいよね、この『週プロ』の記事は。『格通』の方がしっかり書いてる。

ガンツ　格闘技雑誌がちゃんと認めていて、なぜ同じ会社のプロレス雑誌が疑ってるのか意味がわかりませんねぇ。

山口　今回に限っては『ゴング』の方が的を射てるんじゃない？　あそこまで小川を無視し続けてきたのに、「プロレスの勝利ダー‼」とオーちゃんと小橋を、なんの前触れもなく表紙にできるGK（『ゴング』金沢編集長）のほうが思い切りがよくて、まだ笑えるけどね（笑）。

ガンツ　好き嫌いがあるのはわかりますけど、こんなビジネスチャンスを活かそうとも思ってないのは問題だと思いますよ。

山口　雑誌にしてもイベントにしても、一番の鉄則はファンが喜ぶことを芯の部分でキャッチして、推進することなんだけどね。

ガンツ　『ハッスル2』はそれで失敗したわけですからね（笑）。

山口　そうそう……いや、『ハッスル2』は失敗じゃないよ！　仮に失敗だとしても、失敗なくして成功なし！　破壊なくして創造なし！……（以下、延々と破壊王調のセリフが続く）

ガンツ　（遮って）会場で気持ちよくなったときは、早く雑誌を買って会場での嬉しさをもう一度、増幅させる。ファンは2次的に楽しみたいわけですよ。それなのに『週プロ』は、キャプションではフェイクを匂わすわ、本文なんて「ハッスル数え唄」ですからね（笑）。

ジャン　「ハッスルのためならなんでもやるぜ。ハッスルしてくれた人とは握手もするぜ」「嗚呼～、ハッスル数え唄。PRIDEで歌おう数え唄。俺は歌うぜ、ハッスル数え唄！」。ずっとこんな調子です（笑）。

ガンツ　これはターザンが都合が悪いときのやり口と一緒（笑）。

山口　ターザンも都合が悪くなったり、書きようがないときはポエム調の原稿書いてたよね（笑）。でも、少なくともターザンは逃げずに真っ正面から喧嘩を売ってたよ。誌面で〝喧嘩芸〟として昇華させてた。

ガンツ　ブレーンが当時は〝喧嘩芸〟と謳っていた骨法の堀辺（正史）先生だっただけに（笑）。

山口　今回の『週プロ』のオーちゃんの試合に関する記事は「喧嘩もしたくない」「ファンの失笑も買いたくない」「マニアの信頼も失いたくない」「取材拒否されるところまでは踏み込んで書かない」。すべてが逃げ！　まったく、なんのリスクも背負ってない。そんな姿勢が浮き彫りになってるよ。『週プロ』は前編集長がしくじったこともあって、なかなかオーちゃんに取材できないこともあるんだろうけどね。だから小川関連に関しては爪はじき、村八分になってる感覚を持ってるんでしょう。そんな怨念が歪んだ形として出たんでしょ。

ガンツ　『週プロ』が小川をまったく応援してない感は伝わってきてますね（笑）。

山口　応援のしたくなさが笑えないんだよ。どうせ攻撃するんだったら、表紙に「小川勝利！　されど『週プロ』は小川直也が大っ嫌い‼」って打てばいいじゃない（笑）。

ジャン　小さくキャッチで「ついでに高田

延彦も嫌いです!!」と入れたり（笑）。

山口　俺だったらそうするけどなぁ（笑）。

ガンツ　安心したのはプロレス雑誌の後押しがなくても、ファンの後押しがちゃんとあったことですよ。そこには救われましたね。今回の小川の勝利というのは、プロレスにとって久々の光明だったんですよ。総合格闘技人気に押されっぱなしの現状において、『ハッスル』を広めるためだけのモチベーションで、GPに乗り込んできたんですから。

山口　『ファイト』にしてもそうなんだけど、さっきの『週プロ』の記事にしても、八百長論議を楽しむコアなファン層やネットの住人の信用を損なわないようにすることしか頭にないように見えるよね。マスコミがファンの意見に引きずられてる。それはもはやマスコミじゃないでしょ（笑）。

ジャン　彼らは時代性に合わせて報道してるつもりなんでしょうけど、昭和のはるか昔から格闘技なんてのは常にそういった好奇の目にさらされていて、「誰が強いか？」と「八百長」話は常に語られてきてるんですよ。それに格闘技とプロレスの線引きすらも曖昧なプロレス専門誌がフェイクか否かに手を付けて、どうするんだって話ですよ。

ガンツ　小川が『ハッスル』のためにGPに出て行く意味合いや、物語性をまったく考えてないし、取材もしてないんだよね。

山口　K-1の（レミー・）ボンヤスキーと（ピーター・）アーツに2度ずつ勝ったレコに、オーちゃんが打撃で打ち勝ったという、試合レポートに反映させやすい事実をクローズアップしなかったり、〝ハッスル査定試合〟という一見ふざけたアングルで、『PRIDE・GP』というVT世界最高峰の舞台に出てくるという物語をキチンと伝えないで、なにがプロレス雑誌なの？って話ですよ。そういうアングルに嬉々として乗っている、しかもVTの試合後に会場の外で『ハッスル』のチケットを売ってる小川直也の〝ヒト〟としてのいい意味でのキチ●イ性を活字で伝えないで、〝プロレス愛〟がどうしたこうしたなんてちゃんちゃらおかしいけどね。

ガンツ　そんなチケット販売のイベントも予定されていたから、「この試合は最初から決まってたんだ」って疑った人もいるわけですよ（笑）。

山口　ガンツ、おまえだろ！　浅いなぁ、ものの見方が（笑）。つまり、オーちゃんは、負けたらすべてが崩れてしまうリスクを背負って闘ってたわけだよ。試合だけじゃなくて、心情的なものや試合にまつわる物語を引っくるめて見るのがプロレスでしょう。基本として、超一流のキチ●イをボクたちは歓迎しなくちゃいけないんじゃないの？　プロレスラーを見ることと、超一流のキチ●イを見るってことは同義語なんだからさ。キチ●イにも一流から五流まであるけど、どういうときにキチ●イの存在価値が出てくるかというと、普段はハタ迷惑な存在でも、人々を笑わせたり感動させたり、幸せな気分にさせたときに初めて存在価値が出てくるんだよ。逆にいえば、一流のキチ●イは必ず人を笑わせたり、幸せにしてくれたりする局面がある。笑えないキチ●イには価値なんてないんだから。ただ危ないだけだからさ、そんなの（笑）。

戦慄の異種格闘技戦とは何か？

ジャン　猪木さんは笑えた上に危ないキチ●イですけどね（笑）。

ガンツ　佐山聡さんという方も同種だねえ（笑）。

山口　オーちゃんも、その猪木さんや佐山に通じるところがあるんだよなぁ（笑）。今度、藤井（克久）君が5・23の『武士道』に出るでしょ。その件で、オーちゃんは、「藤井君のリングネームを変えていいですか？」って、関係者に電話したら

奇跡爆発!! 4·25『PRIDE・GP』携帯『紙プロHnad』アンケート!!

全試合オールー本勝ち!!　なのに加えて、どの試合内容も濃密だった『PRIDE・GP開幕戦』。「Q3ワーストバウトは？」の問いに対して、「なし」項目がダントツなことからも、興行として完成されていたことが理解できる。MVPはオーちゃんがブッチギリ。健闘・横井が堂々のベスト3にランクインした。

Q1 あなたは4/25『PRIDE.GP』をどこで見ましたか?満足 or 不満足、どちらでしたか?

会場	満足	683票
会場	不満足	24票
PPV	満足	755票
PPV	不満足	12票
地上波	満足	690票
地上波	不満足	77票
会場&地上波	満足	213票
会場&地上波	不満足	12票
PPV&地上波	満足	324票
PPV&地上波	不満足	46票

Q2 今大会のベストバウトは?

ヒース・ヒーリング vs 高橋義生	186票
セルゲイ・ハリトーノフ vs ムリーロ・ニンジャ	162票
ジャイアント・シルバ vs 戦闘竜	12票
セーム・シュルト vs ガン・マッギー	6票
小川直也 vs ステファン・レコ	1002票
ケビン・ランデルマン vs ミルコ・クロコップ	604票
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs 横井宏考	429票
エメリヤーエンコ・ヒョードル vs マーク・コールマン	327票
なし	45票

Q3 今大会のワーストバウトは?

ヒース・ヒーリング vs 高橋義生	265票
セルゲイ・ハリトーノフ vs ムリーロ・ニンジャ	92票
ジャイアント・シルバ vs 戦闘竜	635票
セーム・シュルト vs ガン・マッギー	534票
小川直也 vs ステファン・レコ	101票
ケビン・ランデルマン vs ミルコ・クロコップ	96票
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs 横井宏考	36票
エメリヤーエンコ・ヒョードル vs マーク・コールマン	71票
なし	687票

Q4 勝ち残った8人のうち、ズバリ言って誰が優勝すると思いますか?

ヒース・ヒーリング	144票
セルゲイ・ハリトーノフ	138票
ジャイアント・シルバ	5票
セーム・シュルト	15票
小川直也	639票
ケビン・ランデルマン	28票
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ	384票
エメリヤーエンコ・ヒョードル	1272票
わからない	60票

Q5 今大会のMVPとその理由を教えてください

1位　小川直也　1558票
「ギャラクシーエキプレスに戻せば完璧」「結果を出した上で"ハッスル"への拘りをみせたのが良い」「久しぶりにプロレスラーに感動」「あの素質にジャンボ鶴田を彷彿させたから」「あんな楽しそうな小川が見れただけで満足！」「とにかく泣けた」

2位　ランデルマン　365票
「大番狂わせだから」な意見が多数

3位　横井宏考　152票
「ノゲイラ相手によくぞ健闘した」な意見多数

しんだ。「藤井は広島出身なんですよ。広島にはカキとかお好み焼きとか名物がいろいろありますけど、しゃもじともみじまんじゅうも有名ですよね。だから藤井を〝おしゃもじ・もみじ〟っていうリングネームにしようと思うんですけど、どうですかね?」って言ってきたんだって(笑)。

ガンツ それ、佐山というよりは破壊王センスですよ(笑)。破壊王・命名の「黒毛和牛太」「明石鯛我」に通じますね。

山口 〝山笠Z〟信介はオーちゃんが付けたらしいけどね。で、オーちゃんは「いまさらプロレスでそれをやっても面白くないから、『武士道』でやりたいんですよ」って真面目に言ってるんだって。それだけだったら「この人は何を言ってんだ」で終わっちゃうんだけど、一応理に適ってるんだよ。「本名でやりたいんなら、勝ち続けなければダメだよ」っていうオーちゃんなりの試練の与え方なわけさ。最初は〝おしゃもじ・もみじ〟にして、一度勝ったら〝藤井もみじ〟、2回勝ったら〝おしゃもじ克久〟とか(笑)。勝つたびに〝藤井克久〟っていう本名に近づいていく。たしかに勝っていくごとに、本名に近づいていくのは、いままでにないアングルだよね。

ジャン いままでになかったというか、単に採用されなかっただけですよ(笑)。

山口 そういうことを嬉々としてやっていくのが小川直也(笑)。藤井君にしてみれば「今度は両親や親戚が観に来るんで勘弁してください」という身近な部分で切実な話になるんだろうけど、オーちゃんは一般の人には理解できない試練を背負うことに慣れてるんだよね。

ガンツ だから、『ハッスル』を宣伝するだけのために、『PRIDE・GP』に出てくるわけですね(笑)。

山口 正直言って、俺もオーちゃんがここまで変わってるとは思わなかったよ。〝ハッスル査定試合〟というアングルに嬉々として乗って『PRIDE・GP』に出てきて、しかもそれを乗り越えてしまう本物ぶり、変人ぶりを見てほしいよね。一見浅そうなんだけど、奥行きの深い部分があるからね、オーちゃんの場合。そういうところを見ないで何のためのプロレスマスコミなんだって話だよ。まだ格闘技雑誌のリポートを見る限りではフラットな目で見てると思うんだよね。プロレスそのもののレベルが下がってるのか、プロレスマスコミのレベルが下がってるのか、それとも両方なのかわからないけど、ホントにプロレスマスコミの同人誌化とレベルの低下は困ったもんだよ。これだけ言ったからには、『紙プロ』もハッスルしないと何言われるかわかんないけどな(笑)。

ガンツ 鈴木氏には、新日本プロレスの東京ドーム大会についても同じように書いてほしいですよね。とくに武蔵vs柴田の試合をレポートしてほしかったですよ。

山口 新日本のドーム大会を俺はTVで見たけど、会場に行ったさいちん(ジャン斉藤)はどうだったの?

ジャン どうって……ボクも「異種格闘技戦・数え唄」を書きたくなりましたよ!

ガンツ ガハハハ! キャプションで「武蔵のキックで柴田の脳が揺れた模様」と書きたくなったわけね(笑)。

ジャン 単なるシュートよりも、技量が問われる異種格闘技戦の方が難しいと思うんですよ。それをプロレスをやったことない武蔵がこなせるわけないですよね。

ガンツ ボクもTV観戦なんですけど、柴田vs武蔵は〝なんちゃってVT〟とも違うし、何だろうと思ってよく考えてみたら、〝なんちゃって『真撃』〟なんですよ。

山口 ガハハハハ! 〝なんちゃってVT〟から進化してるのか 退化してるのかわからないな(笑)。

ガンツ ゴルドーのいない『真撃』ですね。ゴルドーはプロレスの範囲でやってるのに、何が起こるかわからない緊張感

自分が持ってるすべてをさらけ出すことができる人間性、芸術性が求められる［山口］

が対戦相手やセコンドや観客にもビンビン伝わって、もしかしたら一線を超えかねない怖さがあったじゃないですか?

山口 ゴルドーのローキックを受けて、対戦相手がVT以上に「ウッ!」って呻いていたこともあったね(笑)。対戦相手からすれば笑いごとじゃないんだろうけど、凄いモノを見た! っていう意味で、思わず笑ってしまうシーンがいっぱいあったね。

ガンツ ちょっとでも固い動きをしたら、すぐにでも仕掛ける雰囲気が昔の新日本にはあったじゃないですか。それが昔の異種格闘技戦だったり、団体対抗戦という闘いだったんですよ。いまはお互いに固いことはしませんという空気の中でやってますからね。柴田vs武蔵にもそういう緊張感が一切ない。

山口 〝なんちゃって『真撃』〟であり、〝なんちゃって対抗戦〟でもあるわけね。

ガンツ K-1には「異種格闘技戦」の言葉を大事にしてほしいですよ。ボクはもともと正道会館の他流試合が大好きなんですけど、それはリング内外すべて真剣勝負で、すべて勝ってきたからですよ。

山口 石井前館長なんかは、判定にマイクで怒鳴ったり、控室に怒鳴り込んだりしてたもんな。

ガンツ そこに痺れたファンがいたから、ここまでの一大帝国を築くまでに至ったのに、館長イズムは館長にしか存在しないのが見えちゃいましたね。武蔵なんか、「キミ、あれじゃあ空手ダンスだよ」と大山総裁なりに言いたくもなりますよ!

山口 プロレス・ダンスにもなってないよ。

ジャン だったら吉江vsノルキヤみたいに、あそこまで馬鹿馬鹿しい異種格闘技戦のほうが面白かったですよ。

山口 あれは面白いというかさ、吉江もノルキヤも体型がユーモラスだからだろうけど、プロレスとしてのレベルはともかく、笑えるからね。

ジャン あの試合を見て語ることは何もないし、至って呑気に見れますからね。ある意味でエンターテインメントになってるんですよ。

ガンツ FMW直系というか、サンボ浅子の格闘技戦と近いでしょ(笑)。

山口 吉江vsノルキヤがFMW直系だとすると、柴田vs武蔵は、前田vsニールセンを再現するって打ち出しだったんでしょ? 俺は「前田に謝れ!!」って言いたいよ(笑)。異種格闘技戦の、いつほころぶかわからないエッジの上を歩くような感覚を表現するというのは、シュート試合以上の覚悟がないとできないよ。逆説的なことを言えば、プロレスの中での演劇論を真剣に学ばないとできない。試合はシュートではないけれども、心はシュートという、演劇論の範疇で考えても薄氷を踏むようなギリギリ感を醸し出すには、ジャンルを背負うなどの大博打に出ないと表現できないよ。

ガンツ まずは身内から騙すようじゃないといけないんですよ。内容的なことをごく一部の関係者しか知らなくて、内部の選手ですら「どうなるんだ!?」って思わせるから、セコンドが「何か仕掛けてくるかもしれない」と身構えるんですよ。それが今回は、『ゴング』の竹内(宏介)さんが大会途中にリングに上がって、「たったいままでルールミーティングをやってました!!」って言ってるわけですからね。

ジャン ルール問題で揉めたりとか、記者会見で乱闘したりとか、状況加工することで緊張感を出そうとしてたんでしょうね。試合そのものでいびつ感が出せないのは、〝1・4事変〟の後遺症があるのかもしれませんけど。

山口 あの事件を機に、いびつな試合は御法度になってるところはあるだろうね。

ガンツ 村上和成が前号の『紙プロ』で言ってましたけど、〝1・4事変〟で村上はセコンドだったのに殺されかけたんですよ。逆に言えば、プロレスはそこまで



5・8『ハッスル3』全試合終了後、ほとんどの観客が帰り道を急がずに場内に残留。OHとともにハッスルポーズで締めくくってくれた。オーちゃんのキチ●イさが『ハッスル』を盛り上げる！

包容できるんですよ。

山口　それは無理してつくろうと思ってもつくれない。大げさに言えば、5年に1回あるかないかだよ。それを毎回、上っ面をなぞらえてやるからおかしなことになる。ドリフのDVDを見てるとね、カトちゃんや志村がさ、いかりや長介をアドリブでいじめるシーン、つまりはコントの中で〝仕掛ける〟場面がところどころに出てきて面白いんだけど、そういうシーンは練りこんだり繰り返していく歴史の上に成り立ってる。無理矢理つくろうと思ってもダメですよ。

ガンツ　小川vs新日本が面白かったかのは、新日本勢がオーちゃんのことをまったく信用してない部分の面白さでしたよね。

山口　今回の『PRIDE・GP』がなんでそこまで物議を醸したかというと、〝ハッスル査定試合〟というアングルでGPに出たきた小川のブザマな姿を見たいという気持ちと、クリアしてほしいファンの気持ちがせめぎあってたからでしょう。じつは相手がレコだからじゃなくて、見てる人の感情がせめぎあってヒリヒリするから面白んだよね。たぶん新日本が求めているプロレスも、魂と魂のぶつかり合いであったり、精神と精神の闘いだったり、よく昔のプロレスラーが言う「プロレスはプロレスだけど、気持ちはシュートだぞ」っていう部分に拡大鏡を見せたいわけじゃない。

ジャン　でも、一番シュートなのは選手じゃなくて、上井さんだったりするんですよね（笑）。

山口　新日本の中で一番ハッスルしてるのは上井さんだろうな（笑）。ある意味では新間（寿）さんのセルフ・パロディー的な部分もあるんだけどさ。新間さんの頃というのは、ファンが新日本プロレスに対して真剣に乗ってたでしょ。

ガンツ　誰もが「世界で一番、アントニオ猪木が強い」と思ってたわけですよ。

山口　いまのファンは情報化社会の中で冷めた目で見てたりするから、上井さんがどうしてもピエロに見えちゃう部分はある。でも、あのエネルギーは評価に値すると思うんだよね。

ジャン　命懸けでプロレスの底上げをやろうとはしてますからね。

山口　でも、新日本プロレスをひとつの舞台として考えるんなら、上井さんだけじゃくて、セコンドも全員が全員、そのエネルギーを出してないと、ひとつの舞台は成り立たないよ。それが出てないチグハグ感が東京ドームでは出てたと思うんだよ。我々は画面越しに笑って見てられるからいいんだけど、異種格闘技戦を真剣に気持ちを入れて応援するファンは現実的に極端に減ってるんだからさ。

ガンツ　新日本は「『PRIDE』じゃなく、プロレスの中で勝負論を感じさせるものが見たい」という、もの凄く限られた層を狙ってるわけじゃないですか。そこが非常にドン・キホーテというか。柴田選手が「異種格闘技を見てた昭和のプロレスファンを、オレの試合で戻したい」って言ってましたけど、その時代には『PRIDE』もK-1もなかったから、その欲求を新日本に託していたわけですよ。

ジャン　そこでほころぶところがあれば、柴田には乗れるんですけどね。

山口　ほころぶ舞台設定をしないんであれば、プロレスのクオリティを上げていったほうが面白いよ。新日本にはそれをやれるタマがいくらでもいるんだからさ。異種格闘技戦がプロレスの範疇であるように、プロレスには際限がない。何をやってもいい、何をやっても許されるものがプロレスの一つの特徴でもあるんだけど、いまの新日本のやり方というのは、〝K-1や『PRIDE』に負けない勝負論をプロレスの中で表現したい〟という生真面目な部分に縛られすぎて、プロレスの表現方法を悪い方に狭めてる気がしてならないんだけどね。上井さんの熱さやエ

ネルギーは尊いんだけども、もうちょっと客観的になってほしいっていうのはあるなぁ。

ガンツ　1年前に新日本内で『ULTIMATE CRUSH』をやったじゃないですか。そこまで踏み出しておきながら、異種格闘技に戻るのは、戦略としてはどう考えてもうまくいかないと思うんですよ。

山口　まあ、どっかの誰かさんたちの手の平の上で踊らされてるっていう印象が強いよね。

ジャン　もしかして、記者会見で柴田と武蔵が乱闘したときに、うっすらと笑みを浮かべていた人ですか？（笑）。

山口　ズバリ言うけどさ、新日本の復興なんか1ミリたりとも考えてないと思うけどなぁ、サダハルンバ……いや、谷川貞治・FEG社長は。違う？（笑）。

ガンツ　新日本の会場にいても「ああ、タイソンの相手、どうしようかぁ」って吹き出しが見えそうですよ（笑）。

山口　ガハハハ！　繰り返すけど、上井さんの放出するエネルギーは評価できる。だからこそ客観的、つまりは科学的に考えてほしい。客観的＝科学的っていうことだからね。たとえば、「俺はいつ何時でも変わらない」という思いを持ってる人間がいたとしても、科学的に見たらその人間の身体の中の細胞は入れ替わってるわけでしょ。10年前の自分といまの自分が同じわけがないんだよ。〝変わらない〟という思い〟を抱くことは別にいいんだけど、変わってる自分を客観的に認識してほしいよね。新日本を一人の人間として考えたら、身体を取り巻く状況や、身体の中の細胞は入れ替わってるんだから、いつまでも〝ストロングスタイル〟でいられるわけがない。そこを客観的に捉えないとえらいことになると思うけどなぁ、新日本は。大きなお世話かもしれないけど。

ジャン　柴田や中邑にしても、思った以上にファンは期待してるんですよ。このまま中途半端な方向になってほしくないですね。

ガンツ　ノアが「純プロレス」というジャンルを真剣に極めようとしてるのに対して、一方で『PRIDE』がリアルファイトの限界をどんどん突破している。中途半端に関わってると、レベルの差は開く限りですよ。

山口　三沢光晴も一流のキチ●イだからね。じゃなかったら、あんなプロレスはできないでしょ。あの攻防と受け身にはいつ見てもキチ●イ性を感じるからね。そう感じさせるものがあるから芸術性も出てくるんだろうし。VTでもプロレスでも見たいのはキチ●イ。VTでもプロレスでも異物の存在でいられる小川直也のエネルギーがもっともっといい形で報われればいいけどね。

ジャン　オーちゃんは『PRIDE』でも、『ハッスル』でも、こっちがいい意味でバカ負けするくらいのエネルギーを出してますからね。

山口　エネルギーがないと『ハッスル』でのニュー・コスチュームは着れないよ（笑）。

ガンツ　あの衣装のきっかけになったポスターを習って、モミアゲ伸ばして髪型まで変えてきてますからね（笑）。

ジャン　高岩竜一が天下一Jr.の決勝戦の国歌吹奏で韓国国歌を流して、在日韓国人であることを明かしたじゃないですか。それすらもアングルにしようとする時代ですからね。

山口　あれはカミングアウト時代の総決算だよな。これからは、ますます自分の持ってるすべてをさらけ出すことができるキチ●イ性、そしてそれを単にさらけ出すだけじゃない芸術性が求められると思うよ。というわけで、恥ずかしがらずに行きますかーーーーッ!!　スリー、ツー、ワンッ……ハッス……。

一同　（無視して）お先に失礼しま〜す。

【5月5日／編集部にて収録】

心情的なものや試合にまつわる物語をひっくるめて、見るのがプロレス［山口］

言うちゃ悪いけど今月の大提言

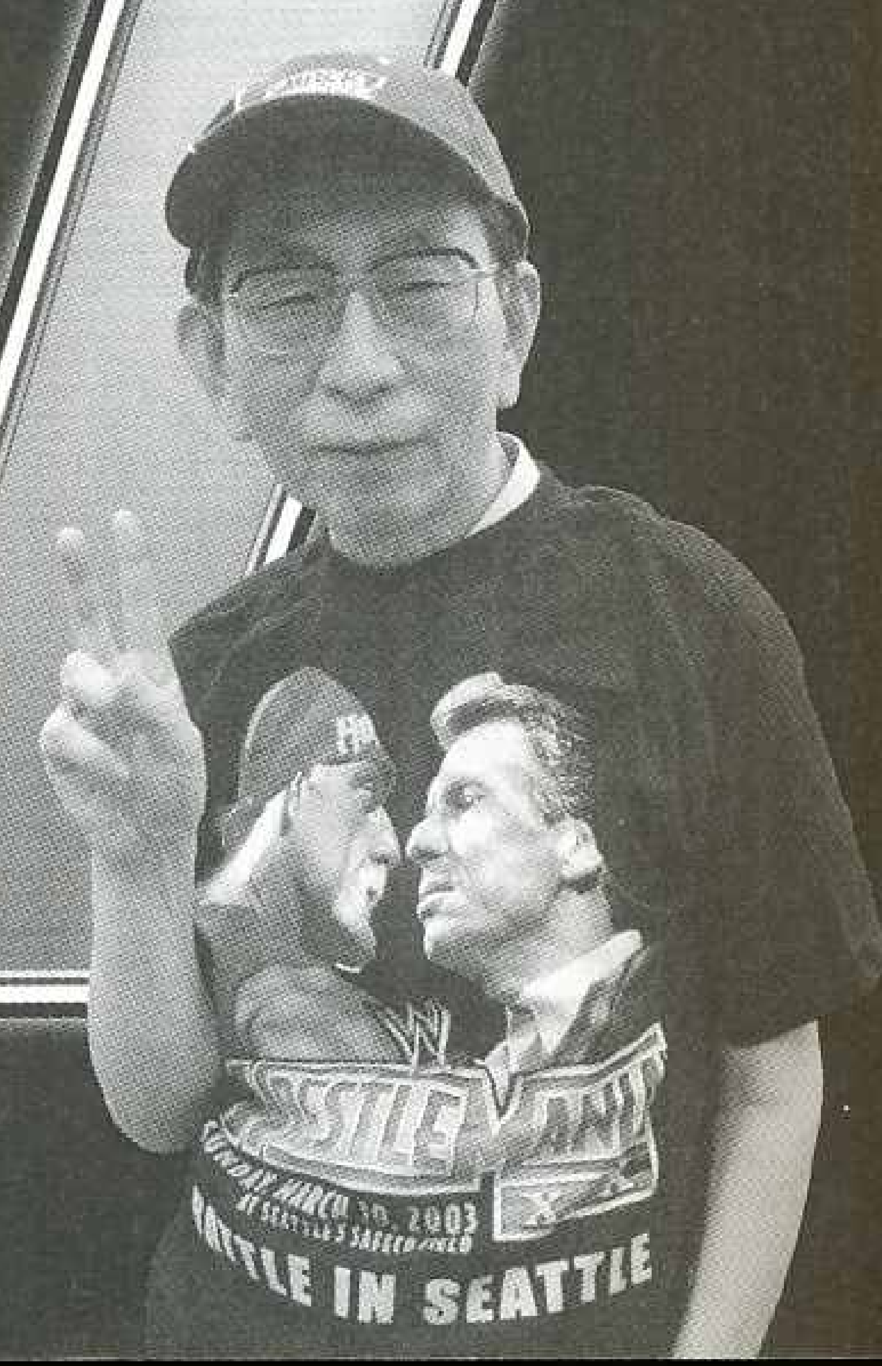
K-1マッチと言えども ガチガチのプロレス技を 使用せよ！



プロレス・マスコミの哲人・I編集長の

バード

喫茶店トークV



I編集長の大好物がワンサカ揃った今月の喫茶店トーク。4・30K-1ラスベガス、5・3新日本プロレス東京ドーム大会を経て、今月行われる5・23K-1MMA『ROMANEX』のその先に見えてくるのは、一体？ I予言を聞き逃すな！

聞き手／堀江ガンツ　design by さおとめの事務所

なんべんも言ってるけど、バードでドラゴンスクリューもやれるはずなんだよな！

——さて、井上さん。注目の新日本5・3東京ドームなんですが、ご覧になった率直な感想をおきかせください。

井上　言うちゃ悪いけど、もう少しバード的な匂いを出したほうが良かったわな。

——そういう声が多いですよね。

井上　一気に「K—1でございます」「『PRIDE』でございます」とは言えないのはわかるんですけど、もう少しプロレスの試合でもやね、ハッキリ言えば真剣勝負の色を出していったほうが良かったわな。これからの狙いとしては、プロレス団体だからプロレスはやりますけども、プロレスルールによる真剣勝負をやるべきなんですよ。

——いつも井上さんが言われているように、プロレスルールでガッチガチでやるべきなんですね！

井上　たとえば、ライガーvs中嶋にしても、ライガーが勝つのは誰の目にも見えとったわけですよ。中嶋に華を持たせることも考えられんわけじゃないけども、東京ドームの新日本の興行であるから「ライガー、お前負けてくれ！」とは言えないわけですよ。

——ライガーには頼めませんか（笑）。

井上　そういうのはもうやめて、ホントの意味で勝ち負けのある試合をやりなさいと。ということになれば、プロレスでも充分にやっていけますよ。K—1と『PRIDE』が何で客を集めてるかって言ったら、真剣勝負をやってるからだからね。たとえば、「ホーストと誰々の試合は実力的には向こうのほうが強いけども、ホーストはK—1の顔でもあるし、4回優勝した男だからホーストに勝たせます」な〜んてことやってご覧なさいよ。誰が見に行くかってもんですか、そんなもん!!

——信用はガタ落ちですよね（笑）。

井上　ただ、いきなりすべてを真剣勝負にするのは難しいからね。平成デルフィンはプロレスの勝ち負けが決まっている「この印籠が目に入らぬか」というプロレスを喜んで見に来てるところもありますからね。

——いわゆる「水戸黄門プロレス」ですね。

井上　馬場さんが水戸黄門好きだったのはそれだからね。最後は決まりきってるんだけども、それが一番、安心して見れるんですよ。新日本は辛抱強くバードに持って行く努力をしてるんだけどもやね、早く「プロレスでございます」っていう試合をやめなさいと！　サップvs中邑、棚橋の試合、吉江の試合、IWGPタッグの試合なんかはもうどうしょうもないからね。これは水戸黄門の試合だから、第2部門でご自由にやればいいんだよ！

——K—1と新日本の対抗戦というのは井上さん的にはガチプロ、プロ格、ストプロ、バードでいうと、どのカテゴリーに入るんでしょうか。

井上　やっぱりプロ格でしょうな。プロ格だろうけど、吉江の試合にしたって闘う本人がそれだけの技量を持ってない。実際に日頃の道場でそれを想定したプロ格の実戦を積まないとダメですよ、アレ！

——とにかく実戦経験が必要なんですね。

井上　それは棚橋にしても感じたもんな。やっぱりプロレスですよ、アレ。まともなのは武蔵の試合だけで、中邑とサップにも救われたかんじですよ。なぜかと言ったら、サップにまだ力強さがあるからね。

——技の説得力はありますよね。

井上　アイツは持ち上げるからな。少々腕を極められてイタタタってよろけてでもガーンと落とす。それも背中からぶつけるんじゃないからね。頭から落とす！　当たり前の話で誰が背中から落とすかっていうんだよ。俺だって頭からぶつけるわ！　後頭部を叩き壊すというのが格闘技で勝つ方法なんだからね。いまはバックドロップという技を忘れてしまってるんだよ！　バックドロップが何かといったら後頭部撃破ですよ。

——バックドロップ＝後頭部撃破！

井上　とにかく話のポイントとしたら、K—1であろうが『PRIDE』であろうがプロレスの技を使いなさいと。これからはプロレス技を参考にしないとダメですよ。なんべんも言ってるけど、ドラゴンスクリューもやれるはずなんだよな！

——足を取れればできそうではありますよね。

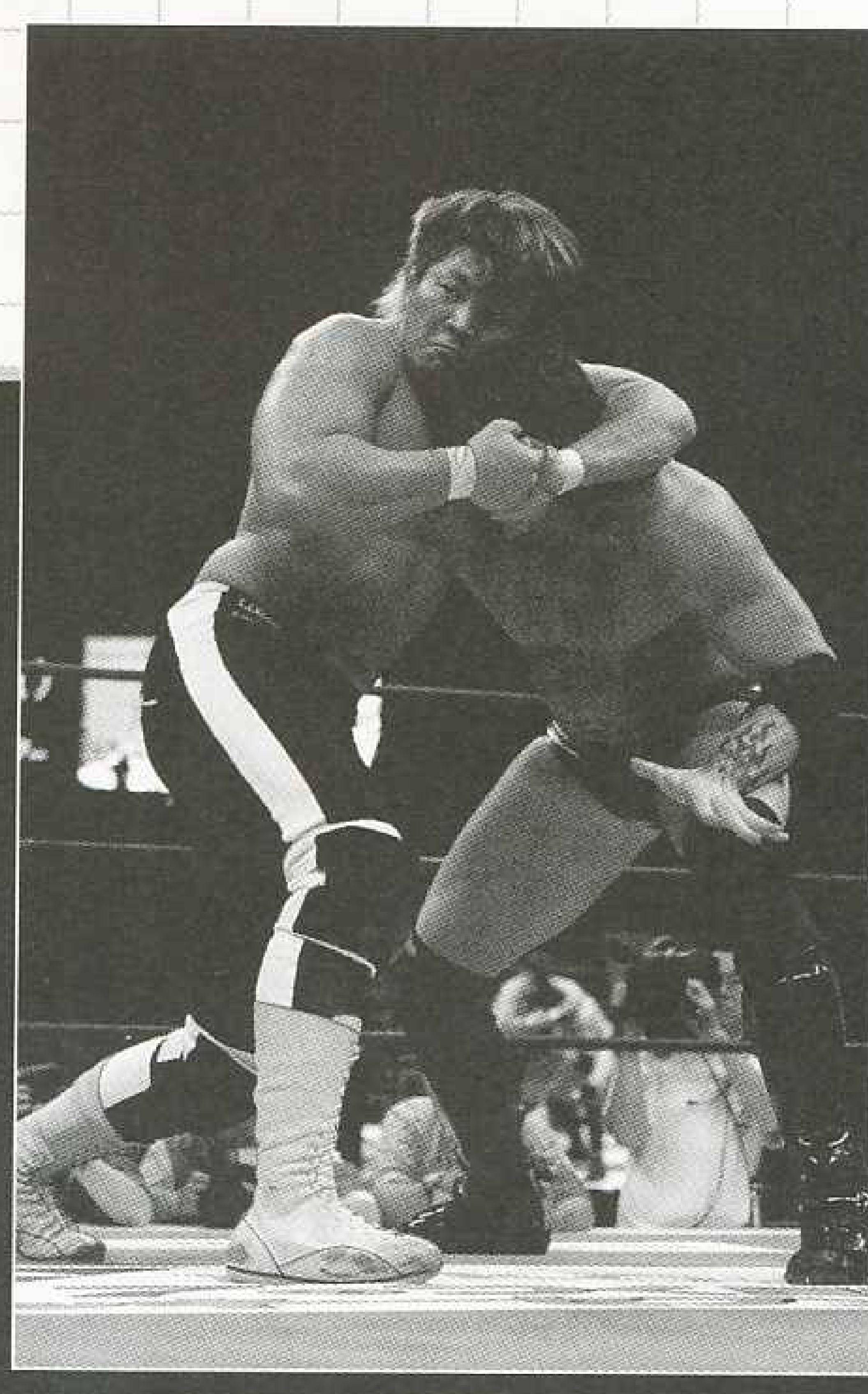
井上　STFでもやれますよ！　STFなんかを平成の技だろうと思ってるバカがおるけどやね、あんなのはルー・テーズが昔からやっとったんだよな！　いまのSTFとはまったく違うわ！

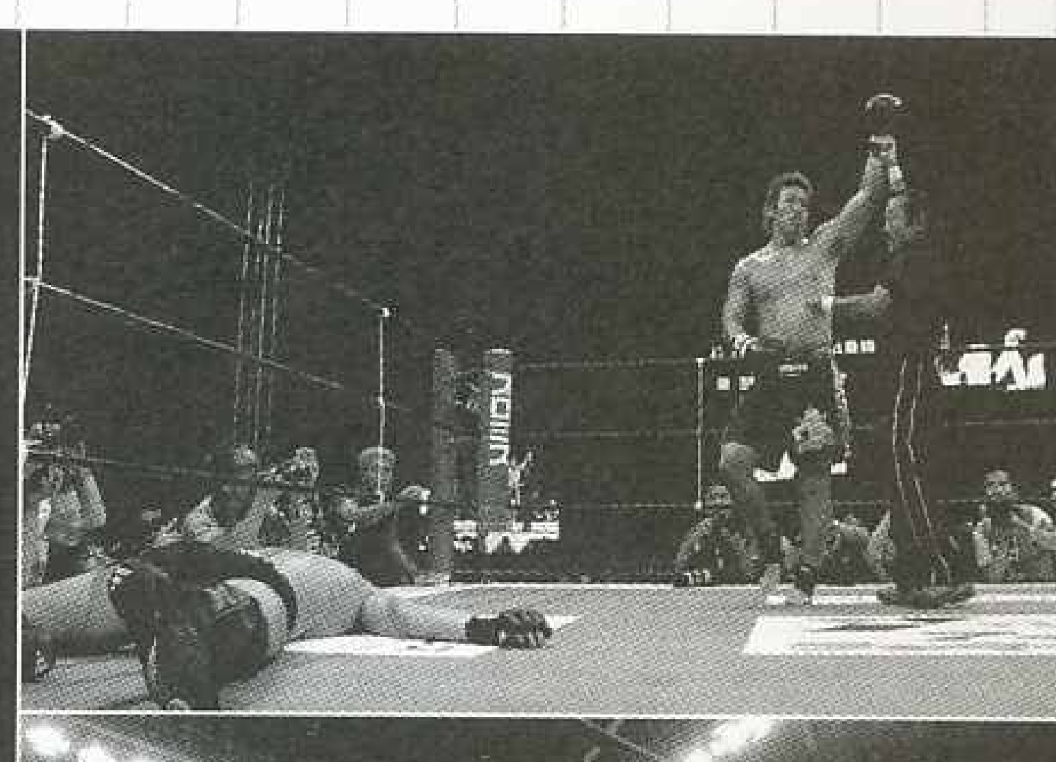
——昔のSTFは足をしっかり極めてますもんね。

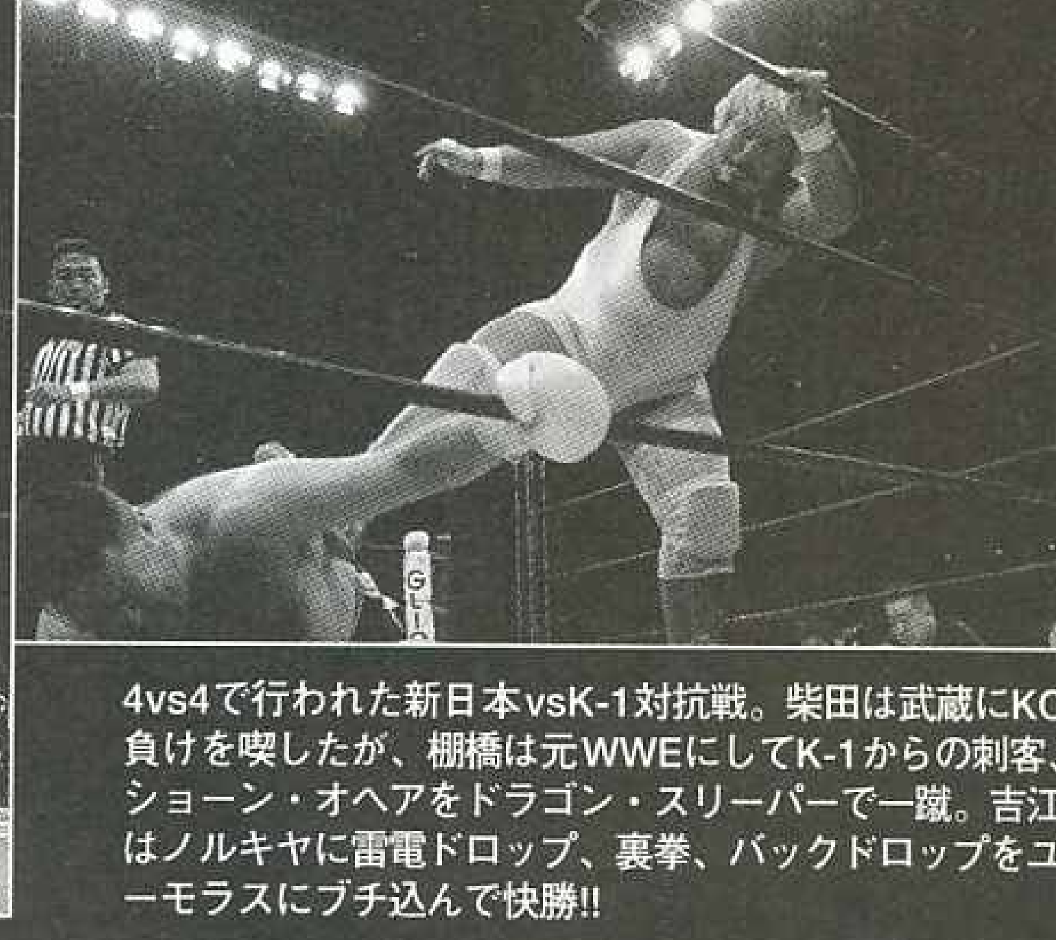
井上　中邑がイグナショフとやった場合も、またタックルでマウントを取って殴るとかね、イグナショフにはそんな方法では勝てませんよ。プロレス技が大事になる。いきなりドラゴンスクリューでバーンと足を払えばいいんだよ！

——必勝はドラスクにありましたか（笑）。

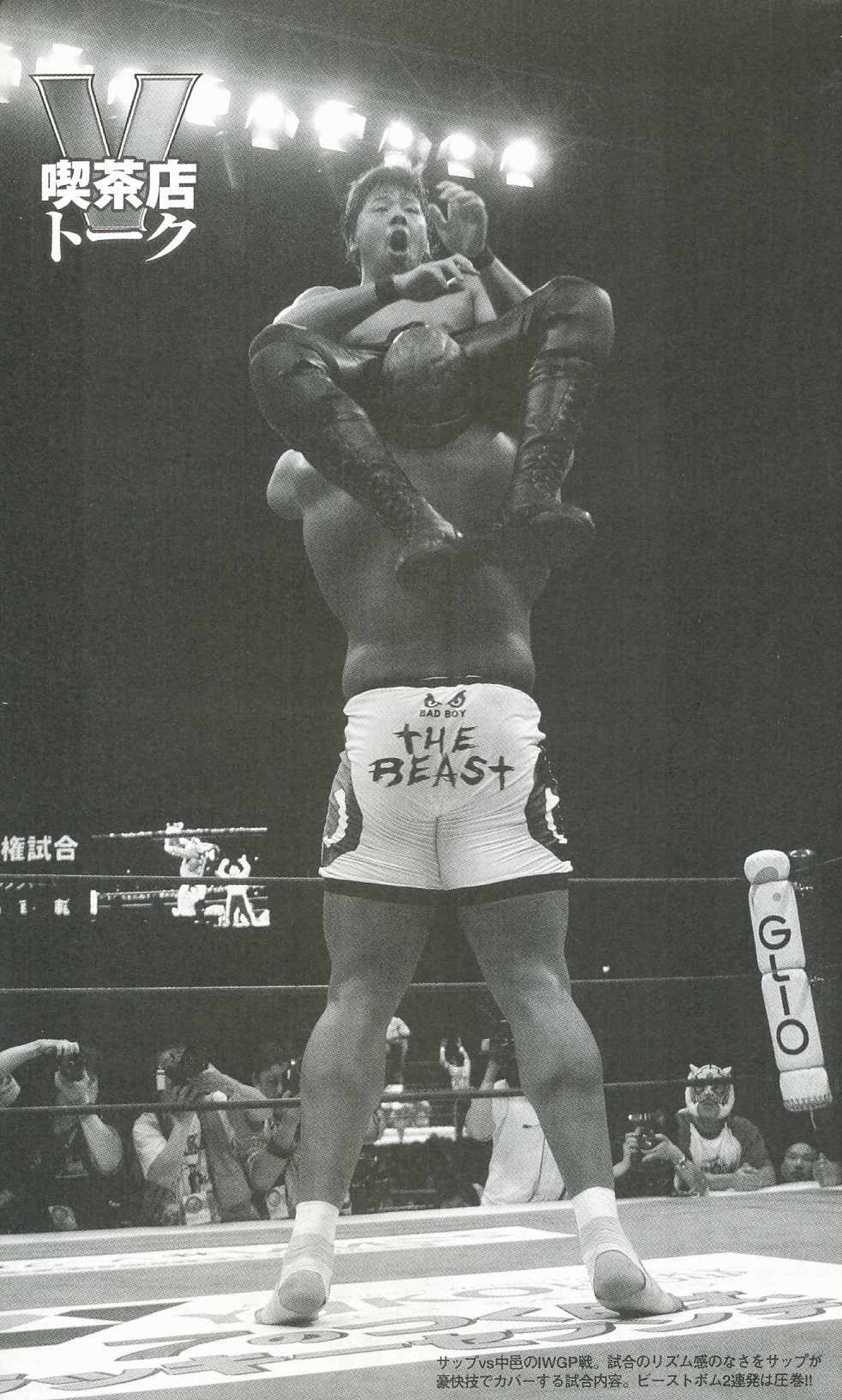
井上　イグナショフもバカじゃないから蹴ってくると思うけど、やろうと思えばやれるはずなんだよ。猪木がルスカ相手にバックドロップをやったけども、「あれはルスカがわざとさしてやったんだ」「ホントだったらああいうことができませんよ」と言うバカがおったけどもそうじゃないんですよ。それは相手







4vs4で行われた新日本vsK-1対抗戦。柴田は武蔵にKO負けを喫したが、棚橋は元WWEにしてK-1からの刺客、ショーン・オヘアをドラゴン・スリーパーで一蹴。吉江はノルキヤに雷電ドロップ、裏拳、バックドロップをユーモラスにブチ込んで快勝!!



サップvs中邑のIWGP戦。試合のリズム感のなさをサップが豪快技でカバーする試合内容。ビーストボム2連発は圧巻!!

が猪木ほどの達人であれば必ずやれるんです。ゴッチにしてもテーズにしたってそうや！

——そのための練習をしてたわけですからね。

井上　これからK—1MMAルールをやるんだからやね、K—1の選手はとことんプロレスの技をマスターせんとな。

——バードよりもプロレスの練習をしろ、と。

井上　今度の5・22にどこまでプロレスの技を活かせるか？　それは中邑よりも藤田のほうが上手にやると思うけどやね。もう少しプロレスの技をドンドン使っていかんことには藤田にしたって中邑にしても勝てないですよ。

——奇をてらうわけですね。

井上　それのPRマッチとして5・3があったわけですよ。だから、そのへんのことも加味して試合を組み立てようじゃあ〜りませんかと、谷川のダンナはやっぱり上井と相談しないとダメですよ。

——相談というと？

井上　「こんなときはこういう技はこうしてやるんだ」と、実際に道場を使ってやらんとダメですよ。いくら口でどうのこうの言っても何にもなりませんからね。人間は体験から学ぶんであって、そういったことは俺は「八百長じゃない」っていつも言ってるんですよ。マスコミが見ようがファンが見ようがとにかくどうでもいいんだ。新日本の道場でそれをやれと！

——起こりうることを練習しておくわけですね。昔の異種格闘技戦もそういう感じだったんですか？

井上　当たり前ですよ！　ルスカをゴッチあたりが一生懸命教えたんだけども、どちらかと言うとプロレスのルールや基本技を教えたんだよな。俺はもう少し突っ込んだものを教えてるのかと隠れて見とったけどやね。

——ガハハハ！　隠れて見てましたか（笑）。

井上　おう！　何のことはない。プロレスの基本ルールを教えとったんですよ。手四つというのはこうやらんと指を折るとかね、そういうことを一生懸命教えたんですよ。秘密特訓だから見るなと言って追い出されたけども。武蔵と柴田にしたって、武蔵は全然サブミッションをやらずに出て来たって言うけどもやね、どっかでやってんじゃないかな。そういったことを道場で教えとかんとやね、何回やってもプロレスの技が出てきませんよ。

——練習が大事ということですね。

井上　それとサップが妙に大人しいのが気になるんだよな。

——そういえば、すっかり野獣っぽさがなくなりましたよね（笑）。

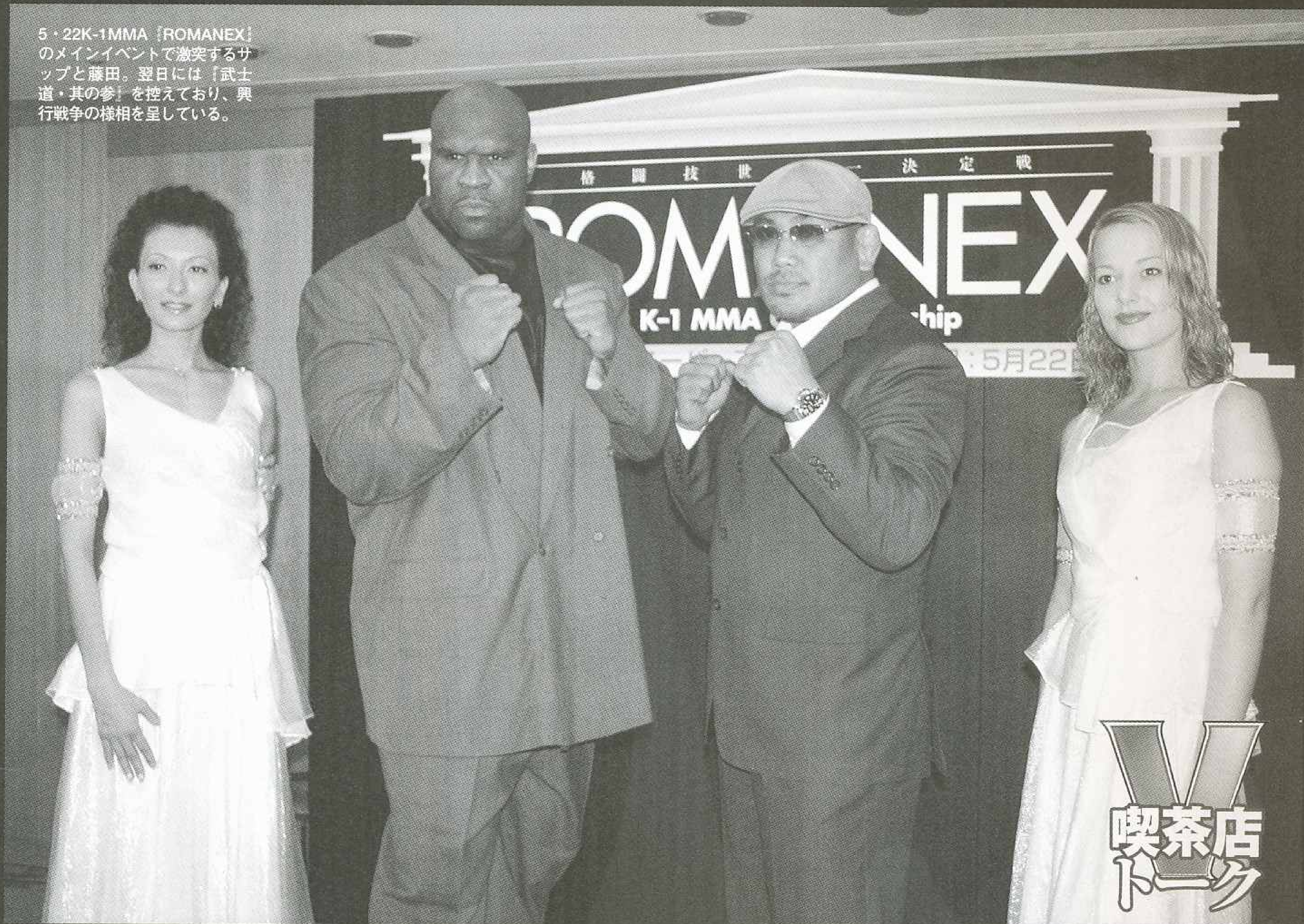
井上　ラスベガスの試合でもずっとガード固めとったからね。中邑の試合もそうや。あんな試合を続けていたら、サップの持ち味や魅力はなくなってしまいますよ。

——TOAのほうよっぽど野獣っぽかったですもんね。

井上　なぜTOAのほうが迫力があったかというと、サップの昔のような闘い方をしたからですよ。最初の奇襲攻撃を失敗したらもうオシマイだろうという勝負論もあるやろうけどやね。俺はそれでいいと思うんだよ。

——サップはそうして名を挙げていったわけですからね。

井上　しかもラスベガスでの対戦相手は、2年前に交通事故で380針も縫ったような男ですよ。もうね、歩けるかどうかを心配しなきゃいけない男を連れて来るなと！　スミヤバザルもそうだし、この前の男（セス・ペトルゼリ）もそうだし、サップは三度、続けて変な男と試合してるわけですよ。だったら力で叩きのめせと。どんなヘナチョコを連れて来てもいいけどやね、ラスベガスの試合もヒドイぜ。左フックが当たってないもんな、アレ！



5・22K-1MMA『ROMANEX』のメインイベントで激突するサップと藤田。翌日には『武士道・其の参』を控えており、興行戦争の様相を呈している。

——当たってませんでしたか（笑）。

井上　当たったことは当たったけど、なでたようなパンチだったろ？　言うちゃ悪いけど、プロ格者も「八百長だ！」って騒いでたからね。

——前号の武蔵vs曙に続いて、またしてもプロ格者が騒ぎましたか！

井上　でも、八百長とは違うんだよな！　やっぱりサップのパンチはウエイトがあるから効くのよ。見た目は効かんように見えるけども、ジャイアント馬場の脳天空手チョップと一緒で、実際にやられた奴に聞いてみると、ズシッ！とくるんだって。

——脳天空手チョップはそこまでの破壊力があったんですね。

井上　当たり前ですよ、アンタ！　馬場のボディスラムにしたって、普通のレスラーより2～30センチも高さが違うからね。その2～30センチ高さの違いが、投げられた方からするとたまらないわけだよ。ライガーと馬場のボディスラムは同じだと思ってるだろうけど、とんでもない間違いですよ。そう思うんだったら、やられてみたらいい!!（ドン）。

——とにかく、体感してみないとわからないもんなんですね。

井上　だからサップのパンチも見た目よりはダメージがあるんだろうけど、最近はなんぼ何でもヒドすぎますよ。そんなイメージを払拭するのが中邑戦だったはずなんですよ。でも、見っとたら、何か両足を揃えてのカンガルーキックみたいなに飛んだわな。

——ドロップキックをやりましたね。

井上　あれも中邑だから受けてくれたんでね、あれが他の者だったら、かわしてるぜ。言うちゃ悪いけど、俺だってかわしてるわ！

——井上さんもかわしますか（笑）。

井上　そりゃ全盛時代のマスカラスの技だったら、さすがに喰らうけどね。中邑はある程度受けてくれるからな。言うちゃ悪いけど、中邑があそこで勝ったところでダメなんだよ。やっぱりプロレスではいくら勝ったってダメ。プロレスで山あり谷ありの大流血戦をやってIWGPのタイトルを奪い返したところでダメなんですよ。そんなもんで中邑時代とは言いませんよ！

——翌日、本人は「サップとMMAはやりません」って言ってましたけど。

井上　「プロレスで勝つ」みたいなことを言ってるけども、それは新日本がプロレス団体であるし、上からの命令かもしれんけど、俺にはどうもよくわからないんだよ。プロレスで勝つとかプロレスラーとしての強さを発揮するとかじゃなくて、バードファイターとしての強さを発揮するように持っていかんと、ホントの意味での柴田、中邑、真壁の時代は来ないですよ！　まあ、真壁はもう遅いけども。

——真壁はダメですか（笑）。

井上　やっぱりバードでバーンと勝って初めてワーワー騒がれるんであってね。それが新日本プロレスを活かすということですよ。プロレスの試合でプロレスラーとして勝って、それで新日本プロレスの屋台骨を支えられると考えてるとしたら、これは大きな間違いですよ。そういう意味では、中邑とサップはみんな言うとったけど「これはプロレスの試合だし、新日の試合だし、IWGPだし、中邑が取り返すんだ」と。ただ、俺は『週刊ファイト』の中でも、どこどこのペケペケの試合は必ずそうならないよと。「必ず中邑が勝つとは限らんよ」と俺は言いたかったんだ。だいたい中邑が取り返したところでしょうがないのよね、極端に言えば。やっぱりサップに持たしとったほうが興行的にもメリットがあるし、新日にもメリットがありますよ。それを考えとったらおそらく5・3ではサップが防衛するだろうと。俺はそう読んだからぺけぺけの試合は必ずぺけぺけのほうが勝つとみんな思ってるだろうけど、そうじゃないよと書

バードで勝たない限りは、プロレスで100回勝っても中邑時代は来ないですよ。

いたのはそれなんですよ。俺がプロモーターだったらサップに勝たせるもんな！

——新日本からすれば、何回も呼びたい人気選手ですからね（笑）。

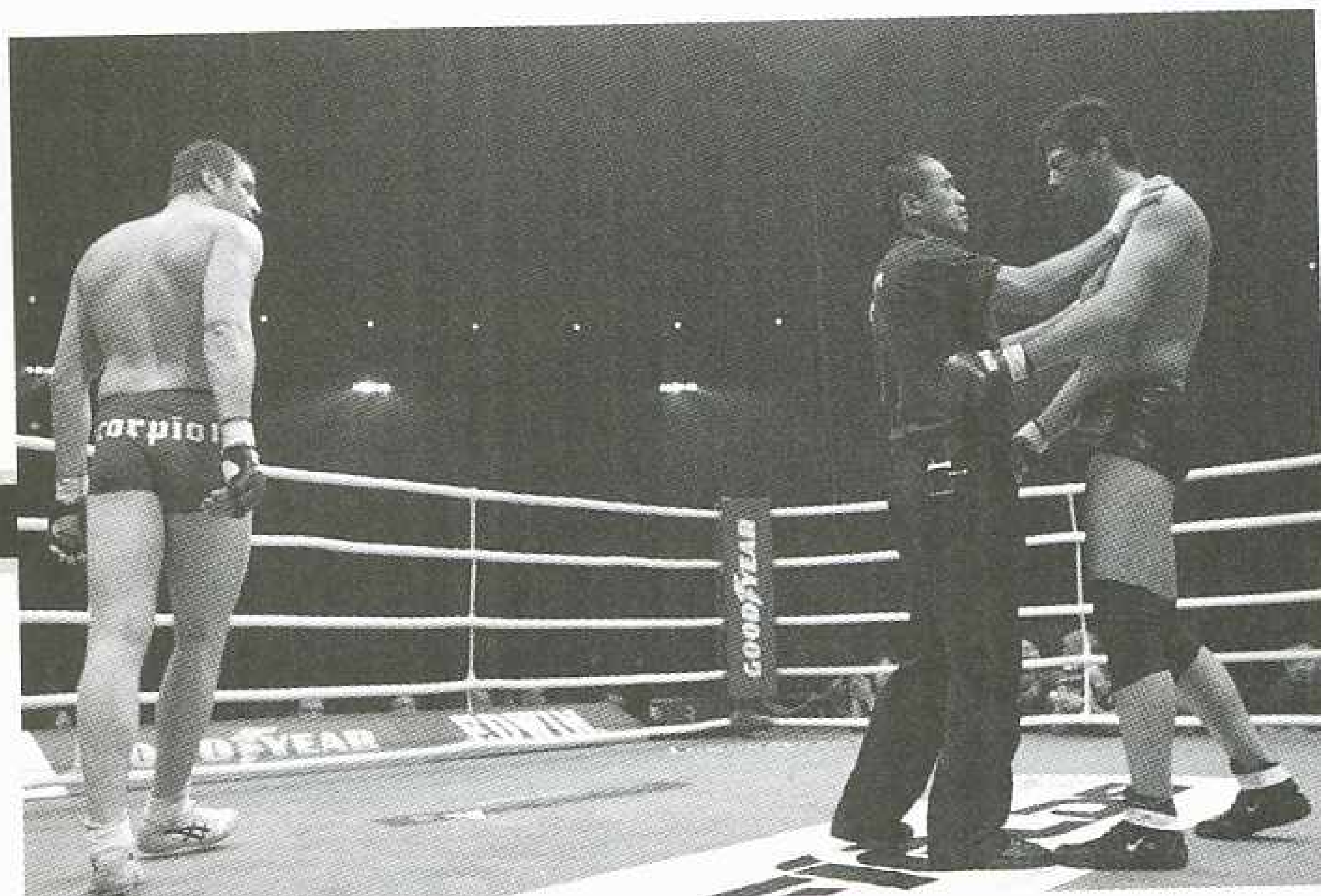
井上　だから、次の5・22で藤田とIWGPをやったってしょうがないんだよ、あんなもん。藤田が取ったところで何のメリットもないし。何の勲章にもならないしな。ただ猪木がWWEとの提携を考えてるんで、藤田を先頭に押し立てる意味ではアリですよ。

——本当に提携は有り得るんですか？　猪木さんが「WWEを助けてやらなくてはいけない」とは言ってましたけど（笑）。

井上　あれだけボロクソに言ってた猪木がね、そうじゃない言い方をしてるってことは、これは必ずWWEのほうから話が持ち込まれてるんですよ。今日も他のところにちょっと原稿で書いたんだけど、マクマホンは猪木軍団を求めちゃいない。あんなもん求めたってしょうがないわな。じゃあ、何を求めてるのかって言ったら、この前のラスベガスでヒントがあったやないか。アリとタイソンのツーショットですよ!!　どういうことか言うたらアリを握っとんのは猪木だろ。タイソンを握っとんのは石井さんだろ。だからアリとタイソンが一緒に出て来たということは猪木と石井さんが組んでやったことだ、アレ！　ということは、タイソンとアリとのツーショットを求めてるのは何かと言ったらK―1じゃないんだよな。あのショットをリング上でやりたいのはマクマホンなんですよ！（ドン）。WWEで猪木&K―1組vsWWEとの対抗戦を行ったときに、このシーンがもういっぺん出てくるだろうな。それのプロモーションビデオなんですよ、あれは。

——しかしそこまで井上さんは想像してるんですか（笑）。

井上　そういったことも考えとかんとイカン。そのときに藤田がアメリカに行くためには、ベルトを持っとらんと様にならないからね。でも、いまはタイソン、サップというのがおるんやから。藤田にIWGPのベルトを持たすことは全～然必要ないのよ！　従って5・22にIWGPのタイトルマッチをやることはない。猪木が許しても俺が絶対に許しませんよ!!（ドン）。言うちゃ悪いけど、IWGPはプロレスのタイトルだからね。それをK―1と『PRIDE』に持ち出したらダメなんですよ。プロレスのタイトルをバードの世界に持ち出したらダメ！　絶対にこれは「八百長だ」って言われるんだから。言うちゃ悲しいけど、言われなくても八百長の匂いがずっと出てくるんだ。MMAルールだっていうだけでね、サップと藤田が闘う意味があるんですよ。一体どういう試合をやるんだろうと、それだけでハッキリ言えばメインイベントが成り立つんだからな。そこにIWGPのベルトがどうのじゃかえって興ざめですよ。タイトルマッチをやるから客が来ないって時代じゃないからね。



大晦日の『Dynamite!!』のイグナショフ戦。無効試合とはなったが内容では完敗を喫した中邑。5・22『ROMANEX』ではどんな結末が待ち受けているのだろうか？

——付加価値はそれほど付かないでしょうね。

井上　昔、長州が小さな声で「ホントはタイトルマッチじゃないほうがいいんだがな」って俺に言ったことがありますよ。それはどういうことかと言ったら、タイトルマッチだったら暗黙の了解で勝つ方が勝って、やるべきこと全部やらなきゃいけない。ところがタイトルマッチじゃなかったら自分が負けてもいいし、思わぬ勝ち方をしてもいい。いきなり出て来て殴り倒して反則負けでもいい。その方が結局、迫力のある試合ができるんですよ。長州は「井上さん、アンタだったらわかるでしょう」という意味で言ったと思うよ。

——昔はタイトルマッチだったからこそ、両者リングアウトになっちゃったりするケースもあったわけですもんね。

井上　だからIWGPをK―1は有り難がるのはイカン！　これはプロレスのタイトルだから、こんなもんは知らんということでいいんですよ。中邑にしても「IWGP、IWGP」って言わんほうがいいんだよ。さっきも言ったけど、中邑時代というのは、バードで強い勝ち方をして初めて来るんであって、プロレスマッチで100回どんな強い勝ち方をしたって中邑時代は来ないですよ。すでにチャンピオンになってるんだからな、アレ。もう一回取っても中邑時代が来るわけがない！　中邑が言ってることはよくわからんけども、新日本プロレスの首脳に「こういった受け答えをマスコミに対してしなきゃダメなんだよ」って言われてることを感じるな。

——ちょっと中邑の本心は見えてこないですよね。

井上　「バードで勝たなきゃいけないんです」っていうのが中邑の本心だろうと。だからそういう中途半端なもんが5・3にもあったんだよ。

——心はイグナショフ戦に向かっていたでしょうね。

井上　ホントだったら、ああしてこうしてサップを叩き潰してやりたい気持ちもあったんだろうけど、会社の方針でそれはできないからね。

——次のイグナショフが正念場であり楽しみでありますよね。

井上　イグナショフ戦は、難しいプロレス技を使えと言っても下手に使いよったらやられるからな、ホンマに（笑）。

——ちょっとプロレス技を出すのは難しいですよね（笑）。

井上　イグナショフの進化のほうが中邑の進化より、いまのところ早いからね。だから5・3あたりでもホントのバードをやってほしかったんだけどな。これはしょうがないわな！　これはもうプロレスの団体だし、新日本の首脳だってしかめっ面をしながら中邑にそういうプロレスをさせたと思うからね。

——中邑も新日本も歩を進めた以上、前を向いて行くしかないですね（笑）。今日はありがとうございました！

井上　あいあい。

【5月某日／電話収取にて収録】

本誌 Back Number

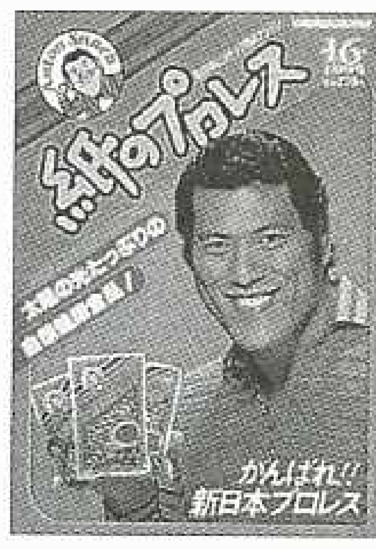


no.08 '94.01

特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！　20ページにも及ぶ大特集！

700yen⇒350yen 50% OFF



no.16 '96.06

特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！　マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！　糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

780yen⇒390yen 50% OFF

“燃える情念” 石川雄規、初の自叙伝!! '00.04



情念～夢一途なり～石川雄規

『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長・石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！　自称“世界一の猪木信者”石川社長が、あまねく全ての人に捧げる珠玉の一冊！　情念とは何かが分かる本である。

1700yen⇒900yen 50% OFF



no.13 '95.03

特集 道場破りとは何か?

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！　山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

780yen⇒390yen 50% OFF



no.17 '95.07

特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！　アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄親・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen 50% OFF

みんなで遊べる付録付き!! '01.04 完売間近



さくぼん

『PRIDE』の会場でも大人気!!　サクのすべてがよくわかる桜庭和志初のインタビュー集!　花くま先生の「サクラバの汁」、特製シールやポスター、動く必殺技「炎のコマ」「炎の人力車」、サクマシン立体組お面など付録がこれでもか! とばかりに付いています！

総238ページ

1000yen



no.14 '95.04

特集 神秘とは何か?

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen 50% OFF



no.19 '95.09

特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』を偲んで…　ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ＆高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

780yen⇒390yen 50% OFF

インタビューという名の鉄拳史 完売間近



紙の前田日明

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！　引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！

プロレス、UWF、そしてリングスとは何か？／大山倍達とは何か？／激白！　プライドとは何か？／特別対談　撃墜王・坂井三郎×前田「勝負師とは何か？」／特別対談　イエローキャブ社長・野田義治×前田「巨乳とは何か？」／『バカの壁』著者・養老孟司×前田「脳みそとは何か？」／大和魂檄談・エンセン井上×前田　他、珠玉のインタビュー＆対談が多数収録!!

1575yen



no.15 '95.05

特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰？　山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－とは何か？　石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー

780yen⇒390yen 50% OFF

極真魂溢れる16人を直撃! 完売間近



極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

1530yen⇒800yen 50% OFF

---

no.58 表紙 武藤&船木 '03.01 / 880yen

新春特大号!!「明日、また生きるぞ!」な対談の大連発!!

- ●夢幻のファンタジー対談　武藤敬司×船木誠勝
- ●Uスタイル対談　田村潔司×高阪剛
- ●Uインター座談会　宮戸×安生×鈴木健
- ●カルガリー師弟対談　ミスターヒト×ハシフ・カーン

no.59 表紙 ヒョードル '03.02 / 880yen

吹けよ!呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!

- ●いざノゲイラ戦!!　E・ヒョードル
- ●アメリカン・ドリーム　ダスティ・ローデス
- ●爆発!!　WJマグマ語録
- ●吉田道場の秘密兵器　中村和裕
- ●UWFの再興と再考　田村潔司

no.60 表紙 ヒョードル '03.03 / 880yen

英雄、変貌好む!!『PRIDE』RE・BORN!!

- ●ノゲイラ撃破!!　E・ヒョードル
- ●驚愕の格闘芸術対談!!　武藤敬司×須藤元気
- ●あのマーシーがすべてを告白!!　田代まさし
- ●全日本中継の真実!!　倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04 / 880yen

5・2仁義ある闘い!! やっちゃうぞバカヤロー!!

- ●裏番組をブッ飛ばせ!　橋本真也×小川直也
- ●1年間の沈黙を破った!!　ヴォルク・ハン
- ●プロレス・格闘技クロスオーバー対談　エンセン井上×金原弘光
- ●リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05 / 880yen

誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!

- ●ヴァーと笑顔で初登場!!　佐々木健介
- ●現役復帰間近!?　船木誠勝
- ●藤田と新日を一刀両断!!　E・ヒョードル
- ●新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲(イラスト) '03.06 / 880yen

吉田秀彦が大英断! ミドル級GP出陣!

- ●「お前は男だ」劇場炸裂!　高田延彦
- ●『PRIDE』REBORNを大総括!!
- ●憂国の虎　ザ・マスク・オブ・タイガー
- ●芸能界一の川田番　ダチョウ倶楽部

no.64 表紙 桜庭&田村 '03.07 / 900yen

灼熱の『PRIDEミドル級GP』直前号!!

- ●“異次元格闘技戦戦”　田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
- ●『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー
- ●ミスター高橋の盟友が放つ“猪木の裏側”
- ●スマックガール・ビキニ特写!!

no.65 表紙 ミルコ '03.08 / 880yen

ヒョードル×ミルコ、闘争本能世界一決定戦!!

- ●“最後の皇帝”燃え上がる!　ヒョードル
- ●“反逆の妖刀”、遂に皇帝へ!!　ミルコ
- ●吉田秀彦戦の“謎”に迫る!　田村潔司
- ●闘魂ストーカーを捕獲!　イズマイウ

no.66 表紙 ミルコ '03.09 / 880yen

ミルコ、『武士道』電撃出陣! もはや誰にも止められない!!

- ●緊急独占インタビュー!　ミルコ
- ●マッハの野望を砕いた“赤い暗殺者”登場!!　長南亮
- ●“天才空手少年”VT秒殺デビュー!!　中嶋勝彦
- ●『東スポ』とは何か?　柴田惣一

no.67 表紙 シウバ&吉田 '03.10 / 880yen

吉田とシウバ、いざ激突!! 衣(ギ)は赤く染まるか!?

- ●ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー!　ミルコ
- ●“柔術超獣”復活へ!!　ノゲイラ
- ●『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー
- ●アントン“疑惑の時代”を知る男　加治将一

no.68 表紙 高田&桜庭&曙&猪木 他 '03.11 / 880yen

人類史上稀にみる“大晦日・格闘技大戦”!! 白黒ハッキリ決めようやーッ!!

- ●大晦日三つ巴決戦に出撃宣言!　高田延彦
- ●横綱がK-1に殴り込み 曙とは何者か!?
- ●一年ぶりの勝利で ニコニコインタビュー　桜庭和志
- ●“野良犬”『紙プロ』初登場!　小林 聡

no.69 表紙 OH砲 '03.12 / 900yen

大晦日・格闘技大戦&1・4プロレス戦争直前!! 年末年始もドゥ・ザ・ハッスル!!

- ●出てこい!　泣き虫!!　橋本真也&小川直也
- ●『泣き虫』著者登場!　金子達仁
- ●大晦日直前インタビュー!　田村潔司
- ●アイ アム リアルプロレスラー　美濃輪育久

no.70 表紙 ミルコ '04.01 / 880yen

年末格闘技大戦&1・4プロレス戦争大総括!! OH、ゴーバー登場!『ハッスル』とは何か!?

- ●PRIDE征服宣言!　ミルコ
- ●シウバに宣戦布告!　近藤有己
- ●ド真ん中の真実を語る!　佐々木健介&北斗晶
- ●発表!　紙プロ大賞&マット界語録2003

no.71 表紙 OH砲&高田 '04.02 / 880yen

プロレスよ、踊れ! 3・7『ハッスル2』は大フィーバー!!

- ●『PRIDE GP』優勝宣言!　ミルコ&ノゲイラ
- ●待望の『紙プロ』初登場!　川田利明
- ●理想のプロレスを追い求める!　AKIRA
- ●スクープ!　幻の猪木vsアミン戦の真実!!

no.72 表紙 ミルコ&ヒョードル&ノゲイラ '04.03 / 840yen

最強への求道者たち全員集合!! PRIDE・GPに格闘ロマンを見よ!!

- ●GPの大本命をオランダでキャッチ!!　エメリヤーエンコ・ヒョードル
- ●第二のミルコとなるか!?　ステファン・レコ
- ●K-1に暴力を持ち込んだ男　山本KID徳郁
- ●全て見せます!!『突撃!　佐々木健介邸』

no.73 表紙 小川直也 '04.04 / 880yen

暴走王が忘れたころにやってきた! PRIDE・GPでハッスルするぞ!!

- ●GP出場決定、緊急インタビュー!　小川直也
- ●PRIDE・GP出場全選手パーフェクトガイド
- ●キックの名伯楽登場！　伊原信一
- ●魔界のニューリーダー　村上和成

通販申し込み方法

▼バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません。

★電話注文 03-3403-5142
★メール注文(代引きになります)
kapra@kamipro.com
★郵便振替
00130-3-769154
(株)ダブルクロス
★携帯サイトからも購入できます
★代引きについてはP160を参照してください。

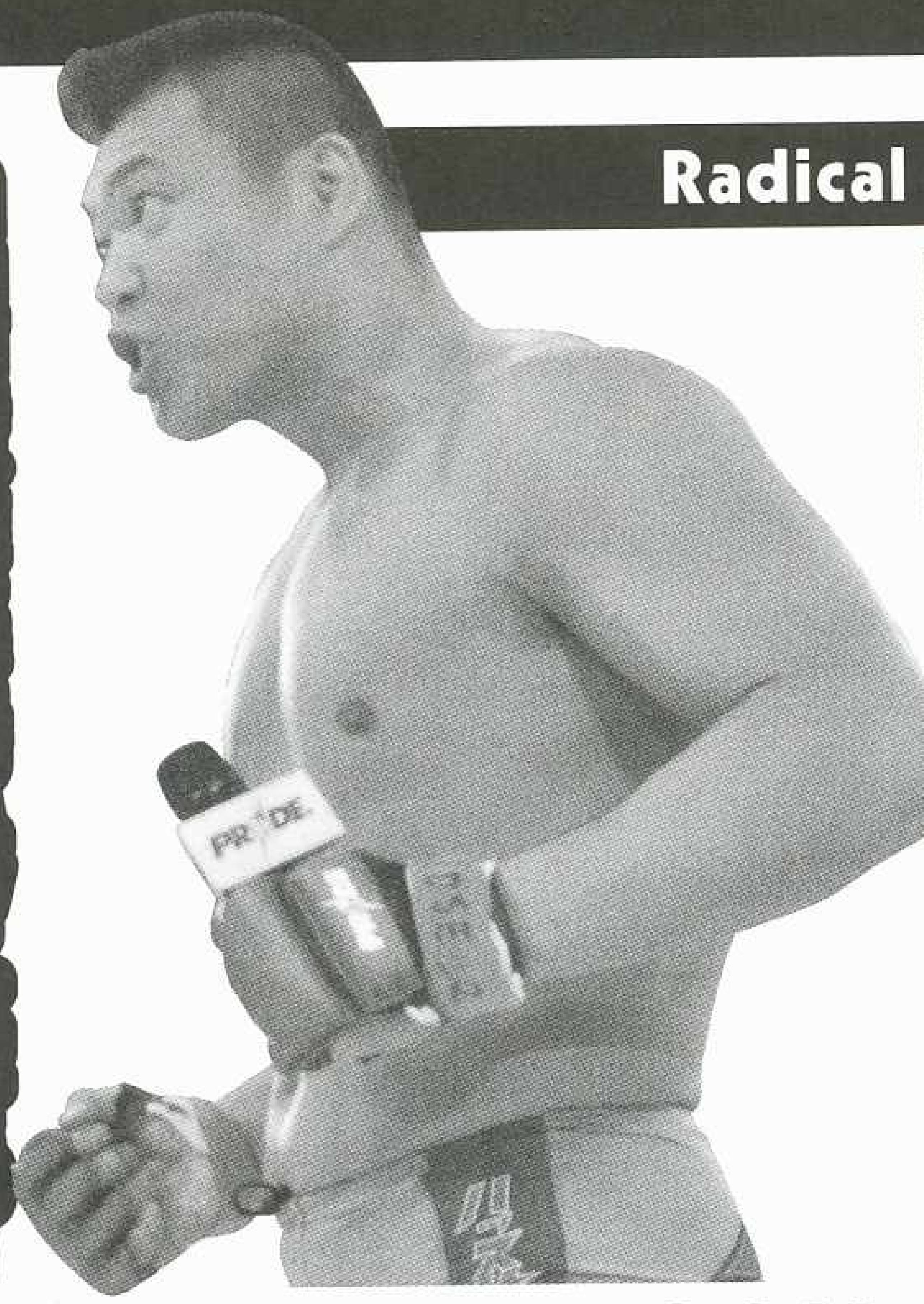
▼郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記して下さい。
※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

▼送料
1冊＝310円、2冊＝380円、
3冊～4冊＝450円
5冊＝520円、6冊以上＝700円

紙のプロレスRadical 常備店

- ■アイドール新宿店
- ■新宿ファイター
- ■大山アメリカン
- ■プロレスマニア館
- ■チャンピオン
- ■リングスパレス
- ■バディスラム
- ■タコシェ
- ■レッスル池袋
- ■書泉ブックマート
- ■書泉ブックタワー
- ■書泉グランデ
- ■グレートアントニオ
- ■東京イサミ

いつ何時、誰とでもハッスルする！
“ハッスル柔道王”
小川特集!!



Radical Back Number

BACK NUMBER

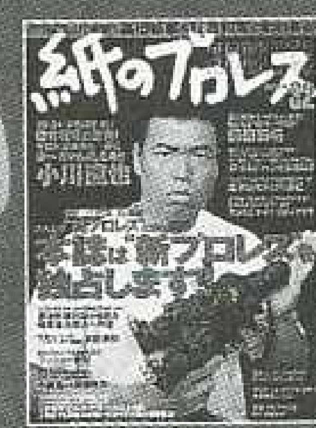
オーちゃんの闘いの歴史は、こちらのバックナンバーでまる分かり!



no. 15 リアル・アルティメット・クラッシュ！ 小川vs橋本“1・4事変”を小川が語る!!

- ●あの“1・4事変”を徹底大検証!!
- ●“前田日明・最後の相手”アレキサンダー・カレリン
- ●引退記念雑談会「語ろうマサ・サイトー!」
- ●『S多重アリバイ』 佐野なおき

'99.02 / 840yen



no. 32 小川が佐竹と大激突！ 小川、格闘界&プロレス界に咆哮三昧!!

- ●『PRIDE.11』直前! 桜庭和志
- ●田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ
- ●永久保存! ドラゴンの大爆笑語録集
- ●プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村

'00.10 / 840yen



no. 34 『猪木祭り』でも乱闘三昧！ 小川、激白！ プロレスは闘いを忘れたときに老いていく！

- ●桜庭和志、二日酔いインタビュー!!
- ●プロレススーパースター列伝 ミスターヒト
- ●修斗から『猪木祭り』へ! 宇野薫
- ●ロシア幻想大爆発! ヴォルク・ハン

'01.01 / 840yen



no. 37 暴走王が純プロレス最後の砦を急襲！ 小川、三沢戦翌日に大咆哮！

- ●「小川、長州を殺っちゃえ!」橋本真也
- ●博打、相撲、自殺…安田忠夫が全てを語る!
- ●村上和成×小路晃、同級生対談!
- ●山本宜久×成瀬昌由、同期対談!

'01.04 / 840yen

バックナンバーは電話で注文できます!!

03-3403-5142

【平日PM3：00～10：00 （株）ダブルクロス】

---

no.16 表紙 エンセン井上 '99.03 / 780yen

格闘ノストラダムス!! エンセン表紙初奪取号!!

- ●環境問題を『紙プロ』で語る!! アントニオ猪木
- ●完全無欠の怪物!! 語ろうジャンボ鶴田
- ●相撲多重アリバイ 石川孝志
- ●マーク・コールマン

no.24 表紙 アレク '00.02 / 840yen

ノゲイラ、ダンヘン、田村、コピィロフが登場!! 伝説のKOK決勝トーナメント直前号!!

- ●リングスロシア幻想を掘り起こせ!!
- ●『紙プロ』的視点から送る「語ろう船木 vs ヒクソン!」
- ●驚ガクのUFO対談 サスケ×矢追純一
- ●ターザンが有刺鉄線デスマッチを敢行!?

売り切れ寸前!!

no.29 表紙 秋山準 '00.07 / 840yen

「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア勢フルメンバーで登場!!

- ●三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
- ●プロレススーパースター列伝 仲野信市
- ●本誌独占ジャンボ鶴田夫人 最愛の夫の真実を語る!!
- ●TKおかん

no.30 表紙 小川&村上&アントン '00.08 / 840yen

サクvsヘンゾー戦直前! 燃えよ！ 闘魂の火種!!

- ●平成のテロリスト 村上一成
- ●ケンドー・カシン暴言ファイル
- ●プロレススーパースター列伝 永源遙【前編】
- ●長州力座談会

売り切れ寸前!!

no.35 表紙 サクマシン（イラスト） '01.02 / 840yen

「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号

- ●ZERO-ONE本格始動 橋本真也
- ●プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
- ●“ノアの怪物”杉浦貴
- ●UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也（イラスト） '01.02 / 840yen

新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!

- ●ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!
- ●ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言
- ●W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
- ●吉田豪に“ドラゴンの呪い”が襲う!!

no.38 表紙 高田（イラスト） '01.05 / 840yen

小川と長州、どちらが孤独だったのか!?

- ●忘れ物の正体は――。高田延彦
- ●ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル
- ●プロレススーパースター列伝 阿修羅原
- ●死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明 '01.06 / 840yen

どうなるんだ、リングス! 前田 is デッド!?

- ●前田道場新エース・金原弘光
- ●怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会
- ●壮絶なる格闘人生・藤原敏男
- ●プロレススーパースター列伝・田上明

no.40 表紙 アントン総帥 '01.07 / 880yen

猪木軍vsK-1に見たいものは“地上最強のプロレス”

- ●蘇れ!Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光
- ●熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎
- ●プロレススーパースター列伝 グラン浜田
- ●グラバカの核弾頭 郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン '01.08 / 880yen

Can you カミングアウト? “最後の黒船”WWF襲来!

- ●リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る
- ●真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!
- ●W☆INGの真実・茨城清志
- ●毒舌知能犯 秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09 / 880yen

猪木なら何をやっても許されるのか!?

- ●ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- ●“ヒャッホーの真実”辻よしなり
- ●蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- ●誇り高きルチャ戦士 カト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭和志 '01.10 / 880yen

サクと『PRIDE』のケツに火がついた!!

- ●ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー
- ●大谷晋二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
- ●金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会
- ●野武士が語るんだよな 中野巽耀

no.44 表紙 桜庭&シウバ '01.11 / 880yen

サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?

- ●その修羅場の数々! シーザー武志
- ●怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴
- ●ハンス・ナイマン&ディック・フライ
- ●闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥 '01.12 / 880yen

「K-1vs猪木軍」命懸けのエンターテイメント!!

- ●悪魔の書、現る! ミスター高橋
- ●ジェラルド・ゴルドー人生相談
- ●プロレススパースター列伝 グレート小鹿
- ●語録で振り返るマット界2001

no.47 表紙 ビンス・マクマホン '02.02 / 880yen

WWE日本侵攻5秒前!

- ●“天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!
- ●噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!
- ●第一次リングス閉幕特集
- ●プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03 / 880yen

見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!

- ●奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー
- ●和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光
- ●伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン
- ●WWEを知る男 ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ&ヒクソン&小川&桜庭 '02.04 / 880yen

究極の格闘技大戦争勃発!! マット界灼熱の噂!

- ●和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田
- ●アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?
- ●破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行!
- ●ビッシビシいくわよ!! 小畑千代

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05 / 880yen

サクが笑えば、世界が笑う!!

- ●「地方発世界」開始! 小川直也&橋本真也
- ●リングスロシア軍団の軌跡
- ●パンクラス取材解禁! 菊田、“尾崎の野郎”が登場!
- ●ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

no.51 表紙 橋本真也 '02.06 / 880yen

ZERO-ONEに願いを!

- ●両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也
- ●『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子
- ●天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談
- ●新・超獣 ザ・プレデター

no.52 表紙 OH砲 '02.07 / 880yen

見えない鎖を引きちぎれ! 小川直也リング外での暗闘!!

- ●全身プロレスラー・高山善廣
- ●USAの渡世人ドン・フライ
- ●『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム
- ●戦慄の『LEGEND』前夜!

no.53 表紙 桜庭和志 '02.08 / 880yen

世紀のビックイベント『Dynamite!』直前大解剖!!

- ●ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久
- ●独占肉弾スクープ! マット・ガファリ
- ●爆裂! 川村社長ガチンコ語録!
- ●偽造王の知られざる半生! 一宮章一

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08 / 880yen

不平等の時代を克服した英雄ノゲイラ!!

- ●“首の皮一枚”ホイス&エリオグレイシー
- ●“青い目のケンシロウ”ジョシュ・バーネット
- ●純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
- ●猪木とは何か? アントン実兄・猪木快守

no.55 表紙 高田延彦&田村潔司 '02.09 / 880yen

高田×田村!! 夢幻大の真剣勝負が実現!!

- ●「真剣勝負」発言から7年!! 田村潔司
- ●実力者、遂に『PRIDE』登場! 金原弘光
- ●メガトン級の強さと面白さ!! ボブ・サップ
- ●靖国神社で興行開催!! 佐山聡

売り切れ寸前!!

no.56 表紙 Uインター '02.10 / 840yen

愛すべき若気の至り!! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!

- ●田村戦直前!! 高田の覚悟を読み解け! 高田延彦
- ●蘇れ! Uインター伝説!! 安生&金原&高山
- ●高田×田村、観る側の覚悟!! 浅草キッド
- ●『紙プロ』に風がふくぜぇ～! 鈴木みのる

no.57 表紙 高山善廣 '02.11 / 840yen

一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!

- ●サップと地球規模のタイマン勝負!! 高山善廣
- ●新たなる“U”が始動!! 田村潔司
- ●悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ
- ●“北尾戦・セメントマッチの真実”ジョン・テンタ

6・20『PRIDE・GP準決勝』から
リベンジロード開幕へ!!

こんな大人になっちゃいけない……!?



WJから小川直也、
そして胆石までも
語り尽くし!!

大日本帝国　掣圏会館皇帝

佐山サトルの近況報告

久々の『紙プロ』登場となる“大日本帝国・掣圏会館皇帝”佐山サトル。その間、佐山はザ・マスク・オブ・タイガーとして全日本プロレスやみちのくプロレスに出場したかと思えば、初代タイガーとしてWJにも参戦。4・25WJ横浜大会では長州力と初激突！　WJ&長州力から、かつて行動を共にした小川直也、さらには胆石の苦しみまで、佐山サトルの近況を報告しま〜す！　押忍!!（敬礼）

聞き手／中村カタブツ君（41歳）　撮影&構成／松澤チョロ　designed by nogu（Two three）

新宿・京王プラザで行われたこの取材、待ち合わせのロビーにやってきた佐山さんは編集部の人間を見かけると、いきなり右手をピッと挙げてハイル・ヒトラーのポーズでご挨拶！　つられて取材陣も同じポーズを取るのであったが……。

佐山　うふふ。ダメだよ、そんなポーズしちゃあ。ここは外人さんいっぱいいるんだからさぁ、怖い怖い。

――いや、佐山さんがやるから（笑）。

佐山　危ない危ない、この人たち（笑）。

――なんかお元気そうですねぇ（笑）。プロレスでもかなりご活躍してますし。

佐山　活躍してないよぉ。あ、でも、今度は凄いよぉ。みちのくで何連戦かするから。そこでね、この携帯ストラップを売ろうと思ってるの（といって取り出したストラップには〝●●●〟の文字が！）

――●●●って（笑）。

佐山　凄いでしょう（と言いながら、また右手を挙げる佐山さん）。

――もう勘弁してください（笑）。今日はですね、佐山さんの近況を含めつつ、プロレス＆格闘技界のことを聞こうと思ってるんですけど、この取材のあとに何か会合があるんですよね。

佐山　そう。このストラップをあげる人が来るような会合（笑）。これはその人のために作ってもらったの。でもね、ちゃんとした人ですよぉ。

――これまで同様、極右の活動もキチンと行ってるんですね。

佐山　そ！　それが僕の仕事だからね。

――プロレスのほうはいまＷＪに上がられてますよね。

佐山　で、５月17日から22日まで、みちプロで九州のほうに行ってきますよ。

――ちゃんとシリーズ回るんですか？

佐山　健康にもいいし、思いっきり頑張りますよぉ。

――思いっきり頑張ってください（笑）。でも、ここ最近はＷＪにしても犬猿の仲だった長州さんとも一緒にやってるんですよね。

佐山　やめてよぉ、犬猿の仲じゃないって。なんでみんな犬猿の仲にしちゃうのぉ。そんなことないで～す！

――99年の１・４東京ドームでの小川vs橋本戦では、新日勢とＵＦＯ勢が大乱闘になったじゃないですか。

佐山　だって、あの時、長州さんとは揉めたと思ってないもの。俺が原因じゃないもの。ホント、まいるよねぇ。



久々に顔を合わせた佐山皇帝と中村カタブツ君。「プロレスの話は、ほんの少しでいいんで、思想の話をいっぱい載っけといてくださ～い」と微笑む佐山。取材翌日、驚ガクのメールが……

――でも、小川さんをけしかけたのが佐山さんだったんでしょ？（笑）

佐山　違う違う違う。

――試合中にレフェリーの身体を羽交い絞めにして、小川さんが橋本さんを叩きのめすのをアシストしたでしょ？

佐山　それはやってました（笑）。

――長州さんにも挑発してたし。

佐山　だって、それはやらないと会場がおかしくなっちゃうじゃない？　僕は別に仕事だと思ってやってるから。でも、おかしいのがさ、控室帰ったら、長州さ

長州さんとは犬猿の仲じゃないって！なんでみんな犬猿の仲にしちゃうのぉ

SATORU SAYAMA

ん、僕をズーッと避けて行くんだもん。「あれ？」って思ってさ（笑）。あの試合は、ホントに途中からバーッとなって話が違うなぁって。

――いや、素晴らしいじゃないですか、ナチュラルで。

佐山　素晴らしくないよ、試合外だもん。選手同士が堅くやりあうのはしょうがないと思うよ。それはしょうがないけど、リングの外でセコンドの顔面蹴っちゃダメだよね。あの蹴られた彼、誰だっけ？

――村上和成さん！

佐山　あ、そうそうそう。

――「あれ誰だっけ？」って（笑）。まあ、そんなこともあった長州さんとも、いまやリング上で肌を合わせるようになってるみたいですけど。

佐山　なんともないですよね、別に。

――そりゃなんともないでしょうね、佐山さんは（笑）。でも、長州さんとの試合は評判いいですね。

佐山　ありがとうございますぅ。

――面白かったですか？

佐山　面白い面白い。リング上で見るとやっぱり迫力あるなぁって思ったよね。長州さんが歩いてるところを見た時、デカイなぁって思ったんだから。あの身体で、よくあれだけ動けるなって思ったよ。

――佐山さんも、石川社長とのタッグだったんで、あんまり試合しないかなって思ったら結構からんでいったんですよね。

佐山　そうそうそう。試合前、石川君には「今日は９対１ね」って言ってあったんだよね。

――もちろん１が佐山さんですよね。

佐山　そうそう。

――でも、６対４ぐらいは出てたみたいですね、きちんとサソリ固めも受けてたし。ただ、ラリアットはもらわなかったみたいですけど。

佐山　うん。バーンとやる受け身取りたくないからね。

――後ろ受け身は取りたくない、と（笑）。

佐山　ウソだよぉ。うふふ。

――なんか、今日はいつも以上にいい加減なことばっかり言ってますねぇ（笑）。ちなみに、佐山さん、気が付くと全身コスチュームになってますよね。

佐山　あ、それには理由があるの。俺さ、ずっと腰が痛いって言ってたじゃん。それ胆石からだったの。

――今度は藤波さんみたいなことを言い出した（笑）。

佐山　胆管が詰まってたんだもん。この何ヶ月間、もう立てないぐらいヒドくて、長州さんとの試合の一週間ぐらい前に取ってもらったの。そしたら、ピタっと治って腰の痛みも全部取れたの。それで、ようやく動けたっていうことですね。

――ようやく動けた（笑）。

佐山　その前はヒドかったよぉ。トシちゃん（日本人初のムエタイ王者である藤原道場の藤原敏男）のところに練習に行っても強く蹴れないの。そんなヒドイ状態が２ヶ月ぐらい続いてたからね。

――じゃあ、全身タイツでもしょうがないんですね？

佐山　うん。だから、病気療養を兼ねての試合だよねぇ。うふうふうふ。

――療養って！　ホント、いちいち最低ですね（笑）。

佐山　でも、石の苦しみって知らないでしょ？　石があるのに試合に出なきゃいけないって苦しみはさぁ。

――だけど、藤波さんなんか10年以上そんな状態で我慢してたみたいですよ。

佐山　藤波さん、そんなに我慢してたの

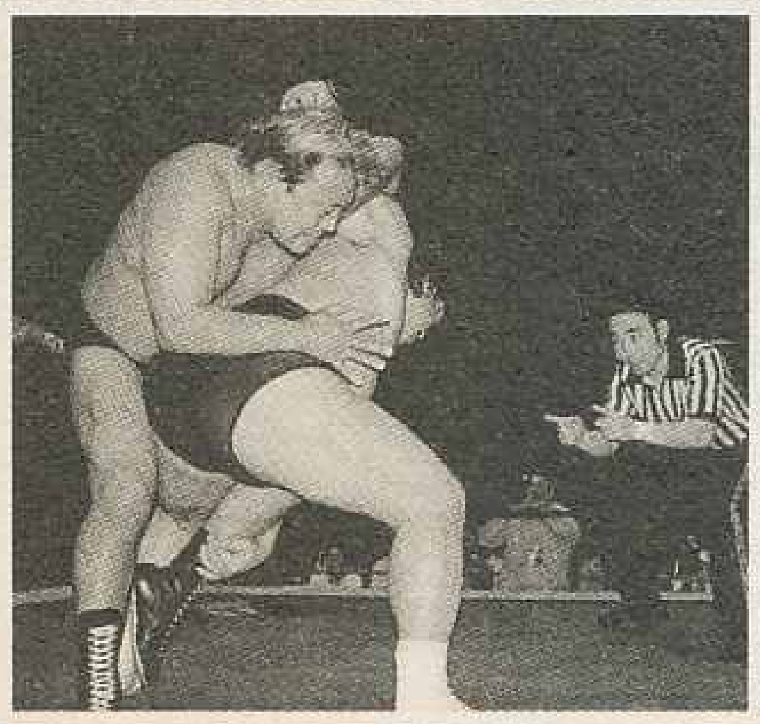


佐山タイガーのセコンドには６月の韓国ＶＴ大会に出場する桜木裕司と５・28パンクラス後楽園大会で

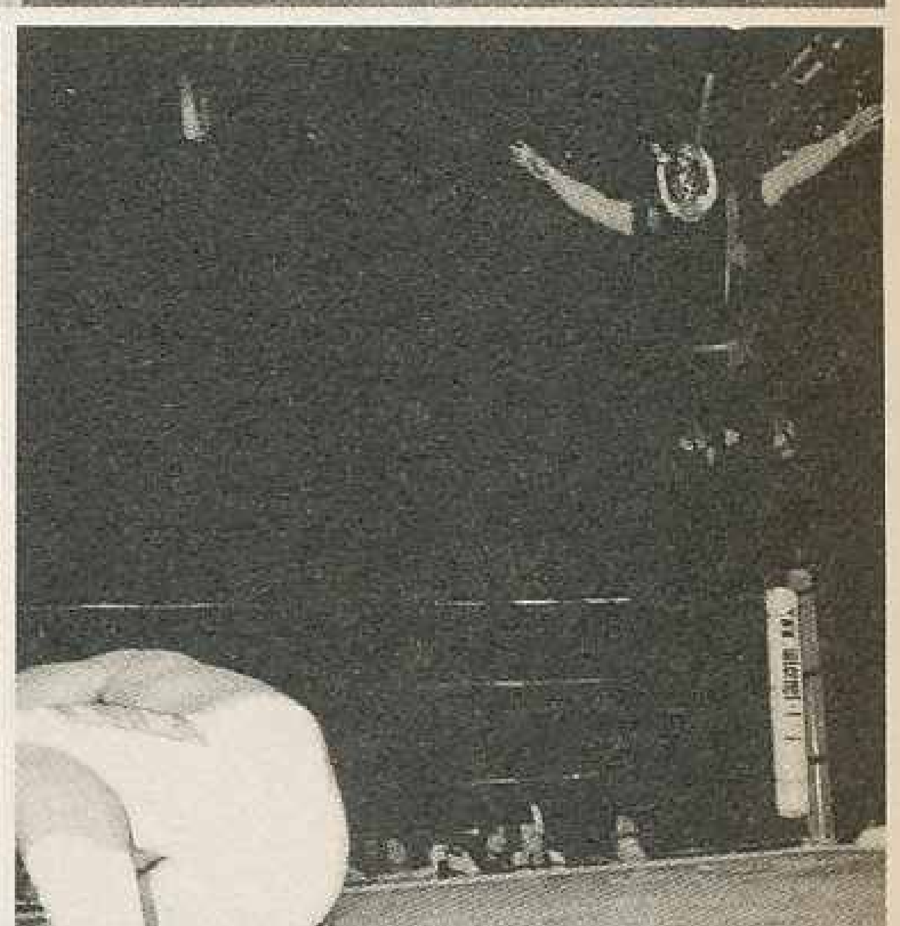


裏『PRIDE』、4·25WJ横浜大会で 佐山タイガーと長州が初激突!!





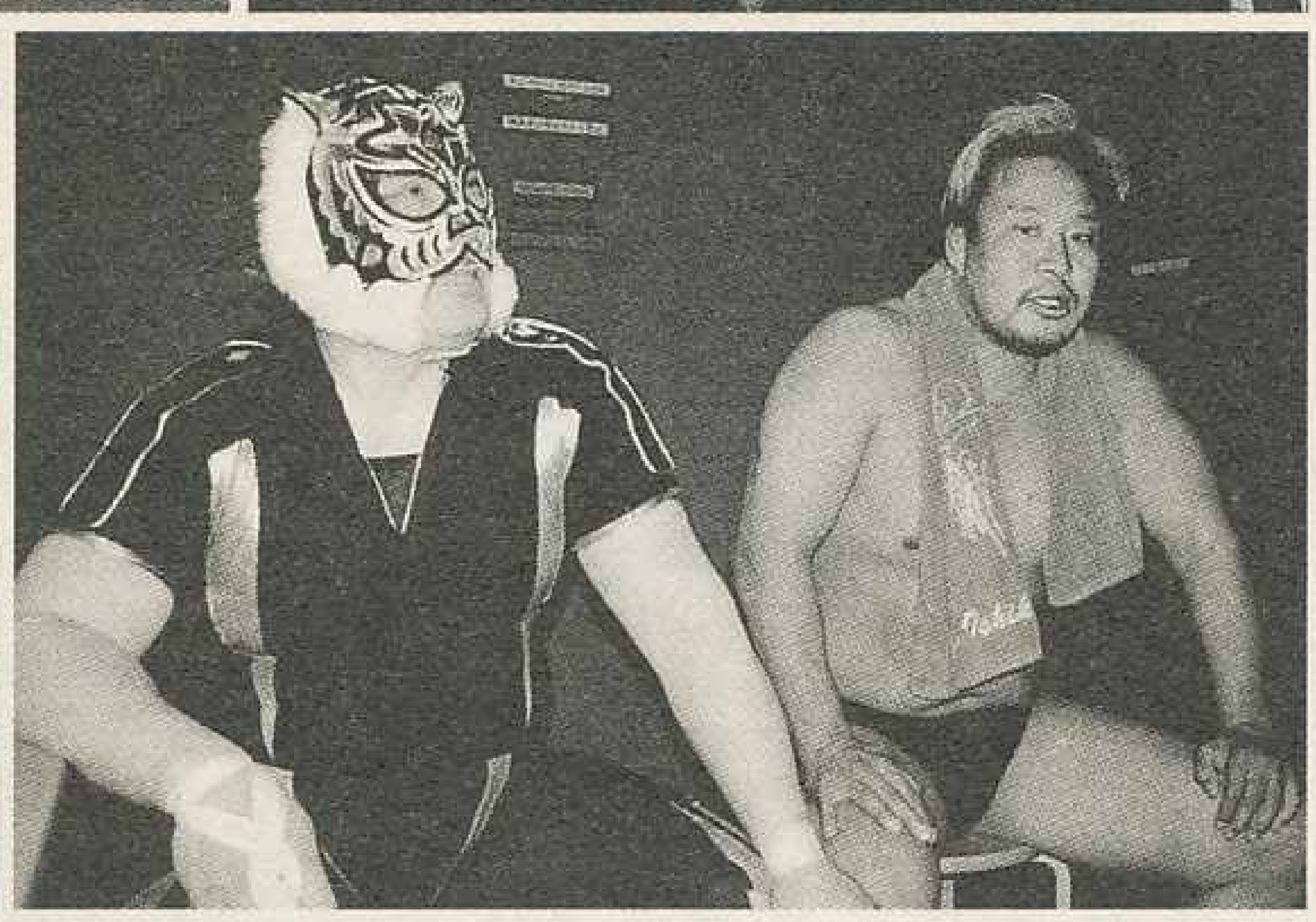




4·25WJ横浜大会は、同日行われた『PRIDE·GP開幕戦』やNOAH武道館大会と同じく超満員の大盛況(もちろんキャパは違うが)。この日の目玉は、なにげに初対決となる長州と佐山タイガーの絡み。リングのド真ん中で長州と佐山の2人が向かい合うと場内からは大歓声。佐山が鋭い蹴りを放てば長州もサソリ固めで反撃。佐山のパートナー石川も猪木モード全開で長州にコブラツイストや腕折りを見せハッスルするも、最後はリキラリアット2連発の前に轟沈! シングルでもう一丁ッ!!



試合後の長州は、この日、5·5川崎球場での一騎打ちを直訴した金村には「何もコメントすることはない」と素っ気なく語ったが、佐山タイガー、石川に対しては「またやりたい。タイガーマスクと絡めて良かった」と満足げな表情を浮かべた



試合後の佐山は「あの重圧のプレッシャーにはビックリしました。なんか全身馬力って感じがしました」と長州について語ると、石川は「久々の昭和バージョンでいって逆ラリアットで沈めようと思ってたんですけど。長州力、つけ回しますか!?」と不敵な笑み



佐山タイガーのセコンドには6月の韓国VT大会に出場する桜木裕司と5·28パンクラス後楽園大会で山宮恵一郎と対戦する瓜田幸三(写真)という2人の弟子の姿が。しかし、佐山は「セコンドに付くかって? ボクは付くつもりはありませ~ん」

んな状態で我慢してたみたいですよ。

佐山 藤波さん、そんなに我慢してたのォ。でも、僕は腰のほうまで来てたんだよ(ちょっと偉そうに)。

——藤波さんも腰に来てたんですけど。

佐山 じゃあ、一緒だ、一緒だ。いまは動けるよ。全然違うよ。だから、5月、6月になったら上は脱ぎますよ。その頃にはちゃんと練習できるから。いままではホント練習できてなかったからね。

——でも、明日から5月ですよ、もう(笑)。

佐山 だから、5月17日のみちのくから。

——あと2週間ちょっとしかないじゃないですか!? もう、佐山さんは信用できない。絶対に痩せない(笑)。

佐山 痩せる痩せる。

——本当かなぁ。で、話をWJに戻しますけれど、そもそもは永島さんとのつながりで上がるようになったんですよね。

佐山 そう。永島さんが頼んできたからね。その時、いろいろ団体のこととか相談されたんだけど、「へぇ~」って聞いてたけどね。

——永島さんは佐山さんの言葉で凄いラクになったって言ってましたね。

佐山 そういう精神的なことを僕はいまやってるからね。

——永島さんにカウンセリングをしたんですか?

佐山 うん。カウンセリングは普通の人にもやるよ、俺は。あ、知らないのぉ。いま僕は催眠術もやるんだよぉ。

——え! 永島さんに催眠術までかけたんですか!? (笑)

佐山 そこまではしなかったけど、柔らか~く柔らか~くしてあげたの(笑)。

——頭と心を柔らかくしてあげたと(笑)。もともと永島さんと佐山さんは、ティグレ、お父さんと呼び合うような仲なんですよね?

佐山 ま、くされ縁だね。20年以上だもん。僕が新日入った時は永島さんは

でも、ここ最近はWJにしても犬猿の仲

おかしいのがさ、控室帰ったら、長州さ

ですね、きちんとサソリ固めも受けてた

——だけど、藤波さんなんか10年以上そ

胆石は痛いよぉ。バカにしてるけど、1回なってみればいいんだよォ！

『東スポ』の記者だったのかな。俺の本まで作ったんだよ。なんだっけ、『いきなり王者。』とかいう本だったかな。

—記者時代の永島さんはどんな方だったんですか？

佐山　人のいいオヤジだよぉ。

—なんで、お父さんというぐらいの深い仲になったんですかね。

佐山　いや、誰にだって言うでしょ？　年を取った人の良さそうな人だったら、「オトウサン、オトウサン」って。

—あ、そういうオトウサンだったんですか（笑）。

佐山　そうだよ。だって、ウチの選手にはオジサンって言われてるよぉ（笑）。

—佐山さんの話は、つくづくちょっとイイ話って感じにならないですね（笑）。

佐山　そうだねぇ。うふ。

—新日時代の永島さんとは、UFOの時にお付き合いがあったんですね。

佐山　そうそうそう。UFOの時は猪木さんと僕とオトウサンで、いろいろと画策してたんだから。

—ただ、UFOと新日の合同興行の時には、ポスターの件で一度揉めたんですよね。

佐山　あの時はシメたりしましたけどね（笑）。だって、「シメろ！」って猪木さんが言うんだもん。

—シメろって（笑）。あの件はポスターのコピーを「猪木イズム」って入れる予定が、新日側が「猪木ドリーム」って入れてきたことが発端だったんですよね。

佐山　だって、「猪木ドリーム」じゃ全然意味違うからね。それで、猪木さんが「あいつら殴っちゃえ」って言うんだよぉ。まいっちゃうよ、もう。

—UFO話はホント面白いですね（笑）。そういうのもありながら、永島さんとは続いているんですね。

佐山　別に仲悪くならないからね。

—そういえば、修斗時代に小林邦昭さんと試合したじゃないですか。あれも永島さんからのオファーですよね。

佐山　そうそうそう。

—あの試合、小林さんを蹴りでKOするというヒドいことしましたよね、佐山さん（笑）。

佐山　あれは事故だって（笑）。

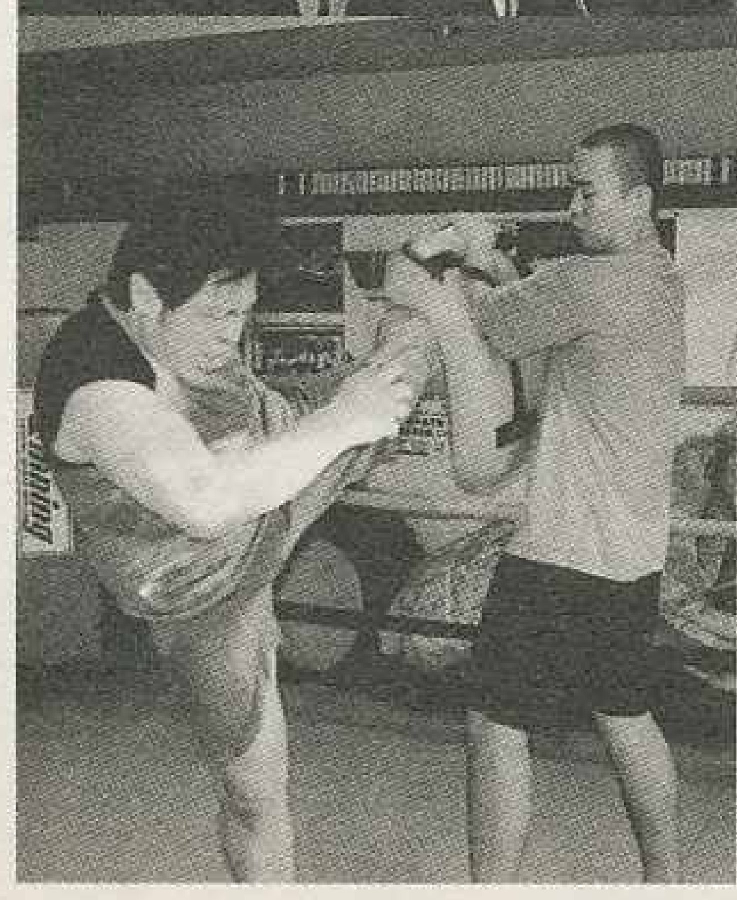
—でも、なんか、永島さんの顔にドロを塗るようなことばっかりしてるような気がしますけどねぇ（笑）。

佐山　だから、謝り通したんだから、ホントにもう。永島さんも「しょうがねえなぁ」って言ってたしさ（笑）。

—まあ、そんなお付き合いの中で、今回は佐山さんが一肌脱いだわけですね。

佐山　一肌脱ぐっていうか、ただ、やってるだけだよぉ。





3・1WJ後楽園大会で中嶋勝彦と対戦した佐山タイガー。中嶋クンの良さを十分に引き出した佐山が最後は丸め込んで勝利を収めたが、その陰では胆石との闘いもあったという。下は同時期、痛みを堪え藤原道場でミットを蹴る佐山

—あ、そうですか（苦笑）。でも、中嶋クンとのからみは良かったんじゃないですか？

佐山　うん。「中嶋クンを売ってくれ」って言うからさ。「プロレス界にスターを作ろうよ」ってことでやったんだけどぉ、いま彼、辞めたんでしょ？　か〜わいそー。うふうふうふ。

—楽しそうですねぇ、佐山さん（笑）。あの試合後、「中嶋クンがいたらWJも安泰だ」って言ったんですよね。

佐山　うん。言った言った。でも、辞められてるんだもんねぇ（笑）。

—中嶋クンはタイガーマスクの再来とまで言われてましたけど、結局、初代タイガーの方が残っちゃいましたね（笑）。

佐山　俺、WJに入ってないって。「出て」って言うから出てるだけですからね。で、今度、みちのくでしょ？

—4代目タイガーの生まれ故郷ですね。なんか、タイガー巡りをしてるんですか？（笑）

佐山　何やってるんだろうねぇ。

—真面目な話、中嶋クンは16歳でまだ身体は出来てないですけど、才能はあるんですよね？

佐山　才能はあるんじゃない？　凄くいい人材だよぉ。試合の時も最初の蹴りは痛かったなぁ。俺、ガクンときたからね。で、ちょうどいいからしばらく寝てようと思ったの（笑）。

—試合中にそんなこと思ってたんですか（笑）。結局のところ、WJのリングはどうですか。

佐山　いいよ、凄く。久々に動けたっていうのがあるからね。胆石治ってさ。

—さっきから胆石が治った喜びしか言ってないんですけど（笑）。

佐山　だって、ホントに嬉しいんだもん。俺、何ヶ月ぶりかだよ、まともに試合やったの。なんかホント分かってないみたいだけど、石は痛いんだよぉぉ。凄〜い痛いんだからぁ

—分かりました！　だけど、なんで石がたまったんでしょうね。食生活が良くなかったんですか？

佐山　もう3回目なんだよね。健康のためにドイツの黒パンを食べてたのにねぇ。あ、分かった！　俺、その黒パンにね、マーガリンをたっぷり付けて食べてたの。一週間でマーガリンが一箱なくなってたからね。だから、その油分が悪いんだよ。絶対それしか考えられない！

—でも、健康のために黒パン食べてたんですよね？（笑）

佐山　そうそうそう。一口ごとにマーガリンをガバッと付けてたからさ。そうじゃないと一週間で一個なくならないでしょう（笑）。

—つじつまの合わない人生ですね（笑）。

佐山　だから、胆石取ってつじつまが合ったんだよねぇ。だけど、痛いよぉ。バカにしてるけどさ、1回なってみればいいんだよォ！

—だんだん恨みがましくなってきましたね（笑）。で、胆石を取ったわけですから、これからは、いままで以上にガンガン、プロレスをやっていけるんですね。

佐山　うん。あと1年ぐらいやるんじゃないの。

—『ハッスル』とかはやらないんですか。

佐山　『ハッスル』は今度呼ばれてるよ。永島のオヤジが来てくれって言うからさ、どうやってスカそうか考えてるんだよね（笑）。

—どんな話なんですか？　試合外でからんできてくれってことなんですよね。

佐山　全然分かんないし、誰がいるかも知らない。

—小川さんがいるんですけど。

佐山　オーちゃんは知ってる。

——髙田総統もいるんですけど。

佐山　あ、ヒトラーみたいな人ね。悪いけど、それは僕は専門家だから（笑）。

——たぶん、それで呼ばれてるんじゃないんですか（笑）。

佐山　や～だよ。どうやってスカそうかなぁ。ホントの話、リング上で試合するのはいいんだけど、ＷＷＥみたいなことやりたくないもの。マイク持ってなんか喋ったりするのは絶対やりたくない、俺は。

——だって、芝居するの好きじゃないですか。修斗時代にライガーさんと闘ったあと、「この間、新日本のリングで試合、いや芝居してきましたぁ（笑）」って言ったじゃないですか。

佐山　だって、あれはエキシビジョンだから芝居してきたって言っただけだからね（笑）。それに『ラスト・サムライ』にも出なかったし。

——あれはもったいないことしましたね、オーディションで受かってたのに。出てれば、アカデミー賞候補になった可能性すらあったんですよね。

佐山　主演男優賞ね。

——なんで、トム・クルーズの役なんですか（笑）。

佐山　でも、2ヶ月間拘束されるのは無理だからね。

——ま、そうですね。で、『ハッスル』の話なんですけど、小川さんに対してどうですか？

佐山　オーちゃんとは何にもないよ。

——この前の『ＰＲＩＤＥ』は見ました？

佐山　見てないけど、勝ったことは知ってるよ。良かったよねぇ。でもあんまりやらないでほしいよね。オーちゃんの女房とか子供とか知ってるから、万が一でも腫れあがったような顔とか見せたくないもんね。

——小川さんは、次の『ＰＲＩＤＥ』もあるんですけど、一部ではノゲイラとやってほしいとか、ヒョードルとやってほしいとかあるんですよ。

佐山　ノゲイラとやったらいいかもしれないね。関節では勝てる可能性があるからね。オーちゃんは強いよ、関節。ノゲイラの足技も凄いけどね、足技をかわすのはそれ全部オーちゃんやってるから。

——ノゲイラの三角絞めとかは全然大丈夫なんですか！

佐山　そうそうそう。それを食らうようなオーちゃんじゃないよ。

——それは嬉しい話ですね。グラウンドになったら、小川さんはノゲイラには勝てるということですね。

佐山　そうでしょう。

——柔道の関節は大したことないみたいな言い方よくされますけど。

佐山　そんなことないよ。オーちゃんは、関節技のスペシャリストだから。みんな知らないかもしれないけど、京都府警では一番関節強かったし、ヨーロッパでも強かったし。ただね、下から極めるっていうのはやっぱり難しいんだよね。でも、ノゲイラだったら自分から下にいってくれる可能性があるからね。

——小川さんは下からだと厳しいですか。

佐山　下からだと厳しいね。上に乗ってガガガッ行くタイプだけど、乗っかられるとパンチがある関節技じゃないから、それはちょっと苦しいかなって。

——じゃあ、ヒョードルが相手だと苦戦しそうですね。

佐山　いやだね、見たくないね。ノゲイラのほうがいいんじゃない？

——次の『ＰＲＩＤＥ』はかなり楽しみになってきましたね（笑）。あと、掣圏道では瓜田さんが5月28日のパンクラスに出ることになったんですよね。

佐山　全然分かんない。

——え、それどういうことですか？　佐山さんがパンクラスの尾崎社長と話し合って決めたんじゃないんですか？

佐山　違うよぉ。選手が自分で決めてきて、「先生、尾崎社長に電話してください」って言うから電話して、それで実現したんだよ。俺は弟子を育ててコーチもするよ。でも、試合どうのこうのっていうのは俺やってないもん。

——じゃあ、選手が自分でブッキングしてくるんですか？（笑）

佐山　そうそうそう。だって、俺は他とはスタンスが違うって。俺たちがやってるのは武道なんだよ。武道というのは武士道で、武士道というのは国を守るためのちぎりを交わした戦闘集団ということだから。そのために腹を切るみたいな規範が生まれたわけでしょ？　だから、全然違うじゃない？　だって、他の格闘技団体が国を守るために戦闘に行けるかっていうとそういう集団じゃないでしょ？

——違いますね。

佐山　違うよね。戦闘のための武術が武道であって、格闘技っていうのは武術じゃないから、これには俺には興味ないってことなんだよ。武士道とは全然関係ないからね。

——『ＰＲＩＤＥ武士道』っていうのはありますけれども（笑）。

佐山　名前はつけてるかもしれないけれどもね。俺たちがやってるのは本物だから。

——向こうはニセ物なんですか（笑）。

佐山　いや、ニセ物じゃないでしょうけどぉ（笑）。自分たちがやってるのは明治時代の武士道だからね。

——じゃあ、掣圏道の選手たちは、格闘技がやりたいと思った時は自分で試合を取ってくるシステムなんですね（笑）。

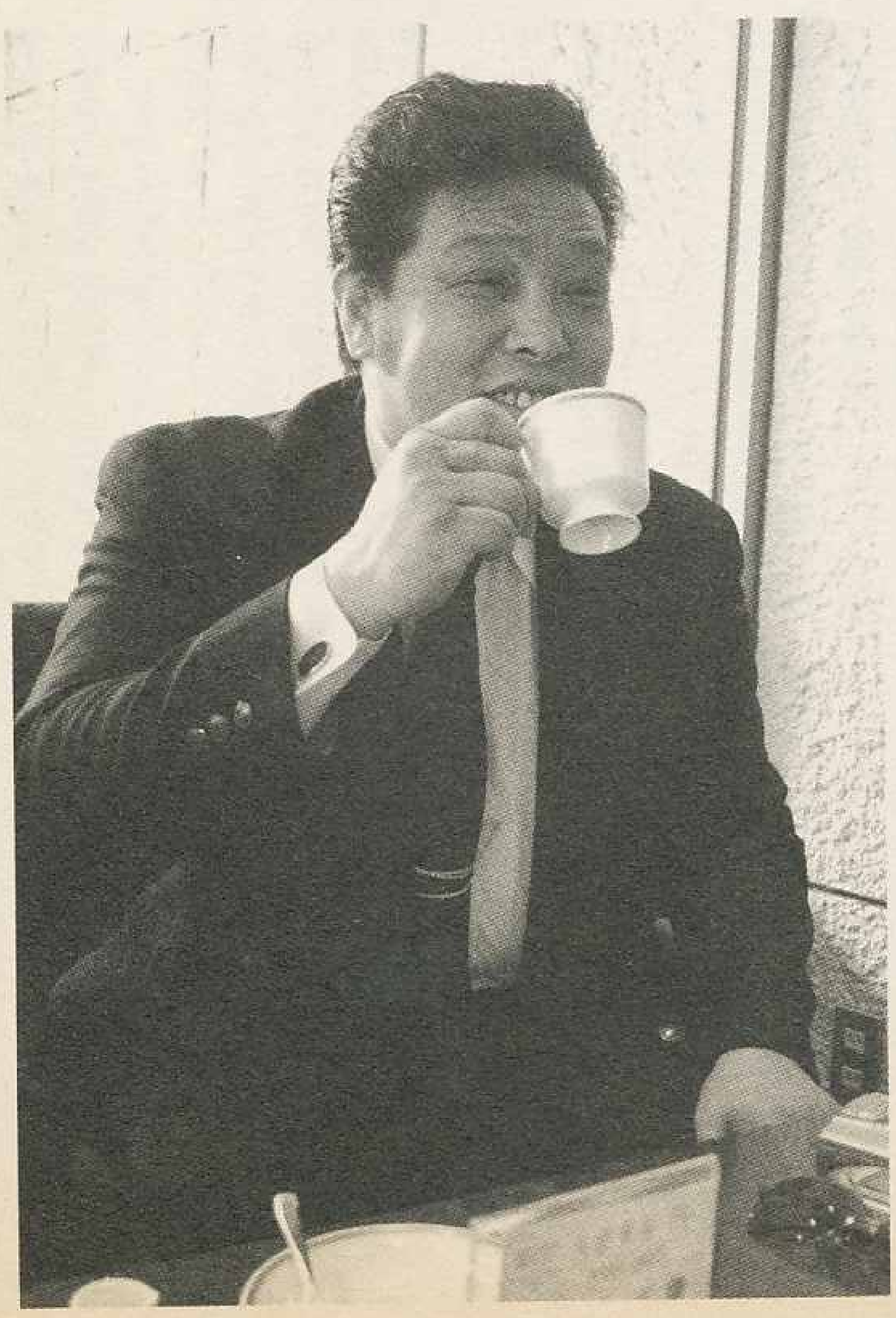
佐山　そうそう。それに対してウチは何％取るよっていうのは一切ないよ。全部あげてるよ。桜木も今度韓国のほうでバーリトゥードの試合するけどね。

——そうなんですか。それはＤＥＥＰというか、佐伯さんが関わってる興行ですか。

佐山　いや、あれは本間興行（『アルティメット・ボクシング』の主催者）の試

SATORU SAYAMA

オーちゃんはノゲイラとやったら関節で勝てる可能性があるよ



永島のオヤジには「ギャラ半分にしてくれる？」とか言われるからさ（笑）

合。桜木がやりたいって言うから「やっておいで」っていうことですよ。

――だけど、韓国ってグラウンドの打撃は禁止とかいろいろあるみたいなんですよね。

佐山　よく分かんないよねぇ。

――ともかく武道を貫いてこいということで、それ以外は知らないと。山宮恵一郎選手のこともあまり知らないと。

佐山　山宮って誰？

――パンクラスでの瓜田さんの相手なんですけど、もういいです！（笑）

佐山　俺は武道のことだけにしか興味ないからねぇ。

――まあ、格闘技は興行ですからね。

佐山　そう。スリーS政策の一つだからね。

――アメリカが戦後の日本人を骨抜きにしようとした政策である、「スポーツ、セックス、スクリーン（映画）」の一つなわけですね。

佐山　そうだよぉ。だから、そういうのは勝手にやってって。俺がやらなきゃいけないのは日本を強くすることだから。それで5月後半から天壌無窮（てんじょうむきゅう）フォーエバーっていうことで、無窮塾っていう講演をやっていくんだよね。この前、福島でやってたけど無料だよ。無料か、会場代ぐらいのものでやっていくからね。

――そっちの活動も積極的に。

佐山　いや、そっちの活動がメインだから。それが俺の仕事だから。

――仕事なんですけど、お金にならないんですよね。

佐山　ならないよぉ。

――プロレスもお金にならないですよね。

佐山　ならないよぉ。永島のオヤジには「半分にしてくれる？」とか言われてさ（笑）。

――ＷＪは貰えてるだけでいいですよね。

佐山　貰えてるよぉ。半分だけど（笑）。まあ、でも、ＷＪは気持ちで行ってるからね。天壌無窮のほうはお金にならなくてもやらなくてはならない仕事だから。今度、本も出すから。それには日本人がもともと持っていた自然崇拝主義がどういうもので、そこから武士道がどう生まれたのかということを徹底的に分析してるからね。

――掣圏道のＨＰを見ても分かりますけど、かなり徹底的にやってるみたいですね。

佐山　凄いよぉ。いまはアジア経済人懇話会会長の前野徹さんが書いた『新歴史の真実』とかいい本も出てるから、そういうのも読んでほしいよね。それ読めば本当の日本の歴史が分かるから。俺、その本の推薦文を産経新聞で書いてるからね。

――いろんな仕事してますね。

佐山　それをやらないとさ。だって、イラク情勢とか見てても分かるとおり、軍隊持たない国がどうやってものを言えるの？　奴隷国家がどうやってもの言えるのって話でしょう。ビシっとした軍隊を持たないと、どこの国からも相手にされないよね。だから、この取材はそういう話ばっかり書いてよ。プロレスの話とか書かないでよぉ（笑）。で、今度、僕の講演も聴きに来てね。

――無窮塾ですね。

佐山　そう。僕、塾長になったからね。

――ちなみに、藤原祭り（03年12月7日開催された藤原敏男キック35周年記念大会。佐山さんはＴＶ中継の解説者を務めた）の時はなんて名乗ったんでしたっけ？（笑）

佐山　大日本帝国・掣圏会館皇帝（笑）。俺はびっくりしたよ、パンフレット見た時。トシちゃんにさ、「ホントに皇帝って書いてあるじゃないですか！」って言ったら、「だって、お前、そう言ったじゃん」だって。ヒドイよね、トシちゃん（笑）。

――藤原先生、いい仕事しますよね（笑）。そういえば、あの日は前田日明さんも来てましたね。

佐山　来てたね。俺から挨拶してもいいかなって思ったんだけど、ちょっとね。

――リングドクターの野呂田先生が「いままで闘った日本人の中で一番強かったのは佐山さん」だったって前田さんは言ったんですってね。

佐山　それは嬉しいよね（笑）。別にいつかは会えると思ってるからね。きっかけがあれば、自然にねと思うんだけどね。

――前田さんも武士道好きなんですよね。

佐山　好きだよね。だけど、ちょっと違うんだよね。前田さんのは武士道の本質を突き詰めるという形でしょ？　僕のは国を守るにはというところだからね。

――微妙にクロスしないんですよね。

佐山　しないでしょ。なんでかっていうと、俺はいまの世界では極右と言われちゃうからだよね。ホントは中庸なんだけどね。イバラの道を歩いているからね。

――ちなみに、プロレスの道はなんだったんですか？

佐山　プロレスの道は石の道。胆石（笑）。

――ワハハハ！　面白いなぁ、佐山さんって（笑）。

佐山　あのねぇ、何度も言うけど、ホントに痛いんだから！（笑）

――でも、もう治ったんですから、やっと本物のタイガーマスクが帰ってくるんですよね。

佐山　そうだねぇ。もうやめようかなぁ。

――ホントこの人だけは（笑）。そういえば、藤波さんが胆石を取った時に、胆石ベルトを作りたいって言ってましたから、いつか統一戦でもやってくださいよ！（笑）。

佐山　えー、やだよ、そんな気持ち悪いの！　なら、ちゃんとしたプロレスやりま～す（笑）。

【4月30日／都内にて収録】

SATORU SAYAMA



佐山皇帝の

私が真剣に尋ねると、カタブツ氏は自信ありげ

しこの話が私が作ったものだと思われたら、私の

たんですか？　今からでも遅くないですよ」

佐山皇帝の取材後記

取材後記といえば編集者が書くのが普通だが、取材翌日、カタブツ君宛に佐山皇帝から一通のメールが……。メールは翌日も、さらに翌々日も送られてきたという。あまりにも面白いので、紹介させていただきま〜す！ 押忍!!（敬礼）

本日は久しぶりにカタブツ氏を見た。『紙のプロレス』の取材だったのだが、完全にあちらの世界へ到達しているようだった。

「今日は『紙のプロレス』の取材？」と聞くと「神ですよ！ 発音に気を付けてください」といきなり怒りだしたのだ。

話を聞くと去年切腹した気になってから、カタブツ氏本人に神が降りたのだという。

何かしゃべり方がおかしいと感じるのは、自分のことを「ワラワ」と呼ぶのである。

「実はあれからワラワに神が降りたのです。佐山さんなら信じてもらえますよね。ワラワ変わったでしょう？」

そういえばいつも履いている短パンのズボンが、ハカマになっていたが、相変わらず履物はビーチサンダルだった。

何がカタブツ氏に起こったのか解らないが、とにかくすごい取材だった。

「神のプロレスであり、紙ではないプロレス。私がその神です。しかし髪は少なくなりました」

何を言っているか解らない。

「そもそも佐山さんの考えていることは、インタビューをしなくてもワラワには解ります」

そう言うとインタビューは3分くらいで切り上げてしまった。

「あとはワラワが勝手に書いておきます」

「え！ 大丈夫なの？ 編集長に怒られない？」

私が真剣に尋ねると、カタブツ氏は自信ありげな顔になりニヤっとした。

「フフ、編集部はみんな私の信者ですよ」と言った。

何が書かれているか不安になったが、とりあえず逆らってはマズイと思った。

ある大きなホテルのコーヒーラウンジである。まわりの人が見てはいけないものを見るように、カタブツ氏を見ている。

こちらも恥ずかしいが取材である。

帰るときに分かったのだが、そのいでたちで鉢巻きを頭に巻きだした。

私は後から来たので分からなかったのだが、普段はそうしているようだ。

鉢巻きにはWKAと書かれている。

何の略だと聞くと

「ワールド・カタブツ・アトランティス」で、アトランティスで発見した魔法の水晶を、一つ500万円で売っているという。

そんなのウソだろうと言うと、

「じゃあ編集部に聞いてくださいよ」と言う。何でも握っていたら熱が出て来て、自分に向けると凄いエネルギーが放射されるそうである。

「水晶は握れば熱がたまるんじゃないの？」と聞くと

「まあまあ、そんなこと言わずにこれにサインして！」

出してきた紙は水晶売買の契約書だった。

何とかサインしないで逃げようとすると、

「じゃあ、エネルギーの溜まる油は？」とビンに入った油を少し手に取り、両手につけたかと思うと目を瞑り、段々手の間隔を開けだし

「ホラ、エネルギーが出来てきた」とやりだした。

「もっと大きくなるよ、もっと……」

恐くなったのでそっと抜け出してきた。

（※翌日、「佐山さんは天才です！『紙プロ』で短編小説を書きませんか？」とメールを送ると、再び佐山皇帝からメールが……）

私は堅い人間でニヒルだけど影があるイメージで売っています。

こういう文章はファンの人が、本物の話だと思っているから、私が書けると思っているのです。もしこの話が私が作ったものだと思われたら、私のイメージが崩れてしまいます。

もし『紙のプロレス』に書くと、〈ひかり剛〉とか〈病愚痴〉とかいう神様も出してしまいます。

そうなると私のイメージが暴かれるのでやめてください。

これからも私のHPに真実を届けてください。

（さらに翌日、カタブツ君に届いたメール）

本日、警視庁の方からWKAの問い合わせがあった。

本部に家宅捜索に入り、私の名刺が見つかったというのだ。

「佐山さん、何か関係あるのですか？」と聞かれたので、先日のホテルでの出来事を話した。

ショックだったのは刑事が真剣な言葉で

「あのカタブツ教祖は本当に神様なんですね」と切り出したことだ。

「え！」

一瞬声をつまらせたが、電話の向こうでは真剣に言っている。

「いやあ、あまりにも信じられないことが起こりすぎて、ある政府機関からの要請で踏み込んだのですが、まったくトリックのない、神の力としか考えられないことが判明したんですよ」と言う。

「うそでしょ！」と絶句した私に追い打ちをかけてきた。

「佐山さんも勧められませんでした？ あの水晶」

「はい。でも断りました」

「私たちも詐欺ではないかと調べ、踏み込んでみたのですが……」

信じられないと言いたげな間があり、私の「どうしたんです？」と言う言葉を待つかのように、

「踏み込んだ瞬間……水晶から強い閃光が放たれ、我々を襲って来たのです。全員が吹っ飛ばされ、気がついたら、カタブツ様が私たちの前で優しく微笑んでいるのです。まさに神の姿でした」

本当かと何度も問いただしたが、間違いないと言い張る。

こうも言い放った。

「水晶のことを聞くと、〈ひかり剛〉というもので、災いが起こるときに主人の身を守るそうです。あんなに凄いものを、なぜ佐山さんは契約しなかったんですか？ 今からでも遅くないですよ」

「契約？ 遅くない？」

何かおかしいし、よく聞いてみればどこかで聞いた声だ。

「おまえ、まさかカタブツじゃないだろうな！」

強く問うと。

「ワラワは違います。アッ！…」と言って電話を切ってしまった。

頭に来てカタブツ氏の所へ電話をかけたが「電波の届かない所にいます」のアナウンスを繰り返すだけであった。

（※翌々日、カタブツ君に届いたメール）

今日になってやっと電話がつながった。

「昨日、電話しなかった？」

どっちみち認めるわけがないからカマをかけてみた。

「え！ 知らないですよ」

「刑事から電話があって途中で切れちゃったんだよ」

「へえ-……何で私と関係あるんですか？」

「関係が有るなんて一言も言ってないよ」

明らかに電話の向こうは動揺している。

「とにかくワラワとは関係ありません。迷惑ですからこういう電話かけて来ないでください！」

逆切れして事を済まそうとするのが見え見えだ。

「イヤ、契約したいと思って」

「はい！ ワラワです」

いきなり認めやがった。

「おまえ、単純過ぎない？」

「いえいえ、こうでもしないと、うるさいんですよ、編集長が」

「何だ、『紙プロ』ぐるみなの？」

「そうなんですよ、最近売れなくて原稿料の代わりに〈ひかり剛〉だって言うんですよ」

「じゃあ、WKAは？」

「あ、あれは本物ですよ、刑事も言ってたでしょ……まあ、とにかくその話は後にして、契約のこと進めましょう」

「何に良いんだよ、その水晶？」

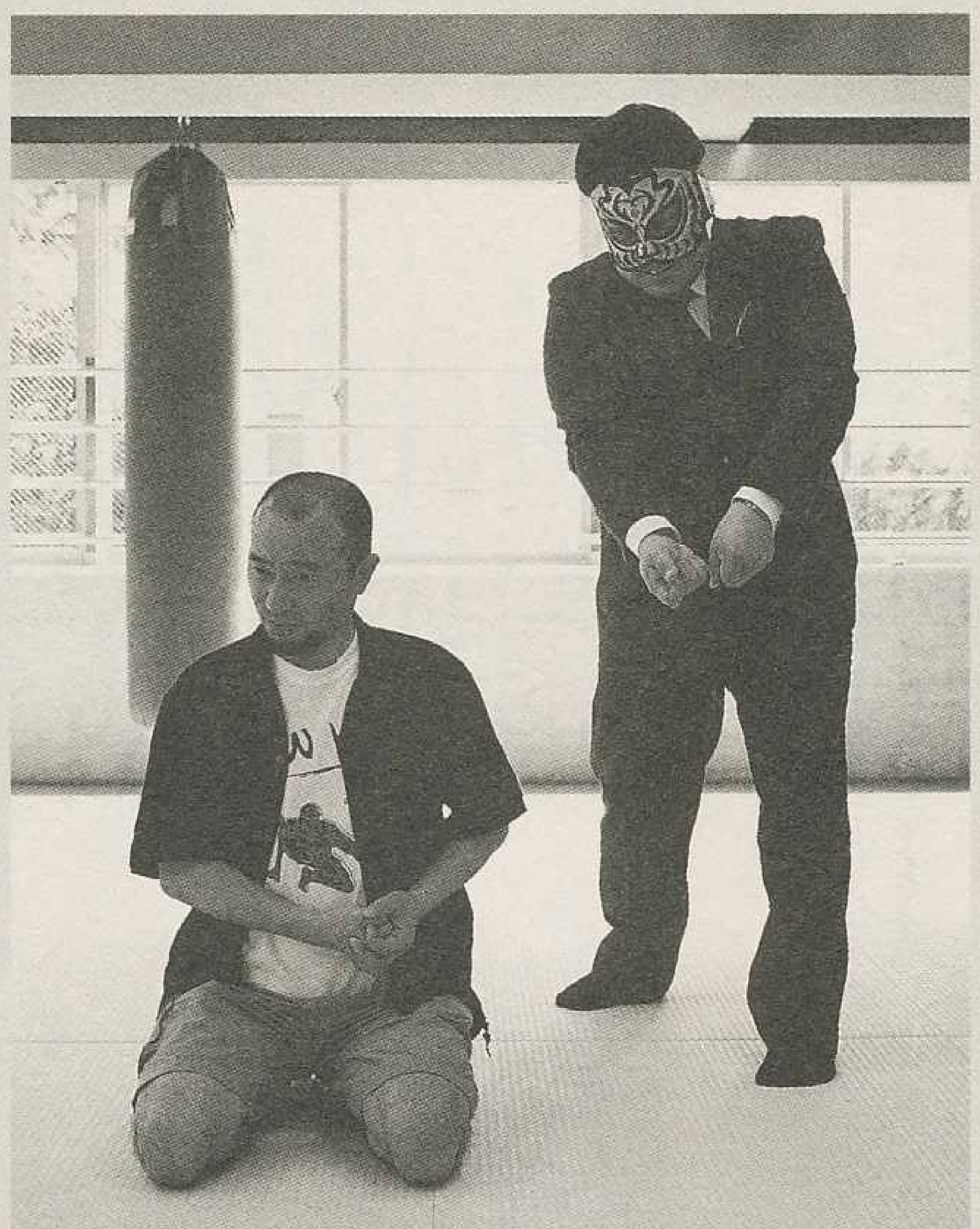
「それは……ちょ、ちょっと待ってください」

慌てて紙を開く音が聞こえる。どうやらマニュアルを見ているようだ。

やがて棒読みで答えだす。

衝撃！ 興奮！ 感動！のビジュアルブック!!

「それはー……う、運です。この水晶を貴方の部屋に置くだけで、みるみる運勢が好転し、願望は何でも叶うようになり、いきなり貴方は神と呼ばれるでしょう」
「じゃあ、カタブツ君も持ってんの？」
「当たり前ですよ、編集部は給料の代わりに毎月一個づつ現物支給ですから、みんな持ってますよ。何個も……」
「本当に効くの？」
「当然ですよ。私なんかこの水晶のおかげで、来月からいきなり編集長ですよ」
「えー！ウソ。願望が叶なったの？」
「そうです。え！……イヤイヤ」
　普段から編集長を蹴落として、その座を狙っていることは、会話の中で見え隠れしていたが、この男ついつい本音が出てしまう。
「そんなに効くのなら皆良くなって、全員編集長だろ？　それに水晶なんて売らなくて済むだろう」
「そうなんですよ。編集長が売れって言うからなんですが、みんな色々な手つかってやってるんですよ」
　ついに愚痴りだした。
「この前なんかウチの編集部の女の子、ある神がかった元レスラーに『アトランティスの石です』なんて言って、10万円で売って来たんですよ。あいつも馬鹿だなあって皆で笑ってたんですよ」
「おまえオレに同じこと言ってたじゃないか！　しかも500万円とか」
「まあまあ、落ち着いて。佐山さんなら5万円で良いですよ」
　いきなり455万下がった。
「でも、給料の代わりなんだろう？」
「そうなんですよ。7万でいいですか？」
「バカヤロウ。ここまで聞いて買うわけないだろう」
「そうですか……」
　しばらく沈黙が続き、突然元気よくしゃべりだした。
「しょうがない。じゃあ本物出しましょう！」
「おいおい、やっぱり偽物だったのかよ」
　この男ダメだとわかると認めるのが早い。
「この前、少しホテルで出したヤツですが、あの油、実はどんな病でも治す本物の油なんですよ」
「ＷＫＡの社運をかけて作った〈病愚痴〉という商品です」
「何か怪しいなあ」
「そんことないですよ。製法は言えないですけど、編集部全員で編集長を殺ろうと、神社まで行って願を入れた物なんですから」
　本物がかって来た。
「それじゃあ、ただの毒じゃないか」
「いえいえ、一度編集長のコーヒーに混ぜて飲ませたんですが、元気になっちゃったんです」
「元気？」



『紙プロ』以外にも、ちょっと前まで「BUBKA」でも連載を持つなど、一部ではキング・オブ・佐山番との異名を持つ中村カタブツ君（41歳）。2人の関係は当人同士にしか理解できない!?

「特異体質だと思ったんですよ、あの人、本物のキ●ガイですから」
「で、どんなふうに元気になったの？」
「いきなり『ひらめいた』と叫び、新しい編集方法をあみだしたんです」
「どんな内容？」
「私を編集長にするということですよ」
「え！？」
「効くでしょう」
　電話の向こうでほくそんでいるのが解る。
　やはり編集長のイスが願望だったようだ。
「私が編集長になったら絶対『紙プロ』売れますよ。佐山さんもご存じのとおり、私のインタビューは無いこと無いこと書いて勝手に作り、編集長には『大変でした、この仕事は』とか言って誤魔化すの得意ですから、取材やらなくてもいいですし、経費も浮くし好き勝手に書けますよ、これから」
　確かに毎回カタブツ氏の取材はすぐ終わり、
「編集長には何時までいたことにしておいてくださいね」といつも頼まれている。
　しかし普通の常識を持つ者なら、この男を編集長にさせることはない。おかしいと直感した。
「それって負債全部カタブツ君におっかぶせて、自分たちは逃げる手段じゃないの？何か書類にサインしなかった？」
「そういえば会社の代表権の書類だとか……あ！」
　絶句の後、違う電話で何度も電話をかけてみる。
　やがて元気なく
「やられました……『紙のプロレス』誰も電話に出ません……」
「大変だよ、これから」
「そうですね……〈病愚痴〉買い取ってもらえませんかね？」
「いくらで？」
「100万円でいいです……」
「バカヤロウ！」
「じゃあ〈ひかり剛〉と〈病愚痴〉セットで3000円でどうですか……」
　馬鹿らしくなって電話を切った。
　次回の『紙プロ』に〈ひかり剛〉と〈病愚痴〉の宣伝が掲載されますが、みなさん注意してください。
　とりあえず紙プロの社運をかけた商品となるようですが、みなさんが判断してくださいね。

ザ・マスク・オブ・タイガーが、みちプロ九州シリーズで6連戦を敢行!!　どうなる佐山皇帝!?


5月17日（月） 鹿児島・サンアリーナせんだい（18：30）
ザ・マスク・オブ・タイガーvs気仙沼二郎
5月18日（火） 鹿児島・国分市屋内運動場（18：30）
ザ・マスク・オブ・タイガーvsマッチョ☆パンプ
5月19日（水） 熊本・興南会館（18：30）
ザ・グレート・サスケ＆湯浅和也vsザ・マスク・オブ・タイガー＆新崎人生
5月20日（木） 長崎・島原総合福祉センター復興アリーナ（18：30）
ザ・マスク・オブ・タイガーvs守部宣孝
5月21日（金） 熊本・山鹿市民スポーツセンター（18：30）
ザ・マスク・オブ・タイガーvs北海珍念
5月22日（土） 福岡・甘木青果市場（18：00）
ザ・マスク・オブ・タイガーvs池田誠志
【問】みちのくプロレス　TEL.019-626-1333

佐山皇帝の情報は掣圏道ホームページをチェック！
今回掲載した佐山版「カタブツ日誌」も「Voice of Tigermask」というコーナーにUPされてます。必見!!
アドレス→　http://www.seiken-do.com/

6・20『PRIDE・GP準決勝』から
リベンジロード開幕へ!!

桜庭和志

「復活でも再起戦でもない。久しぶりに試合をするだけです(ニコ)」



聞き手/山口日昇
構成/ジャン斉藤
撮影/森"モーリー"鷹博
試合写真/乾晋也
designed by hisa (Two Three)

桜庭　（いきなり）昨日はやっちゃいました！　1時間の遅刻ですよ。

——ああ、写真展「女性たちが見たPRIDE展」の開催を記念したトークショーに大遅刻したみたいですね（笑）。

桜庭　大渋滞に巻き込まれました。いつもだったら10分くらいで行くところが、1キロ進むのに40分ぐらいかかったんですよ。その間、榊原さん（DSE代表）がトークで引っ張ってくれたから助かりましたけど。行ってブーイングはなかったけど、みんな心の中でブーイングしてたんじゃないですかね？

——『PRIDE・GP』開幕戦の休憩開けに、桜庭さんが「時が経つのは早いもので、ボクももう35歳になります。選手生命も短くなりました」とリングで言ったから、翌日の一部の新聞に「桜庭、引退ロードへ——」と書き立てられた。そういう部分の心中を生で聞きに来たファンは多いと思うんですよね。心配で。そういうファンを1時間も待たせてはいけませんね（笑）。

桜庭　ホントすみません！　渋滞を甘くみてました‼……っていうか、「引退ロード」って、ボクはマイクでそう言った後に「15年か20年はやる」って言いましたよ！

——でも、新聞はそういうサク流ジョークにはスポットは当てません（笑）。

桜庭　面白おかしく書くんですかね。

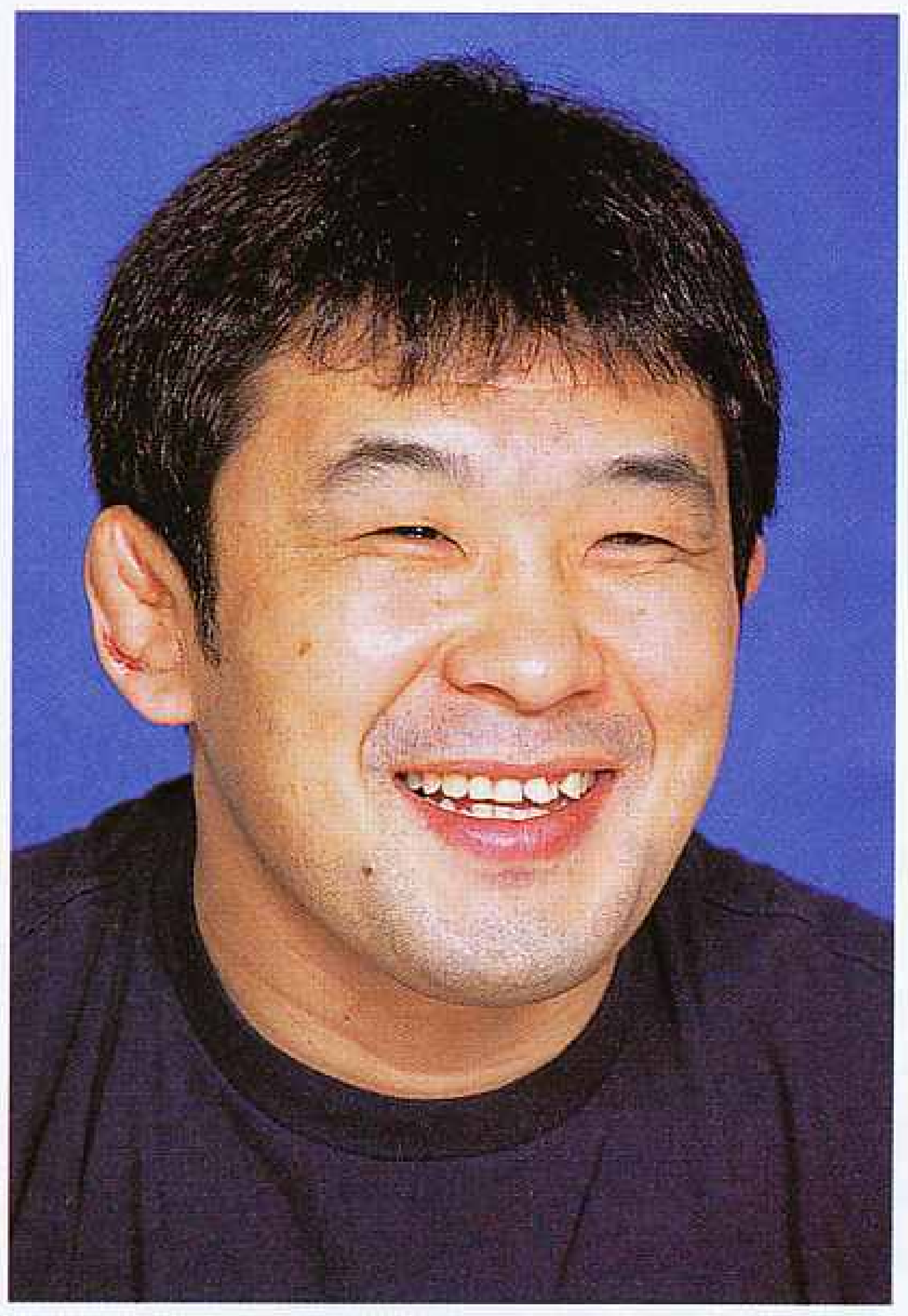
——しかもショッキングに（笑）。

桜庭　新聞は何でも「引退」「再起戦」「復帰戦」ですもんね。野球とかの記事も。「この選手ずっとやってるじゃん！　引退してないじゃん！」って。

——見出しをショッキングにしないと読んでもらえないっていうのがありますからね。で、昨日のトークショーでは「どうしても倒したい相手」として、ニーノ（・"エルビス"・シェンブリ）、ノゲイラ弟（アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ）、ヴァンダレイ・シウバの名前を出しましたね。

桜庭　まったく別の人でも構わないですよ。リングであぁ言ってしまった以上、そう答えただけです。

——別の人？　例えば田村潔司でもいい？



桜庭　いや、それはギャラ次第じゃないですか？　グランドセイコーを何個買えるかですね（ニコニコ）。

——そういえば、ちょっと高価なグランドセイコーの時計を買ったそうですね！

桜庭　…………。

——あれ、好きな時計の話なのに乗ってこないですね。

桜庭　いやぁ、酔った勢いもあったんですよ。和田（良覚）さんと家で飲んでたら、時計屋さんが「近くまで来てるから、持って行きます」って。飲んでなかったら、絶対買わなかったですよ！

ホジェリオには流行り目の借りも返します

——買って後悔してるんだ？（笑）。

桜庭　う〜ん……いまは「前から欲しかったし、買ってよかった！」という気持ちに自分を持っていってます！

——無理矢理（笑）。

桜庭　和田さんは泊まっていったんですけど、朝の4時頃まで飲んでて、起きてすぐまた飲み始めましたから。無意識のうちにグラスに氷を入れてましたよ。そのときに時計屋さんが来たから勢いで。

——ガハハ！　迎え酒は焼酎？

桜庭　二日目は焼酎がいいですね。前の日はビール飲んでるから。ちょっと寝て、起きてまた焼酎。

——楽しいんだか苦しいんだかわからない2日間だなぁ（笑）。名前を挙げた3人は負けてる選手ですけど、やっぱりリベンジというか、借りを返したい気持ちは強いでしょうね。

桜庭　シウバには3回負けてるんで、一番借りを返したい人間ですね。

——ホジェリオには？　昨年大晦日の『男祭り』では、流行り目を伝染された相手だし（笑）。

桜庭　兄貴（ホドリコ・ノゲイラ）に「弟に伝染された」って言ったら、笑いやがったんですよ。笑いごとじゃないんだって！　もともとは兄貴が発疹元で、ウチの赤ちゃんにまで伝染ったのに！

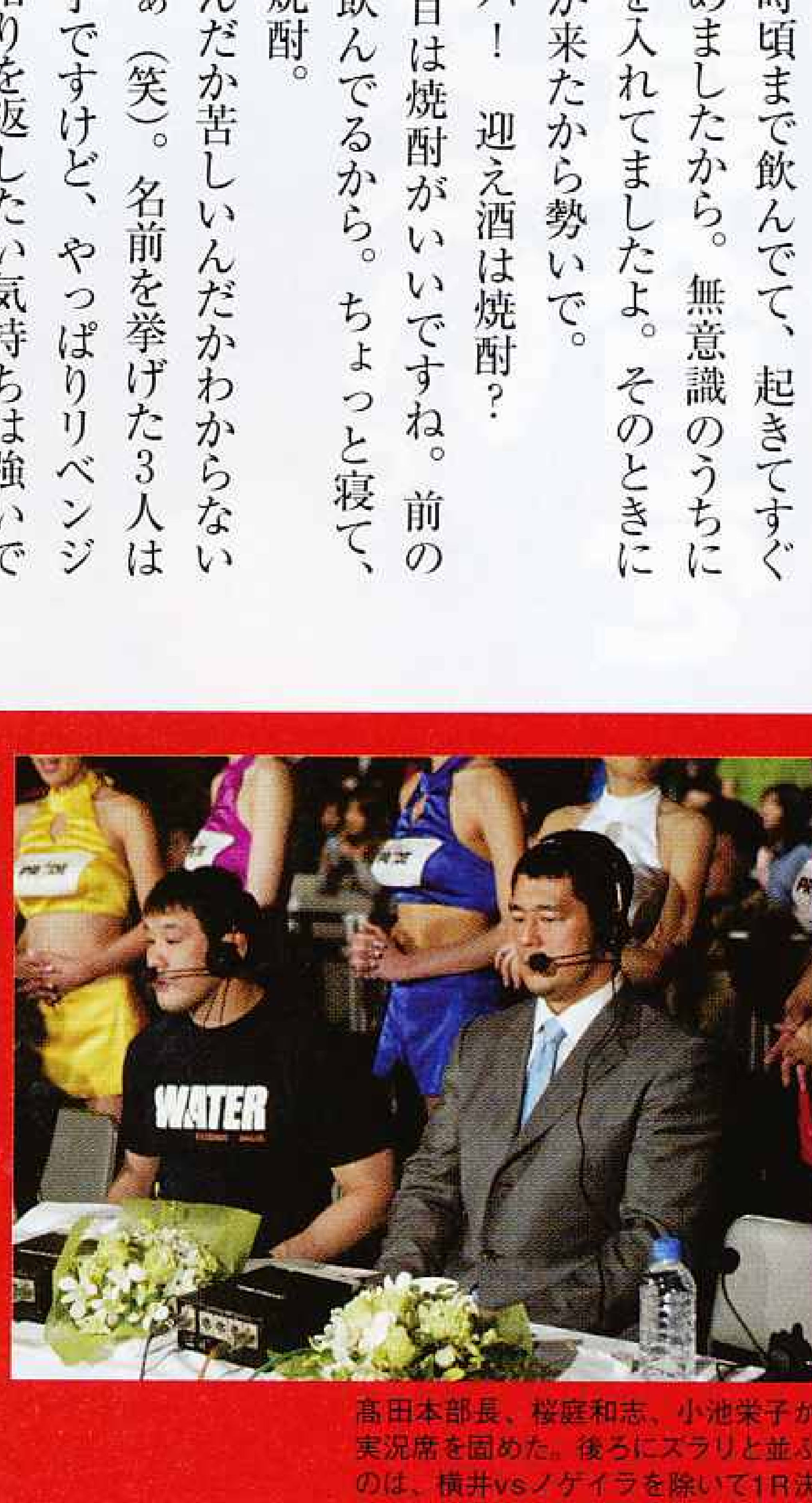
——桜庭ファミリーの目は壊滅したらしいですね。今度、ホジェリオと対戦したら何か伝染しますか？（笑）。

桜庭　そうですね。ひきこもりでも伝染してやります（ニコニコ）。

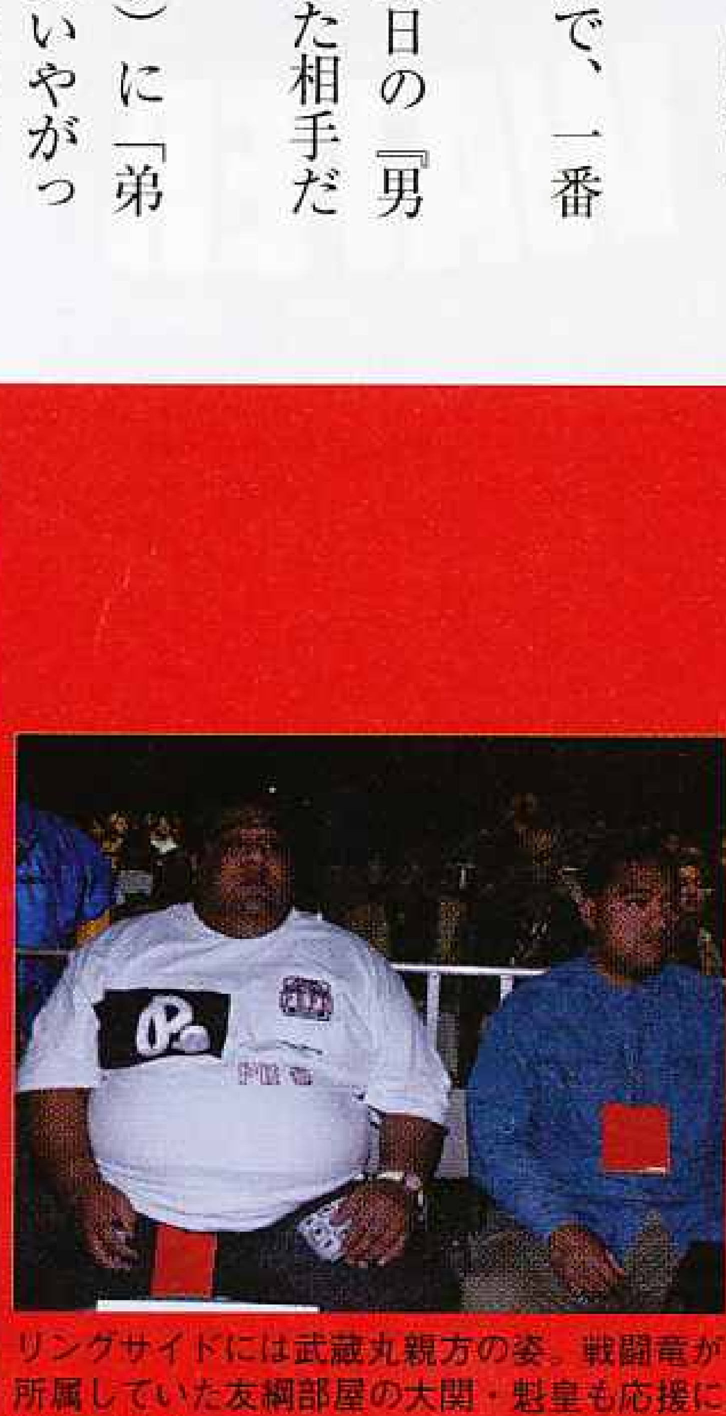
——桜庭さんのどこがひきこもりなんですか！（笑）。

桜庭　外出するのもめんどくさいですも

42110人が大・熱・狂！ 全試合オール一本勝ち!!
4・25 PRIDE・GP 開幕戦 アラカルト



髙田本部長、桜庭和志、小池栄子が実況席を固めた。後ろにズラリと並ぶのは、横井vsノゲイラを除いて1R決着だったので、出番はほとんどなかった『PRIDE』ガールたちです。



リングサイドには武蔵丸親方の姿。戦闘竜が所属していた友綱部屋の大関・魁皇も応援に駆けつけた。



オープニングセレモニー。髙田本部長は大晦日『PRIDE男祭り』の屋根上に続いて、今回はゴンドラに乗り、天井ギリギリの位置からの御挨拶。「ちょっと、上げすぎなんじゃない？」と第一声。

の選手ずっとやってるじゃん！　引退して　て行きます」って。飲んでなかったら、絶　か！（笑）。



昨年の大晦日『PRIDE男祭り』。未曾有の興行戦争のため出陣を余儀なくされた桜庭は、自ら危険な相手ノゲイラ弟を指名するも判定負け。

Kazushi Sakuraba

桜庭　外出するのもめんどくさいですもん。

——いまホジェリオ戦を振り返るとどうですか？

桜庭　あのときはホントに身体が動かなかったんですよ。気分は正月。身体も正月。年越しソバ食べてなかったから。完全にスタミナ切れで、何とか誤魔化しながら闘ったんですけどね。

——危険極まりない両手ブラリ戦法も、じつは手が挙がらなくてガードの態勢が取れなかっただけなんですよね。

桜庭　はい。セミが終わってボクの試合が始まる前に、休憩があったじゃないですか？

——地上波の中継に合わせて、時間調整の休憩がありましたね。

桜庭　あれでテンションがガクーンと下がっちゃって。お湯わかせ！　お湯わかせ！と言ってた。どん兵衛だったら、3、4分で出来るから。どん兵衛持ってきてって。ホジェリオとは、もっと調子のいいときにグラウンドで勝負してみたいですね。

——ズバリ言って、一本取れる感触は掴めたんですか？

桜庭　感触はありましたね。ラウンドの終了間際に下から三角締めをかけられた場面があったじゃないですか。三角抜けてサイドについたら十字の状態になってたんで「アレ？」って思って。時間がなかったからいけませんでしたけど。向こうも時間切れ寸前だから、敢えて三角を狙ったのかもしれないですけどね。

——ところで昨年3月に悪夢のような敗戦を喫してしまったニーノにも借りはキッチリ返しておきたいところですよね。

桜庭　ニーノは最近、シュートボクセで練習してるんですよね？



前号の本誌に登場して、『PRIDE・GP』の見どころをたっぷりを語ってくれた浅草キッドも、小川直也の“大量破壊兵器”を調査に。そして、たしかに“大量破壊兵器”は確認された!!



全試合終了後、準決勝・勝ち上がり組がリングに登場。意気込みをそれぞれ語った。会場外で『ハッスル3』宣伝活動に励んでいたむ小川は遅れて参上。それにしてもシルバはデカイ。



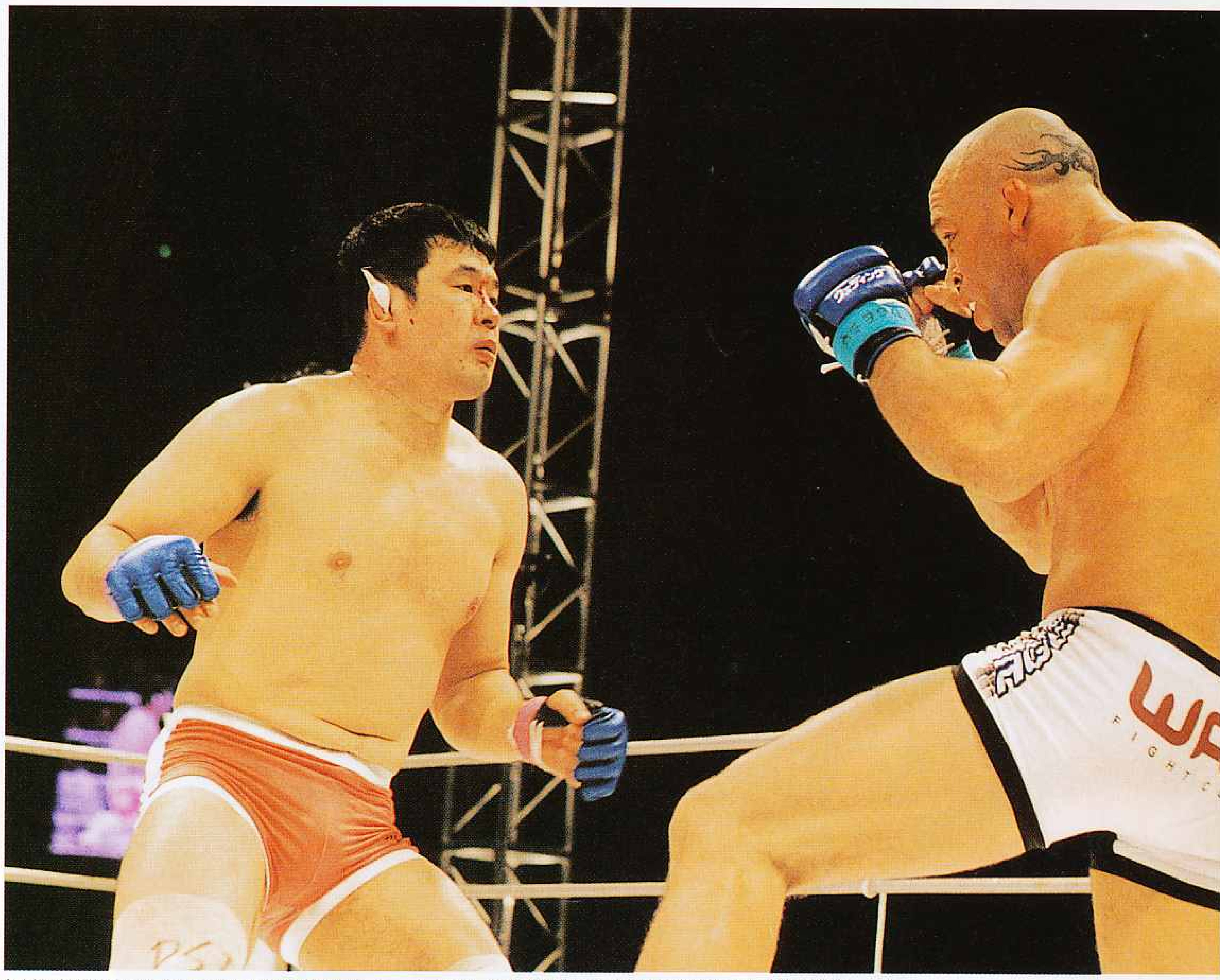
シウバの負傷により、5・23『武士道・其の参』での対戦は消滅してしまったが、リング上で視殺戦を繰り広げた近藤とシウバ。ファンの注目度は大きいカードだけに、一刻も早い激突が望まれる。



休憩明けにリングに登場した桜庭。「ボクはもう35歳になります。選手生命も短くなりました……あと15～20年ぐらいですかね」と笑いを誘う。これまで闘ってきた選手で倒したい相手がいることも明かした。

今回はコンドテに乗り、天井キリキリの位　「ちょっと、上げすぎなんじゃない？」と第一声。

――らしいですね。もの凄く打撃が強くなってたら、どうします？
桜庭　スカしてタックルするに決まってるじゃないですか！　相手が嫌がることをやりますよ。それより、ボクは彼にホントに負けたのかなぁ？　と……。
――攻めに攻めていたのに、最後は運悪くバッティング（頭突き）がきっかけでいかれちゃいましたからね。
桜庭　きっと、あの試合はホントに夢だったんですよ！
――いや、ボクは確かに見ました（笑）。桜庭さんは試合後、リング上で「もう『PRIDE』やめる！」って叫んでましたよね。
桜庭　言った覚えがあるようなないような。でも、頭突きがあったと聞いて、あっさり気が晴れた記憶もあります。それも夢かもしれないけど（ニコニコ）。


打倒シウバのモチベーションはとにかく高い桜庭。ニーノ、ホジェリオを連破して、四度目の対戦に持ち込めるのか――？

来年のミドル級GP？　ミニマム級で出ます（ニコニコ）

――しかし、そのニーノ戦から1年とちょっと経つんですね。早いですねぇ。
桜庭　早く感じるってことは、歳を喰ったって言うことですよ（笑）。
――人を年寄り扱いしますか！　ということは桜庭さんも「早い」と感じてるっていうこと？
桜庭　感じますね。できれば40歳ちょいぐらいまでやりたいですけどね。
――あと5年ちょいだ。でもいまは顔色もいいじゃないですか。
桜庭　顔色がいいのは、練習してないからじゃないですかね（ニコニコ）。
――練習してなくて、6月の『PRIDE』は大丈夫なんですか？
桜庭　わかりません。まだ休みたいです。人生は長いんですから、ゆっくりと。
――今年はまだ1回も試合してないし、ファンだって6月に出てくるのを期待してますよ。6月にニーノ、8月にホジェリオ、10月にシウバとリベンジロードまっしぐらで行きますか！
桜庭　絶対に無理ですよ、2ヶ月に一回なんて！　今年中に3人とやりたいんじゃなくて、引退するまでにやりたいってことですよ。
――来年はまたミドル級GPがあるそうですよ。
桜庭　へ？……ボクはもう無理です。
――その心は？
桜庭　来年はミニマム級で。
――（無視して）トーナメントには、やっぱり興味はない？
桜庭　……というか、ホントにやるんです

4.25 PRIDE GP 2004 REVIEW

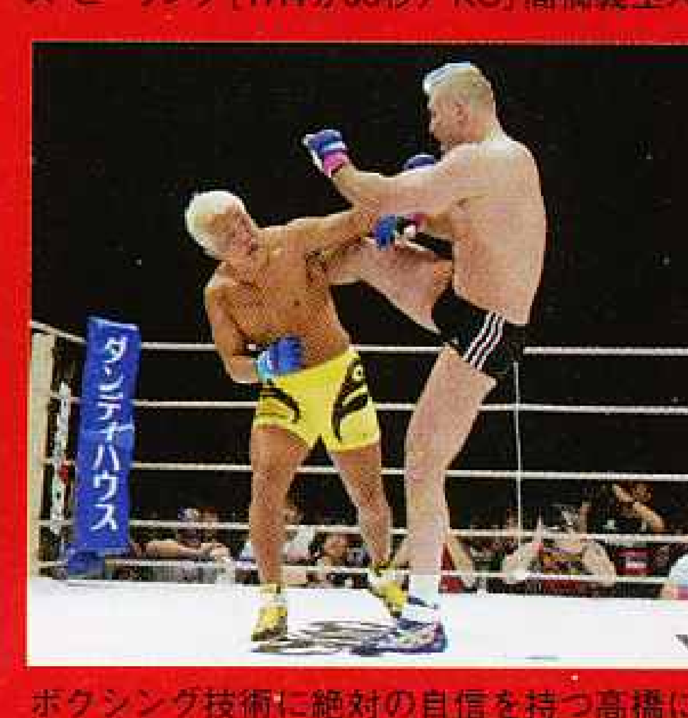
テキサスの荒馬、大咆哮！
パワーを活かした怒涛の鉄槌!!

○ヒース・ヒーリング［1R4分53秒／KO］高橋義生×


会心の勝利に雄叫びをあげる荒馬。その圧倒的なパワーも凄いが、今回の髪型も凄え！　みのるカットと双璧をなしているのだ。


脱出したヒーリングは上から鉄槌を振り下ろす！　しばらくは見事にかわしていた高橋だったが、連打に捕まり半失神状態に


タックルをがぶった高橋はヒザ蹴りを叩き込む。立ち上がったきたところをフロントチョーク!!　あわやのシーンだった！


ボクシング技術に絶対の自信を持つ高橋に対して、ヒーリングは前蹴りというか、馬蹴りで対抗。

か？
――榊原代表はそう言ってたような記憶がありますけどね。
桜庭　間を置いた方がいいと思いますけどね。オリンピックみたいにしましょうよ。次回が4年後だったらボクは39歳になるし、そうなれば完全に出る必要はないですから！
――いま読者もきっと突っ込んでますよ。あと5年ちょい現役でやるんだから間に合うって（笑）。
桜庭　たしかに（ニコニコ）。コールマンもできましたからね、40歳なのに。
――ジャイアント・シルバも40歳ですよ。
桜庭　そ、そうなんですか！　凄いなあ。
――そのシルバに残念ながら負けてしまった戦闘竜のセコンドに着いてましたね。
桜庭　惜しかったですねぇ。相撲のブチかましでシルバも倒したんで、あとは関節技への対応ですね。
――あのシルバの巨体を倒すんだから大したもんですよね。でも、あの態勢からならアームロックをかけられても、逃げられましたね。
桜庭　逃げ方が身体に染みついていれば極まらないですね。戦闘竜さんの体型の問題もあるんでしょうけど。
――桜庭さんは戦闘竜とスパーリングをやったことあるんですよね。やっぱり力は強い？
桜庭　押しがすごく強いんですよ。
――あと相撲は数十秒の世界だから、瞬発力と突進力はあるけど、スタミナ的な対応がたいへんでしょうね。
桜庭　数十秒を活かした闘い方を組み立てればいいんですよ。例えば10秒なら10秒動いて、30秒休んで、また10秒動けばいい。10分の試合の中で、例えば30秒フルに動くのを5回決めて、あとは休めば名勝負に持ちこめますよ。疲れてきたら横ステップで距離を取りながら、休んで疲れを取ればいいし。
――力の抜き具合を考えるってことですね。そこは桜庭さんが得意とするところでもありますからね、試合の組み立ては。
桜庭　そういうズル賢さがないと10分もやっていけないです。
――髙田道場にはその戦闘竜の他にも、小川選手とやったステファン・レコも練習に来てたみたいですが、桜庭さんはスパーリングしたんですか？
桜庭　ボクはしてないです。レコに質問されたから「寝たらおしまいだよ。横に動いて回ったほうがいい」っていうアドバイスはしました。レコも「回る」って言ってたんですけど、回りきれてなかったですね。あと後ろ足に体重がかかってたから「柔道選手だと足を払いにくるから、すぐに倒されるよ」と。前足に体重をかけて、足払いされないように言いました。
――意外なことに、小川さんは打撃でレコを倒したわけですけど、小川選手の闘いぶりは率直に言ってどうでした？
桜庭　まだちょっとわかんないですね。関節は取りにいってるんですけど、ちょっと雑にみえますね。それにレコにしろ、以前やった佐竹さんにしろグッドリッジにしろ、グラウンドをあまり知らない選手としかやってなくて、関節技を知ってる人を極めてるわけじゃないんで。そういう意味では、まだ未知の部分がありますね。もしかしたら、力が凄く強いのかもしれないですし。
――たしかにバーリ・トゥードの最前線では未知の部分はまだまだありますよね。で、

Kazushi Sakuraba

プロレスラーと名乗る選手が出ていった場合はいつもそうなんですけど、一部マスコミではフェイクじゃないかと疑うような書き方があったり、ネットの一部でもそういう論議で渦が起こってるんですよ。
桜庭　そんなの、見りゃあわかるじゃないですか！　レコも腰が悪かったと聞いてるんで、そういう部分が試合に出ちゃったのかもしれないけど、そういう事情をわからない人間が書いたり言ったりしてるんでしょうね。相撲とか野球でも、真剣勝負が大前提だっていう中でも、フェイクだと言われるときもあるし。ボクの試合もそうだって言われたことがあったし。
――マニアがそういうことを論議して楽しむのはいいんですけど、マスコミがそういうマニアが起こす噂に引っ張られたり、そういうマニアに媚びを売るかのようなことをするのはいかがなものかと思いますね。
桜庭　そういうマスコミや雑誌は完全に趣



悪夢のニーノ戦は昨年3月の『PRIDE.25』に行われた。まさかの結末を除いては一方的に攻め込んでいた。再戦が実現すれば、どんな展開が待ち受けるか？

“裏・本命”対決は ロシア軍兵が戦慄のKO勝ち!

○セルゲイ・ハリトーノフ［1R4分21秒／KO］ムリーロ・ニンジャ×



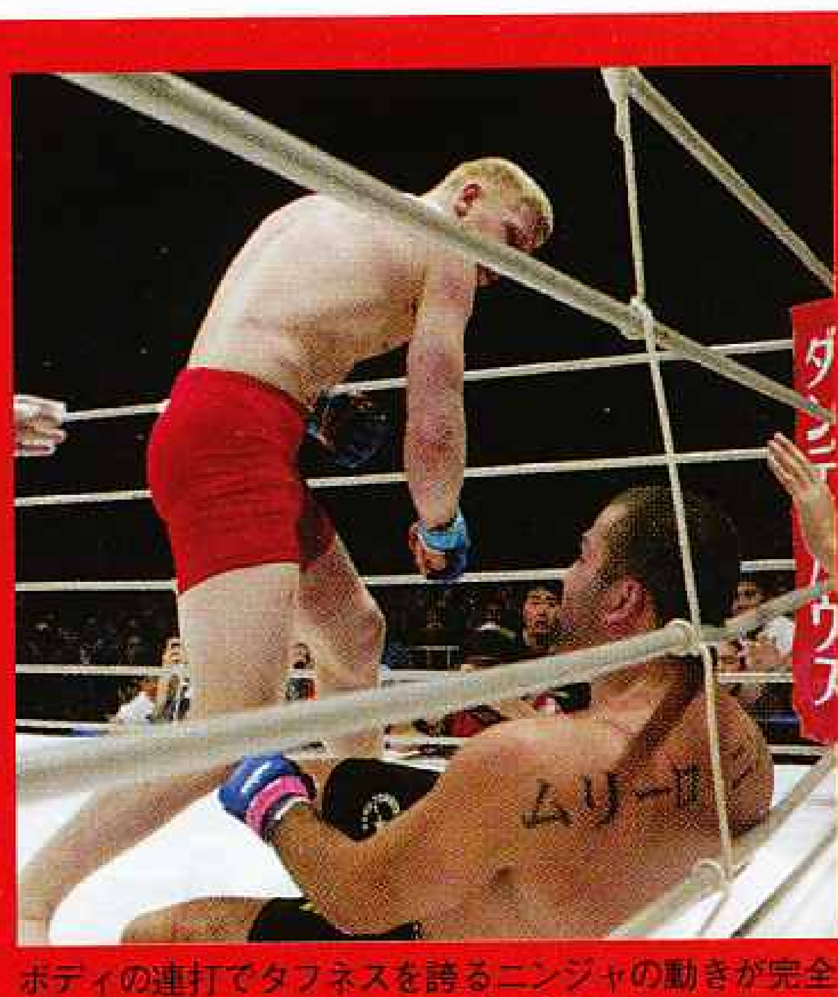
実力者同士の潰し合いとなったこの一戦。ハリートノフはまったく怯むことなく、ニンジャと睨み合う。ヤバイだろ、この顔は!!



ヘビー級仕様のせいか、ニンジャの身体はダブつき気味に見えた。初めこそは打撃でハリトーノフを追い込んだが……。



「打撃はテレビなどで見て知識がある程度」（ロシアンジョーク？）というハリートノフは、鋭いボディパンチを何度も叩き込む!!　鈍い音がリングに響き渡った！



ボディの連打でタフネスを誇るニンジャの動きが完全に止まる。さらなる追撃を受けて足からマットに崩れ落ちた。恐るべしはハリートノフだ！

味でしょ。お金取らないで、そこら辺のコンビニに置いとけって感じ。

——ガハハハ！　タダで配れと。

桜庭　噂は噂ですよ。噂をそのまま信じる人間って、ボクは信じられないです。

——噂を信じたいときもありますけどね。「あの娘がボクのことを好きらしい」なんて噂は思い込んじゃった方が楽しいですよ（笑）。

桜庭　それはありますね（ニコニコ）。

——で、話は戻りますけど。一回戦を見て、ヘビー級GPの優勝候補はズバリ言って誰ですか？

桜庭　それはヒョードルですよ〜。

——やっぱりヒョードルがダントツ？

桜庭　ダントツですね。下になっても凄いし、どうやってあれを倒すんだって思いますよ。

——コールマンは「ヒョードルがあんな技を持ってるなんて、誰も教えてくれなかった」って言ってたらしいです（笑）。

桜庭　っていうか、普通ああいう状況だったら、十字くるに決まってますよ！　それが『PRIDE』の定石なんだから、もっと勉強しないと。

——でも、4年前のGP王者のコールマンでさえそうなるわけだから、それだけでも『PRIDE』がもの凄いスピードでレベルアップしてることがわかりますよね。ノゲイラvs横井もレベルの高い試合でしたね。



桜庭　いつものノゲイラだったら下から何かしようとするんだけど、どうしようもなくて立ったんじゃないですか。ノゲイラのボディへのヒザ蹴りが効いたみたいですね。ノゲイラは手足が長いから、そういう意味では有利ですよね。横井選手はノゲイラ相手に惜しかったですけど、でもヒョードルに誰が勝てるかっていったら……ランデルマンが1発入れるぐらいしか思いあたらないですね。まぁ、藤田（和之）のパンチでグラついたぐらいだから、ミルコだったらもっとヤバイとは思いますけどね。

——そのミルコはランデルマンにいかれちゃいましたからね。

Kazushi Sakuraba

桜庭さんも前に言ってましたけど、ランデルマンの反射神経・スピードは人間技じゃない。まさにドンキーコングですよ。ミルコはランデルマンのスピードに面食らってるところがありましたよ。

桜庭　ボクはミルコ、ランデルマンの2人と闘ってるじゃないですか。ミルコも速いけど、それと比べられないぐらいランデルマンは速いんですよ。ミルコは足や手の動きは速いんですけど、ランデルマンは身体全体が速いから。

——それに力もバツグンに強い。桜庭さんはよくあんなのから一本取りましたよ。でもシルバも勝ったし、強いなぁ、髙田モンスター軍。あ、ところで桜庭副総統として、髙田モンスター軍入りはないんですか？（笑）。

桜庭　ないですよ！　ボクはモンスターじゃないですもん。普通の人ですよ（ニコニコ）。

——たしかに見てくれはそうですけど、桜庭さんは違う意味でモンスターのような気がしますね（笑）。『ハッスル』は見てないんですか？

桜庭　見てないですね。

——じゃあ髙田延彦・統括本部長の古くからの友人である髙田総統の勇姿は知らない？

桜庭　それは映像で見ました。試合は見たことないんですよ。

——じゃあ、GPでオーちゃんが勝ったあとのハッスルポーズも知らなかった？

桜庭　知らなかったです。みんなやってました？

——髙田総統の知り合いである髙田統括本部長もやってましたよ。

桜庭　う、ウソ!?……今度、研究しとき

4.25 PRIDE GP 2004 REVIEW

ガリバー旅行記・GP編!!
まさかの一本勝ちで第2章へ

○ジャイアント・シルバ［1R4分46秒／アームロック］戦闘竜×



シルバのジャイアント・アームロックから逃れることはできず！　無念のタップアウト。しょげた姿をみると、ますます応援したくなる。ガンバレ戦闘竜！



たぶん相撲取り史上初となるパスガードに成功した戦闘竜!!　しかし、シルバは「ウガー！」と吠えるや腕をロック!!　それにしてもシルバは顔もデカイ。



パンチを打とうにもシルバの顔には届かないので、戦闘竜はボディ打ちに切り替えた。それにしてもシルバはデカイ。



四股を踏んで気合いを入れる戦闘竜。体格差をモロともせずに電車道でテイクダウンに成功！それにしてもその出で立ちは愛くるしい。

ます。

したよ。高山さんはドン・フライと闘うシ

桜庭　宮戸（優光）さんによく言われまし

決は
決着

ッキー×

同士の対
、派手な

ます。

——桜庭さんは『ハッスル』に出るつもりはない以上、これからも『PRIDE』一本で突き進むしかないんですね。

桜庭 ボクは『PRIDE』がなくなったら、行き場がありませんからね。なくなったら引退して何かお店やります。時計屋とか。

——グランドセイコー専門店（笑）。

桜庭 でも、あんまり人と触れ合いたくないからなぁ。食べ物屋とかはイヤですね。お客さんに挨拶しなきゃいけないから。

——対人恐怖症か（笑）。あれだけたくさんのファンの前で闘ってるのに……。

桜庭 （遮るように）闘ってるときは見えないですもん！

——リング上からもマイクで挨拶してるじゃないですか。

桜庭 もの凄い緊張しますよ、あれは！ 間が空いてるときは、一瞬セリフを忘れてるんですよ。今度やってみてくださいよ、緊張するんだから！

——なぜ俺がやらなきゃいけない（笑）。ああいうのが好きな人もいるんですけどね。

桜庭 ああいう場でスムーズに喋れる人って、ホント凄いですよね。

——「超一流のアスリートは演技論も身についている」ってスポーツ科学かなんかの本に書いてあったから、桜庭さんも慣れれば全然いけると思うんだけどなぁ。DSEの関連会社であるドリーム・ステージ・ピクチャーズの制作映画第一弾・『殴り者』で桜庭さんも味のある演技してるじゃないですか。

桜庭 ホントですか？ いやぁ、あれも恥ずかしかったんですよね……。その『殴り者』の面白いエピソードをいくつか聞きましたよ。高山さんはドン・フライと闘うシーンがあるんだけど、お互い本気のパンチが何回か入っちゃったらしいです。

——『PRIDE』さながらの殴り合い（笑）。ドン・フライが撮影後に戻してたと聞きましたね。

桜庭 ボクは（クイントン・"ランペイジ"・）ジャクソンと闘うシーンあったんですけど、彼が遠慮してるから「もっとやってもいいよ」って言ってたんですよ。『PRIDE』の試合のときは思い切り殴るくせに、何でそんなに加減するんだっていうぐらいだったから。

——桜庭さんもキチンと演技を勉強したら、役者としてもいけるんじゃないですか？

桜庭 イヤですよ！ あれだって出る・出ないで揉めたんですから。

——直前まで「出ない」って言い張ってたそうですね（笑）。榊原代表が自宅まで口説きに行ったとか。

桜庭 ぶわぁ〜。「他のみんなはOKなんだけど、サクちゃん待ちなんだよね〜」って言われたら出るしかないじゃないですか！ でも、もう出ないです。ちょっと恥ずかしいですよ。

——プロレスへの道は遠いなぁ（笑）。そういうところもプロレスの技術の一つですからね。

桜庭 ボクもそれができるんだったらプロレスやってますよ。できないところに『PRIDE』が出てきてくれたから助かった……。

——さすがUインターのころに「もっと気迫を出せ！」って言われて、"気迫なんか出せねぇよ"って思った人は言うことが違いますね（笑）。

映画にはもう出ないです。ちょっと恥ずかしいですよ

桜庭 宮戸（優光）さんによく言われました。……できねえよなぁ……（ボソリと）。

——格闘技の技術の攻防を見せるプロレスだったらできるんじゃないですか？ Uスタイルとか。

桜庭 それだったら『PRIDE』があるから、まったく興味がないですね。

——それは団体のU—STYLEなのか、それとも試合スタイルとして興味がないのかどっちですか？

桜庭 試合スタイルですね。

——そこで「団体として興味がない」って言ってくれれば面白かったのに……はい、そういうわけで（笑）、来る6・20の話に戻りますが、考えてみれば昨年11月にランデルマンに一本勝ちして、大晦日にホジェリオに判定負け。ちょっと試合の間が開きましたけど、これは「復活」ということではなく、久しぶりの試合という感覚ですか。

桜庭 久しぶりに試合をするだけですね。それに引退しても、どっかでやる人もいるんだから。ボクはそういうんじゃないですからね。

——グッドリッジは大晦日に『PRIDE』で引退して、4月にK—1で復活しましたね。K—1が立ち上げる総合格闘技イベント『ROMANEX』についてはどう思いますか？

桜庭 『PRIDE』の選手とか、元横綱とか他でできあがった人を持ってきて闘わせる場だから、いまいちわかんないです。

——ひと言でいうと、『PRIDE』が「誰がそのときに一番強いのか」を決める場所だとしたら、『ROMANEX』は「誰が強いかわからなくする」場なんですよね。良くも悪くもプロレス的な空間が前

実力派巨人対決は意外な寝技決着

○セーム・シュルト［1R5分2秒／腕ひしぎ十字固め］ガン・マッギー×



シルバほどのかわいげがない巨人同士の対戦。両者ともストライカーなので、派手な打撃戦を期待されたが……。



シュルトの打撃を交わしたマッギーはタックルを仕掛け、見事マウントに。重い打撃を振り下ろしていく。

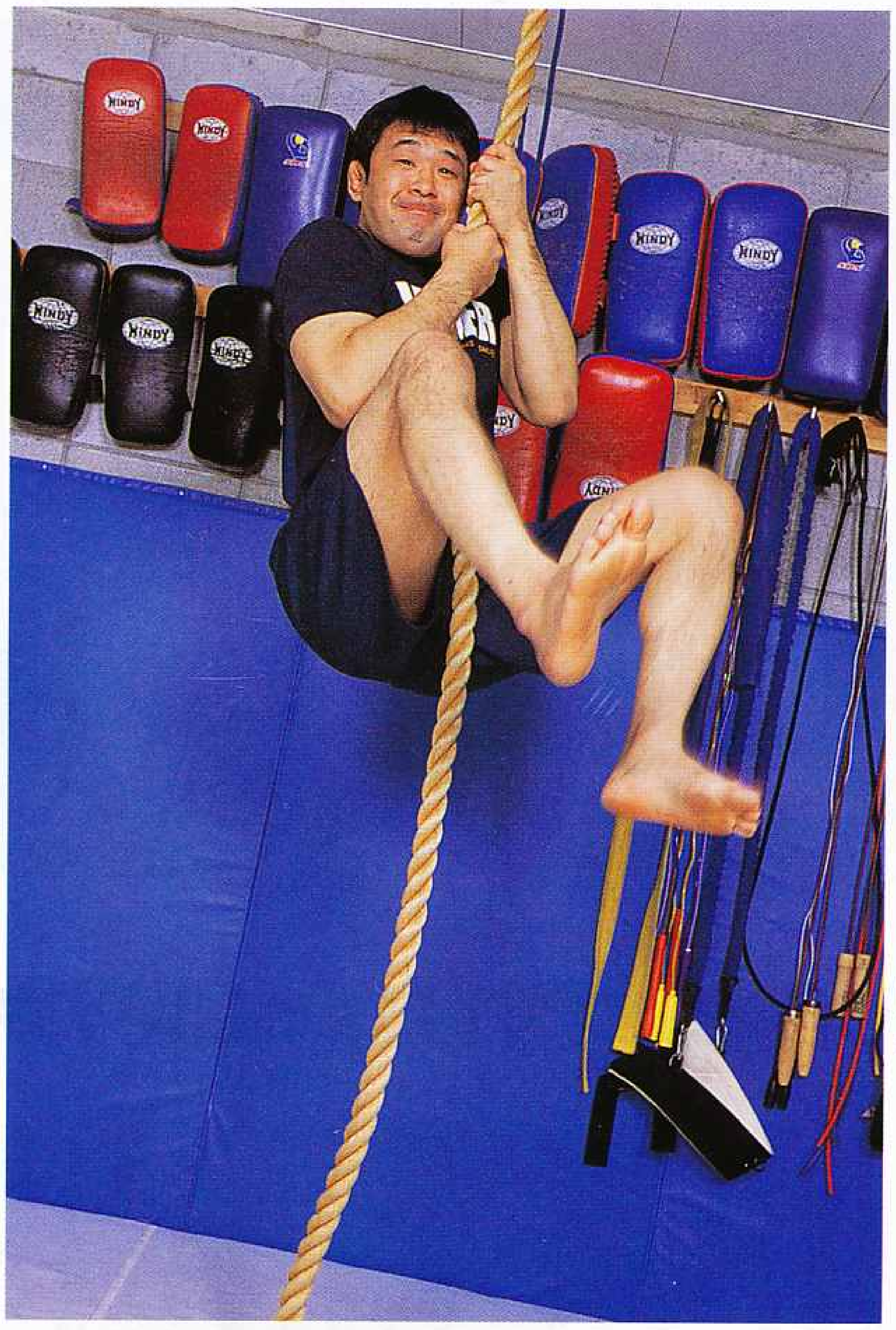


危機から逃れたシュルトは、逆に好ポジション奪取に成功!! ニーオンザベリーから一気に攻め立てていく。



最後は腕十字で仕留めたシュルト。ヒョードルやノゲイラ、ジョシュに敗れているとはいえ、やはりその実力は侮れないのだ。

面に出てきそうですね。
桜庭　ああ……。
——「ああ」ってそれだけですか、統括副部長。
桜庭　いや、特に何も思わないです（ニコニコ）。
——これで総合格闘技の大きなステージが二つできるわけだから、選手の引き抜きというか行き来も激しくなりそうですよね。そのあたりは統括副部長的にはどう思いますか？
桜庭　自分のところで育てればいいんですよ。ボクやシウバだって『PRIDE』で育ったようなもんじゃないですか。例え引き抜き戦争みたいになったとしても、『PRIDE』側はやり返さない方がいいんじゃないですかね。やられたからやり返すっていう風になったらグチャグチャになっちゃいますからね。
——試合で殴られたら必ず殴り返す男が言う！（笑）。
桜庭　試合とは違いますよ！（笑）。
——K−1といえば、武蔵選手が新日本プロレスに上がるんですけど（この時点では試合前）、ジャンルのボーダレス化も進んでますよね。
桜庭　し、新日本に？　できるんですかプロレス？
——異種格闘技戦スタイルですけど、初めてですよ。
桜庭　誰とやるんですか？
——柴田（勝頼）選手です。
桜庭　ああ。
——また「ああ」だ（笑）。
桜庭　柴田レフェリーの息子さんでしょ。名前は知ってますよ。まぁ、総合に関しては、こっちが一生懸命頑張れば、全然追いつけないと思いますよ。選手を育てて（団体のカラーが）できあがったところに、ボクも引っ張ってくれって感じですかね（ニコニコ）。
——ゲ！「衝撃！　桜庭和志、『ROMANEX』へ——」ということもありえる？
桜庭　絶対行かないですけど（笑）。
——数億円積まれたらどうします？
桜庭　いや、人間としてそれはないです。
——（本部長調で）「サク、お前は男の中の男だ！」。でも、グランドセイコーの誰も持ってないやつとかで釣られたらどうします？
桜庭　それはちょっと迷いますね（笑）。
——ガハハハ！　とりあえず、『ROMANEX』に移籍する前に、名前を挙げた3人にはリベンジしておきたいですよね。まずは6月に噂されるニーノですか。
桜庭　ニーノにリベンジ？……過去にやった記憶がない……。



「う〜ん、運を引き込むぞぉ」と綱登りにトライしたサクだったが、踏ん張り過ぎで「ウンコが出そうです……」。ふ、復帰戦は大丈夫!?

Kazushi Sakuraba

ニーノ、ホジェリオ、シウバとは、ボクが引退するまでにやりたいです

——まだ言い張る？（笑）。
桜庭　初対決だと思うんですよね、彼とは……ニーノは前からやってみたいなっていう選手の一人です！
——グラウンド勝負は見たいですね。ニーノの身体は柔らかさは気にならない？
桜庭　座って足を頭にかけたりするんですよね？
——ヨガのポーズみたいなのをやりますね。
桜庭　あんなのやるの、小学校のときにいっぱいいたじゃないですか！
——ガハハハ！　たしかにクラスに1人はいた気がしますね、そんな奴が（笑）。
桜庭　あの軟らかさは、関節を極める・極められないとはまったく関係ないですからね。ヒザやヒジが逆に90度曲がるんだったら極まりませんけど。
——ニーノはヒクソンみたいに、お腹がボッコーンってへっこむ呼吸法もできるんですよ。
桜庭　そんなのボクもできますよ！（Tシャツをめくってハラをへっこませながら）ほら！
——ガハハハ！　また負けず嫌いな。子どもじゃないんですから（笑）。
桜庭　そもそも彼はボクとやる気はあるのかなぁ、試合中にあんなに怖がってたのに。
——ようやく1回闘ったことを思いだしたようですね（笑）。ニーノは「オレは桜庭に1回勝っている。もう1回やっても一緒だ」って豪語してるそうですよ。
桜庭　ふ、ふ、ふ、ふざけんなあのヤローッ!!　頭きた、いまの！
——ガハハハ！　いや、いまのは作りです（笑）。
桜庭　あ、ウソですか。ホントに言ってるんだったら、ニーノをブッ殺してやろうと思いましたよ！　頭突きがあったのだって、自分の頭の感触でわかるだろうって！……ボクは闘った感触はないんですけどね。その日は一日中、夢見てました（ニコニコ）。
——それでは6・20での久しぶりの試合で桜庭ワールドが炸裂すること、そしてニーノとの初対決、期待してます（笑）。
【5月2日／都内・高田道場にて収録】



元気丸出し

ハッスル3

プロレスよ、今こそ踊れ!!

構成／ジャン斉藤　撮影／乾晋也　designed by matsu (Two Three)

面に出てき
桜庭　ああ
――「ああ
部長。
桜庭　いや、
ニコ)。
――これで
が二つできる
というか行き
そのあたりは
的にはどう思
桜庭　自分
てればいいん
クやシウバが
IDE』で
もんじゃな
え引き抜き
なったとし
IDE』側
い方がいい
すかね。や
り返すって
たらグチャグ
ちゃいます
――試合で
ず殴り返す
(笑)。
桜庭　試合
よ！　(笑)。
――K―1
プロレスに
は試合前)、
んでますよ
桜庭　し、新
ロレス？
――異種格
めてですよ。

「日本にもモンスターはいる。私の知り合いの髙田『PRIDE』統括本部長の遺伝子を受け継いだ大物がいる。NO FEAR……」



ビターン!!　『ハッスル3』では負け越ししてしまった『髙田モンスター軍』だが、髙田総統の「日本のプロレス壊滅」の自信はピクリとも揺るがない。〝例の計画〝が間近に迫っている？　NO　FEAR？　『ハッスル3』での、髙田総統の有り難い御言葉から、その根拠を探ってみよう。チキン……チキン！　チキン!!　チキンッ!!!!

●

川田vsミック・フォーリー戦を前にして、突然、場内の照明が暗転。『威風堂々』のテーマが流れ始め、『髙田モンスター軍』の髙田総統が美人秘書を帯同し、メインゲートに姿を現した!!　観客は一斉にブーイングを送った。

髙田総統（以下総統）（葉巻を吹かして）……まぁ、今日の客はお行儀が悪いな。

【観客・ブーイング】

総統　**私の話がなければ『ハッスル』は始まらないだろう。ウーッヒャハッハッハ！**

【観客・笑い】

総統　どうだ、もはや壊滅寸前のプロレスファン……

観客　髙田、オマエ面白れえよ!!

【観客・笑い】

総統　ありがとう、ありがとう！　**もっとブーイングをくれたまえ。**

【観客・ブーイング】

総統　そうだ、そうだ、**ありがたい**。まあ、今日もモノ好きなファンが集まったものだ。あらためて紹介しよう。我こそが『髙田モンスター軍』総統、髙田だ。よろしく。

【ブーイング＆拍手】

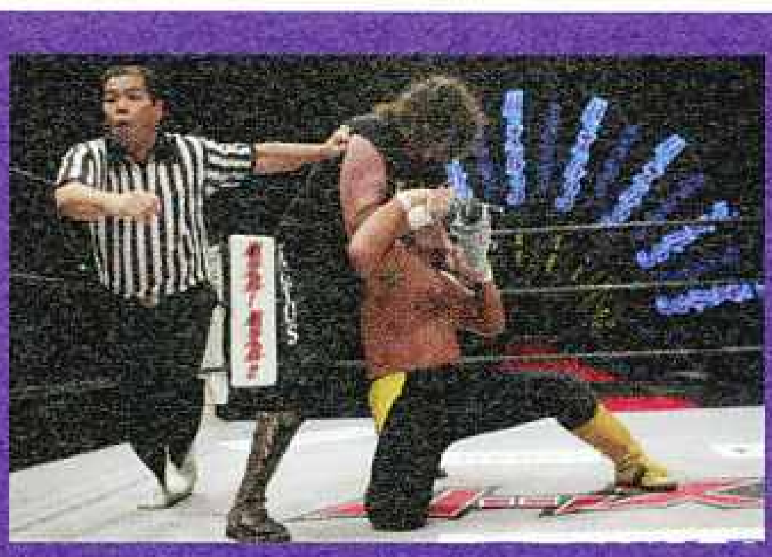
総統　今宵は日本のプロレスの歴史が変わる記念の日となるだろう。あわれな男たちが公開処刑に受ける

ハッスル3
髙田モンスター軍





HEY! YO! モンスターガールズ（片方はナースコスチューム）を率いて、けだるい雰囲気を醸し出しながら、シビレる入場で観客を沸かせた、ナッシュ＆ホールのアウトサイダーズ!!　ホールは破壊王のプヨン腹を指差して、四股を踏んでバカにしたり、破壊王の髪につま楊枝を見事、投げ刺した！　負けたけど、カッコイイからいいから問題なし。



ミックが川田の三冠王座に挑戦。レフェリーの和田京平、ミックのセコンド・島田参謀長も絡んで、有刺鉄線バット使用の有無がポイントに。川田は〝俺だけの王道〟を貫いて防衛に成功



ヘビー級転向＆『ハッスル軍』入り。大谷とタッグ結成した坂田は心機一転、新衣裳で登場。格闘スタイルを封印してハッスル路線を発進させたが、コールマン＆ボビッシュの前に圧敗!

ハデだな、小川。俺を差し置いてそれはないだろう!(ポーク)
俺が『ハッスル4』で衣裳をプレゼントしますよ(チキン)

時間が刻々と迫っている。まずは、骨董ベルトに妙にこだわる**〝自称・王道〟(川田)**だ。そして、**肝心なときにいつも肩を痛めてメソメソ泣いているポーク、ブタだ!**

【観客・笑い&ブーイング】

総統 査定試合は勝ったものの、相も変わらずプロレスの試合では、みじめな姿をさらし続けるチキン! ……**チキン、チキン! チキン!! 皆さんもどうだ?** チキン、チキン!……。

【観客・ブーイング】

総統 ブーイング、ありがとう!

【観客・笑い】

総統 この3人の男たちが血祭りにあげられる姿をじっくり堪能してくれたまえ。最後にひとつだけ聞いてもらおう。あの〝例の計画〟だが、現在、着々と進行してることを改めて宣言しておこう。近い将来、あわれなプロレスファン、諸君たちだな(ニヤリ)。

【観客・ブーイング】

総統 キミたちがさらにびびって、たじろぐことになる。約束しよう。それでは短い時間のお付き合い、どうもありがとう。皆さん……哀れな皆さん、バッドラック!!

【観客・ブーイング】

総統 (しばらく手をグルグル回しながら、そして狙いを一点に定めて)……**ビターン!!**(と、叫び颯爽と去っていく)

【観客・大爆笑】

●

ところがこのあとの試合では、「日本のプロレス・壊滅」計画のために高田総統が送りこんだミック・フォーリー、ナッシュ&ホールは揃って敗北。公開処刑するどころか、小川には『ハッスル』初勝利をプレゼントすることになってしまった。破壊王と喜びを分かち合った小川は、高田のビックマウスをあげつらうべく、試合後にマイクを握った。

●

小川(以下チキン) 高田、何がぁ公開処刑だ。**勝っちゃたゾ!** あれだけ大口叩いてよ、隠れてるんじゃねえぞコノヤロウ。恥ずかしがってるんじゃねえぞ、いつまでも! 出て来いよ!

【照明が暗転すると、ビジョンに総統の姿が映り出された!】

総統 チキン&ポーク。今日のところは勝利おめでとう。だが、一度や二度勝ったくらいでいい気になってもらっては困るよ。私のうしろには、世界中のモンスターたちが、まだまだ控えている。もちろんこの**日本にもモンスターはいる。私の古くからの友人、あの高田『PRIDE』**統**括本部長の、遺伝子を受け継ぐ大物がいることを忘れないでほしい。**……『ハッスル4』までせいぜい、びびって、たじろぐがいい! **NO FEAR**……(マントを翻すと、映像が途切れる)。

チキン ……何が**NO FEAR**だよオメエ! 訳分かんねぇこと言ってんじゃなえよコノヤロウ! 高田ぁ、オマエによ、びびって、たじろぐわけねえだろコノヤロウ!

【観客・拍手】

チキン え〜、今日は、皆さんのおかげで無事勝つことができました、ありがとうございました。これからはコツコツと、モンスター軍を潰していきます。これからの『ハッスル』をよろしくお願いします!

橋本(以下ポーク) モンスターか**ロブスター**か知らんけど……。

【観客・笑い】

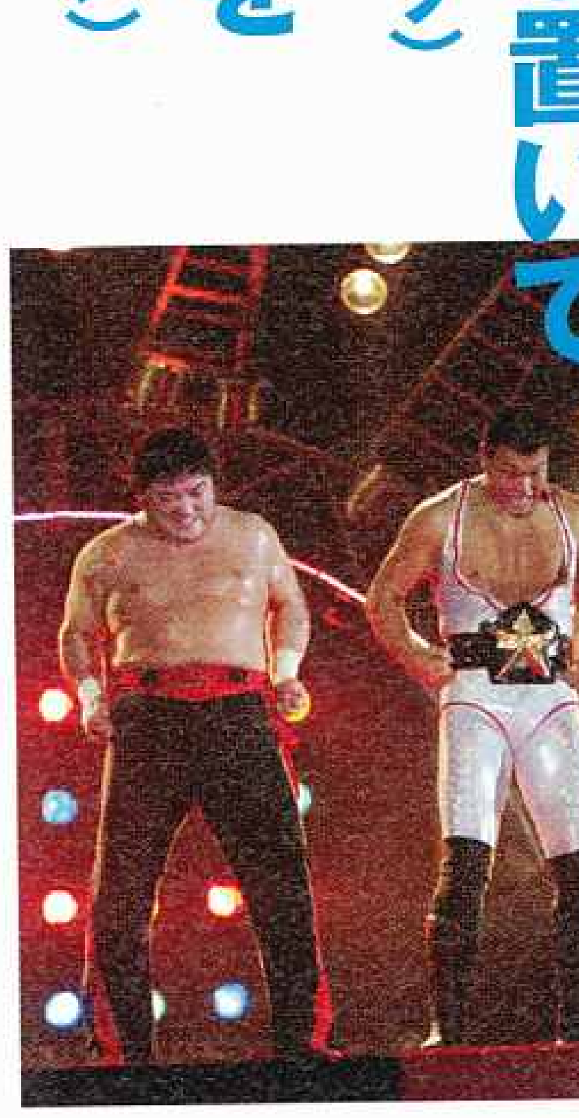
ポーク 俺らがポークだったら、ロブスターの高田、ヒネリ潰します。『ハッスル4』、期待していてください。……そんなことよりも、気になってることがあります。**ハデだな、小川(チキンのニューコスチュームを見やって)**。

【観客・笑い】

ポーク **俺を差し置いてそれはないだろう!**

【観客・笑い】

チキン でしたら、俺から次、プレゼントしてますんで。『ハッスル4』で着てください!



ポーク **ハデなヤツ、頼むぞ!**

チキン **みんなの前に約束してくださいよ。『ハッスル4』で着るって。**

ポーク **わかった。ブランドものしてくれよ**(笑)。

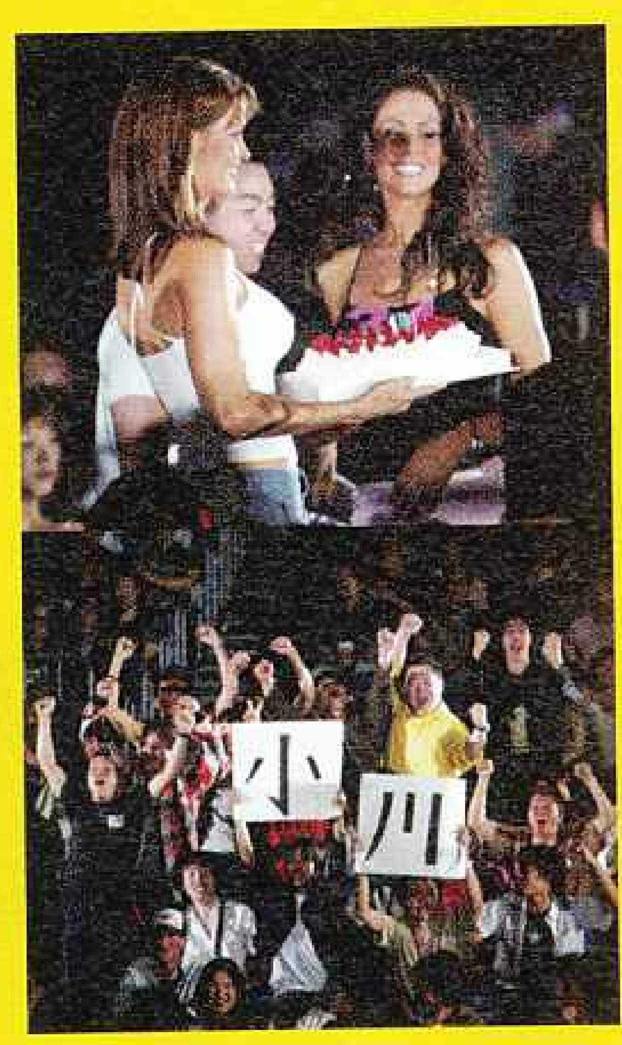
●

このあと、ゴルフ界でハッスルポーズを連発している〝賞金王〟片山晋呉が破壊王の呼びかけにより、リングに上がった。最後はもちろん、ハッスルポーズで締めたのであるが、総統の不気味な予告は一体? 「**高田統括本部長の遺伝子**」「**NO FEAR**」。この2つのキーワードにかかるのは、あの男しかいないが……『ハッスル4』が劇的に動き始めた!



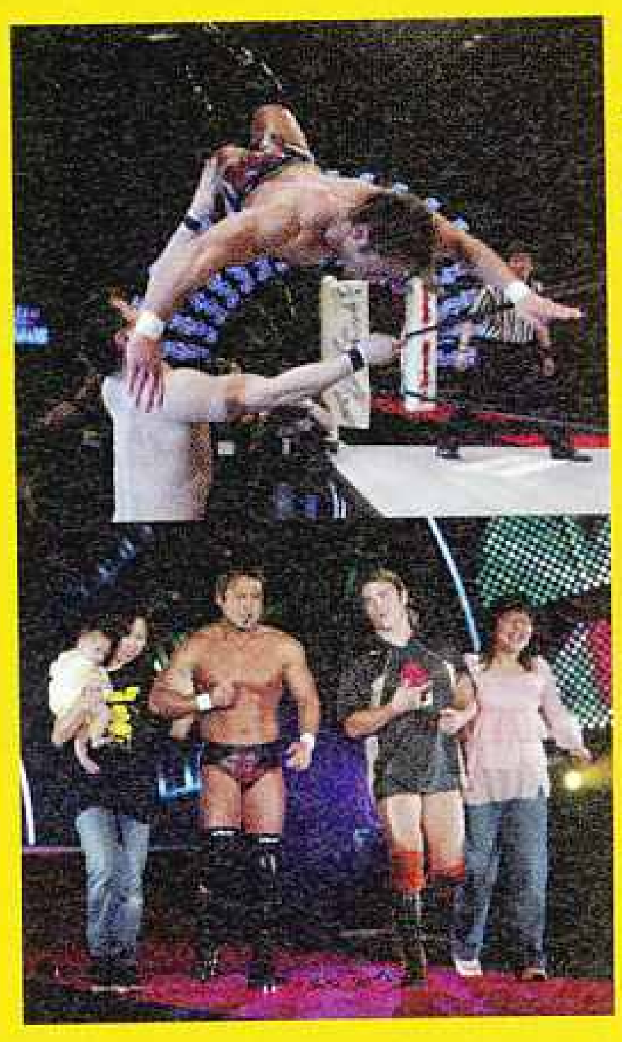
イベント開始前からハッスルハッスル!!

第1ハッスル開始前に小川がリングに登場! 自分を『ハッスル』の「父」と位置づけ、「母」である破壊王をリングに呼び込んだ。破壊王は花道をダッシュでリングイン。「母でございます。気持ち悪いよ!」と1人ボケ突っ込みをかました破壊王は、「小川が『PRIDE』でハッスルしましたが、オレたちが闘う場所は『ハッスル』です。プロレスは俺たちが守り、創造していきます!」。豪快なハッスルポーズがイベントスタートの合図となった。



『ハッスル』恒例、ウォーミングアップタイム

イベント開始前、すっかり恒例となったウォーミングアップタイム。今回はふたつグループが応援団として来場。その盛り上げに一役買った。そして毎度のカップルいじり、5月生まれの観客にはバースデーケーキをプレゼント(次回『ハッスル4』チケットも)。別ページでも触れているが、シルバに高い、高〜い、してもらった少年もいた!



カズ&スパンキー、女性客と入場!!

第1ハッスル(第1試合とは呼ばない)はLowki&TAKAみちのくvsカズ・ハヤシ&レオナルド・スパンキー。『ハッスル2』ではハッスルディーバと一緒に登場したカズ&スパンキーは、今回は客席から観客を誘いだしてのリングイン。試合では全員が続けざまに場外ダイブを敢行。初『ハッスル』のTAKAがカズにフォール負け。



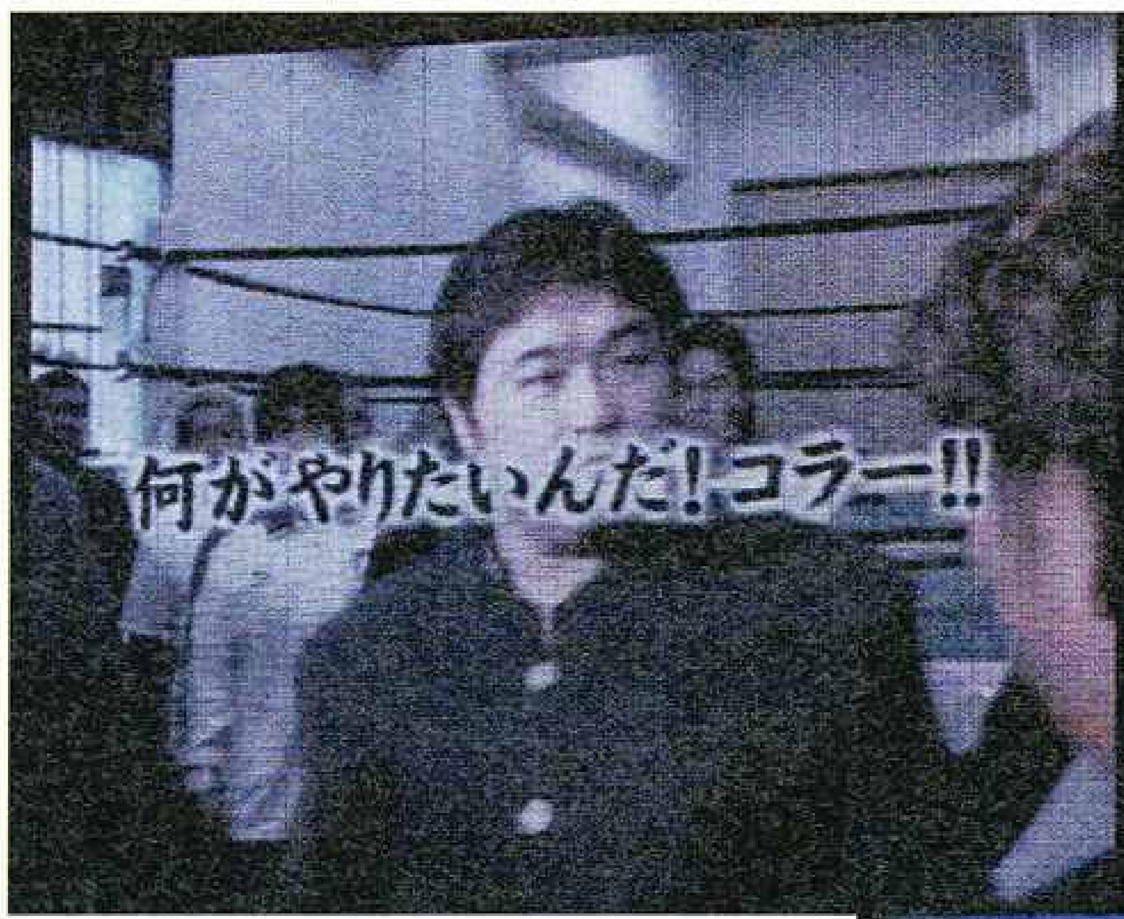
アメリカン・ドリーム大流血!!

『ハッスル1』で仲間割れした両者の遺恨決着戦。コリノはローデスのブーツを強奪し、凶器として悪用三昧! 「橋本バカ」からニセDDT、「小川もっとバカ」からニセSTO、「長州もっともっとバカ!」からニセラリアットを狙ったが、ローデスが老かいにエスケープ。最後はローデスにブーツを奪い返されて、ブーツエルボーの前にギャフン。試合後、握手を求めたローデスに応えなかったが…。

面に出てき
桜庭　ああ
──「ああ
部長。
桜庭　いや
ニコ）。
──これで
が二つでき
というか行き
そのあたりは
的にはどう
桜庭　自分
てればいい
クやシウバ
IDE』で
もんじゃな
え引き抜き
なったとし
IDE』側
い方がいい
すかね。や
り返すって
たらグチャ
ちゃいます
──試合で
ず殴り返す
（笑）。
桜庭　試合
よ！（笑）。
──K─1
プロレスに
は試合前）、
んでますよ
桜庭　し、新
ロレス？
──異種格
めてですよ。

最もハッスルした奴っ!!

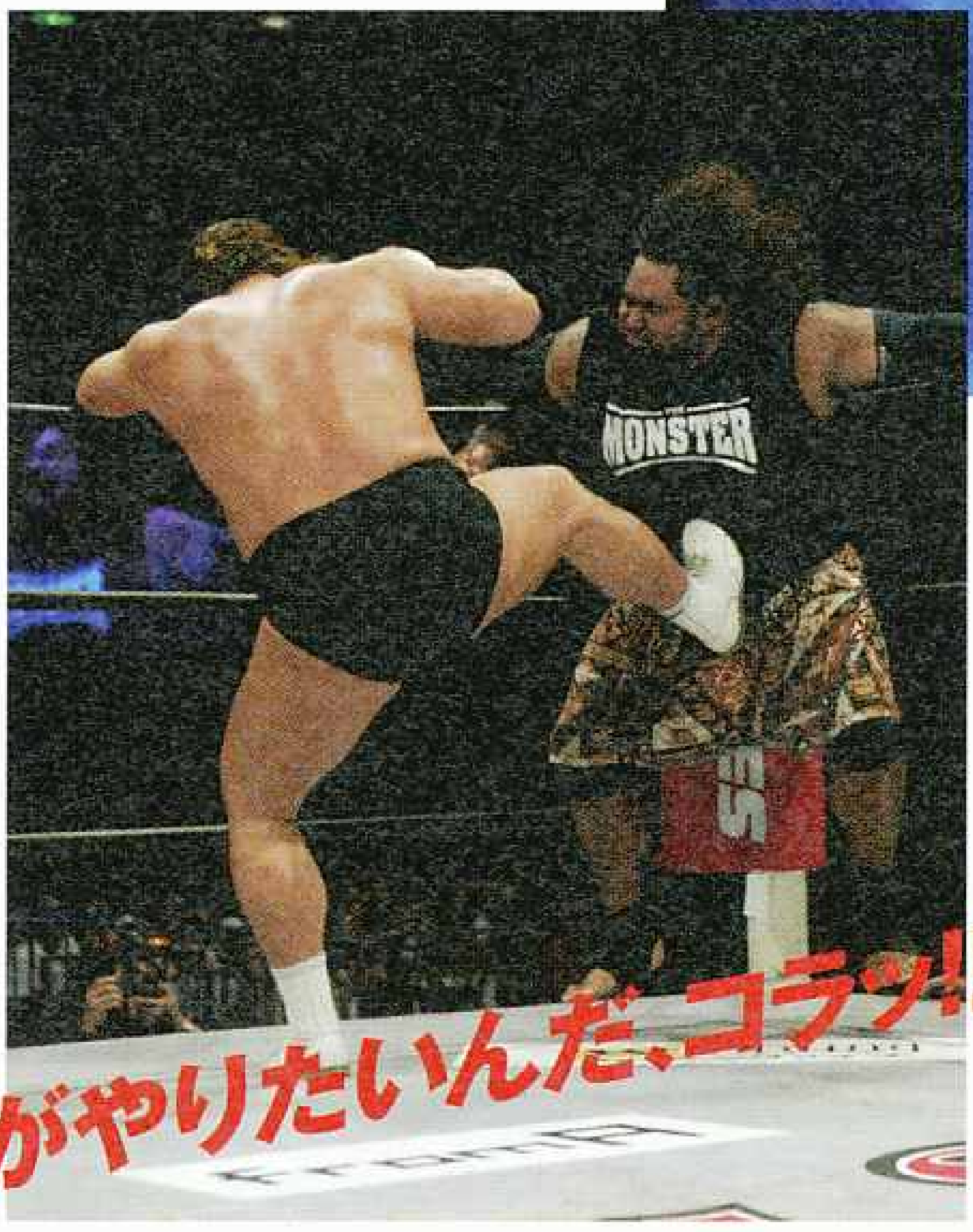
『ハッスル3』で



前回、大好評だった長州力「コラコラ」プロモ。バックミュージックに合わせて「何がやりたいんだ、コラッ!!」×6連発、最後は「何コラ！　タココラ!!」で締めて、間髪入れずにパワーホールが流れ出す!!　会場は大「長州」コール!!　最高だ!

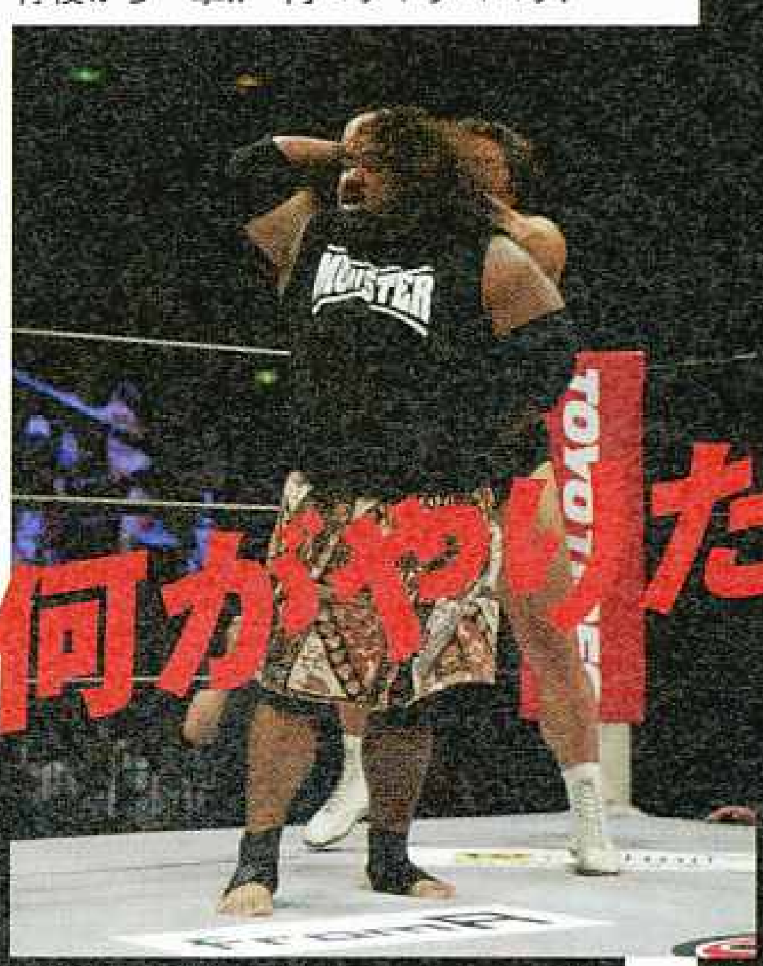


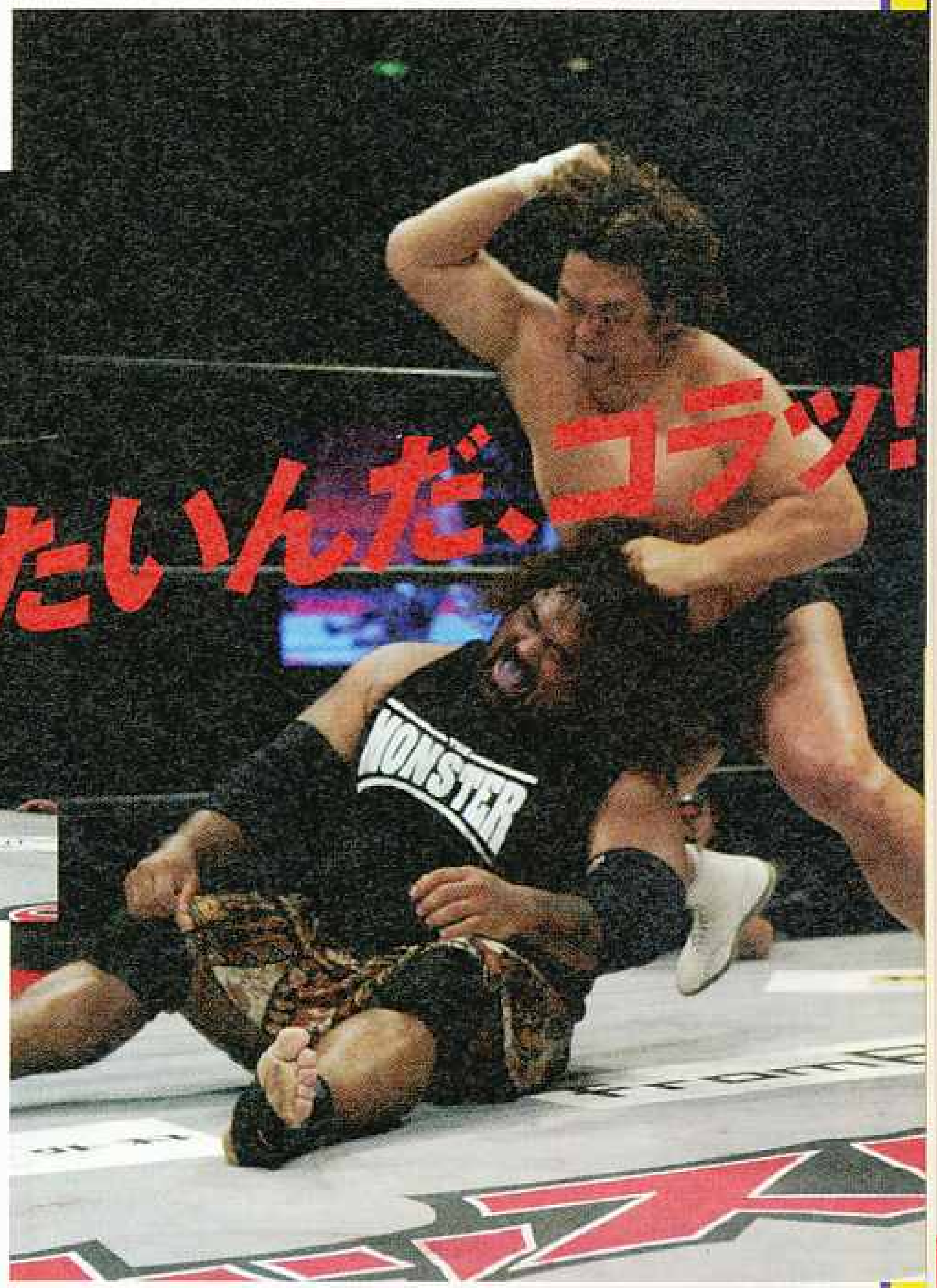
キング・アダモは島田参謀長から洗脳教育を受けて『髙田モンスター軍』入り。「アダモンスター」に改名したが、コミカルな動きは以前と変わらない。花道では尺取り虫のような動きも見せた（その意図は不明）。



「アダモちゃん！」「ハ～イ！」長州と向かい合っても、観客とのコール＆レスを忘れないアダモンスターに長州が激怒！「クソたわけが!!」「クソったれが!!」の怒号とともに強烈なストンピング!!　クソクソ！

「アダモちゃん!」またまた観客の呼び掛けに「ハ～イ!」と振り返ってしまったアダモンスター。長州はその隙を逃さず背後から一撃!!　何コラ！タココラ!





いくら痛めつけられようと、「ホデマカセ～!」とマイペースを崩さないアダモンスター。長州は「クソ!」「クソ」怒鳴り散らしながら攻撃の手を休めないが、アダモンスターは場外に逃亡して客席で休憩を取る始末。クソったれが!!

最後はリキアット一発でフォール。入場時の大声援といい、長州に対する期待感は凄まじいものがある。こんな復活を遂げるとは誰が想像しただろうか?　そして次回の対戦相手は誰だ?　やはり、あのTバック男なのか……?



リボーンした革命戦士

長州力

第5ハッスル

○　長州力［2分35秒　リキラリアット→体固め］アダモンスター×

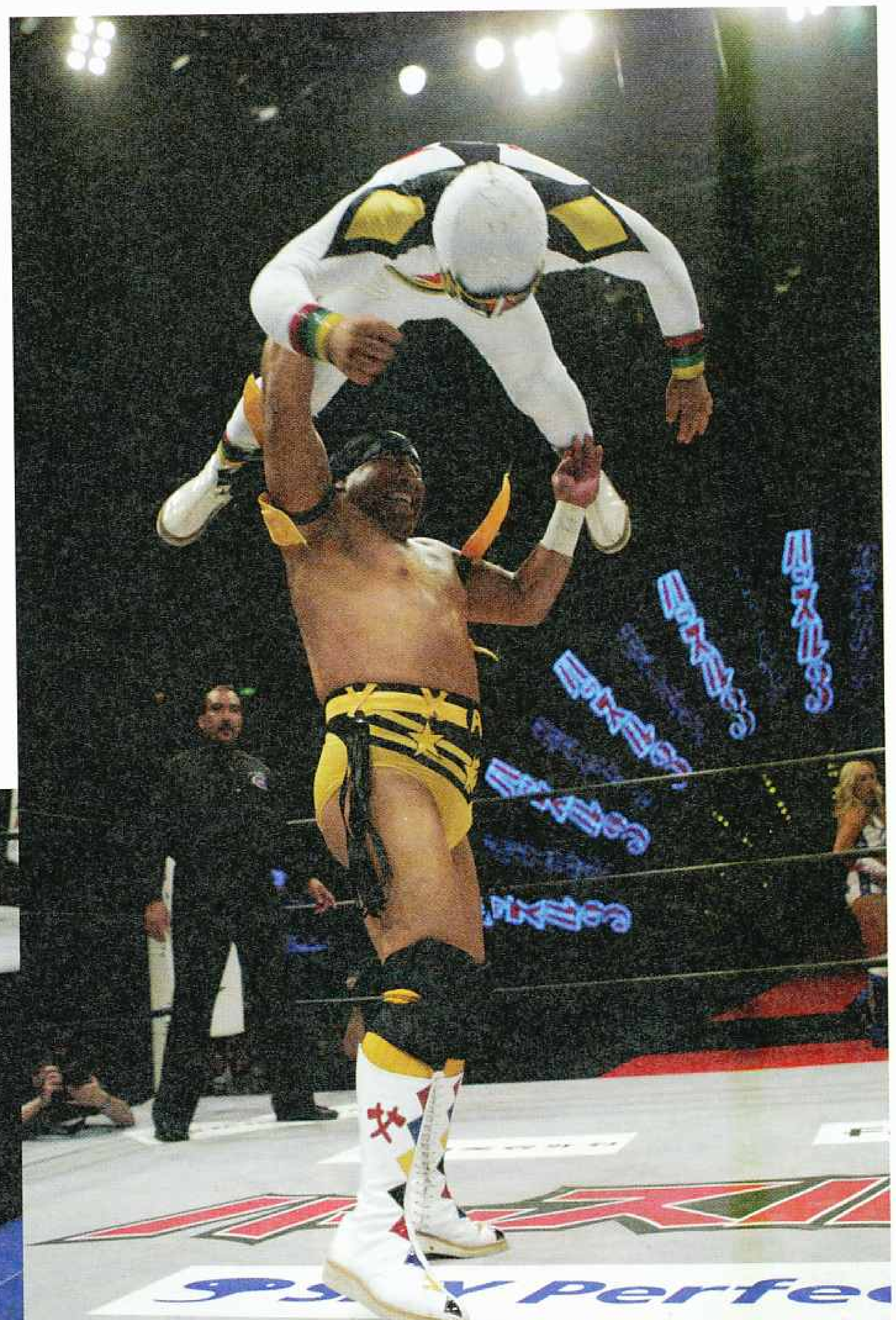
絶句。痺れた!!

世界のプロレスから・メキシコ編

最もハッスルした奴ら!!





『ハッスル3』文句なしのベストバウト!!　メキシコ・AAA直輸入変則8人タッグマッチは、男vs女、男vsオカマはもちろん、なんと男vsミゼットも実現。オカマとオカマが観客の男を取り合ったり、ミゼットのマスカリータ・ザグラダの超高速の空中技の連発に、場内のドヨメキは止まらない。アパッチェがサクラダを攻撃すると、ミゼットに攻撃するのは弱い者イジメとして、観客はアパッチェにブーイングを送ったが、サクラダがそのアパッチェを丸め込んで勝利をもぎ取るという、観客のツボを心得た結末!　スタートからフィニッシュまで誰もが満足する試合内容となった。ビバ、メヒコ!!





左からオカマ、女、肩車してるのが男。リンピオ側。

ワールド・プロレスリング
～世界のプロレスから・メキシコ編～

オスカル・ゼビージャ(男)
シンティア・モレノ(女)
ピンピネーラ・エスカラータ(オカマ)
マスカリータ・ザグラダ(ミゼット)

vs

グラン・アパッチェ(男)
ファビー・アパッチェ(女)
ポルボ・デ・エストレージャ(オカマ)
ミニ・アビスモ・ネグロ(ミゼット)

第2ハッスル

○	マスカリータ・ザグラダ	11分32秒 ウラカンラナ	グラン・アパッチェ	×



左からオカマ、女、ミゼット、男。ルード側。

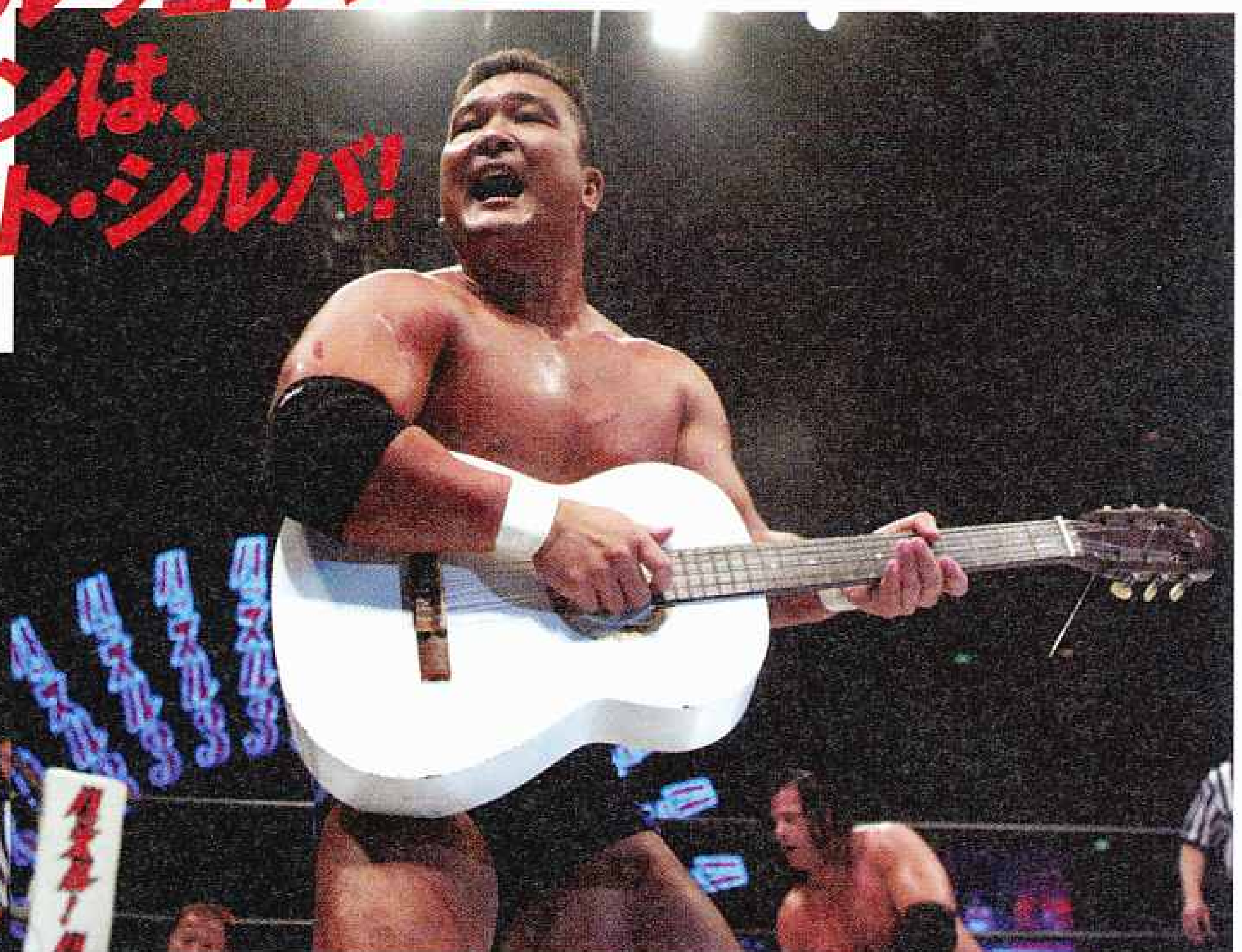
面に出てき
桜庭　ああ
―「ああ
部長。
桜庭　いや
ニコ）。
―これで
が二つでき
というか行
そのあたり
的にはどう
桜庭　自分
てればいい
クやシウバ
IDE』で
もんじゃな
え引き抜き
なったとし
IDE』側
い方がいい
すかね。や
り返すって
たらグチャ
ちゃいます
―試合で
ず殴り返す
（笑）。
桜庭　試合
よ！（笑）。
―K―1
プロレスに
は試合前）、
んでますよ
ロレス？
桜庭　し、新
―異種格
めてですよ。

ダイナマイト・ハードコア・ハッスル・ウェポンマッチ

ハードコア

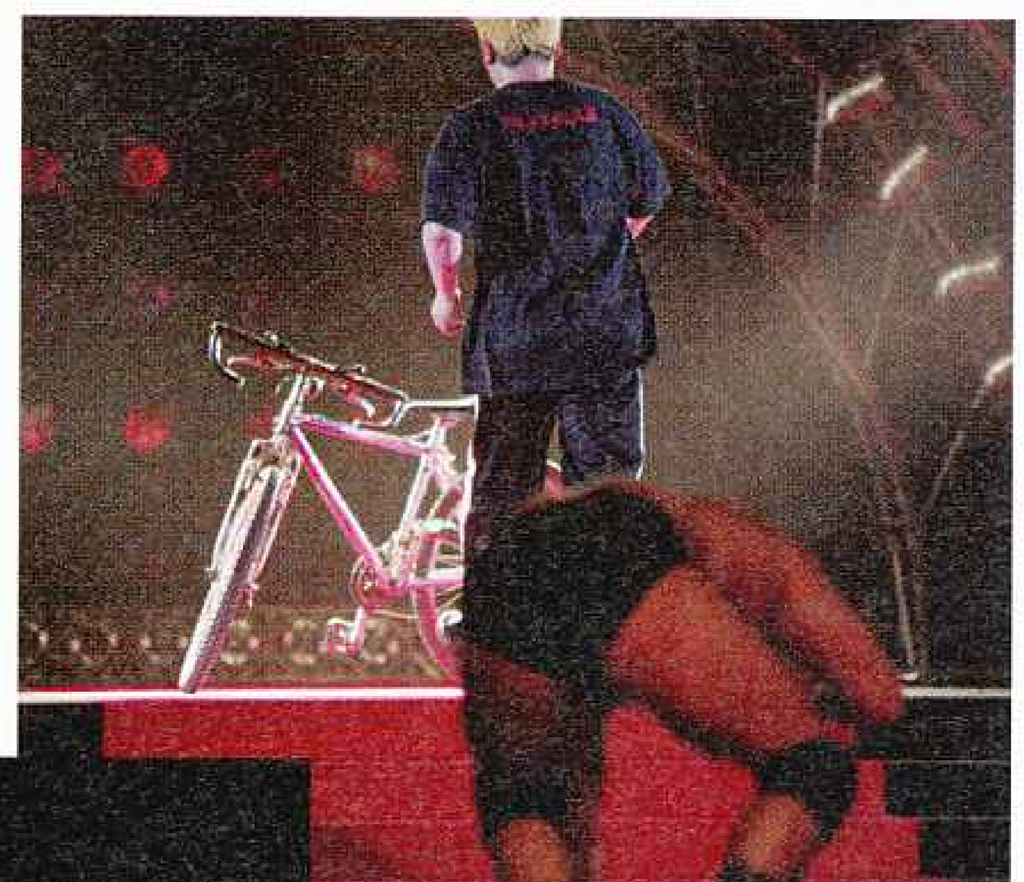
一定時間を経過すると、ステージにハッスルウェポンが登場!! ファイナル・ウェポンは、なんとジャイアント・シルバ!





WEAPON #01
白いギター

ウェポン登場のカウントダウンが終了すると、白煙とともにステージに登場したのは、なぜか「白いギター」！グラジが白いギターを手にするも田中将斗が奪い取り、ハッスル・フルスイング！　白いギターは木っ端微塵に。一度きりの仕様なので、ハッスル度50点なウェポン。

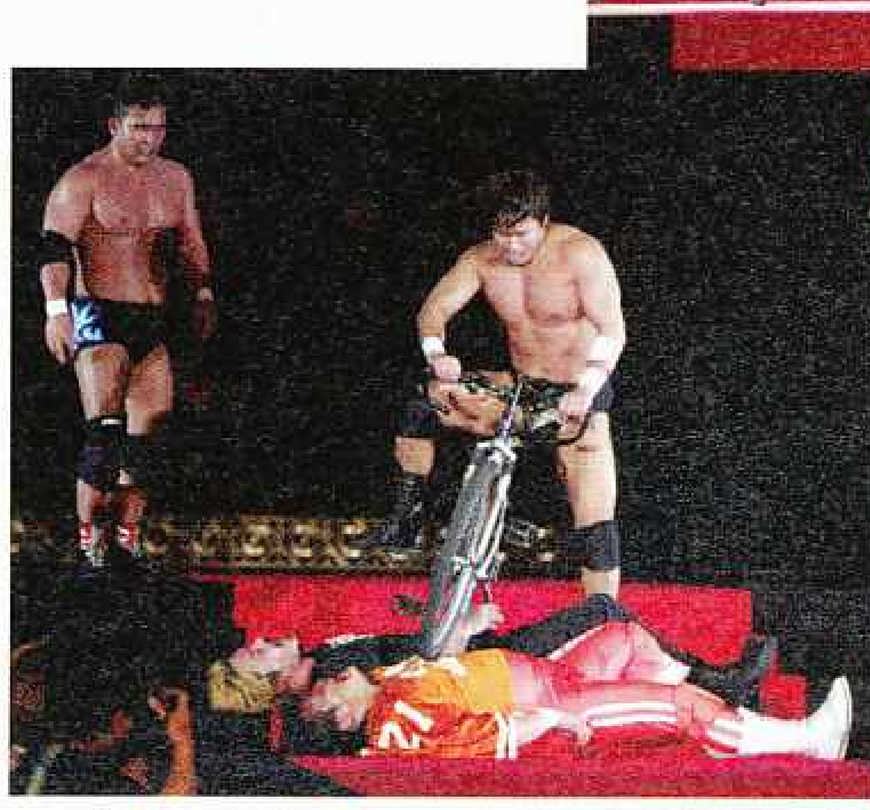






WEAPON #03
ブリキバケツ

やっと武器らしい武器（なのか?）「ブリキのゴミ箱」が登場。金村＆サブゥーは2人一緒に頭から被せられ、頭めがけて本間のミサイルキックが炸裂！　続いて金村は逆さ釣り。イスを置かれての殺人スライディングキックが飛んでくるからたまらない!!　ハッスル度100点満点！



WEAPON #02
ギヤ付き自転車

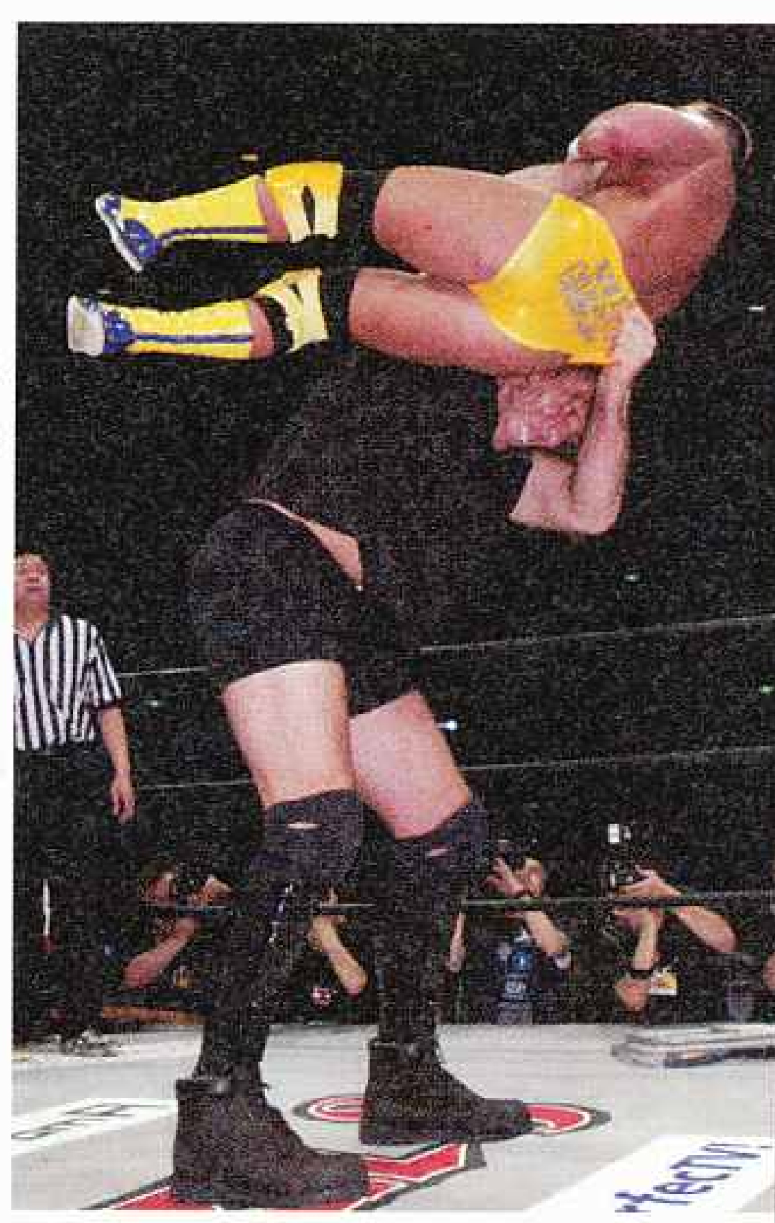
第2のウェポンは「ギヤ付き自転車」！　「ギヤ付き」というところが非常に馬鹿馬鹿しい。なぜか金村のセコンドの非道がGETするが、黒田にラリアットをブチ込まれ強奪される。あげくには金村と一緒に轢かれる！　しかし黒田は、軽快に花道を走り始めたところを、グラジエーターがフライング・ラリアット!!　持ち主がヒドイ目に遭いやすいウェポンなんて、いいとこ20点ぐらいだな。

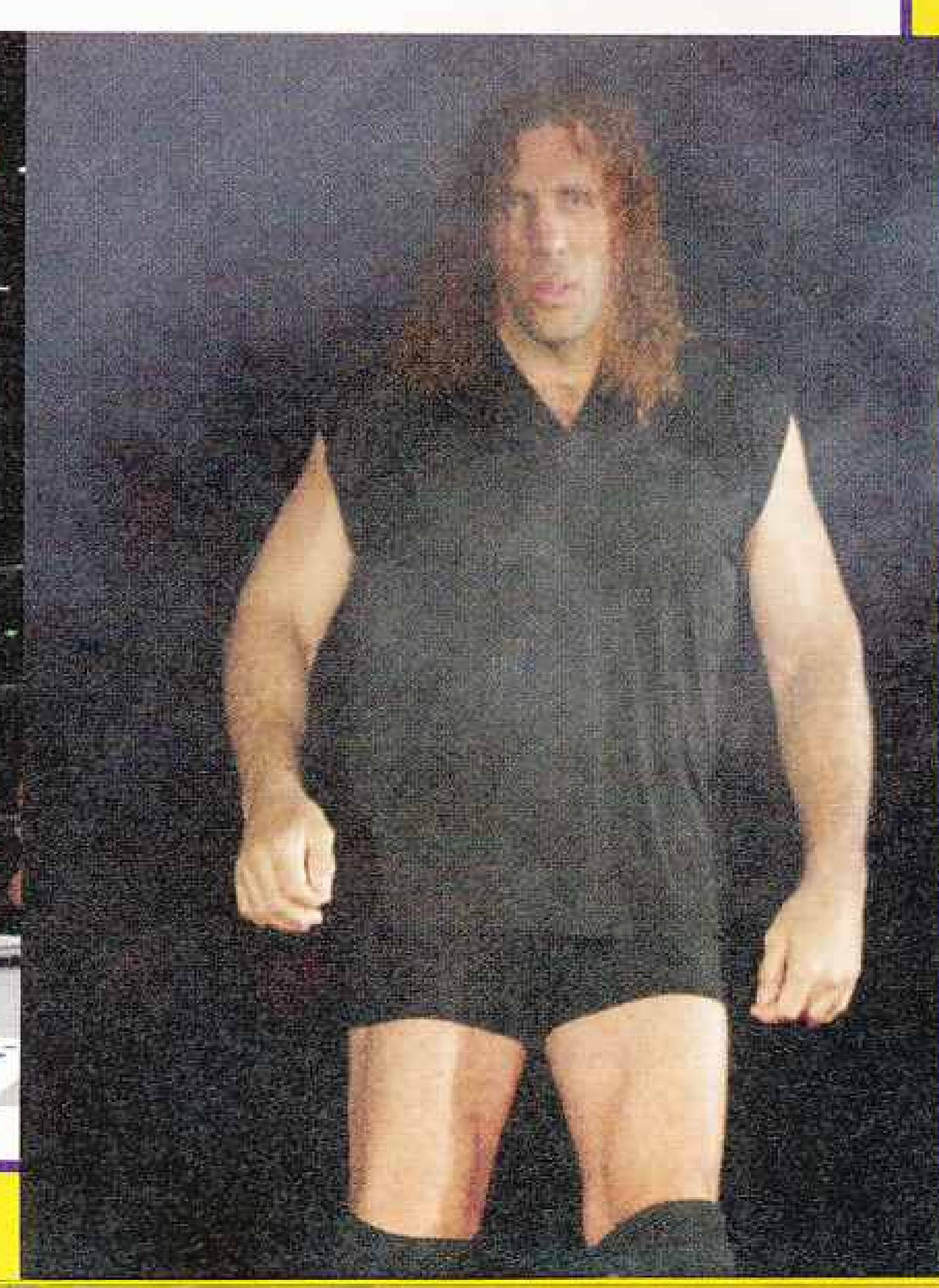
ダイナマイト・ハードコア・ハッスル・ウェポンマッチとは何か?

ある一定の時間が経過すると、花道にウェポンが登場するシステムになっている。ウェポンの使用権は、それに最初に触れた選手という規定になっていたが、"何でもあり"のハードコア勝負だけに、仁義なき武器争奪戦が繰り広げられた。

WEAPON #04
ジャイアント・シルバ

最後のウェポンは、なんとジャイアント・シルバ!!　田中組はなんとかシルバを使用しようと命令するも、近づいた途端、シルバは大暴れ！　最初にシルバにタッチした本間はチョークスラムで叩き付けられた。命令不履行。制御不能。「北斗の拳」のデビル・リバースみたいなもんである。





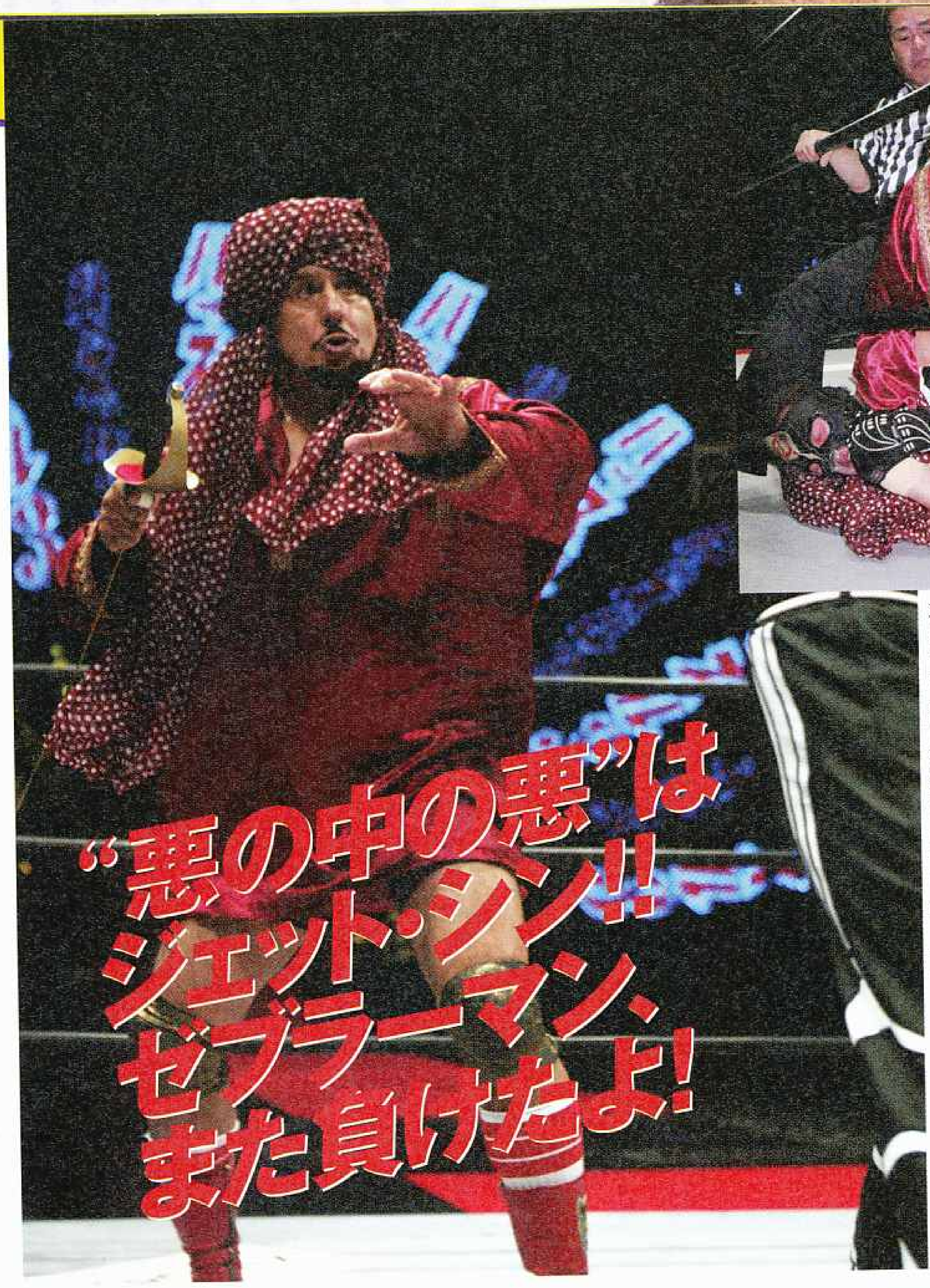
ダイナマイト・ハードコア・
ハッスル・ウェポン・マッチ

ザ・グラジエーター 金村キンタロー サブゥー	vs	本間朋晃 田中将斗 黒田哲広

第7ハッスル

○ ザ・グラジエーター	16分12秒 雪崩式アッサムボム→エビ固め	本間朋晃	×

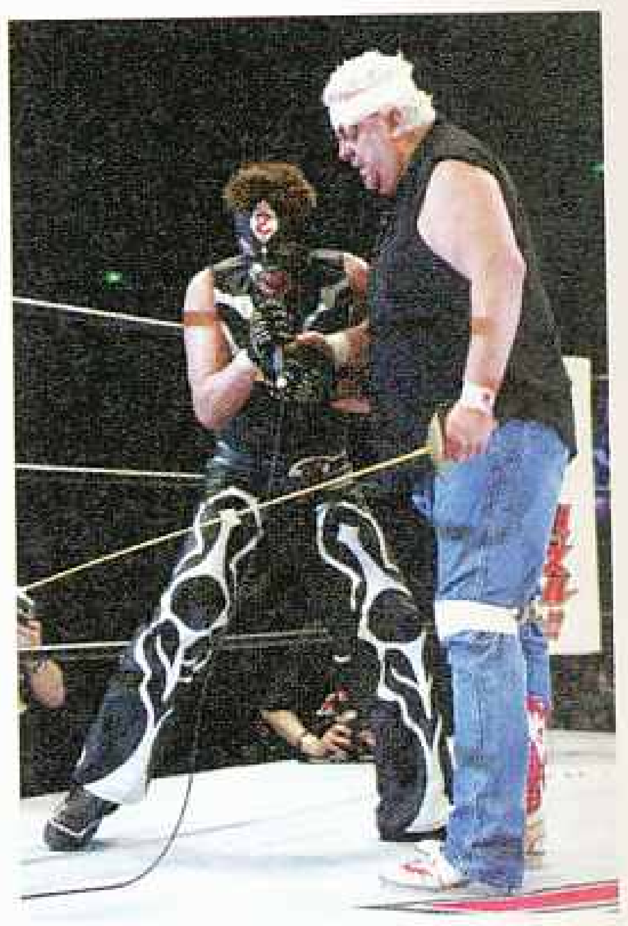
スーパーキャラクター



“悪の中の悪”はジェット・シン!! ゼブラーマン、また負けたよ!



白黒付いても攻撃を止めないジェット・シンからゼブラーマンを救ったのはローデス。コリノと仲直りして、シンに立ち向かうことをアピールした。一方、コブラクローでノドを痛めつけられたゼブラは「ゲホッ、ウウッ。次こそ白黒付けるぜ。イエー」と空しい雄叫び。ロッテ並の連敗ロードはまだまだ続きそうだ。ガンバレ、ゼブラーマン!



対戦相手“悪の中の悪”は当日発表となるゼブラーマン。試合前のプロモでは、破壊王から「先生、野性を取り戻せ!」とアドバイスを受けて動物園へ（飼われてる時点で野生ではないが）。虎を見るや「黄色と黒は危険なんだよ」と恐怖の表情。そんな“虎怖し”な前煽りを受けて、登場した対戦相手は“狂虎”ジェット・シン!! 結果は言わずもがな。ガンバレ、ゼブラーマン!

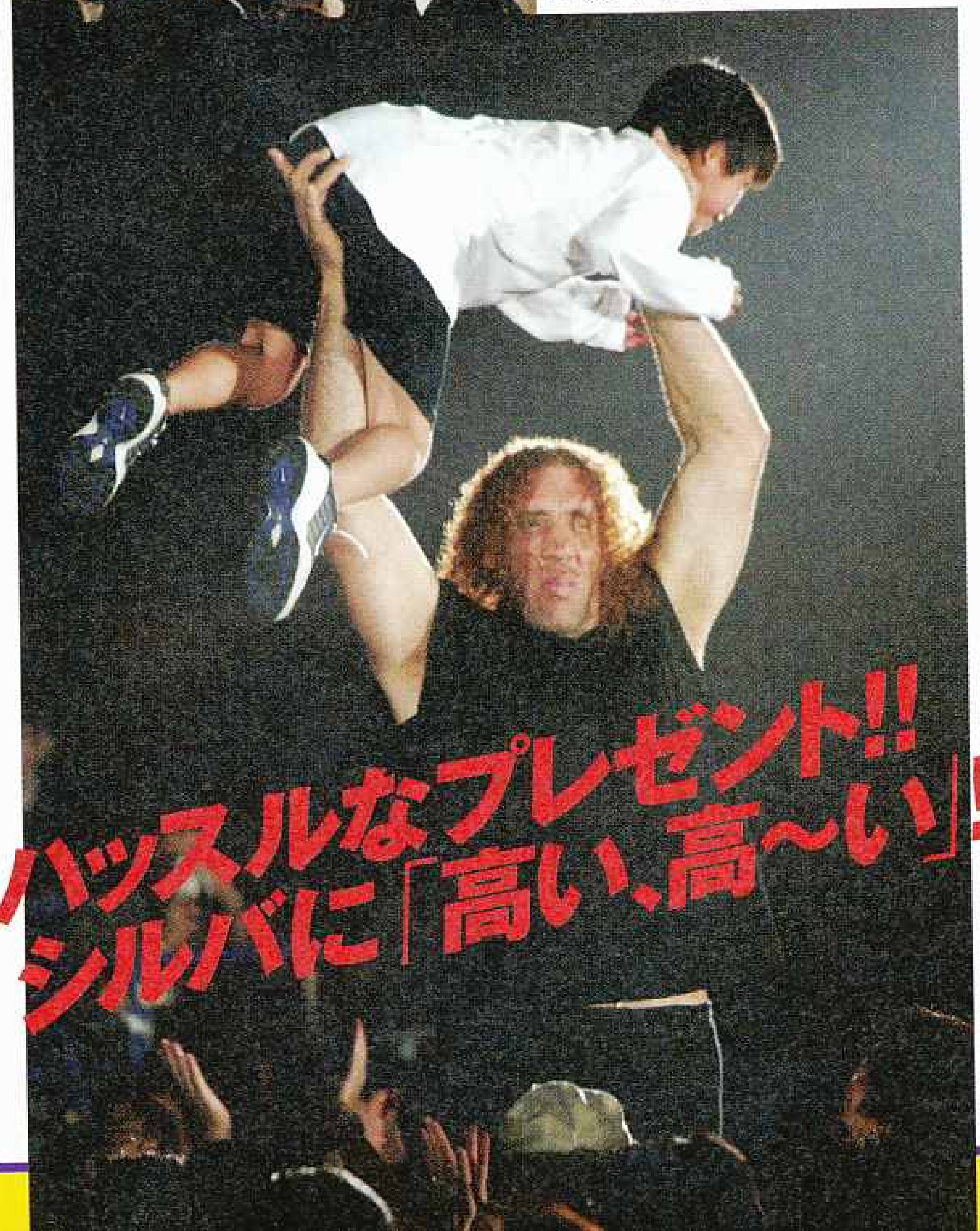
ゼブラーマンvs タイガー・ジェット・シン

第4ハッスル

× ゼブラーマン ［5分43秒 コブラクロー］ タイガー・ジェット・シン ○



ハッピーバースデープレゼントや、カップルいじりが恒例となったイベント開始前のウォーミングアップタイム。今回は「ジャイアント・シルバに高い、高〜い」権の希望者を募った。写真の少年が指名されたが、いざシルバが目の前に立つと、思い切りたじろいでしまっている。それでもシルバは少年を、高い、高〜い!! ハッスルウェポンでの登場といい、シルバはいい味出しまくりです。

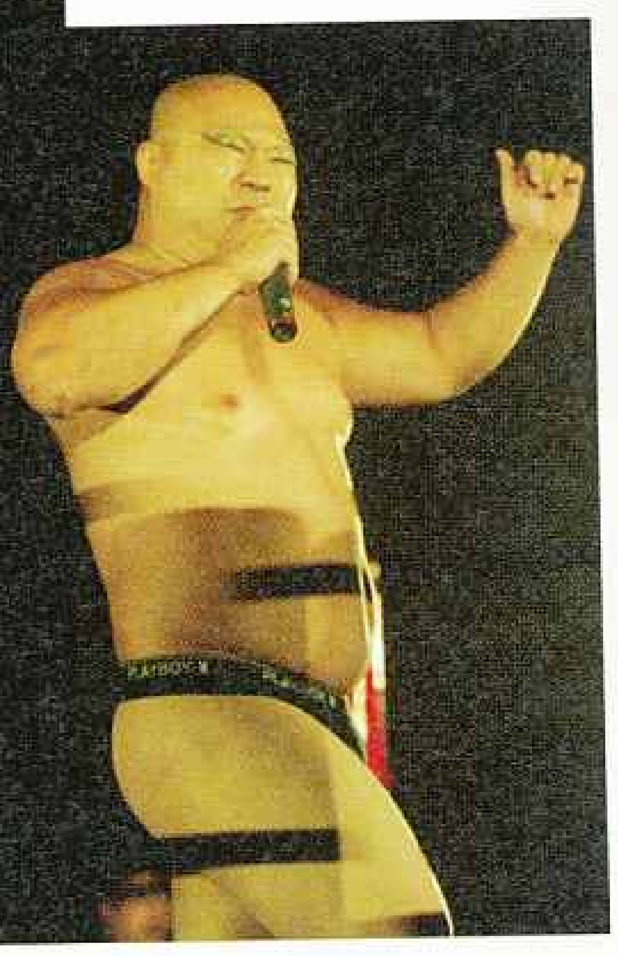


ハッスルなプレゼント!! シルバに「高い、高〜い」!



休憩明けに“究極のエンターティナー”ジョー・サンがリングに登場!! おなじみのTバック姿でハッスルポーズをカマしながら、リングに上がればメロウなラップを披露し、凍りつく観客を文字通り尻目にワンマンリサイタル。今後の『ハッスル』参戦が決定したが、味方にしても敵に回しても厄介な変態尻である。もしかして、高田総統をたじろがせることができるのは、ジョー・サンかもしれない。

“変態尻”が登場! ジョー・サンが会場を凍りつかせた!!



面に出てき
桜庭　ああ
――「ああ
部長。
桜庭　いや
ニコ）。
――これで
が二つでき
というか行
そのあたり
的にはどう
桜庭　自分
てればいい
クやシウバ
IDE』で
もんじゃな
え引き抜き
なったとし
IDE』側
い方がいい
すかね。や
り返すって
たらグチャ
ちゃいます
――試合で
ず殴り返す
（笑）。
桜庭　試合
よ！（笑）。
――K－1
プロレスに
は試合前）、
んでますよ
桜庭　し、
ロレス？
――異種格
めてですよ。



めてですよ。



断絶



＝



オレンジ野郎
小島聡
色男の中の色男
カズ・ハヤシ

『ハッスル2』では大谷と一夜限りのタッグを結成している小島。カズは『ハッスル1』から全戦参加。スパンキーとのイケメンタッグは、ラインナップには欠かせなくなった。

「プロレスの教科書」を持つ男
大谷晋二郎

『高田モンスター軍』には立ち向かうが、OHとは共闘はせずに我が道を突き進む。『ハッスル』には試合後のコメントブースが設けられていないので、「プロレスの教科書」はいまだ読み上げられていない。



ZERO-ONE専務
中村祥之

その舌峰の鋭さはマット界でも指折り。新●本＆ヤドカリの暴挙は絶対に許さない。

強制ハッスル

反感



『ハッスル』事業主任
笹原圭一

『ハッスル』普及に力を尽くすも、いつもハッスルポーズ強要する小川に不信感を抱く。



ハッスル暴走王
小川直也

『高田モンスター軍』からプロレスを守る選手たちは、すべてハッスル一門に組み込まれる。その枠組みの中で各自が信念を持って行動。共闘する者もいれば、まったく接点も持たない者もいる。小川は「ハッスル一門・OH派」。長州や川田との共闘は現時点では薄いのだ



＝ タッグ結成





ハッスル軍入り

黒田哲広
田中将斗
金村キンタロー

ハッスル一門vs『高田モンスター軍』の図式から離れて、ハードコアマッチの魅力を伝えることに全力を注いでいる。ハードコア部門には、グラジエター、サブゥー、本間朋晃が名を連ねている。

ハッスル青年
坂田亘

「ハッスル一門・OH派」。ヘビー級転向を宣言して、『ハッスル軍』入りを小川に直訴。いままでの格闘スタイルを封印して、ニューコスチュームで『ハッスル』から新たなスタートを切った。

ハッスル＝一門

プロレス防衛





デスマ
ミ
フォ



破壊王
橋本真也

「ハッスル一門・OH派」。川田、長州との絆が深まっているが、髙田総統から「肝心なときに肩を痛めてメソメソ泣く」と罵倒されたように、ここのところは肩の怪我に泣かされている。『ハッスル4』で用意されるといわれる新コスチュームが、完全復活のきっかけにしたいところだ。



コラコラ革命戦士
長州力

「ハッスル一門・マグマ派」。髙田総統からは「ロートル」呼ばわれされるも、vs破壊王との“コラコラ問答”でカリスマを一気に取り戻した。髙田総統との接触はまだないが、一刻も早い遭遇がファンから望まれている。

協力

協力



ヒ
ゴール



小笠原版
ゼブラーマン

目指すは“超人追求”小笠原先生がゼブラースーツを身にまとう。映画の初期設定同様メチャクチャ弱い。







ジャ
シ

俺だけの王道
川田利明

「ハッスル一門・俺だけの王道派」。髙田総統いわく“引きこもりの象徴”三冠ベルトを保持している。

ライバル視?

変態尻
ジョー・サン

敵か味方か“究極のエンターティナー”も『ハッスル』に参戦。誰と対しても想像を絶する絡みになることは確実だ

世界のプロレスから

『ハッスル3』では「メキシコ編」が大好評を博したが、「カルガリー編」や「プエルトリコ編」など、世界各地それぞれのスタイルを通してプロレスの魅力を再確認する。日本独特のスタイルである「UWF編」や、「昭和ストロングスタイル編」なども候補に挙げられている。



ハッスル劇場

4月30日／都内某所

構成／ジャン斉藤
撮影／平工幸雄
designed by matsu (Two three)

「ロートル長州を徹底的に茶化せ!!」

「総統の部屋」大公開!!

『紙プロ』読者の諸君、さあ、この指を見たまえ（グルグル回しながら）……ビターン!!（びびったか？ たじろいだか？の略語）。

絶好調の我らが髙田総統が、なんと「総統の部屋」を大公開、マスコミ陣を招待!! 4月30日、都内・某所の「総統の部屋」にて、髙田総統が記者会見を催した。その部屋に一歩足を踏み入れると、そこには総統ワールドが拡がっていた。ロウソクが数本置かれただけの薄暗い部屋の壁には、『髙田モンスター軍』のフラッグが飾られている。異様な光景にマスコミ陣が大いに戸惑っていると、島田参謀長が登場。偉そうに喋り始めたのであった。

島田参謀長（以下ヤドカリ）　え〜、いまから、『髙田モンスター軍』の髙田総統より、次回行われる『ハッスル3』の会見を行いたいと思います。**髙田総統がこうやって、皆さんの前に現れるのは異例のことです。**ですので、くれぐれも失礼のないように！　**とくにプロレスマスコミの方は気をつけるように。**髙田総統はとても高貴な方です。わかりました？

【記者陣ノーリアクション】

ヤドカリ　では、髙田総統に登場していただきます！

【どこからともなく、部屋に総統のテーマ曲『威風堂々』が流れ始める。すると、「総統の部屋・別室」より髙田総統がマントを翻しながら登場!!】

ヤドカリ　皆さん、そこどいて、そこどいて！　道を空けろ！（記者陣に道を空けるように指示）。

総統　（椅子に気品高く座り）……**私は暗闇に慣れているが、諸君らはどうかね？　不安はないか？……誰の目を見て喋ればいい？　すべての目を見て喋ろう！**　報道陣の諸君、御機嫌いかがかな？　私が『髙田モンスター軍』総統、髙田だ。さっそくだが、まずは『ハッスル』査定試合として、『PRIDE・GP』に出場した、あの〝チキン〟こと小川直也君にお祝いの言葉を述べにきた。……チキン！　いや小川君。

「総統の部屋」が遂に公開された。今後は『髙田モンスター軍』オフィシャルHP、ファンクラブ設立、モンスターショップ開店など、さらなる露出を期待したい。ビターン!!



査定試合のクリア、そして勝利、心からおめでとう！

ヤドカリ （拍手）。

総統 しかしぃ、何事にも、ハードルを高く設定する私から言わせてもられば、**あの査定試合のハッスル度は40％だ**。にもかかわらず、チキンこと彼は、すでにポーク（橋本）にタッグを組んで『ハッスル3』に出場すると、ほざいているようだな。私にとっては寝耳に水だ。まあ、いいだろう。まあ、よしとしよう。彼は査定試合をクリアした。だから、チキン小川君に『ハッスル3』に出してあげよう。これは私から彼への贈り物だ。気持ちよく受け取ってもらおうじゃないか。ただひとつチキンに言っておく！ 今後で『ハッスル』で無様な試合は絶対に許さん!! そうだろう島田？

ヤドカリ はい！ 総統のおっしゃるとおりです！ 以前、総統がおっしゃられた〝例の計画〟、一部報道ではですね、あのチキンを『PRIDE・GP』に上げるのが、〝例の計画〟じゃないかと報道されてましたが、あんなのは〝例の計画〟の一環に過ぎません。『髙田モンスター軍』の〝例の計画〟はあんなチンケなもんじゃない。そうですね、総統。

総統 （高貴に頷く）。

ヤドカリ 我が『髙田モンスター軍』の本当の目的は、日本のプロレスの概念と構造を根こそぎブチ壊すことです。報道陣の皆さんが『ハッスル3』以降も、たじろぐだろうということは予告させていただきます。

総統 ……島田！ **ちょっと火を貸してくれ**。

ヤドカリ はい！ 失礼します!!

【葉巻に火を付ける】

総統 （葉巻を吹かしながら）……カードはどうなってるんだ？

ヤドカリ はい。カードを発表させていただきます。笹原（『ハッスル』事業主任）君！ キミが発表したまえ！（偉そうに）。



笹原 え〜、私のほうからカードを発表させていただきます……。

【笹原氏がカードを読み上げるが、途中で「長州力」の名前が告げられると、総統が言葉を挟む】

総統 ちょっと待て！ なんでそこに長州力の名前が入っているんだ？ 大物気分、ゲスト気分でノコノコ『ハッスル』に出てきて、**燃えカスのようなファイトをする奴**が、なんでそこにラインナップしているんだ！ おかしいじゃないか？

ヤドカリ じつは総統！ 私は（『髙田モンスター軍』）参謀長として、長州力を独断でラインナップさせていただきました。じつは昨日、内緒でZERO-ONE大阪大会に行って来たんですが、**長州力にチェーンソーで追いかけられまして、この一張羅のジャケットがビリビリに引き裂かれました**。あの長州力は、『髙田モンスター軍』に喧嘩を売ってるとしか思えません！

総統 ……ま、そういうことなら、あのロートルに、誰か適当な対戦相手をあてがっておこう。

ヤドカリ ありがとうございます、総統！

総統 ……島田!!

ヤドカリ はい！

総統 （長州の対戦相手を）誰か選べ！

ヤドカリ リストから選ばせていただきます。『髙田モンスター軍』に加入したい奴はいっぱいいます。（リストを見ながら）総統、いいのがいました。以前、ZERO-ONEのリングに上がっていた、キング・アダモという奴がいるんですが、すでに洗脳済みです。「アダモンスター」として洗脳してあります。まあ、あのロートルなんで、このアダモンスターあたりでどうでしょうか？

総統 十分だろう。**思い切り茶化してやればいい**。もうすでに地団駄踏んで悔しがってる姿が、頭に浮かぶだろう。アーッハッハッハッ……おい島田！ アレを持ってきたまえ。

ヤドカリ はい！

【参謀長が『ハッスル3』の大会ポスターを持ってくる】

総統 ロートルはどこだ？

ヤドカリ コイツですコイツです！

（と、長州のイラストを指差す）

【長州のイラストに総統が葉巻の火を押しつける！ ヤドカリはジャケットの恨みとばかりにポスターを引き裂き、踏みつける暴挙に出た!!】

ヤドカリ （ポスターを踏みにじりながら）この野郎！ このロートルが!! 見たか！

総統 ……（マントを翻しながら記者陣に向かって）諸君、現実的に、こうして尻に火が付いている長州力だ。わかるだろ？ **相も変わらず、保守的極まりない闘い振り**。ハッスルという舞台によって、**久しぶりに小さな脚光を浴びたのにも関わらず**、奴は、それを自分の力だと勘違いしている。**この現状がいまのロートル長州力だ**。皆さん、わかるだろ？ 彼は、知ってのとおり、**日本のプロレス界を変えるために、あのWJとやらをつくったんじゃないのか。それがいまでは、所属選手もいない、資金もない。風前の灯火以下のていたらくだ！** わかるだろ？ たしか彼には〝革命戦士〟というニックネームが付いていたな。いまではその名前にブラ下がって、あわれで無様な姿をさらしているだけの年寄りだ、**〝革命戦士〟が聞いて呆れるわ！** よく聞け長州力！ 最後にひとつだけ言っておこう。**『髙田モンスター軍』こそが、この日本のプロレス界のド真ン中だ！** わかるだろ？ キミは我が『モンスター軍』のいるリングに向き合えるのか？ それとも、尻尾を巻いて逃げるのか？ **またアルバイト気分でノコノコ出てくるのであれば、長州力という名前、存在、これを即刻消し去る**。これも『髙田モンスター軍』の仕事である。これは戯言ではない。必ず実行する、覚悟しておきたまえ！（マントを翻して去っていく）。

歯切れよい淀みのない口調で長州を挑発した髙田総統！ 髙田『PRIDE』統括本部長と古くからの友人であること、〝総統の部屋〟があること、**〝暗闇に慣れている〟**ことなど、徐々に総統の秘密が明らかになってきているが、今後もさらなる衝撃の事実をさらけだすことは、賢明なる『紙プロ』読者の諸君なら、わかるだろ？（総統風）。ビターン！



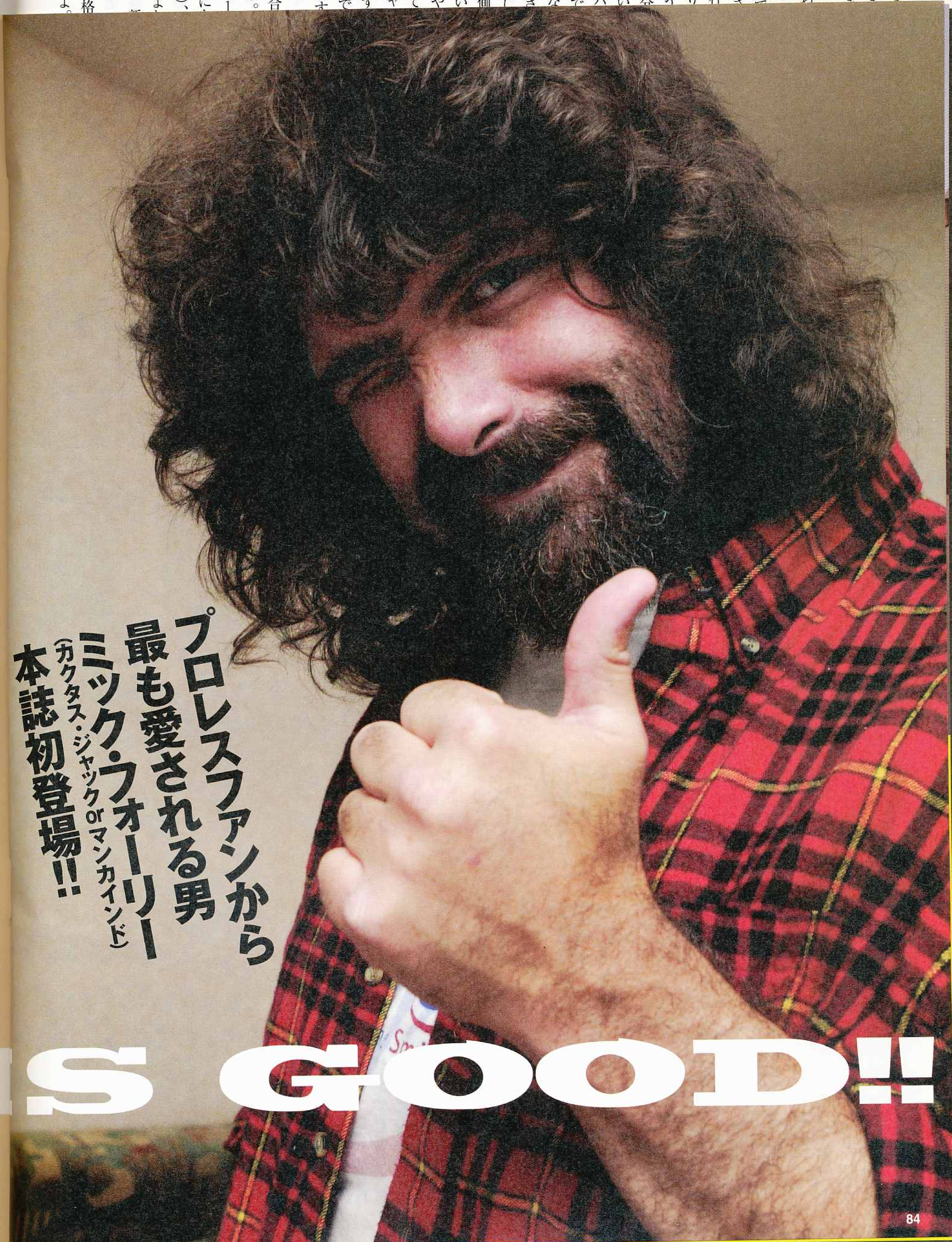
『ハッスル3』ポスターの長州イラストはご覧のとおり。ジャケットを破られたヤドカリの恨みが発端なのだから、こんな馬鹿げたことはない。





面に出て
桜庭　あ
―「あ
部長。
桜庭　いや
ニコ)。
―これ
が二つでき
というか行
そのあたり
的にはどう
桜庭　自分
てればいい
クやシウバ
IDE』で
もんじゃな
え引き抜き
なったとし
IDE』側
い方がいい
すかね。や
り返すって
たらグチャ
ちゃいます
―試合で
ず殴り返す
(笑)。
桜庭　試合
よ！(笑)。
―K―1
プロレスに
は試合前)、
んでますよ
桜庭　し、
ロレス？
―異種格
めてですよ。

――ミック・フォーリー選手が日本
ファンにも面白い試合が見せられる
に、なんで折れてし



ミック・フォーリーは悪くない!!

FOLEY IS

それは突然のことだった。『ハッスル3』にミック・フォーリーが参戦決定の第一報が流れた翌日に来日、その日のうちに会見、調印式、試合と嵐のようなスケジュールで駆け抜けた。先月までWWEでランディ・オートンと激しい抗争を繰り広げていた“ハードコア・レジェンド”ミック・フォーリーが、なぜ『ハッスル』にやって来たのか!? そして、川田利明との三冠戦では何を見せようとしたのか!? 謎に迫るハッスル・インタビュー!!

聞き手／坂井ノブ
撮影／乾晋也
designed by matsu（Two Three）

——ミック・フォーリー選手が日本で試合をすることが突然決まって、マスコミもファンも凄く驚いてるんですよ。しかも三冠戦ですからね。

ミック　ボク自身もビックリしてるくらいだからね（ニッコリ）。『ハッスル』からは数週間前にオファーを受けていたけど、ハードコアの試合に出るのか、三冠タイトルに挑戦するのか、よく分からなかったんだ。

——ずいぶん急だったんですね。

ミック　そうなんだけど、『ハッスル1』の川田vsマーク・コールマンのビデオを観て、「ゼヒ、カワダとやらせてくれ！」と自分から頼んだんだ。

——あ、川田戦はフォーリー選手からのリクエストだったんですか?

ミック　そういうことだね。いまはとてもワクワクしてるよ。

——川田選手と闘いたいと思ったのはどうしてなんですか?

ミック　カワダは歴代の日本の選手の中でも最高のレスラーの1人だからな。

——〝ハードコア・レジェンド〟から見ても川田選手の評価は高いんですね。

ミック　ボクが初めて日本に来る直前、ビデオでワンマッチだけ彼の試合を観たことがあってね、それが凄くいい試合だったと記憶しているんだ。その後、何年も経ったにも関わらず、いまだにあの当時と変わらない素晴らしいプロレスをしている。

——たしかに試合スタイルは、ほとんど変わってないですからね。

ミック　よほどフィジカル面が優れてるからなんだろうな。ボクも非常に肉体を酷使する試合をするから、ファンにも面白い試合が見せられると思うし、そう思わなかったら、この試合は引き受けなかったね。

——ミック選手は先月、WWEのPPV大会『バックラッシュ』でハードコアマッチをしてましたよね。画鋲や有刺鉄線バットなども持ち出して、非常にクレイジーな試合でしたが、川田選手相手でもそういった試合をするつもりですか?

ミック　ボク自身はそう考えてるよ。カワダのスタイルに合わせて試合をしたら、カワダが有利になるだろう?　カワダはハードコアマッチを経験してないし、それにボクには高田モンスター軍からのサポートも出るだろうから、ボクの方が有利になることは間違いない。

——まあ、川田さん次第のところもありますけどね（笑）。フォーリー選手がカクタス・ジャックとして日本で参戦した最初の団体は全日本プロレスですよね?　その時は川田選手と対戦はしてないんですか?

ミック　小っちゃいショーだったが、一度だけ試合をしたことがあるよ。結果はあまり言いたくないけどね（笑）。

——わかりました（笑）。個人的には、全日本時代にフォーリー選手とジャンボ鶴田さんの試合が記憶に残ってます。

ミック　いい試合だったろ?

——ええ。

ミック　ジャンボはホントに素晴らしい選手だったよ。じつは、シリーズ3日目のあの試合で肋骨を3本折ってしまって、残りの28日間は骨折したまま試合をしていたんだ。

——えっ、肋骨を3本も!?　ちなみに、なんで折れてしまったんですか?

ミック　マットがないところにエルボードロップをしたら、ジャンボがよけて脇腹を思いっきり床に打ち付けてしまったのが原因さ（苦笑）。

——その試合では、場外で鶴田さんのバックドロップも受けてませんでしたっけ?

ミック　そういえばそうだったかもしれないな。場外でバックドロップを受けて、やっとリングに上がったと思ったら、そこでもまた攻撃を受けて大の字にのされた、という展開だった記憶があるよ（笑）。



大会前日、三冠戦の調印式に臨んだミック・フォーリーと川田利明。スーツ姿の川田に対してミックは、いつも通りのネルシャツ!!　有刺鉄線バットを片手に翌日の惨劇を予告した。

——ジャンボ鶴田のバックドロップを場外で受けるっていうだけで、フォーリー選手のタフさが伝わってきましたよ（笑）。その後はIWAに参戦してましたが、あれはどのような経緯だったんですか?

ミック　WCWで闘ったあと、何度か日本で闘わないかというオファーがあったんだが、受けることは考えてもいなかった。

——考えてもいませんでしたか（笑）。

ミック　でもテリー・ファンクがIWAに参戦すると聞いて、「テリーが行くなら自分も行こう」と決めたんだ。テリー・ファンクはボクにとってヒーローだから、どうしても対戦したかった。日本でやったテリーとの試合は、アメリカではいまでも語り継がれてるよ。

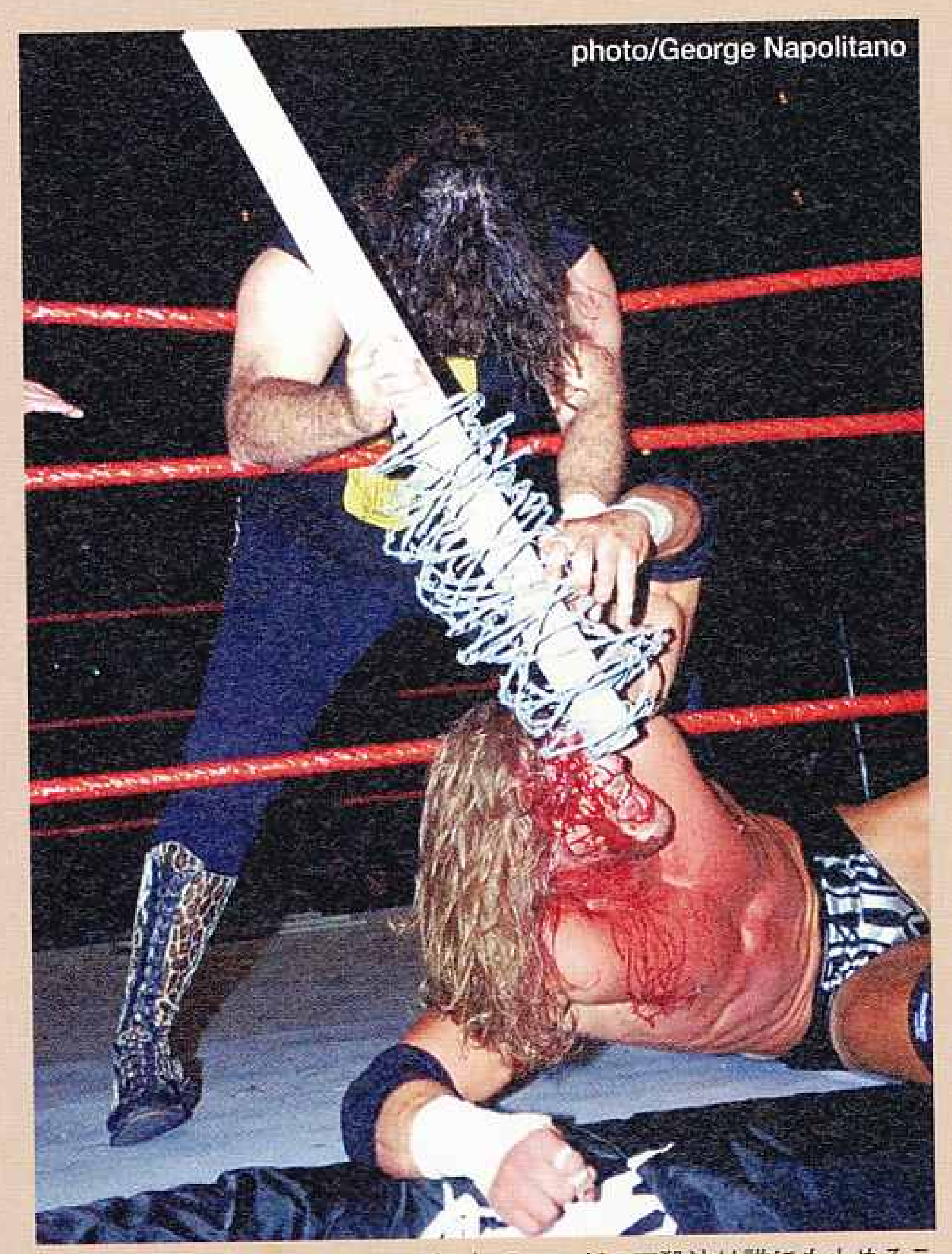
——あの試合はホントに凄かったですからね。で、IWAといえば浅野起州社長が有名なんですが、当時の印象を教えてください。

ミック　カワサキ・スタジアムでやった『キング・オブ・デスマッチ』で、ボクは目と耳と頭と手を合計42針縫って、さらに火傷を数ヶ所も負ったんだ。だからミスター・アサノに「これだけ頑張ったから、少しボーナスをくれ！」と言ったら、コーラが出てきて「これがキミのボーナスだ」って言われたのを覚えているよ（笑）。

——そのエピソードは日本でもかな

IWAではコーラが出てきて「ボーナスだ」って（笑）

り有名ですね（笑）。
ミック　でも、ミスター・アサノはボクに闘うチャンスをくれたし、ボクもそれに応えようと精一杯闘ったんだ。ミスター・アサノはボクに一生懸命闘うことだけを求めてくれたから、いい人間関係を保てたと思っているよ。
――いい意味でも悪い意味でも浅野社長のセコさは有名ですからね（笑）。
ミック　たしかに少しケチだったかな（笑）。でも、ボクは当時のＩＷＡの中でもかなりハードな試合をやってたから、その分、他のレスラーより多くもらってたと思う。実際に他の外国人レスラーのファイトマネーは自分よりずっと低いヤツがいっぱいいたからね。
――それだけ浅野社長もミック選手に期待してたんでしょうね。
ミック　当時は小さな子供を二人抱えていたから、お金のために、ただただ必死に試合をしていたよ。そんなにビッグマネーじゃなかったけど、事足りるぐらいはもらえたし、Ｔシャツもだいぶ売ったからね。
――カクタスＴシャツはかなり売れましたからね。あのＴシャツはプロレスファン以外でも着てる人が多かったんですよ。
ミック　それは嬉しいね（ニコッ）。そういう、いい思い出もたくさんあったんで、ＷＷＥに参戦してからも、ミスター・アサノに敬意を示すために、ＩＷＡのツアーに5回ほど参加したんだよ。
――いまＷＷＥ所属のＴＡＪＩＲＩ選手もＩＷＡ出身なんですけど。
ミック　もちろん知ってるさ。ＴＡＪＩＲＩはとてもいいヤツだからＷＷＥのみんなに愛されてるよ。そういえば、ＩＷＡの最初のツアーの時にタクシーで道に迷ったことがあったんだけど、ＴＡＪＩＲＩはボクのＴシャツが入った箱を何箱も持って運んでくれたんだ。昔からホントにいいヤツだったよ。
――フォーリー選手は、ＷＷＥで伝説的な試合を数多くやってきて、日本でもホントに人気が高いんですが、ここまで人気者になった理由は何だと考えていますか？
ミック　日本で人気が出た理由は、おそらく日本人が勤勉さや身を粉にすることとか、そういうものに対して敬意を示してくれるからだと考えているんだ。自分自身、ケガをしている時でも最善を尽くそうとする姿を、アメリカよりも日本で力を入れて見せてきたっていう意識もあるからね。
――ミック選手の試合を見てて「なんでここまでやるんだ？」って、よく思いましたよ。
ミック　あとは、アメリカでも日本でもプロレスを楽しんでるレスラーは人気が出ると思うよ。レスラー自身が試合を楽しんでるということは観客にも伝わるし、それがアピールにもなるからね。明日の『ハッスル3』で、カワダに有刺鉄線を巻き付けたときボクは必ず笑顔になるはずだから、そこに注目していてくれよ（笑）。
――期待してます！　それに川田さんは前歯がないんで、ミック選手のソックスも入りやすいと思うんですよ（笑）。
ミック　ボクよりも歯並びが悪いレスラーなんてカワダぐらいしかいないだろう。ソックスに対しては随分無防備な歯並びのようだし楽しみだね（ニヤリ）。
――最近、日本でもＷＷＥの人気が高くて、エンターテインメント・レスリングをしようとする団体が増えてきてるんですが、それについてどう考えてますか？
ミック　ハッスルのようなプロモーションのことかい？　エンターテインメント・レスリングを目指すこともいいが、プロレスのスタイルには、まだまだ開発の余地はあると考えてるんだ。ＷＷＥはエンターテインメントがベースになってはいるが、それに加えて技術の高いプロレスラーが揃ってるから人気があるんだよ。例えばエディ・ゲレロとかリック・フレアーとかクリス・ベノワとか、ゴングが鳴った瞬間に素晴らしいパフォーマンスができる選手が大勢揃ってるからな。カワダとの闘いはエンターテインメント系の試合になると思うが、観てる人には非常に喜ばれるものになると思うよ。
――日本のファンにとっては新しいミック選手の魅力が見れることになるんですかね？
ミック　これまではデスマッチばかりをやってきたから、今度はお客さんにも他のプロレスラーにも、自分のもうひとつの面を分かってもらえるはずだよ。
――日本のプロレスは完全にエンターテインメントには振り切れてないんですよ。ミック選手は自伝の中で、プロレスの情報公開をしてましたけど、日本でも公開すべきだと思いますか？
ミック　日本では一度も出てないのかい？
――何度かは出てるんですけど、専門誌は黙殺して、プロレスラーはコメントしないという状態が続いてますね。
ミック　アメリカにおいては、自分が本を書いたことによってプロレス業界にいい影響を与えたと思う。観ている人たちが、プロレスラーがやっているハードワークと、数々の犠牲に対して敬意を示してくれるようになったし、何をやっているかを分かってくれた上で、きちんと評価してくれるようになったと感じているよ。日本の状況に対してボクからアドバイスすることはないし、そういう立場でもないからね。でも何年か前にタイガーマスクが、そういった本を出して、その中にいろいろと書いてあったと記憶してるんだけど。
――『ケーフェイ』をご存知でしたか（笑）。初代タイガーマスクの佐山さんは公言したあとプロレスラーを辞めたんですよ。髙田モンスター軍の髙田総統……の友人の髙田延彦さんも、最近そういう本を書かれたんですけど。
ミック　それは知らなかった。
――ところで、先月までＷＷＥで試合して、日本では自由に試合ができるんですか？
ミック　プロレスを引退してもう4年経ったが、『レッスルマニア20』のメインイベントのオファーが来て、一度復帰したけど、そのときの試合は満足のいくものではなかったんだ。
――ロックンソック・コネクション（ロック＆ミック）vsエボリューション（リック・フレアー＆ランディ・オートン＆バティスタ）でしたけど、納得がいかなかったと？
ミック　そうだね。「ボクはもっといい試合ができるはずだ」と思って、今度は『バックラッシュ』で闘ったんだけど、そのときは満足いくパフォーマンスができたよ。今回の『ハッスル』は、ゴールドバーグがケガをしたからということでオファーが来たんだが、コンディションも良かったし、凄く興味のある試合だったんで受けたんだ。
――契約的な問題は大丈夫なんですか？
ミック　おそらく、今回の試合に関してＷＷＥの社長からのお咎めはないだろう。それに、しばらくの間はＷＷＥに戻らないつもりでいるよ。
――ＷＷＥで何か嫌なことでもあったんですか？
ミック　ボクとＷＷＥの間にいさか



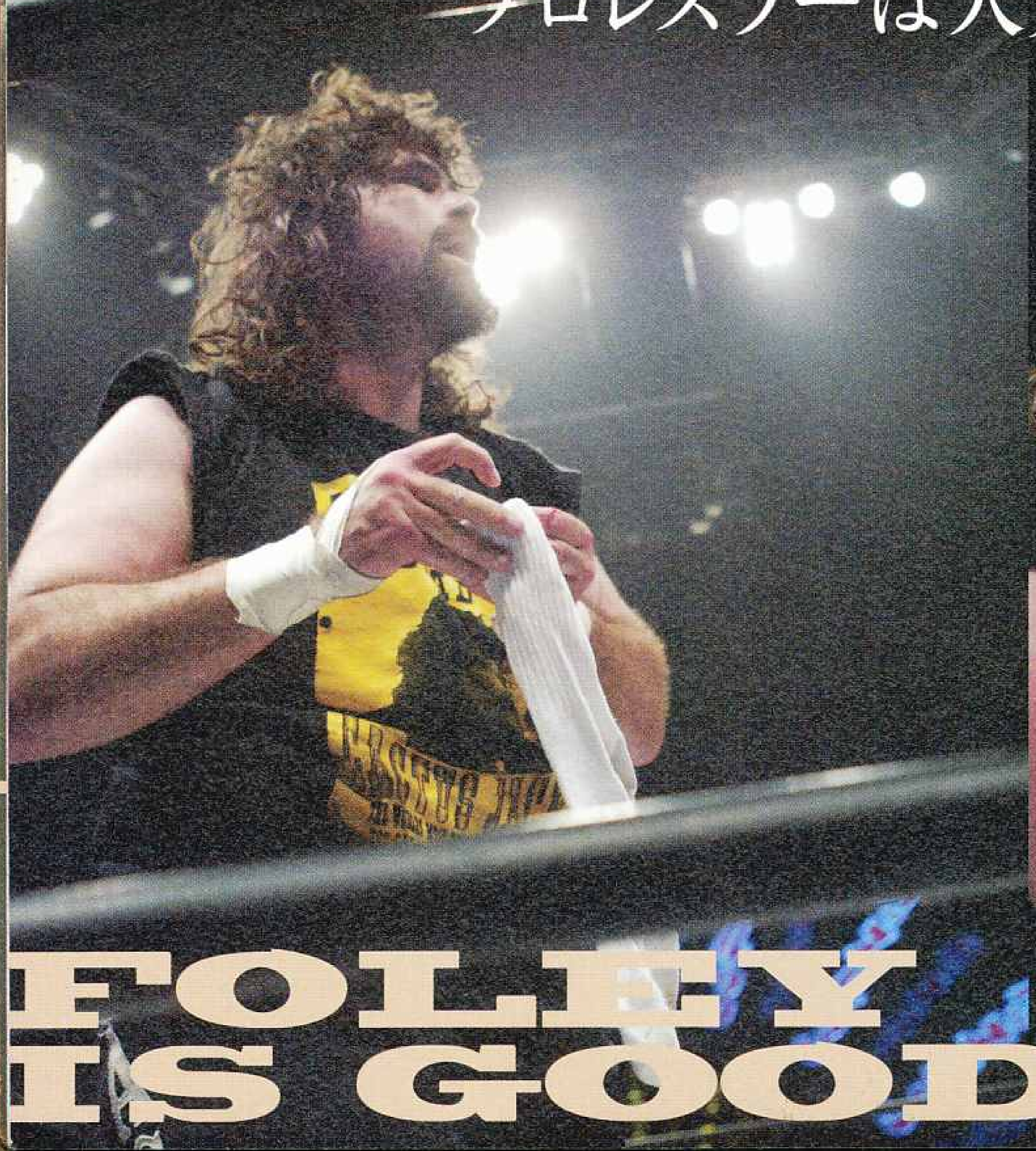
マンカインド（ミック・フォーリー）のハードコア殺法は誰にも止めることは出来ない。WWEではトリプルHですら有刺鉄線で額を引き裂かれた。

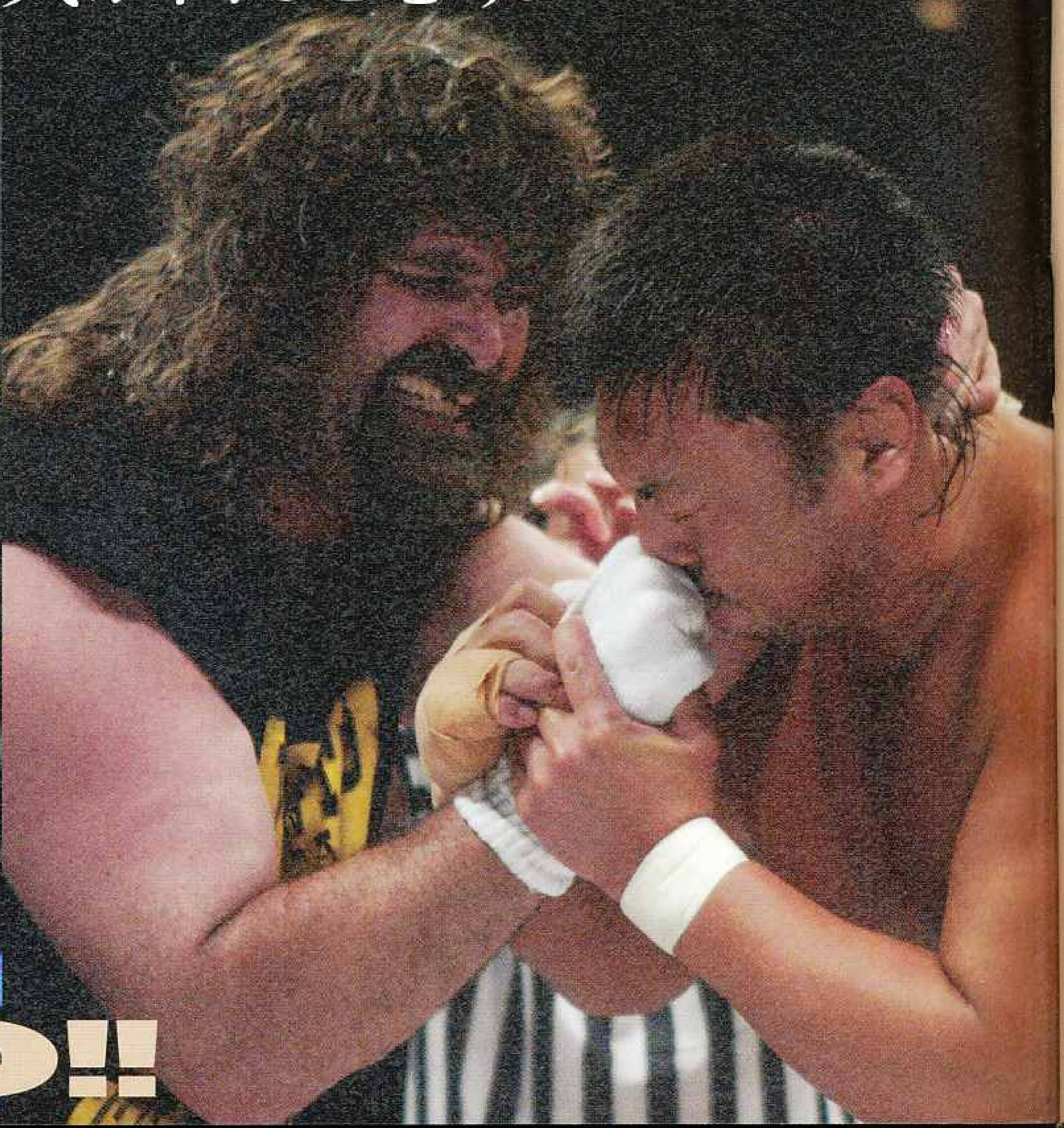




「三冠戦では許されない」と有刺鉄線バットに不快感をあらわにした川田。三冠戦の権威と“俺だけの王道”をギリギリのところで死守した。ミックの股間に収納されていた汚いソックス“Mr.ソッコ”は口を閉じてブロック!!

日本でもアメリカでもプロレスを楽しんでるプロレスラーは人気が出ると思うよ





FOLEY IS GOOD!!

いえば、IWAの最初のツアーの時
身が試合を楽しんでるということは
るんだ。WWEはエンターテインメ
う立場でもないからね。でも何年か
ミック ボクとWWEの間にいさか

FOLEY IS GOOD!!

これからは常にいい姿だけをファンに見せていきたいね

いあったわけじゃないよ。ただ15年間休みなくレスラーをやってきたから、もう身体がボロボロで、特にヒザがおかしくなっているんだよ。だから、もうフルタイムでレスラーをすることはできない。特別なビッグマッチに呼ばれたとき、そしてファンに対して素晴らしいショーを見せられると思ったときにだけカムバックしようと思ってるんだ。そうすることによって、ファンの人たちに自分がどんどん歳を取って苦しんでる姿を見せずに済むしね。

――実際、そういった選手も何人かいますからね。

ミック　そうだろ？　ボクは常にいい姿だけをファンに見せていきたいんだ。いまは子供を4人も抱えているし、本を書く仕事が忙しいから、しばらくの間はWWEの試合を受けるつもりはないよ。

――なるほど。明日だけではなく、いい相手が用意されれば今後も『ハッスル』に上がる可能性はあるんですね。

ミック　さっきも言ったように、激しいショットを肉体で受けとめるのがボクのスタイルなんだ。明日の試合で川田がハードなキックをしてくるのは分かっているし、『ハッスル』はビッグマッチだから、キックを受けとめる覚悟はすでに出来ているよ。ただ、そんなハードなキックやパンチを毎日毎日、毎週毎週、頭に受けてるわけにはいかないからね。妻にカワダが闘っているビデオを見せたら泣いてしまったよ（苦笑）。

――そんなことがありましたか（笑）。映画『ビヨンド・ザ・マット』の中でも、試合と家族との葛藤を抱えてるシーンがありましたね。

ミック　家族はボクがプロレスを愛していることを分かってるし、きちんとオファーを選択して受けてるということに対して信頼もしてくれてる。昔のように、年中プロレスをやらないことに関しては喜んでくれているんだ。ただ、カワダとの試合を受けたことに関して、妻はボクが間違った選択をしたんだと思ってるだろうね（笑）。

――では、今回の選択が間違いではなかったということを明日の試合で証明してください！

ミック　もちろんさ！　久々の日本のリングでハッスルしてくるよ。バンバ〜ン!!

【5月7日、神奈川・横浜アリーナにて収録】

インタビュー後記■このインタビュー翌日に行われた川田戦は、いつも通り不機嫌な川田といつも通り有刺鉄線バットとソックスを持ち込んだミックが激突!!　川田のキックとエルボーを主体としたゴツゴツした攻撃を丸ごと受けきったミックは、レフェリー和田京平の目を盗んで有刺鉄線バット&Mr.ソッコ攻撃!!　しかし、いずれの攻撃も川田は寸前でディフェンスしてしまい、ミックの最大の見せ場は最後まで訪れず、ギクシャクと不協和音を奏でながら試合は終わってしまった。ちなみに同日、スカパー！のPPVでは『ハッスル3』放送後にWWE『バックラッシュ』が放映されたのだが、その中でミックは若手NO.1〝レジェンド・キラー〟ランディ・オートンとハードコア戦で激突!!　画鋲や有刺鉄線が乱れ飛ぶ素晴らしい試合をやってのけた。ミックのすべてを受け止めて勝ったランディ・オートンと、ミックを拒絶して勝った川田は横に並べて比べるものではないと思うが、この違いは一体何なのか!?　『ハッスル』を考えるとき、この事実は非常に重要なポイントのように思える。

みっく・ふぉーりー■1965年6月7日アメリカ・ニューヨーク州出身。87年にデビューして、91年に全日本プロレスで初来日、同年にWCW入りを果たす。93年にはベイダーとの抗争中、試合中にロープにからまり右耳がそげてしまう事故に遭う（写真左上）。95年からはIWA JAPANに来日。数々のハードコアなデスマッチで人気を博し、同年8月のデスマッチトーナメントで優勝して“デスマッチ王”となる。96年からはWWEに参戦、かなりサイコなマンカインド、陽気なデュード・ラブなど様々なキャラクターで大人気となる。98年にはWWEヘビー級王者にまで上り詰める。2000年の『レッスルマニア2000』を最後にリングからは遠ざかっていたが、今年3月の『レッスルマニア20』で復帰した。また、現役時代に書いた自伝『HAVE A NICE DAY』が爆発的な売れ行きでベストセラー作家に。自伝第2弾『FOLEY IS GOOD』も売れた。現在は小説も発表。醜悪なビジュアルとは裏腹の陽気なキャラがファンを最高にハッピーにさせる、ファンから最も愛されるスーパースターの一人だ。



photo/George Napolitano



またしても『PRIDE』に元力士が登場！

5・23『武士道』で小路晃と激突！

「僕の中では10年前から時計が止まってるんです
その時計を『PRIDE』で動かしたいんですよ!」

玉海力

戦闘竜に続き、またしても『PRIDE』に元力士が登場！　相撲界を引退してから早8年、現役時代150キロ近くあった体重は現在98キロと約50キロも減量、昨年から総合デビュー戦へ向けてレーニングに明け暮れていた男が元平幕の玉海力剛37歳。総合のリングでは、なかなか結果が残せていない元力士だが、相撲以外にも、キックボクシング、柔道、そして小錦をブン投げた怪力を武器に玉海力は『PRIDE』で結果を出せるのか!?　3、2、1、どすこい、どすこい!!

聞き手／橋本宗洋　構成／松澤チョロ　撮影／丸山剛史

designed by matsu (Two Three)

——GPでの戦闘竜さんに続いて、またしても角界から『PRIDE』に挑戦ということで、ホントに驚いてるんですけれども。
玉海力　ですよねぇ。みんなビックリしてます（笑）。
——相撲を引退されて8年ですか。
玉海力　そうですね、ええ。
——その間、ちゃんこ屋さんと、貿易のお仕事をされてたんですよね？
玉海力　中国と貿易をしてまして、主に建材ですね。大理石ですとか、家具ですとか、そういった物の輸入を。
——ということは、変な話、特に生活には困ってないわけですよね（笑）。
玉海力　困ってないです、ええ（笑）。
——そんな中で、「どうしてまた？」っていうのをお聞きしたいんですけども。
玉海力　なんていうんですかね。相撲時代は、右手の手術に失敗して、それから（番付が）一気に落ちて。それで生活もあるんで、家族のために相撲を辞めたんですよ。で、おかげさまで仕事も順調にきて、家族も充分に食わせていけるようになりましたし、従業員も育ってきたと。でも、心の中でずっとモヤモヤしたものがあったんですよ。何をやっても満たされないというか。
——完全燃焼したい、というような。
玉海力　ですねぇ。それで、体はずっと動かしてましたんで、「もう一回（闘うことに）挑戦したいな」っていう思いがふつふつと沸いてきたんですよ。

片男波部屋に入門し、初土俵は昭和57年春場所。最高位は前頭8枚目、平成8年春場所で引退。幕内通算8場所で43勝75敗2休。得意技は右四つ、右上手投げ。現役時代は貴乃花に1勝1敗、若乃花にも同じく1勝1敗。現K-1戦士の曙には0勝1敗、小錦には1勝0敗と相撲時代は大物相手に結果を残している玉海力。総合初戦の相手は『PRIDE』でのキャリアが豊富な小路晃。打撃で勝負をつけたいと意気込んでいる玉海力だが、『PRIDE』男塾・日本支部塾長（?）小路と激しい打撃戦は見られるか?



K-1だったらすぐ反則取られると思う。倒したら殴りにいっちゃいますから！

——そう思うようになったきっかけっていうのは何かあったんですか？
玉海力　やっぱり吉田（秀彦）選手が大きかったですね。去年の夏ぐらいから「リングに立ちたい」っていう気持ちが凄く強くなって。で、ジムに通いだして、密かに練習してたんですよ。その頃はまだまだ始めたばっかりだし、口には出さなかったんですけど、そうこうしてるうちに曙関が出てきて。心の中では「オレの方が早いのに」って思ってたんですけど（笑）。
——ダハハハ！　時期からいうとそうなりますよね（笑）。
玉海力　それから戦闘竜が出てきて。その頃にはもう、自分も「出よう」って具体的に決めてましたね。「もう我慢できないぞ！」と。で、ウチのお客さんの縁もあって、こういう形になりまして。僕の中では、10年前から時計が止まってるんですよ。その時計を動かしたいんですよね。お金とかじゃなくて。
——自分の中の達成感とか燃焼感ですね。
玉海力　ダメならそれであきらめるし、自分がどこまでできるか試してみたいって。それだけなんですよ。
——お客さんの縁っていうのは、ちゃんこ屋さんの？
玉海力　たまたま、『PRIDE』の榊原代表を知ってる方がいまして。僕は「出たいんだ」っていう話をずっとしてたんですよ。最初はみんなバカにしてたんですけど、練習してるうちに体つきが変わってくると「これは本気なんだな」と分かってくれたらしくて。
——運動自体は引退後もずっと続けてたんですよね？
玉海力　そうですね。物心ついたときからずっと。子供の頃から柔道やったり空手やったりしてましたし、体を動かさないと気持ち悪いんですよ。
——あ、空手もやってたんですか？
玉海力　まあ、クラブ活動程度なんですけど。ちょろちょろっと（笑）。
——去年から始めた打撃というのは？
玉海力　自分が行ってるボクシングジムにキックの先生がいるんですよ。K—1の選手なんかにも教えてるらしくて。そこでボクシングとキックを。
——曙関はK—1でしたけど、やっぱり『PRIDE』が良かったわけですか？
玉海力　性格的に立ち技だけよりもなんでもあった方がいいですね。たぶんK—1だったらすぐ反則取られると思います（笑）。倒したら殴りにいっちゃいますから。
——前からそういう志向があったわけですか？
玉海力　闘うことが好きなんでしょうね。
——そういえば、角界で初めてマウスピースを着けられたんですよね？
玉海力　僕、歯並びがまっすぐなんですけど、これ削れちゃってるんですよ。
——はぁ〜。
玉海力　それで歯医者さんに勧められて。やってみたら確かに力が出るんですよね。最初は慣れないんで力が入りすぎて、ワキが上がっちゃってたんですけど。
——そのくらい違うもんなんですか。で、話を戻すと、曙さん、戦闘竜さんと格闘技に転向してきて、そのときに悔しさみたいなものはありましたか？
玉海力　悔しさはなかったんですよ。曙関はなんといっても横綱ですし、戦闘竜も辞めてすぐ挑戦ですから。僕は休憩時間が長いですからね（笑）。でも逆に考えると休養充分だし、年齢のわりに体が消耗してないかなと。37歳で現役ずっとやってたらボロボロだと思うんですよ。いい感じでリフレッシュできてますし、ある意味、現役の頃よりも練習量は多いかもしれないですね。相撲みたいに毎日ガンガンやるわけじ

ゃないですけど、量としてはかなり。

――本格的に総合の練習を始めたのはいつ頃なんですか？

玉海力　今年からですね。12月にボクシング始めて、1月からキックやって、で、寝技もポツポツと。

――吉田道場で練習されてるんですよね？

玉海力　吉田道場というか、講道学舎で練習させていただいてるんですよ。

――講道学舎!?　あの柔道の名門で。

玉海力　それから吉田選手とも練習させていただくようになって。

――吉田選手も講道学舎出身ですからね。そのつながりで？

玉海力　実は、息子が吉田道場に通ってたんですよ。もうやめちゃったんですけど。吉田選手は店にもよくお客さんとして来てくれてましたし。

――あぁ～、なるほど。かなり珍しいパターンですね（笑）。

玉海力　あとはトータルワークアウトに何度か。

――髙阪（剛）さんの。

玉海力　あそこは寝技のスペシャリストばっかりなんで。

――日本のグラップリング系の選手はかなり集まってますよね。いい練習できるんじゃないですか。

玉海力　ええ。で「これはまずいな」と。「オレの行くとこじゃないぞ」って（笑）。フェイドアウトしてしまいましたね。

――「レベルが高すぎる」と（笑）。またえらく正直ですね。

玉海力　まあ、試合になったら関節取りにいくよりも殴る方が多いと思うんで。あそこ行くと鬼のような寝業師ばっかりなんで、ちょっとまずいかなと。

――やりたいスタイルとちょっと違うわけですね。しかし組み技をやろうと思って講道学舎っていうのも凄いですよね。基本中の基本からという。

玉海力　ウチの社員に、講道学舎あがりの人間がいるんですよ。今は辞めて講道学舎の先生になったんですけど。

――講道学舎って、基本的には弦巻中と世田谷学園が練習してるんですよね。そこに混じって練習するわけですか？

玉海力　最初はそうでしたね。今は学生の練習が終わった後に、OBの人たちとやってるんですけど。

――はぁ～。でも大相撲でやってた人が、いくらブランクがあるとはいえ中高生に混じって練習するのは勇気がいりますよね。

玉海力　勇気いりましたね。でもそこからやらないと、ブランクは埋められないなと思ったんで。最初は中学生にバッタバタ投げられました（笑）。

――ウハハハハ！　確かに日本最強の中学生が集まってる所ですけどね。

玉海力　さすがにヘコみましたね。「オレも昔、柔道やってたんだけどなぁ」って。渋谷区で3年連続優勝したこともあったんですけど。でもやっていくうちに体も動くようになりましたし。自然に道衣じゃなくて帯を持って、上手投げを打ってるんですよね（笑）。

――感覚が甦ってきましたか。じゃあもう付け焼刃じゃなく、ベースからやってきたという。

玉海力　今年になってからですけどね、みっちり動けるようになったのは。それまでは体を作るのに精一杯で。今はそこそこの練習やっても、充分できるなと思いますし、こないだのGPも見させていただいたんですけど、「なんとかなるかな」と。

TAMAKAIRIKI

こないだのGPも見させていただいたんですけど、「なんとかなるかな」と。



――おぉ～。

玉海力　とか言っといて、3秒で負けたらシャレにならないですけど（笑）。

――いま、生活のサイクルはどういう感じなんですか？

玉海力　95は練習で5が仕事ですね。朝9時からストレッチやって、それから会社に顔出して30分仕事して。そのまま公園で走ったり瞬発力系のトレーニングをやって。それからスポーツクラブで筋トレを軽く。で、サウナ入って2時半か3時くらいに会社に帰ってくるんですよ。で、30分仕事して、30分昼寝して、ボクシングジムで打撃やって、それから講道学舎で寝技やって、帰ってくると8時半くらいですかね。で、風呂入って30分仕事して終わりと。

――ホントに練習ばっかりですね！　体重も相撲時代から50キロくらい落としたんですよね。

玉海力　そうですね、引退してすぐ40キロ落として、格闘技の練習を始めてからも10キロは落としましたね。走りまくって。相撲時代の知り合いが見ても、僕だって分からないんじゃないですか。

――ちなみに、ご家族には『PRIDE』に出ることについてなんて言われました？

玉海力　「バカ！」って言われました（笑）。

――一言「バカ」（笑）。お子さんは何人いらっしゃるんですか？

玉海力　2人です。9歳と7歳で。

――じゃあ現役時代は全然見てないんですね。普通に働いてるお父さんしか知らない状況で、「『PRIDE』に出る」と（笑）。それは驚きますよ。

玉海力　驚くっていうか「サップに勝った

ら1000円あげるね」って言われましたよ（笑）。「ミルコだったら500円」とか。

——子供的にはサップの方が価値が上なんでしょうね（笑）。奥さんは何と？

玉海力　女房は「どうせ止めてもやるんだし、今回止めるんだったらいままでだっていろんなこと止めてるんだから勝手にやれば」と。いままで、訳もわからずいろんなことやって失敗しましたからね。野心もあったんで、面白い話があると飛び乗っては騙されたり痛い目にあったり。「このままじゃ終われない」っていう気持ちがずっとあったもんですから。飲食店も好きで始めたわけじゃなかったですし。

——奥さんも、それに比べたら格闘技の方がいいだろうと。

玉海力　やっぱり自分にできるのは闘うことなんだなと。初心に帰ってですね。

——いま、『PRIDE』ではヒョードルとかノゲイラとか若くてとんでもなく強い選手がいるわけですけど……。

玉海力　僕も気持ちは28ですから。ずっと時計が止まってますからね。

——そういう意味では気後れもないと。

玉海力　怖くないっていったら嘘になりますけど、でもやる以上はね。昔っから小錦だろうが曙だろうが「どっからでもかかってこい！」って気持ちでやってましたから。

——曙関も戦闘竜関も結果を出せてないんですけど、その辺で尻込みする感じはなかったですか？

玉海力　ないですね。日本人の（相撲）代表として、一丁、旗を揚げてやろうかなと。

昔っから小錦だろうが曙だろうが「どっからでもかかってこい！」って気持ちでやってましたから。



玉海力　剛（たまかいりき・つよし）昭和41年7月16日、東京都渋谷区出身。いまから8年前、右手首を故障し手術したものの腕力が衰えて握力が激減してしまい、三段目へ降下して廃業。廃業後は広尾にちゃんこ屋をオープン、さらに貿易会社の社長という顔も持つ。右手首を故障してから止まっているという時計を動かすべく現在は朝から晩までトレーニング三昧の日々を送っている。家族は妻・美樹さん、長男・佑太郎君、長女・幸乃ちゃん。1m83cm、98kg。

まだいないですからね、日本人力士は。まあ大刀光もやりましたけど、あれはちょっと違うだろっていう（笑）。

——やっぱり違いますか（笑）。

玉海力　もうちょっと練習してから出ないと。プロレスには受けの美学がありますけど、総合だったらあっという間に負けちゃいますからね。

——戦闘竜関は「相撲を背負って」と言ってましたけども、玉海力さんはそういう感覚はいかがですか？

玉海力　背負うっていう気持ちはないですよ、自分ごときで。横綱だったら別ですけどね。平幕ごときでそこまでは思わないです。ただ、相撲は最強なんだっていう思いはありますし、簡単には負けられないなと。

——曙関は立ち技を選んで、戦闘竜関は寝技に持ち込みましたよね。どういうスタイルが相撲の強さを活かせると思いますか？

玉海力　それぞれの相撲のタイプにもよると思うんですよ。僕は四つ相撲だったんで、組み止める自信はあるんですよ。

——で、突き押しタイプは立ち技がいいと。

玉海力　僕はタイプが違ったんでなんともいえないんですけど。突っ張りとパンチはまた違うもんだとは思うんですけどね。

——殴られる方に関してはいかがですか？

玉海力　それはもう慣れてます。まあ「痛いかな」って感じはしますけども。

——「痛いかな」ぐらいで（笑）。

玉海力　横綱の突き押しに比べたら大丈夫だろうと。アゴを引いておけばなんとか。

——で、耐えた後は……？

玉海力　打撃の先生には「100万発パンチでいけ」って言われてますから。「殴れ殴れ！　止まったら殴られるぞ！」って、そういう練習してるんで。立っても寝てもとにかく殴ると。「もう許してください」ってくらい殴らされてますから（笑）。

——それもあって、目標はドン・フライ選手っていう発言があったんですね。

玉海力　もともと、見ててああいうタイプが好きなんですよね。カッコいいじゃないですか。勝っても負けても潔く。相撲のときからそうでしたからね。

——これまで、角界OBのネットワークみたいなものはあったんですか？　プロレス入りした人も多いじゃないですか。それこそ大刀光さんもそうだし、NOAHの田上さんとか、新日本の安田さんとか。

玉海力　安田さんとは新入幕の初日で当たったんですよ。でもあんまり話はしなかったですね。基本的に他の部屋の人とは話さなかったんですよ。仲良くなると本気で相撲が取れなくなりますからね。部屋の先輩・後輩はいまだに交流はあるんですけど、よその部屋とは。まあ同じ一門くらいですね。一門が変わると口もきかない。周りからは偏屈って言われてたんですけど。

——それだけ勝負にこだわってきたと。

玉海力　いつも土俵に上がるときは「腕折ってやろう」とかね。

——そうなると『PRIDE』みたいな闘いも性に合いますね。

玉海力　気合いが入りますね。

——今までやったことのない局面になると躊躇するってことはないですか？

玉海力　それはないですね。

——倒れた相手を殴ったり蹴ったりも平気

かかってこい！」って気持ちでやってました

でできますか？

玉海力　いいッスねぇ。そこまでやんないと。勝負ですからね。

——戦闘竜関は"角界のケンカ番長"って触れ込みでしたけど、玉海力さんの方がそういう感じですね。

玉海力　いやいや、そんなことはないですけど。戦闘竜はやさしいですからね。

——人の良さが見えますよね。

玉海力　僕もそうですけどね（笑）。ただ土俵に上がると人格が変わりますから。

——対戦相手は調整中（その後、小路晃に決定）ということなんですけども、どういう相手とやってみたいですか？

玉海力　やっぱり、真っ向からくる人と殴り合いがしたいですね。勝っても負けても気持ちよく。あと、いま一番気合いが入ってるのは入場ですね（笑）。

——確かにあそこは晴れ舞台ですよ（笑）。

玉海力　相撲の時も、派手なことばっかりして理事長室によく呼ばれてましたからね。巡業でも別行動ばっかりだし、金の締め込みしたりとか。「ヴィトンの締め込みつける」って言ったら怒られましたね（笑）。

TAMAKAIRIKI

——じゃあ今回もかなり派手に（笑）。

玉海力　テーマ曲も作りましたし。レディース・ルームっていうバンドが同い年で知り合いなんで、彼らに作ってもらって。それで颯爽と勝つと。そういうイメージはできてるんですけどね。

——まあ相撲時代から気持ちで闘うタイプということで、それも重要と。

玉海力　だから今回も、試合の1週間くらい前になったら"殺す"モードに入るかもしれないですけどね。

——お子さんには見せたことのない顔を。

玉海力　あ、自分は、いま家に帰ってないんですよ。

——え？

玉海力　合宿してるんですよ。彼（付き人の鍋田氏）と2人で。

——合宿ですか！

玉海力　マンションを一部屋借りまして。そこで朝から晩まで一緒で。もう2ヶ月くらいになりますね。さすがに、たまには家族と顔を合わせないといけないんで週に一回くらいは帰るんですけど、あとはひたすら練習に専念できるように。会社の隣のマンションなんで、通勤時間も30秒ですみますし。

——鍋田さんとはどういう……？

玉海力　相撲時代の付き人だったんですよ。ちゃんこ屋も手伝ってくれて、もう独立して静岡でお店をやってるんですけど、今回こういうことになったんで、また練習につきあってくれて。

——自分のお店もあるのに！（笑）。

鍋田氏　現役時代の最後、一番苦しいときに一緒でしたからね。その後もお世話になりましたし。恩はお金じゃなかなか返せるもんじゃないですけど、こういう形で。

玉海力　マンションにもマットを敷いて、軽く寝技ができるぐらいにして。

——思い立ったときにすぐできるようにと。

玉海力　そうですね。そのぐらいの状況にしておかないと。

——ちょっとそれは、打ち込み方がハンパじゃないですね。今日の取材で、かなり期待感が高まりました。

玉海力　試合まで禁酒もしてますしね。やれることはやっておこうと。

——いまはかなり充実してる感じですか？

玉海力　夜もすぐ寝られますしね。前は酒飲まないと寝られなかったんですけど。

——あるべき自分に戻ってきたなと。

玉海力　でも、ずっと続けてたらもたないですけどね（笑）。仙人になっちゃう。

——じゃあ試合が終わったら……。

玉海力　もう凄いことになると思いますね（笑）。一週間は飲み続けるんじゃないかと。それぐらい弾けるつもりで。でも社員は「すぐ仕事に戻ってくれないと困る」って言うんですけど（笑）。

——まあそうでしょうね（笑）。玉海力さんの総合デビュー戦、楽しみにしてます！

【5月6日／DSE事務所にて収録】

——『武士道』出場が決定しましたが、相手のヒカルド・アルメイダはかなりの強豪ですよね。
長南　そうですねえ。ボクが勝手に認定している80キロ級ランキングでは、アルメイダは1位ですよ。
——長南ランキングでは1位！　ちなみに長南さんは何位なんですか？
長南　自分スか？　ん〜〜、自分は圏外ですかねえ。何位にいるのかもわからない。
——ホントにそう思ってます？（笑）。
長南　いやいや、ホントに思ってますよ。自分が何位かは別にしても、この対戦を客観的に見て賭けをするとしたら、やっぱりアルメイダに札は置きますよね。パンクラスでも、アルメイダには誰も勝ててないわけだし。
——なんだか長南さんらしくないですねえ。「殺す！」「血祭りにあげる!!」とか、派手な発言をお願いしますよ！
長南　どんなイメージ抱いているんですか（笑）。自分は謙虚な選手なんですよ。グラフ。ま、闘うからには勝ちを狙うのは大前提ですけど、ただ、ひとりの選手というか、格闘技マニアの視点から見ると（笑）、お互いの戦績を比較すれば、自分がここで「絶対に勝つ!!」とか言っても、ただのリップサービスにしかならないと思うんですよ。
——アルメイダは、『アブダビ・コンバット』での戦績も凄いですよね。
長南　無差別にも出ても上位に食い込んでるし、ジョシュ（・バーネット）も極めてるんですよ、奴は（笑）。UFCでは打撃でKOされたりしてますけど、いまは穴がなくって、VTの闘い方をさらに熟知してますね。彼は何歳ぐらいなんスかね？
——いまは27歳ですね。
長南　俺と同い年だ（笑）。でも、寝技だったら彼は高校生で、こっちは幼稚園ぐらいの差があると思いますね。
——その差を埋める長南さんの武器は何になります？
長南　柔術のセオリーにない攻撃。だいたい

『DEEP』の殺リク・ストライカーがついに『武士道』見参！

長南 亮vsヒカルド・アルメイダ

5・23紙プロ特選マッチ 1



「避けて通る必要はない。敢えて選びたかったぐらい」

小さいころから柔術をやってる人間に、同じような動きをして勝てるわけがないんですから。
——というと、やっぱり打撃がポイントになるわけですよね。
長南　いろいろ考えてますよ。ハッキリ言って、完封されちゃう可能性もあるんですけどね。実際に闘ってみないとわからない部分もあるけど、地味にテイクダウンしてくるアルメイダは、苦手なタイプの代表格ではありますから。
——前回『DEEP』の松井（大二郎）戦は判定で勝ちましたが、課題を挙げるとすれば、そのテイクダウンの攻防になりましたよね。
長南　松井戦はまったくダメでしたね。一階級上相手ということで無理に体重増やしたりして、コンディション調整に失敗しました。あんな試合をしてたら、たぶん勝てないでしょう。
——いまのコンディションはどうなんですか？
長南　練習は欠かしてないですけど、相手は誰になるかわからなかったから、いざアルメイダ戦が決まっても、自分の試合のことではない感覚はあったんですけど。こうして話をしてるうちに、なんだか気持ちが引き締まってきましたねぇ（笑）。
——そりゃ良かったです（笑）。いままで長南さんは『DEEP』を主戦場にしてきたわけですが、『武士道』のリングではどんな目標を設定していきたいですか？
長南　『PRIDE』本戦は体重が違いすぎて、ちょっと自分が闘うことは想像してなかったんですけど。『武士道』は中量級の場でもあるということで、興味はあったんですよ。テーマ的なことをいえば、「対・世界」。『DEEP』では日本人同士の凌ぎ合いをやってきて、それでそこそこ結果を出してきたし、次はガイジンとやりたかったです。
——その初戦の相手として、アルメイダは長南さんの希望でもあったんですか？
長南　願ってもない相手ではありますね。自分的には「ランキング1位」の選手だから、段階を踏んで行きたかった気持ちもあったけど、まぁそれもいいかなあと。結局は階級さえ合えば誰でもいい気持ちはあるんですよ、その選手が強ければ。勝算が見える選手とやってもしょうがないですから。
——そういう意味では、世界を知るためには打ってつけの相手ですよね。
長南　この階級って、地味で強い奴がゴロゴロしてますからね。そういう奴らとは避けて通れない。避けて通る選手もいるかもしれないけど、自分は強くなるためにやってますからね。避けて通る必要はない。敢えて選びたかったぐらいですよ。
——ズバリ言ってしまえば、『武士道』では日本人が輝いてない現状がありますが。
長南　う〜〜ん。たしかに、見てて面白くなかったです（笑）。『武士道』自体、どういう展開になるのか見えてないところもあるし。マッハさんや高瀬さん以外にも、自分や三崎（和雄）選手、岡見（勇信）選手たちとかも活躍することによって、しっかりと階級分けしていきたい希望もありますね。日本人同士の闘いもやっていきたいんですよ。この階級で日本人のトーナメントとかやれば、絶対に面白いと思いますから。
——そのためには、日本人選手の存在をしっかりとアピールしておきたいところですね。
長南　ちょっと弱気なこと言ってるかもしんないスけど、まぁ、試合になったら、すぐスイッチ入りますんでね。期待していてください！



パンクラス・ミドル級王者
ヒカルド・アルメイダ
〈ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー〉

現在パンクラスでは5連勝中。『PRIDE.12』小路晃戦でVTデビュー（判定勝ち）をはたしたが、アラン・ゴエスの代打として、5日前に出場が決まったエピソードがある。アブダビ・コンバットでは、ヒーガン・マチャド、ビトー・"シャオリン"・ヒベイロ、ジョシュ・バーネットから一本勝ちを収めている。以下すべてアブダビ・コンバットの戦績。98年　88〜98kg級 準優勝、99年 98kg級 3位、00年 無差別級3位、01年 98kg以下級 準優勝



「苦しみの仲から、狂気を爆発させろ!」

5・23紙プロ特選マッチ 2

『武士道』のイメージをブチ壊せ!

美濃輪育久vsハイアン・グレイシー



文/橋本宗洋

期待感バツグンのカードと言っていいだろう。シウバvs近藤戦は延期になってしまったが、この美濃輪vsハイアンという闘いも、観客を充分に満足させる可能性を秘めている。

これまでの『武士道』では、本来主役であるべき若いファイターたちが期待通りの活躍をしたとは言えなかった。好勝負もあるにはあったのだが、最終的に目立ったのはミルコであり、シウバ。他の選手たちが見せてきたのは、誤解を恐れずに言えば〝ただの総合格闘技〟だった。細かいケタの足し算の積み重ねのようなもので、それで納得はできても興奮や感動はしない。公文式かお前らはって話である。

見たいのは、計算やら納得やらの範疇に収まらない大爆発だ。それができる人間しか、本物のスターにはなれない。三島☆ド根性ノ助や高瀬大樹の入場に見られるような、〝面白さ〟に対する低いハードル設定も問題アリだろう。2人とも才能のある選手なんだが、志のありようが試合内容にも出てしまっていると言ったら言いすぎだろうか?

そんな中で、美濃輪とハイアンは明らかに人種が違う。足し算なんかする気がないというか、ハードル走のレーンでハンマーをブン投げているというか。ハイアンが相手と対峙するときの、狂気というよりいっそキ×ガイと言いたくなるあの目つき。試合後、通路のゴミ箱に嘔吐し、非常階段でブッ倒れるまで全力を出し尽くすハイパー・アグレッシヴな美濃輪の闘いぶり。それらはどんな技術よりも、観客の心に深く突き刺さる。

ただし、美濃輪が〝期待感〟で勝負できるのはこの試合までだろう。ここまでPRIDEで2連敗。内容的にも、ブラジリアン・トップチームでの修行の成果を出せてはいない。むしろシウバ戦では、寝技修行ゆえガードポジションになるのを厭わなかったことがアダとなってしまった。『男祭り』でのジャクソン戦はかなり頑張ったという声もあるが、あの程度のものはパンクラス時代の焼き直しにすぎない。あれを誉めてしまっては、逆に美濃輪の真価を貶めるようなもの。まだまだあんなもんじゃない。あんなもんじゃないのだが、やはり結果を残さなければいけない。美濃輪ほどの男が、いつまでも〝期待の新星〟程度であっていいはずがないのだ。

美濃輪自身、〝体力が尽きるまでセオリー無視で暴れまわる〟という闘い方に限界を感じたからこそ、海外武者修行に出たはず。「見てて気持ちいいね」とかなんとか、そういう評価に満足しているんなら、スターの座が約束されたパンクラスを出たりはしない。パンクラス最後の試合となったヒカルド・アルメイダ戦で「オモプラッタの逃げ方が分からない」なんて正直すぎる告白はしない。

シウバ戦と前後してトップチームでの修行を終了。美濃輪はその後、(たぶんバイブルである『キン肉マン』全巻を持って)新たな海外修行に再出発した。タイでは名門ペッティンディー・ジムで打撃特訓。5月2日にはムエタイの試合に出場し、2RKO勝ちを収めている。オフィシャルHPでは「(ハイアンは)クソガキ野郎っすね。あ、オレもだ!」と、相変わらず威勢のいい言葉を残している美濃輪だが、同時にタイでの生活を「いろいろあって、僕はかなり人見知りする人間だと気付きました」と言ってもいる。シウバ戦の惨敗もかなりショックだった様子。いまの美濃輪は自分をもう一段階レベルアップさせようと、心技体すべてにおいてもがいている最中なんだろう。

もがきまくり、苦しみ抜いた末に何を感じたのか。その成果を試すのがハイアン戦に他ならない。6月26、27日に開催される韓国でのイベント『グラジエーター』出場も決まっているが、とにかく今回勝たなければ何も始まらない。〝火事場のクソ力〟は追い込まれたときにこそ爆発するもの。キン肉マンがやったんだから、美濃輪、お前もやれ!

● 所英男 [1R3分30秒 三角絞め] レミギウス モリカビチュス ×



5.5 ZST 5 Zepp Tokyo

今、最も旬な男 所英男を見逃すな！

文・写真／堀江ガンツ

design by さおとめの事務所

"小さなヴォルク・ハン"所英男がまたしてもドえらい仕事をやってのけた！

先の3・7『ZSTフェザー級グラップリングトーナメント GT―F』優勝に続き、今度は尋常ではない打撃を誇るZSTのエース外人"小さなミルコ"レミギウス・モリカビチュスに一本勝ち！

しかも、ただ勝っているというのではなく、試合内容でも毎回観客を熱狂させ続けているところが凄い。この日も、前回、失神KOさせられたレミギウスの打撃から逃げることなく真っ向勝負を挑み、果敢に関節技を仕掛け続け、ついに三角絞めでリベンジに成功。

この勢い、このスピード、そして攻守が目まぐるしく入れ替わる刺激的この上ない試合内容。いまの所英男は、パンクラスで成り上がりオーラを出しまくっていたころの美濃輪育久を見るようだ。

まさに今が旬。今の所英男を見ずに、いったい何を見るのかという充実度が確かにある。

所英男と美濃輪育久。この二人に共通するのは、決して"負けない試合"はしないということだ。ただひたすらに、そしてガムシャラに一本勝ちに向かって、一直線に突っ走る様が素晴らしい。

一本勝ちを狙えば、当然隙ができる。もちろん、こんな闘い方をしている所と美濃輪は隙だらけだ。だから、彼らの試合は最大のチャンスのすぐ後に最大のピンチが襲ってきたり、またその逆だったりと、観客は息つくヒマもない。そして、ときにはアッサリ負けてしまうこともある。しかし、全集中力が攻撃に向いているような闘いぶりだからこそ、奇跡も起こすことができる。そして格闘技でもっともカタルシスを得ることができるのは、まさにこの瞬間なのだ。

これがあるから彼らの試合はやめられない。

「最強」の答えが「負けないこと」であるならば、所や美濃輪は「最強」とはまったく無縁な存在だろう。しかし、誰よりもファンを熱くさせる「最高」の闘いを見せるのは、負けない選手ではなく、彼らなのだ。

そして、「最強」ではなく「最高」を目指しているのがZSTという舞台。まさに、所英男はこのイベントを体現する"ZSTの申し子"なのである。

「最強」に飽き飽きしたならば、所英男を見に行こう。

一方、"エース"小谷はバッティングで無念の流血ストップ負け！



一方、"エース"小谷直之が『ZST・GP』覇者、マーカス・アウレリロと対戦。この一戦に復活を賭けていた小谷だったが、バッティングにより右まぶたを切ってしまい無念のレフェリーストップ負けとなってしまった。



健介ファミリーとプロレス

健介ファミリー最高権力者

北斗 晶

Hokuto Akira

新日、全日、さらにインディーまで今年のプロレス界を引っかき回しているのは健介ファミリーで間違いない！　では、健介ファミリーの最高権力者は誰かと言えば、この女・北斗晶である。ある時はマネージャーとして、ある時はセコンドとして、またある時は埼玉の主婦として、健介、健之介、誠之介、そして中嶋クンまで操る、この女を5・3ドーム大会直後に直撃！

聞き手&撮影／松澤チョロ　designed by bun-chan (Two Three)

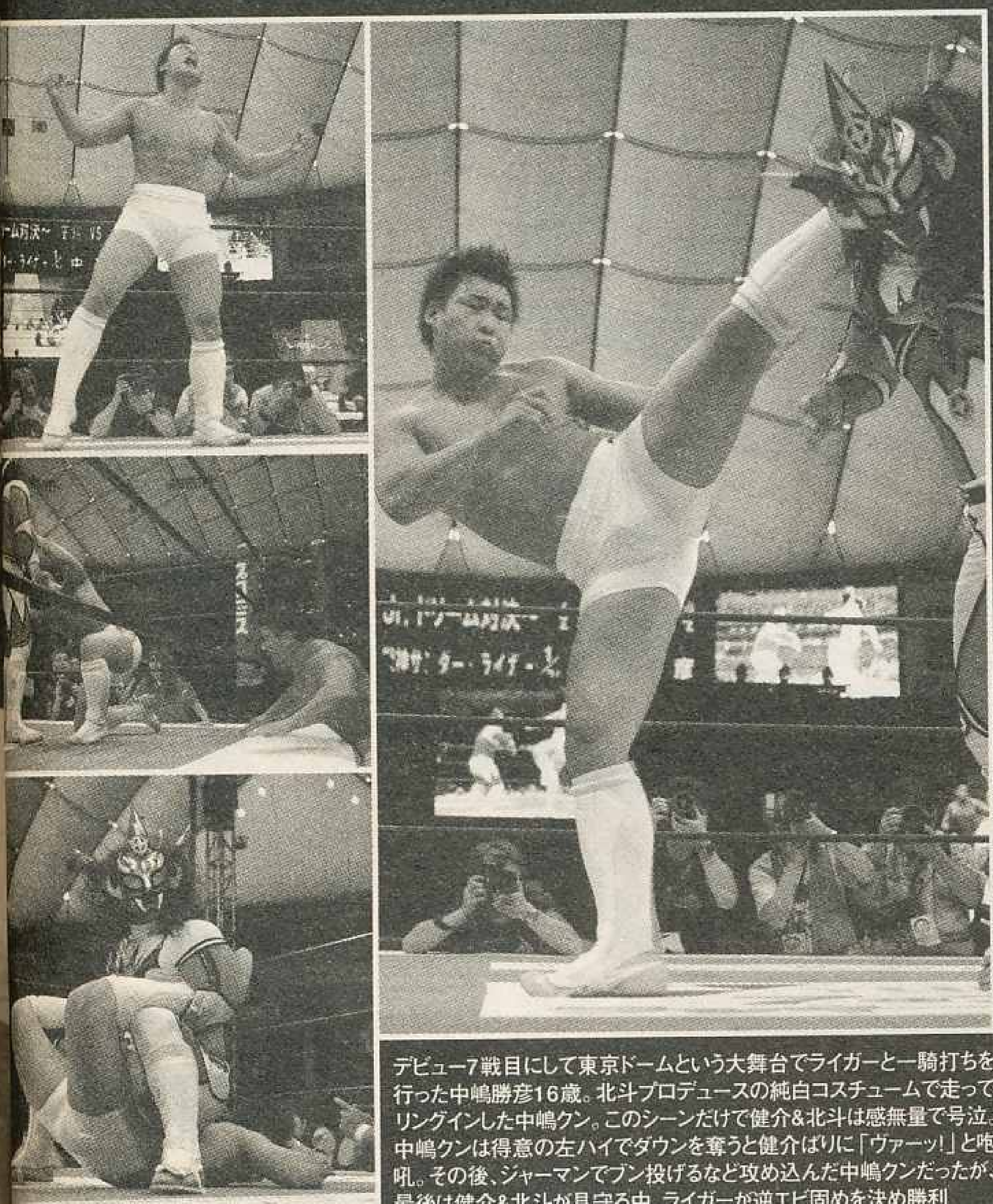
うことだ。
ただひたすらに、そしてカムシャ



――ドーム直後のお忙しいところ、無理言ってすいません！
北斗　とんでもございません。でも、お腹すいたよぉ（笑）。
――ちょっとだけ我慢してください（笑）。まず今日の話から伺いますが、中嶋vsライガー戦は絶対セコンドに付かないって言ってましたよね。
北斗　うん。絶対付かないつもりだった……んだけどねぇ（笑）。
――それが、夫婦揃って試合途中から付かれてましたよね。
北斗　なんでセコンド付かないって言ってたかというと、やっぱりアタシたちが付くことによってイメージダウンになると思う部分もあったし……勝彦は1人で花道を歩いて、1人で闘ってってイメージにしたかったの。だけどね、いても立ってもいられなくなったから。これ、冗談抜きに。「ああ、もうダメだ！」と思ったら立ってたもん、2人同時に（笑）。
――アハハハハ！　まだ同居してからは間もないですけど、健介ファミリーの長男の晴れ舞台なわけですから、心配にもなりますよね（笑）。
北斗　そりゃ朝から飯食わせてさ、「頑張ってくんだよ。2人ともケガするなよ」って送り出してさ、どうせアタシも会場行けば会うんだけど、2人で家出てからも「タオル忘れちゃった」とか電話かかってくるからさ（笑）。
――アハハハハ！　余計心配にもなりますよね（笑）。
北斗　他にも「明日履く靴下がない」だの言ってさ、「いまはいいだろ！　まったく！」って話だよ（笑）。
――大変そうですね（笑）。
北斗　それで会場行ったらさ、勝彦も「あ、やっと来た！」って顔して。健さんにしてもそうだけど（笑）。
――とにかく世話がかかる2人なわけですね？（笑）。
北斗　ホントだよぉ！（笑）。
――中嶋クンは、まだ16歳ですし、年齢だけでいったら、授業参観みたいなもんですからね。お父さん、お母さんが後ろで見てたら、恥ずかしい姿も見せたくないだろうし。
北斗　気が気じゃなかったからね。だって、2人でモニターで花道走ってる姿見たら泣いちゃったよ。
――鬼嫁の目にも涙ですね（笑）。

勝彦はライガーさんに潰してもらって良かったと思う。そうしないと後で潰れるから

会での健介ファミリー



デビュー7戦目にして東京ドームという大舞台でライガーと一騎打ちを行った中嶋勝彦16歳。北斗プロデュースの純白コスチュームで走ってリングインした中嶋クン。このシーンだけで健介&北斗は感無量で号泣。中嶋クンは得意の左ハイでダウンを奪うと健介ばりに「ヴァーッ!」と咆吼。その後、ジャーマンでブン投げるなど攻め込んだ中嶋クンだったが、最後は健介&北斗が見守る中、ライガーが逆エビ固めを決め勝利

北斗　ガラにもなくね（笑）。やっぱり、ありふれてるけど感無量ってヤツよ。でもWJには勝彦の方が先に入ってるんだよね、健さんより。
――そうか。WJでは中嶋クンの方が先輩になるんですね（笑）。
北斗　そうなのよ。でもさ、入った頃って、まだ14だからね。いまよりもっと幼い顔してる時から見てたわけじゃん。それで、あの子はWJに入る前からいろんな苦労してきたわけでしょ。それも知ってたし。
――WJ入ってからも、かなり苦労したでしょうからね（笑）。
北斗　そういうのもあるし、東京ドームの花道歩かせてやりたいなってずっと思ってて。そういう意味では、ひとつ新日本に貸し作っちゃったかなって気もするけど、やっぱり、あの花道を歩かせてあげられただけでも感無量って感じだよね。
――で、中嶋クンの新日デビュー戦は、健介さんは「正直、最高だった！」って言ってましたけど、北斗さん的にはどう思いました？
北斗　プロレスの厳しさっていうのかな？　たぶんね、いいところを引き出してやろうって思うレスラーもいると思うの。たとえば、伸びてきた若い子がいい試合をして自分と当たることになった。それで、その子のいいところを出してあげるのは簡単なことなの。だけど、そうすると有頂天になるから。
――自分の力だと勘違いする部分もあるんでしょうね。
北斗　そうそう。ハッキリ言って勝彦は、自分のやりたいこと、自分の持ち味を出せなかったと思う。でも、それでいいんだと思うの。プロレスって、そんな甘くないよ。WJでのデビュー戦は石井君がいいとこを引き出してくれてやってくれた。その後も、大谷選手、高岩選手、あの人たちも凄くプロレスがうまい。だからいいとこを引き出してくれた。だけどそういう選手ばっかりじゃないよってこと。獣神サンダー・ライガーが引き出さないってわけじゃなくて、たぶん、あの人もそうそう受けないだろうなって思ってたの。
――ある程度、今回の試合のようになると予想していたんですね。
北斗　だって、これでライガー相手にガンガンガンガンやっちゃって、いい

――とにかく世話がかかる2人な
ですね？（笑）。

試合というか、大谷君たちとやったような試合をしたら、勝彦がいつか潰されそうになった時とか、なんかでガツンと来られた時、あの子、ガーッと落ちちゃうよ。

――ジュニアのトップのライガーと、いい試合をしちゃったら天狗になっちゃう部分もあるでしょうね。

北斗　そう。だから、アタシがオファーをかけた、健介がプッシュした、それで東京ドームに上がった。でも、自分の実力ではまだ絶対上がれないはず。だって勝彦って、まだデビュー7戦目だよ（笑）。

――そうなんですよね（笑）。

北斗　いろんな意味で勝彦っていうのは、いま凄い話題になってると思う。WJ入った頃から話題になった子だけれども、今度、健介ファミリーに入って、また少し注目されました。それは貧乏オフィスを選んだからっていうのもあるけどね（笑）。

――いやいや（笑）。

北斗　でも、これホント。だから東京ドームの花道を歩けたんだと思うの。だけど、それで有頂天になっちゃいけないよっていうこと。だって、これからが試練なんだから。

――テレビ中継でも「20年に一度の逸材」って言われてましたけど、元プロレスラーの目から見て、それだけの素質を中嶋クンに感じてますか？

北斗　素質はホントにあると思う。だけど、いままでも素質のある子は見てきたけど、女の子でもね、素質のある子に限って潰れるのも早いの。なぜかっていうと、昔の空手のキャリアなんかどうでもいい世界だから。空手の全国大会で優勝したとかなんだって、アタシはよくわからないけど、そんなキャリアなんか関係ないもんね、この世界入ったら。

――女子プロなんかは特にそうですよね。キャリアがあったり、ルックスがいい選手は潰されちゃって、いつの間にかいなくなってることも多いですからね（笑）。

北斗　そういう世界だから。昔のキャリアなんてどうでもいいの。自分がただ空手というものを得ただけで、プロレスにはそのキャリアなんて関係ないわけよ。キャリアでいったら勝彦なんて、まだド新人なわけでしょ。だからアタシは「勝彦、頑張れ！」って思ったけど、ライガーさんに潰してもらって良かったと思う。そうしないと後で潰れるから。プロレスは怖いもんなんだよ、そうそう簡単にはできないもんだよってのを思い知らされたんじゃない？

――遅かれ早かれ、そういう経験はすることになるでしょうからね。

北斗　そう。何ごとも早い方がいいの。まあでも、ドームって舞台を考えると、ちょっと可哀想すぎたのかもしれないよ。もっと華やかにやりたかったのかもしれない。だけど、ライガーさんに限らず、ヒートでも、金本さんでも、タイガーマスクでも、みんなそうそうやらせなかったと思うよ。でも逆にアタシはそういう相手を選びたかった。そしたら、「ライガーさんとやりたい」って勝彦本人が言ったから、これはもってこいだなって思ったの。

――で、今回の再デビュー戦にあたって、中嶋クンのコスチュームが純白のスパッツとレガースに変わりましたけど、あれは北斗さんのプロデュースなんですよね。

北斗　そうだね。でも、まだ柄はダメ。ストライプのみ。

――柄を入れるのはまだ早いと？

北斗　そうだね。まだド新人なんだからさ（笑）。

――北斗さん的には、茶髪とかもキャリア的に、まだダメなんですよね。

北斗　ダメダメ。チャラチャラするのはまだ早いよ。一昨日かな？　真っ黒に染めさせて、髪の毛も短く切らせたから。

――やっぱりそれは新人レスラーとして当たり前のことだと？

北斗　そう。いまの時代はチャラチャラしてるとか、そういうふうに言うわけじゃないけど、アタシたちは、ガウンも何も着ないで先輩からもらった水着に真っ白なリングシューズで試合してたの。だからファンも、これからどう変わっていくかっていう楽しみってあったじゃない？　だけどいまは、バ バ臭いかもしれないけど（笑）、華やかすぎちゃうのよ。

――それは感じるでしょうね。

北斗　コスチュームだけじゃなくて、デビュー戦から手を広げてアピールしたりとかね。アタシから言わせたら手なんか上げるなって話だよ！

――それこそ全女は新人時代は押さえ込みから始まるわけですからね。

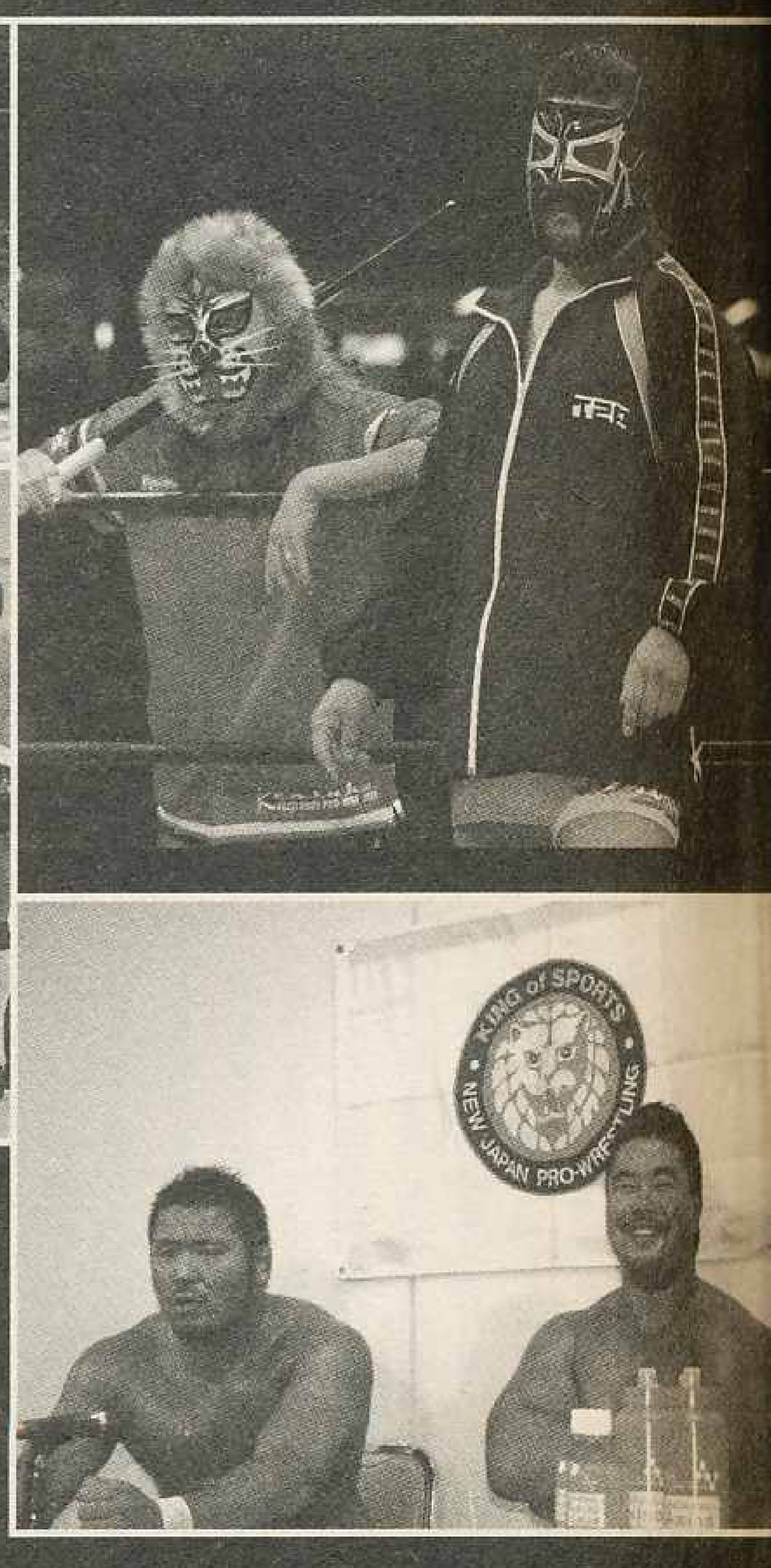
北斗　そうそう。若い頃は新鮮でいて欲しいっていうか背伸びする必要はないと思う。だから、ファンの人が見て勝彦が成長していくうちに、どういうふうに変わっていくかっていうのも注目してもらいたいの。

――そういう意味で、何にも染まっていない真っ白なコスチュームっていう



Hokuto Akira

5·3新日本ドーム大会での

健介と永田、中西とカシンという因縁渦巻くタッグマッチとなった第6試合。中西に続いてドームの花道に姿を見せたのはカシンマスクを被った健介と、木刀片手にライオンマスクを被った北斗。対するカシンは番傘を持った矢野を引き連れ、さらに北斗の化身であるレイナ・フブキマスクのセコンドを付ける徹底ぶり。これには、北斗も「ギャフンって言っちゃったよ」と完敗宣言。試合は中西とカシンがグーパンチで殴り合うなど最後まで噛み合わず終了。散々茶化されコメントルームで怒り爆発の中西と笑顔の健介。どちらも最高!



●所英男 ［1R3分30秒 三角絞め］ レミギウス モリカビチュス ×

健之介や誠之介がレスラーになりたいって言ったら？ 嫌だねっていうか嫌だね！

のは、しっくりきますよね。

北斗 でしょ。でもさぁ、話は戻るんだけど、アタシたちはホント出てっちゃいけなかったんだよ。そこに関しては正直スマン！って（笑）。

―アハハハハ！ 一緒に住むにあたって中嶋クンには「ママと呼びなさい」って言ってましたけど、ちゃんと「ママ」って呼んでくれてます？

北斗 「マ、ママ」って呼んでるよ（笑）。でも会場では「北斗さん」だよ、やっぱり。

―さすがに会場ではママとは言えないですよね（笑）。あと、食費3万円っていうのが話題になってますけど、どうですか、中嶋クンの食欲は？

北斗 前からみたいだけど朝は食べないね。身体作るのに朝は2杯しっかり食べろって言ってんだけど。でもやっぱり、昼、夜は凄い食べるよ。

―本人も身体を作らなきゃっていう意識もあるんでしょうね。

北斗 っていうか、若いから単純に食欲あるよ。6万もらわなきゃしょうがないよっていうぐらいだね（笑）。

―3万じゃ足りないですか（笑）。

北斗 それは冗談だけどさ、でも作り甲斐あるよ。こっちも負けずにガンガン作るから「残すな！」って言うと苦しそうにしてるけど（笑）。

―ホームページに出てましたけど、中嶋クンも含めた健介ファミリーで、いちご狩りに行ったり、もう健之介クンや誠之介クンとは、かなり打ち解けてるみたいですね。

北斗 仲良くやってるよ。仲良くどころか大変だよ、うるさくって。

―健之介クンを中心にプロレスごっことか凄いらしいですね。まあプロレスごっこっていうのもどうかと思いますけど（笑）。

北斗 凄いよ、うるさくって。ウチん中、いま凄いことになってるから。野郎ばっかりだしね。

―さすがの北斗さんも1人じゃ太刀打ちできないんじゃないですか？

北斗 いや、太刀打ちしてるよぉ。「うるせえ！」だよ（笑）。

―さすが鬼嫁！（笑）。ボクも健之介クンを怒らせてローキックをバンバンもらったことがあるんですけど、健之介クンって最近かなりプロレスラーづいてきましたよね。

北斗 大変だよ、悪くて。だから勝彦にも教えないように言わないと。

―1歳の誠之介クン相手にSTFかけたりしてるんですよね（笑）。

北斗 そうだよぉ。見よう見真似で骨折っちゃったりしたら大変だよ。

―でも、誠之介クンは技をかけられて笑ってるらしいですね（笑）。

北斗 そうなんだよ（笑）。誰が一番面白いって、誠之介だよ。

―かなり将来的な話になっちゃうんですけど、健之介クンが「プロレスラーになりたい」とか言い出したらどうします？

北斗 それは嫌だね。今日の勝彦の見て余計にそう思った。10年後に健之介が「やりたい」って、今日の勝彦みたいにやってみなよ。ホント、アタシたち引っくり返ってるよ。

―現時点での北斗さんの考えでは、やらせたくないと？

北斗 嫌だね。嫌だねっていうか……嫌だよ！

―「嫌だねっていうか嫌だよ！」ですか（笑）。

北斗 アタシも健さんも、勝彦の試合が終わって、「疲れた……くたびれたね」って言っちゃったもん。でもどうなんだろうなぁ？ やっちゃうのかな。

―健介&北斗の子供っていったらプロレスラーになるしかないだろって思うんですけどね（笑）。

北斗 でも、やりたいっていうのはきっと誠之介の方だと思う。

―あ、そうですか？

北斗 なんとなく親の勘で。気が強いのは誠之介の方だからね。

―健介さんもそう言ってました。

北斗 上は意気地なしだから（笑）。

―そうなんですか（笑）。

北斗 でも死んじゃうよ、嫌だよ（笑）。だってアタシ、あと10年後いくつよ？ アタシが46歳で健さんが47歳でしょ。そんな時にデビューなんかされたら、どうすんだよ、白髪出ちゃってしょうがないよ（笑）。

―アハハハハ！ 話はガラッと変わりますけど、北斗さんって女子プロ時代は、あまり男子のプロレスは見てな

健介ファミリーは会見も大騒ぎ!!





こちらの写真は中嶋勝彦の健介ファミリー入り会見の時のもの。健介、北斗、そして、この日の主役の中嶋クンが神妙な顔つきで健介ファミリー入りの経緯を話している後ろには、柱の陰に隠れ記者陣をチラチラ見る健之介クンと、ポーズを決める誠之介クンの姿が。健介ファミリーの会見の度にハッスルしまくる健之介クン＆誠之介クンの2人は、もはや会見には欠かせない存在。この2人に負けじと（？）健介＆中嶋クンもカメラマンの要望に応じ、上半身裸になり、互いに水平チョップを打ち合って見せた。この会見で中嶋クンはライガーとの対戦を希望。会見後、すぐさま北斗が新日本にオファーをかけ、5・3ドームで一騎打ちが決定！ さすが北斗、仕事が早い



かったんですよね？

北斗　見てないね。だって自分のことだけで精一杯だもん。

――最近、いろんな団体を見るようになったと思うんですけど、男子プロレスってどう思います？

北斗　やっぱり、その団体その団体の色が凄くあるよね。それがまず一番の印象で。他もまだ見てないところもあるし。だけど、もう疲れたから、今日のドームで一拍置きたいよ。とにかく裏方のことがいっぱい溜まっちゃってるからさ。あとは健介、勝彦で頑張ってって感じだね（笑）。

――ここ数年は全体的にプロレス界が元気がないって言われてるじゃないですか？　女子プロも含めて。

北斗　そうなの？　冗談抜きで女子プロのことは一切わかんないから。

――興味ないって感じなんですか？

北斗　いや、興味ないとかっていうよりも、女子プロに構ってられないのよ。佐々木健介で目一杯やってて、それで今度は勝彦まで来た。2人のことをとにかくやっていかないと。勝彦、健介のためにアタシは動いてるわけだから。なんのメリットもないもん、女子プロに興味持っても。

――そりゃそうですね。

北斗　だから健介と勝彦が上がったら凄いなとか、この人とやったら面白いだろうなって興味を示すし、いろいろ調べるよ、名鑑見たりとか。

――そうみたいですね。ただ、いま女子プロの方でも、WWE的というか、男vs女とかをやってるところも多いですけど、たとえば女子プロ団体から健介さんや中嶋クンにオファーが来たらどうするんですか？

北斗　来たらっていうか、実際来たような気もするけどさ（笑）。

――あ、そうなんですか（笑）。

北斗　でも、それは一切ノー！　アタシは自分がやってきたことに誇りを持ってる。だから女子プロレスをバカにするとかじゃなくてね。この前のカシンとも「おちょくり合いだ」ってアタシは言ったじゃない。あれを「試合」とアタシの口からは言っちゃいけないの。なぜかっていったら、試合するってそんな簡単なものではない。カシンは、おちょくってやろう、おちょくってやろうって、そういう気持ちで来てるわけじゃない。じゃあアタシとカシンがホントに真っ向勝負したら、勝てるわけがないって。素手で木刀も何も持たずにやってしまったらね。

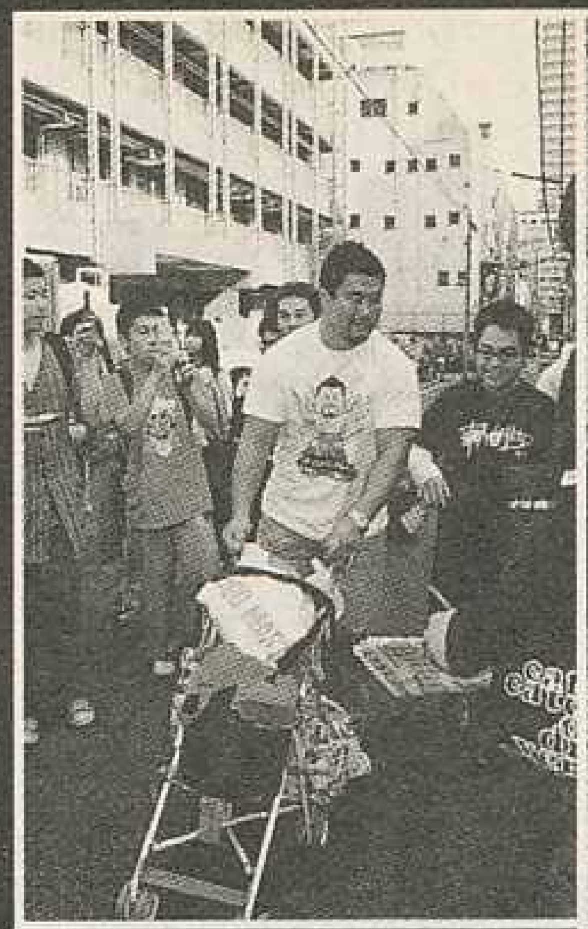
――さすがの北斗晶でも素手では勝てませんか（笑）。

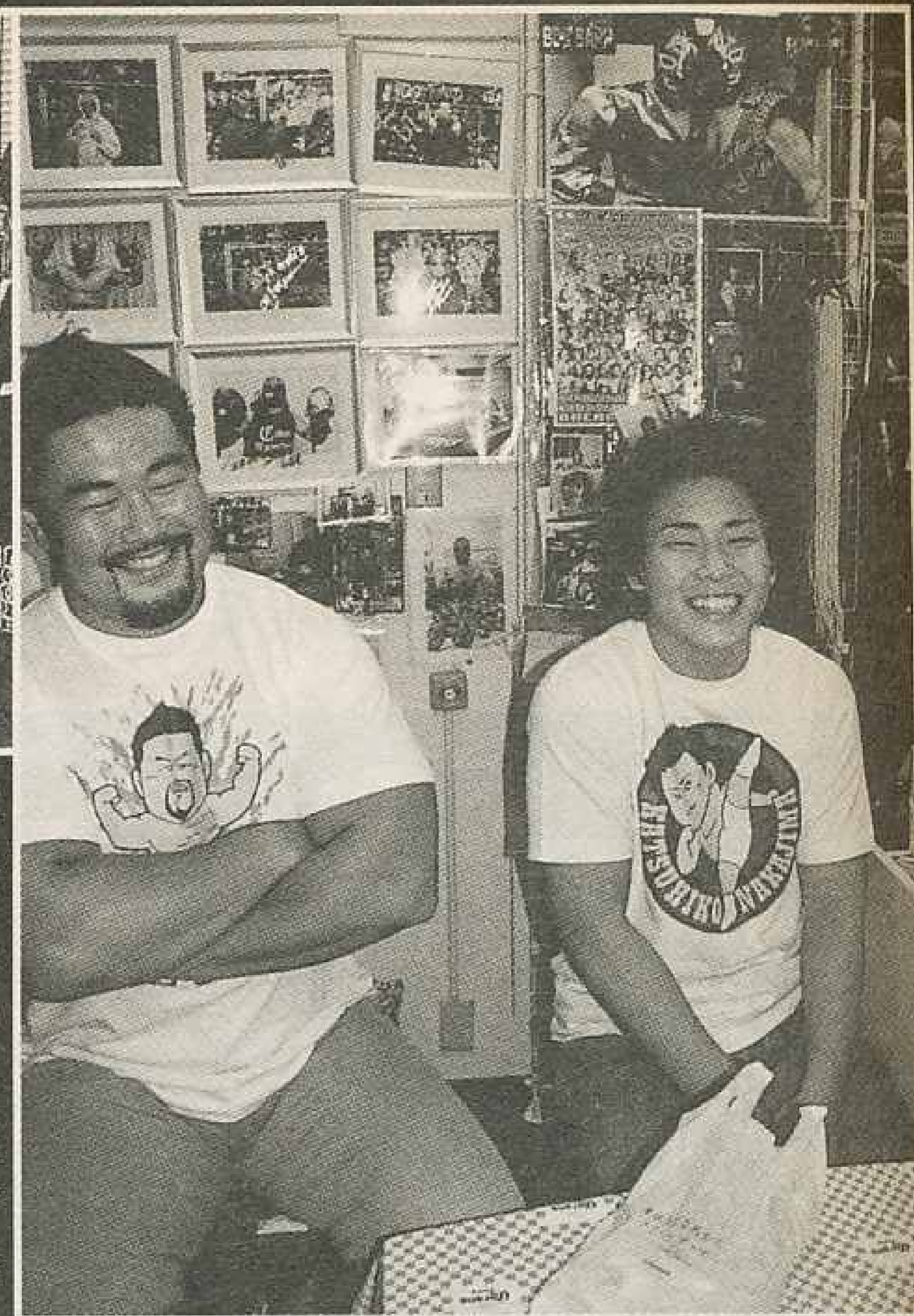
北斗　無理無理！（笑）。だからプロレスなんてそんな甘いもんじゃないよっていうことで、アタシはあれを試合とは間違えても言えない。

――カシン戦は、あくまでもケンカだって強調してましたからね。

北斗　そう。だから、そういう面では、その団体団体の色だから批判もしないし、別にいいけども、まあ勝彦はウチから出た後は、どうなるのか知らないよ。でも健介に関してはノーだよ。ホントに失礼なオファーをありがとうっ

健介ファミリーのある日





5月1日、東京・水道橋の『DEPO MART』で健介&中嶋クンの新作グッズ発売記念サイン会が行われた。会場となったショップには健介&中嶋クンだけではなく、北斗&健之介クン&誠之介クンの健介ファミリーが勢揃い！　オモチャ大好きの健之介クンは店内を物色し、最終的には健介、天山（レア物）、サップ、小島フィギュアを購入。サイン会が終わり、例によって健介がベビーカーを押して店の外に現れると、出待ちをしていたファン約50名が一斉に健介を取り囲み水道橋の街は、正直ちょっとしたパニック状態に。いつだって健介ファミリーからは目が離せない!!

Hokuto Akira

ベンケイ・ササキがラグビー番組の顔に!!





健介が海外修行時代以来、約15年振りに弁慶姿に変身ッ!!これはJSPORTSのラグビー情報番組『ラグビープラネット』が放送3年目を迎えリニューアル。番組のオープニング映像に弁慶役として佐々木健介、そして牛若丸役としてZSTガールの尾藤ゆうという『紙プロ』読者向きの2人が起用された。この模様は4月29日からすでに放映済み、毎週木曜日22:00～22:30までJSPORTS3（リピート放送あり）で見られます！　必見ッ!!



●所英男 [1R3分30秒 三角絞め] レミギウス・モリカビチュス ×

ていう感じ（笑）。

――どこの団体か、なんとなくわかりますけどね（笑）。

北斗　ホントにねぇ、たまげちゃったよ（苦笑）。

――でも、マネージャー、プロデューサーとして北斗さんが健介さんと中嶋クンのことで一杯いっぱっていうのはよくわかるんですよ。コスチュームの色にしてもそうだし、全日本にセコンドで付くんであれば、全日の選手の悪口満載のオリジナルTシャツを作ったりと、毎回いろいろと見せ方を考えてますからね。

北斗　でも、それが一番困るんだよね。「なんかしらやってくれるだろう」って思われるのが。いつも何かしなきゃいけないのかよって（笑）。

――たしかに、それはプレッシャーになりますよね（笑）。

北斗　そう。「今日は、なんもなしかよ！」って思われちゃったら、それも困るのよ。期待に応えなきゃって思うとエスカレートしてかなきゃいけないだろうし。大変だよ。

――健介さんのスパッツとか、上がる団体や会場、対戦相手を考えて色を変えたりしてるみたいですけど、それって簡単そうに見えて、いざやろうとなったら大変ですよね。

北斗　そうだね。でもそれは、健さんといろいろプロレスの話をするようになって、とにかく目立たなきゃいけないっていうことを言ったの。で、「なんで男の人は黒パンツなの？」って聞いたら「それがストロングスタイルだ」って。そういうところから話したの。いままでそういうこと話したこともなかったから、「その黒が強さの象徴なわけ？　それって誰が決めたの？」って感じよ。

――まあ、そう思いますよね（笑）。

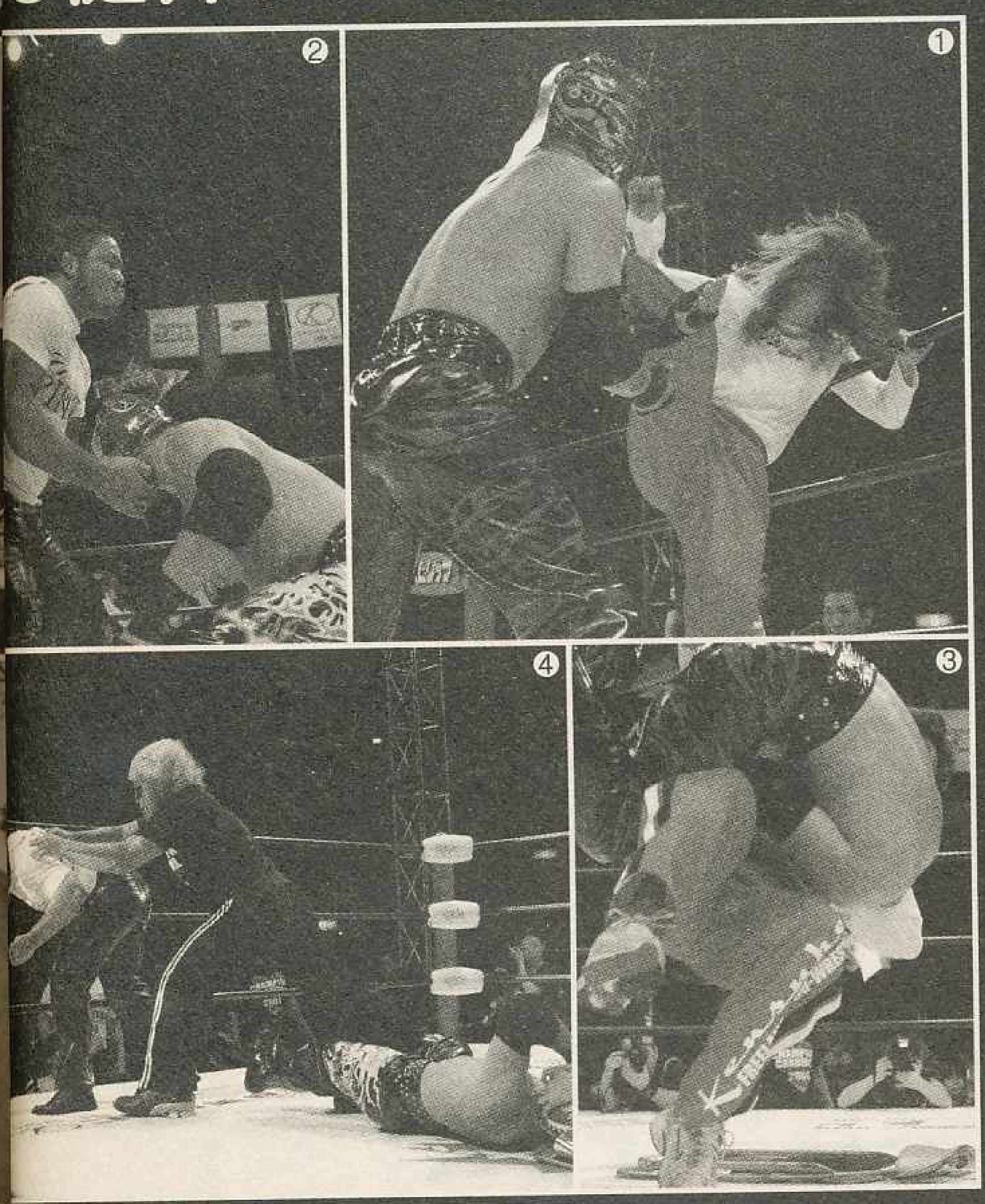
北斗　だって東京ドームとかでビジョンが見える人はいいけど、ビジョンが見えない人は親指と人差し指伸ばしたぐらいにしか見えないでしょ。その中で、似たような人が、真っ黒な頭で真っ黒なパンツで真っ黒なリングシューズ履いて、たとえば背丈は違うけど、中西君と健さんと同じような格好してるじゃん。あんなの遠くから見たら見分けつかないよ。ましてやグラウンドなんかやっちゃったら、どっちが絞めてんのかさえもわかんないじゃない？　そう思うの、アタシは。

――北斗さんは現役時代、試合の時は黒いマニキュアをして、遠くの席のファンにまで指先の動きを見せようとしてたって言いますよね。

北斗　そう。遠くからでも指の先まで何やってっか見えるようにね。だから、そういう話しをしたの。そしたら健さんも「ああ、なるほど」って。だから、前もってカードは出てるんだから、くじ引きの日に綱引っ張ったりとか、あと長い巡業でカードを決めるとか、あと長い巡業でいっぱい荷物を持っていけない時はしょうがないけれども、でも、なんで組んでる人や闘う人と同じような格好しちゃうわけ？　男子のプロレスを見るようになって、それは凄く感じたよね。

プロレスっていうのは一番後ろのお客さんを相手にしなきゃいけないと思うの

でも健介ファミリー大暴れ!!



――女性ならではの視点でしょうね。最近は男子でもそういうところまで考えている選手も増えてはきてるんでしょうけど。

北斗　だって、プロレスってリングサイドにいる人が一番高いお金出してるわけよ。でも高いお金で買ってる分、凄い近くで見れる。アタシはプロレスっていうのは一番後ろのお客さんを相手にしなきゃいけないと思うの。たとえどんな安い席でも、一番後ろの人めがけてアピールしろっていうこと。後ろの人に聞こえるってことは凄い声出さないと届かない。勝彦は今日はもう頭パンパンだから無理だけど、そういうことも教えてかなきゃいけないと思うし。どんなにちっちゃい会場でも、一番後ろのお客さんを相手にしなさいっていうことをアタシは言いたいの。「そうじゃない」って言う人もいるかもしれないけど、アタシは一番後ろのお客さんにすべてが伝われば前の人にも伝わってると思うから。

――それは言えるでしょう。先ほども、ちょっと話題に出ましたが、こないだカシン戦で久々にリングで闘ったわけですけど、よくリングって麻薬って言うじゃないですか。ケンカとはいえ、ぶっちゃけ、またやりたくなったりしません？

北斗　いや別に。みんな、そう言うんだけど、やりたいと思わないの。なんでかなって思うけど、やっぱり、勝彦ももちろんそうだけども、アタシたち

——まあ、そう思いますよね（笑）
北斗　だって東京ドームとかでビジョ

家族の夢って佐々木健介なのよ。アタシたちは自分たちでやろうってなった時、佐々木健介に夢を託したわけよ。子供たちも「パパ頑張って！」ってさ、3人で押してあげなきゃいけなかったのよ。そこに夢を託したわけだから、何もいまさら自分がっていうのがあるんだよね。

——そういうもんなんですか。

北斗　だから、アタシが出るのも、何か健介のプラスになればと思ってのことだから。全日本にしても、健さんをチャンピオンカーニバルのX枠に入れたかったからいろいろとやったわけよ。そしたら展開が変わってカシンとこんなことになっちゃって、自分までリング上がらなきゃいけなくなっちゃったんだけどさ（笑）。

——そこまでは予想してなかったわけですね（笑）。

北斗　予想外だよ！（笑）。仕事の面で健介につながることだったらアタシはやるよって感じ。だから別に自分で試合をして、自分でお金を稼いでみたいな、そういうのは別にやりたくないのよ。だから「健さん、頑張って稼いでよ」ってだけ（笑）。

——正直、また見たいは見たいんですけどね。ケンカでもいいんで（笑）。それに相手から、おちょくられたりしたら、北斗晶としては黙ってられないところもあると思うし（笑）。

北斗　もう36歳のババアつかまえて何言ってんの！（笑）。



——失礼しました（笑）。ちなみに北斗さん、プロレスは好きですか？

北斗　う～ん…………まあ好きですね。昔はプロレスをやるのが好きだったの。でも見るのは嫌いだったの。でもいまはね、食ってくために見なきゃいけないの、アタシは。

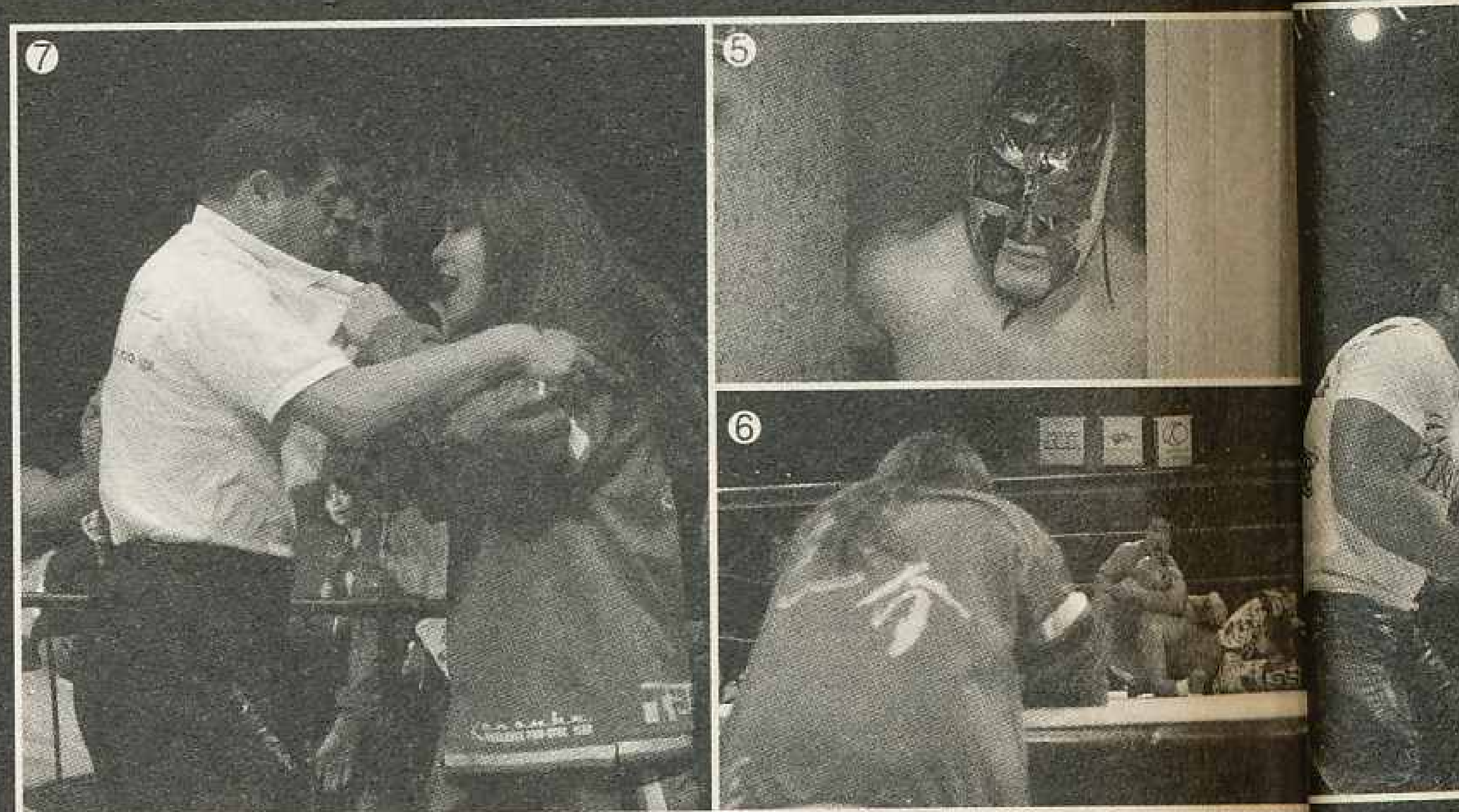
——マネージャーとして？

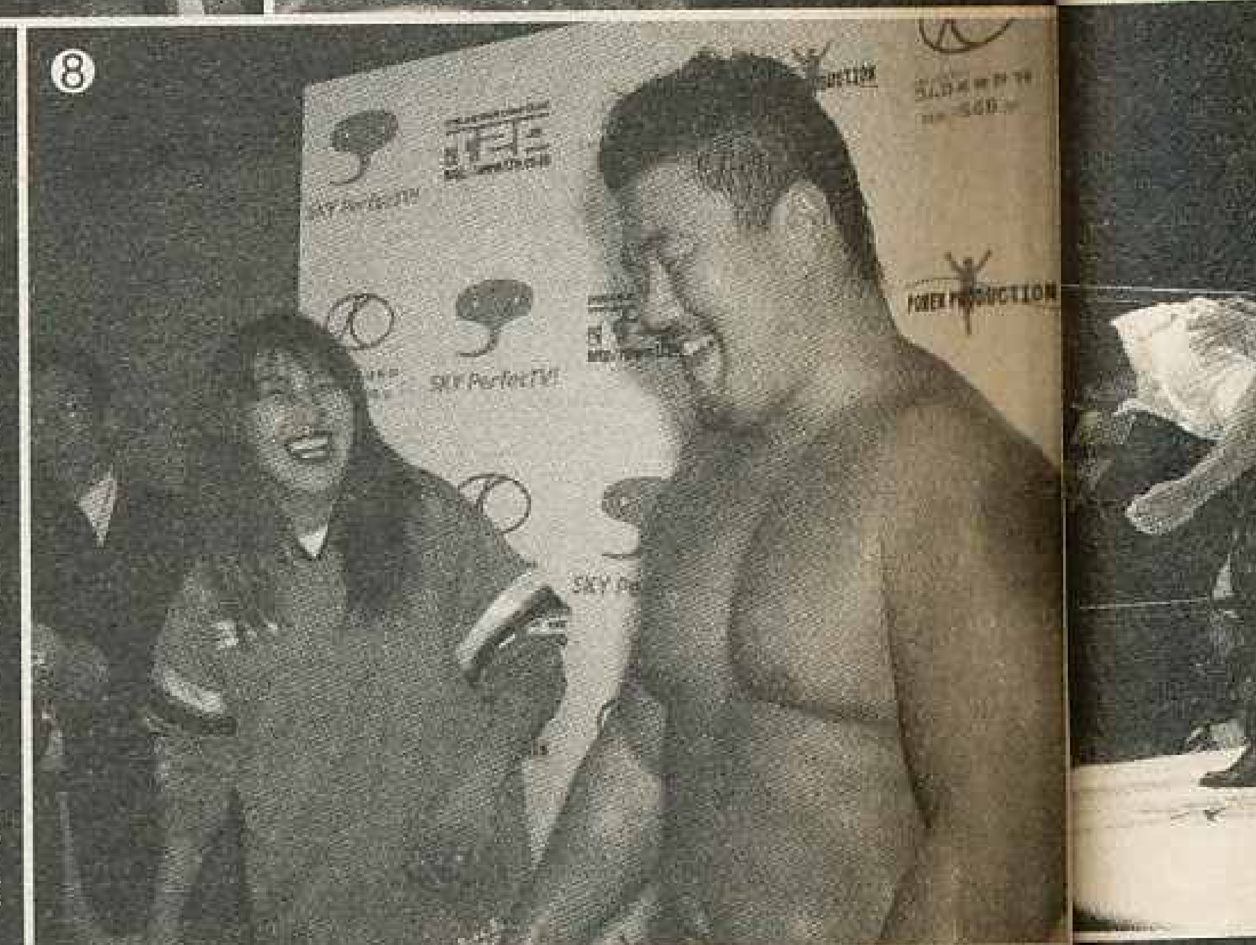
北斗　そう。ハッキリ言ってしまえば、自分たちが食ってかなきゃいけないから、見なきゃいけないの。だって、やっぱりいまはヘビー級の選手がたとえばいるじゃない、身体大きいのが。「あ、この選手面白いな」って思ったら、じっと見ちゃうわけよ、いままではね。だけど、ジュニア系の選手がいたら「これ勝彦とやったら面白いな」とかさ、だから、いまは凄い頭使わなきゃいけない。

——これからは2人分ですからね。

Hokuto Akira

チャンピオンカーニバルでも





❶遂に王道マットに登場した北斗晶。本人いわく「試合ではなく埼玉の主婦のケンカ」とのこと、見てみぃ、このストンピング！ ❷試合途中、「ホーッ！」っとカシンを襲撃したのは中西 ❸すかさず、北斗がノーザンライトボムを決めカシンから3カウント奪取！ ❹勝ち誇る北斗と中西の前に現れカシンを救出したのが、やたらとごっついライオン丸だった ❺試合後、カシンは「北斗さんは悪い男に騙されているんだよ」と健之介クンへメッセージを送った ❻チャンカーン準決勝で小島を敗って決勝戦へとコマを進めた健介。リーグ戦で時間切れ引き分けの武藤と優勝を賭け激突！ セコンドにはもちろん北斗晶 ❼場外戦で北斗と和田レフェリーが押し問答を繰り広げている隙に健介は武藤にイス攻撃！ 絶妙な夫婦タッグプレーを披露 ❽しかし、最後は武藤がシャイニング・ウィザード乱れ打ちからのムーンサルトプレスで2年ぶり2度目の優勝！ 敗れはしたものの健介＆北斗は抜群の笑顔を披露し握手

北斗　そうそう。いまはプロレスを見るのがアタシの仕事になってる。

——ただ、ビジネスとして考えると、ここ最近のプロレス界は格闘技に押されっ放しのところがあるじゃないですか。それは感じます？

北斗　ＷＪの会場に行った時それは感じたよ。まぁ、それがＷＪだったからかもしれないけど（笑）。

——それもあるでしょうけど（笑）。

北斗　全体的に厳しくなってきてるよね。だからいがみ合い、潰し合いも凄く必要なのよ、プロレスの枠の中では。アタシたちって調子のいい生き方かもしれないけど、人の波に乗ればいいと思ってるから。

——具体的に言うと？

北斗　だから、たとえば新日本では中邑が波に乗ってるんだったら、中邑に乗っかればいいじゃない。

——逆に、それを利用して上に行っちゃおう、と。

北斗　そういうことだよ。アタシはそうやって上に来た人間だから。だから「自分が自分が」ってやって、いがみ合いとか潰し合いしたら、いつまでも無理だと思うよ。だからプロレス界の……新日本プロレスでも全日本プロレスでもそうだと思うんだけど、誰か1人でもいいのよ、スターができれば。それで、その波に乗っかっていけば、また違ってくると思うよ。

——それこそ新日本とかは中邑選手とかをスターにしようとしてるんでしょうけど、すぐに結果が現れるわけじゃないですからね。

北斗　まあね、いまは難しい時代だとは思うけどね。

——基本的に北斗さんはプロレスと格闘技っていうのは別物だって意識なんですよね？

北斗　アタシは別物だと思う。格闘技は顔面とか殴ったりしていいし、……でもプロレスだって一発の勝負っていうのはあるよ。でもアタシは相手を倒して起き上がられなくさせるのが格闘技だと思うの。プロレスだってその方法はあるけど、いかに相手のいいとこを見せて、自分のいいとこを見せてっていうのがプロレス。まあ潰す時は潰すけどね（笑）。

——北斗さんはそうですよね（笑）。

北斗　アタシ流に言ってしまえば、格闘技は起き上がれなくさせる一瞬のドラマかもしれない。それに対してプロレスは、その人がどういう生き方をしてきて、どういうことを考えてるとか、すべてを見せなきゃいけない。そういう面でアタシは違うと思うの。

——生き様含めて、すべてさらけ出さなきゃいけないのがプロレス？

北斗　うん。あともうひとつ言ってしまえば、生き様を見せながらコツコツ



やって金を貯めるのがプロレス。格闘技は一発でガーンと、それこそ一攫千金みたいな感じかな？　……って、すぐアタシは金の話になっちゃうなぁ（笑）。

――まあ、それも大事なことですからね（笑）。

北斗　でもやっぱプロレスラーは強さだけじゃダメだよ。強いだけじゃプロレスではトップは取れないから。まあサップみたいに両方こなせるんだったら2つこなせばいいと思うけど、結局、自分の実力っていうか、技量じゃない？　アタシなんか弱いから格闘技はダメだけどさ。

――まあどっちかっていうと北斗さんは「強い」っていうより「怖い」っていうイメージでしたからね。

北斗　だから、アタシなんかは逆に弱かったからこそ、相手をビビらせてヘビに睨まれたカエル状態にさせるっていうね、それがアタシの殺法だったから（笑）。

――北斗さんの相手は、ほとんどカエル状態だったわけですね（笑）。

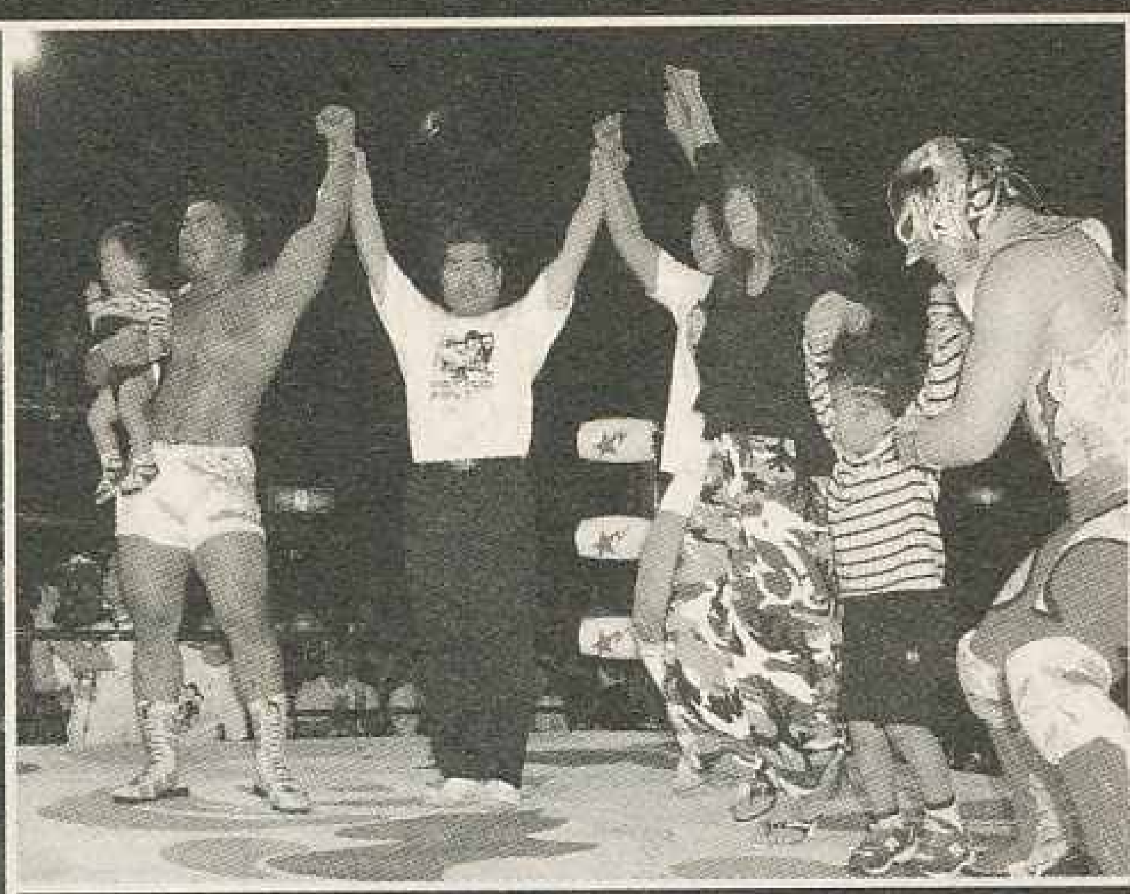
北斗　「この人、怖いな」って、先に目で殺す。目で殺して相手を怯ませなかったらアタシは勝てないもん、正直言ったら。アタシのこと「強かった」って言う人いないからね。みんなに聞いてごらんよ（笑）。

――遠慮しときます（笑）。

北斗　いっくら強くたって、何もお客さんに伝わらなかったら意味ないからね。それだったらこの前の村上選手と柵橋君だっけ？

佐々木健之介、遂にリングデビュー！







今回のインタビューで息子2人のプロレスラーデビューについて「嫌だね」と答えていた北斗だったが……。取材翌日の5・4BAPE STA!!大阪大会のリング上には中嶋クンも含めた健介ファミリーが勢揃い!!　セコンドに付いた北斗を武藤が鉄柵に叩きつけると、なんと健之介クンが武藤に怒りの鉄拳制裁!!　試合後、タッグパートナーのデルフィンも「今日は健ちゃんがヒーローや!」と健之介クンを絶賛。正式デビューも近いか……!?

Hokuto Akira

――両国で中継されたノーピープル金網デスマッチですね。

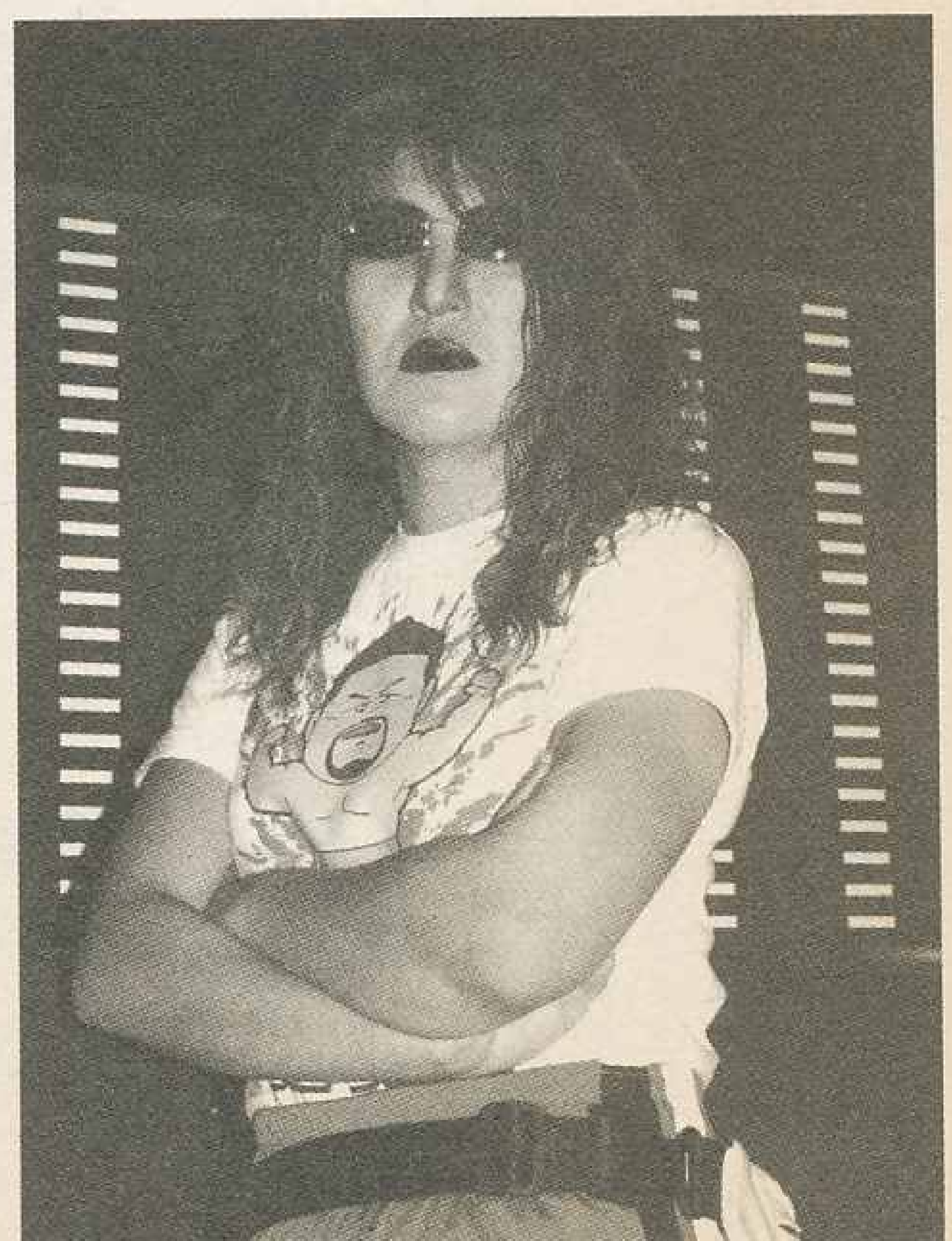
北斗　あれみたく、お客さんいないとこでやればいいことじゃない。だから、アタシが勝負だと思うのは、やっぱり、お客さんが試合観戦の帰り道とか電車の中で誰の話をしてるかってことなのよ。そこに健介なり勝彦なりの話題が上がらなきゃダメだっていうこと。どんなに強くてもインパクトがなかったら話題に出ないでしょ。だから、プロレスは強さだけじゃダメだよっていうのはあるね。

――そういう意味で、今年の健介さんの活躍っていうのは、これまでの人生とか生き様をさらけ出してるのが大きいんでしょうね。もちろん、マネージャーの北斗さんの存在が大きいのは間違いないんですが（笑）。

北斗　だって、やってもらわないと、こっちが困るんだからさ（笑）。

――そうですよね（笑）。

北斗　でも、ドームも終わって一段落ついたし、ちょっとの間、引いてみようかなって思ってるんだけどね。今年は、ここまで突っ走り過ぎちゃったからさ（笑）。



【ほくと・あきら】本名・佐々木久子。1967年7月13日生まれ、埼玉県北葛飾郡出身。85年5月28日、全日本女子プロレスでデビュー。94年11月、東京ドームでの日本選手権で優勝、引退。その後、95年4月に北朝鮮で復帰。そこで知り合った健介と同年6月に婚約発表、10月1日に結婚。健介のプロポーズの言葉は「何度生まれ変わっても一緒になろう」。98年11月6日、健之介クン誕生。03年3月1日、誠之介クン誕生。そして、今年4月14日に中嶋勝彦が健介ファミリー入り!

――たしかにそうですよね。でも、それを聞いたら健介さんも安心すると思いますよ。「立ち止まったら木刀持って追いかけられる」って言ってましたから（笑）。

北斗　何言ってんだよ！　休みでも立ち止まっちゃいけないのよ。たとえ身体は休みでも頭の中までは休んじゃいけない。特にウチなんか貧乏オフィスなんだからさ（笑）、立ち止まってられるかって！

――アハハハハ！　夏以降もヴァーッとクァーッと突っ走ってください！

【5月3日／東京ドームホテルにて収録】

健介Officeオフィシャル・ウェブサイトオープン!!

健介Officeのホームページが遂に完成しました!!　トップページには、Tシャツにもなっている健介のファンシーイラストがみんなのアクセスを待っているぞ！　内容は健介をはじめとする健介ファミリーの日記から、最新情報や試合日程まで丸わかり！　正直、必見です!!

http://www5f.biglobe.ne.jp/~kensuke-office/



「次、ホイスとやったら、ぜ、絶対に、こここ殺されてみせます……!?」

ボビー・オロゴン



総合初挑戦でホイスをマジギレさせた男

『さんまのからくりTV』の人気者、ボビー・オロゴンが特番（4月4日放送済）の目玉としてホイス・グレイシーと対戦。グラバカで特訓を積んだボビーはホイス相手に大善戦、2Rにはホイスが目尻をカットし大流血というシーンも。最後は腕十字で敗れるも、ボビーは「この借りは働いて返すからな！」とアピール。今後も大晦日の格闘技大会出場へ向け練習を続けるというボビーに話を聞いてきました。通訳なしのインタビューのため、読みづらいかとは思いますが、そのボケっぷりとあわせお楽しみください！

聞き手&撮影／松澤チョロ　designed by bun-chan (Two Three)

——試合からは、だいぶ経っちゃいましたが、ボビーvsホイス戦を観た人から「ボビーは凄い！　彼のインタビューが読みたい」って声がいっぱい届いてるんですよ。

ボビー　オレ、全然知らない。

——ボビーさんは知らないと思いますけど（笑）。実際、ホイス戦はどうでしたか？

ボビー　や、やっぱ、勝ちたかった。でも残念ながら負けてしまったんで。ホイスも結構凄い人だったから。

——結構凄い人なんですよ（笑）。でも、パッと見は強そうに見えないですからね。

ボビー　そそ。絶対、オレ勝つと思った。テクニックはホイスが上なので、打撃でいくつもりだったんだけど、打撃勝負してくれなくて。でも楽しい試合でした。やっぱああいう試合やると目標なるね。また今度試合してみたいと思ってます。

——ホイスともう一回っていう気持ちが大きいんですか？

ボビー　も、もう……ここここ、殺されるまんまにやりたい！

——殺されるまんまに？（笑）。「殺してやりたい」じゃないですか？

ボビー　そそそ。次、ホイスとやったら、ぜ、絶対に、ここここ、殺されてみせます！

——だから殺されちゃダメですよ！（笑）。

ボビー　（真顔で）そうなの？

——はい（笑）。そういえば、試合の翌日、ホイスから直接指導されてましたよね？

ボビー　し、しろおび？

——白帯じゃなくて黒帯のホイスさんに技を教わってましたよね？

ボビー　そそそ。教えてもらってました。やっぱテクニックは結構ある選手なんで。

——結構ある選手ですからね（笑）。

ボビー　でも教えてもらった時は、教えてもらうまでは、やっぱ教えてもらいました。

——どっちなんですか!?（笑）。ボビーさんが通っているグラバカの菊田さんも、凄くテクニックのある選手なんですけどね。

ボビー　ないよ（キッパリ）。

——ありますよ！（笑）。

ボビー　だ、誰が？

——だから、菊田選手です！

ボビー　アッ、菊田早苗さん？　そうかそうか。もちろん、あれは結構ありますよ。

——そうですね（笑）。テクニックがないのは誰なんですか？

ボビー　オ、オレオレの話かなと思って。

——オレはまだテクニックはないと？

ボビー　そそそそ。でも、パワーはそんなに負けない、ホントに。

——〝そんなに〟じゃなくて、パワーは全然負けてないじゃないですか。

ボビー　（真顔で）そうなの？　でもやっぱ商売っていうのは、パワーだけじゃなくて、テクニックも必要だと……。

——〝商売〟じゃなくて〝勝負〟ですね（笑）。試合の途中でホイスが流血した時は、どう思いました？

ボビー　や、やっぱ殺されちまうんじゃないかと思った。ヤベえよ。

——ホイスは意地でもドクターストップで止められたくなかったでしょうからね。

ボビー　そそそ。一応止めに入ったんですけど、ホイスが「絶対やだ」って怒りだして。最後まで商売決めるって……。

——だから〝勝負〟ですって！（笑）。

ボビー　そうなのか!?「絶対、ショウビー決めるんだ」って言って。

——今度は〝ショウビー〟ですか（笑）。

ボビー　違うの？　そう言ってたよ。オレは、お客さんがいっぱいいて、興奮して何も覚えてないけど、でも力出たっていう。

——お客さんの応援で力が出たんですね？

ボビー　という噂もある。

——噂なんですか!?（笑）。ホントに試合内容は全然覚えてないんですか？

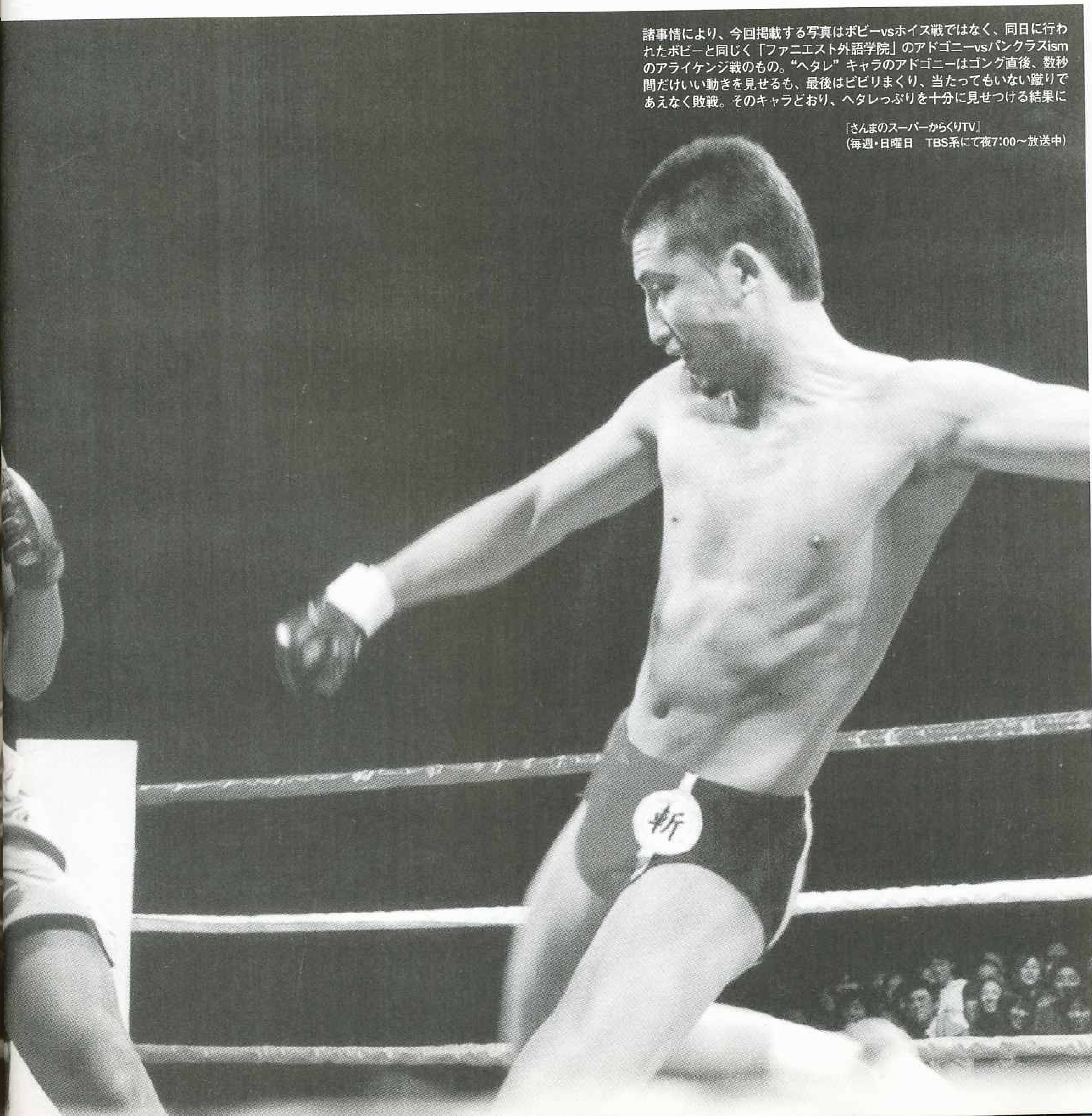
ボビー　そそ。オレはアドリフだったんで。

——あ、〝アドリブ〟ですね（笑）。いくらテレビ番組でも台本はないでしょう。

ボビー　全然ない。試合も何も覚えてない。

——やっぱり、初めての試合で緊張してた

ホイスとの試合中に、死んじゃったおばあちゃんが見えました

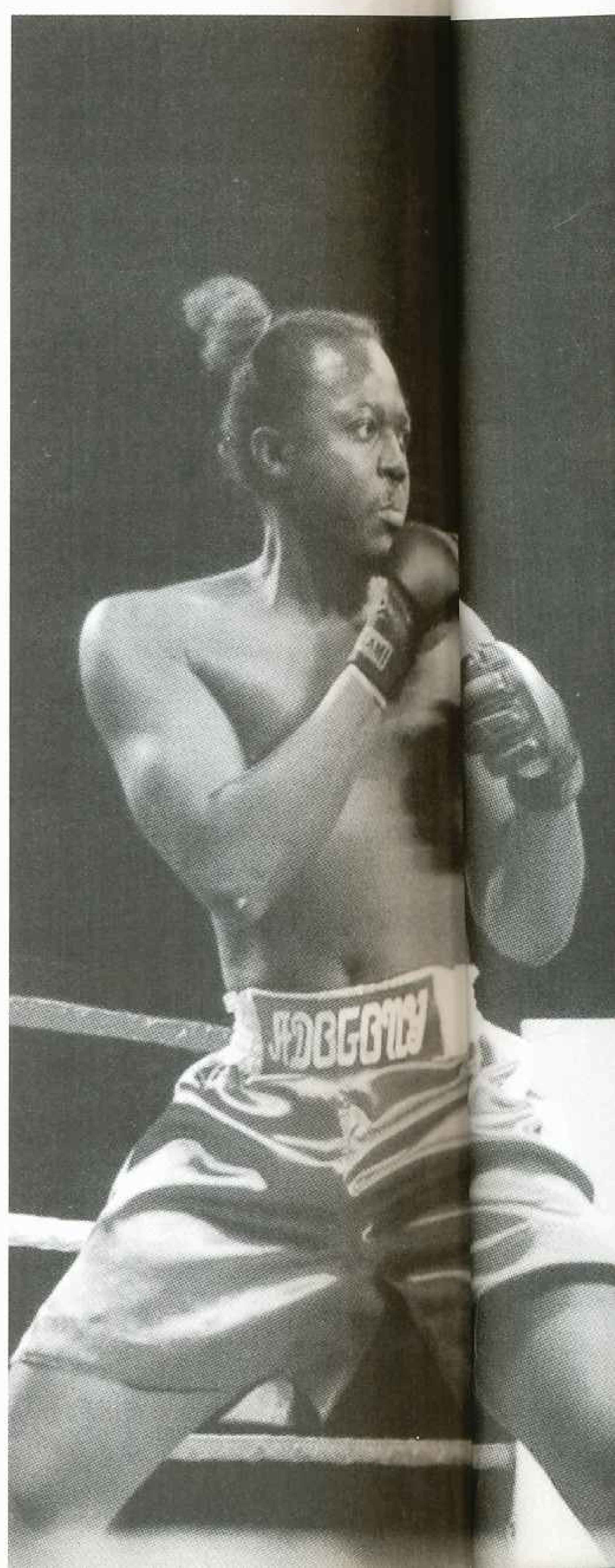


諸事情により、今回掲載する写真はボビーvsホイス戦ではなく、同日に行われたボビーと同じく「ファニエスト外語学院」のアドゴニーvsパンクラスismのアライケンジ戦のもの。〝ヘタレ〟キャラのアドゴニーはゴング直後、数秒間だけいい動きを見せるも、最後はビビりまくり、当たってもいない蹴りであえなく敗戦。そのキャラどおり、ヘタレっぷりを十分に見せつける結果に

「さんまのスーパーからくりTV」
（毎週・日曜日　TBS系にて夜7:00～放送中）

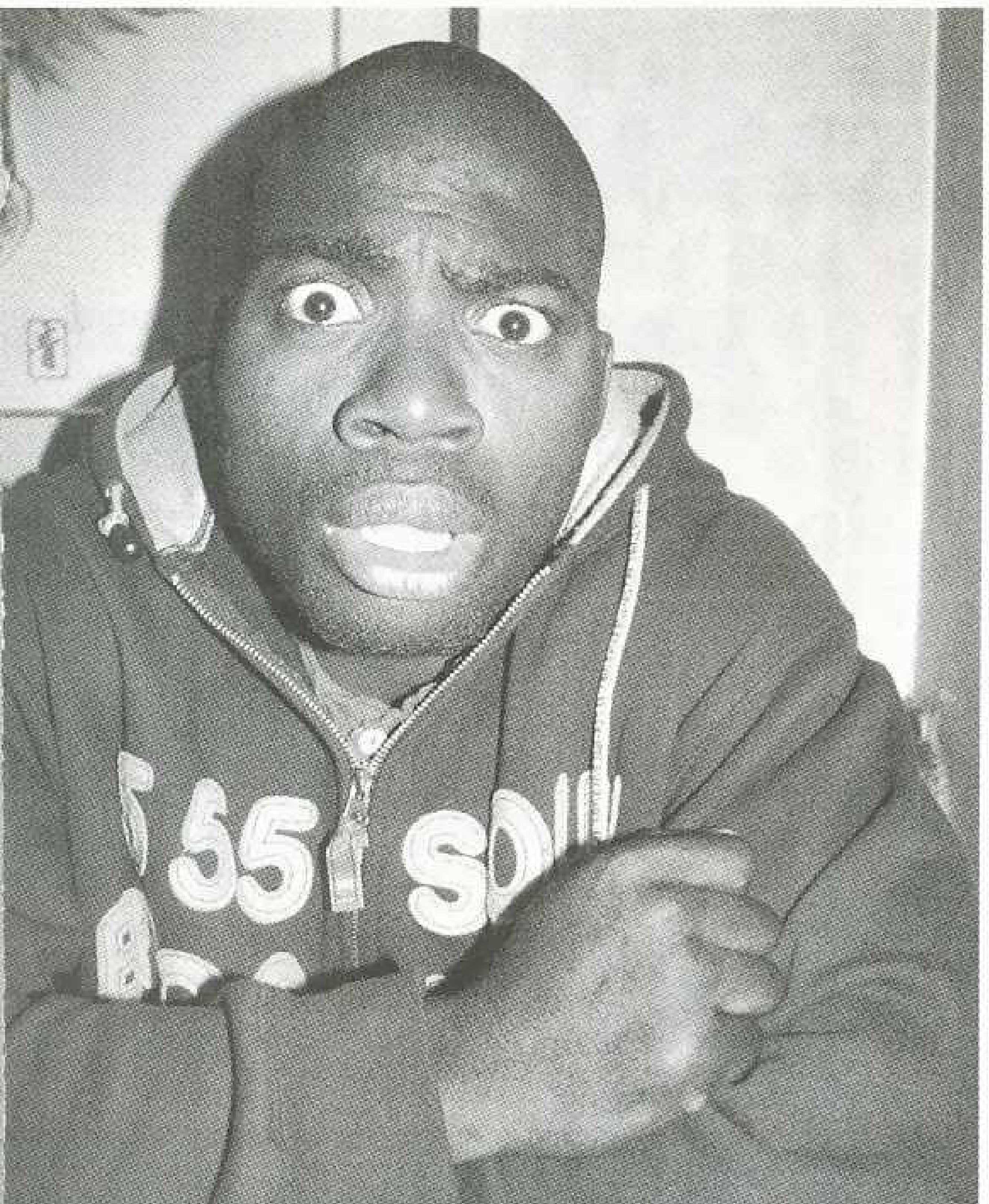
が通っているグラバカの菊田さんも、凄くテクニックのある選手なんですけどね。
ボビー　ないよ（キッパリ）。

ボビー　全然ない。試合も何も覚えてない。
――やっぱり、初めての試合で緊張してた



小さいころよくシマウマに轢かれた。家族の中で生き残りなの、俺

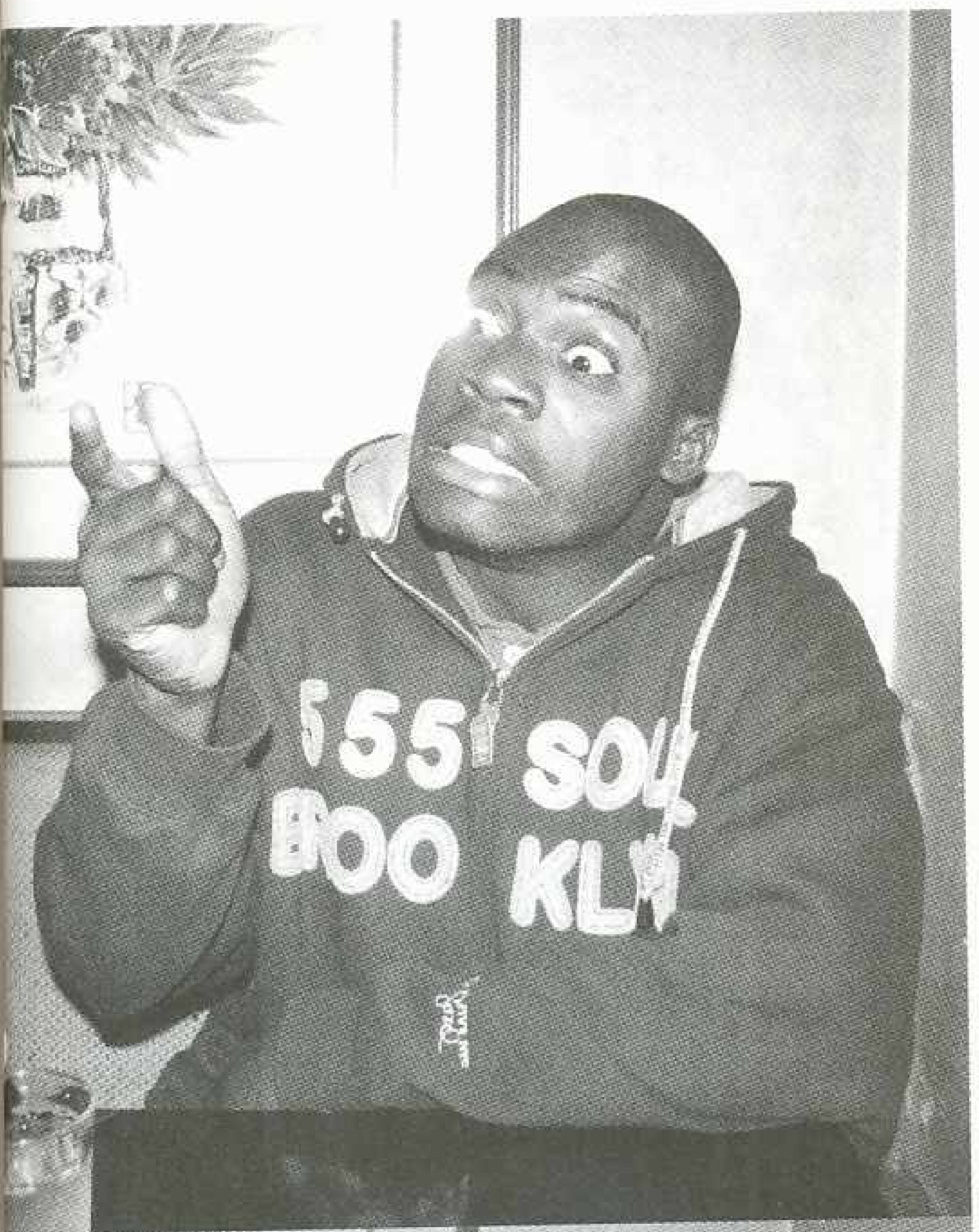
んでしょうね？
ボビー　緊張したし、試合の途中で死んだおばあちゃんが見えました。
――えっ、試合中に死んだおばあちゃんが見えたんですか？
ボビー　それ見て「オレも死んじまうかな」って、途中で思われました。
――思われましたか（笑）。いつ、おばあちゃんが現れたんですか？
ボビー　ホイスにフロント・チョークかけられそうになった時に死んじゃったおばあちゃんに呼ばれたの。もう大変だった。
――それは大変ですよ！
ボビー　「絶対行かないぜ」って思って。
――まだおばあちゃんのところに行くには早いですからね（笑）。それで、試合後のリング上でホイスに向かって「この借りは働いて返すからな！」って言ってましたけど、あれはどういう意味なんですか？
ボビー　オレ言ってないよ。
――いや、記憶にないかもしれないですけど、たしかに言ってましたよ。
ボビー　そんなバカのこと言えないよ。
――テレビにもちゃんと映ってましたよ。
ボビー　ホント？　TV観てねえからさ。怖くて観れない。それにオレ、血ィ出すのは初めてだったから。
――相手を流血させたのは初めてだったんですね。でも、昔はストリートファイトをガンガンやってたらしいじゃないですか？
ボビー　だいたい、やられてました（笑）。
――そうだったんですか!?　ボビーさんより強い人がいっぱいいたってことですね。
ボビー　でも絶対ケンカは逃げたことない。やられるとしても、掛かって来いって。
――負けてばっかりだったけど、気持ち的には常に「掛かって来い！」と？
ボビー　いや、負けたことない。
――どっちなんだ!?（笑）。勝ったか負けたかは定かじゃないけど、とにかくケンカは数え切れないぐらいやってたんですね。
ボビー　そそそ。ケンカは強いからやってるんじゃないから。でも、アフリカの男は何でもできるよって噂をしてもらいたい。
――わ、わかりました（笑）。あちこちに、その噂を流しておきます。
ボビー　頑張れば何でもなれるって。お母さんがオレに言った通り、やればできる男。
――お笑いも格闘技も、何でもできる男になりたいんですね？
ボビー　オマエ、いいこと言ったな！
――ありがとうございます（笑）。
ボビー　今度からオレもねえ、頑張ってちゃんと趣味を持つの。
――どんな趣味を持ってるんですか？
ボビー　ハンカチ落とし。
――ハンカチ落としが趣味なんですか？
ボビー　こうやって手の中に入れたハンカチが黄色なのに黒になったり……。
――それはハンカチ落としじゃなくて、マジックですね（笑）。
ボビー　（真顔で）そうなの？　それも頑張れば何でもできるという証拠になる。
――ちょっと、話が逸れてきたんで、さっきのケンカの話に戻ります。アフリカにいた時は相手を流血させるまで殴ったりはしなかったということですね？
ボビー　そそ。血ィ流せば、お父さん怒るから。お父さんが「血ィ流さないようにケンカしてこい」って言われる時もある。
――ホイスのお兄さんのヒクソン・グレイシーは400戦以上無敗ってことなんですけど、ボビーさんは何回ぐらいストリートファイトを経験してるんですか？
ボビー　数え切れないけど……でも2回ぐらいはあったかな？
――なんだ、たったの2回ですか？（笑）。
ボビー　アッ、3回あった。
――たいして変わらないですよ。数え切れないほどやってるっていうのは噂ですか？
ボビー　ああ、それはウソ。
――もういいです！（笑）。聞いたところによると、ボビーさんは小さい頃、シマウマに轢かれたことがあるんですよね？
ボビー　よく轢かれました。
――よ、よく轢かれてたんですか!?
ボビー　家族の中で生き残りなの、俺。
――は!?　もしかして家族はシマウマに轢かれて死んじゃったんですか？
ボビー　……という噂もある（笑）。
――（無視して）ホイス戦の途中に出てきた、おばあちゃんもシマウマに轢かれて亡くなったんですか？
ボビー　そそそ。シマウマのお陰です。
――どんなお陰なんですか!?（笑）。ちなみに両親はお元気なんですか？
ボビー　心配すんな。元気に生きてっから。
――それは良かったです。シマウマ以外には、どんな動物がいたんですか？
ボビー　シマウマ以外では、羊を取られたりした時は、怒り返して、おじいさんが羊になったりもしました。
――は!?　おじいさんが羊になった？　もう意味がさっぱりわかりません！
ボビー　そうなの？　おじいさんが羊になって帰ってきた。オレもビックリしたよ！
――いまのは本当なんですか？
ボビー　……という噂もあります。
――またかい！　でも、ボビーさんは何で日本に来ることになったんですか？
ボビー　オレは目標があった。それは小銭

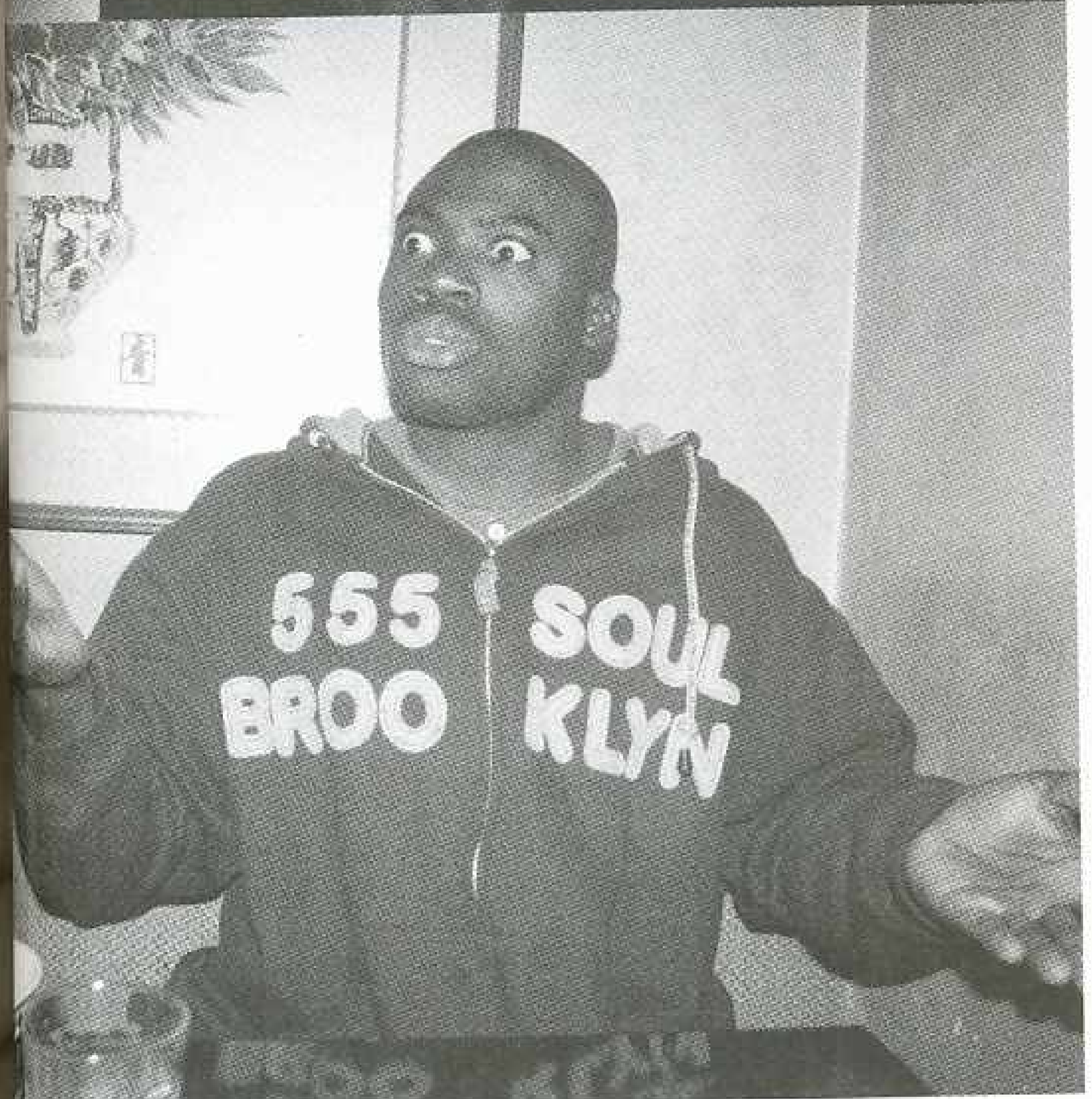




試合翌日、都内某所で再会したボビーとホイス。「ゆうべの“ゆで”十字が効いて腕がまだ痛い」というボビーに対して、ホイスはカットした眉間の傷を指し「鏡を見る度にお前を一生思い出すからな」と笑顔で語った。再戦が見たいぞ！

を稼ぎに来た。
――小銭を稼ぎに来たんですか（笑）。でも、何で日本だったんですか？
ボビー　たまたま。「オマエはいつもダメっ子だから、違う国に行って勉強してこい」って言われて、それで「絶対やってみせてやるよ」って言って来た。それで日本にタ・カタカ・テデ・イカイ……。
――〝闘いたい〟ですか？
ボビー　そうそうそう、それ！
――日本に闘いに来たんですね。どうですか、小銭は稼げてますか？
ボビー　まだみたい。電気も止まるわ、銭湯も入れてくれないわ、大変ですよ（笑）。
――もしかして、風呂なしのアパートに住んでるんですか？
ボビー　もちろん！　高いよぉ、3万2千円ピッタリ。
――何がピッタリなんだ!?（笑）。でも、それじゃボクとあまり変わらないですね。
ボビー　オマエも苦労してんな。
――ボクも頑張って小銭を稼ぎます（笑）。
ボビー　そうか。オレはこういうナイショ話はオマエみたいな生き物には教えないんだけどな。
――あ、ありがとうございます（笑）。
ボビー　でもね、オレのお母さんが言ったとおりに「やればできる」っていうことを信じてるの。いまはあまりできないけど、





必ず見してやるよ。
――なんだかわかんないけど、必ず見せてください！　最近おかあさんに会ったのはいつぐらいなんですか？
ボビー　最近会ってねえけど、日本来てから一回帰ったり、生き返ったりしてるから。
――生き返ってはいないと思いますけど。
ボビー　もう日本に生き返って5年。
――一回、国に帰って、また日本に戻って来てからは5年間帰ってないんですね。
ボビー　そうそうそう。オマエ伸びるよ。よく知ってんじゃん！（笑）。
――ありがとうございます（笑）。ホームシックにはかかりませんか？
ボビー　ああ、ホームシック？　よくあります。でも小銭稼ぎはまだだから、小銭貯まるまでは、頑張って生き返ります。
――頑張って生き返ってください（笑）。で、また格闘技の話に戻りますが、いまはグラバカを中心に練習してるんですよね。
ボビー　あと古賀塾も行ってます。
――古賀稔彦さんのところですね。
ボビー　そそ。応援してくれて、ありがとうと思ってるから、その借りを働いて返さなきゃいけないからゴロウしてます。
――ゴロウ？　苦労ってことですかね？
ボビー　わかってんじゃん！
――慣れるまでゴロウしましたけど（笑）。最近、ボビーさんはグラバカの山崎選手のセコンドで修斗に行ったり、菊田さんの試合を観にパンクラスに行ったりしてますけど、人の試合を見てると自分も闘いたくなったりしませんか？
ボビー　あああ、熱くなる。もう1回リングに上がってボロボロにされたい！
――ボロボロにされちゃダメですよ（笑）。
ボビー　ボ、ボロボロに……されたい？
――だから、されちゃダメですよ！（笑）。
ボビー　じゃあ、したい。したいです。
――それならオッケーです。菊田さんは前から「ホイスとやりたい」って言ってたんですけど、なかなか実現しなくて、「ボビーさんが羨ましい」ってボヤいてましたよ。
ボビー　それはしょうがねえな。でも頑張ればできるんじゃないかなあ。菊田さんもホイス選手も結構トップクラスなんで、面白い試合になれるんじゃねえか。もう日本が待ってる見たい試合だと思います。
――日本のファンが待っている試合だと？
ボビー　そそそ。オレも結構見てみたい。
――ホイスさん以外に闘ってみたい相手っています？
ボビー　いま？　ホントに誰も怖いものないです。どんな相手でも、ＪＵＳＴ　ＢＲＩＮＧ　ＩＴ！　掛かって来い！
――おっ、ロックですね。
ボビー　もうリングに上がったら何も覚えてないし、痛みも感じないし。だからどんな相手でもタイリュウできる？
――タイリュウ？　対応ですかね？
ボビー　そそそ。対応できると思ってます。
――どんな相手でも対応できるっていう自信があるんですか？
ボビー　さっぱり自信ついてきましたね。
――さっぱり自信がつきましたか（笑）。いま一番得意な技は何ですか？
ボビー　え？　それ言ってどうする。バレちゃうじゃん！

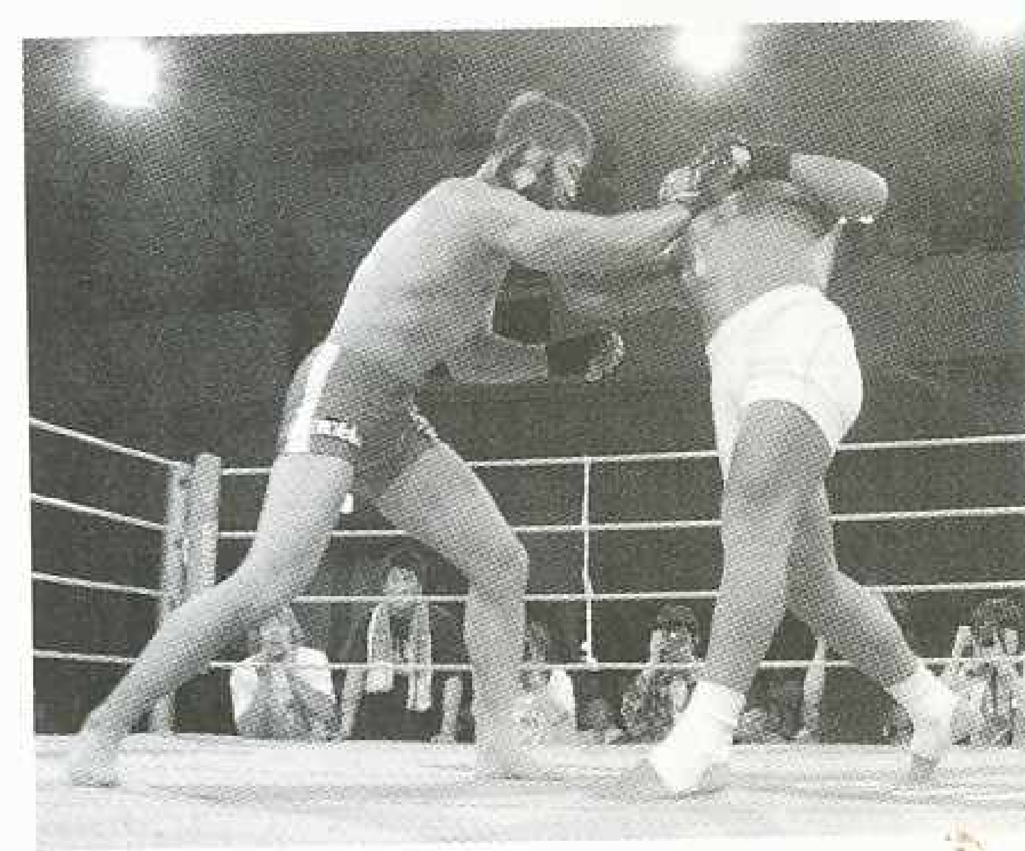
4・23パンクラス
後楽園大会
digest



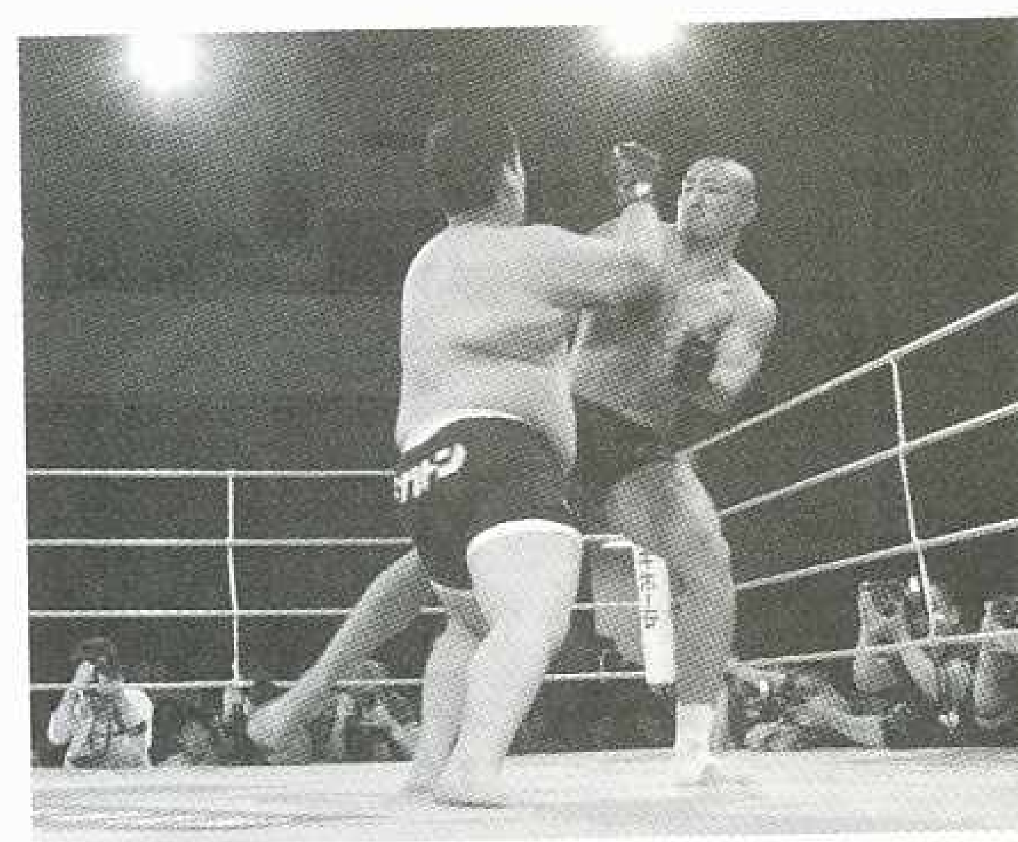
昨年11月の近藤戦以来5ヶ月ぶりにパンクラスマットに帰ってきた菊田早苗。内容次第では引退も示唆するなど並々ならぬ決意で試合に臨んだ菊田だったが、対戦相手のロッケルのディフェンスに阻まれ、またしても一本勝ちは出来ず



試合後、菊田は「すんません、キレイに勝てなくて。また頑張ります」と現役続行宣言。そこへボビーが駆けつけ菊田に花束を手渡した。控室で菊田は「ホイスとやったボビーがうらやましいです。ボクにボビーの敵討ちさせてください」



これまでの地味なイメージを一新、金髪に変身、さらにレースクイーン風の女性2人にエスコートされド派手な入場をキメた竹内出が國奥麒樹真と対戦。序盤に國奥の右ストレートを喰らうも、その後は竹内が終始主導権を握り判定勝ち



アメリカ修行から帰国し久々の日本マット登場となった謙吾がMEGATONの保坂忠広と対戦。パンクラス2戦目の保坂相手に修行の成果を発揮するかと思われたが、謙吾は保坂の巨体を持て余し、目尻をカットさせられドローという結果に

とおりに「やればできる」っていうことを信じてるの。いまはあまりできないけど、

ちゃうじゃん！

まずは勝つこと！　それが一番。あとは観に来た人をカノサミシタイ

――そうですね。内緒にしておきましょう。

ボビー　聞かねえのかよ!?

――じゃあ、得意技は何なんですか？

ボビー　一番うまいのは"タマ握り"。

――は？　それ反則じゃないですか!?

ボビー　（真顔で）そうなの？　この前グラバカでやったら、すぐタップされたよ。

――"タマ握り"は誰にやったんですか？

ボビー　新しい生徒（笑）。

――試合でやっちゃダメですよ！（笑）。

ボビー　（またもや真顔で）そうなの？　じゃあ、"腕すひだ逆卍"でいくよ。

――微妙に違いますけど、腕ひしぎ逆十字固めのことですね？

ボビー　そうそうそう。よくわかったな？

――だいぶ慣れてきました（笑）。腕十字も得意技の1つなんですね。

ボビー　そそそ。腕すぎだ逆十字。

――また、違ってきてますよ（笑）。

ボビー　あとチョークスリーパー。でもだいたい一番大切なのは掛けられないことなので、ディフェンスは確保できてると思います。だからどんな相手でも対応できるように……必死に呪ってます。

――呪っちゃダメですよ！（笑）。

ボビー　違うの？　どんな相手でも対応できるように、のの……祈ってます。

――それもどうかと思いますけど、まあ呪うよりはいいと思います。今度、試合が組まれたら、どんな試合をしたいですか？

ボビー　まずは勝つこと！　それが一番。あとは観に来た人をカノサミシタイ。

――観に来た人を楽しませたいんですね？

ボビー　そそそ。ただ試合やっても何もならないから、できるだけ楽しませて、いい試合もして勝てるようにすると思ってます。多分、秋あたりにまた試合すると思いますので、観に来た人をカノサミシタイ。

――デビュー2戦目で観客のことを考えられるなんて、さすが芸人ですね。

ボビー　たいしたことねえよ！

――たいしたことありますよ。ホイス戦後も週6ペースで練習してるみたいですが、自分でも相当手応えを感じてるんですね。

ボビー　いまのところは「オマエ死ね」って言われたら頑張るよ。オレが持ってる100%の弱いところを見せてやりたい。

――"弱いところ"じゃなくて、100%の"強いところ"を見せたいんですよね？

ボビー　そそそ。勝てるように。なぜかっちゅうと、ホイスの試合終わって凄く悔しかった。一週間忘れなくて、眠れなくて。

――一週間も眠れなかったんですか？

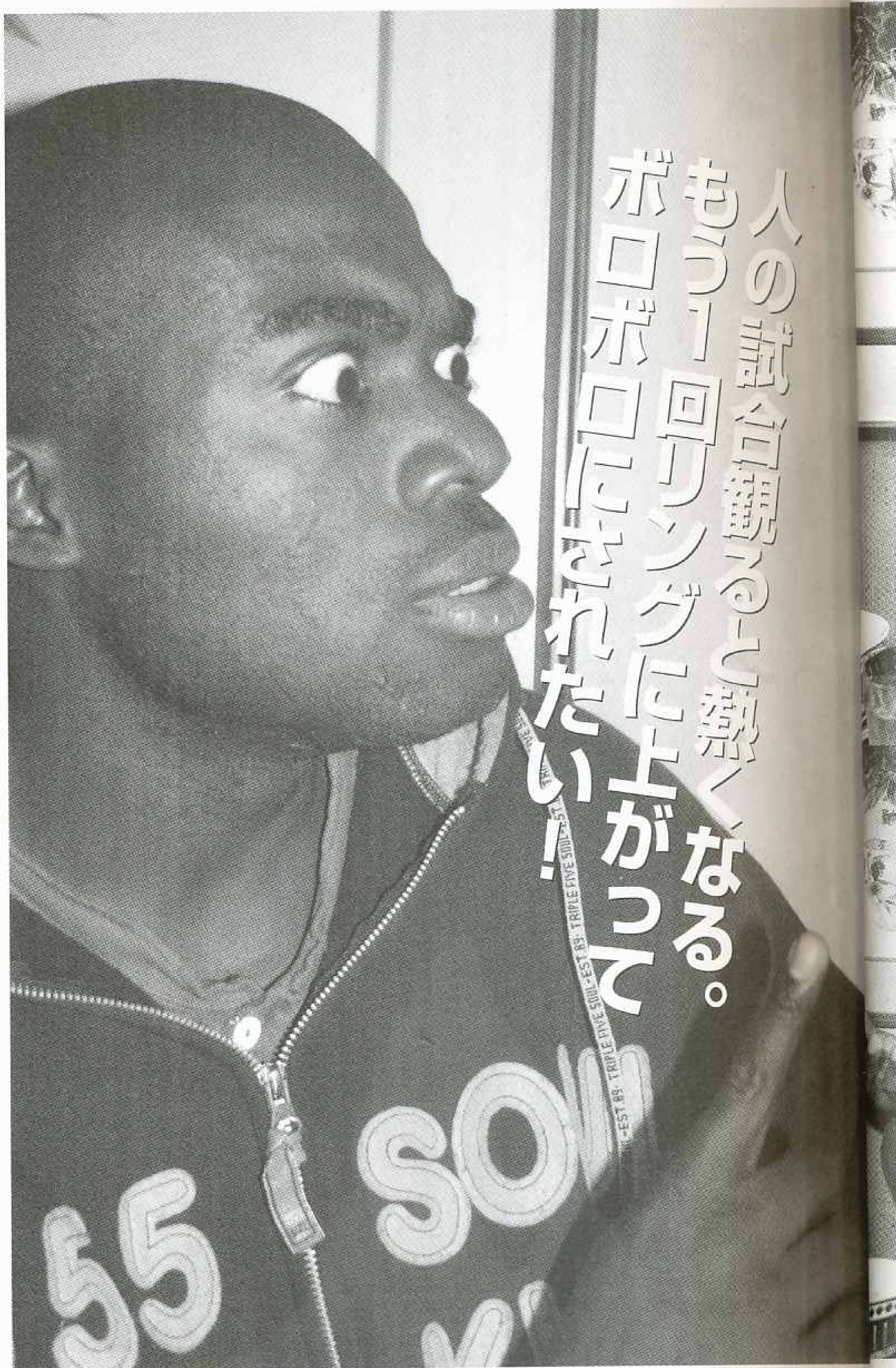
ボビー　アフリカの男たち、結構オレのこと応援してくれる人いっぱいいたから。「オマエはアフリカの恥だ。なぜタップしたんだ？」って言われて。

――そんなことまで言われたら、次はタップできないですよね。

ボビー　そそ。カカカ、勝たなきゃ認めてくれない。だから次の試合、勝って見せてやるように頑張りたいと思います。どんなことがあっても、男はタップするもんじゃない……っていう噂もある（笑）。

――どんな噂だ!?（笑）。ボビーさんの将来的な目標を聞かせてくれませんか？

ボビー　できれば早く国に帰して欲しい！



人の試合観ると熱くなる。もう1回リングに上がってボロボロにされたい！

――どういうことですか!?　拉致されてるわけじゃないんだから（笑）。

ボビー　あ、そうか（笑）。オレは将来とか年齢とか考えないタイプだから、また決まったら教えます。

――ゼヒ教えてくださいね。

ボビー　でも一番気になるのは、日本で頑張るのは半端じゃねえってこと。

――そうでしょうねぇ。

ボビー　自分の持ってること出さなきゃ、男として認められないから。今度はみんなに喜ばれる試合をできるように頑張りもす！　アフリカの代表として、アフリカのいいところを見せてあげたいなと思って。

――……噂じゃないですよね？（笑）。

ボビー　いまのは噂じゃなくて……適当に言っただけです（笑）。

――て、適当かよ!?（笑）。もういいです！　とにかく、秋と大晦日に予定されてる試合で頑張ってください！

ボビー　ありがとうございます。本当にみんなを流せるような試合をします！

――"泣かせる"試合ですね？

ボビー　そそそ。泣かせるように、感動できるように試合をやりたいと思ってます。オレ、最後にいいこと言ったな！

――はい、そうですね（笑）。

【5月7日／都内某所にて収録】



ぼびー・おろごん■ナイジェリア出身。TBSの人気番組『さんまのからくりTV』で日本在住の外国人がどれだけ日本語を正しく話せるかを街頭チェックしたところ、ボケ回答連発で一気に人気者に。現在は『からくりTV』内のコーナー「セインのファニエスト外語学院」に出演中。写真内のポスターはボビーとセイン・カミュら4人で結成した「The Students」のシングル『ハトマメ』。作詞・作曲、槇原敬之で絶賛発売中！　183cm、93kg



今年の夏はいか臭い!

西村修主演、感動の笑撃作!『いかレスラー』の全貌公開!!

“おバカ”映画の巨匠

河崎実監督



Profile かわさき・みのる　1958年8月15日生まれ。大学在学中より8ミリ映画を製作。1986年に有限会社リバートップを設立。以後テレビ・ビデオ映画の製作を中心にあらゆるジャンルで活躍。インタビュー中にも出てくる河崎監督の著書「タイガーマスクに土下座しろ！」（風塵社）は『紙プロ』読者なら必読！　現在は新作『まぼろしパンティ対へんちんポコイダー』を製作中。

お待たせしました！　西村修主演、感動の超笑撃作『いかレスラー』が遂に完成！　主題歌まで熱唱の西村だけではなく、AKIRAや高山善廣、さらにはターザン山本や吉田豪まで出演し、公開前から話題騒然、大ヒット間違いなしの『いかレスラー』について“おバカ”映画の巨匠・河崎実監督にたっぷりと話をうかがってきました。『えびボクサー』を遥かに上回るブッ飛んだストーリーにクラクラすること間違いなし。『紙プロ』読者なら今年の夏は『いかレスラー』の魅力にイカされろ!!

聞き手／松澤チョロ　designed by Tani-Yan (Two three)

——公開前から話題沸騰の『いかレスラー』が遂に完成したみたいですね。

河崎 ハッキリ言って、我ながら、いい出来だと思いますね（笑）。

——主演が西村さんで、他にもAKIRAさんから高山さん、さらにターザン山本から吉田豪まで出てるみたいですからね（笑）。

河崎 キャスティングも素晴らしいでしょ？（笑）。

——抜群だと思います（笑）。

河崎 キャスティングに関しては、話が古くなっちゃうんですけどね、昔、ライガーに『世にも奇妙な物語』で『覆面』っていう話の主演をやってもらって、そのあと『タイガーマスクに土下座しろ！』っていう本にも登場してもらったりして凄い盛り上がってたんですよ。

——はいはい、ありましたね。

河崎 でね、やっぱり、俺のプロレスに関する基本は全部『タイガーマスク』なんだよね。格闘技ワールドっていうかね、本人もいて、アニメもあって漫画もあったっていう。さっき言った本を出した時は覆面というかタイガーマスクに対するオマージュみたいな感じで。その本を出した時にね、西村選手はまだ新日に入ったばっかで、新日の道場に行ったらライガーと一緒に遊んでたんですよ。

——道場で遊んでましたか（笑）。

河崎 そうそう。マサ斉藤とかもいたんだけどね。ライガーが、いまの天山とかをイジメてるぐらいの時だね（笑）。

——凄かったらしいですからね（笑）。その頃の西村さんって、かなりガリガリの時ですよね。

河崎 ホント、ガリガリだったよね。上背はあったんだけど、これで大丈夫かなって思って見てて。話したら、なかなかいいヤツでね。で、俺の作った『電エース』っていう俺が主演のヒーローものがあるんですよ。それをライガーにあげたら西村が見ててね、その後、両国国技館で会って、そしたら「電エース見ましたよ。面白かったです！」とか言ってくれて（笑）。それを覚えてたんですよ。で、それから何年かして例の病気になったじゃないですか。

——ガンになっちゃいましたからね。

河崎 凄いことになっちゃって。その時は、さすがに見守ってたっていうか、外野で見てただけなんだけども。たまたま今回映画の話になってね、『えびボクサー』ってあったじゃないですか？

——ヒットしましたよね。

河崎 叶井俊太郎が買ってきて、『えびボクサー』ってタイトルにして大当たりしたと。で、彼に「えびが当たったんだったら、いかもありじゃないか」と。「ボクサーよりレスラーの方がいいじゃない。いかレスラーとかどうですか？」言ったら「いいですね！ やりましょう！」って（笑）。

——また話が早いですね（笑）。

河崎 トントン拍子で決まってね。なんで、いかにしたかっていうとね、「やっぱえびの次はいかでしょ」っていう割と普通の発想で（笑）。それで、いかの場合、いろいろ勉強と研究したんですけど、要するに格闘技はね、K-1とかは打撃系じゃないですか？ で、桜庭とかが言ってることを読んだりしたら、打撃をかわすには脱力しかないんだ、と。上半身を脱力させて、まあスウェーバックっていう感じもあるんだけど。それをやるには、いかだろうと。

——確かに、いかは脱力系ですよね（笑）。

河崎 軟体動物だしね。要するに、ゆるゆるの感覚でやるのが人生の極意なんだみたいなことがあって。西村も身体柔らかいし、それに病気になって、いかになって帰って来るって設定なんでね（笑）。もうね、ピーンと来たんですよ！

——これは西村しかいないと？

河崎 そうそう。最初は桜庭選手っていうのも構想にあったんだけど。

——桜庭さんも、ある意味、脱力系ですからね（笑）。

河崎 実は桜庭選手とルートもあって、本人も「出てもいいよ」って言ってくれてたわけですよ。でも、いろいろと難しい事情があってね（笑）。

——大人の事情ですね（笑）。

河崎 そうそう。アッハッハッハッ！ で、結局ね、西村主演で行こうってなったんだけど、やっぱりヴァリュー的にね。もちろん、無我はプロレス界では浸透してるんだけど、もの凄く深く。ただ、一般的にはやっぱ、まだまだじゃないですか。だから、なんとかビッグネームが欲しいってことで、最初は同じ新日ってことで蝶野さんの所に行ったんですよね。

——反応はどうでした？

河崎 俺が行ったわけじゃないんだけど、蝶野さんは爆笑してたみたいで（笑）。

——蝶野さんがたこレスラーやってくれたら面白いですよね（笑）。

河崎 面白いけどね。でも蝶野さんは「俺は現場の最高責任者だし、イメージもあるんだから」って（笑）。でもやっぱり、いま考えると西村がベストだったですよ。自分の人生が今回のストーリーと同じような感じだからね。一回、不治の病になって、世界各地に行って、要するに精神力と食事療法で帰ってきたってことじゃないですか？ これはもう本人の心の魂の叫びなんでね。それで、映画ではいかになって帰って来るっていう（笑）。

——現実の西村さんとリンクする部分も大きいわけですね。

河崎 でも、こっちは映画だからね。たとえば巨人の星とかタイガーマスクは、俺は熟知してるから。それが単に復活して帰ってくるんだっていうんだったら面白くないんですよ、やっぱり。よくあるスポ根になっちゃうから。

——ですよね。

河崎 その点、俺はウルトラマンと巨人の星を同等に熟知してると自負する男なんで（笑）、それを合体させたわけですよ！

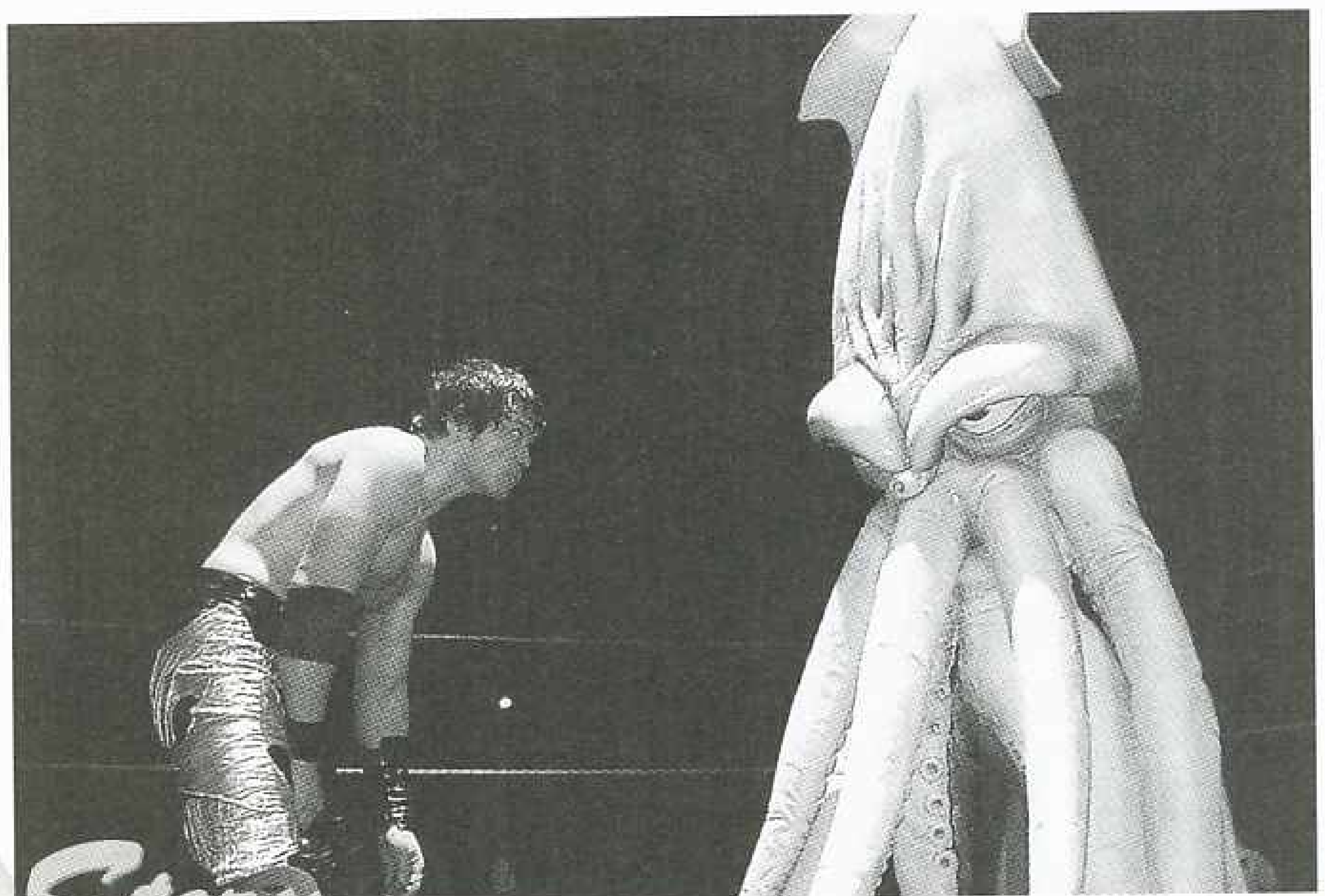
——素晴らしいコラボですね（笑）。

河崎 完璧でしょ（笑）。あとは、やっぱりAKIRAが凄いいい演技してね。ここ最近は俳優中心にやってたし、たこレスラーの方は演技も要求されるからね。

——いかレスラーの方はあまり演技はないみたいですね。

河崎 西村は主演なんだけど、ほとんど、いかの姿でいるので、たまに人間に戻ったりするわけです

彼の人生がストーリーに近いし、いかレスラーは西村がベストでした



Story 西村が演じる天才プロレスラー岩田寛一は不治の病に冒されたことを期に現役を引退、恋人・美弥子の前からも突然姿を消す。時は流れ、IMGP王座決定戦に勝利した田口浩二の前に、いかの格好をした怪物が現れる。田口を倒した怪物は“いかレスラー”として以後、マット界を席巻するが、その正体はパキスタンでの厳しい修行の末、変身した岩田だった。やがて、宿敵田口との決戦の日、リングに上がった田口の姿は想像を絶する何者かに変わっていた……。
★夏休み、シネセゾン渋谷、池袋テアトルダイヤにて“感動と笑撃”のレイト・ロードショー!!

よ。そっからは、まあ本人の世界なんだけど（笑）。

―ほとんど、いか（笑）。

河崎　AKIRAの方は、たこでね、いかにやられちゃって苦悩したりする芝居があるわけですよ。なので、最初から計算尽くでキャスティングしたんだけど。

―AKIRAさんは立て続けに中島らもさんの『お父さんのバックドロップ』にも出演が決まってるみたいですからね。

河崎　そうそう。あれも同時に撮ってましたからね。ここ最近、格闘技映画がいろいろ出てきて嬉しいですね。

―多いですよね。いまだ公開未定の一軒家プロレスとか（笑）。

河崎　ハッハッハッハッ！　あの映画のことも、いろいろ知ってるんだけどね（笑）。でも、俺の場合は巨人の星とかタイガーマスクのベースがあるんで、『いかレスラー』はホント、マジな作品ですからね。ところがよく考えるとどうかしてるよ！って感じで（笑）。タイガーマスクも巨人の星もそうですよね。

―どうかしてるよ！ってところは多いですからね（笑）。

河崎　強引な展開の連続でね。タイガーマスクに出てくるレスラーだって爆笑ものですからね（笑）。

―ミスター・NOとか、よく考えれば凄いですからね（笑）。

河崎　ミスター・NOもそうだし、ミラクル3とかもそうだけど、とにかくメッチャクチャなんですよね。

―実写でやるには、かなり難しいキャラが多いですからね。

河崎　だから、その要素をひっくるめて実写にしてるんですよ。見たらわかりますよ。「あっ、これはここなんだな」とか。

―ちゃんとマニア向けに元ネタがわかるようなシーンがたくさんあるわけですね。

河崎　いや、マニア向けじゃなくて、要するに伝統の梶原ワールドってあるじゃないですか？　強引な展開で納得させるっていうか。グレートゼブラの正体は明らかに馬場さんなのに、みんな気がつかないとかね（笑）。「そんなわけねえだろ！」ってツッコませる前に突っ走っちゃうんですよね。

―勢いが重要なんですね（笑）。

河崎　そうそう、勢いで（笑）。そういう要素がすべて入ってますよ。爆笑しつつ感動させるっていうのが目的なんで。ある意味、プロレスもそういうところがあるじゃないですか？

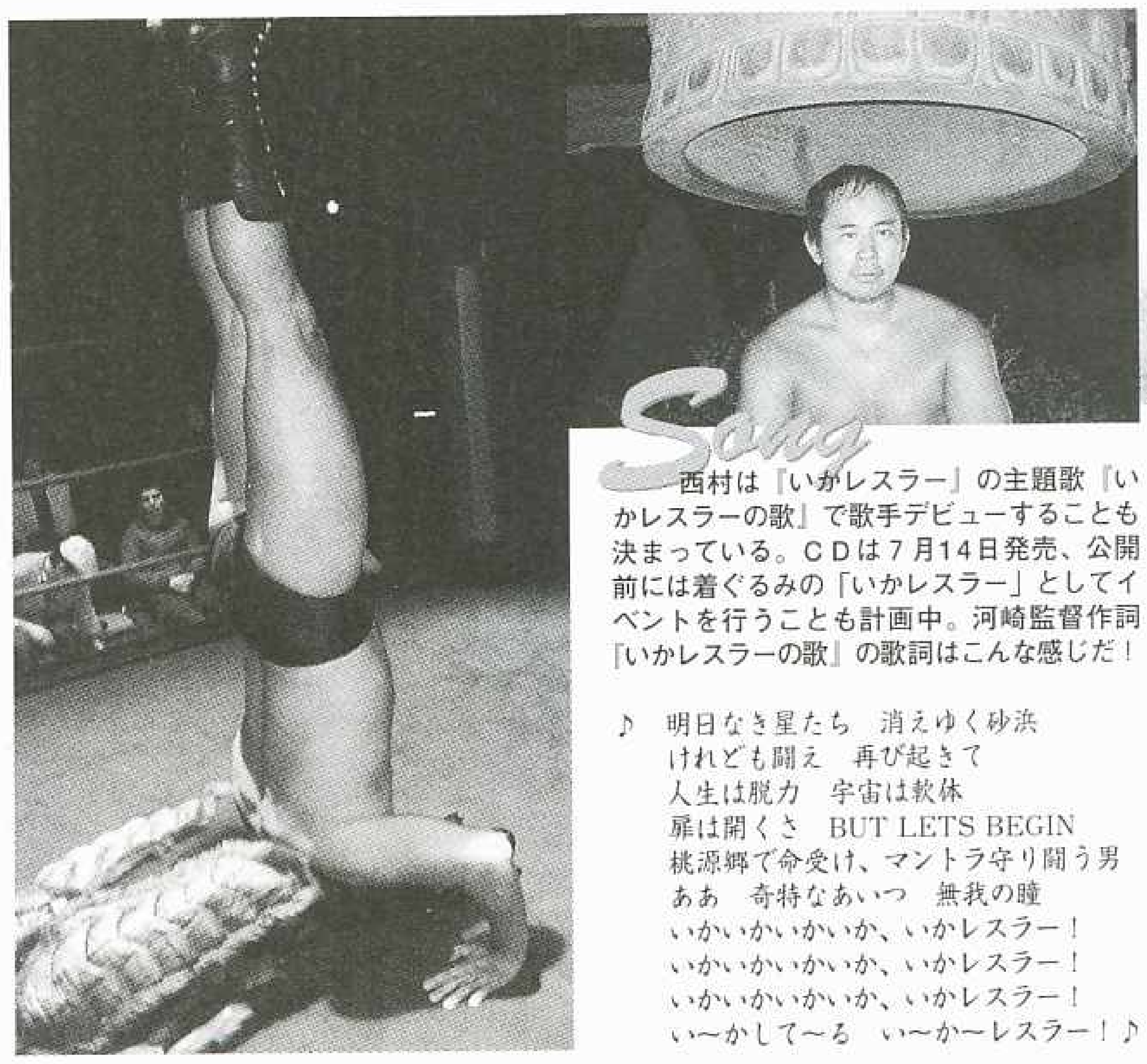
―ですよね（笑）。AKIRAさんも同じ様なことを言ってましたね。今回の撮影はプロレスに相通ずるものがあったと。

河崎　ただ、今回の映画は、いわゆるマニア層だけじゃなくて、やっぱり、女・子供にわかるようなものを作りたかったんだよね。

―それはヒットさせるためには重要ですからね。

河崎　出来てみて、十分、女・子供にも届くと思いますよ。いかとヒロインとの恋の描写もありますからね（笑）。

いかレスラーは俺の勝負作なんで当たってもらわないと困ると！



Song

西村は『いかレスラー』の主題歌『いかレスラーの歌』で歌手デビューすることも決まっている。ＣＤは７月14日発売、公開前には着ぐるみの「いかレスラー」としてイベントを行うことも計画中。河崎監督作詞『いかレスラーの歌』の歌詞はこんな感じだ！

♪　明日なき星たち　消えゆく砂浜
けれども闘え　再び起きて
人生は脱力　宇宙は軟体
扉は開くさ　BUT LETS BEGIN
桃源郷で命受け、マントラ守り闘う男
ああ　奇特なあいつ　無我の瞳
いかいかいかいか、いかレスラー！
いかいかいかいか、いかレスラー！
いかいかいかいか、いかレスラー！
い〜かして〜る　い〜か〜レスラー！♪

―いかとヒロインの恋ですか（笑）。

河崎　ヒロインは石田香奈ちゃんっていうカワイイ新人なんだけど、石田香奈ちゃんは西村の彼女だったわけですよ。そしたら西村が病気になって、で、行方不明になっちゃうわけですよ（笑）。

―もちろん、映画の中での話ですよね（笑）。

河崎　そうそう（笑）。それで彼女は恋人がいなくなって、で、2番手のAKIRAと付き合うわけですよ（笑）。

―一応、確認しますが、それも映画の中の話ですよね（笑）。

河崎　もちろん（笑）。で、AKIRAがチャンピオンになるの。IMGPっていうんだけど（笑）。

―"W"じゃなくて"M"なんですね（笑）。

河崎　もちろん、パロディーなんだけどさ（笑）。そのAKIRAがベルトを獲ったと思ったら、いかがリングに乱入してきてAKIRA演ずるたこレスラーを倒しちゃうわけですよ。

―いかとたこは恋敵でもあるわけですね（笑）。

河崎　そうそう（笑）。だから、普通のドラマとかで、そういう構造あるしね。月9だってそんなドラマがあるでしょ。その主人公がいかになっただけですから（笑）。

―キムタクがいかになったようなもんだと（笑）。

河崎　そうそう（笑）。

―で、今回の映画は実際、動き出してから、いろいろ協力するところが付いて規模が大きくなったみたいですね？

河崎　制作には博報堂からTSUTAYAとかIMAGICAも入ってるし、パート2もあきらかにやりますから。

―あきらかにやりますか（笑）。

河崎　でもね、規模は小さいですよ（笑）。

―あ、そうなんですか（笑）。

河崎　基本的に最少予算で最大のヒットを狙うんで。どうしても映画とかって平気で3億円とか5億円とか、普通に作るとかかるんで。

―それこそ、がなり社長の一軒家プロレスは金だけはかなり掛けましたからね（笑）。

河崎　あれは税金対策だもん（笑）。

―そうだったんですか!?（笑）。

河崎　もちろん、がなり社長も良く知ってるから言うんだけどね（笑）。一緒にいっぱい作ったしね。全裸シリーズとかね（笑）。

―あ、アダルトビデオを一緒に作ってましたか（笑）。

河崎　でも今回の『いかレスラー』はエロの部分は一切ないから。結構マジもんだからさ。

―ベッドシーンが少しあるぐらいなんですよね（笑）。

河崎　ベッドシーンって言っても気が狂ってますからね、基本的に（笑）。

―気が狂ったベッドシーンですか（笑）。

河崎　イメージの世界なんでね（笑）。基本的には男の魂の闘いですから。ホントに西村選手が素晴らしかったですよ。自身の人生を取り入れた、まさにハマリ役なんでね。それで、最後にね西村が言うんですよ。「俺は一回死んで帰ってきた」と。「また、いかに戻って生きようと思うんだけど、もう一生懸命闘ったんで、いつ死んでも悔いはない」とか言うわけですよ（笑）。

―涙ものですよねぇ。

河崎　ホントもう、みんな半泣きなっちゃってね。だから……素晴らしいんですよ！（笑）。

―とにかく素晴らしいと?（笑）。

河崎　もちろん、芝居はね、ある

バカバカしいことを真剣にやったんで疲れた。その分、今年の夏は、いかブームにしてみせます！

意味、素人だから棒読みに近いんだけど。やっぱり、自分の人生をそのまま投影してるし。間違いなく感動するよ！　それに、ある意味、今回の映画は運命的なものを感じるんだけどね。

――それは、どういった意味でですか？

河崎　映画って、やっぱりキャスティングなんですよ。要するに渡り鳥だったら小林旭とかさ。若大将だったら加山雄三とかさ。無責任男は植木等とかさ。その人達がやらなかったら絶対当たらなかったわけですよ。当たり役ってあるんですよ。この時、たまたまコイツがいてこうなったみたいな。

――西村さんは当たり役でしたか？

河崎　うん。やっぱり監督1人がいてもどうにもならないんで、たまたま流れというか気が来たんでね、こうなったんじゃないかなって思ってるんですよね。だから、非常にいい流れですよ。これ以上内容は言えないんだけど、最後はハッピーエンドだからね。まあ、俺にとって、いかレスラーは俺の勝負作なんで、かなり、当たってもらわないと困ると！

――困りますよね。西村さんだけじゃなく、ターザン山本さんから吉田豪まで出演してるみたいなんで、ウチの読者も見てくれると思いますよ（笑）。

河崎　ターザンさんはね、前のライガーの時もね出たんですよ、解説者で。まあ、今回は吉田豪ちゃんに連れられて、意味もわからなく来てましたね（笑）。

――台本も読まずに行ったみたいですね。2日目はデートと重なって、すっぽかしたらしいですけど。

河崎　しょうがないね（笑）。まあでも面白かったですよ。吉田豪ちゃんもね、付き合い長いんだけど、解説者で出ましたからね。

――初日は解説者の横にいる記者の役だったみたいですけど（笑）。

河崎　結局、いかvsたこ戦より、いかvsしゃこ戦の方がグレード高い設定なんだけど、なぜか、いかvsしゃこ戦の解説席には吉田豪しかいないという（笑）。

――その頃、解説者役のターザンはデート中だったんですね（笑）。

河崎　そうみたいだね（笑）。たこ戦には電撃の南部さんとターザンさんがいるのにさ、もっとデカい試合は吉田豪が1人で解説という（笑）。まあ、それはそれでいいんだよ、面白ければ。

――面白ければ何をやってもいいわけですね（笑）。

河崎　ホントね、大変な作品でしたよ。体力的に消耗しましたね。だって、1週間で作っちゃいましたからね（笑）。

――たったの1週間ですか!?

河崎　でも、他の監督もね、みんなそうですよ、基本的に。三池監督だったりもそうだし。

――『ゼブラーマン』も三池監督でしたからね。

河崎　基本的に映画は1ヶ月とかかけてるんだろとか思ってるかもしれないけど、そんなかけるわけないじゃないですか？　2時間ドラマだって2週間で撮ってるからね。30分番組は4日ですよ。

――そんなもんなんですか？

河崎　そういうもんですよ。当たれば、もうちょっとゆるいスケジュールでできるんだけどね（笑）。まあでも、7月後半公開なんだけど、絶対ヒットさせたいんですよ。プロレスファンって、結構、怪獣ファンとダブってる部分あるでしょ？

――ダブってると思いますよ。

河崎　みんなフィギュアとか好きだしね。高山さんもライガーも佐竹もウルトラマンとか大好きじゃないですか？

――そうなんですよね。

河崎　ただ、ホントにプロレスだけ見てる人もいるじゃないですか？　バカにすんなって言う人も多分いると思うけどね（笑）。

――「西村になんてことさせるんだ！」っていう熱いファンもいるでしょうからね（笑）。

河崎　でしょ？　でも、「バカにするな！」っていう人には逆に見てもらいたいよね。そういうバカバカしいとかくだらない中に真実が潜んでるんでね、これはマジで（笑）。とにかく、俺はもう悔いはないって感じだからね！

――大いに期待してます！

河崎　死ぬわけじゃないんだけどさ（笑）。でも、いつ死んでもいいぐらいに一生懸命生きた方がいいということを西村に教えてもらったよ。最後はハッピーエンドだし。まあ、どうハッピーになるかは見ていただくとして（笑）。どうかしてますよ、完全に。

――自分で作っておきながらも、どうかしてると？（笑）。

河崎　女・子供にもウケるって言ったけど、もちろん『紙プロ』見てるような層だったら絶対感動しますから！　まあ闘いとは何か？とかね、そういうのがくだらないことを真剣にやったんで、バカバカしいことを真剣にやったんでホント疲れた。精魂尽き果てましたよ。まあ、その分、今年の夏は、いかブームにしてみせますよ！



特別出演として本人役で登場するのが高山善廣。河崎監督いわく「『巨人の星』に王選手が出てくるみたいなパラレルワールド大好きなんだよ。それがやりたかった」とのこと。ルー大柴はプロレスファン的には、かなり重要な役どころだ



ウェイトレス役で仲谷かおりも出演。他にも白石美帆、テリー伊藤、船越英一郎（本人役）、なべやかん、きくち英一といった豪華な顔ぶれが集結。ちなみに、いかレスラーはメディコム・トイからソフビ人形として発売される予定だ



いかレスラー＆たこレスラーとポーズを決めているのは電撃ネットワークの南部虎弾と解説者役で登場するも2日目の撮影中、デートを楽しんでいたターザン山本。ターザンの代わりに解説席に座ったのは吉田豪。他にもハチミツ二郎をはじめ西口プロレス勢も出演。今から公開が待ちきれない！　いかいか

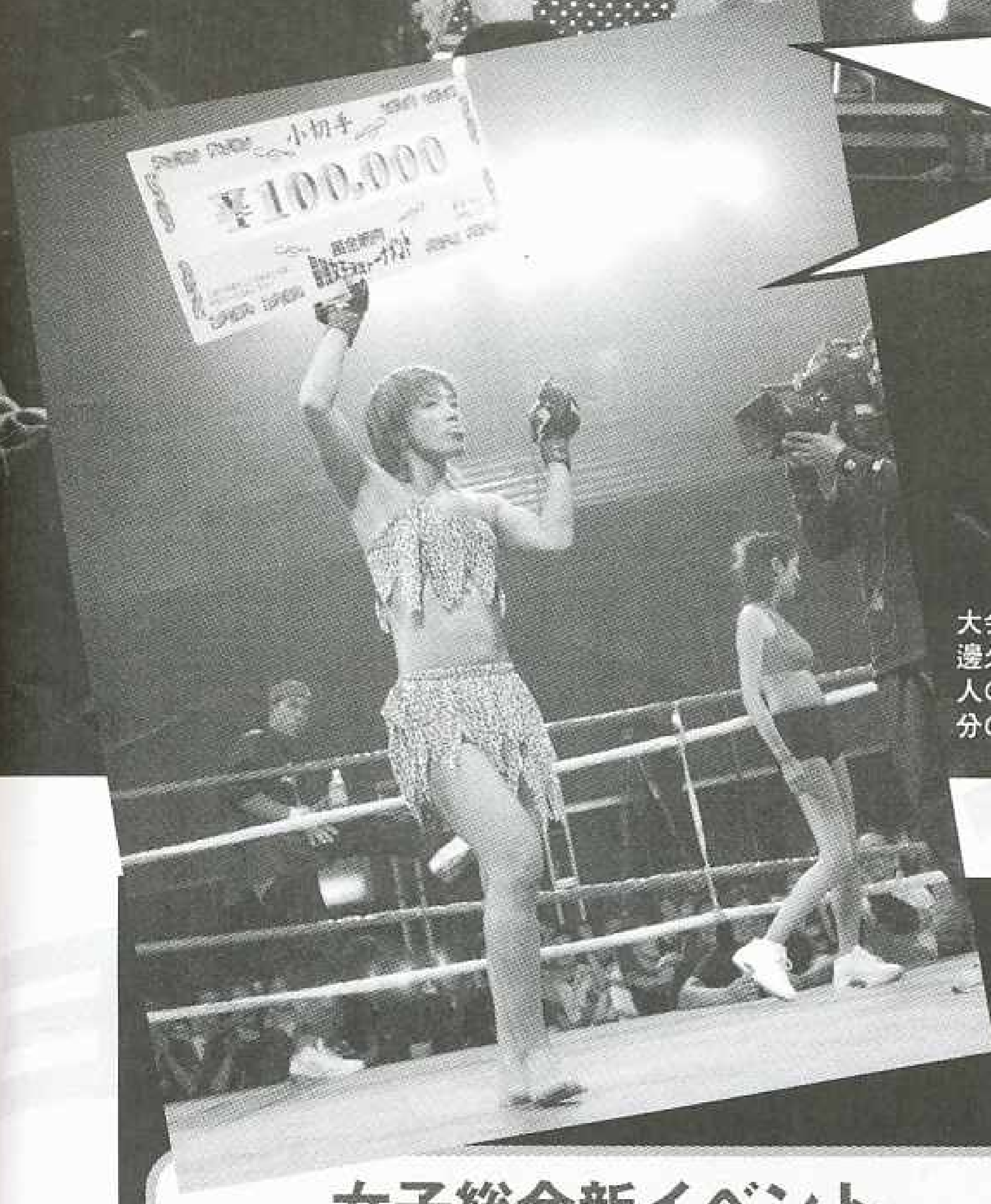
TBS・『黄金筋肉』

女子格闘技が『ゴールデン・マッスル』で
ゴールデンに進出!!

文／橋本宗洋　撮影／丸山剛史



ハプニング続出!!



大会前の会見で全試合ＫＯ宣言をブチ上げた渡邊久江。すでに優勝賞金でタイに行くことも本人の中で決定済み。新コスチュームで気合い十分の渡邊が有言実行で優勝を飾れるか!?



大会前から舌戦を展開した〝映画主演女優〟石川美津穂とアイドル系の羽柴まゆみの一戦。どこまで放送されるかわからないが、2人はリング上はもちろん、リング外でも熱い火花を散らした

このところ『ガールズ・ショック』以外はどうにも下火な感じが否めなかった女子格闘技だが、いきなりブレイクのきざしが訪れた！　格闘家相撲大会『バトルＳＵＭＯ』も開催したＴＢＳの『黄金筋肉』が、今度は女子総合のトーナメントを企画。女子格闘家たちが、ついにゴールデンの電波に乗るわけだ。

出場メンバーは渡邊久江に禅道会の実力派・金子真理、アイドル系の羽柴まゆみ、〝映画主演女優〟として登場の石川美津穂など実力・話題性のバランスが取れた構成。メンバー中実績ナンバー1のはずのジェット・イズミが、なぜかリザーブマッチに出てみたり、ワンマッチには『ガールズ・ショック』で大躍進中のグレイシャア亜紀も出場している。

今回はオンエアの都合上、途中までしか掲載できないのだが、試合はもう熱戦の連続！　普段の興行とは注目度がケタ違いなだけに、選手のモチベーションが異常に高い。渡邊なんてここ1年くらい打撃しかやってないのに、平気で出てますから（しかもルールは寝技時間無制限）。普通は自分の立場だとか負けるリスクも考えて躊躇してもよさそうなもんだが、そんな小さな世界の小さなプライドよりも〝ここで勝てばデカい〟と思える嗅覚が素晴らしいというもの。

大会の演出も〝これがディファ?〟と思うほど豪華なセットとライティング＆スモークで選手を後押し。〝やっぱテレビって凄いわ〟と思わせるものになっていた。ちょっと複雑な気分ではあるが、既存の団体ではあれ以上のメジャー感は出せないだろう。ましてや女子総合の世界は、何かとゴチャゴチャしがちな状況でもあるし……。

そして放送されることはないだろうが、リング上でもバックステージでも事件が発生！　次号では試合結果も含め、大会の一部始終をレポートする予定。いや、ホントに面白い大会だった。女子総合の未来のためにも継続開催を希望！

女子総合新イベント
CROSS SECTION
旗揚げ！



パンクラスｉｓｍ所属のＷＩＮＤＹが一本負け!!

「ＣＯＮＴＥＮＤＥＲＳ」やデモリッション等でお馴染みのＧＣＭコミュニケーションが新たに立ち上げた女子格闘技イベント「ＣＲＯＳＳ ＳＥＣＴＩＯＮ」の旗揚げ戦が4月18日、東京・お台場ＳＤＭで開催された。メインに登場したのは今大会から総合ルールでの試合はパンクラスｉｓｍ所属となったＷＩＮＤＹ智美。対するは大会3日前に虎島尚子の代替選手として出場した吉田正子。寝技無制限とはいえＷＩＮＤＹ有利と思われたこの試合だったが、1Rから吉田がＷＩＮＤＹの打撃を封じグラウンドへ持ち込みペースを握る。そして、2R1分過ぎ、同様の展開から三角腕十字が極まり吉田が大金星をゲット！　波乱のスタートを切った

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

驚天速報！ “涙のカリスマ”入江秀忠、ヒクソン戦断念！

担当の斉野です。年金未払い問題は、世間に疎いボクにでも届いてます。お偉いさんたちが未納だったとは驚きですね。「日本の政治家は腐っとる！」というやり場のない憤りは、情報局が紹介するプロレス&格闘技で解消してください。今月もいきますかーッ！

Close UP!

今月は“キラーロー”土井広之をClose Up!

久々の日本人対決でハッスル、ハッスル!?
前代未聞の現役王者“因縁”対決、土井広之vs後藤龍治決定!!

シュートボクシング（以下SB）4・18後楽園大会で、後藤龍治が突然の挑発！ タイロン・スポーン相手に判定で勝利した後藤は、試合直後にマイクを持ち「SBのエースは何してんねん？」と『K-1 MAX』で結果を出せなかったSB勢を批判。「土井広之、緒形健一、小次郎、オレ。4人おるんやから、『S-cup』予選をやろうやないか」と、日本人予選を唐突に提案した。

大会当日はあきれた表情で「相手にしたくない」と語っていた土井だったが後日「売られたケンカは買う」と対戦を受諾！ 一転して対戦を受けるに至ったその心境は!? 『ハッスル3』横浜大会当日の5月8日、土井を直撃した。

（聞き手&撮影・さささい）

—突然ですが、土井さんはどうですか、ハッスルしてますか？

土井 ハッスルしてますね〜。もう毎日ハッスルですね。

—毎日ですか（笑）。後藤戦が決まったと聞いて非常に驚いたんですけど……。

土井 僕もビックリしましたね。

—自分でも驚いたと（笑）。試合直後は「相手にしたくない。関わりたくない」っておっしゃってましたよね。

土井 えぇ。僕としては相手にしたくないなって、最初はもう断ったんですよ。ほっといてくださいって。でも、ウチに帰ってからも何してても、なんかモヤモヤが残るんですよ。

—なんかスッキリしないな、と。

土井 で「そんなに考えてるなら、試合すりゃあいいじゃん」ともう一人の僕にささやかれまして。で、そうかと思って速攻会長に「試合させてください」と言いました。

—シーザー会長はなんておっしゃってたんですか？

土井 会長も正直驚いてたみたいですね。まぁ「土井、おまえ男だよ」と（笑）。

—高田本部長ばりに（笑）。2階級違うわけですけど、契約体重はどうなりそうですか？

土井 俺はウェルター級（67kg）に専念するって前から言ってるし、向こうが挑戦してきた形なんで、俺の言う体重にしてもらわないとスジが通らないですよ。70kg以下にさせますよ（※後藤はミドル級＝72kg）。そもそも2階級上のヤツが下の俺を挑発すんなよ、と（笑）。

—上に挑戦するのはよくある話ですけどね（笑）。勝ったら何か要求したいとかありますか？

土井 何もないです(笑)。勝ってもただ試合が終わった、ってだけですよ。もともと僕は『S-cup』に出るつもりなかったし、『S-cup』は緒形（緒形健一）に任せようと思ってるんで。まぁ、外敵駆除みたいなもんですよ。

—一選手のフライングでカードが決まるのもイヤだっておっしゃってましたよね。

土井 僕はイヤですね。それなら言ったモン勝ちじゃないかって思いますしね。関西系はどうしてそういうこと言うかなぁ、って。

—また専門誌がそのフライングを丁寧に拾ってましたからね（笑）。どんな勝ち方したいとかってありますか？

土井 勝てればいいです（笑）。判定でも何でも、勝って「バイバイ」と。

—さよなら、って（笑）。

土井 負けは許されないですからね。勝ちにいきますよ。でも、久々の日本人対決だから、ハッスルしてるんで。

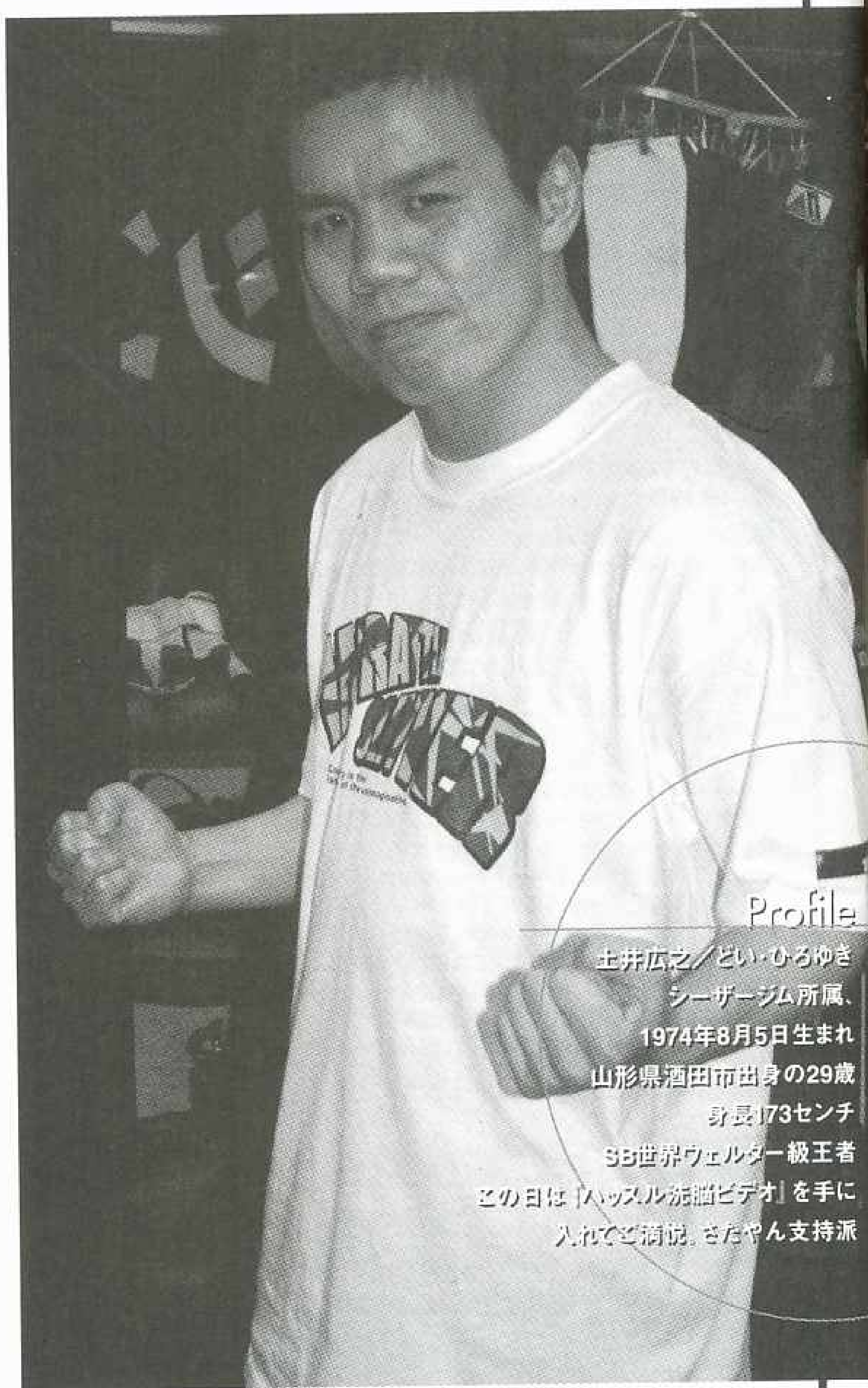
—ハッスルしてますか！

土井 気合いの入り方も違うし。挑発を受けて盛り上がるチャンスをくれたし、そういう点では後藤に感謝してますよ。

—大人だ（笑）。

土井 燃えさせてくれてありがとう、と。だけど小次郎選手とやんのが普通だろ、と。

—感謝はするけどそっちがスジだろと（笑）。前代未聞の日本人王者対決、期待してますんで是非ハッスルしてください！



Profile
土井広之／どい・ひろゆき
シーザージム所属、
1974年8月5日生まれ
山形県酒田市出身の29歳
身長173センチ
SB世界ウェルター級王者
この日は『ハッスル洗脳ビデオ』を手に入れてご満悦。さたやん支持派

アンディー・サワーも更にパワーアップして登場!!
MAキックで見事勝利した宍戸大樹も参戦決定!!

『Infinity-S vol.3』

■日時　6月4日（金）　試合開始 17:30　■会場　東京・後楽園ホール

■決定対戦カード
◎土井広之（SB世界ウェルター級チャンピオン／シーザージム）vs
後藤龍治（SB日本ミドル級王者／STEALTH）
◎アンディ・サワー（SB世界Sウェルター級チャンピオン／リンホージム）vs 強豪X
<日本スーパーフェザー級タイトルマッチ>
◎松浦知希（SB日本Sフェザー級チャンピオン／風吹ジム）vs
及川知浩（SB日本Sフェザー級1位／龍生塾）

■出場予定選手
小次郎（前WMC世界ウェルター級チャンピオン／スクランブル渋谷）
宍戸大樹（SB日本Sライト級チャンピオン／シーザージム）

■問:シュートボクシング協会　03-3843-1212　■HP:http://www.shootboxing.org/

Fight & Ticket

試合・大会情報

5・16 SMACKGIRL 辻ちゃん vs 羽柴まゆみ決定！

今回のSMACKGIRLは二部構成。第一部ではライト級とミドル級の1DAYグラップリングトーナメントを開催する。第二部では『Next Cinderella～』準決勝を行い、舞と高橋まりが激突。3月大会で既に決勝進出を決めた川畑千秋と闘うのはどっちだ!? また羽柴まゆみが、女子格闘界トップに君臨する辻結花に挑む。なお、6月19日・SMACKGIRL大阪大会も決定。辻ちゃんの大阪凱旋を見逃すな！

『SMACKGIRL-F～5月病をブッ飛ばせ！ 夏も近いぞスマックF祭～』

■日時 5月16日（日）開始時間 第一部14:00 第二部16:00予定

■会場 ゴールドジムサウス東京ANNEX7F

■チケット料金（当日500円up） SRS桟敷席 5000円（1・2列目）／SRS椅子席 5000円（3列目）／RS指定席 3000円／スタンディング 2000円

■対戦カード

第一部『GRAPPLER'S holiday 2004 & SG-F8』

【SGG1DAYトーナメント2004】◎**ライト級（50kg以下）出場予定選手** 茂木康子（ストライプル）2003年SGGライト級トーナメント準優勝、705（パレストラ千葉）、吉田正子（NATIVE SPIRIT）、村野麻子（アカデミアAz）、玉田育子（ガールファイトAACC）、野口若菜（パレストラ古河）、小寺麻美（和術慧舟會東京本部） ※8人トーナメントを予定 ◎**ミドル級（58kg以下）出場予定選手** 二宮亜基子（ALIVE）2002年SGGミドル級トーナメント優勝、宮川十和（ガールファイトAACC）、真武和恵（和術慧舟會東京本部） ※4人トーナメントを予定

【SGG公式ルール 4分2R】たま☆ちゃん（SOD女子格闘技道場）vs端貴代（和術慧舟會東京本部）

第二部『The Next Cinderella Tournament 2nd stage-B』

【Next Cinderella Tournament 準決勝】舞（パレストラ松戸）vs 高橋まり（パレストラ東京）

【SGS公式ルール 5分2R】辻 結花（総合格闘技闇愚羅）vs 羽柴まゆみ（BBdoll）

【SGS公式ルール 5分2R】菊川夏子（ライルーツコナン）vs ロクサン・モダフェリ（クロスポイント吉祥寺）

【SGS公式ルール 5分2R】おっさん（総合格闘技闇愚羅）vs 浜田真里江（パレストラ千葉）

【SGS公式ルール 5分2R】石山絵理（Red Devil KIS'S）vs バッカス羽鳥（BBdoll）

■問 スマックガール事務局 090-1773-5647（広報・勝井）

■HP http://www.smackgirl.com/

5・28パンクラス後楽園大会 H20マン vs 高森決定！



『PRIDE・GP』にリザーバーとして名を連ねるウォーターマンと、2連続KO中の高森が激突する！ "柔道界の喧嘩番長"は"ハイパー・タックルマシーン"にどのように挑む!? 第5試合では"パンクラス軽量級のエース"前田を止めるべく、日本拳法13年のキャリアを持つ杉内が挑む。杉内は、タッグマッチながら前田からタップを奪った"足関十段"今成和成擁するteam ROKENからの刺客。破竹の9連勝中の前田を止めることができるのか!? そして第6試合には掣圏会館師範代・瓜田幸造が参戦。押忍!!（敬礼）

『PANCRASE 2004 BRAVE TOUR』

■日時 2004年5月28日（金） 試合開始18:30（開場17:30） ■会場 東京・後楽園ホール

■チケット料金（当日500円up） SS席 12000円／A席 9000円／B席 6500円／C席 5000円／D席 4000円／立見 3500円

■対戦カード

【スーパーヘビー級 5分3ラウンド】ロン・ウォーターマン（チーム・インパクト）vs 高森啓吾（パンクラスMEGATON）

【ライトヘビー級戦 5分3ラウンド】佐々木有生（パンクラスGARABAKA）vs 内藤征弥（A-3）

【ライトヘビー級戦 5分2ラウンド】山宮恵一郎（パンクラスGARABAKA）vs 瓜田幸造（掣圏会館）

【フェザー級 5分2ラウンド】前田吉朗（パンクラス稲垣組）vs 杉内勇（team ROKEN）

【ミドル級戦 5分3ラウンド】長谷川秀彦（SKアブソリュート）vs 中西裕一（フリー）

【ウェルター級戦 5分3ラウンド】和田拓也（SKアブソリュート）vs 門馬秀貴（A-3）

【ウェルター級戦 5分2ラウンド】北岡悟（パンクラスism）vs 平山貴一（和術慧舟會千葉支部）

【ウェルター級戦 5分2ラウンド】飯田崇人（A-3）vs 野沢洋之（スタンド）

■問 パンクラス 03-5792-0815 ■HP http：//www.pancrase.co.jp/

総合ルールのエキシビジョンで菊田早苗 vs 野地竜太が実現！

4月23日の試合後20分以上にわたり現状をボヤキまくり、「ホイスじゃなきゃモチベーションが上がらない」とダダをこねた菊田。"元極真"野地を相手にどのような闘いを見せるのか。

MA日本キックボクシング連盟・真樹ジム主催『SUPREM-4 梶原一騎18回忌追悼記念 第7回梶原一騎杯キックガッツ2004』

■日時 2004年6月6日（日）ヤングファイト開始時間16:00／キックガッツ時間開至J場18:00（開場15:30）

■会場 東京・ディファ有明

■チケット料金（S、A、B、Cは当日￥1000up） SRS席 15000円／RS席 13000円／S席 10000円／A席 8000円／B席 6000円／C席 4000円

■対戦カード

【ダブルメーンイベント 68kg契約】村浜武洋（大阪プロレス）vs DAVID（真樹ジム沖縄／UKF世界J・ミドル級王者）／【ヘビー級総合エキシビションマッチ】野地竜太（パンクラスMAGATON）vs 菊田早苗（パンクラスGRABAKA）／【女子フライ級】早千予（白龍）vs 藤井己幸（全日本女子プロレス）／【フェザー級国際戦 59kg契約】小林秀紀（マイウェイ）vs タイガーSKVアラビアジム（タイ）／【ヘビー級戦】神谷友和（橋本道場）vs 青柳雅英（アイアンアックス）／【バンタム級王座次期挑戦者決定戦決勝】山本ノボル（KAKUMEI川田）vs 高橋拓也（習志野）／【フェザー級王座挑戦者決定トーナメント準決勝】大高一郎（山木）vs（5/9 中村洋人 vs 中路通の勝者）／【フェザー級王座挑戦者決定トーナメント準決勝】（5/9 吉岡篤史 vs 駿太の勝者）vs（5/9 高島義幸 vs 奥山晃次の勝者）／【ウェルター級5回戦昇格マッチ】／山川修二（真樹ジム沖縄）vs 丸山元樹（マイウエイ）

■問 055-228-2326

6月27日『Girls SHOCK V』タイ修行を経た渡邉に注目!!



タイでムエタイ特訓中の渡邉

4月26日、タイ修行から帰国した渡邉久江が記者会見を行った。「練習漬けの毎日でした。あと1週間いたら無敵になれるんじゃないかなって」と満足げ。5月7日に開催されるTBS『黄金筋肉・女子総合格闘技最強女王決定トーナメント』（5月11日＆18日の2回に渡って放送予定）についても「いまは総合やっても負ける気がしない」と自信満々。さらには8月11日の約12万人の観衆が集まるムエタイ大会に出場が決まったことも報告。『Girls SHOCK V』では、パワーアップした渡邉に大注目だ!!

■日時 2004年6月27日（日） 試合開始15:00（13:30開場） ※開始前にフレッシュマンファイト数試合予定

■会場 東京・浜松町ニューピアホール ■チケット（当日500円UP） RS席 7000円／S席 5000円／A席 3000円

■出場予定選手

渡邉久江、グレイシャアAKI、NORIKO、WINDY智美、彩丘亜紗子、妃口慧、カロリン フブレクツ（オランダ）、ナムワンノーイ・サックブンマー（タイ）他

■問 Girls SHOCK事務局 03-5215-2641 ■HP http://www.girls-shock.com

5・16レッスルエイド ディファ有明で本格立ち上げ興行!!

レッスルエイドが本格的に興行を開始する。NWA-TNAのトップレスラー、ジョー・レジェンドがメインに、そしてあのデイビーボウイ・スミスの遺児と噂のテッド・ハートが第5試合に登場する。本格的なカルガリー系レスリング対決に注目だ。会場には、チョコボール向井以前にマスコミを賑わせた"男の中の男"の来場も噂されている。大会は今月号発売の翌日。迷わずディファに急ぐんだ！

『W・A・P Brother in Faith ～ 我志ここに在り～』

■日時 5月16日（日） 試合開始16:00（15:00開場） ■会場 東京・ディファ有明

■チケット SRS席 7000円／RS席 5000円／SS席 4000円／一般立見 3000円／中学生以下 立見無料

■対戦カード

⑦【Pan Pacific Wrestling associationヘビー級選手権・予選】ジョー・レジェンドvsCHI-CHIクルーズ ⑥中西百重&baby Mvs吉田万里子&AKINO

⑤【Pan Pacific Wrestling association Jr.ヘビー級選手権・予選】テッド・ハートvs BB bump ④ターザン後藤vsリッキーフジ

【エキシビジョン】～師ブルースリーに捧げる～デッドウォン直伝ヒロ渡邉率いる、ジャパンジークンドーアソシエーション

③斗猛矢vsGOEMON ②松崎一彦vsファントム船越 ①TAKAみちのく&ジョー赤山vsYOSHIYA&弁天

■HP http://www.wrestle-aid.com ■問 レッスル・エイド・プロジェクト事務局 03-5456-7700

5・23 新宿プロレス

■日時 5月23日（日）試合開始19:00（18:00開場）

■会場 東京・歌舞伎町クラブハイツ

■チケット（当日500円UP） S-VIP席 15000円（フリードリンク・料理・お土産付）／VIP席 12000円（フリードリンク・料理付）／テーブル席 8000円（フリードリンク付）／指定席 6000円／自由席 4500円

■対戦カード ザ・グレート・サスケ、金村キンタロー、TAKAみちのく、一宮章一、マッチョ★パンプ、つぼ原人、リッキーフジ、佐野直、DJニラ、堀田祐美子、闘牛 空、お船、他多数 ※当日は今秋劇場公開予定映画『シベリア超特急"欲望列車"』の収録の為のエクストラマッチがあります

■問 ロックウエスト 03-5459-9199 ■HP http://rockwest.to/

6月6日6時6分開始！ 暗黒プロレス『666』で社長と心中!?

耽美ゴシックレスラー・怨霊と、極悪レーベル・殺害塩化ビニールのTHE CRAZY SKBが結成したプロレス団体『666』の第三弾興行が開催決定！ イタコがマッチメークするという今回は、どんな地獄絵図が待っているのか!? なお最前列の"社長と心中席"はチケットぴあ独占発売。666オフィスでの購入には"くだらないオマケ"付き。5月19日のトークショーも必聴だ！

■日時 6月6日6時6分！ ■会場 東京・バトルスフィア東京

■チケット 社長と心中席 4000円（最前列指定席）／自由席 3000円（2列目以降自由席）

『怨霊&殺害塩化ビニールpresents 暗黒プロレス組織"666"トークライブ～地獄の底からゴキげんよう！～』

■日時 5月19日（水） 開始時間19:30 ■会場 ロフトプラスワン ■料金 1000円（チャージ）

■出演 怨霊、THE CRAZY SKB、GOEMON、HERO!、魔餓鬼、みねぴょん、ヤンキー宮本、他地獄の底からゲスト召還中！

■問 666オフィス 090-3805-1892 ■HP http://666.thrustkick.com/

6・6バトラーツ越谷大会

『June Bright ～六月の輝き～』

■会場 埼玉・桂スタジオ

■日時 2004年6月6日（日） 試合開始17:00（16:00開場）

■チケット SRS席 5000円／自由席 4000円／小中生 1000円（当日販売）

■参戦選手 石川雄規、原学、チョコボール向井（WEW）、冨宅飛駈（パンクラスMISSION）

■問 バトラーツ 048-963-0005



団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■猪木事務所
03-5468-5656
〒150-0001　東京都渋谷区東1-25-2　丸橋ビル4F
http://www.inokiism.com/

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002　大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025　東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011　東京都目黒区青葉台4丁目4番5号渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp/

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033　東京都台東区花川戸2-2-8　ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org/

■掣圏道
042-544-6979
〒196-0013　東京都昭島市大神町1-2-22
http://www.seiken-do.com/

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073　東京都千代田区九段北1-5-10　九段有楽ビル6F　http://oudou.co.jp

■全日本女子プロレス
03-3493-6541
〒153-0064　東京都目黒区下目黒2-17-17
http://www.zenjo.com

■大日本プロレス
045-937-0811
〒224-0053　神奈川県横浜市都筑区池辺町4347
http://www.bjw.co.jp/

■高田道場
03-5749-5030
〒142-0062　東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com/

■高山堂　03-5464-2806
〒150-0011　東京都渋谷区東2-17-12-501号
http://www.Takayama-do.com

■闘龍門JAPAN
078-333-9797
〒650-0004　兵庫県神戸市中央区中山手通2-3-18 メープル中山手201
http://www.gaora.co.jp/dragon/index.html

■ドリームステージエンターテインメント（PRIDE）
03-5464-1531
〒107-0061　東京都港区北青山3-12-9　花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride/

■バトラーツ
0489-63-0005
〒343-0807　埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp/

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047　東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063　東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■冬木軍プロモーション
045-241-6381
〒231-0048　神奈川県横浜市中区蓬莱町2-247　SSビル310

■みちのくプロレス
019-626-1333
〒020-0063　岩手県盛岡市材木町9-8
http://thegreatsasuke.com

■A to Z　03-3678-7777
〒132-0013　東京都江戸川区江戸川1-6-2
http://www.AtoZ.ne.jp

■DDT　03-5360-6653
〒112-0002　東京都渋谷区千駄ヶ谷5-26-5 代々木シティホームズ1005
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071　愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/

■GAEA JAPAN
03-5459-3101
〒150-0036　東京都渋谷区南平台6-7　MAISON南平台1F
http://www.gaea-inc.com

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061　東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net/

■IWAジャパン 03-3352-3366
〒160-0004　東京都新宿区新宿2-15-13　第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp/

■JDスター 03-5524-2339
〒107-0052　東京都港区銀座1-8-21　第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP　03-5849-2341
〒121-0052　東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com/

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001　千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/

■LLPW　03-5228-4331
〒112-0014　東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号
http://www.llpw.co.jp/

■NEO　044-422-8344
〒211-0011　神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/

■SMACK GIRL実行委員会
090-1773-5647（担当・勝井）
〒156-0041　東京都世田谷区大原1-63-9　恒心ビル801　株式会社プロテック内
http://www.smackgirl.com/
info@smack girl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014　神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/

■UFO　0467-82-2034
〒253-0053　神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F 株式会社エフ企画内

■U.K.R　044-833-7042
〒213-0027
神奈川県川崎市高津区野川2193ー11
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■UNW　03-3362-3014
〒164-0003　東京都中野区東中野4-4-5-311

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002　東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WJプロレス
03-3751-4546
〒146-0085　東京都大田区久が原3-31-1　いずみハイツ
http://www.wj-pro.net/

■WMF　049-239-3520
〒350-0812　埼玉県川越市下小坂536-18
http://www.e-rain.co.jp/wmf

■WWS　0495-24-6900
〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23 レインボー本庄106

■ZERO-ONE
03-5730-3401
〒105-0014　東京都港区芝2-30-11　寿ビル601
http://www.zero-one.to/top.html

■ZST　03-5321-9595
〒106-0023　東京都新宿区西新宿3-1-2 廣川ビル4F
http://www.zst.jp/

DVD&BOOK　話題&最新作情報

PRIDE OFFICIAL YAER BOOK 2004

1300円（税込み）



PRIDEファン必携のオフィシャルブック登場！　2003年のPRIDE全大会レポートを始め、3強、サク、吉田、田村、美濃輪、マッハ、シウバ、ジャクソンのインタビューを収録。そして高田統括本部長×榊原代表の誌上では初となる対談も特別収録だ！

■問　エンターブレイン　03-5433-7850
■HP　http://www.enterbrain.co.jp/

極真の神髄がここに蘇る！ マス大山カラテスクールBOX

9800円（税込み）



※付録のDVDはパソコン用ソフトです。DVDプレイヤーでの再生は出来ません

大山倍達総裁没後10年追悼記念アイテムが登場。幻の通信教育教材『マス大山カラテスクール』テキスト全7巻・計520頁を完全復刻！　GOD HANDマス大山 特製ステッカー、『現代カラテマガジン（1972〜88）』全号204冊収録のDVD付き。編集は真樹日佐夫先生！　東邦出版さんのご厚意により『紙プロ』読者2名様にプレゼント！　P159へゴー！

■問　東邦出版　03 - 5396 - 7100

And Others　その他情報

プロレス&格闘技をぶった斬り！ ターザン山本トークライブ！

ターザン山本トークライブ『静岡一揆塾』が開催される。定員40名。ライブ終了後にはターザンとの飲み会もあり。前回の3月の飲み会では伝説の“土下座パフォーマンス”が炸裂。果たして今回の犠牲者は……!?

■日時　6月26日（土）　開始18:30（開場18:00）　■料金　¥2500
■場所　静岡市常磐町2-3-4 村上パーキングビル5Fレンタルルーム
■問　一揆塾静岡事務局（担当・鈴木暁光）　0547-22-0875

プロレス&格闘技情報コラム webマガジン『ジャイアント』スタート！

『前田日明観戦記by中村カタブツ君』や倉持アナのコラム『プロレス・クラシック』は超必見。その他にも注目コラムがてんこもりだ。特集はRed Devil KIS'Sの3人娘と女子格ピクニック！　さぁ、気になる方はレッツ・アクセス!!

■HP　http：//www.GIANTCAFE.com/

『無比人』単行本化&映画化決定！

野地竜太のパンクラス入りにも関わってるという真樹日佐夫先生の名著『無比人』が発売される。解説は吉田豪。発売は7月予定。なんと映画化も決定し、主演は菊田早苗との噂が……！

冬木弘道さんの闘病記『マミー、そばにいて』が出版

（日之出出版／6月上旬発売予定）

冬木さんが亡くなられて、1年以上が経った。がんに冒された身体で、なおもリングにこだわり続けた冬木さん。しかし「マミー、そばにいて」と一言を残し、2003年3月19日、天国へ旅立った。看護を続けた妻の薫さんが、11ヶ月の闘病生活、そしてプロレスラー冬木弘道の生き様をつづった回顧録。

ターザン山本と吉田豪の格闘二人祭!! vol.15

格闘技ファン全員集合！　最強タッグ・ターザン&吉田豪が豪華ゲストたちとガチンコで激突するトークバトル！　前回のゲスト・金原弘光も大好評！　今回は誰が乱入するのか!?

■日時　6月10日（木）開始19:30（開場18:30）
■会場　ロフトプラスワン　■料金　¥1800（飲食別）
■出演　ターザン山本、吉田豪、豪華マル秘ゲストたちが乱入予定!!

吉田秀彦と2泊3日！『VIVA JUDO!』夏合宿開催!!

■2004年8月2日（月）9:00〜8月4日（水）18:00予定（2泊3日）
■集合・解散場所
新宿西口スバルビル前（集合場所の地図等詳細は参加希望者に後日送付の「合宿のしおり」を参照のこと）
■宿泊先　千葉県山武群蓮沼村ホの601『小川荘』

◎予定表
1日目:練習 レクリエーション
2日目:トレーニング 練習 カレーライス作り、キャンプファイヤー
3日目:練習 地引網漁

■対象　小学校1年生〜6年生の柔道経験者及び初心者（男女不問）
■定員　150名
■参加費　39,800円（交通費、食事代を含む）
■申込方法
参加を希望する方は、事前に下記へ申し込むこと。
FAXでの申し込みは、専用シートに必要事項を記入し、下記のFAX番号に送ること。
■問　（株）J-ROCK
TEL 03-3414-9000　FAX 03-3414-4455
■HP　http://www.hidehiko.jp/
■E-Mail　viva@j-rock.co.jp

紙プロHand　更新・最新情報

宇宙一面白い携帯サイト『紙のプロレスＨａｎｄ』が大幅リニューアル完了!! 毎日のイベント・大会情報・対戦カードなどが一覧できる『紙プロカレンダー』のほか、非会員でもチェックできちゃう『最新ニュースチェック』コーナーも新設!! ショッピングサイトでは『ＬＥＧＬＯＣＫ』グッズの取り扱いがスタート！　武藤敬司・小島聡・カズハヤシグッズが買えちゃうぞバカヤローッ!!　毎月更新のイラストカレンダーも大好評!! 写真は中川画伯イラスト待画・フロリダ・ブラザーズ!!　リニューアル記念として、他では絶対に手に入らない“動くハッスル破壊王”待画も配信中!!　ドゥ・ザ・アクセス!!



Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	EZトップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	ボーダフォン・ライブ	スポーツ	格闘技

→ 紙プロHand

こどもの日、タンゴの節句でダンシングな読者ページ

紙プロ元気大学

いや〜、スゴイ盛り上がりでしたねぇ、4・25のZERO-ONE博多大会。……『PRIDE.GP』当日、坂田亘vs葛西純が見たいあまりに率先して博多へ行き、『PRIDE』でハッスルしている会社内においてちょっぴり疎外感を味わっている読者ページ担当のささきぃです。本業は電気部です。翌日は松山大会へ行きました。27日編集部へ戻って「『PRIDE』は盛り上がったんですか?」とマヌケな質問をしてました。面白かったですねぇ、博多と松山の皆さん（もちろん『PRIDE』は映像で見ました）。それでは、はじまりはじまり。



（埼玉県・中川雅博）➡この場所に乗るのも3回目の画伯、先月間に合わなかったイラストです。今月分がまだ来てないよー（図々しくお願いしてみる）。豊永ミッチェルこと豊永稔レフェリー。いろんな団体で大活躍中ですね。

校内巡回

の面白かった記事アンケートはブッチギリで小川直也独占インタビュー。以下、順不同でお送りします。

『紙プロ』73号 面白かった記事

【小川直也独占インタビュー】
★『PRIDE』に最も出て欲しかった選手だから。4・25が待ち切れません!
（京都府・大村和広・19歳・学生）
⬇ビビった、たじろいだ、そして喜んだ! さらにはハッスル数え唄まで飛び出した! 前号

【村上和成「ヒール論」】
★今までは、あのキレ具合をただ面白がっていた一人ですが、今回のインタビューで村上さんがどんな人か少しだけど分かって、私の中のランキングが一気に上昇しました。1位の田村潔司さんは不動ですが、3位くらいには……。だから目覚まし時計欲しーい。
（兵庫県・瀬戸飛鳥・24歳・アルバイト）
⬇なるほど。急上昇しましたか。2位が誰なのかが気になります。推測ですが上山龍紀選手か桜庭和志選手のどちらかではないでしょうか。

★人間的にグレードアップしていると驚いた。青山ちはるに読んで欲しい。
（兵庫県・高橋哲郎・34歳・ハッスル会社員）
⬇こらこら。蒸し返してはいけませんよ。1回につき2〜3時間も入れっぱなしとか、そういうことはいったん忘れるのです。

【スーパーコラム 金ちゃんのなんでそ〜なるの!?】
★何気に一番最初に読んでしまう。こんな兄がいたら最高!!
（石川県・浅井清治・31歳・会社員）
⬇ボヤきは多いけどいつも的確なアドバイスをくれるお兄さんですか。いいかもしれませんね。お兄さんにしたい格闘家ランキングでは、きっと上位入賞間違いなしでしょう。他にランクインしそうな人が思い浮かびませんが。村濱天晴選手とか（そのまま）? 弟にしたい格闘家ランキングなら横井選手とか大久保ちゃんとかが入ってくるのかなとか、なんとなく想像つくんですけど。私が年をとったということでしょうか。ありゃ。

【小川直也インタビュー】
★『PRIDE.GP』準決勝の第2試合はジョシュ・バーネットvsエメリヤーエンコ・ヒョードル。第1試合では小川があのミルコに何もさせないで圧勝。予想を裏切る展開となった。ジョシュはヒョードルにボコボコにされながらも、驚異的な粘りで判定にまで持ち込む。ほとんど気を失っているジョシュは中西と永田に肩を借りながらも、マイクを取る。「オガワ! オガワ! プロレスを……マモレ!!」そこでハーリー・レイスのテーマが流れ、小川が登場する……。そんな妄想が止まらなくなったから。
（神奈川県・野村直人・35歳・会社員）
⬇さてはおまえプロレスファンだな（by山口日昇）。と言いつつ「いいなぁ」と思ってこのハガキの文章を打ち込んでいる私。先日「私が見たい『U-STYLE』トーナメント」の組み合わせを何気なく考えていて夜眠れなくなってしまい、仕事人としても女子としても反省しました。さてはおまえプロレスファンだな。

『紙プロ』73号 つまらなかった記事

【「ハッスル3」の記事】
★なんで島田レフェリーは「ヤドカリ」と呼ばれているのですか。きになってノーザンライト・ボムもできません。
（埼玉県・石山雄紀・13歳・中学生）
⬇あぶないから相手を選ばないとダメですよ。やる時は心に北斗晶へのリスペクトを忘れずに。って違うよ。ヤドカリ、正式にはヤドカリ野郎の名付け親はZERO-ONEの中村氏です。猪木軍、DSEと権力をかさにきて行動するさまを称して（たぶん）その名がつきました。会場で見かけたら気軽に「ヤドカリ!」と声をかけてみるといいでしょう。ちなみに石山くんの「見てみたい豪邸」は「目ガ覚メタロウさんの家」。いや、取材に行くのも何だし……。

取材してほしい豪邸

★新日本・上井執行委員邸、新間親子邸…。でも本当に見たいのはささきぃ邸。多分、片づけられない女だと思うから。
（千葉県・内野さとし・37歳・契約更新せず）
⬇読んでアタマにきたので掃除しました。なので今はキレイです。でも取材はさせません。ちなみに希望が一番多かったのは高田総統と高田本部長邸でした。

『紙プロ』でやってほしい企画

★ゼブラーマン（リアル）の空手バカ伝説。
（大阪府・山内義久・35歳・玩具問屋経営）
⬇最近離婚されて、私生活では白黒つけたゼブラーマン。話をしていると普通に「後ろ蹴りは内蔵破裂するんですよ。僕も何人かさせてるんですけどね」とか出てきて、ちょっとドッキリします。

★セルカン・イルマッツ特集。
（福島県・伊東光成・28歳・会社員）
⬇祖国トルコでは学生であり経営者でありファイターでもあるイルマッツ。コスチュームで使っていた鎧は自分の国からわざわざ持ってきたそうです（税関は大丈夫なの?）。たしかに興味深いファイターではあります。

その他のおたより

★昨日の『PRIDE』の放送を見た上司から「昨日の小川、面白かったなー。あのスマイル、スマイルってやつ」…? 数秒後、それがハッスル、ハッスル! と気付いても、「それ違いますよ」と、とても言えなかった。上司は昼の食堂でも他の社員に「スマイル、スマイル」と言っていた。すまぬ、オーちゃん。
（『紙プロHand』投稿・こしあん）
⬇あれだけわかりやすく言っていても、まだ間違えるものか。表現の難しさを感じるなぁ。でも、他の社員にも言っていたとなると、それはオーちゃんより上司に「すまぬ」と言うべきじゃないかと思いますが、どうだろう。



（石川県・シーザー孝志）
⬇須藤元気くん。そもそもこの読者ページ名称「紙プロ元気大学」は、彼の所属していた「東京元気大学」から取ったものです。最近ただの意味不明なタイトルだと思っている人がいるので一応言っておこう。若い日本人ファイターの存在はとても貴重。これを書いている現時点では発表されてないんですが、次の試合はどうなるんでしょうね。

今月の『紙プロHand』調べ
好きなレスラー人気ランキング!!

1位 小川直也
2位 田村潔司
3位 桜庭和志
4位 マグナムTOKYO
5位 CIMA

携帯サイト「紙プロHand」上で行っていた人気投票の紹介です。このコーナーは5月1日で終了したため、この集計も今月で最後。最後の最後になって『PRIDE.GP』の影響がものすごく出たランキングになりました。小川直也が好きなレスラー1位! って結構大きなことではないでしょうか。闘龍門代々木大会の影響も大きく出たようですね。マグナム選手が出た時の盛り上がりはすごかった。嫌いな選手は時にライオン丸になるあの人でした。ダブルスコアでぶっちぎり。逆にかっこいい。（4/8〜4/30アクセス分調べ）

紙プロ73号・読者が選ぶ
面白かった記事ベスト5

1位 小川直也 インタビュー&会見レポート
2位 村上和成 インタビュー
3位 『PRIDE.GP』全選手データガイド
4位 野呂田秀夫 ドクターインタビュー
5位 浅草キッド『PRIDE.GP』を語る

1位はブッチギリで暴走王、小川直也インタビュー! 「小川を信じていて良かった」などの熱いメッセージがたくさん届きました。2位は魔界将校村上和成インタビュー。普段は『紙プロ』なんて読まない村上ファンの方からもハガキが届いていて新鮮。「他のページは読んでません」なんて書いてあって複雑。3位は初心者からマニアまで好評だった『PRIDE.GP』全選手データガイド。4位は野呂田ドクターインタビュー。前田日明兄さんファンからのハガキが多かったです。5位は絶妙トークの浅草キッド、6位は中村さんの熱さにシビれたトークショー再録と続きました。

学会発表

「回答させてよ！」

週プロの『選手名鑑』、今年から加わったアンケート新項目の「グッとくる異性の仕草」、「携帯電話の着メロ」。気になる回答があったので拾ってみました。

【グッとくる異性の仕草編】

▼同様回答
➲藤波辰爾「髪をかきあげる時」(長州依存症)
➲竹村豪氏「髪をかきあげる時」(無我イズム)
➲安生洋二「髪をかき上げたあと、うなじの匂いを嗅いだ時」(WJ臭)
➲百田光雄「髪の毛をかき上げる」(リキつながり)

▼マゾ回答
➲長州力「怒っている時」
➲天山広吉「真剣な顔して怒ってくれる時」

▼健介イズム回答
➲健心「目と目が合った時」
➲佐々木健介「目が合ったら笑顔で返してくれる時」

▼答えちゃいました回答
➲エル・サムライ「オッパイの大きい人がいいです」
➲太陽ケア「ケツ見るイイナァ」
➲藤井克久「パンチラ」
➲ヒート「裸の時」
➲越中詩郎「ぽっちゃりさん大好き」
➲中野巽耀「座っている時の腰からヒップにかけてのライン」
➲ミスター・ポーゴ「ミニスカートで座っている女の子が、ノーパンで見られたと思って、キュッと両足を閉じた時」

▼このアンケートにおける最終的見解
➲岡村隆志(闘龍門JAPAN社長)「それを言うと人格を疑われるから言わん！」

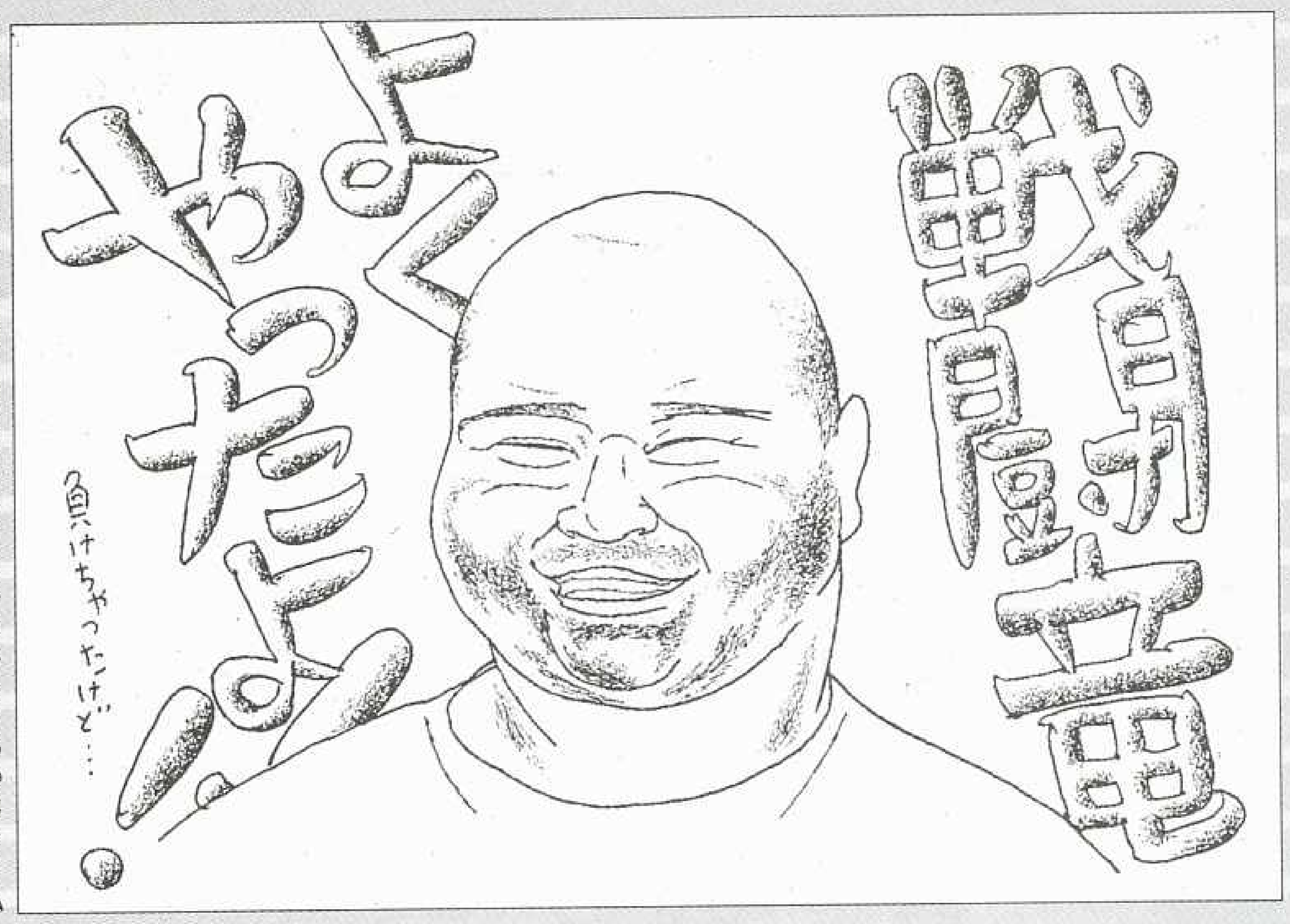
【携帯電話の着メロ編】

▼怒りの獣神説教編
➲獣神サンダーライガー「携帯はかけると取るだけ、メールもしません。現代人は携帯に振り回されている。自分を持て！」

▼ノーコメント回答
➲シャーク土屋「いつでもバイブ」

――以上です、編集長！

(静岡県・目ガ覚メタロウ) ➲先月に続いて今月も学会発表です。力の入った週プロ名鑑に目を付けるあたりナイス。気になってたんですよ。作り手もこの新項目は誰かに拾ってほしかったと思うので、いいんじゃないかと思います。健介イズム回答の師匠コラボがすばらしいな。藤井克久選手やヒート選手は、キャラクターとしてこの回答はありなんでしょうか？　ここに出た回答とは別枠で、冨家飛駈選手の名鑑は当然のように必見。面白すぎて私はすこし引きました。



(神奈川県・葉チャン)「高橋も横井もコールマンも、みんなよくやったよ!! 私はちょっと泣いてしまいました。みんな大好きだ!!」➲よい大会だったんですね。毎月ナイスな人選でイラストをくださる葉チャンさん。今月はこの人ですね。いい笑顔だ。



(埼玉県・稲葉聡)「無茶苦茶な絵ですが一応、セス・ペトルゼリです」➲73号142ページの写真と「秘孔でも突かれたのか？」の一文でイマジネーションを膨らませてくれたとみた。バカだなと思うけど、無駄な労力を高く評価したい。えらい。



(埼玉県・稲葉聡) ➲イグナショフですね？　シュルトじゃないですよね。きれいに印刷出るか不安ですが、クレヨンで描かれているんですよ。芸術的。前号の版画といいこのページの「あべし」といい、稲葉さんはいろんな引き出しのある人だなあと感心しています。どれもいいんだけど、全部載せきれなくてごめんなさいです。

今月のタレコミ部

電源を切る日もあって春日遅々　鈴木みのる



(静岡県・森上屋のり)「絶賛活躍中の我らがみのるが、新作をひっさげて『帰ってきたぜぇー！』」➲おぉ、鈴木みのるさんの川柳がふたたび。ちなみに前回は60号に森上路太郎さんの投稿で載っています。今回は前回ほど句の内容に力強さがないですが、この川柳チームは面白いですよ。覚えててちょっと嬉しい自分もどうかと思う今日この頃。前回同様金原光子さんの句が味わい深いです。「生きていくネジを時々確かめる」って、わかる気もするけど……。



(長野県・コバヤシ・タロウ)
➲プレデターかなぁと思ってよく見たら「白鯨」と書いてある。キングコング・バンディですか？　……トム・エリクソンですね。もうちょっと太っていたら似ていると思うので惜しい。独特なタッチでいいと思います。また送ってきて下さい。

ほんとにジョーク？



(静岡県・目ガ覚メタロウ)
➲「ほんとにジョーク」あてに届いたハガキを勝手に掲載してしまうこのコーナー。今回は堀江ガンツさんのプッシュを受けての掲載です（組織ぐるみ犯罪）。魔裟斗の新しいガウンは誰かつっこまないといけませんしね。そういえばMAXの決勝大会も7月6日、もうすぐだ。早いなぁ……。



(北海道・アカツキ) ➲はじめましてアカツキさん。この技はSTO……ですよね。小川選手でしょうか？　相手は誰だろう。スパッツの模様でいけばミルコ？　いろんな画風の投稿者が増えてうれしいなぁ。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

いまさらながら漫画「空手バカ一代」を読んでワクワクしています。面白いです。面白すぎて仕事どころじゃないです。これを読んで空手を始めた人たちの気持ちが痛いほどよくわかります。有明省吾に涙。さて、『紙プロ元気大学』では皆様のお便りを常時募集しています。来月も発売日が早いので、月末ごろまでにいただけると、掲載される率が非常に高くなります。せっかくインタビューも好評だったのだから、ぜひ小川直也選手の似顔絵をハッスルして描いてきてください！　『紙プロ』を読んで感じたこと、ご意見、大会の感想、お便りの他、イラスト、その他すべての宛先は

メールは radical@kamipro.com
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ケ谷3・11・3・702
(株)ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部　紙プロ元気大学「勝負は商売」係まで。
★☆★携帯サイト『紙プロHand』からの投稿も出来ます！★☆★

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！　プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです。

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第35回



今月イチバンおもしろかった作品とその作者

静岡県磐田郡　**目ガ覚メタロウ**

★目ガ覚メタロウさん、採用おめでとうございま〜す!!　「伊原信一」Tシャツ(M)。お楽しみに!!
★プリンター壊れちゃった…。『ほんとにジョーク』Tシャツの発送がほんとに遅くてゴメンナサイ。しばしお待ちあれ。
★犬っていいよね。犬、最高!　犬、大好きっ!!　中川画伯の『ほんとにジョーク』にハガキを書こう!!　抽選で5名様に「手づくり缶バッヂ」、採用された方には「手づくりTシャツ」をプレゼント!!　希望Tシャツはプロレスラーじゃなくてもノー問題です。大変遅くなってしまいゴメンナサイ。皆さん、ハガキをビッシビシ送ってください。
★IT革命です。毎日更新。犬!　プロレス!　東京メッツ!　『中吉』http://chu-kichi.jp/

前号のTシャツ サミー・リー&K・K・リー

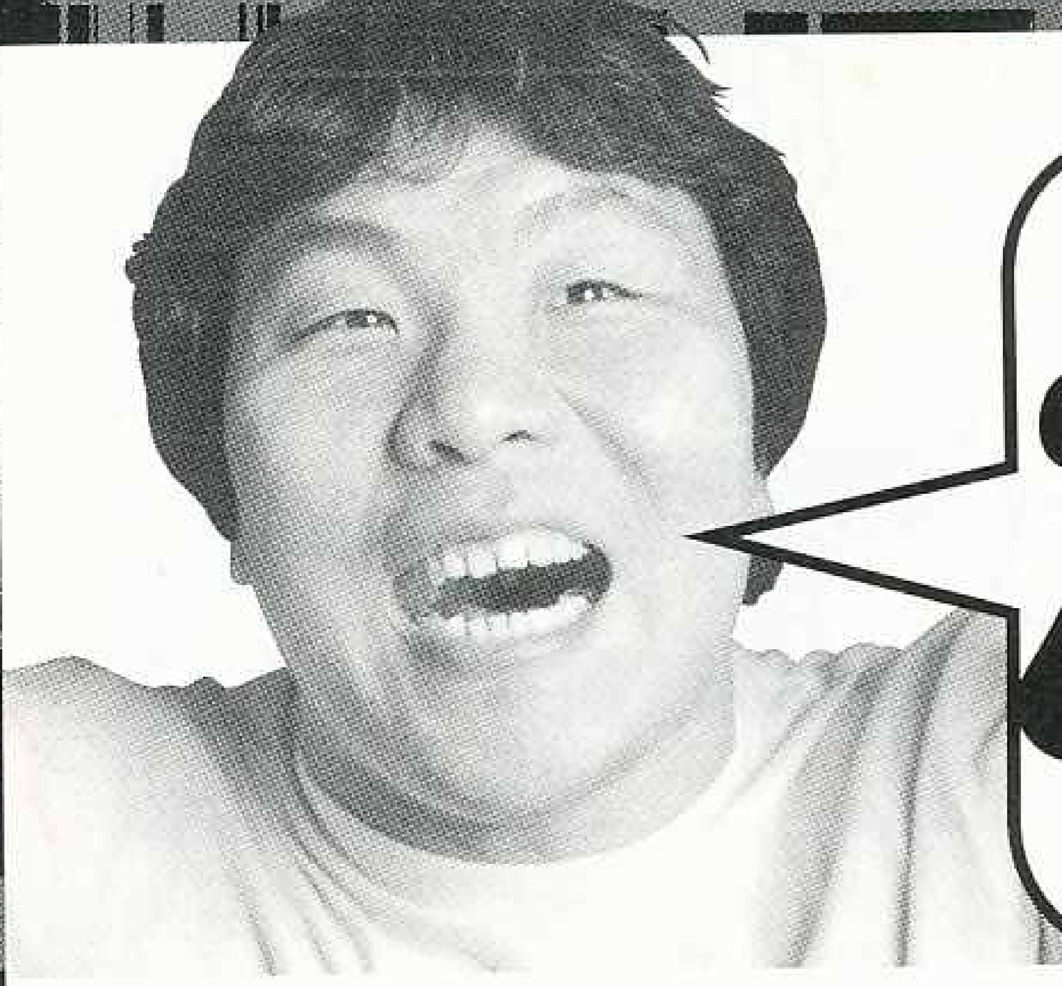


応募方法

プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ(S・M・L・XL)をハガキに書いて下さい。〈例〉中嶋勝彦のS

俺には俺のゼブラーマン・ストーリーがあるんだ！　白黒つけるゼ!!

BEST OF THE スーパーコラム™



金ちゃんの *MONTHLY BOYA-KING COLUMN*

なんでそ〜なるの!?

第10回

1年6ヶ月ぶりの復帰戦はなんと5・23『武士道』でミルコと対戦！

いや〜、ヒザの手術で欠場してから1年6ヶ月。ようやく復帰戦が決まったよ！

5・23『PRIDE武士道』に出場することになったんだけど、相手がね〜。よりによって、あのミルコ・クロコップだよ！　普通、手術して長期欠場明けだったら、無難な相手を提示してくれるもんじゃん。それなのに『PRIDE』が提示してきた相手はミルコだからね。「なんて会社だ」と思ってさ、最初にオファーが来たときは、ドッキリかと思ったよ！

だって、その数日前にたまたま高山（善廣）君と電話してたらさ、高山君が「いまミルコが『武士道』に出たいって言ってるから、もしかしたら金原さんがやることになるかもしれないですよ」って冗談で言ってたのよ。でも、俺は「そんな話がもし来ても、絶対やるわけがない！　100%ありえない！」って、そういう話をしてたんだけど、そしたら数日後にホントにオファーが来ちゃってさ。「なんでそ〜なるの？」って感じだよね（笑）。

いくらなんでも復帰戦としては相手が悪すぎるでしょう。しかも、今回のミルコはKO負けした直後だから、メチャクチャ気合い入れて来そうじゃん。それも嫌なんだよね〜。「一階級下の日本人だから適当にやるか」って感じで、ナメて来てくれればいいんだけど、これ以上ないくらいの気合いできそうでしょ？　だから最初はやるつもり全くなかったんだけどさ、「ここで断ったら、2度とミルコとやることもないだろうな」と思ったら、変にもったいなくなっちゃってね。いろいろ悩んだ末に受けることにしたんだよ。周りからしたら、「なに考えてんだ？」って思うだろうけどね。だって1年半ぶりだよ？　そういうときはさ、いろいろ無難な相手がいるじゃない（笑）。でも、これも運命だと思って一生懸命闘うよ。

体調的には悪くないと思うんだけど、やっぱり手術した後だからさ、ケガが心配だよね。ケガに対する恐怖はやっぱりあるよ。今度ケガしたら生活できないからね。そう考えると、Uインターとかリングスって、ケガしても毎月の給料は保証してくれるし、治療費も出してくれるわけだから、いい会社だったんだなって改めて思うよね。リングスにいたころは、「『PRIDE』の選手は高いギャラでいいな」とか思ってたけど、前田さん、髙田さんに、今になって感謝の気持ちが強くなってきたよね。なんか、「親孝行、したいときに親はなし」って感じだよ（笑）。

俺はいま33だけどさ、60ぐらいになったときに、「ああ、いろいろあったけど、いい人生だったな」って、最後は笑って死にたいよね。最近、そういうことも考えちゃうよ。ここんところ辛いことが多すぎてさ、リングに上がったらこれまでの辛いこと思い出して泣いちゃいそうだよ（苦笑）。


金原史上最強の敵ミルコ、はたして秘策はあるのか!?

波瀾万丈すぎたよな〜。いや、波乱だけだな（笑）。今回も復帰戦の相手がミルコだしね。しかも、いまのミルコって、ヘビー級GP用にデカくなってるじゃん。だから俺とは体重差10キロ近くあると思うんだよね。だから今、「4点ポジションなし」を狙って、逆に減量しようかと思ってるよ。そしたら、ハイハイしながらタックル行くから（笑）。でも、これが9・5キロ差とかだったら悲惨だな〜。

ま、男にはやらなきゃならない時があるってことだよね。ファンの人には「俺の生き様を見ていてくれ」って感じだよ。『武士道』らしく「死に様」にならないように頑張るよ（笑）。

ところでさぁ、このコラムって、俺が試合復帰した時点で終わりなのかな？　まさか次回で最終回ってことじゃないよね。この連載は、金原家の貴重な定期収入だったんだから（笑）。よし、コラムを続けてほしい人は、『紙プロ』にハガキ書いて送ってよ。それか、コラムの代わりに、井上義啓さんの『喫茶店トーク』みたいな連載をやるのもいいかもしれない。俺、あの人のファンなんだよね。俺もミルコ戦では、Uインター道場で身につけた〝殺し〟で勝負するよ（笑）。

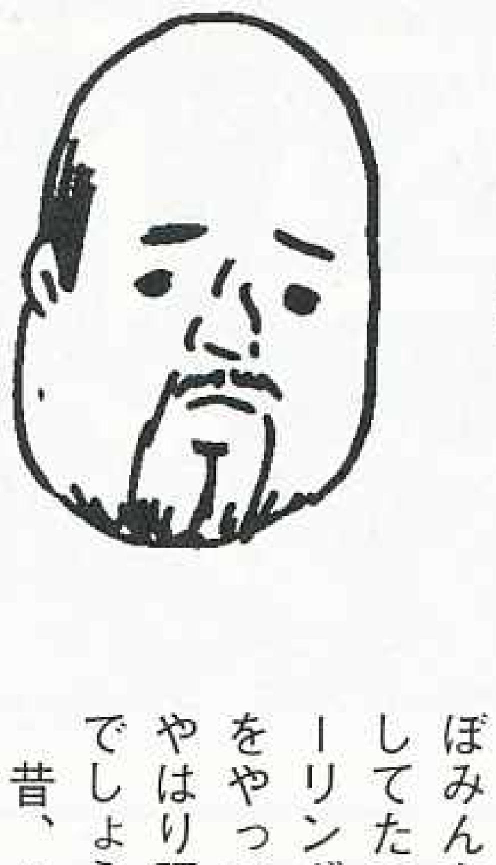
Kanehara Hiromitsu

『U.K.R.』Tシャツできました。
HPで通販やってます！
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

5月の楽しみは、テレレvsガルシアと、ガルシアのセミナー。

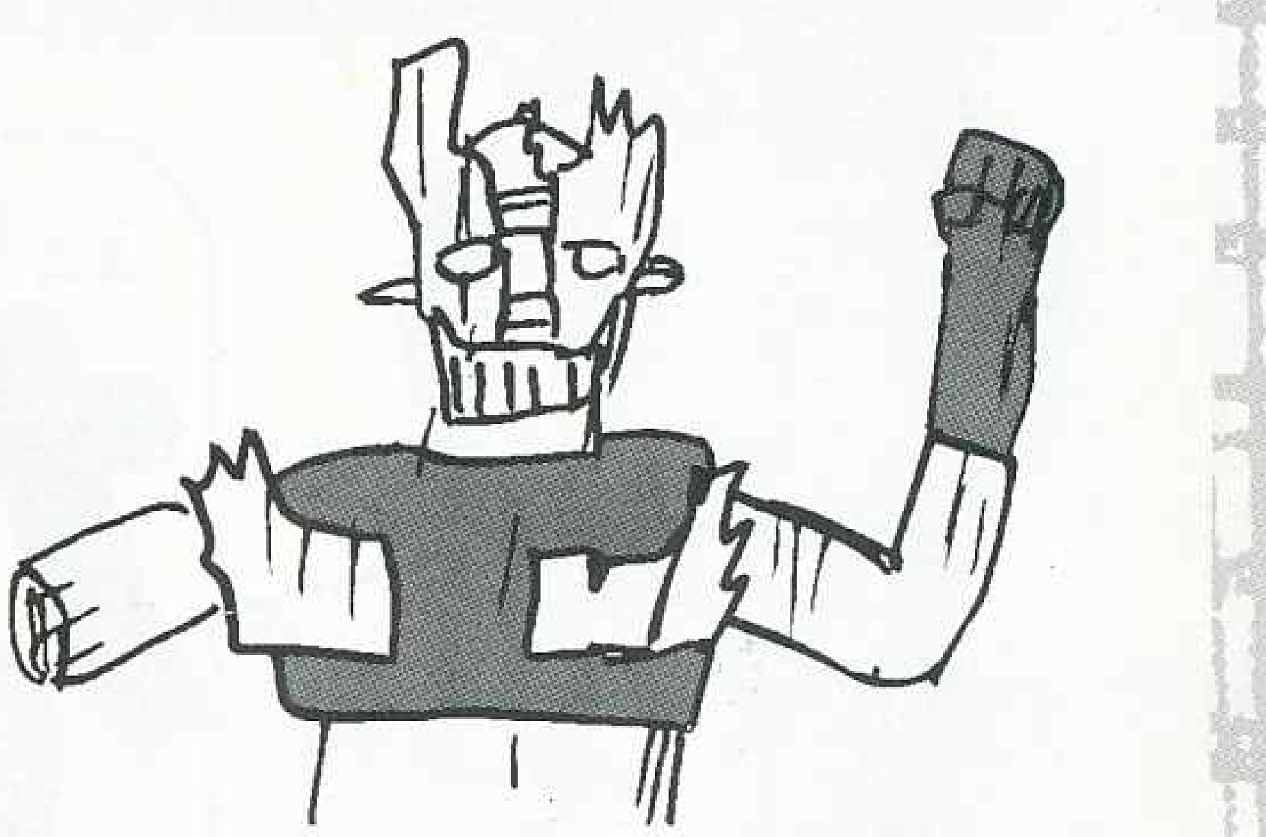
花くまゆうさく リングの汁 RADICAL

www.HANAKUMA.com



小川vsノゲイラ希望　小川vsノゲイラ希望　小川vsノゲイラ希望……とここをすべて埋めたいぐらい小川vsノゲイラ希望してます。前から言ってるけど見たいのは、寝技できる人と小川がやったらどうなるか？ただそれだけ。スポセン伝説となった小川の強さを見たいだけ。せっかく奇跡的にいま小川が『PRIDE』上がってるんだから、その貴重なチャンスのこの機会に、ぜひ小川vsノゲイラをよろしくおねがいしますねDSE。

5・3の修斗後楽園大会といえば、一部の存在感ありすぎる人達によって、その人達以外の会場中、ほぼみんなが心の中でパーリング応援してたことや、その試合（高谷vsパーリング）でぶったまげる衝撃KOをやってのけた高谷の強さですが、やはり語るはルミナのうれしい勝利でしょう。



昔、ルミナがコンバットで連覇してたあの頃はほんと恐ろしく、近づく者はみんな極められる感じ。だから試合始まったら、一方的に決着へ一直線のそのスタイルに、みんなドキドキしてルミナを見ていた。それが魅力で輝やいていた。しかし、桑原戦の2ラウンド目あたりから、もしかして危ないかもと思わせるようになり、試合するごとにその思いはどんどん大きくなる。そんでもう今では、あいかわらず誰とやっても極める事できそうだけど、誰とやっても殴られて負けそうという、ふたつのドキドキを抱いてみんなルミナを

男道コーチ屋稼業
掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

業☆勝ちます

【女子プロレスラーの乳首は何故皆一様に下を向いていて、どんぐり並にゴツくなっているのか】の巻



眠れない夜、柵越えする羊を数えるのにはいい加減飽きた。無意味な単純作業を繰り返すと、脳が疲れて酸欠になるので眠くなるという寸法だが、眠れないときには無理して寝ようとせずに、そっと本棚に手を伸ばす。それが大人の余裕というものだろう。

バイソン木村、井上貴子、ジャガー横田、風間ルミ……家にあるありったけの女子プロレスラーのヘアヌード写真集を、惜しげもなく部屋の床一面に広げ、すっぱだかになって押入れの中段からダイビングセントーン一閃。息を荒らげ「フヘヘ、フヘヘ、フヘヘ、フヘヘ」と、ヘッドロックをされているときの藤波のような息づかいとともに、手垢の付いた写真集とがっぷり四つ、夜のグレコローマンが始まる。BGMはもちろん『都会の流星』by風間ルミ。ハート型の変型EPをターンテーブルに乗せて針を落とし、ルミエのシャウトにあわせて、頭を激しく前後にシェイクしてヘッドバンギング。

眠れなくて悶々としていたことなどすっかり忘れてアドレナリン大放出。擦り切れた畳の上でハードにブレイクダンス。ロボットダンスしながらバイソンの乳首を凝視、頭を地面に付けて自力で高速スピンしながらジャガーの乳首を凝視、肩と腕をカクカク揺り動かして一人ウェーブしながら貴子の乳首を凝……アレ？

「女子プロレスラーの乳首って、なんで全部下向いてんだ!?」

そうなのだ。女子プロレスラーのヘアヌード写真集を並べて、食い入るように観察してみるとすぐにわかることだが、乳首の形状がどれもこれも似通いすぎている……！

乳輪の大小はあるにせよ、ビーチク本体がどれもポークビッツ大にごんぶと成長&どうだー！　とばかりに自己主張しており、おまけに何故か、皆一様に乳首の先端がナナメ45°下を向いていることに気がつくだろう。特に全女出身者の乳首下向き率は著しく高く、乳首の形を見るだけで選手の所属団体までがわかるシステムになっている……。

これは一体どういうことなのか、自分が金田一少年でなくても謎解きしたくてウズウズするというもの。じっちゃんの名にかけて、いや、えっちゃん（三田英津子）の名にかけて！　女子プロレスラーと乳首の不思議な関係について考えてみなくてはいけなくなった。いやはや、寝つけなかったばかりにとんでもないことになった……。

1「前受け身が乳首に与える影響」

力士が陰部を保護するために玉袋

見ている。そしてこの日のルミナは、はじめハーフからパスしてマウントと手堅い戦法だったが、流血し、腕十字逃げられ下になってからは、いつものルミナモードとなって足関へGO！　こっからはもうハラハラドキドキ。足関のがれ殴られそうになるたんびに、ラウンドが進むほどに、やばいドキドキが大きくなる。それでも三角極め必死に絞めあげて、血ダラダラ流した顔で勝ち名乗りあげるルミナの輝きは、哀愁とか喜びとかいろんなもん合体した、なんともいえぬ等身大の美しさでした。
　椎名さんの著書に「ぼろぼろのダチョウ」がありますが、この日のルミナは文字どうり〝ぼろぼろのルミナ〟。しかし、ぼろぼろでもぼろぼろの美しさがあり、いままでとは違う輝きがルミナに宿っていました。最終回で、ぼろぼろになったマジンガーZのような美しさが。

Hanakuma Yuusaku
柴田 vs 武蔵のテレビ放送、気持ち悪かった。





を特殊に折り畳んで、まわしの中にすっぽりインクルードする技術を伝承しているように、女子プロレスラーも受け身のときの衝撃を出来るだけ和らげるような、乳首保護技術を諸先輩から伝授されているに違いない。
　乳首を垂直に伸ばした状態で前受け身を取りすぎると、衝撃に乳首が耐えきれず、乳房内部に押し込まれて、陥没乳頭になってしまう恐れがあると推測される。女子プロを引退したあとに、もし結婚することになり、出産を控えていることを考慮するならば、陥没乳頭では授乳に際し苦労することになる。いずれ人の親となることを前提として25歳定年制を施行していた（現在は廃止）全女の松永会長の親心からか、「乳首は下向きに折り畳んでガムテープで止めて保護する」という陥没乳頭対策がとられていたとしても、不思議なことはイッコもないのである。ガムテープはニプレスの役割も同時に果たしているため、万一のポロリにも対処できて一石二鳥、オイシイとこ取りとはこのことだ。
　しかし、長年に渡りチクビにガムテを貼ったり剥がしたりを繰り返した結果、乳首が必要以上に強靭になってどんぐりのように肥大するため、女子プロレスラーの乳首はごっつくなってしまうとの推論が成り立つ。

2「行きすぎたバーリトゥード対策として」
『キルビル Vol.2』で、ザ・ブライドはショットガンに込めた岩塩の玉を両胸に受けて悶絶する。躊躇することなく引き金を引いた後でバドは「それがどんだけ痛いのか、男の俺には想像もつかねぇがな」と吐き捨てた。女性にとって乳首、乳房は男子にとっての金的に相当する急所であることを端的に表す描写だが、男子のそれがファールカップで保護することが出来るのに対し、女子プロレスでは、水着一丁でドツキ合いしなければならない。これは厳しい。いつ何時相手が仕掛けてきても対処できるように、女子プロレスラーが常日頃から集中的に急所である乳首を鍛える訓練を積んでいたとしても不思議ではない。
　初級編では乳首の先端に炊いた米粒を付けて全女社屋の屋上で昼寝し、放し飼いにした合鴨やシギに、ついばまれるままにするところから乳首修行は始まる（あくまでも想像）。
　中級では乳首の先端で熱く焼けた玉砂利の瓶を突く特訓。火傷しないように素早く乳首を出し入れしないといけないが、新人のうちは勝手が分からず、多少乳首が焼け焦げるのを覚悟しなければならない。プロレスの事務所なのに肉の焼けこげる匂いが常に充満していると何かと行政サイドがうるさいため（消防法的に）、それをカモフラージュするために作られたのが、全女社屋に隣接する軽食レストラン『SUN族』であると言われる（あくまで噂）。
　究極は腕立て伏せならぬ乳首立て伏せ。乳首だけで目黒不動尊の石段を歩けるようになったら乳首修行も免許皆伝だ（乳首に免許があるかどうかは別として）。
　真偽のほどは、今度道端でジャガー横田にあったら聞いておこう（撲殺されるのを覚悟で）。


今はなき横田基地でのひとコマ。ジャガーさんの服の下にはどんな乳首が隠されているのか……!?　写真集で各自チェック！

Okite Porushe
掟ポルシェ2nd単行本&ロマン優光自主制作うらみ手帳同時発売記念ライブ情報！
7・25（日）新宿ロフト　PM7：00〜
出演：ロマンポルシェ。L.L.COOL J太郎その他、露出度の高いエロイ衣装を着た女性が出演予定！　チケット発売等の詳細は次号を待て！　7月14〜16日にはロマンポルシェ。京阪神ツアーもやるですよ！

原タコヤキ君の 大阪プロレスファン通信

ナニワの中のナニワな人たちがお送りするダイナマイトな関西コラム

まいど！　えー、ズバリ言って、ミスター・ヒトさんは相変わらずつかまりません。ハーフダイ状態が続いているのでしょうか。もうこうなったら、ヒトさんがキャッチできるまで、このコーナーで呼びかけ続けます！　また読者の皆さんからもヒトさんの目撃談を募集致しますので、「見かけた時はハーフダイ」係までお寄せください。ということで、ヒトさんとはまったく関係なく、今回は三島☆ド根性ノ助選手でお馴染み、コブラ会のサモハンさんにお話を伺いましたよ！

★

—まず、サモハンさんはなぜサモハンなんですか？

サモハン　僕、実は選手としてJ－DOとかタイタン・ファイトに出たことがあるんですけど、それまで中国に遊びに行ってまして。で、帰ってきた時に変わったリングネームをつけようと思って、それで中国帰りということでサモハンにしたんです（笑）。

—別にサモハン・キンポーに似てるわけでもないですもんね（笑）。まず、サモハンさんといえば、三島選手のマネージャーであり、コブラ会を運営しているわけですけど、三島選手とはなんで知り合ったんですか？

サモハン　僕が18の頃なんですけど、三島さんの闘魂クラブ（コブラ会の前身）に出稽古に行くようになって、そこからです。行きと帰りに車に乗せてもらうようになったので、仲良くなって。三島さんは加減ができなくて、練習でヒザ蹴りとか平気でやっちゃうんで、みんなに嫌がられてましたけど。

—それでコブラ会を設立するようになるんですね。じゃあ今、サモハンさんは25だから7年も三島選手と一緒にいるわけですね。

サモハン　いや、僕はハタチから22まで地元の三重に帰って漁師をしてたんですよ。

—漁師!?

サモハン　海草取りなんですけど。アラメという染料に使う海草があって、それが一本200円で売れるんですよ。僕は一回潜って20本くらい取れるんで……。

—ひと潜りで4000円か。けっこう儲かるんですね。

サモハン　夏場で、しかもだいたい一ヶ月半くらいしかできないんですけど、だいたい700万くらいになりますね。

—700万！　こんなことしとらんと海潜ろうかなあ。

サモハン　でもホンマつらいですよ。もうやりたいとは思いませんわ。それで漁師をしてる時に三島さんから電話があって、一緒にコブラ会をやっていくことになって、また大阪に戻ってきたんですわ。

—なるほどお。サモハンさんは長いこと三島選手と一緒にいるわけですが、彼はどんな人ですか？

サモハン　変わってますわ（キッパリ）。

—あのー、マネージャーさんにこんなこと言うのはアレなんですけど、あの入場のパフォーマンスはどうにかならないんですかね？

サモハン　ああ、あれねえ……。

—狙いなのかもしれないですけど、関西人としては若干すべってると思うんですけど（笑）。

サモハン　周りも「もうやめたら？」って言うてるんですけど（笑）。まあ人の言うことは聞かないですね。普段はホンマ大人しいというか全然喋らないですからね。アイツと二人で東京まで車で移動することがあるんですけど、10分も喋らないですね。7時間くらいずっと無言ですから。

—へぇ〜。リングに上がる時は変なスイッチが入るんでしょうねぇ（笑）。そこが三島選手のいいところかもしれませんけど。ところでサモハンさんの本業はコブラ会のジム運営なんですか？

サモハン　ジムというか、僕ら警備の仕事とかやってるんですわ。

—そういえばホームページには他に介護の仕事なんかもやってるって書いてましたね。

サモハン　そうなんです。なんでか言うたら、格闘家って引退したら何も仕事がないじゃないですか。それがイヤで、引退後も警備とか介護とかいろんな仕事ができたらいいじゃないですか。それに現役でもファイトマネーで食っていける人間なんてごくわずかなんで、コブラ会の中で全部やっていけたらええなあと思ってまして。

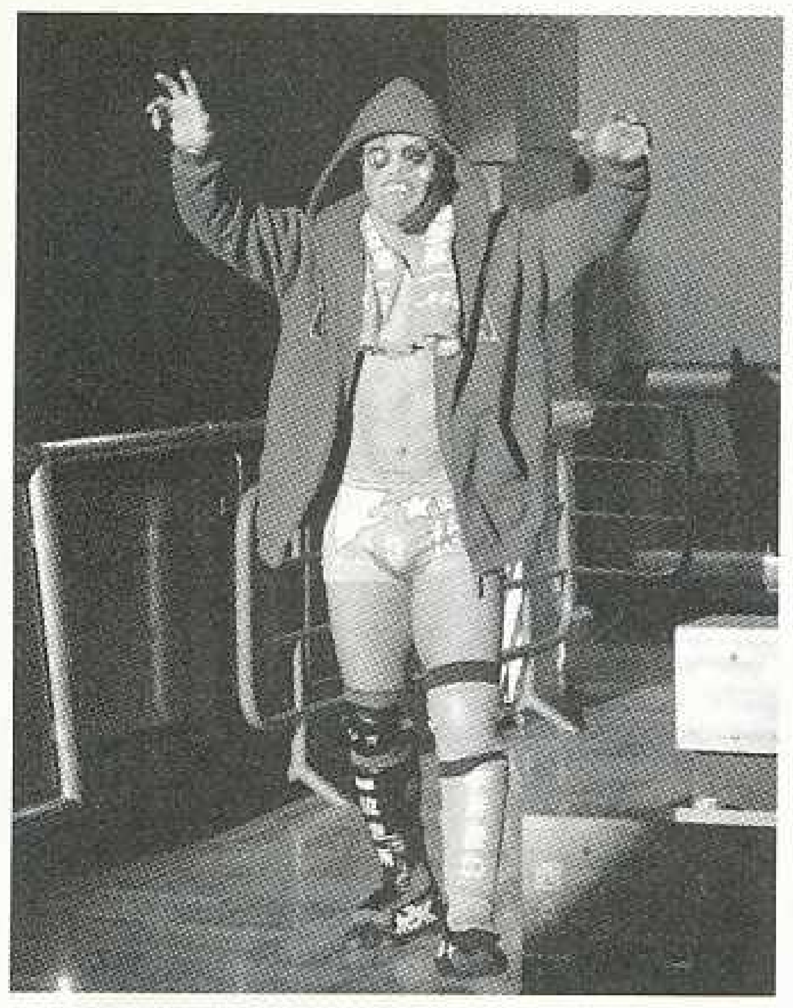
—それは立派な目標ですねえ。

サモハン　そんなんじゃないですけど。でも引退した後もそれならみんな仲間でおれるじゃないですか。みんなでずっと遊びたいからそうしたいだけなんですわ。

—いやでも大したもんですよ。

サモハン　でも僕も介護の仕事もするんですけど、大変ですわ。介護の人って女の人が多いんですけど、僕ら男やし若いからナメられてしもて。ほんで、いい人を求められても、僕そんなんちゃうからツライんですわ……。

—まあそんなこと言わないで頑張ってください！（笑）。一緒に大阪の格闘技界を盛り上げましょう！



コブラ会のエースといえば、言わずと知れた三島☆ド根性ノ助。プロデュース次第ではさらに化ける可能性は大だ。



▶『総合格闘技道場コブラ会』　三島や2002年修斗フェザー級新人王の小松晃などが指導する総合クラスの他、柔術クラスや、元SBイーグル級王者の高野剛が指導する打撃クラスまで幅広くテクニックを修得できるコブラ会。プロレス好きも多いのでレスラー志望者も集合!!　★住所：大阪市福島区吉野4-26-8　TEL.06-6466-6999　オープン時間は18:00〜23:00　http://x-fight.jp/cobra/（サモハンさんの日記もゆっくりと更新中です!!）

9th. GUEST



■**サモハン**（さもはん）本名・竹内竜太
見てみぃ、このツラ&名前！　その筋以外の何者でもなさそうだが、実はこちらが恐縮するほどに腰の低いサモハンさん。コブラ会の活動以外にも、非行少年を更生させることを生きがいとする熱血漢なのだ。

タコヤキ日記

4.25　『PRIDE・GP開幕戦』をPPV観戦。いや、楽しませてもらいました。オーちゃんがどれだけ強いのかはまだ謎のままということで、次回への期待がさらに膨らみました。

4.28　夜、仕事で「スキマスイッチ」というバンドのライブを観に心斎橋へ。アフロヘアの人がカッコよかったです。終演後、慌てて府立第二へ。セミファイナルの長州のタッグマッチにすべり込みセーフ。メイン終了後、ヤドカリ男が乱入。長州に追い掛け回され、リングサイドでスッ転んだ姿に大笑い。その後、ヤドカリ男に焼肉を奢ってもらったのだが、なんでも控え室に戻ろうとした時、イタいファンに「お前、ここに残れ！」と怒鳴られ、ジャケットの袖を掴まれ、破られたとのこと。地元民ながら、大阪のファンは凄いなあ、ホンマ。

3.14　深夜、新日本の東京ドーム大会を地上波観戦。ちょっとPPVで観るほどではないなという判断です。と言いつつ、ここんところ、また新日本の中継を観るようになったのですが、いまはちゃんと面白いですよ、新日本。『紙プロ』でもちゃんと評価してええんちゃうかなと思いました。

原タコヤキ君　このコーナーでは特に関西在住のミュージシャンを募集しております。自薦他薦は問いません。あて先はhara@pulpo.jpまで。

新連載!!

"偽造王"一宮章一の

偽造だもの



武藤敬司、田村潔司、YAWARAちゃん、つい先日は北斗晶の偽造を披露し、対戦相手の佐々木健介を困惑させまくった男"偽造王"一宮章一。今回から毎月連載で一宮の偽造コレクションを御開帳ッ!!

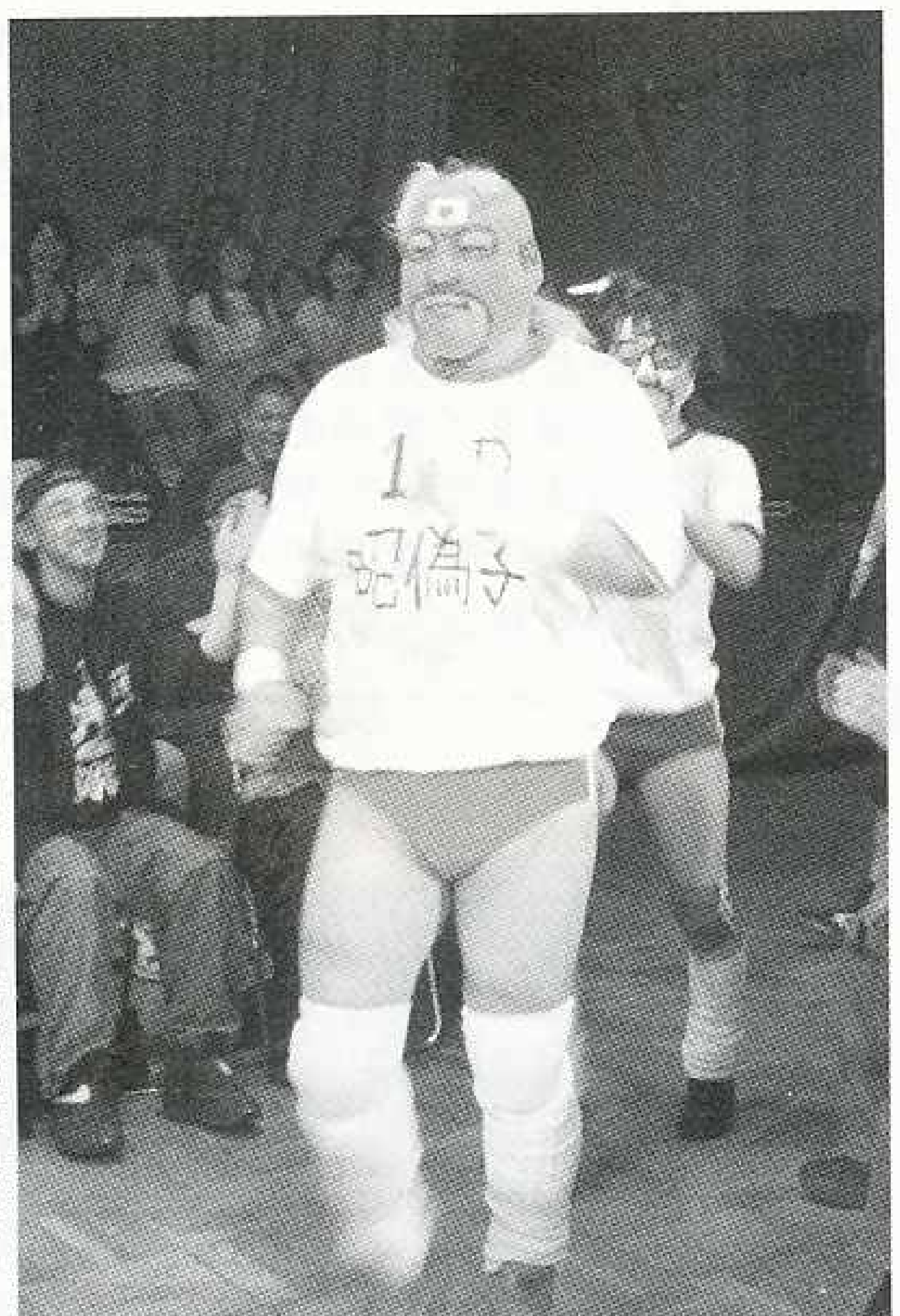
今回の偽造ネタ

「昭和」子
(DDT)

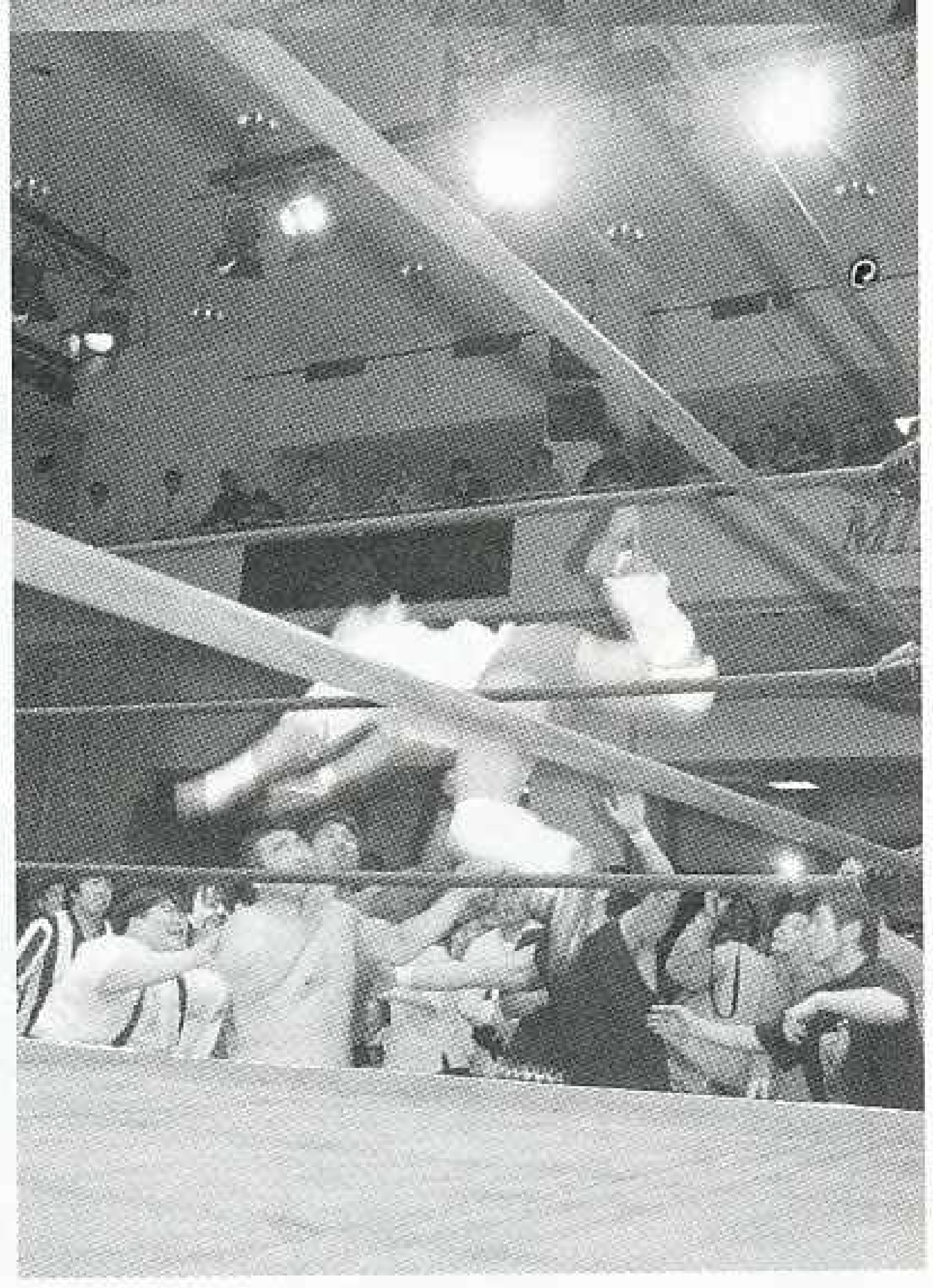
その名は……「昭偽」子



「昭偽」子が登場したのは5・3DD後楽園大会。高木三四郎が対戦相手に「お前らの相手はコイツで十分だ!」と呼び込んだのが「昭和」子ならぬ「昭偽」子だった



偽造をすれば何でもできる！　というわけで、素顔では見ることのできない場外プランチャも「昭和」子になりきれば、ご覧のとおりの華麗（?）なダイブ！



本人評価点 **0**点



本物との2ショット!

『ものまね王座決定戦』バリにご本人との2ショット！　本人に今回の偽造ぶりを評価してもらうと「真似されるのは凄く嬉しいんですけど、0点って言われると悲しいですぅ……」だってさ

こんにちは「昭偽」子で〜す！　……一発目から、しょっぱい偽造ですいません！　お金返します（笑）。

でもね、覆面レスラーってマスク被れば似るだろって思う人も多いだろうけどそうじゃないから。やっぱ、ちゃんとした偽造するには人のマスクを被るんじゃなくて自分のマスクを作ってオリジナリティーを出さないとダメだね。意外と一見さんもわかりやすくていいって言ってたみたいなんですけど、今回、自己評価は0点です！

あと、これは不思議なんだけど、「昭和」子っていう偽造ができたからこそ、場外プランチャも出ちゃうんだよね。本人になりきることによって普段はできない技もできるようになるから。それと、本物の「昭和」子もそうなんだけど、このマスクを被ると開放的な人間になれるね（笑）。素顔の「昭和」子はヤバイ方向に行っちゃうときもあるけど、覆面被ったら●●●●●もやめれるぞ、と（笑）。まあ、そのネタは、よっぽどのマニアしかわからないと思うんだけど、一応、本人を見習って両手首にはガッチリとテーピングも巻いといたからね（笑）。

まあ今回は0点だったけど、反省点を改善して、また「昭偽」子はやりたいなって思いますよ。今回出せなかった「昭和」子の技とかもあるし、もうちょっと痩せれば、「昭和」子以上に「昭和」子の動きもできると思うし（笑）。やっぱりモノマネもそうだけど、偽造っていうのは、余りにも似てないか、あと似すぎているか、それか本人以上のことをやらないといけないっていうのがポイントなんですよ。過剰に表現した方が伝わりやすいんです。

ここ最近、北斗ア偽ラの評判がやたらといいんで、あれ以上のものをお見せできるよう努力します。というわけで来月を楽しみに！　……と自分にプレッシャーをかけときます（笑）。

ザ・検証

みんなが『PRIDE・GP』に走るので、私チョロはド真ん中を独占してきました。何が独占なんだか、さっぱりわかりませんが4・25はWJ横浜大会に行って来ました。何と言ってもメインは長州と佐山タイガーの初激突！ 冗談抜きでホント面白かったですよ。今度こそ、この場から旅立ちま～す！ バイナラ!!

【今月の検証　せき詩郎】
『PRIDE・GP』のコールマンを見て思ったこと

コールマンのことはとりわけ好きというわけではない。かといって、嫌いというわけでもない。つまり、どちらでもない。強いて言うならば、友達のお父さん、といった位置だろうか。

日曜日、友達の家へ遊びに行く。「お邪魔します」そういって家に入ると、茶の間に友達のお父さんの姿を見つける。寝ながらテレビを見ている。ブラウン管に映っているのは、競馬であり、ゴルフであり、プロ野球のデーゲームであり、時間帯によっては『アタック25』だったりもする。

それを本当に見ているのか、もしくは寝ているのかは、ソファに寝転がっている後姿からはわからない。ただ視線の先にはテレビがあることはわかった。

友達のお母さんに会う頻度というのは高い。だがお父さんに会う機会は滅多にない。そのせいなのか、それにお父さんならではの存在感がプラスされるのか、はたまたいつもはいない人がいるという違和感からなのか、友達のお父さんがいると一瞬緊張したものだった。

予想していないところにコールマンがいる。それは絶対に緊張を生むことだろう。教習所行きの送迎バスに乗るとコールマンが乗っていた、タワーレコードで試聴してたら後ろでコールマンが順番待ちをしていた、UFOキャッチャーのガラス越しに、向かい合わせでUFOキャッチャーをしているコールマンと目が合うなど、一瞬緊張を生むはずだ。これだけでも、コールマンと友達のお父さんに共通点があることがわかるだろう。

寝転んでいる友達のお父さんに一言挨拶をして、ソファの後ろを通り、友達の部屋へと行こうとすると、突然呼び止められる。身長はいくつになっただの、悪いことするなだの、好きな子はいるのかなど、質問をしてくる。慣れない敬語で答えると、その答えに納得したのかどうかわからないが、「そうか」と言って、また視線をテレビへと戻す。数秒待って、もう質問はないんだなと判断し、ロットの細いパーマ頭の後頭部を見ながら、友達の部屋へと急ぐ。

そんな怒ってるんだか怒ってないんだかわからない友達のお父さんだが、張り切った姿を見せてくれる時がひとつだけある。それは学校の運動会での父兄参加競技だ。

いつもは物静かで怖い印象しかないのだが、この時だけは一変する。Tシャツの袖をまくりあげ、見慣れない短パン姿でトラックを走り回る。あまりにも張り切るものだから、衝突、転倒やアキレス腱断裂まで、様々な珍プレーを見せてくれる。

『PRIDE・GP』のコールマンを見た時、そんな光景が蘇った。張り切っている。それも並大抵じゃない。俺だって昔は相当だった、まだまだ若いヤツには負けない、今だって相変わらず凄いんだぞ……内に秘められた様々な感情が滲み出ている。まさに友達のお父さんだ。入場時に誇らしげに腰に巻いていた必要以上にでかいベルトも、友達のお父さんがいつも磨いていた愛車のように見えるではないか。

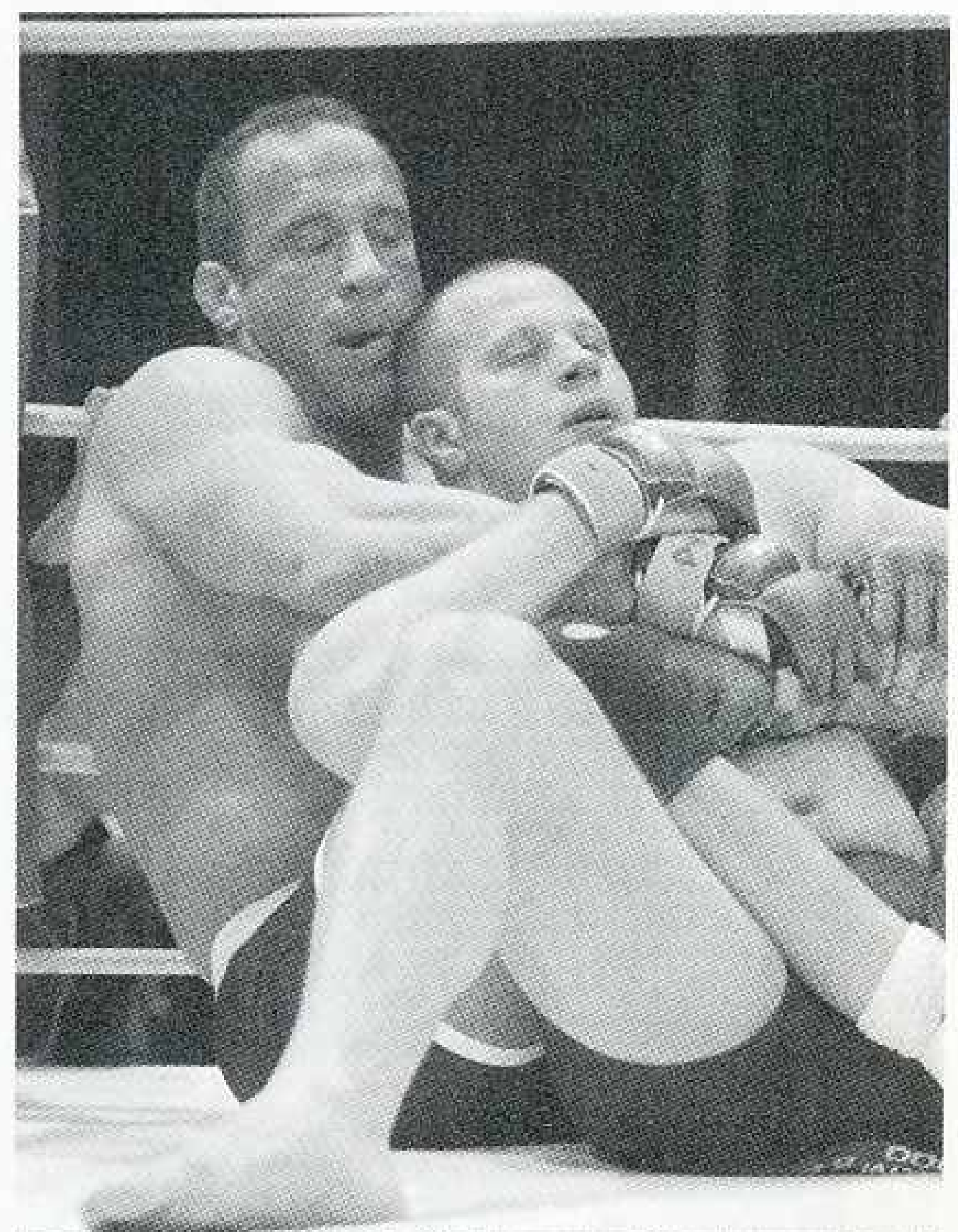
リングアナのコールに両手を高々と挙げるコールマン。レフリーの言葉にひとつひとつうなずく顔は闘志に満ちている。一方、表情を変えずにしらーっとしているヒョードル。まるで無感動な現代の若者のようだ。しらけきった現代っ子に熱いものを教えてやろう、そんなことをコールマンは思っていたかもしれない。

試合を見て、その格闘家がどれくらい、そしてどんな練習をしてきたかがわかるほどの眼は残念ながら私にはない。しかし、最初のタックルからテイクダウンへの動きは、ただ張り切っているだけでは片付けられないことはわかった。攻めまくるコールマンにスタミナ切れをただただ心配したが、そんなことは知らずにコールマンは休まずバックに回り絞めに行った。嫌がる子供を無理矢理抱っこしようとするかのような姿は、まさに親父そのものであった。

コールマンに抱っこされるのがよほど嫌だったのか、ヒョードルはふりはらい、脱出した。だが今日のコールマンはこれで終らない。自分が嫌がられていることを認めず「よしよし、ほら、おじさんのところに来い」と諦めずに抱っこしようとする親父のように、しつこくタックル。またしてもテイクダウンを奪い、「おじさんも昔格闘技やっててな。その時の得意技がこれなんだぞ」と得意のパンチを見せようとしたその時、ヒョードルは下から腕をつかみ取り、「ああ、もう、うるさいおじさんだな」という感じであっという間に腕を極めてしまった。コールマンはそこでタップするしかなかった……。

その試合の数日後、私は友達のお父さんが死んだことを母親に知らされた。好きでも嫌いでもなかったはずだったのだが、少しだけショックを受けた。時が流れていることを改めて感じた。しかし、どんなに時が経とうとも、その友達のお父さんに教えてもらったバイクの運転の仕方だけは、免許など持っていない今でも覚えている。

友達のお父さんが、どういう生き方をして、そういう風に死んだのかはわからない。が、ただ一つわかることは、死んでいないコールマンにはまだ闘うチャンスはいくらでもあるということだけだ。





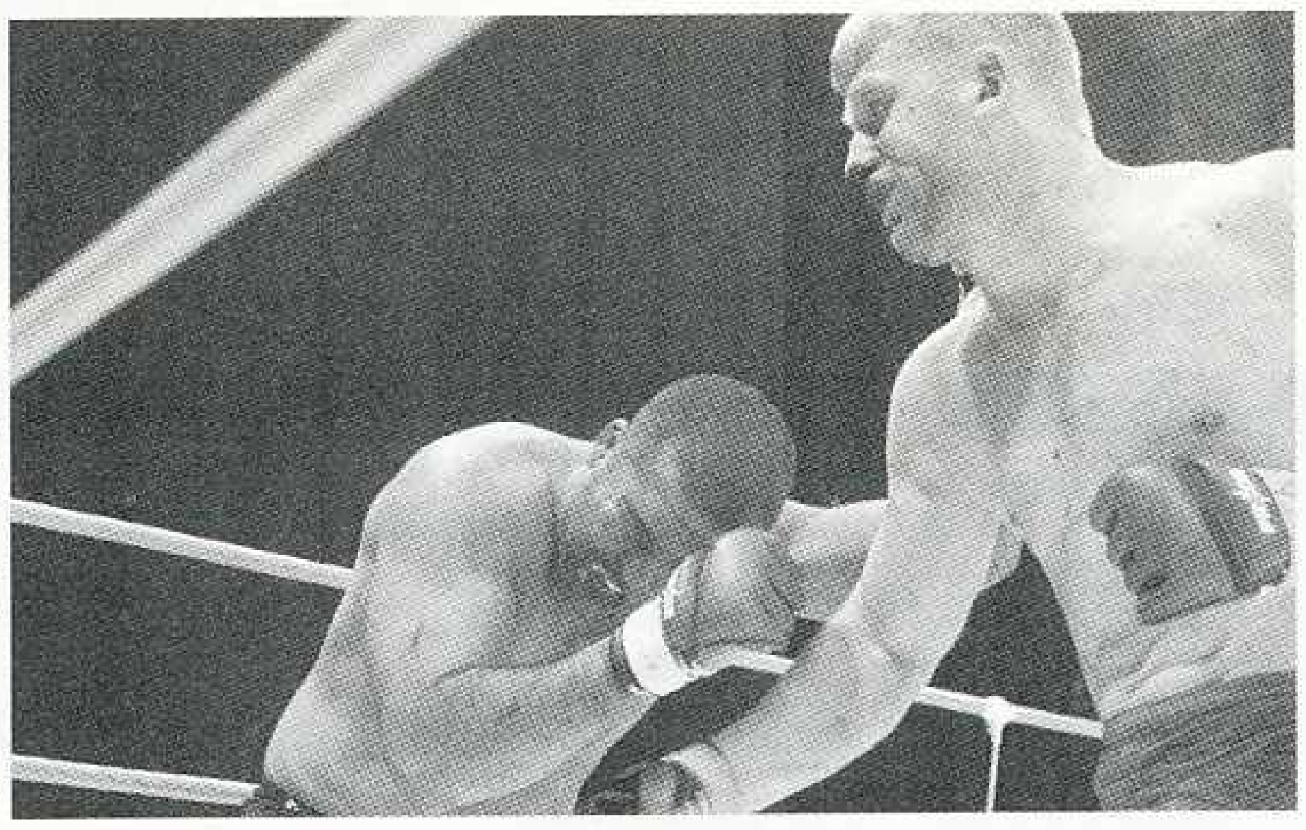
今回の来日では実のお父さんを連れてきたコールマン。いつにも増して気合い十分だったが、ヒョードルの下からの十字で無念のタップ。試合後も尋常ではない悔しがりようだった

【今月の検証　椎名基樹】『PRIDE・GP』の感想

「『PRIDE』はスゲーや！」

『PRIDE・GP』のPPVを一緒に見てた友人と、思わずそう言いながら感心しあった。

かつてこれほどおもしろいTVソフトがあっただろうか？　本気でそう考えた。『仮面ライダー』や、『8時だよ全員集合』や、『たけしのお笑いウルトラクイズ』や、『お笑いスター誕生』や、そして、佐山タイガー全盛期の『ワールドプロレスリング』や、そーいった俺の人生の中で非常に重要なウエイトをしめるTV番組と比べても一番おもしろいのではないかとさえ感じた。なにせ、超人オリンピックが現実ガチで行われているのだ。



ニンジャをこの強烈な右ボディーで、たじろがせたハリトーノフ。一気にGPの裏本命に急浮上！

気になった試合の感想を僭越ながら、書かせていただきます。

第1試合の高橋vsヒーリングは、非常にもったいなかった。作戦をもっとよく練れば、高橋勝利も充分にありえた。先月の『紙プロ』のGP出場者の戦力スカウターでは、ヒーリングの打撃は高得点であったが、俺はヒーリングは打撃が全然できないと感じる。一見、フォームはきれいだが、打てるのは、右のローと、左ジャブ、それに繋がる右ストレートのワンツーのみ。それが全てミット打ちをしているかのよーな、テレフォン打撃に見える。ワンツーを出す時は必ず頭を下げて、相手を見ていない。右ストレートが当たった記憶もない。いつも試合が進むにつれて、打撃のテレフォンが露呈して、どんどんスタンドが手詰まりになって、自分自身に追い込まれていく。田中塾の田中健一氏が「ポジショニングは誰でもできるが、スタンドの打撃はそーはいかない」と語っていたが、確かに打撃は才能が凄くはっきりした形で表れる分野に思える。そして、ヒーリングは「できない側」の人間のよーに感じるのだ。つまり「顔面打撃怖い怖い人間」じゃないかと。

それを考えると、なぜ高橋は、あそこでギロチンチョークなどいってしまったのだろう？　もしくは、いく状況を作ってしまったのだろう？　「顔面怖い怖い人間」じゃない。高橋はボクシングの技術はしっかりしている。しかも、絶対にヒーリングより上だ。しかも、高橋が元々はレスリング選手。もし、実績のあるミルコ戦術で闘っていたら、日本人2回戦一番乗りと、この日一番のセンセーションを巻き起こしていたかもしれない。

ヒーリングとは逆に、打撃のセンスを見せつけたのは、ハリトーノフだ。聞けば、ハリトーノフは打撃の練習はまったくやっておらず、テレビで見て見よう見まねでボクシングをしたとか。その真偽はともかくとして、ヒーリングとは正に正反対で、見かけは悪いが、センス抜群のスタンドで、スタンドの専門家シュート・ボクセの選手を殴り倒してしまった。打撃のセンスを感じさせる技として、左フックがある。相手の出鼻をカウンターで止める左フック。飛び込んでいっての左フック（ダブルで打たれたりするとカッコ良くて、感動してしまう）。ハリトーノフは特に前者の左フックが絶妙で、相手を最後まで見られているのがよくわかり、顔面怖い怖い病とは逆の人種だと感じさせる。最後の方は調子に乗って、右ボディーフックから、左顔面フックの対角線コンビや、アッパーまで繰り出し、とても素人とは思えないストライカーぶりであった。打撃から寝技への移行など、総合の戦術としてのバランスに疑問が残るが、そのセンスや上背なども考えると、大会前に予想したよーに、GPの単なるダークホースから、裏本命的な存在に格上げされた感じだ。

ハリトーノフと同じく、ワイルドカードとして存在を強くしたのは、小川であろう。スタンドでアグレッシブな姿勢をとり、K-1の選手に圧力をかけきってしまい、フィニッシュは肩固めとアジな技であった。相手は総合初挑戦の選手で、トップどころと闘った場合未知数のところがあるが、またそれが逆に底が知れない実力も感じさせる。

ともかく日本人で唯一2回戦に残ったわけで、ミドルの吉田に続き、柔道家がGPの救世主となった。そして、とにもかくにも小川が入場した時の4万人以上の大歓声は、会場で味わいたいとつくづく思った瞬間であった（でも、さいたまスーパーアリーナ遠くてねえ……）。

そして、この日一番のセンセーションは、言わずもがな、ミルコの敗戦だ。しかし、一度の敗戦がこーも運命を変えてしまうかと、格闘技の恐ろしさをつくづく感じる。ちょっと前までは、どーやったらミルコを倒せるのか、誰もが出口の見えない迷路の中にいるみたいに、思考を巡らせていたっていうのに。しかし、こーなって思うことは、後出しジャンケンではあるが、今の総合で穴があったら勝ち続けることは不可能だってことだ。ミルコの穴は、もちろん寝技が全然できないってことだ。全然できないと書くと語弊があるだろーが、現在の『PRIDE』の上位レベルからいうと、全然できないといってもいいレベルだろう。

寝技への不安や恐怖心が、キックボクサーがレスラーにKOされる隙を作ってしまうのだから、つくづく総合の複雑さとおもしろさを思う。それにしても、戦術を失ったミルコは、これから迷宮に迷っていくのだろうか？　総合とはつまりスタイルの確立で、ミルコが寝技を修得していったとしても、ボブチャンチンのようにただ迫力を削られてしまう可能性も大きい。しかし、総合のファイターとしてやっていくなら、やはり寝技を修得していくしかなく、ミルコがどんなスタイルを確立していくのか、もしくはいけるのか興味は大きい。とにかく、ミルコが総合の魅力に取り憑かれ、キックボクサーに戻らないで欲しいと思う。でも、最初の胴タックルは結局ブレイクになったワケだし、寝技にもっと安心感を持てれば、基本戦術は変わらないだろーな。あの日のミルコは、明らかに狙い過ぎで、手数が少なすぎた。

ノゲイラに大善戦して大いに株を上げた横井であるが、横井の打撃もまた、ノゲイラと比較すると大穴だと感じた。ノゲイラに落ち着かれて、打撃で勝負され出すと、途端に「打つ手無しヤムなし」の袋小路に陥り、必然的にムリなタックルをせざるを得なくなってしまった。それからするとあの試合は見かけ以上に実力の差があったよーに思える。しかし、ハリトーノフvsニンジャと並び、横井の闘いはあの日のベストバウトで、様々な局面が見られた点において、まさしく総合のベストバウトといってよく、俺も興奮させられました。横井の可能性に大きく期待。

に、してもノゲイラのフィニッシュ何だあれ？　正に柔術マジシャン！　カッコ良すぎ。あと、この日一番仕上がりがいいと感じたのがノゲイラで、あの痩けた頬。ハードなトレーニングを積んできたんだろーなーと思わせた。あともう一つ、ノゲイラ入場式の時、髪の毛長かったのに、試合の時坊主になっていなかった？　控室でバリカン入れたの？　それとも入場式にいたのは、弟？

一方、穴を感じさせなかったのがヒョードル。総合のフィニッシュで久々に見る下からの十字であったが、あんなに速くちゃ取られるのもやむなし。しかし、コールマンは下から取られるのが様になっているなー。ベスト下から取られニスト。いや、すごーく強いんですけどね。とにかく、ヒョードルは下からも怖いことを充分にアピールした。

そして、最後にもっとも気になった試合が、ジャイアント・シルバvs戦闘竜。戦闘竜の可愛さ（あの体型、瞳、お腹しか届かないパウンド？）は置いとくとして、あの試合だけ、他と比べ著しくレベルが低くないか？　シルバはうかつに勝ち上がってしまい、勝ち上がった他のものスゴすぎる連中とやると思うと、取り返しがつかない事態が起こってしまわないか、身を案じてしまうのは、俺だけでしょーか？

RADICAL CALENDAR

05 May

15 SAT.
ZERO-ONE■和歌山・和歌山県体育館(18:30)
全日本■長野・東御中央公園第二体育館(18:00)
みちプロ■徳島・鷲敷町民体育館(18:30)
闘龍門■愛媛・アイテムえひめ(18:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
全女■北海道・札幌テイセンホール(18:30)

16 SUN.
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール(12:30)
全日本■群馬・群馬県総合スポーツセンター サブアリーナ(17:00)
NOAH■埼玉・本川越ペペホール・アトラス(16:00)
闘龍門■広島・ふくやま産業交流館ビッグローズ(16:00)
DDT■大阪・デルフィンアリーナ(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
SPWF■千葉・SPWF道場(14:00)
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館 第3競技場(13:15)
WAP(レッスルエイド)■東京・ディファ有明(16:00)
全女■北海道・札幌テイセンホール(18:30)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(13:00)
NEO■東京・東京キネマ倶楽部(17:00)
JDスター■東京・新木場1st RING(12:30)
全日本キック■東京・後楽園ホール
SMACK GIRL■東京・ゴールドジム大森(14:00)&(16:00)

17 MON.
みちプロ■鹿児島・川内市サンアリーナせんだい(18:30)

18 TUE.
全日本■宮城・三本木町民総合体育館(18:30)
NOAH■新潟・新潟市体育館(18:30)
みちプロ■鹿児島・国分市屋内運動場(18:30)

19 WED.
全日本■岩手・北上市和賀多目的催事場(18:30)
NOAH■富山・富山産業展示館テクノホール(18:00)
みちプロ■熊本・熊本興南会館(18:30)
AtoZ■秋田・秋田市立体育館(18:30)

20 THU.
みちプロ■長崎・島原市復興アリーナ(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)

21 FRI.
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール(18:30)
全日本■福島・富岡町総合体育館(18:30)
NOAH■仙台・宮城県スポーツセンター(18:30)
みちプロ■熊本・山鹿市民センター(18:30)
DEMOLITION■東京・北沢タウンホール(18:30)

22 SAT.
新日本■神奈川・大和スポーツセンター(18:30)
全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
NOAH■青森・青森産業会館(18:00)
みちプロ■福岡・甘木市甘木青果市場(18:00)
闘龍門■愛知・津島市文化会館(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
AtoZ■埼玉・秩父市文化体育センター(18:30)
ROMANEX(K-1 MMA)■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(17:00)

23 SUN.
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
NOAH■北海道・函館市民体育館(17:00)
闘龍門■東京・ディファ有明(16:00)
新宿プロ■東京・歌舞伎町クラブハイツ(19:00)
大日本■静岡・ツインメッセ静岡(15:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(13:00)&(17:00)
JDスター■東京・後楽園ホール(12:00)
M's Style■岐阜・岐阜商工会議所会館2階大ホール(18:30)
AtoZ■東京・AtoZ江戸川道場(13:00)
PRIDE武士道■神奈川・横浜アリーナ(17:00)

25 TUE.
新日本■長野・東御市ふれあい体育館(18:30)
ZERO-ONE■石川・石川県産業展示場 2号館(18:30)
NOAH■北海道・旭川地場産業振興センター(18:30)
K-DOJO■千葉・流山市総合体育館(19:00)

26 WED.
新日本■静岡・キラメッセぬまづ(18:30)
NOAH■北海道・紋別市スポーツセンター(18:30)

27 THU.
WJ■東京・後楽園ホール(18:30)
PWC■東京・北沢タウンホール(18:45)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)

28 FRI.
新日本■愛知・豊田市体育館(18:30)
ZERO-ONE■千葉・千葉公園体育館(18:30)
NOAH■北海道・鳥取ドーム(18:30)
PWC■東京・北沢タウンホール(18:45)
パンクラス■東京・後楽園ホール(18:30)

29 SAT.
新日本■埼玉・草加市スポーツ健康都市記念体育館(18:30)
ZERO-ONE■茨城・水戸市民体育館(18:30)
闘龍門■岡山・倉敷山陽ハイツ体育館(18:00)
DDT■東京・北沢タウンホール(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■埼玉・深谷市民体育館(19:00)
全女■北海道・鳥取ドーム(18:30)
GAEA■大阪・大阪ドーム スカイホール(18:30)

30 SUN.
新日本■千葉・幕張メッセ国際展示場11ホール(15:00)
ZERO-ONE■青森・弘前市河西体育センター(18:30)
全日本■兵庫・神戸サンボーホール(17:00)
NOAH■北海道・札幌テイセンホール(15:00)
闘龍門■島根・松江くにびきメッセ(16:00)
DDT■東京・北沢タウンホール(17:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
ターザン後藤一派■埼玉・春日部インディーズアリーナ(14:00)
GAEA■広島・ベスト電器広島本店7Fホール(16:00)
JDスター■大阪・NGKスタジオ(16:00)
JWP■東京・バトルスフィア東京(17:00)
LLPW■東京・後楽園ホール(12:30)
新日本キック■東京・後楽園ホール(17:00)
一撃■東京・日本武道館(15:00)

06 June

01 TUE.
新日本■三重・鳥羽市民体育館(18:30)
全日本■高知・高知県民体育館(18:30)
NOAH■北海道・月寒グリーンドーム(18:30)
ZERO-ONE■山形・山形市総合スポーツセンター(18:30)
闘龍門■広島・広島県立総合体育館 グリーンアリーナ(18:30)

02 WED.
新日本■岐阜・プラザちゅうたい(18:30)
全日本■和歌山・田辺ハナヨアリーナ(18:30)
ZERO-ONE■秋田・秋田市立茨島体育館(18:30)

03 THU.
全日本■岐阜・プラザちゅうたい(18:30)
NOAH■青森・弘前市河西体育センター(18:30)

04 FRI.
新日本■香川・高松市総合体育館(18:30)
ZERO-ONE■青森・八戸市民体育館(18:30)
闘龍門■愛知・豊橋市総合体育館第二競技場(18:30)
シュートボクシング■東京・後楽園ホール(17:30)

05 SAT.
新日本■大阪・大阪府立体育会館(18:00)
全日本■新潟・新潟市体育館(18:00)
ZERO-ONE■福島・福島市体育館(18:30)
闘龍門■埼玉・越谷桂スタジオ(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

06 SUN.
新日本■岡山・津山市総合体育館(15:00)
全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
闘龍門■埼玉・本川越ペペホールアトラス(18:30)
バトラーツ■埼玉・桂スタジオ(17:00)
DDT■千葉・BlueField(15:00)
666■東京・バトルスフィア東京(18:06)
JWP■東京・JWP道場マッチ(14:00)
JDスター■東京・新木場1st RING(18:00)
K-1 WORLD GP■愛知・名古屋レインボーホール(15:00)
Love Impact■東京・お台場SDM(16:00)
MAキック(真樹ジム主宰)■東京・ディファ有明(18:00)

07 MON.
新日本■島根・松江市総合体育館(18:30)
ZERO-ONE■群馬・伊勢崎市第二市民体育館(18:30)

08 TUE.
新日本■愛媛・テクスポート今治(18:30)
ZERO-ONE■千葉・茂原市民体育館(18:30)

09 WED.
新日本■岡山・水島緑地福田公園体育館(18:30)
全日本■石川・石川県産業展示館(18:30)
JDスター■東京・新木場1st RING(18:00)

10 THU.
全日本■長野・塩尻市立体育館(18:30)

11 FRI.
新日本■兵庫・高砂市総合体育館(18:30)
NOAH■東京・後楽園ホール(18:30)

12 SAT.
新日本■三重・四日市市体育館(18:00)
全日本■愛知・愛知県体育館(18:30)
みちプロ■宮城・仙台市ニューワールドテニスクラブ(18:30)
闘龍門■三重・ゆめドームうえの(18:30)
大阪プロ■大阪・IMPホール(18:00)

13 SUN.
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
みちプロ■山形・山形市総合スポーツセンター(15:00)
闘龍門■長野・佐久市総合体育館(17:00)
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館 第3競技場(13:15)
JDスター■東京・新木場1st RING(12:30)
NEO■東京・東京キネマ倶楽部(13:00)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(17:00)
女闘美X■東京・バトルスフィア東京(16:00)

14 MON.
WWS■群馬・伊勢崎市第二市民体育館(18:30)

16 WED.
DDT■東京・北沢タウンホール(18:30)
AtoZ■東京・後楽園ホール(18:30)

17 THU.
ZERO-ONE■宮城・宮城県スポーツセンター(18:30)
WJ■滋賀・滋賀県立文化産業交流会館(18:30)

18 FRI.
闘龍門■愛知・小牧パークアリーナ(18:30)
みちプロ■北海道・北見市立東地区トレーニングセンター(18:30)
全日本キック■東京・後楽園ホール

19 SAT.
みちプロ■北海道・札幌テイセンホール(18:30)
闘龍門■東京・八王子市民会館(18:30)
WJ■長崎・長崎市平和会館ホール(18:30)
NEO■東京・北沢タウンホール(18:30)
U-FILE 10■東京・西調布格闘技アリーナ(18:30)
SMACK GIRL■大阪・アゼリア大正(17:00)

20 SUN.
闘龍門■東京・ディファ有明(16:00)
WJ■佐賀・ウェルサンピア伊万里(17:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(13:00)&(18:00)
JWP■東京・八王子市民会館(13:00)
LLPW■福岡・地場産くるめ(18:00)
PRIDE・GP■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(15:00)

21 MON.
闘龍門■静岡・キラメッセ沼津(18:30)
WJ■熊本・興南会館(18:30)

22 TUE.
パンクラス■東京・後楽園ホール(18:30)

23 WED.
NOAH■大阪・大阪府立体育会館第二競技場(18:00)

25 FRI.
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール(18:30)
NOAH■広島・広島県立総合体育館 小ホール(18:00)

26 SAT.
ZERO-ONE■長野・駒ヶ根市体育館(18:00)
NOAH■京都・KBSホール(18:00)
闘龍門■愛媛・テクスポート今治(18:30)
JDスター■東京・新木場1st RING(18:00)
NEO■東京・赤塚公会堂(18:30)

27 SUN.
ZERO-ONE■栃木・矢板市農業トレーニングセンター(16:00)
NOAH■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■福岡・博多スターレーン(18:00)
大日本■東京・後楽園ホール(12:00)
DDT■愛知・名古屋中スポーツセンター(15:00)
T.A.M.A.■広島・福山蚕業交流館 ビッグローズ(14:00)
Girls SHOCK■東京・ニューピアホール(15:00)

28 MON.
PWC■東京・北沢タウンホール(18:45)

29 TUE.
NOAH■盛岡・岩手県営体育館(18:30)
闘龍門■鳥取・鳥取産業体育館(18:30)
PWC■東京・北沢タウンホール(18:45)

30 WED.
NOAH■宮城・塩釜市体育館サブアリーナ(18:30)

武藤敬司

新生『C・カーニバル』成功＆優勝!



地上波TV獲得、反撃準備完了!
武藤・全日本がいよいよ勝負に出る!!

真夏の富士急ハイランドに闘魂三銃士集結へ!!

武藤・全日本が、いよいよ勝負に出る！　4月から念願の地上波テレビ放送も始まり、4・20代々木大会も満員の盛況で、ようやく追い風が吹いてきた感がある全日本が、「武藤敬司デビュー20周年」を記念して、真夏のビッグイベントを企画しているという。そこで噂される闘魂三銃士揃い踏みが実現するのか？　武藤を直撃した！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／森モーリー鷹博　試合写真（4・20）／平工幸雄
designed by さおとめの事務所

武藤敬司

サップがIWGP取っても全然脅威じゃない。だってプロレスやってても集客しねぇじゃん！

武藤　う〜〜（ソファーでのびをしながら突然）、あ、痛ぇ痛ぇ、体中つった！

——大丈夫ですか！（笑）。

武藤　痛タタタタ、やっぱ疲れたまってんなぁ〜。

——『チャンピオン・カーニバル』の連戦はやはりキツかったですか？

武藤　っていうかさ、俺、カーニバル終わってから、なんだかんだで一日も休んでないよ。今日だって、午前中に博多から帰ってきてすぐ取材だからね。

——お疲れのところ恐縮です（笑）。

武藤　で、今日は何の話？

——業界最大手の新日本プロレス、東京ドーム大会がK—1におんぶにだっこのような今だからこそ、改めて武藤さんにプロレスの進むべき道をお伺いしようかと。

武藤　そんな、プロレス界全体とか、他のとこ構ってらんねぇよ。俺らゴーイング・マイ・ウェイでいくしかねぇって。

——では格闘技の方が支持されてる風潮についてどう思われますか？

武藤　全然関係ないよ。ホント、プロレスよりプロ野球が支持されてるって言われるぐらい関係ない。それぐらい違うものなのに、なんで交えようとするのかわかんねぇ。

——でも、いまプロレス業界では、あの保守本流の『ゴング』ですら新日本とK—1中心の紙面になってたりするじゃないですか。

武藤　そうは言っても、サップがIWGPを獲ったことも別に脅威に思ったりしないもんな。サップがプロレスやっても、あんまり集客しねぇじゃん。プロレスラーとして、人の心に訴える〝作品〟っていうものが少なすぎるんだろうな。やっぱ俺たちプロレスラーっていうのは職人であり、職人としていい作品作ってファンに喜んでもらうことに誇りを持ってるからね。

——そういう意味では、今の新日本プロレスは全く別の方向に行ってますよね。

武藤　まぁ、ウチより大きくて、同じ「プロレス」っていう冠がつく団体にそういうことをされると、どうしてもこっちもとばっちり受けるよな。余計な火の粉を振り払うの大変だよ。でもさぁ、ヨソ様のことはあんま言いたくないけど、今から格闘技の練習したって、本職には適わないぜ。K—1や『PRIDE』の連中がちょっと練習してもプロレスしょっぱいのと一緒だよ。

——そうですよね。

武藤　だからさ、橋本んとこの横井（宏孝）なんかも『PRIDE』でいい勝負したんでしょ？　それはそれで素晴らしいと思うけど、それならしばらく向こうに専念した方がいいと思うよ。だって、プロレスと平行してたら弱くなっちまうぞ！

——プロレスやってたら弱くなる！（笑）。

武藤　いや、変な意味じゃなくてさ、巡業行ってたら（総合格闘技の）練習時間取れねぇじゃん。かといってプロレスだって片手間にできるもんじゃないしね。

——プロレスも格闘技も片手間にできるような簡単なものじゃないってことですよね。そういう意味では、今の全日本は地道にプロレスを追求し続けてきて、ようやく武藤さんのやりたいことが形になってきたんじゃないですか？



武藤　いや〜、そんなこともないよ。外面（そとづら）だけだよ。

——でも、対外的に外面ができただけでも大きいことなんじゃないですか？

武藤　そうだね。ぶっちゃけた話、多くの人に助けられて、何が一番よかったって、やっぱり地上波のテレビ。

——4月からスタートしたテレビ東京『夜のシャイニング・インパクト』ですね。

武藤　うん。それが付いたっていうことは自分たちの自信にもなったし、かつ『チャンピオン・カーニバル』も、何だかんだ言われながら、結果オーライだったっていうのも自信になったしね。

——イベント自体の評判はいいですよね。

武藤　外面だけはね。

——内情はともかく（笑）。

武藤　テレビの方も一回目の視聴率が0.8%だったけど、その次が1.2%で、だんだん上がってるんだよ。関東ローカルだったのが、九州でも観れるようになったしね。それに、今までのテレビとプロレスの関係って、新日本さん的っていうか、要はタニマチじゃない。

——放送されることの効果以上に、放映権料を払ってくれる、団体経営の命綱という意味合いが強いということですよね。

武藤　そうそう、でもオレらはイーブンの力でやってきたっていうのが自信になってるよね。



武藤の『C・カーニバル』決勝の相手は、リーグ戦で時間切れ引き分けだった健介。コンディションの違いは明白だったが、武藤は奥の手ムーンサルトプレスで逆転勝ち！

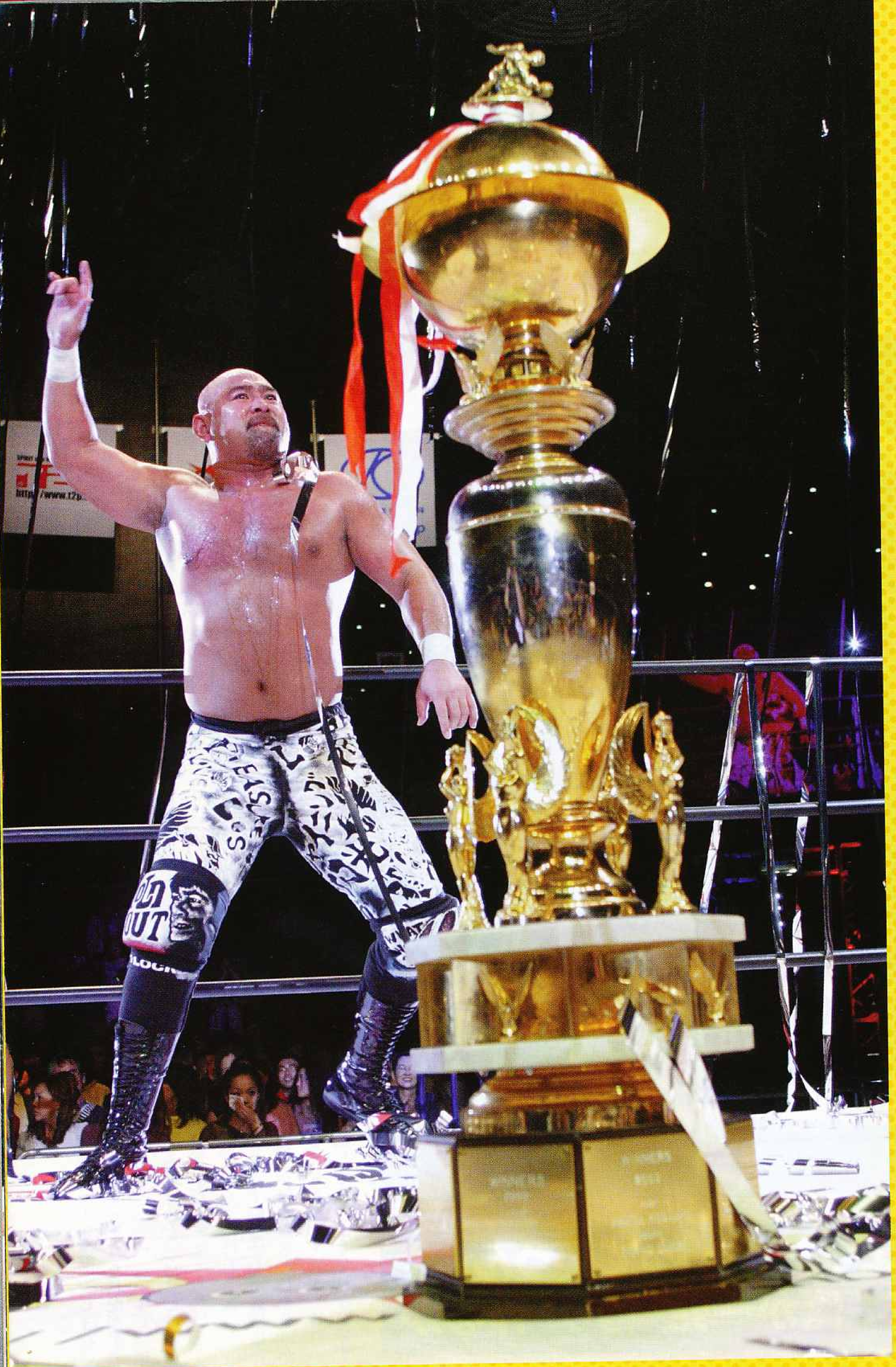


準決勝で対戦した大森は、ゼロワン3周年大会のときとは打って代わり、場外への奈落アックスギロチンまで繰り出したが、武藤は久々のフランケン・シュタイナーでピン。

新日本の中にも「ガチンコなんかやりたくねぇよ」っていうヤツらが多いんじゃないの？

——武藤さんは放映権料を期待するというより、テレビをきっかけに全日本を展開していきたいっていう考えなわけですね。

武藤 だから、ある意味では博打的なところもあるけどさ。いまのところ少しずつ効果が表れてきた。『チャンピオン・カーニバル』って当日券が凄く伸びたんだけど、その何%かはテレビの力があったのかもしれないし。やっぱ、いくら俺らがいい試合したって、そこで試合をやってるっていうことを分かってくんなかったら、誰も来ないからね（笑）。そういう意味でテレビがついたのは大きいですよ。



都内5連戦の短期集中興行に生まれ変わった『チャンピオン・カーニバル』は、決勝で健介を破った武藤が優勝。最終戦の代々木第2は満員の観客で埋まり、成功を収めた。

——興行の方も4・20代々木大会は予想以上……といったら失礼ですけど（笑）、多くのファンが詰めかけましたし、会場の雰囲気も以前から武藤さんが言われているような、新しい全日本のイメージになってきたんじゃないですか？

武藤 うんうん。あの代々木（第2）体育館っていうのが、スゲェ使いやすい会場だなって、改めて感じたよね。あの広さとかさ。やっぱりこっちは表現する世界であって、遠くの人にも見て欲しいっていう気持ちがあるからね。あのぐらいのキャパがプロレスにマッチしてる感じがするよ。

——ライブ・プロレスとしては文句なしの会場ですよね。

武藤 日本武道館とか東京ドームとかと比べたらコンパクトというか、演出とかもキレイにできるじゃない。今回も少ない予算でいい演出ができたよ。

——では、これからはこの代々木が全日本の〝聖地〟みたいな感じになるわけですか？

武藤 いや、代々木体育館もやるけど、全日本が両国を手掛けたら、どういう試合になるかもやってみたいし。いずれは日本武道館に帰って来たいっていうのもあるし。ちょっと力つけたら横浜アリーナとか、さいたまスーパーアリーナに進出したい欲もあるからね。そのためには、代々木ぐらいの会場を毎回真剣勝負で埋めてくしかないよね。

——その代々木大会では、中西選手が乱入したり、後楽園には永田選手が来たりとかありましたけど、それって新日本プロレスがK—1に寄っていってることに対するアンチテーゼだったりするんですかね？

武藤 そんなもん本人じゃねぇからわかんねぇよ（笑）。ただ、新日本の中にも「ガチンコなんかやりたくねぇよ」っていうのもあるんじゃないの？

——きっとそれはあるんでしょうね。もともと武藤さんもそういった格闘技への流れを察知して、新日本を離れた部分もあるわけですからね。

武藤 まあね。だから今思うと、もう少し様子見て、プロレスだけやりたいヤツみんなに声掛けて、そいつら全員連れてくればよかったな～なんて思ったり（笑）。

——それこそ〝大量離脱〟になっていたかもしれない（笑）。

武藤 ジョーダンだよ（笑）。

——でも今になって、自然に集まって来てるんじゃないですか？

武藤 いやぁ、偶然が重なっただけだよ。高



『PRIDE・GP』と同日の4月25日、負傷欠場の川田利明に代わり、ZERO－ONE博多大会に出場し、破壊王と10年ぶりにタッグを結成した武藤。これは来るべき三銃士再結成の布石となるのか？

田総統も後楽園に来てくれたけど『ハッスル』絡みだし、新日本だって（5・3）ドームがあるからだろうし。

──みんな宣伝のために集まりましたか（笑）。

武藤　理由はどうあれ、いろんな人に花を添えてもらってありがたいよ。恐らくギャラもそんなに発生してない状態でね（笑）。ただこればっかりは、自分たちが仕掛けてるアレじゃないし、オレたちの実力じゃないからさ。その辺がこれから考えなきゃならないとこだよね。本来なら自力でいきたいしさ。

──例えば、川田選手のケガもあって、昨日は10年ぶりに武藤&橋本組が実現しました。これはプロレス復興へこれから勝負をかけるというノロシだったりしませんか？

武藤　そこまで大それたことじゃないよ。自分たちのやりたい世界を、みんなで作り上げていく過程だよね。ZERO－ONEがなくても、オレはあの日『LEGLOCK』のオープンで博多にいたんだから。たまたまなんだよ。ただ、『マーフィーの法則』じゃないけど、必然的に橋本と組むような状況が生まれたことは確かだよな。

──やっぱり厄年を明けると、自然といいように回転していきますね（笑）。

武藤　表面（おもてづら）だけね（笑）。

──今度はトークショーで三銃士が集結したりとか、また三銃士が何かやるんじゃないかっていう気運が徐々に高まってます。これってご本人達は意識してないかもしれないですけど、「プロレスを盛り上げて欲しい」っていう潜在的なニーズがあるような気がするんですけど。

武藤　さっきの『マーフィーの法則』じゃないけど、そういったことの延長で、何かしら自然にそういう仕事が入るっていう不思議な感じもあるよね。当日、どんなプランニングが出るのか分かんねぇけど、「何かしなきゃいけねぇのかなあ」っていう気はするよ。ただ、俺だって全日本の社長とか言ってるけど、まだ「プロレスラー武藤敬司」の比重が強いじゃないですか。橋本然り、蝶野然りね。だから俺たち3人集まってっていうより、ウチの渡辺（秀幸＝全日本取締役）と中村祥之（ZERO－ONE渉外部長）、上井さん（新日本執行役員）が集まらなかったら、何も生まれない気がしないでもない。一部、仲が悪い関係もあるから、いろいろ難しいだろうけどね（笑）。

──難しいでしょうね（笑）。でも、三銃士が顔を揃えることが、そういうものの突破口にもなったりもするんじゃないですか？

武藤　プランニング次第だよね。それを手掛ける人がいるのか、それとも俺たち3人でやるのか、それで全然違ってくるだろうし。

──いまは橋本さんとタッグを組んだり闘ったりしてますが、プロレス界を盛り上げるには、そこにプラス蝶野さんの力が必要だとお考えですか？

武藤　どうなんだろうな。三銃士がくっついて、ホントに盛り上がんの？っていう気もするし。

──やり方次第でしょうね。ただ突然「3人が組みました」というのじゃなしに、それによって新しい流れが生まれるようなら盛り上がると思います。

武藤　そうだよな。ただ三銃士がくっついたっていうのは、つまらねぇからな。やっぱり俺や橋本、蝶野の3人が抱えてるモノもひっくるめて、全てくっつかないと何らかのムーブメントは起きないってことでしょ？

ただ「三銃士が集まりました」っていうんじゃつまらねぇ。じゃあ、俺が一発“借り”作るか

ぶっちゃけプロレスの哲学に関しては日本一どころか世界一だっていう自信があるからね！

――3人がそれぞれ一国一城の主であれば、より意味があるでしょうね。

武藤　じゃあこの際さぁ、富士急（ハイランド・コニファーフォレスト）でやろうか。（3人のデビュー）20周年興行かなんかを俺が一回やっといて、あいつらに〝借り〟を作ればいいんだな。

――いいですね！　大きな渦を起こすために、まず一歩踏み出すと。

武藤　だから誰が言い出しっぺで借りを作るかなんだよな。借りを作ったら返さなきゃいけねぇんだから。一発借りを作って「おまえ、出てこいよ」っていうのも有りだなって思うんだよ。そこで誰が一番早く手を上げるかだよな。

――一番は得ですよ、絶対。

武藤　そう？　じゃあ借りつくろうかな。それ持ち上げてみよう。

――いま「富士急」っていう具体的な名前が出てきましたけど、もうすでに何らかの動きがあるということですか？

武藤　いや、『富士急ハイランド』って、いま俺がCMやってんじゃん。

――あ、そういうこと（笑）。

武藤　それにあそこは俺の地元だしね。

――でも「富士急」で三銃士が真夏のイベントをやるっていうのはいいですね。って勝手に〝真夏〟と決めてるんですけど（笑）。

武藤　いや、やるなら夏だよ、夏。でも俺ら3人が一緒になると、野外なのに台風とか来そうなんだよな～。

――ダハハハ、そういえば闘魂三銃士の凱旋帰国だった有明コロシアム（88年7月29日）も雨でしたよね（笑）。

武藤　な～んか、そういうこと多いんだよ。まぁ、でもちょっと無理してでも、やる時期に来てるのかもしれないしね。よし、借りをつくっておこう！　成り行きでどうなるか分かんねぇけど、敢えて俺から仕掛けていこう。

――期待してますよ！　それとは別に、いろんな団体から集まれる舞台に『ハッスル』がありますけど、武藤さんはどのようにご覧になってますか？



今年の1・4ドームでまさかの新日Uターンをはたし、タッグで蝶野と対戦した武藤。次に2人がリングに揃うときは、かつての名タッグ復活か!?

武藤　『ハッスル』については、『W―1』の音頭をとったオレ的にはさ、乗れない気持ちがあるよな。

――「本来なら、アレは俺がやりたかった」と。

武藤　いや、アレは俺がやりたかったこと と、ちょっと違うかもしんない。

――どの辺が違いますか？

武藤　あんまり観てねぇから何とも言えねぇけど、評判とか聞くと、お客が満足して帰ってない気がするんだよなぁ。俺はプロレスラーとして、そこに20年費やして一生懸命頑張ってきたじゃない。だからさ、多分ああいう仕掛けっていうものは、テレビでやってる分には凄くいいと思うんだよ。観たくなけりゃチャンネルひねればいい話だから。ただ興行となったら違うんじゃないかなって。

――安くないお金を払って、会場まで足を運んで、嫌な思いしたくないですもんね。

武藤　この間『チャンピオン・カーニバル』の煽りでさ、辻（よしなり）さんのワイドショーの番組に出たんだけど、「心臓病と闘っています。武藤さんのプロレスを観て、それを励みに頑張ってます」っていうFAXが来たんだよ。これがプロレスだろ？　俺の試合が励みになってるっていうのは、プロレスラー冥利に尽きますよ。

――いい話ですねえ。

武藤　俺のどこが気に入られたのか、よく分かんねぇけど、ただ「プロレスやっててよかったな」って思うよな。

――プロレスには、そういう力があるんですよね。

武藤　そうだと信じてるよ。

――もっとそれを広めたいですね。最近調子はどうですか？

武藤　そんなもん、ずっとガタガタだよ！　ただ、応援してくれるファンがいて、そういう環境を与えてくれるんだったら、それに乗っかるつもりではいますよ。ぶっちゃけ日本一どころか世界一のプロレスラーだっていう自信があるから。プロレスの哲学ってものに関しては、誰にも負けねぇよ、俺。……それぐらいのハッタリがないとな（笑）。

――それでこそ武藤敬司ですよ！　では、最後に今年下半期のプランを聞いて終わりにしましょうか。

武藤　プラン？　そんなもん、行き当たりばったりだよぉ！

――行き当たりばったり（笑）。でも、裏を返せば、あらゆることに全力で突っ走るしかないということじゃないですか？

武藤　いいねえ。そのつもりで頑張りますよ。

――夏に向けて期待してます！

武藤　代々木でも言ったけど、狂い咲きするつもりで行くから。でも枯れちまったらお終いだな（笑）。

――咲くのが先か、枯れるのが先か（笑）。

武藤　枯れるのが先かなあ～（笑）。しんどいよ。最初にも言ったけど、チャンカン終わってから1日も休んでないんだから。でもいま頑張んなきゃダメだからな。その代わり50歳になったら仕事しない！（キッパリ）。

――じゃあ、50歳まで、たっぷり10年間狂い咲きしてください！（笑）。

【04年4月26日／全日本プロレス事務所にて収録】

『RISE UP TOUR 2004』

5月15日（土）	18:00	長野・東御中央公園第二体育館
5月16日（日）	17:00	群馬・群馬県総合スポーツセンター
5月18日（火）	18:30	宮城・三本木町民総合体育館
5月19日（水）	18:30	岩手・北上市和賀多目的催事場
5月21日（金）	18:30	福島・富岡町総合体育館
5月22日（土）	18:30	東京・後楽園ホール

『CROSSOVER'04』

5月30日（日）	17:00	兵庫・神戸サンボーホール
6月 1日（火）	18:30	高知・高知県民体育館
6月 2日（水）	18:30	和歌山・田辺ハナヨアリーナ
6月 3日（木）	18:30	岐阜・プラザちゅうたい（美濃加茂市）
6月 5日（土）	18:00	新潟・新潟市体育館
6月 6日（日）	12:30	東京・後楽園ホール
6月 9日（水）	18:30	石川・石川県産業展示館
6月12日（土）	18:30	愛知・愛知県体育館

【お問い合わせ】　全日本プロレス 03-3288-0610



IAL

聞き手／坂井ノブ
撮影／平工幸雄
designed by matsu（Two Three）

髙田モンスター軍の活躍で、いまマット界には“モンスターの時代”が到来している。だが、誰か大事な選手を忘れていないだろうか!? 194センチ、150キロの超巨体から繰り出される破壊力抜群の攻撃で全日本プロレスを荒らしまくっているこの男のことを!! 本誌は、同席した木原文人リングアナのちょっといい話も交えつつ、本誌初登場となるジャマールの知られざる素顔と、秘められた魅力に迫るスペシャル・インタビューをお届けします!!

ジャマール　グッドモーニング！（肘かけ付きのイスに巨ケツを無理やり押し込みながら座る。ちなみに取材は午前10時開始）。

——かなり窮屈そうなんですが、大丈夫ですか？

ジャマール　ノー・プロブレムだ！

——しかし、ジャマールさんのデカさは半端じゃないですね。

ジャマール　ボブ・サップと同じぐらいかな（笑）。サップのほうが筋肉があるけど、俺はただデカいだけだ（笑）。でも、俺はカズ（・ハヤシ）ぐらい動きが早いだろ？

——高く飛べますしね。

ジャマール　イエス。俺はいろんなスポーツをやってきたからな。

——ちなみに、今までどんなスポーツをやってきたんですか？

ジャマール　フットボール、ラグビー、バレーボール……。

——えっ、バレーボールですか!?

ジャマール　高校の時は大人と一緒にボディビルもしてたよ。それにサモアではボクシングをやってたんだ。

——あれ!?　出身はサンフランシスコだとうかがってたんですけど？

ジャマール　両親が引っ越しして赤ん坊の頃からサモアに住んでたんだ。それ以来、ずっとアメリカとサモアを行ったり来たりしてたよ。

木原　まあ、ここだけの話ですけど、リキシ（現・WWE）はサモアが嫌いだからすぐ帰っちゃったんだよ（笑）。

——ジャマールのお兄さんですね。ボクシングはどれぐらいやってたんですか？

ジャマール　1年3ヶ月だ。でも、いままでやったスポーツの中ではフットボールが一番好きだったな。サモア人はみんな大きいが、その中でもオレは小さい方だったからスピードを活かしてラインバッカーをやってたよ。

——バレーボールをやってたというのが意外だったんですけど（笑）。

ジャマール　まあ、1年間ぐらい遊びでやってただけだよ。あとバスケットボールもやってたな。

——それでジャンプ力が鍛えられたんですね。プロレスをやり始めたのはいつ頃ですか？

ジャマール　俺が高校生だった頃、すでにリキシがプロレスラーになってたから、それについてまわっていたんだ。そこでトレーニングを始めたってわけだ。

木原　その頃の練習ではザ・ロックも一緒だったらしいよ。

——ホントですか!?

ジャマール　ああ、巡業に行ってリングが組みあがると、俺とロックでリングを占拠してプロレスごっこをして遊んでたんだ（笑）。家にもよく泊まってたしね。

——親戚関係はプロレス一家だと思うんですけど、ずっとプロレスはやりたかったんですか？

ジャマール　ノー（笑）。正直に言えば、フットボール・プレイヤーになりたかったんだよ。高校の時にハワイ大学に行って練習することもあったんだけど、「ハイスクールを卒業したらまた来なさい」って言われたんだ。ちゃんと高校は卒業したんだけど、結局プロレスに行っちゃったね。

なぜ日本のプロレス週刊誌は毎週同じ選手ばかり表紙にするんだ？

——確かデビューしたのが23歳でしたっけ？

ジャマール　イエス。レスラーとしてデビューしたのは23歳だが、その前は巡業に同行してロージーと練習してたりしてたんだ。

——現在はWWEでスーパーヒーロー見習い中のロージーですね。

ジャマール　ヤツは俺の従兄弟なんだ。デビューしてから、俺はロージーとのタッグで全米をまわっていたが、メンフィスの団体ではタッグ・チャンピオンになって、一度も負けたことがなかったんだぜ。

木原　補足すると、そのメンフィス・チャンピオンシップ・レスリングはWWEの配下団体だったんですよ。

ジャマール　多分、メンフィスは4年ぐらい前にクローズしてるが、いまだにベルトはオレたちが持ったままだ（笑）。その後シンシナティでWCWの若手をも集めた二軍の団体にも行った。そこにはジミー・ヤンとかカズ・ハヤシもいたよ。

——あなたとロージーがアルマゲドン1号2号としてFMWに来日したのはちょうどその頃ですか？

ジャマール　ああ、その頃だ。よく覚えてるよ。

——なぜあんなリングネームになったんでしょうか？（笑）。

ジャマール　わからない。日本人が勝手に名前を付けたんだ（笑）。1号が俺で、2号がロージーだ。やってることは3ミニッツ・ワーニング（3分警告隊＝WWEでのロージ&ジャマールのタッグ名）と一緒なんだけどな。


——FMWにはどういう経緯で上がったんですか？

ジャマール　フロリダでサブゥーと試合をしたのがキッカケだな。サブゥーは長い間、いい試合ができなかったんだ。でも、俺とやって久々にいい試合ができたんで凄く喜んでくれて、ロージーとのペアで声がかかって日本にツアーしたんだ。

木原　じつは、ジャマールはちょうど同じ頃に全日本にもトライしてたんですよ。



家族想いの優しい野獣ジャマールは、右腕に亡くなった“YOKO”ことヨコヅナ（元WWE王者・ジャマールの従兄弟）のタトゥーを、左腕には癌に冒され闘病中の母親のタトゥーを入れている。現在でも兄リキシの家の隣に住んでいるのだ。



強い!! デカい!! しかも飛ぶ!!
コイツがリアル・モンスター!!

“野獣”ボブ・サップに果たし状!!

JAM

Special Interview

――それは初耳です。

ジャマール　亡くなったゲーリー（・オブライト＝サモアンズ、アファ・アノアイの娘婿）に電話して上げてくれとオファーしてたんだが……。

――馬場さんともお会いしたんですか？

木原　会ってないです。あの頃は全日本に来日する外人選手は固定されてて、入る余地がなかったでしょ。だから時期を待ってたっていう感じでしたね。何度かゲーリーが連れて来てたんです。

ジャマール　残念ながら、その時は全日本に上がることは出来なかったんだ。結局、2年ぐらいFMWにいたんだが、その間WWEでリキシがタッグパートナーを探していて、オレもWWEに興味が向いたんだ。WWEは入ってからも待たされる期間が長かったけどな。

――なるほど。その後、WWEで約2年間活躍して、去年から再び日本に来るようになり、最近はハワイでも試合をやってるんですよね？

ジャマール　ああ。3月13日にやったケンスケとのタッグマッチがハワイでのデビュー戦だったんだ。

――いま健介選手は日本で大ブレークしてるんですけど、ハワイではどんな感じですか？

ジャマール　アメリカだったら俺のほうが人気があるだろうし、もちろん日本だったらケンスケのほうが人気があるだろ？

――当然ですね。

ジャマール　でも、俺は日本のウィークリー・マガジンに言いたいね。ケンスケ、ナカニシ、ナガタ、サップ……。どうして毎週毎週、同じような選手ばかりが表紙になってるんだ⁉

――団体とメディアの間の政治的な問題もあるでしょうし、売り上げの問題もあるでしょうし。いろんな要素があると思うんですけど。

ジャマール　同じような選手を立て続けに表紙にしたら、その選手の人気が落ちた途端にビジネス全体がしぼんでしまう。そう思わないか？

――ええ、確かにそうですね。

ジャマール　オレが武藤に勝った時だって表紙にならなかった。ベースボールのマガジンはオレの試合を巻頭カラーで扱ったが、ゴング・マガジンはそれすらもやらなかった。

――まあ、どちらかといえば『ゴング』の方が保守的な紙面作りですからね。

ジャマール　自分のことだからって言うわけじゃないんだぜ。客観的に見て、日本のプロレス界には新しいスターが必要なんじゃないのか？　それともメディアはそれが必要ないと思ってるのか？　WWEを見てみろよ。いまじゃクリス・ベノワやエディ・ゲレロがチャンピオンじゃないか。

――WWEが出してるマガジンでは、2人ともしっかり表紙を取ってますよね。



今年のチャンピオン・カーニバルに出場したジャマール。4月15日後楽園大会では優勝者・武藤敬司から3カウントを奪取した。試合後、顔をクシャクシャにして喜ぶジャマールの姿は今シリーズのハイライトだった。

ジャマール　そうだろう？　ところで、このインタビューは巻頭カラーなんだろうな（ギロリ）。

――うっ！　ま、まだ決まってないです……けど、なるべくその方向で頑張ります。いまの話題とも関係があると思うんですが、日本でもエンターテインメント色の強いWWEのようなプロレスが盛り上がってきてるんですけど、それに関してはどう思われますか？

ジャマール　あまりいいことだとは思わないな。日本には日本のスタイルがあるじゃないか。エンターテインメントが入ってくると、ファンが日本の素晴らしいプロレスを忘れてしまうんじゃないか？

――もともと日本にあるプロレスを守るべきだと思いますか？

ジャマール　日本のレスリングとエンターテインメント・レスリングをたまにミックスさせるのはいいと思うが、常にエンターテインメント・レスリングっていうのはどうかと思うな。

――なるほど。

ジャマール　なぜなら、オレは日本のプロレスのスタイルが大好きだからだ。日本のプロレスはシリアスに見える。真剣さに焦点を当てるってことが俺にとってのエンターテインメントなんだ。

――この巨体で飛んだり跳ねたりするだけで、もうすでにエンターテインメントとして成立してますけどね（笑）。

ジャマール　サンキュー（笑）。試合になると俺はジャマールっていうキャラクターにチェンジするけど、普段こうやって話してる時はナチュラルだろ？

――ええ。体形もナチュラルですよね？　最近は少なくなってるのかもしれませんが、アメリカではステロイドで体をつくる選手が多いみたいですけど。

ジャマール　この身体を作るのにステロイドなんかいらない。オレの身体はヤキニク、ラーメンでつくってるんだ（笑）。ボディービルダーみたいに筋骨隆々には見えないかもしれないが、サモア人とかポリネシア人はナチュラルにこういう体になるんだ。

――お酒もメチャメチャ飲みそうですよね。

ジャマール　試合の後に時々飲む程度だな。太ってしまうから、大酒は飲まないようにしてる。それに、オレは今年の2月にボブ・サップと試合をした後、「もっとトレーニングをしよう！」と思ったんだ。

――それはまた、なぜですか？

ジャマール　サップと試合をしたいからだ！　大きい選手同士がぶつかればいい試合が生まれるし、見た目も凄くいい。必ず面白いものになると思うんだ。闘えば東京ドームはソールドアウトになるだろう。みんな見たいんじゃないか？

――是非、見たいですね！

ジャマール　サップはいつも小さい選手とばかり闘っているし、スタミナがないから息もすぐに上がる。プロレスは筋肉だけがすべてじゃないよ。K―1とは違うんだ。

――ジャマールさんがK―1とか総合格闘技（MMA）の試合をやれば、きっと面白くなると思うんですけど、あまりやる気はないですか？

ジャマール　K―1やMMAに参加するつもりはない。たとえば、ボブ・サップとリアルファイトで試合をして俺が勝ちそうになったとする。その時点でレフェリーが試合を止めるんじゃないか？　ボブ・サップがお金を生むというのはみん

JAMAL Real Monster

サップとシュート・マッチをやらせてくれるならノーギャラでもいい!!



2月22日、全日本・日本武道館大会でボブ・サップと初対決したジャマール。とにかく、そのライバル意識はハンパじゃない!! 「NO.1ガイジン」を目指すモチベーションは非常に高い。

な分かってるからな。オレはリアルファイトでそういうことがあったら嫌なんだ。

――その姿勢は最高にかっこいいです（笑）。

ジャマール　もしサップとシュートマッチをやれるなら、タダでもやってやるよ（ニヤリ）。日本のファンにわかってもらいたいからね。彼の試合は何度も見てるが、俺のほうが動きは断然早い。

――サップのエンターテイナーとしての才能は評価してますか？

ジャマール　ファンはサップがあのキャラクターを本気でやってるのか、エンターテインメントとしてやってるのか、わからなくなってるんじゃないか？　最近はエンターテインメントで過剰にやってるけど、K―1の試合ではあまり野獣のような表情もできなくなってるじゃないか。勝たなきゃいけないから、ドンドン表情も暗くなってるように感じるよ。

――ホントによく見てるんですね（笑）。ジャマールさんの場合は、かなりケンカ慣れしてそうなんであまりそういう闘いにもプレッシャーは感じなさそうですよね。

ジャマール　育っていく過程でホントに多くのストリートファイトをやったからな。

――負けたことは？

ジャマール　リキシだけだ！（笑）。

――それはストリートファイトじゃなくて兄弟ゲンカですよ（笑）。でも、これだけの体をしてたら、さすがに誰も喧嘩を売りませんよね。

ジャマール　だからオレはプロレスをしてるんだ。いまは練習して体を大きくして、もっといい選手になりたいんだ。なぜなら、いまはチャンピオンになれる可能性があるからな（キッパリ）。日本で暇があったらとりあえずジムで練習するよ。

――サップ戦も実現すればいいんですけどねぇ。

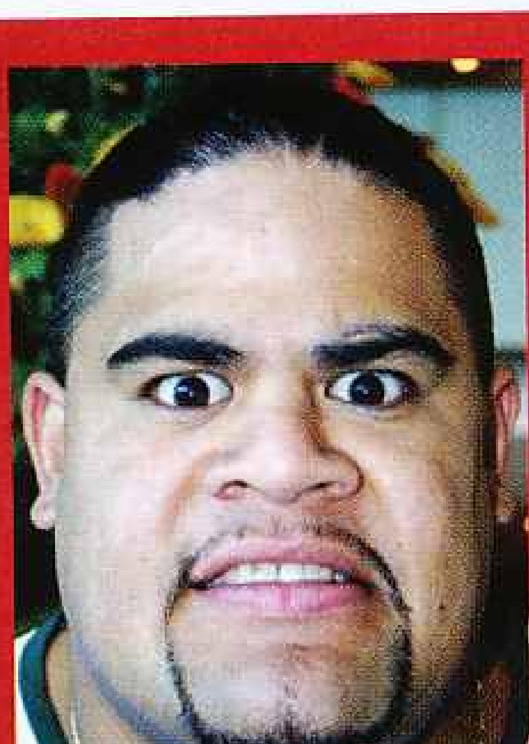
ジャマール　サップは記者がいる時しか練習してないらしいな？

――どうしてそんなことまで知ってるんですか!?（笑）。伊原ジムでは真面目にやってるみたいですけど。

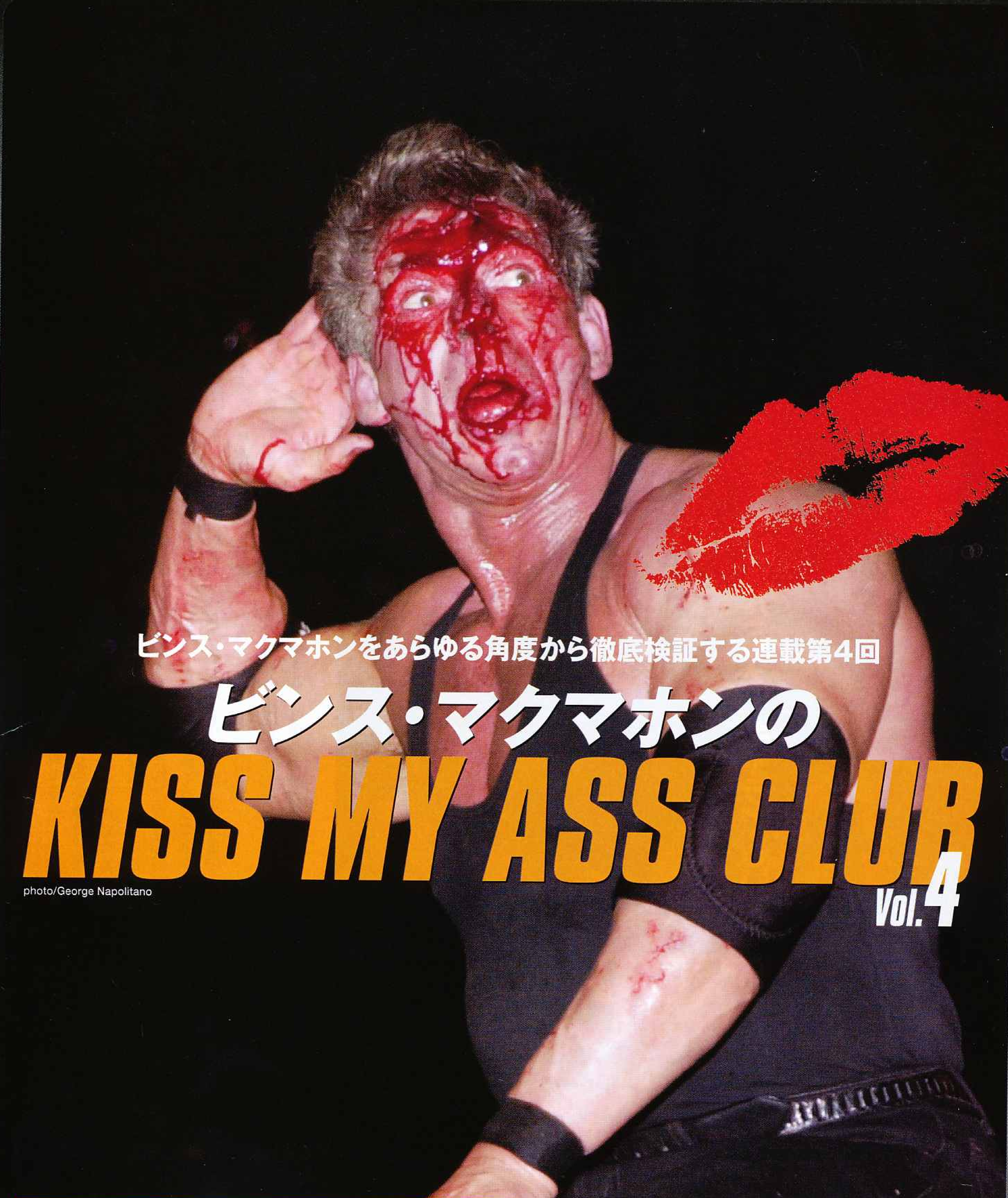
ジャマール　サップのことは常に研究してるんだ（笑）。練習でもプレス（報道陣）を意識して、プレスが帰ったらそこで練習が終わりなんだろ？　もし試合のオファーが来たら、オレは一年間本気でトレーニングして体を改造して闘ってみたいよ。そして、サップを倒した後に全日本に戻ってプロレスの試合を続けたい。K―1で闘うぐらいなら、オレは『ハッスル』で闘ってみたい。

――根っからのプロレスラーですね（笑）。シュート・ファイトでサップに勝った後、リング上で「ハッスル、ハッスル！」とかやってくれたら最高ですよ！　期待してます！

【4月21日、都内ホテルにて収録】



じゃまーる■１９７４年アメリカ・カリフォルニア州サンフランシスコ出身。伯父にサモアンズ、従兄弟にヨコヅナ、兄にＷＷＥで活躍中のリキシを持つ世界最大のプロレス一家の出身。１９９７年にＦＭＷで初来日、２００１年にはＷＷＥに入団。従兄弟のロージー（現在、ハリケーンの弟子としてＷＷＥで活躍中）と共にタッグで暴れまくった。２００３年より全日本プロレスに来日。１４０ページに掲載したＷＷＥ時代のエピソードも併せて読むと、よりジャマールが好きになること間違いなし!!



photo/George Napolitano

ビンス・マクマホンをあらゆる角度から徹底検証する連載第4回

ビンス・マクマホンの KISS MY ASS CLUB Vol.4

ビンスは叫んだ！「KISS MY ASS!」と……

2001年11月、WWEのリング上に一人の悪魔が立っていた。その名はビンス・マクマホン！ WWE対アライアンス（WCW&ECW連合軍）の抗争に終止符を打ったビンスは、WWEを裏切ったアライアンスの粛清を宣言！「ケツにキスする会」（＝KISS MY ASS CLUB）の結成を高らかに宣言すると、アライアンスに寝返ったウィリアム・リーガルにケツ（ちなみに生尻）を突きつけキスを強要した。この他にもJRが犠牲者になる。トリッシュもケツ・キスの毒牙に襲われかけたがロック様が救出！ 最後はビンスが、リキシのケツにキスをするというオチで幕を閉じた。買収したWCWをWWE内でのヒールに仕立て上げ、アングルが終わると共に「キス・マイ・アス！」と叫ぶ、あの瞬間のビンスは最強のビジネスマンであり最高のヒールだったといえる。

暴君とは読んで字のごとく暴力的な君主。おお、まさにビンスのためにあるような言葉ではないか。WWEには肉体的な暴力はもちろん、精神的な暴力もたっぷりある。その暴力を司るのがビンス・マクマホンのライフワークだ。今回はビンスの内面にスポットを当てて紹介してみたい。リング内で見せる狂気のオーナー・ビンス、リング外で発揮される冷徹なビジネスマン・ビンス、その両輪を転がす果てしないモチベーション。ビンスは一体どこから来たのだろう？



リング上のビンスとオフィスにいるビンス 一体どちらが本当のビンス・マクマホン？

文／長谷川博一

バッハのオルガン・ソナタには音楽が水のようにココロに浸透していく時の至福感があり、宗教感とはこういうものかと思った、とミュージシャン鈴木祥子がエッセイに書いている。遅ればせながら「オルガン・ソナタ集」を聞いてみる。出だしから教会のパイプオルガンの荘厳な響き。すると全ての曲が初代アンダーテイカーの入場曲のように思え、思わず茶筒を両手に持ち白目を剥いて聞いてしまった私。こんな風に我が日常も、いつのまにかWWEの文化に浸食されていることを知るのだった。これぞまさにギルティ・プレジャー。

知恵と勇気。至極まっとうな話になるが、人間がサクセスを手に入れるための必須の要素は、例えばこの2種だろう。全身小説家ならぬ全身プロレス家＝ビンス・マクマホンの知恵と勇気はいかなるものか。今回はそれを探ってみたい。途中で道草食わないようにね。おい、ユージーン！

リック・フレアーはWWEの企業の個性を、こんな風に語る。

「この会社に顕著なのはマーケティングの感覚だ。選手のキャラクターを作り上げ、ファンに紹介し、ショウで力を発揮させる。その戦略はNBAもNHLも歯が立たない」

WWEの公式サイトを覗いてみると分かる。いつもあれやこれやの質問をファンに投げかけ、ファンの是非を問うている。テリトリーを全米に拡大するために、最も役立ったのはTVの力。遊びで営業しているわけじゃないTV局を説得するには、事業の方針を明確に認識すること、数字のデータを常に把握することがビンスに求められた。

「RAWの視聴者の70%は18歳以上である。我々の会社のアプローチは、11歳以下については全体の15%、12〜17歳が15%、それ以上が70%と考えている。1年に約300万人のファンが我が社のイベントを観にくる。我々が最も注意を払うべきグループはここだ」スパスパと数字を羅列するこのコメントは99年のインタビューの抜粋。

「ニールセンによるとRAWとSMACKDOWN！の視聴者のそれぞれ70%はもう一方の番組を見ていないことが分かった。以前は逆だった。70%が両方のシリーズを見ていた。今や我々は2つのブランドを分けて、それぞれのプロモーションを行っている」

こちらは今年の『月刊プレイボーイ』6月号より。単に抱負を述べるのではなく、具体的な数字で会社の魅力を訴える。ビンスの頭脳は明晰で、より具体的。もう少し数字を並べてみよう。「レッスルマニア」1回目にはわずか30人程度の社員数は、現在500人強とか。業績が悪化するとリストラも敢行する。RAW1回の開催に使用する花火の数は何と6000発。リングを照らす照明は72個。スポットライトは8つ。全座席を216の照明で当て、ファンのリアクションやサインボードを撮影可能にする。このボリュームが、あの派手派手なショウを作り上げる。オンエアに耐えないボードを掲げる向きにはそっとグッズをプレゼントし、自重を促すらしい（笑）。

そんなビンスの知恵を支えるのは過剰なほどのガッツやエネルギー。全身プロレス家はビジネスの敗北を許さない。己のために。愛する家族のために。リング上のキャラクター＝ミスター・マクマホンには確かな狂気がある（ビジネスマンのビンスは相手の意見を良く聞き、対応が丁寧なのは周知の事実）。声色に、たたずまいにドスが効いている。あのドスは、どこから生まれるものか。さぞや持ち前の喧嘩度胸であり、幼少時のワイルドな体験から生まれたものだろう。

「私はとても暴力的な環境で育った。生まれ育った町のそばには海兵隊の基地があった。金曜と土曜は隊員と喧嘩をする。それはチャレンジだった。奴らは体がデカイし酒も飲んでる。訓練を積んで兵器の使い方を知ってる。でもそれはストリートのファイトじゃない。ストリートのファイトとは指を目の中に入れたり、喉笛をぶん殴ったりすることだ。彼らは急に息ができなくなり、状況を理解する。〝何てこった、やられちまったぜ！〟ってね」

少年時代の蛮行を、ビンスはそう回想する。こんな修羅場をくぐり抜けてきた男だからこそ、レスラーという巨大サイズのワガママっ子を手なずけることができるのか。世界で初めてバンプを取った興行会社の社長にもなりえるのか。

「リング上の私は、確かにオフィスにいる私ではない。しかしそれも私の隠されざる一面だ。いや、むしろストーンコールドのあのキャラクターこそが、私の素顔かもしれないと思える時があるな」

最も抱かれたくない男は出川でいいが、私が最も怒らせたくない男はビンス、その人。正気と狂気が入り交じる、あの顔でニヤリと笑われたら堪らない。もう一度フレアーは、人間ビンスをこんなふうに形容する。え？　オートンじゃないよ、ユージーン！

「彼には独特のドライブ感がある。完璧主義者だし自分のやってることを楽しんでいる。WCWはWWEを意識しすぎてフォーカスを失った。けれどもビンスは誰とも競争していない。敢えて言うなら自分と競争している。彼自身が会社の商品を生み出すメカニズムになってる。特別な人間だよ」

ドライブ感という言葉が何とも70年代チックでいい。オールドスクールもニュースクールも取り込んで、WWE王国は新たな時代を築く。ビジネスの交渉は辛抱強く重ねるが、いざとなったらストリート・ファイトだ（笑）。ビンビン。



月刊『PLAYBOY』6月号はWWEと格闘技の大特集!! トーリー&セイブルのDIVAヌード競演に加え、ビンス・マクマホンへの独占インタビューも掲載。必読だ!!

ビンス・マクマホン目撃証言集

私は見た!!

俺は何度も女性をKOした。そんなのやりたくない

昨年までWWEで活躍していた現役バリバリのプロレスラー、〝熱風飛獣〟ジャマールに今回は登場してもらいました。全日本で水を得た魚のように暴れまくっているジャマールを見ていると、WWEでトップを取ることの難しさを改めて考えさせられます。全日本での闘いがお気に入りのジャマールに、敢えてWWE時代のことを聞いてみました。

文／長谷川博一

今月の目撃者

全日本プロレスで大ブレイク中

ジャマール



詳しいプロフィールはP137参照!!　2001年にWWE入団後は『RAW』ブランドに所属してGMエリック・ビショフの手足となり、ロージー、リコと共に大暴れ。特にダッドリー・ボーイズとの抗争は激しかった。亡くなる1週間前のフレッド・ブラッシーを襲う（未遂）なんてプロモもありました。

――WWE入りはどのように?

「01年だったかな、FMWに上がってしばらくして（アルマゲドン1号のリングネーム）兄のリキシから連絡が入った。〝WWEで俺とタッグを組もう。ダークマッチに出て欲しい。ビンスがお前を見たがってるぜ〟って言うんだよ。チャーリー・ハース&チャボ・ゲレロ組と闘って、俺達は奴らを叩きのめした。オーディションは1回だけで俺は合格した」

――トライアウトが1回だけというのは優秀ですね。やはりWWEに入るのが一番のゴールでした?

「当時はそうだったね。以前からリキシに早く上げてくれって催促してた。でもAPAとかハーディー・ボーイズとか人気のチームがたくさんあるから〝もう少し待てよ。今に順番が来るさ!〟って兄貴に言われてたんだよ。トライアウトの評判はバッチリ。俺は体がデカクても早く動けるし、1試合に20くらいのムーブを見せたからな。トップロープからボディプレスをした時なんて、お客は何てクレイジーな奴なんだと驚いてたよ」

――ビンスも大喜びだったと。

「イエス。早速契約を交わして俺はメンフィスのリングに送られた。そこで1カ月、練習をして体重を落とした。すっかり準備はできたんだけど、未だキャラクターが決まってない。給料は払ってくれるけど。ビンスは〝まあもう少し待てよ〟って調子だった。結局、リキシとは組まずに従兄弟のロージー、それからリコと〝スリー・ミニッツ・ワーニング〟というチームを結成することになった」

――全日本プロレスでの試合を見て、貴方のスキルの高さに驚きました。WWEの時は正直言って選手としての力量が良く分からなかった。自分をリングで発揮できないイライラはありました?

「キャラクターはあんまり好きじゃなかった。あれは本当の俺じゃない。元々俺らはアイランド・ボーイズというタッグチームだった。それは素の俺なんだよ。ジャマールで闘う今も素のまま。日本はレスリングができるから好きだ。ビンスはもっとエンターテインメントを望むからね。時々はステューピッドなシチュエーションを求められる」

――何がステューピッドでした?

「例えば女性を攻撃する役回りとかね。メイ・ヤング、リリアン、ステファニー…俺は何度も女性をKOした。そんなのやりたくないよ（笑）。ロージーだって元々はタフガイだぜ。なのに今はハリケーンの弟子みたいな役柄だ。お客だって訳分かんないし、応援できないと思うね」

――昨年、WWEとの契約を解消した理由は何ですか。

「それはビジネスの事だから言いたくないな。否定的な話ではないよ。ビンスからは〝1年くらいしたら戻ってこいよ〟って言われてるんだよ」

――あれ、じゃあ3～4カ月したら復帰?

「いやいや、今は日本のレスリングライフを楽しんでる。日本が好きだし、もうしばらく全日本で働きたいね」

――ビンスに向こうで会ったら〝やっぱり生まれた国が一番ですよ〟なんて言ったりして。

「ステューピッド!!（笑）」

――ビンスへの不満はありませんか。

「それはないな。彼はサモアのレスラーを、とても大事にしてくれる。家族のような付き合いを重ねてるよ。シェーンとも仲がいいしね。冗談を言い合ったり一緒にトレーニングしたり」

――去年の冬、目黒の「リベラ」でステファニー&トリプルHの写真にスティンキー・フェイスを押しつけたとか。

「大した理由はない。あれはリキシのブレイク以来、サモア人の挨拶になってるからな（笑）。気に食わない例を思い出した。ジョン・シナだ。俺は今日もそうだけど普段からバスケットのユニフォームを着てる。ヒップホップが好きだし、マイクを持ってDJのボイシングなんかもできる。シナが〝サモアの人間にできるはずないじゃん〟って言うから、控え室で目の前でやってみせた事もある。あいつ、驚いてたな（笑）。シナはヒップホップの事を何も知らない。ただ会社に命令されて、ヒップホップのファッションをまとってるだけ。彼はギミック。俺はナチュラル。WWEのステューピッドな例に、この話も加えて欲しいね」

――俺はナチュラル。シナはギミック。これ、頂きます。



ネタバレ通信
凝縮版

**毎度おなじみTVじゃ見られないWWEの裏ネタ満載対談『ネタバレ通信』ですが、今回は特別に『KISS MY ASS CLUB』の中に間借りして、主要メンバーの叙似位（じょにー）が原稿を執筆!!
鈴木健想デビュー騒動や健想夫人の浩子さんデビューのネタなども盛り込みたかったのですが、来月には詳報したいと思います。**

文／叙似位

4月16日付でWWEを退団したストーンコールド。この離脱に関し、現場のスーパースターは「夏には戻るだろう」、「ああ、またか」、「レッスルマニア21には戻るよ」といった声が大半。大物が相次いで離脱しているこの現状をチャンスだと思い、毎週興行が熱くなっているという。

そんなストーンコールドの復帰はハッスル？　TNA？　といった様々な諸説が飛び交っているが、退団から一週間後、突如として湧いたのが「ストーンコールド、インディー団体へ」の噂だ。ミネソタ州ロチェスターで活動しているAWAの公式サイトに「ハルク・ホーガンvsスティーブ・オースチン、我が団体で激突！」といった目ん玉が飛び出そうな告知が掲載された。ちなみにこのサイト、どこをクリックしても〝Not Found〟というずさんなサイト管理。どうやらこのニュースは、団体側が集客を煽るための極めて悪質なフライングだったというからタチが悪い。現在この告知は、さっぱりと削除され〝無かったこと〟になっている。

さらにダウン・サウス・チャンピオンシップ・レスリング（DCW）なるインディー団体が「契約を交わした」だの、「誠意交渉中」とか、「スティーブ・オースチンがDCWにやってくる！」とオースチンの写真が掲載され大々的に報じている。さらにストーンコールドの親友でもあるケビン・ナッシュや、ストーンコールドとほぼ同時期に退団したテリーの写真も掲載し、あたかも「参戦決定」のような書き方をしている。今のストーンコールドの地位から考えても、インディー団体に参戦するのは考えにくいのだが。っていうか、ありえないでしょ！

また、以前このコーナーで報じられていた〝ストーンコールド・ビール〟が、サマースラムの前後にハイ・フォールズ・ブリューイング社から発売される予定だったが、ストーンコールド退団により消滅。発売による経済効果を期待していたが同社だが、その打撃は予想以上に大きかったそうだ。

ちなみにWWEの通販サイトでも「あの日を素晴らしい日をもう一度！　ストーンコールドグッズを手に入れる最後のチャンス！」と題し、関連商品が投げ売りされている…。

そしてもう一人の離脱者、ブロック・レスナーの詳報。ミネアポリスで自身が運転していたバイクとミニバンが衝突し、重傷を負ったという衝撃的ニュースが流れた。事故による傷はあまりにも深く、NFL進出に暗雲が立ち込めたが、驚異的な治癒力を発揮。事故後10日ほどでトレーニングに再開した。プロレスラーは本当に強いんです！

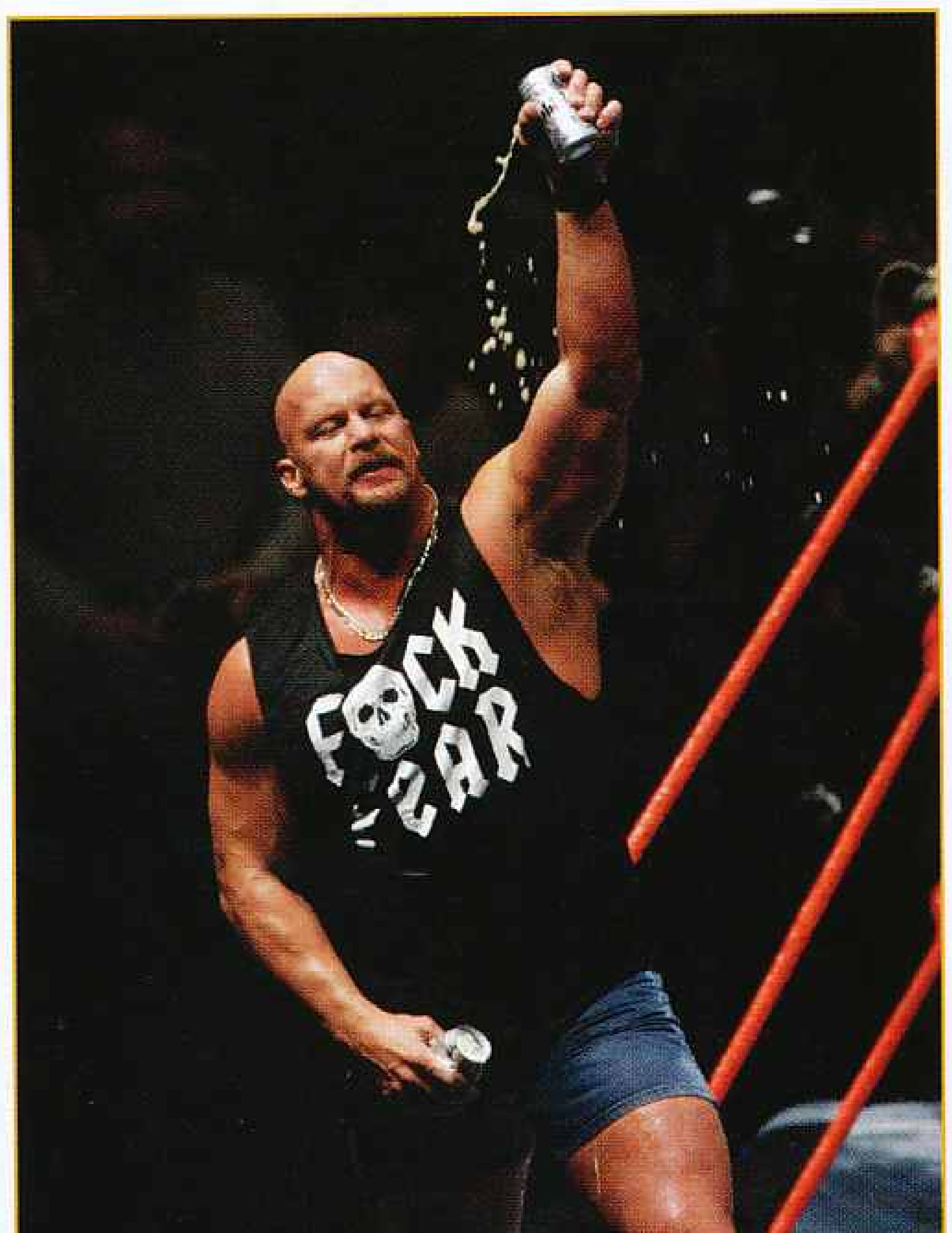
そんなレスナーのNFL入団が、日増しに現実味を帯びてきた。AFC西地区のカンザスシティー・チーフスはレスナーに対し、キャンプに参加のオファーを出した様子。しかしレスナーは自主トレーニングに専念したいという理由でこの申し出を断った模様。またNFC北地区のミネソタ・バイキングスのコーチ、マイク・タイス氏は「我がチームが勝利につながるもの全てに興味がある。それがレスナーでもだ」とレスナー歓迎の意思を明らかにした。ポジションはディフェンシブ・エンドかタックルになるだろうと、具体的なプランまで明らかにした模様。さらにバイキングス側はレスナーに、特例の個別トライアウトを設ける模様。このレスナーのNFL挑戦の模様はスポーツ・イラストレイテッド誌に「レスナー第二の挑戦」として掲載されるそうだ。

最後に、NWA-TNAの定期放送が6月4日よりスタートするという報。放送局はFOXで、毎週金曜日に全米でオンエアされるという。不定期ながらPPV放送を行ってきたTNAだが、着実に力をつけ定期放送にこぎつけた。

2001年にWCWを吸収し、ライバル不在となり、アメリカマット界を独占しているWWE。しかしながらストーンコールド、ブロック・レスナーなど相次ぐ大物の離脱で、衰退の感が否めない。TNAはその隙を突き、新たな勢力となるのだろうか？

この報にファンは、WWEは以前のような〝月曜TV戦争〟時代の過激な番組内容、〝容赦なき攻撃性〟を仕掛けるのか？　いや、仕掛けて盛り上がれ！と期待を寄せている。

〝出る杭は、形がなくなるまで蹴っ飛ばす！〟こうすることで、団体の底力を存分に発揮したWWE。緊張感のある、ギラギラしたアティテュードを今こそ見せてほしいものだ。

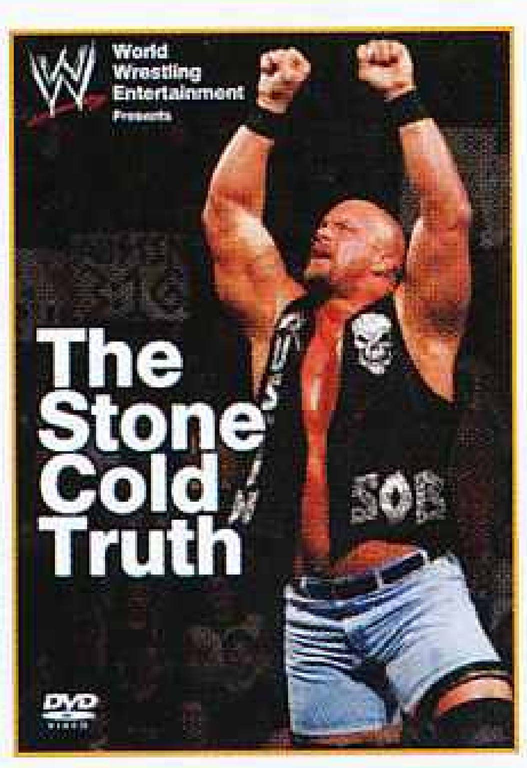


今年2月にアサヒ・スーパードライをガブ飲み、日本を熱狂の渦に巻き込んだストーンコールド。来日の噂も絶えないが、果たしてどうなる!?

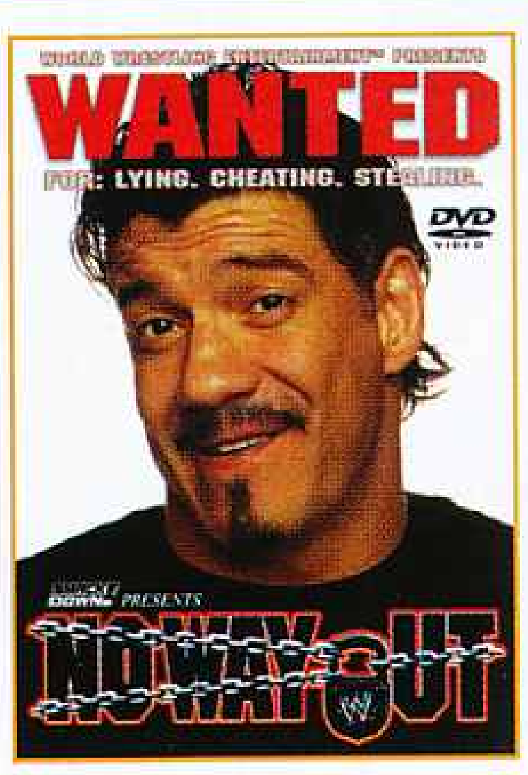
今月も最新作DVDを各1名様にプレゼント どちらも5／21発売！

「ストーンコールド」ことスティーブ・オースチンはWWEを離れてしまったが、DVDは発売だ！『ストーンコールド トゥルース』はストーンコールドの波乱の半生が明らかになるファン垂涎の企画モノ。ドキュメンタリーでスーパースターの素顔に迫る!! DVD特典映像は昨年の『サマースラム』のビンス誕生日パーティーを収録しているぞ。

そして、今月のもう一本は2月のPPV『ノー・ウェイ・アウト2004』エディ・ゲレロが感動の初戴冠を果たした対ブロック・レスナー戦はWWEの大きなターニングポイント。もちろん見逃しは厳禁だ。この試合を見ずに今年のWWEは語れない!! トリプル・スレット・マッチで激突するカート・アングルvsビッグ・ショーvsジョン・シナも素晴らしいです。7月に来日する『SMACKDOWN!』ブランドの予習には最適！提供■ユークス



『ストーンコールドトゥルース』（DVD：￥4700／本編44分 DVD特典143分）特典映像にはオースチン秘蔵名勝負も収録！



『ノー・ウェイ・アウト2004』（DVD：￥3800／本編153分 DVD特典29分）レッスルマニアに勝るとも劣らない最高のハッピーエンドを味わえ！

※このページのプレゼント応募方法はP159を参照!!

日本のプロレスは今後さらに急激にマイナー化するでしょうね

でも

3年時間をくれれば蘇らせる自信があります!

ULTIMO DRAGON × TARZAN YAMAMOTO

ウルティモ・ドラゴン×ターザン山本

上級プロレス学講座



ウルティモ・ドラゴンのWWE一時休業&帰国により、日本が誇る「プロレス言語頂上対談」が再び実現! フリートークで自由に語ってもらった内容は、迷走状態が止まらない日本プロレス界の大改革案となった。プロレス頭をフル回転させながら読めぇぇぇ!

構成／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄　試合写真（4.26）／乾晋也

designed by matsu（Two Three）



“未納兄弟”のマット界徹底改造論!

ターザン　浅井さん！　日本に帰ってくるのが早いと言うか、飽きっぽいと言うか、もう帰って来ちゃったねぇ！

ドラゴン　いや、山本さん、今日は何も話しませんから（アッサリ）。

ターザン　えっ……（固まる）。じゃあ、今日は沈黙の人なの⁉　それはないよォ！

ドラゴン　そういうわけじゃないですけど、これからまだいろいろあるんで。

ターザン　じゃあ、いまは執行猶予期間？

ドラゴン　そう……なのかな（笑）。

ターザン　判決はいつ下されるん！

ドラゴン　まあ、ここ3ヶ月ぐらいまでには（笑）。

ターザン　（パチパチパチ）またまた企んでるんでしょ？（笑）。

ドラゴン　色々ありますよ（笑）。自分中心の人間なんで、自分にとっても日本のジュニアにもプラスになるんじゃないかなっていうことをやりたいんで。そのために向こうに休みをもらって帰ってきたんですから、数ヶ月後を楽しみにしててくださいよ。でも、普通だったらこんなこと許されないですよね。

ターザン　そうですよぉ！　よくそんなことがあのWWEに通用するねぇ！

ドラゴン　いや、それをさせるのが僕なんですよ（笑）。

ターザン　さすが懐深いねえ！

ドラゴン　いや、たまたまですよ。そんなに力ないですから。

ターザン　マット界一の浮気者だねぇ！

ドラゴン　そんなことみんなわかってるじゃないですか（笑）。

ターザン　猪木さんと一緒ですよぉ！　今日、僕は新たなるウルティモ・ドラゴンのステップ台として二つのことを提案したいんだけど、一つはとにかくガンガン自分を売り込むんですよ！

ドラゴン　何にですか？

ターザン　新日本プロレスのマッチメーカーに就任するか、K―1の谷川プロデューサーのところに行って、谷川がやろうとしてるK―1版のプロレスを浅井さんがプロデュースするんですよ！　これどうですか⁉

ドラゴン　いいんじゃないですか。

ターザン　浅井さんは、闘龍門ですでに実績をつくってるじゃない。新日本プロレスも谷川プロデューサーも受け入れると思うなあ。受け入れなかったら、人を見る目がないよォ！

ドラゴン　でも、もうちょっと勉強したいっていうのが正直あるんですよ。WWEに行って1年じゃないですか。最初の半年っていうのはわけがわからずやってましたからね。行く前は、いままで自分がやってきた経験、実績、それからWCWでやってきたこともあるので、ある程度、自分の中でやれるんじゃないかってタカをくくってた部分があったんですけど、実際行ってみると、こうもWCWと違うのかって。

ターザン　今のWWEって、もう完全に別世界でしょ？

ドラゴン　全く別ですね。多分、僕が考えるに昔の新日本と全日本ぐらいの違いがあるんですよ。やり方が全く違うんで、最初は自分のやり方が通用しなかったですから。

ターザン　通用しなかったというか、ウルティモ・ドラゴンの自由演技とWWEの規定演技との間に水と油ぐらいもの凄い落差があったんじゃないの？

ドラゴン　それがわかりだしたのが半年ぐらい経ってからですね。

ターザン　あのね、これは例え話したら凄くわかりやすいんだよ。結局、浅井さんはファイターであるけどもプロデューサーなんだよね。僕らの世界で言うと一度、編集長をやった人間でその雑誌を成功させたものがそこを飛び出した場合、やっぱり次に行った所でも編集長じゃないとつまらないでしょ？　それなんですよォォォ！　自分がすべて自由に仕切れるというか、完全に采配をふるえるという自信を持ってるのでファイターとして治まろうとしても、そこで自己葛藤が起こって心が分裂するんですよ！

ドラゴン　実際、ボクもWWEに行ったもう一つの目的はもっとクリエイティブな方面をモノにして帰ろうと思ったんですよ。でも、WCWから5年のブランクがあったんで、例えば巡業のペースとかすべてのことに体を慣らして、ある程度の人間関係をつくるまでに8～9ヶ月もかかったんですよ。そして、せっかくできたという矢先にジョニー・エースといろいろ話があって、「しばらく時間をください」ということでいま休養したんですよ。それと肘のほうも実際良くなくて、すべてのケアとこれから大きい仕事をやる前に、格好いい言い方になっちゃうんですけど、自分探しの旅

猪木さんと浅井さんとボクは、カリスマであるが故の孤独を味わうカリスマ三兄弟ですよォオオオ！



もちょっとしたいなと思ったんですよね。だから5月まではちょこちょこ活動しますけど、6、7月は完全休養でヨーロッパとかトルコとかギリシャとか電車で一人旅をしようかなって。

ターザン　なにィ！　プロレスラーがヨーロッパ一人旅ィ、嘘でしょ？（笑）。よくもまぁ、そんな突拍子もないことを考えるねぇ。これは恐れ入ったよ。今日一番のビッグサプライズですよォォォ！

ドラゴン　スペインから入ってその辺りを電車でまわりたいなって。地中海の旅ですよ。それでまた何か変わるんじゃないかなって。

ターザン　浅井さん！　やっぱり君はボクと同じく変な人だよ！　頭がおかしいよ。狂ってるよ。いいねぇ、楽しいなぁ。そんなプロレスラー聞いたことありませんよォォォォ！

闘龍門は若い奴らで自由にやってもらう

ドラゴン　あと、僕の個人的ないまの状況で言うと、闘龍門は若い奴らがいろいろやってるんで、あんまり僕の出る幕はないんですよ。最近、ちょっとトーンダウンしたかなっていう声も実際のところあるんですけど、僕も若手に任せてるっていうところもあるし、もうちょっと辛抱しようかなって。

ターザン　その通り。絶対に辛抱したほうがいい！　あのね、これは僕が『週刊プロレス』に口出ししないのと一緒ですよ！　だってもう週プロはボクのものじゃないんだから。

それを言うなら"未納三兄弟"じゃないですか？　最近、自分が変な人だとようやく気づきましたよ（笑）



ドラゴン　実際のところ、この間の（4・28）代々木でも「ここが悪いんじゃないか」とか反省会をして俺がバーッと言ったんですけど、一通凄くいいメールをくれたヤツがいて、「ホントに反省する点はありますけど、僕らで何とか乗り切るので見ててくれませんか」って書いてきたんですよ。

ターザン　浅井さん、彼らはもう彼らだけで自由にやりたいんだよ。週プロだってそうですよ。彼らは彼らなりの王国で週プロを作りたいんだから。そこでボクが口出しちゃうと、猪木さんが新日本プロレスに対してガチャガチャ言う成田会見と一緒になるんですよ。それに一番反応してるのは実は新日本の内部の人たちだけなんだから、猪木さんと浅井さんと僕は同じ運命ですよ。みんなアーティストとしての才能があって、プランナーとして一つの手応え抜群の作品をつくったわけですよ。それが新日本プロレス、闘龍門、週刊プロレスですよォォォォ！

ドラゴン　でも、そうすると文句を言いたくなるんですよね（笑）。

ターザン　まったくこれが言いたくなるんですよ！　俺だって『週プロ』にいろいろ言いたいですよォォォ！　やっぱり歯がゆいというか情けないというか「お前ら何をやってるんだ！」と言いたくなるんですけども、時代が変わっちゃって彼らは彼らなりに成長して大人になってるんですよ。そうしたらいっちょ前に自分たちでやりたいんですよ。ああ、これはカリスマになった者だけが経験する一種の悲劇なんだよねぇ。

ドラゴン　僕も孤独ですよ。

ターザン　もう徹底的に孤独でしょ？　誰も相談相手のいない孤独なんだよね。しかもぐずぐず自問自答してね。俺がつくったのに何でかなあとか、凄い孤独感に襲われるんだよね。あれ、あいつオレの部下だったよな？　俺が入れてやったんじゃないか！とかさ。アイツは新人だったのにさ、いつだって小僧じゃないかみたいなさ。

ドラゴン　ホントはそういったことを言っちゃダメなんですけど、言いたくもなりますよね（笑）。

ターザン　遠慮することは何もない。僕らは言う権利ありますよォォォォ！　これが浅井さんに言いたかったことの一つですよぉ。僕も浅井さんの気持ちはわかりますよ。

新日本・上井執行役員との不思議な縁

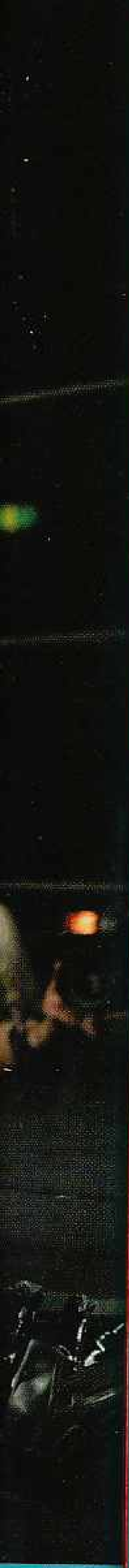
ドラゴン　あと一つ言わせてもらいたいのは今回、新日本さんに出ますけど……。

ターザン　何でまたあの新日本に出ようと思ったの？

ドラゴン　ちょっと自分なりに見てみたいっていうのがあったのと、上井さん（上井文彦執行役員）と前から知り合いなんですよ。実は上井さんが第1次UWFで営業をやってた時に、僕は上井さんの最初のお客さんだったんですよ。

ターザン　えぇ！　UWFのチケットを最初に買ったわけ？

ドラゴン　そうなんですよ。上井さんから直接チケットを買ったんです。僕は名古屋に住んでたんですけど長野でタイガーマスクがスーパータイガーで試合をするって言うんで、その時に友達の先輩の車で観に連れてもらったんですよ。そこで



あと何年かしたら日本のプロレスはもっともっと急激に衰退して、結局WWEしか残らないんじゃないですか？

会場にメチャクチャ早く着いたら上井さんがチケットを並べて、そこでチケットを買ったのが僕だったんですよ。

ターザン　へぇ〜〜。それはまた不思議な因縁で面白いねぇ。浅井さんはやっぱり運が強いよォ！

ドラゴン　そこで上井さんにいろんな話を聞いて、「僕はタイガーマスクが大好きです」って言ったら「いやぁ、いまプロレス界で一番強いのは藤原喜明なんだよ。藤波さんだって全然勝てないんだから」って。「唯一、そこそこ相手になるのは長州力だ」って、結構、俺みたいな素人のファンに力説してくれたんですよ。だから俺も「藤原ってそんな強いのか！」って（笑）。

ターザン　（パチパチパチ！）上井さんも根っからのプロレスファンだねぇ！（笑）。それでなくちゃつまらないよ。

ドラゴン　そういう思い出があって、それで上井さんがブッカーになられた時にいろいろ話をして、「絶対に浅井さんと仕事がしたいから」っていう話をずっとしてもらっていたんですよ。で、今回こういう機会ができたんで、上井さんには個人レベルで何かあったら僕ができることだったら協力しますよと。

ターザン　でも、個人レベルだったらもうダメでしょ。新日本プロレスも上井さんもSOS状態ですよ。

沈没しかかっている船ですよ。何とかしなければ、このままではタイタニック号ですよォォォ！

ドラゴン　でも、いろんな団体があって、どこもみんな「潰れる潰れる」って言われながら、全然潰れないでやってますよね。それが不思議ですよね（笑）。

ターザン　潰れるというのは黒字で利益を出してるということが前提としてあって、その逆として潰れるんですよ。それなのに今のプロレス団体はどこも初めから利益を出してないんだからね。全部赤字なんだからそれ以前の問題ですよォォォ！

ドラゴン　こんなに世の中は動きが早いのにプロレス界だけは全然変わらないですよね。

ターザン　の〜んびりでしてるんですよ。呑気というか、感性がないというか。10〜20年スタンスでまったく何も変化してないんだよね。

ドラゴン　山本さんにこんなことを言ったら怒られるかもしれないけど、僕の勘では、あと何年かしたら日本のプロレスって、今よりもっともっともの凄く衰退するような気がしますよ。かつての日本映画みたいに急激に衰退して、結局、最後に残るのはハリウッド映画。要はWWEが残っちゃうんじゃないかなって。だって、とにかくやることやること全部裏目に出てるじゃないですか。

ターザン　裏目に出てるし誰も手の打ちようがないし、もう何をやってもどうにもなりませんよォ！　フィニッシュですよォォ！

ドラゴン　だから、なくなりはしないと思いますけど、もっともっとマイナーになって行くんじゃないかと思うんですよ。いまの若い子は『PRIDE』とかK—1は知ってるけど「プロレスって何？」って感じだと思うんですよね。その子たちがもっと大きくなって行った時に、じゃあプロレスってどうなんだろうって、誰もファンを育ててないじゃないですか。スター選手も誰もいないし。ボブ・サップにしてもプロレス雑誌は「プロレスラー」ということにしてますけど、あの人はK—1で有名になった人だからK—1ファイターですよね。あの人はレスラーじゃないですよ。

ターザン　キャラですよォ！

ドラゴン　だからその人が興行をひっぱってるということはいまの格闘技界の本流がK—1なり『PRIDE』なんですよね。プロレスじゃないんですよ。

ターザン　K—1と『PRIDE』が21世紀における二大潮流ですよ。今では世間においては、マット界ってその二つを指してるもん、もう間違いないんだから。

ドラゴン　それは問題ですよね。

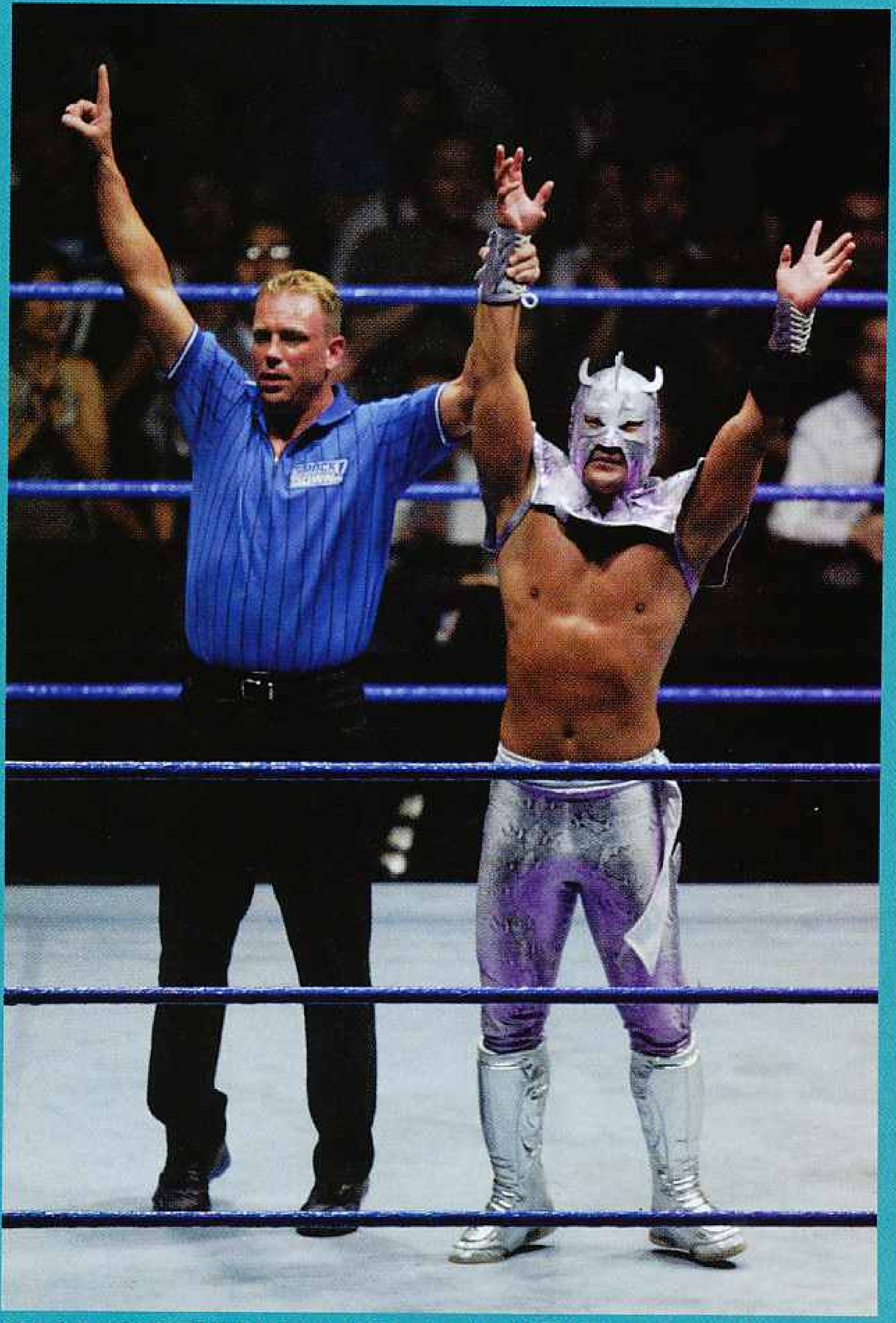
ターザン　プロレスなんて見向きもされなくて、テレビ局のスタッフやプロデューサー自体がみんな格闘技のほうに気持ちが行っちゃってるからね。

ドラゴン　でも、考えようによってはプロレスってテレビのソフトとしては美味しいじゃないですか。だって、こんなに局の意向を聞いてくれるスポーツ系のソフトはないですよ（笑）。だからテレビ局も業界の人もプロレスはもうダメだとか言ってますけど、もうちょっとやり方を変えていけば、アメリカみたいに面白い番組がつくれると思うんですけどね。

ターザン　作り込めばできますよォ！　だってプロレスって覆面を被ってやってるんだからね。そりゃ面白いですよ。だって血を流してるんですよ？　人を殴ってる、反則してる、場外乱闘してる、それっておかしいですよ。そんなこと世の中にないからそれは面白いですよォ！

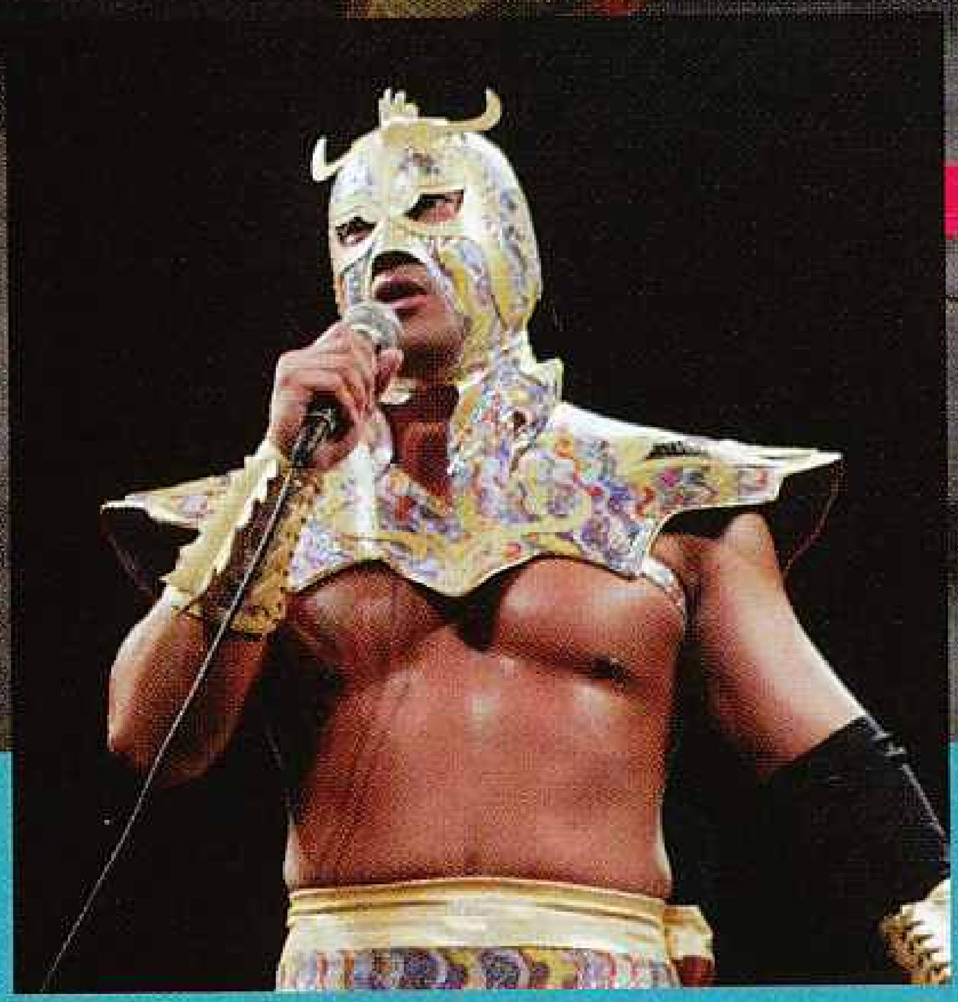
ドラゴン　だからそういうところに世の中の価値観と全く逆のところでやってるから面白いわけですよね。人間が持ってる二面性の部分のホントに裏の部分を出してるわけじゃないですか、僕らは。だからそれを大衆が支持するってことなんでしょうね。

ターザン　世の中って家庭において



昨年6月からWWE入りをはたしたものの、なかなか本領発揮には至っていないウルティモ・ドラゴン。秋には再びWWEに戻るというが、その前に何か"企み"はあるのか？





4・28代々木第2体育館■約1年ぶりに闘龍門マットに上がった校長は、第1試合の6人タッグに登場。特に目立った動きは見せぬまま試合を終えると、マイクを握り「自分は闘龍門で一緒にやれるレベルじゃない」と、あまりに正直に告白した。

ULTIMO DRAGON × TARZAN YAMAMOTO

もそうだし、学校においても職場においても一歩出たらやってはいけないことばかりだよ? ほとんどもう全部! ルール、ルール、ルール、息苦しいわけですから。

ドラゴン 何でもできるから見てて逆に面白いんですよね。

ターザン そのプロレスの自由でハレンチな良さを活かさないとね。そういうシステムはプロレスにしかないんだから。

自分がもし新日本のアドバイザーになったら

ドラゴン 僕はここ半年ぐらいの日本マットの出来事とか見てて思ったのは、例えば佐々木健介さんとか、いわゆる新日本から出て行った人があまりにも簡単に戻ってると思うんですよ。戻ること自体は別にいいと思うんですけど、最初は簡単に試合を組まないで、会場まで来て「出させろ!」とか言ってきても、誰かが最初は追い返しちゃうとか。昔の長州力が新日本に戻って来た時とかあったじゃないですか。

ターザン リングサイドの鉄柵の向こうで長州たちがワーワー言ってても、ギリギリで押さえつけられるんですよォ!

ドラゴン それで軍団をつくって、最低三ヶ月は出る出ないで引っ張れたんですよね。それを今はあまりにも簡単に上げちゃうから、「何だ、やっぱり仲良いんじゃん」って普通の人は思いますよね。だからもうちょっと引っ張って我慢してもらって、例えばホントに仕事がないんだったら会社のほうで最低のものは保証してあげるからとか、三ヶ月ぐらい待てよとかね。そういうことも必要だと思うんですよ。

ターザン そうそう、試合するのと同じ条件を出すんですよ。それのほうが結果的に美味しいんだから!

ドラゴン それで散々乱入とかして、最後はホントにリングに上がっちゃって、それをみんなでボコボコにするとか、やり方はいろいろあると思うんですよ。それなのに、あまりにも簡単に上がると、せっかく本当に離脱して本当に揉めたのに、それを活かさないのはもったいないですよ。

ターザン すべてリアリティのあるアングルに転化しないとダメだよ!

ドラゴン 新日本はいろんなことができるはずなんですけどね。極端な話、猪木さんをビンスみたいにするとか、藤波さんをヒールにするとか(笑)。そこまで日本のプロレス関係者ができないんですかね? そういう演技みたいなものが。

ターザン やればいいんだよね。藤波さんとかも悩んで悩んでもうサイコキャラみたいになるとかさ(笑)。その人の人間性を過剰に拡大して活かせばいいんですよォォ!

ドラゴン だから、(5・3)ドームが終わったら上井さんと話したいことがいろいろあるんですけど、もし仮に自分がそういう形でアドバイザーみたいなことができるんだったら、3年あったら、いまより遥かによくする自信はありますよ。1年ではここまで落ちてるんで無理

ですけど。

ターザン　ツケがまわってきてるからね。だから一番いいのは、すでに出来上がっていて、ニッチもサッチもいかなくなった新日本プロレスを部分的に変えることよりも、いっそのこと全くゼロのところから白紙に戻したほうがいいんですよ。だからボクは浅井さんを谷川プロデューサーに紹介したいんですよォ！

ドラゴン　谷川さんはホントにプロレスをやるつもりあるんですか？

ターザン　いや、K—1はオールラウンドに世界を支配したいんですよ。つまり総合としての『ROMANEX』、立ち技としてのK—1。それからプロレスと格闘技を融合したプロ格路線、そして純粋なプロレス。この4つを支配してマット界を統一したいんですよ。いま立ち技やって、MMAやって、新日本で異種格闘技戦やって、残りはプロレスですよォ！　そのことによってすべてを一手に収めたいんですよォォォ！　猪木さんを超える野望と野心の持ち主、それがK—1なんですよォォォ！

ドラゴン　山本さん、じゃあ俺ほどっちに行ったらいいんですか！

ターザン　そんなもん、もちろん二股かけてやるんですよォ！　上井さんと交渉する、谷川にも接触する、上井—浅井ラインでセットでK—1に売り込む。その三つの方法がある！

ドラゴン　ただ僕もやればある程度、自信があるんですけど、やるからにはもの凄い荒治療したいんで。

ターザン　もはや妥協なしの徹底的な変革が必要なんですよ。

ドラゴン　小泉総理じゃないんですけど、痛みの伴うような改革をしていかないとダメだし、選手半分くらいから総スカンくらいますよ。でも、それぐらいのことをやらないともうダメですよ。

ターザン　いや、選手は半分はいらないですよ、フロントも。結局、一番いい方法は日産自動車を改革したゴーンっているでしょ？　あのやり方ですよ。冷酷にして徹底的なリストラ。人員整理ですよォォ！

ドラゴン　俺が考えてるのもそうですよ。半分クビにしますね。クビっていっても選手に他のポジションに付いてもらうってことですけどね。アメリカでやっているいろんなシステムを取り入れたいんですよ。凄い「なるほどな」っていうシステムもあるし、それを日本に当てはめるんです。だって、いままでレスラーが引退した後の仕事ってなかったりだとか、どうでもいい仕事をさせてみたりとか、そういうのがあるじゃないですか。それが無駄なんですよね。じゃあ、何のためにいままで何十年レスラーをやってきたのかってあるでしょ？　その人の経験を活かした仕事ってたくさんあると思うんですよ。それを上手く使ってないですよね、日本のプロレス界って。だからレスラーも辞められずに、いつまで経ってもやってるじゃないですか。





5・3新日ドームの第1試合「Jr.オールスター頂上タッグ」に出場し、タイガー、ヒート、丸藤というJr.新世代のトップ選手たちの技を受ける役に徹したウルティモ。同じ日に中嶋君を相手に相も変わらず横綱相撲で完勝してしまった〝ジュニアの牢名主〟ライガーに対するメッセージのようにも見えるが……。

ターザン　クビにするんじゃなくて、整理するんですよ。クビにするって言ったらちょっと聞こえが悪いから「整理する」と考えればいいんですよ！

ドラゴン　だってね、山本さん。僕がプロレスに入って18年で当時からいまだにレスラーやってる人、あと僕が子供の頃に見てていまだにプロレスやってる人何人います？

ターザン　メチャクチャ多いよォォォ！

ドラゴン　WWEでそんな人一人もいませんからね。アンダーテイカーの12年っていうのがホントに長くて一番らしいですからね。

ターザン　へぇ、なるほどねえ。

ドラゴン　でも、そんなこと言ったら獣神サンダーライガーなんて、あのキャラクター何年やってるんですか？　それはアメリカの会社では考えられないって言うんですよ。そういう人がずっと同じポジションに居座るっていうのは。

ターザン　ライガーは牢名主ですよ！　牢屋で威張ってる古株の名主！　ジュニアで古株が幅をきかせたら、ジュニアに夢も希望もないでしょ？

ドラゴン　変な話、子供たちが見るゴレンジャーショーみたいなのあるじゃないですか。あれだって毎年変わるんですよ？　ちょっとだけギミック変えて。それなのに、プロレスだけは十何年も同じ人が出て来てやってたら、それは飽きますよ。映画だってそうじゃないですか。ホントにいつも同じ人が出て来て許されたのは寅さんぐらいで、それだって一年に1回じゃないですか。

ターザン　寅さんと水戸黄門、マット界では馬場さんだけですよ。

ドラゴン　水戸黄門だって何代も代わってるじゃないですか（笑）。あんなのが、毎週毎週、延々と出て来たらたまらないですよ。ずっと同じテンションで出て来たらそりゃお客さんも飽きるでしょ。

ターザン　しかもプロレスは一つの興行で試合数が多いよ、試合時間もだらだらとしていて長いしね。いい加減にして欲しいよ。

ドラゴン　アメリカなんかあっという間に終わりますよ。

ターザン　三時間以内に終わりますよ！

ドラゴン　だからやってる方は、メチャクチャ楽ですよ。「はい、今日3分ね」とか（笑）。

ターザン　パチパチパチ！　だからいまはホントに札を総入れ替えして作り直さなきゃいけない時期にきてるんですよ。それは団体もそうだし、レスラーもそうだし、マスコミも全部そうですよ、すべてが！　ありとあらゆるものを、ぜ～んぶリセットする時期に来てるんですよォォォ！

プロデュースするなら格闘技よりプロレス

ドラゴン　谷川さんは明日来られるんですか？

ターザン　来るよ。なんだかんだ言って、格闘技をやってる人間もプロレスをやりたいんですよ。プロレ



ライガーみたいに10何年も同じポジションに居座るのはアメリカでは考えられないですよ

スは作れるじゃないですか。

ドラゴン　格闘技はできないですからね。

ターザン　格闘技なんかやってみないとわからないもん。

ドラゴン　僕はそっちの方はやったことがないからアレですけど、プロデュースする側の面白みっていったら絶対プロレスの方が上ですよね。自分の思った通りにならなかったら、全然ダメじゃないですか。それをK―1の資本でやればデカイことはできますよね。ホントにWWEみたいなことがやりたいんだったら、そういうシナリオを書く専門の人とか何人かいないとダメですけど。

ターザン　まあ、WWEみたいなことをやりたいのか、新日本プロレス的なものをもう1回やりたいのかいろいろあるんだけど、プロレスをやりたいことは確かなんだから。

ドラゴン　それは石井館長の意向なんですか？

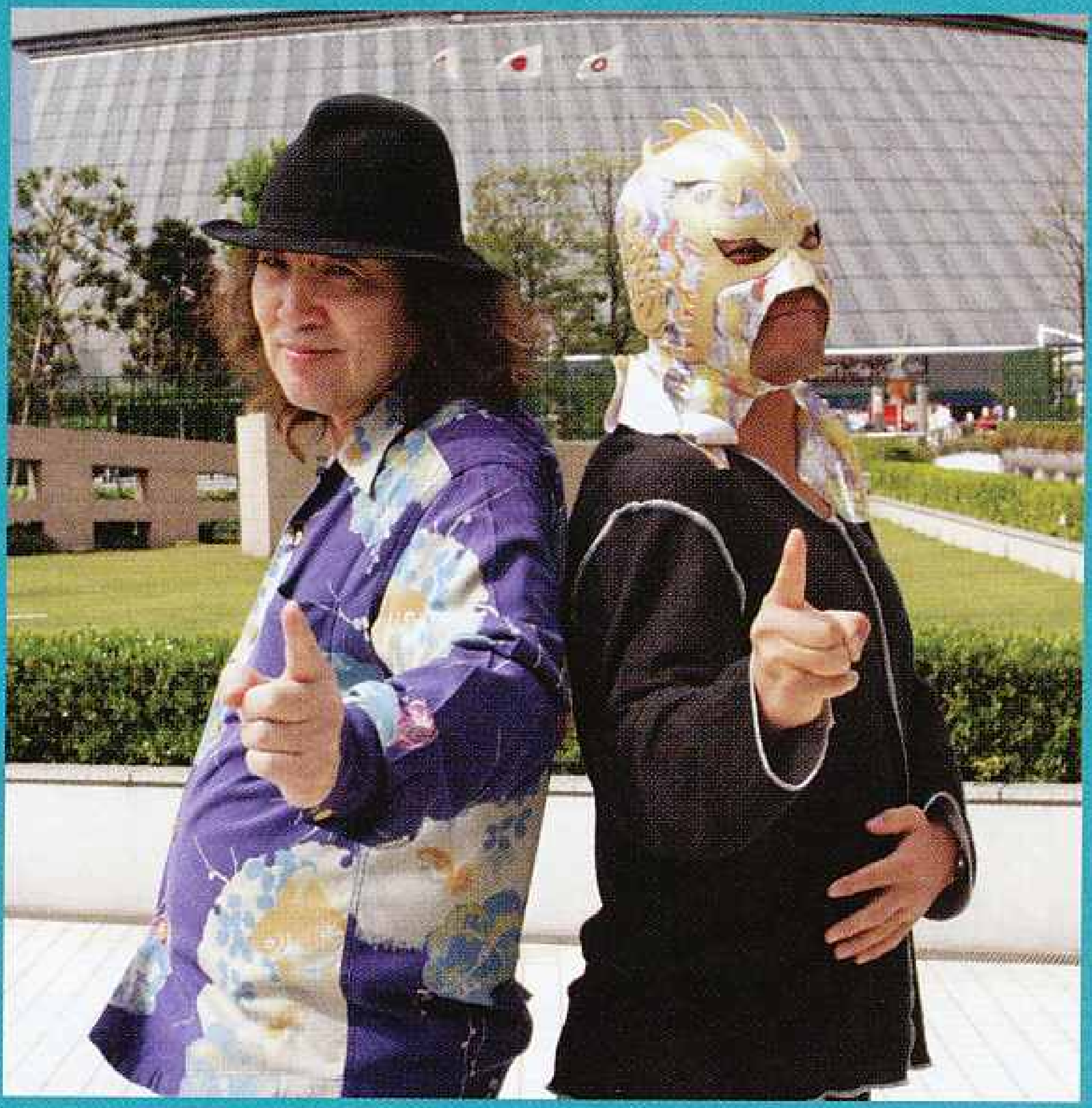
ターザン　そうですよ。石井館長は「俺がプロレスをやったらもっと面白いものができる」って、常にそう思ってるんだから。谷川だって思ってますよ。でも、いまは手を広げてるから彼らはできないんですよ。それにプロレスをやる本当のノウハウがわからないからね。

ドラゴン　まあ、選手も育てないといけないですからね。

ターザン　そうそう。選手を育てるってことが一番のキーワードですよ。新日本も選手を育てたじゃないですか。だから新日本は今日まで栄えることができたんですよ。次から次へと人材を輩出したでしょ。

ドラゴン　新日本の道場っていうのはいろんな意味で必要ですよね。もちろん、練習っていうのもそうだし、何かあそこは凄い落ち着くんですよね。昔に帰れていまも疲れてたんですけど、あそこの練習が終わって風呂に入った瞬間にタイムスリップしたっていうか、青春時代に戻れるじゃないですか。あそこの道場って基本的に全然変わってないんですよ。だから、あそこに戻って練習するともの凄く素に戻れるというか、いままで自分が十何年間積み重ねてきたキャリアとかすべて忘れられて昔のまだレスラーを目指してた自分に帰れるというか、凄い良かったですよね。若手と多摩川走りながら「昔はここで猪木さんと飯塚さんと俺とあと何人かで走ってて、俺が猪木さんを抜こうとしたら飯塚さんに後ろから引っ張られて『バカ野郎、抜いちゃダメだ』って怒られてさ」とか、そういう話をしたりして楽しかったですよ（笑）。

ボクは現役を長く続けるつもりはない でも、リングを降りても頭と口で プロレスを続けていきますよ（笑）



TARZAN YAMAMOTO

本名・山本隆。元・週刊プロレス＆格闘技通信編集長。現在は、毎日20代の彼女“ラスカルの公”のことばかり考える、葛飾の狂人。インターネットサイト「ターザンカフェ」で連日大量更新中！

ULTIMO DRAGON

本名・浅井嘉浩。S41年12月12日、名古屋市出身。新日道場に入門後、単身メキシコに渡り、日本では90年ユニバーサルのリングでデビュー。その後、U・ドラゴンに変身。現在は闘龍門メキシコ校長。昨年よりWWE入団している。

浅井さんを谷川に紹介するよォ！ K-1がやろうとしてるプロレスの マッチメイカーになるんですよ！

ターザン　プロレスをやってる人にとって道場は故郷だからね。あそこが原点なんだよ、自分が育った最初の空間だから。上井さんでしょ、浅井さんに馳浩とかね、彼らを上手く使ってやればいろんなことができるんですよ。

ドラゴン　だから僕らみたいな、いわゆる重鎮はいてもいいんですよ。でも、ボクがCIMAたちをプッシュしたように、そういう役割って絶対来るじゃないですか。それがなんで分からないのかなって思うんですよ。

ターザン　若い選手をスターにしなきゃダメですよ。僕が団体作ったら必ずデビュー1～2年でスターにするから！　ところで、浅井さんはやっぱり最後までずっとプロレスラーなんですか？

ドラゴン　現役は長くやるつもりはないですよ。もう決めてますから。でも、リングを降りてもプロレスはやりますよ！

ターザン　どんなプロレスをやるの？

ドラゴン　山本さんと一緒ですよ。口でやりますよ（笑）。

ターザン　口で？（笑）。面白い！

ドラゴン　新間寿かターザン山本ですよ（笑）。

ターザン　それって他の連中にとったら口害じゃないの！（笑）。

ドラゴン　でも、そういう人がいないとダメなんですよ。

ターザン　そうですよォォォ！　ただ、他の人から見たら余計なお節介をしてるように取られちゃうんだよね。でも、歴史上の偉人とか革命家とか発明家とかは時代に対してすべて余計なことをした人たちなんだよね。

ドラゴン　まあ、そりゃそうですよね。確かに変な人が多いですよ。山本さんと俺だって変じゃないですか。端から見たらメチャクチャ変だと思いますよ。僕らは普通だと思ってますけど最近、ちょっと気づいてきましたよ。自分が変な人だって（笑）。

ターザン　やっと気づいた？　ということは高貴な孤独になった証拠ですよォ！

ドラゴン　そうですね。ホント孤独ですよ。年金も払ってないし（笑）。

ターザン　そんなもん払いませんよォ！

ドラゴン　じゃ、俺たちも〝未納兄弟〟ですね（笑）。

ターザン　いや、カリスマ兄弟ですよ！　明日、猪木さんも入れて〝カリスマ三兄弟〟で一緒に写真を撮ろう！

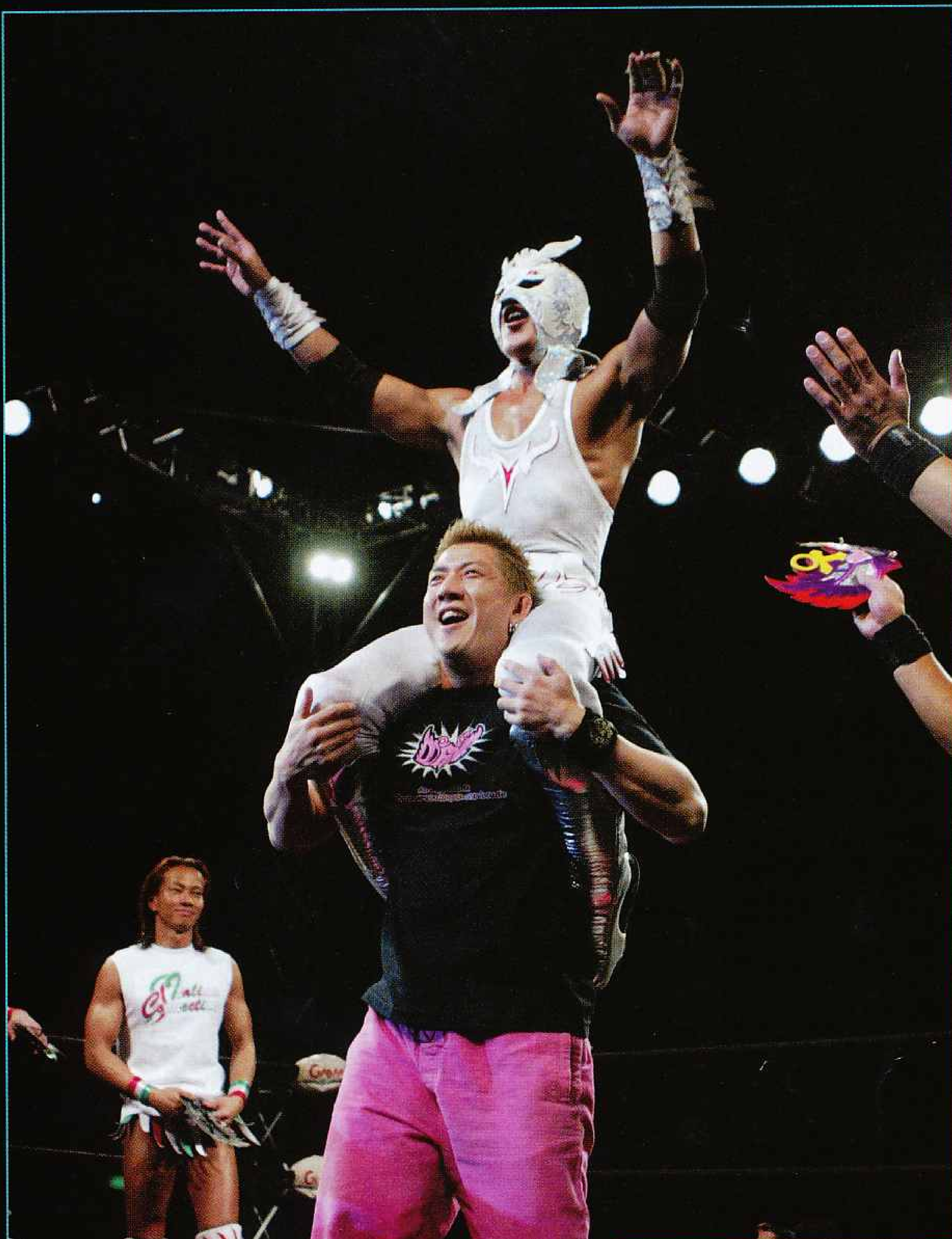
ドラゴン　それこそ〝未納三兄弟〟なんじゃないですか（笑）。

ターザン　（聞かずに）俺たちは孤独なカリスマなんだよォォォ！　浅井さん！　じゃあ、地中海の旅、気をつけて！

【04年5月3日／水道橋「後楽園飯店」にて収録】

『EL NUMERO UNO 2004』

ドラゴン・キッド初優勝!!



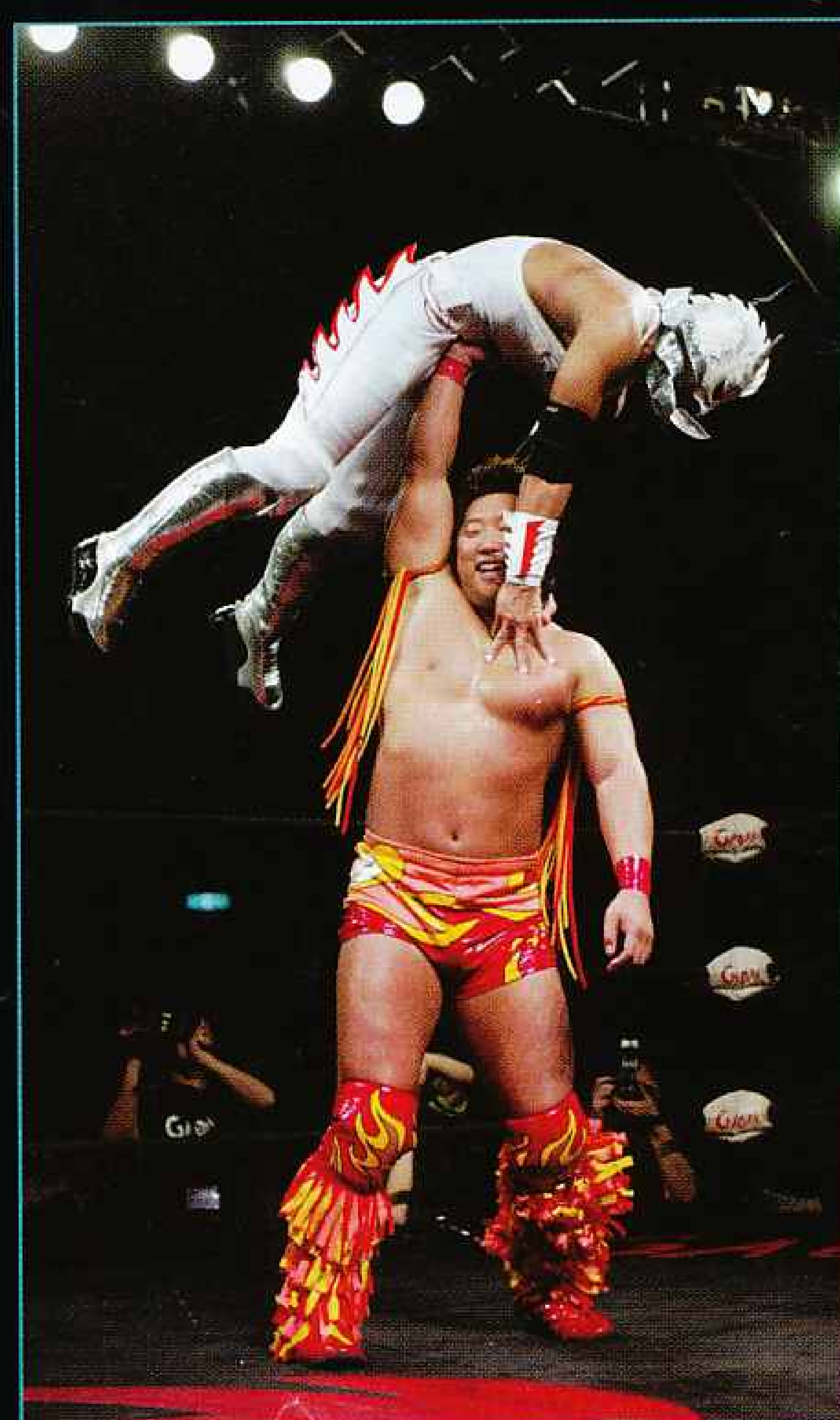


熱戦を制したフィニッシュは、ドラゴン・キッドの「ドラゴン・ラナ」。コーナーから前方一回転し、相手の肩に乗っての超高速ウラカンラナという神技だ。

決勝トーナメント優勝決定戦

○ドラゴン・キッド［17分0秒 ドラゴン・ラナ］近藤修司 ×

闘龍門ナンバーワン決定リーグ『ELNUMEROUNO2004』は、UDG王者のSUWAが試合中に右肩を脱臼して欠場、前年度優勝者CIMAが準決勝で敗退。大荒れとなったリーグ戦をは、創始者ウルティモ・ドラゴンから龍のマスクを受け継いだドラゴン・キッドと、闘龍門随一のパワーの持ち主・近藤修司の間で争われることとなった。試合は、キッドが悪冠一色の襲撃に苦戦しつつも、素早い動きで近藤のペースを狂わせて試合をリード。最後はトップロープからのドラゴン・ラナで完璧に丸め込み、悲願の初優勝! マグナムのお祝いダンスのあと、キッドは「こんなに体の小さい僕でも、ナンバーワンになれます!!」と挨拶。"神の子"が長い低迷からついに抜け出した。



いくら軽量のキッドだからといって、片手でリフトアップするとは……。近藤修司のパワーには改めて驚かされる。



2連覇が期待されたCIMAだが、抗争激化中である悪冠一色の度重なる介入もあり、キングコング・ラリアットの前に無念のフォール負けを喫した。



今年1月、キッドを裏切って悪に寝返ったモッチーは、精神的に常に優位に立っていたが、この大舞台で痛恨のフォール負け。捨てられた男が一矢報いた。

闘龍門JAPAN試合日程

■5月
15日（土）愛媛・アイテムえひめ　開始18:00
16日（日）広島・ふくやま産業交流館ビッグローズ　開始16:00
22日（土）愛知・津島市文化会館　開始18:30
23日（日）東京・ディファ有明　開始16:00
29日（土）岡山・倉敷山陽ハイツ体育館　開始18:00
30日（日）島根・松江くにびきメッセ　開始16:00

■6月
1日（火）広島・広島県立総合体育館（グリーンアリーナ）　開始18:30
4日（金）愛知・豊橋市総合体育館第二競技場　開始18:30
5日（土）埼玉・越谷桂スタジオ　開始18:30
6日（日）埼玉・本川越ペペホールアトラス　開始16:00
12日（土）三重・ゆめドームうえの　開始18:30
13日（日）長野・佐久市総合体育館　開始17:00
18日（金）愛知・小牧パークアリーナ　開始18:30
19日（土）東京・八王子市民会館　開始18:30
20日（日）東京・ディファ有明　開始16:00
21日（月）静岡・キラメッセ沼津　開始18:30
26日（土）愛媛・テクスポート今治　開始18:30
27日（日）福岡・博多スターレーン　開始18:00
29日（火）鳥取・鳥取産業体育館　開始18:30

■7月
4日（日）兵庫・神戸ワールド記念ホール　開始16:00
10日（土）沖縄・北谷公園屋内体育館　開始18:00

お問合せ:闘龍門JAPAN TEL:078-333-9797



見てみぃ、この大久保のミドル！　キャリアだけでなく年齢差もだいぶ離れている田村と大久保だが、試合終盤、大久保は見事なまでのスタミナ切れ。この蹴りを余裕の表情で、かわした田村は最後は怒濤の打撃のラッシュを愛弟子に浴びせトドメを刺した。この日、ノーコメントの田村の真意は?

文／松澤チョロ
撮影／平工幸雄
designed by matsu (Two Three)

残酷なリングなり

この日も田村潔司はカッコ良かった。U―STYLEで観る田村はいつだってカッコいい。これは間違いない！

しかし、大会後、それ以上に頭に残ったのは、もの凄くカッコ悪い試合をしてしまった大久保と一宮の姿だった。

「掻いて掻いて　恥掻いて　裸になって見えてきた　ホントの自分」

4・28後楽園大会を見ていて思い浮かんだのが、詩人・アントンの作品だった。

今大会の目玉は「他団体から挑戦者を募集」との佐伯代表からのアピールを受けた形でU―STYLE初参戦となった新日本の垣原賢人。ただ、垣原にそれほど新日本というイメージはないし、過去にUスタイルを経験しているだけに、田村との一騎打ち以外はそれほどインパクトがないというのが正直なところ。

その垣原が出場したメインは、佐々木恭介がロストポイントを奪いまくり、最後の最後で垣原が勝利するという、いわゆる"いい"試合となったのだが、やはり頭の中に浮かんでくるのは、師匠の田村相手にヘロヘロになり敗れた大久保と、同じく滑川相手にボロボロにさせられTKO負けを喫した一宮の姿だった。

正直言って、大久保も一宮もカッコ悪いことこの上ない負けっぷりだった。

師匠とはいえ、10歳も上の田村相手に明らかなスタミナ切れで、力ない掌底や不格好なミドルを放っていった大久保。

一方、ゴングと同時に突っ張りで突っ込んでいった一宮は、滑川に軽くいなされると、その後はなす術なく蹴られ殴られ鼻血まみれにされ、控室に向かう途中の廊下にバッタリ倒れ込んでしまった。

闘う前から勝敗は読めたこの2試合だったが、予想以上に両者の実力差が浮き彫りになった試合でもあった。

手の内を知り尽くした大久保相手に、イヤらしいぐらいの強さを見せつけ、逆に大久保のカッコ悪さをさらけ出させた田村と、久々に"素顔"での登場となった一宮を一方的に叩き潰し、親切にも鼻血によるメーキャップまで施す形となった滑川。方法論こそ違うものの、純プロレスや総合とは違う、U―STYLEならではの残酷さを見せつけた両者。

純プロレスのリングでも滅多に見ることのできないほどのヘロヘロぶりを露呈させられ「気持ちはわかるけど、どう見てもお前の勝ち目はないよ」と、声を掛けたくなる大久保のカッコ悪い姿。

総合のリングなら、最初のダウンで止められてもおかしくないほどのダメージを負った一宮。なんとか気力で立ち上がり、相手に組み付こうとするも、その度に滑川の強烈な打撃をもらい、再びマットに横たわるといった展開。意識もロストポイントもある。それなのに身体が付いていかない。手も足も出ないが鼻血は出る。そんな、もどかしい状態のまま相手に向かっていくしかなかった一宮。

カッコいい人は、よりカッコ良く、そうでない人は、とことんカッコ悪い。U―STYLEとは残酷なリングである。

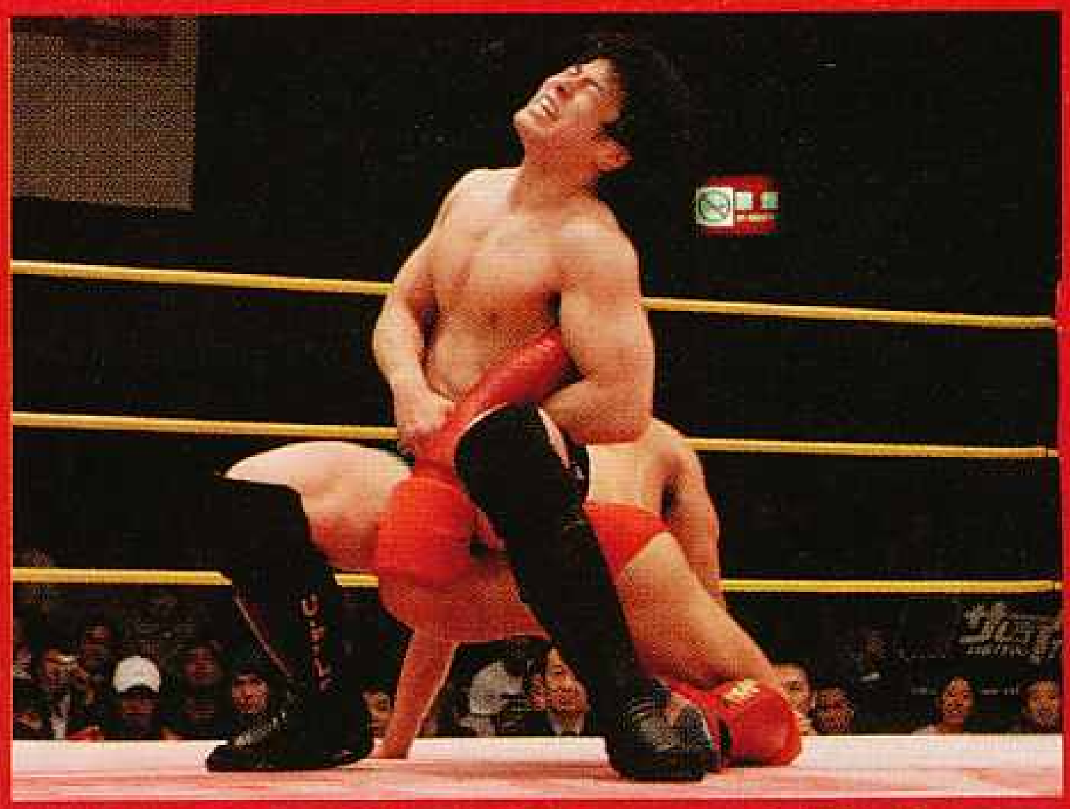
恥を掻き、裸になった大久保と一宮。次の2人のU―STYLEに注目だ!!



久々の"素顔"でU-STYLE初参戦となった一宮は滑川と対戦。トータルワークアウトで練習したこともあるという2人だが、ゴングが鳴ると滑川は情け容赦なく打撃を叩き込み、立て続けにダウンを奪う。鼻血を流しながら何度も立ち上がり意地を見せた一宮だったが、結局、4分5秒TKO負けを喫した

イヤらしいほどの強さを見せつけ、田村が師弟対決を制す!!

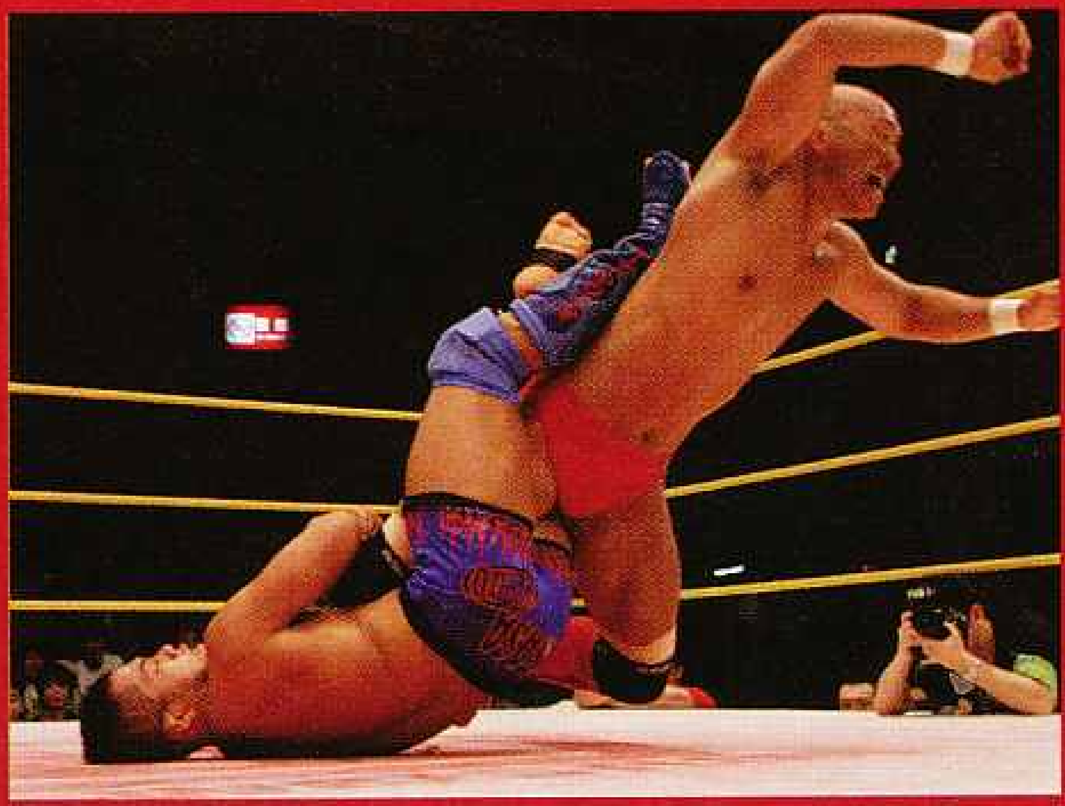

セミでは前大会の佐々木戦に続き田村潔司と大久保一樹の師弟対決が実現。開始前、師匠の田村の肩を突き飛ばした大久保は、序盤で田村が得意とするミドルキックを何発も打ち合うなど意地を見せた


大久保は寝ても立っても田村に圧倒され、スタミナ切れのヘロヘロ状態で次々とロストポイントを重ねていく。しかし何とか田村のミドルをキャッチし、渾身の片逆エビ固めで殊勲のエスケープを奪取!


最後は力尽きた大久保に対し、田村のジャンピングハイキックが炸裂。大久保はロストポイントが0になりTKO負けを喫した。試合後、大久保は「待ってる田村さんが怖くて、前に出れなかった」と、しょんぼり

“新日本プロレス”からカッキーがU-STYLE初参戦!!

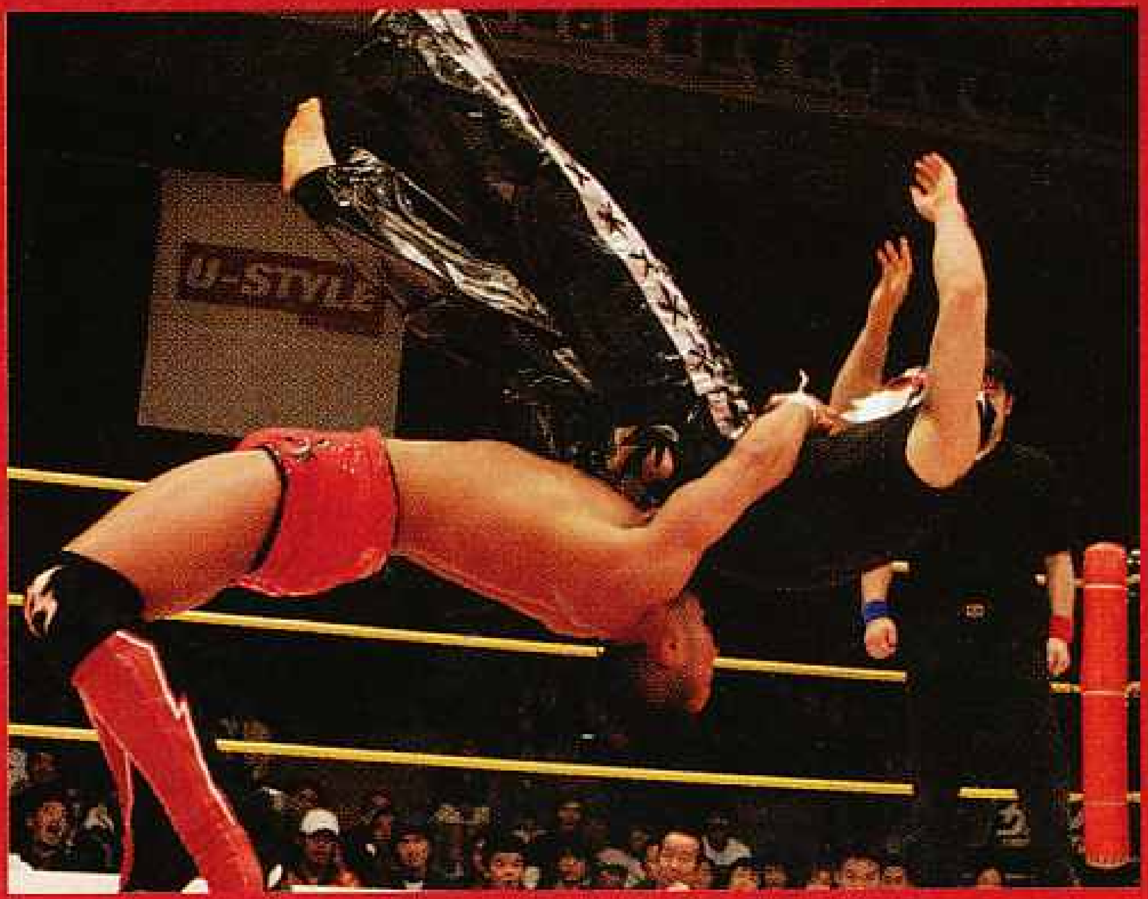

ケガのため昨年11月から欠場していた垣原賢人がメインで佐々木恭介と対戦。ゴング前、垣原の方から求めた握手を払いのけた佐々木が、開始早々、飛びつき腕十字でファーストエスケープを奪取!


佐々木は試合前から狙っていたという、Uインターと新日本の対抗戦で垣原が佐々木健介を破った前転ヒザ十字でエスケープを奪うと、力強くガッツポーズ! 健介ファンだった恭介が雪辱達成!?


ロストポイントで追い詰められた垣原は、ビル・ロビンソン直伝のヘッドロックでグイグイと締め上げると、佐々木は堪らずタップ。垣原は意外な技で逆転勝利をおさめ、田村戦へ一歩(半歩?)前進した

U-STYLEとは

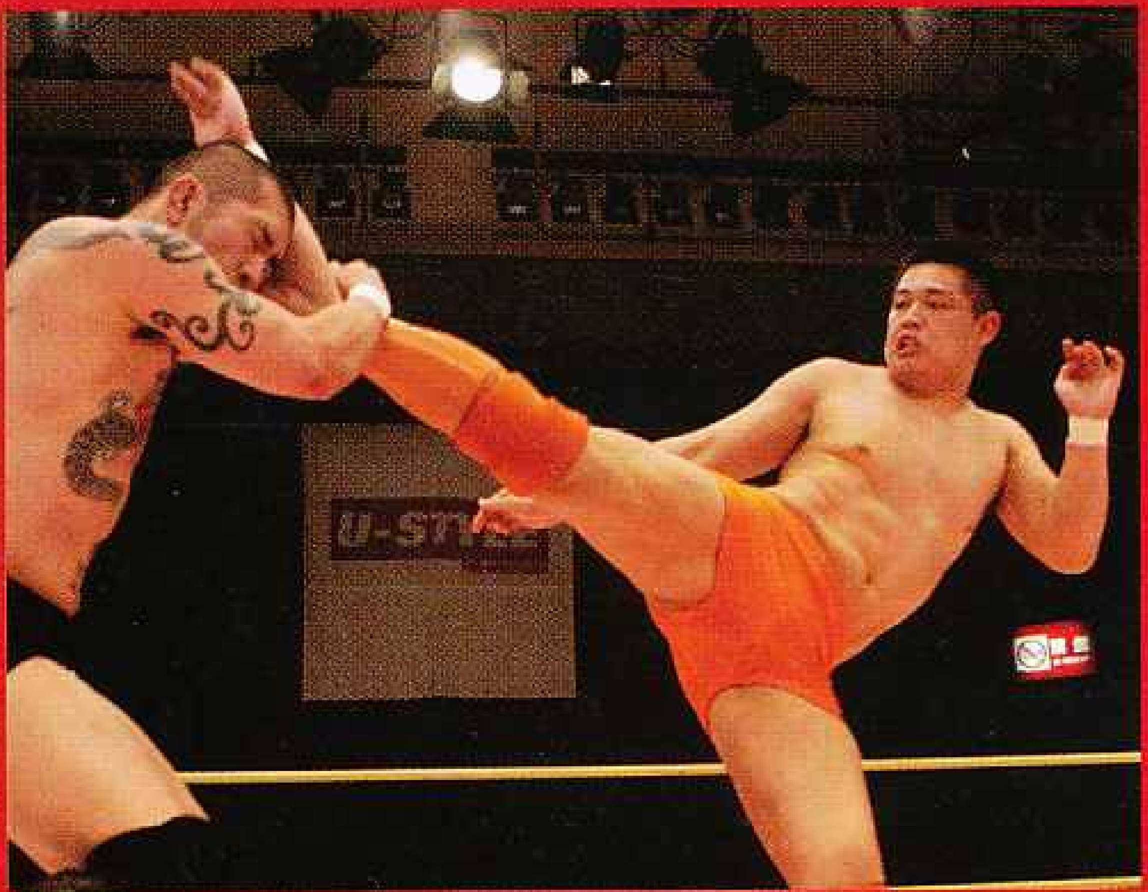
カッコいい人は、よりカッコよく、そうでない人は、とことんカッコ悪い

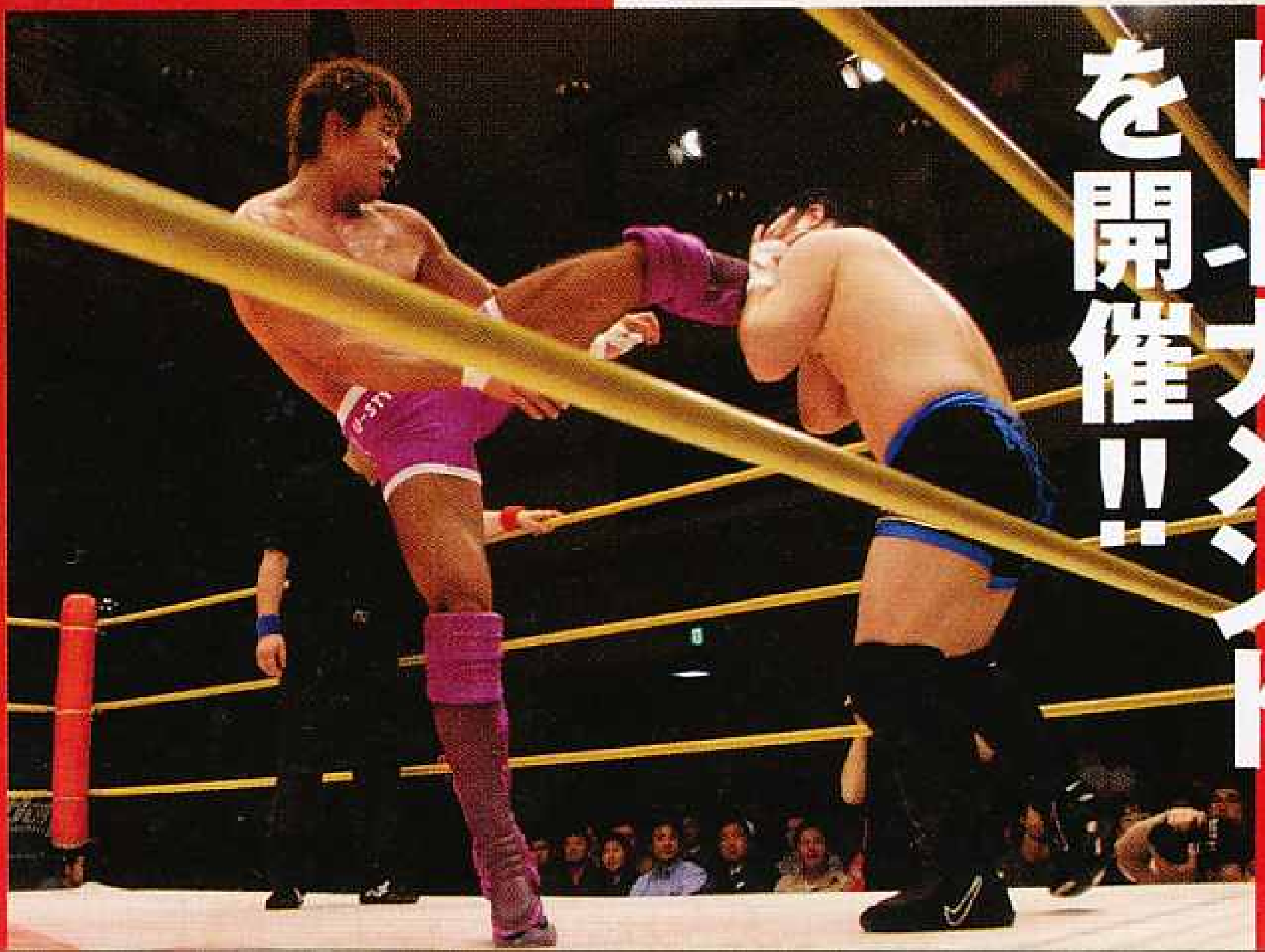

この日も来場したU-STYLEにはうるさい新日本・上井執行役員。中でも一押しは「あの円の動きが素晴らしい」というクラフターM。この日も、得意の飛び付き三角等で攻め込んだが、最後は原がチョークで勝利!

リングスへ出場経験がある木村浩一郎もU-STYLEは、この日が初参戦。元バトラーツのタナカジュンジ相手に開始早々から次々とエスケープを奪取。ジュンジも体格差をはねのけ水車落としで投げ飛ばすも、さしたるダメージは与えられず。浩一郎は自らのロストポイントを減らすことなく得意のクロスヒールホールドでジュンジに完勝! もう一丁!

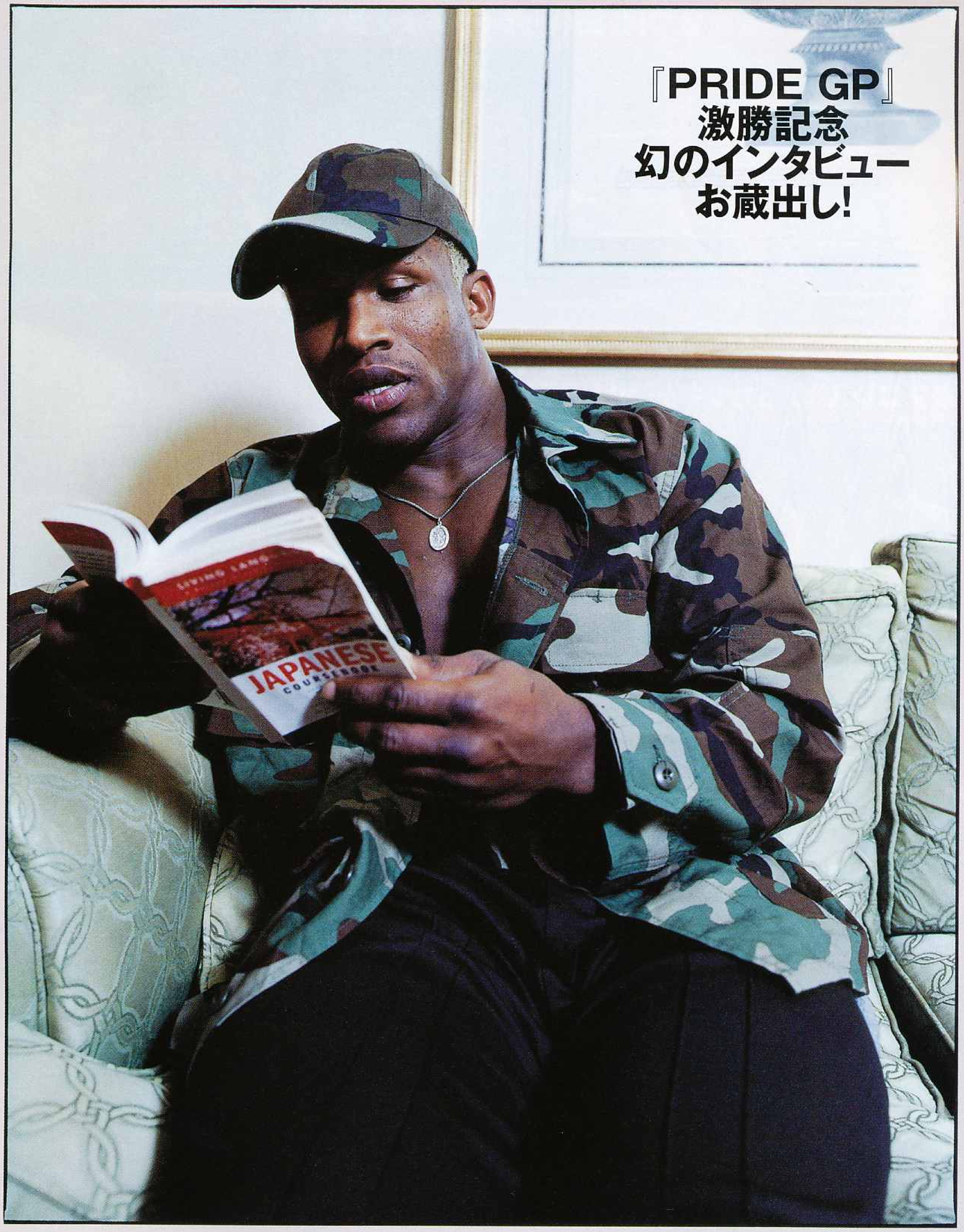


他団体から挑戦者を募集した今大会。出場したのは垣原、ジュンジ以外は、浩一郎、一宮、MAX宮沢と、いずれも「DEEP」出場組。U-STYLE初参戦となった宮沢はキャプチャーや「r」等、U系スタイルの団体で活躍してきただけに、上山とは噛み合った好勝負を展開。試合は互いにエスケープを許さないまま10分が経過。その直後、上山がハイキック一発でKO勝ち


いまだU-STYLE未勝利の木村直生と、先月末にイギリスで行われたリー・ハステル引退試合の相手(残念ながら敗戦)を務めた伊藤博之が激突。試合は破壊力のあるキックで終始優勢に進めた伊藤がヒザ十字で勝利!



そして、8月。U-STYLE初代王者決定トーナメントを開催!!



『PRIDE GP』
激勝記念
幻のインタビュー
お蔵出し!

ランデルマンと *Kevin Randleman* プロレス

聞き手／ジャン斉藤　撮影／松本崇 designed by hisa（Two Three）

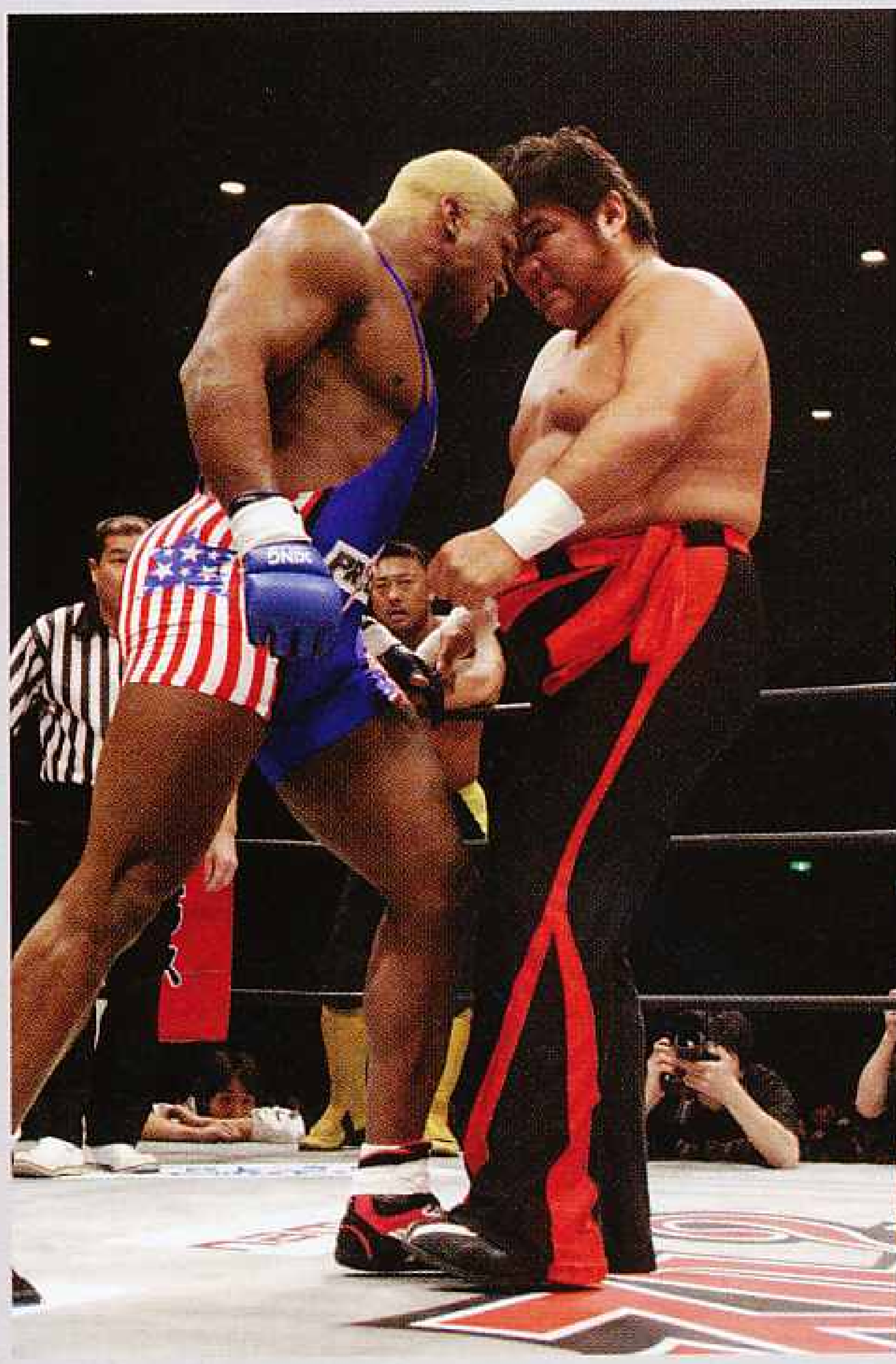
『PRIDEヘビー級グランプリ開幕戦』で、ミルコ・クロコップを撲殺する大番狂わせをやってのけたケビン・ランデルマンにインタビュー取材を申し込んだが、家族が病気になったとのことでランデルマンは緊急帰国。収録ならず！

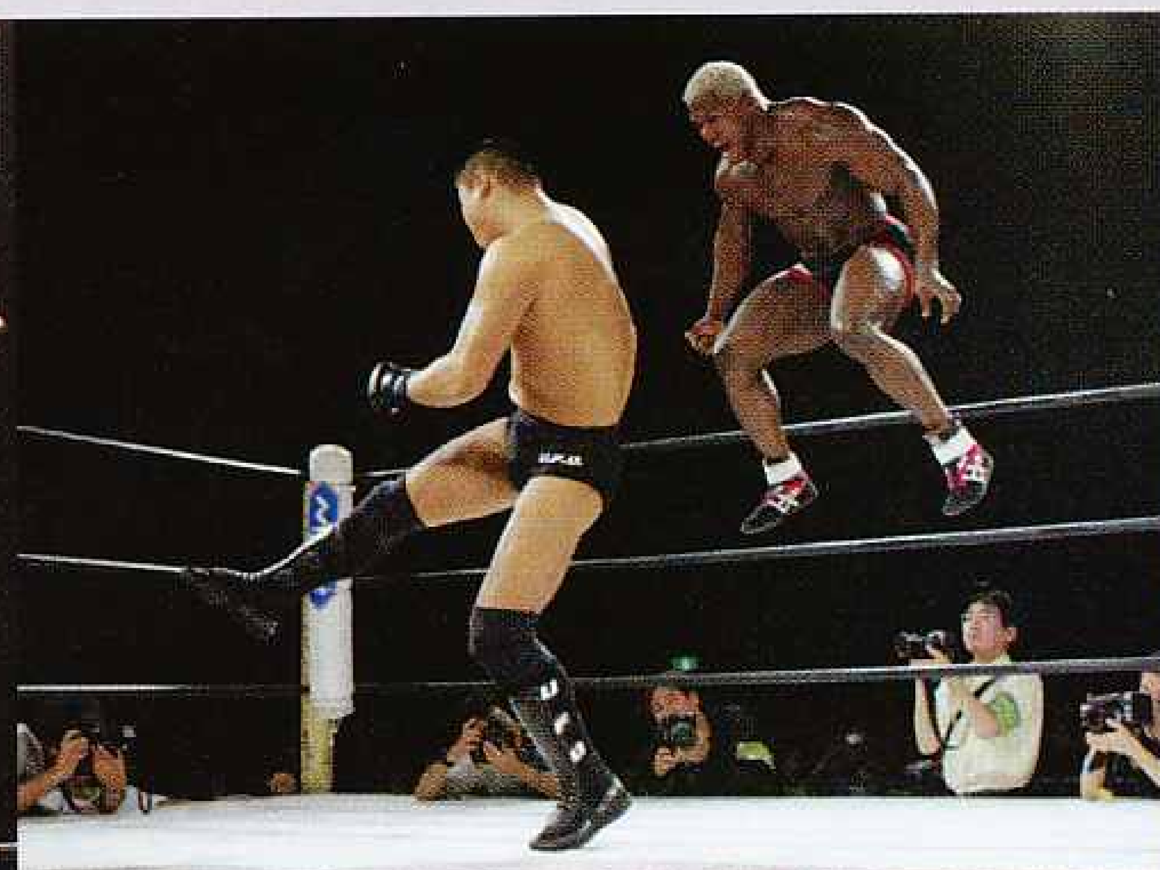
予定されていた『ハッスル3』の出場も消滅してしまい、このままランデルマン企画がないのは寂しい!! というわけで、『紙プロHand』の格闘家コラムで小出しにはしていたが、収録したもののタイミングが合わずに本誌未掲載だったインタビューをお送りしよう！

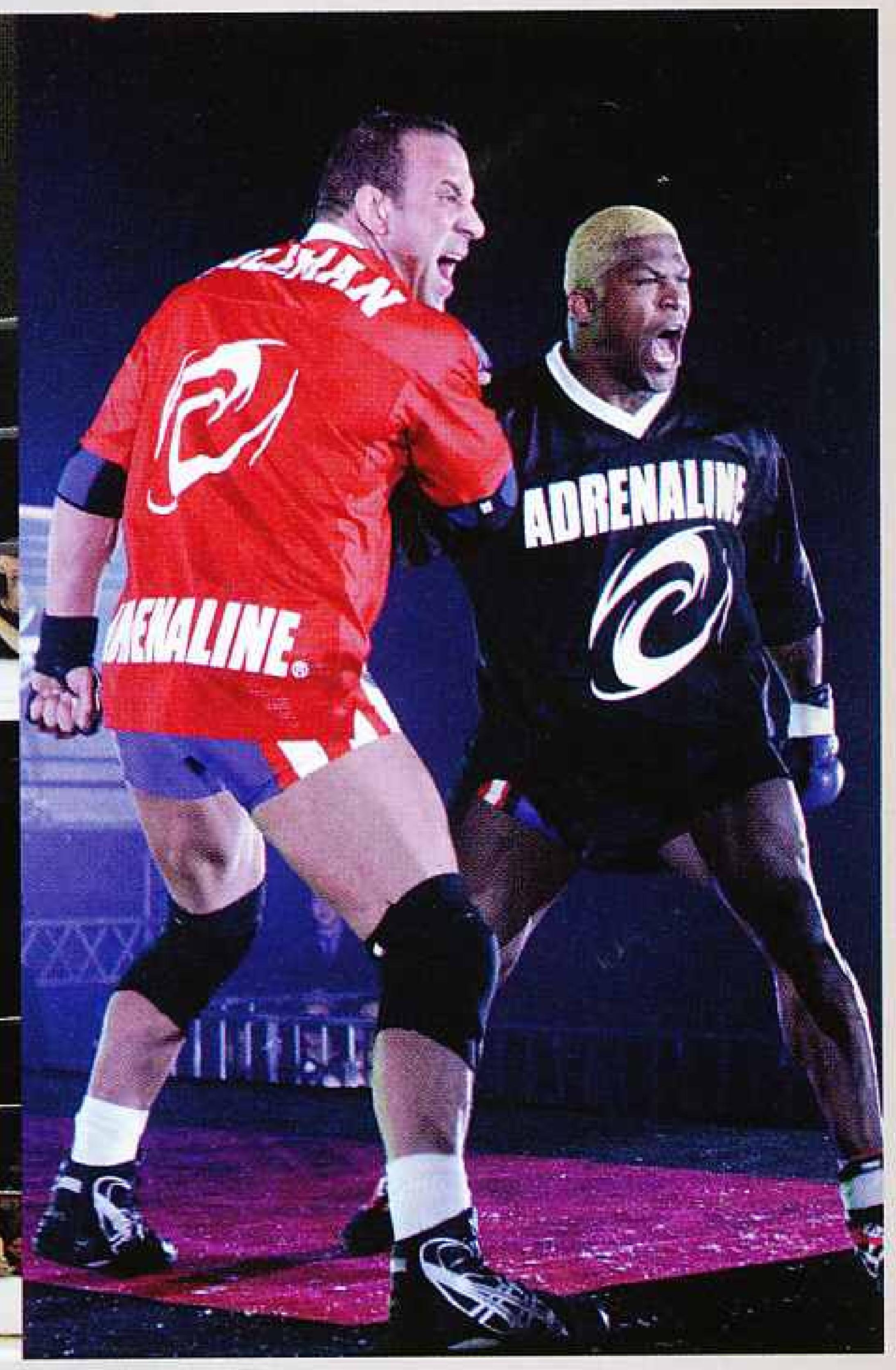
収録日時は昨年11月10日、『PRIDEミドル級GP決勝戦』の翌日。『ハッスル』夜明け前という理由から、テーマは『プロレス』。誰もがそのプロレスの才能に目を見張り、『ハッスル』の主力として期待されていたランデルマンにスポットをあてる企画だったのだ。（右腕の怪我のために、『ハッスル1』出場は流動的だったので掲載しなかった）。

じつは、このときランデルマンは、前日の桜庭との試合で一本負けを喫したことでかなり落ち込んでいた。「何も喋りたくない」と関係者にもらしており、一時は取材中止の事態に陥ったが、最終的には「でも、プロとして受けなきゃなあ」と了承を頂いた。収録場所は都内ホテルの一室。

指定された部屋のドアを恐る恐るノックすると……「ウガー!!」と雄叫びを発しながら、落ち込んでいた素振りをまったく感じさせずに、笑顔で出迎えてくれたランデルマン!! どうやら「プロ」として、精一杯意地を張ってくれたらしい。そんなランデルマンの心情を察して読んで頂けると幸いです。ドゥ・ザ・ハッスル!!









俺様が軽々しくプロレスに トライしているように見えるかい？

ランデルマン 今日はよろしく頼むぜ!!

——こちらこそ、よろしくお願いします！ 昨日は残念な結果になりましたが……。

ランデルマン 昨日のことは昨日のことだ！ 俺様はまったく気にしていない。だからアンタも気にするな。

——わかりました！

ランデルマン さあ何でも聞いてくれ！ 俺様は今日、とっても機嫌がいいから、アンタは今日、とっても運がいい。そうだろ？（笑）。

——はい（笑）。それでは桜庭戦の感想から、お伺いしたいんですけど。

ランデルマン サクさんはグレイトなファイター！ リングの中を魚のようにスイスイ泳ぐ。そして力の使い方もすごくうまい。

——最後のアームバーは逃げ切れなかったわけですか？

ランデルマン アームバーがくるのはわかっていたよ。俺様もバカじゃないからな。極められてしまったのは、試合中に右腕を怪我してしまって、まったく力が入らなかったからなんだ。なぜならパンチを打ったときに、あまりにも力を入れたもんだから、その反動で腕の筋が切れた！

——つまり、自爆！ 凄いパワーだ（笑）。

ランデルマン 見てみろ、この右腕！（と、両腕に力こぶをつくるが、右腕だけ筋肉は隆起せず）。

——うわ～！ 異様な光景ですね！

ランデルマン でも心配するな。右腕の力は失ったが、俺様は自信は失っていない。俺様は昨日の激闘を誇りに思っている。あそこまで闘えた自分の才能に誇りを感じている。才能を信じているからこそ、諦めない。諦めないからこそ、これからも闘い続けるんだ。次の試合を期待していてくれ！

——はい！ 『PRIDE』はもちろん

憧れはジミー・スヌーカ。プロレスのリングでは彼のスタイルを意識する





ですが、ランデルマンさんには、プロレスのリングでの活躍も期待してるんですよ。

ランデルマン　ふ〜〜ん。なんで？

——「なんで？」って（笑）。ここ最近プロレスにチャレンジしたMMAのファイターの中で、ランデルマンが一番センスがあるって評判なんです。

ランデルマン　俺様にプロレスセンスがある？　それは初めて聞いた！　プロレスについてのインタビューは受けたことはないし、どう思われてるかが不安でもあった。評価してくれるのはとっても光栄だ！

——ランデルマンさんはこなした試合は10試合も満たないのに、ドロップキックひとつで銭が取れますよ。

ランデルマン　そこまで言われると、トライしたかいがあったな。マーク（・コールマン）は、ニュージャパンやイノキさんのイベント（一回目の『猪木祭り』）に参加していたけれど、俺はプロレスにまっ〜たく興味がなかったから。『W—1』からオファーを受けて、「一度だけチャレンジしてみるか！」と思ってやってみた。そんなきっかけさ。

——UFC王者時代はゴーバーも関わっていたオバケジムを通じて、WCWのレスラーたちと交流があったというし、プロレスを見てなかったわけじゃないですよね？

ランデルマン　プロレスは子供のころからずっと見ていたよ。それにいまでもよく見ている。その証拠にハルク・ホーガンのモノマネもできる。やってやろうかい？

——お願いします（笑）。

ランデルマン　Hey, Brother!!　Hey, Brother!!（ホーガンの声色で）。どうだソックリだろ？　ガハハハ！

——オーガンとの共演が楽しみなぐらい似てますよ（笑）。子供のころのアイドルも、やっぱりホーガンだったんですか？

ランデルマン　いや、"スーパーフライ"が俺様のアイドルだったね。

——アイドルはジミー・スヌーカ！

ランデルマン　そうさ。アンドレ（・ザ・ジャイアント）やホーガンよりも、スヌーカが一番好きだった。なぜかというと、彼は決して大きくない身体で、ファンがアッと驚くムーブを連発してただろ？　俺様も

身体が小さいからね。そんなスヌーカは憧れの対象だった。プロレスでは、彼のファイトスタイルを意識してるんだよ。

—ランデルマンさんのスタイルは、まさしく"スーパーフライ"ですもんね。

ランデルマン ちゃんとプロレスのトレーニングもしてるんだぜ。WWEや日本のプロレスのビデオを取り寄せて、グッドなパフォーマンスやムーブを研究している。

—そんなリサーチもしてるんですか？

ランデルマン そりゃそうだ。プロレスはハードなジャンルだからな。ひとりのアスリートとして、真剣に取り組まないとできねえよ。

—デビュー戦の『W—1』では、コールマンさんとのタッグで馳＆小島と闘いましたが、実際にやってみた感想は？

ランデルマン コジマさんやハセさんはグレイトなレスラーだし、学ぶべきことがたくさんあったよ。やっぱりプロレスは難しい!! ってことを身をもって痛感したな。

—プロレスをやる上で一番、意識しているポイントは何ですか？

ランデルマン それはアクションだろうな、ハードなアクション！ WWEのようにトークを重視したドラマも面白い。でも！ 強靭な肉体を持ったファイターたちがガツンガツンぶつかりあったり、華麗に飛び跳ねたりすることは絶対に欠かせないって。

—日本では、格闘家がプロレスのリングに上がると"軽々しくプロレスをやっている"という声が飛びがちなんですが、それについてはどう思われます？

ランデルマン 逆質問だ！ 俺様が軽々しくトライしてるように見えるかい？

—いや、そうは思いません。

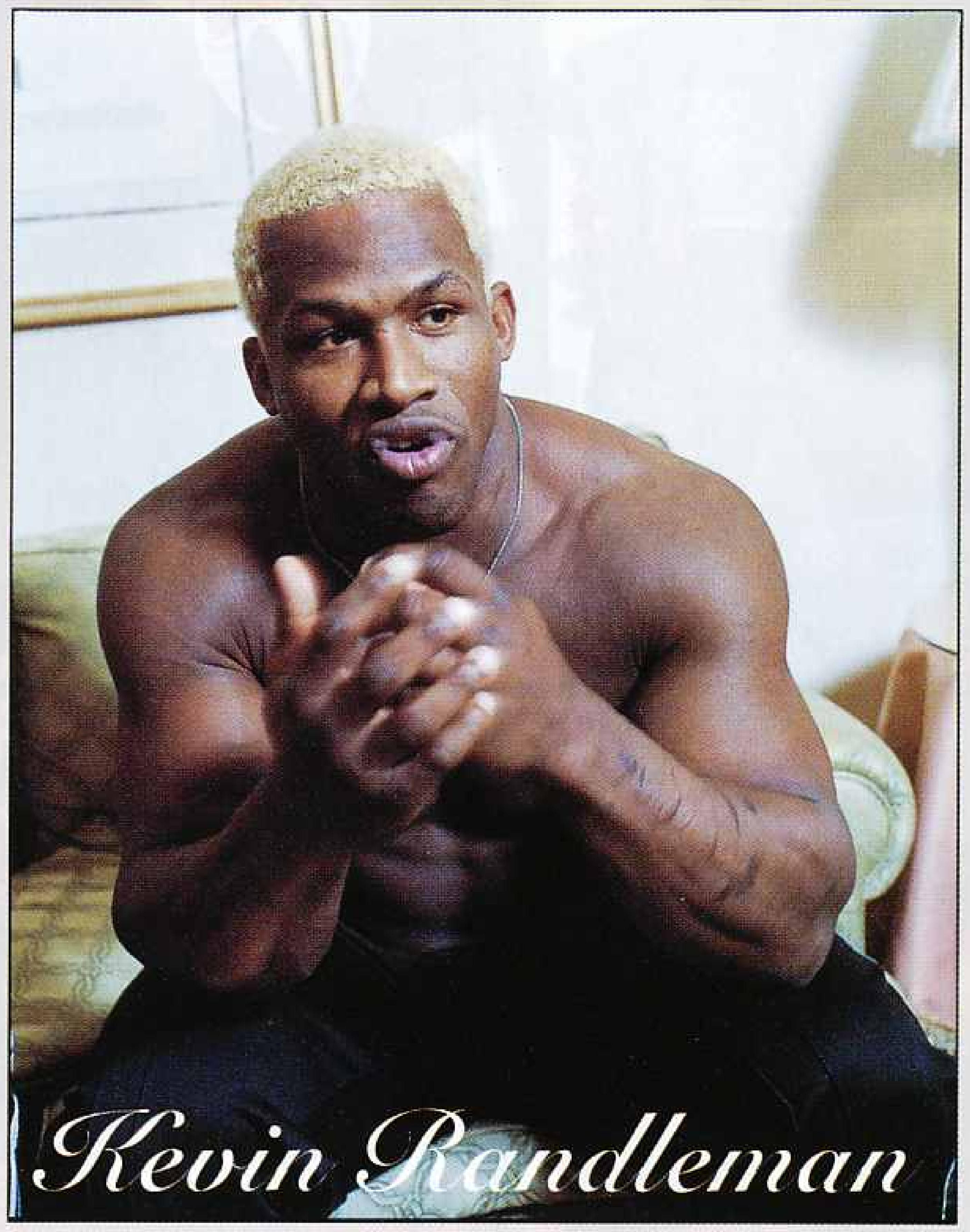
ランデルマン すべてはファンが判断してくれたらいい。俺様はすべてを受け入れる。プロとして、すべての声に耳を傾けるよ。で、さっきの質問に答えるぜ。たしかに真剣さに欠けていた奴もいる。真剣に取り組んでいても、良い内容を魅せられなかった奴もいた。前者はいずれ去っていく。ほっといてもファンに見離されるからな。後者には幸運を！ 神様は決して見捨てたりしないさ。

—真剣に努力すれば報われるってことですね。日本のプロレスについては『OH祭り』で藤原（喜明）さんからいろいろ教わったそうですね。

ランデルマン フジワラ先生はスンゲエぞ。強いし、上手いし、何しろハードボイルド!! 会場からホテルに移動するときなんて、先生のために猛ダッシュしてタクシーを止めるぐらいリスペクトしている。

—完全に付き人状態だ（笑）。試合後には、居酒屋にも御一緒されたんですよね？

ランデルマン 行った行った！ 刺身や焼き鳥をツマミながら、いろんな話を聞いたんだ。間の取り方、会場の空気の読み方、観客の沸かせ方……。一番勉強になったのは、自分の試合だけをヒートさせることばかり考えるな。イベント全体を見据えろ。これ、何事にも通じることだよな。プロレスのツアーを初体験して、精神面もタフになったよ。何しろバスに5時間も揺られて、次の会場に向かうんだからな。アレにはまいった！



【けびん・らんでるまん】マーク・コールマン率いる「ハンマーハウス」の一員で、『高田モンスター軍』の忠実な兵士でもあり、ミルコ撃破の翌日、宿泊先の一流ホテルのロビーで、カレー風味のカップラーメンを食する野生児でもある。バックボーンはレスリング。UFCでメキメキ頭角を現し、UFCヘビー級王座を獲得。『PRIDE・GP』でも頂点を目指す。1970年8月10日生まれ、180センチ、93キロ。

—リング外の過酷さも体感したわけですか（笑）。

ランデルマン 日本の食べ物も合わないし、湿度のせいで体重はかなり落ちてしまって体調も最悪だった。そんな状態でアメリカに帰国して、時差ボケのままドライブしたら、注意力が散漫になってて前方車に突っ込んだ！ ドッカーンさ!!

—かなり大きな交通事故を起こしちゃったみたいですね。

ランデルマン 馬鹿だよな、ホント！ バンバン!!（テーブルを叩きながら）。でも、奇跡的なことに大怪我はしなかった。車のエンジンが俺の身体に覆い被さっただけ！

—それでも大変な事態ですよ（笑）。桜庭戦のコンディションに影響したんじゃないですか？

ランデルマン いやいや、今回の試合にはまったく関係ない。それに、あの事故は人生の良い転機になった。死に損なったことで、もう一度、自分の人生を見つめ直せた。エンジンをハネのけて、俺様は幸せを身体中に感じた。俺はまだ生きている、まだ闘える！ もっと凄いランデルマンになれる！ でも、もっと弱いランデルマンに落ちるかもしれない。どうするのかは俺様次第だってわけだ！（自分に言い聞かせるように）。う〜ん、俺様は腹が減った。メシを喰いにいく。インタビューは終了だ！

—わかりました（笑）。これからも元気にバンバン飛び跳ねてください！

［03年11月10日／都内・某ホテルにて収録］

その後のランデルマンの活躍は、『ハッスル』シリーズ、そして『PRIDE・GP』の快勝で、皆さん御存知のとおり。ミルコを破った直後のマイクアピールでは、「試合前、俺は怖かった！」と、ひとりの人間、ひとりの格闘家としての姿をさらけ出したかと思えば、大会終了後のセレモニーでは、『髙田モンスター軍』の一員として、小川に向かって「チキンは『ハッスル』に帰れ！」と、腰を振りながらハッスルポーズで挑発してみせた。大活躍だランデルマン！ 己の力を信じて、ひたむきに努力する者には幸運を。神様はこの男をきっと、見捨てたりはしないだろう。

ノゲイラ選手、1回戦突破おめでとう! そしてスパッツありがとう!

RADICAL PRESENT GP 2004







1名様

★ノゲイラスパッツ

スピニング・チョークで観客の度胆を抜いたノゲイラから、またまた臓物飛び出すようなプレゼント! なんと、グランプリ1回戦(vs横井戦)で着用したサイン入りスパッツを『紙プロ』読者1名様に! さらにオーちゃんも『ハッスル』スパッツをプレゼント(P1からのロングインタビュー参照)。どっちの応募が多いか、白黒つけろや! 【ノゲイラ提供】

DVD

3名様



★『PRIDE.27』

ミルコ、ハリトーノフ、ヒース、ニンジャ、マッキー、H²Oマンら GP戦士が大挙出場の『PRIDE.27』がDVDになって登場。そして物議を醸しだした山宜vsマーク・ケアーの一戦ももちろん収録! これが幻のDDTだ!【メディアファクトリー提供】
[TEL] 03-5469-4880〈10:00〜18:00/土日、祝日は除く〉
[URL] http://www.mediafactory.co.jp/

GAME

3名様



★バックヤードレスリング

アメリカのPTAが騒ぎまくり、社会現象まで巻き起こした世界一過激な裏庭プロレスが、遂に日本初上陸! 記念してゲームを3名様に大盤振る舞いだ! 日本でもお馴染みのサブゥーやマッドマン・ポンドも登場。拾えるものは何でも使って、取りあえず相手を叩きのめせ! 【EIDOS提供】
[TEL] ユーザーサポート係
052-775-8380(平日11:00〜17:00)
[URL] http://www.eidos.co.jp/index-hi.html

KYOKUSHIN



2名様

★マス大山カラテスクールBOX ¥9800

大山倍達総裁没後10年追悼記念アイテムが登場。幻の通信教育教材『マス大山カラテスクール』テキスト全7巻・計520頁を完全復刻! さらにはGOD HANDマス大山特製ステッカー『現代カラテマガジン(1972〜88)』全号204冊収録のDVD付き(※このDVDはパソコン用ソフトです。DVDプレイヤーでの再生は出来ません)。編集は真樹日佐夫先生だ! 押忍ッ!! 【東邦出版】
[TEL] 03-5396-7100
[URL] http://www.toho-pub.com/

GUTS



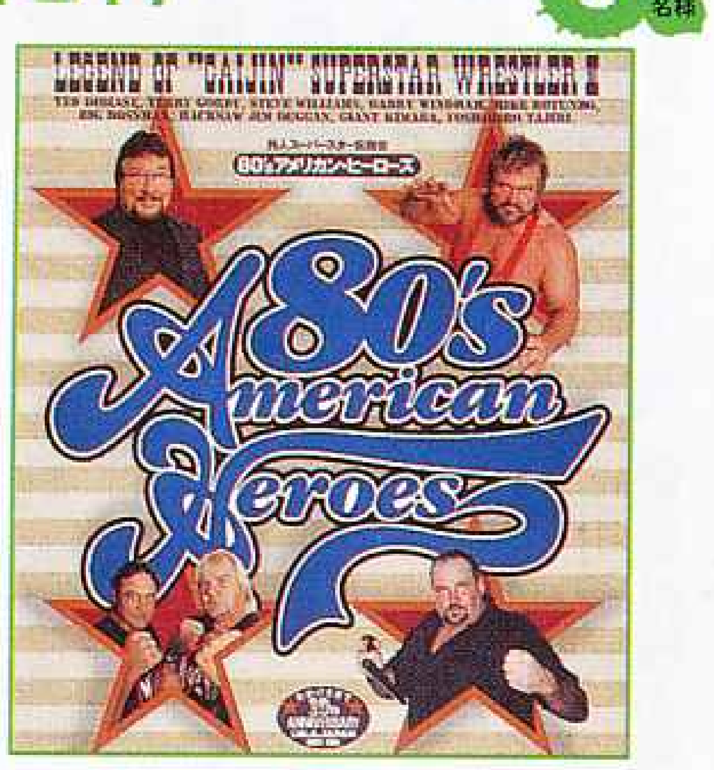
セットで1名様

★ガッツの源&ガッツストラップ&ガッツキーホルダー

ガッツ石松のWBC世界ライト級王者獲得30周年記念パーティーに、吉田豪が出席。会場には小林旭、橋幸夫、ドラゴン、ビッグ・サカら各界の著名人約700人が集結した奇蹟のパーティーだ。会場で配られたスタミナ・ドリンク&ストラップをプレゼント! 3、2、1、オッケー牧場! 【吉田豪提供】

IWA

3名様



★80'sアメリカン・ヒーローズ ¥3000

テッド・デビアス、スティーブ・ウィリアムス、アニマル・ウォリアーら'80年代の日本マット界を彩ったスーパースターたちの勇姿が見られるのはIジャだけ! なつかしの入場テーマソングを集めた決定盤が発売だ! 【IWA JAPAN提供】
[URL] http://www.iwajapan.jp/

TAKAYAMADO



3名様

★ジャーマンスープレックス・エベレストスタイルTシャツ

GOLD M〜XL ¥3000

ロングセラーのエベレスト・ジャーマンスーTシャツにゴールドカラーが新登場! Uインター勢がこぞってイエロー系の新色Tシャツを発売中。次は野武士Tシャツのイエローか!? ※プレゼントは全てLサイズ。 【高山堂提供】
[URL] http://www.takayama-do.com

U.K.R.

3名様



★『U.K.R.』Tシャツ XS〜L ¥3675

金ちゃん、『武士道』出場決定!! 吉田豪とのイベントでも"ボヤキング"の名に相応しいボヤキっぷりを見せてくれた金ちゃんが「読プレで紹介したら、もっと売れるかなあ」とタヌキの皮算用で提供してくれたTシャツだ! ※プレゼントは全てLサイズ 【金原弘光提供】
[URL] http://www.hiromitsu-kanehara.com/home/index.html

DSE

PRIDE・GP、開幕戦から大爆発！ 負けてしまいましたが、ミルコグッズも続々と登場だ。ミルコの復活を信じてガンガン応募しよう。ドッキドキの6月20日のGP準決勝まで、PRIDEグッズで身を固めてスタンバイだ！
【DSE提供】 [TEL] 03-5464-1531 [URL] http://www.so-net.ne.jp/pride/









各1名様

01★PRIDE GP 2004ポスターTシャツ BLACK S~XL ¥4000+税
02★PRIDE GP 2004イラストTシャツ WHITE S~XL ¥4000+税
03★ノゲイラ Vale Tudo e FantasticoTシャツ WHITE S~XL ¥4800+税
04★ノゲイラ Vale Tudo e FantasticoTシャツ CHARCOAL GREY S~XL ¥4800+税
05★一本！Tシャツ WHITE S~XL ¥3600+税
06★CRO COP SQUAD Tシャツ BLACK S~XL ¥4000+税
07★CRO COP SQUAD Tシャツ WHITE S~XL ¥4000+税
08★CRO COP SQUADスポーツタオル ¥3,000+税
09★ヒース・ヒーリング フィギュア ¥3200+税
10★桜庭ミニフィギュア ¥1600+税
11★シウバミニフィギュア ¥1600+税
12★お前男だ！ハンド ¥1000+税
13★PRIDE ネックレス ¥9,800+税
14★PRIDE GP 2004 ストラップ ¥1000+税
15★PRIDE GP 2004 キーホルダー ¥1000+税
16★PRIDE GP チャンピオンベルトストラップ ¥1000+税



HUSTLE

8名様



★ハッスル洗脳ビデオ

とんでもないビデオが出てしまいました……。ハッスルを世に浸透させるために、髙田モンスター軍が制作したビデオを8名様に。ナビゲーションは髙田総統が懇切丁寧、高圧的にハッスルを紹介してくれます。当選した方は、ダビングして5人以上に配ること！ ビタ～～ン!!（髙田総統）【髙田モンスター軍提供】

応募要項

応募券

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名 ③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦PRIDE・GP準決勝で見たいカード
⑧髙田モンスター軍に入ってもらいたい選手

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株) ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「ハッスル数え唄」係まで
※締切は2004年6月10日（木）当日消印有効

BOOKS

3名様



★第二外国語として学ぶ ファッキン英語
¥952+税

「本当に米国の日常生活で話されてる英語を身に付けたければ、"fuck"や"shit"などのスラングを積極的に覚えることだ」という著者の持論から生まれた書籍。日本語に翻訳するにあたり、挿画には花くま先生が登場！ 英会話上達の近道はこの本に隠されている！ さぁ、みんなでSay FUCK! 【世界書院提供】
[TEL] 03-5368-8418



★プロレスの逆襲！
～なぜプロレスはダメになったのか～
¥1050

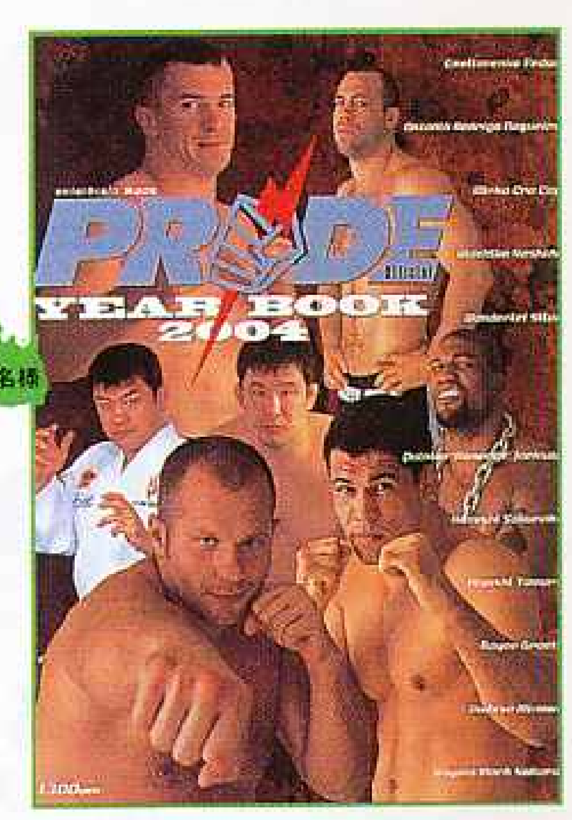
前田×鈴木邦男、破壊王×吉田豪、みのる×ターザンの3大対談を始め、榊原代表、サダハルンバ、上井執行役、GK、ジョシュ、中邑、佐山、櫻井康雄、竹内宏介、他多数の論客がプロレス復興の道を語り尽くす！ 【アッパー提供】
[TEL] 03-3239-8151
[URL] http://www.g-upper.com/



★アンドレがいた！
"大巨人"アンドレ・ザ・ジャイアントの黄金時代
門馬忠雄・著 ¥1890

日米のプロレス界でスーパースターとしての確固たる地位を築いた"世界の大巨人"アンドレ・ザ・ジャイアント。しかし多くの謎を残したまま、93年に故郷パリの地で急逝した。アンドレの素顔を知る5人の証言を交え、知られざる"大巨人"に迫った一冊！
【エンターブレイン提供】
[TEL] 03-5433-7850 [URL] http://www.enterbrain.co.jp/

5名様



★PRIDE OFFICIAL YAER BOOK 2004
¥1300

PRIDEファン必携のオフィシャルブック登場！ 2003年のPRIDE全大会のレポートと3強、サク、吉田、田村、美濃輪、マッハ、シウバ、ジャクソンのインタビューを収録。そして髙田統括本部長×榊原代表の誌上では初となる対談も特別収録だ！ 【エンターブレイン提供】



LEGLOCKと紙プロが手を組んだ!
フェロモン全開のカズT『紙プロ』に新登場!!

『カズ・H』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,465 XS or S or M or L or XL



田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or XL



田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT



赤いキャップの頑固者Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL



ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉
¥3,000 XS or S or M or L or XL



マット・ガファリTシャツ〈キナリ〉
¥3,500 S or M or L or SOLD OUT



ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈ホワイト〉
¥~~3,800~~ ➡ SALE ¥2,000 SOLD OUT M or L or SOLD OUT



トートバック〈ネイビーorブラック〉
¥1,500



Kapraパーカー〈ネイビー〉
¥~~6,000~~ ➡ SALE ¥3,000 M or SOLD OUT



リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉
¥~~4,500~~ ➡ SALE ¥2,500 S or M or SOLD OUT



『紙プロ』通販方法

★2003年3月末までに発売された商品は消費税サービス!!
★全国どこでも送料一律500円（離島、山間部は除く）
★代引御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★通販は『紙プロHand』でも可能です。

代引 郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
まで送り下さい。
申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）。代引手数料約¥315がかかります（代引金額によって異なります）。御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

郵便振替 希望商品の代金＋送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）を郵便振替で送り下さい。
郵便振替の宛先は
00130-3-769154
（株）ダブルクロス
郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

電話注文の場合
すべて代引きとなります
平日15:00～22:00
（株）ダブルクロス 03-3403-5142

紙のプロレス RADICAL
No.74
2004年6月25日発行

No.75は
6月12日（土）発売!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎（ハッスル度40%のため非番）
見習い
斉野政智

スーパーバイザー
吉田豪
助っ人
片山ボン
ジャイ子
電気部
ささきい
スモーノブ

アートディレクター
出田さん（TwoThree）
デザイン
ヒサくん
マツくん
タニやん
ブンちゃん
ノグッチー
しらき（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上さおとめの事務所）

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島俊彦
福島勝儀
菊池茂夫
試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝
体調
プリン体・入江（TwoThree）
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也



紙のプロレス RADICAL　WANIMAGAZINE MOOK 250　2004 NO.74
小川直也の試合用『ハッスル』スパッツプレゼント！
平成16年6月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：（株）ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：（株）ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体838円＋税

9784898297308
ISBN4-89829-730-7
C9476 ¥838E
1929476008381

雑誌　69860—50

印刷：図書印刷株式会社